

茨城県教育財団文化財調査報告第308集

薬師後遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

中 卷

平成21年3月

国土交通省常総国道事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第308集

やく し うしろ
薬 師 後 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

中 卷

平成21年3月

国土交通省常総国道事務所
財団法人茨城県教育財団

目 次

－ 中 卷 －

第4節 II区の遺構と遺物	335	5 中世・近世の遺構と遺物	544
3 奈良・平安時代の遺構と遺物	335	(1) 溝跡	544
(1) 竪穴住居跡	335	(2) 遺構外出土遺物	547
(2) 竪穴状遺構	395	6 その他の遺構	547
(3) 土坑	398	(1) 竪穴住居跡	547
(4) 遺構外出土遺物	404	(2) 土坑	549
4 中世・近世の遺構と遺物	405	第6節 IV区の遺構と遺物	561
(1) 方形竪穴遺構	405	1 縄文時代の遺物	561
(2) 地下式坑	406	2 古墳時代の遺構と遺物	563
(3) 粘土貼土坑	407	(1) 竪穴住居跡	563
(4) 土坑	408	(2) 土坑	590
(5) 遺構外出土遺物	418	(3) 遺構外出土遺物	591
5 その他の遺構と遺物	419	3 奈良・平安時代の遺構と遺物	591
(1) 竪穴住居跡	419	(1) 竪穴住居跡	591
(2) 地点貝塚	420	(2) 掘立柱建物跡	613
(3) 道路跡	421	(3) 土坑	615
(4) 溝跡	422	(4) 遺構外出土遺物	616
(5) 土坑	428	4 中世・近世の遺構と遺物	617
(6) ピット群	438	土坑	617
(7) 遺構外出土遺物	442	5 その他の遺構と遺物	619
第5節 III区の遺構と遺物	443	(1) 竪穴住居跡	619
1 旧石器時代の遺物	443	(2) 溝跡	627
2 縄文時代の遺構と遺物	443	(3) 土坑	631
(1) 陥し穴	443	(4) 遺構外出土遺物	634
(2) 遺構外出土遺物	444		
3 古墳時代の遺構と遺物	445		
(1) 竪穴住居跡	445		
(2) 遺物包含層	531		
(3) 遺構外出土遺物	534		
4 奈良・平安時代の遺構と遺物	536		
竪穴住居跡	536		

第4節 II区の遺構と遺物

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

第120号住居跡 (第257～261図)

位置 調査II区中央部のD 6fl区、標高28.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第37・50号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.34m、短軸7.14mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は22～40cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。中央部の竈寄りから粘土塊が確認されている。これは、住居廃絶後の埋没時に投棄されたもので、竈の構築材である。また、竈手前の貼床部分には、焼土ブロックが含まれる焼土範囲が広がっている。これは、作り替えられた竈の痕跡と考えられる。

粘土塊土層解説

1 灰褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	3 にぶい褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 明褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量	4 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで134cm、燃焼部幅60cmである。袖部は第18～21層の砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。また、第22～24層は掘方への埋土である。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 極暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂粒少量	12 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
2 灰褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量	13 暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化物・砂粒少量、ローム粒子微量
3 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	14 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量
4 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量	15 赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
5 にぶい赤褐色	砂粒中量、焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子微量	16 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量、砂粒微量
6 にぶい褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量	17 暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
7 褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量	18 灰褐色	粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
8 暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂粒少量	19 明褐色	粘土粒子多量、砂粒中量、焼土粒子微量
9 にぶい赤褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量	20 にぶい褐色	ロームブロック少量、粘土粒子・砂粒微量
10 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量、粘土粒子微量	21 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
11 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子微量	22 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
		23 極暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック中量、炭化物・粘土ブロック微量
		24 明褐色	ロームブロック少量

ピット 17か所。P 1～P 4は深さ48～63cmで、主柱穴である。P 5は深さ35cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 14は深さ18～38cmで、ローム粒子を含む暗褐色土を覆土とする壁柱穴である。また、貼床の下からP 15～P 17が確認されている。P 15～P 17は深さ41～71cmで、旧住居跡の柱穴の可能性はある。なお、第1層は柱痕である。

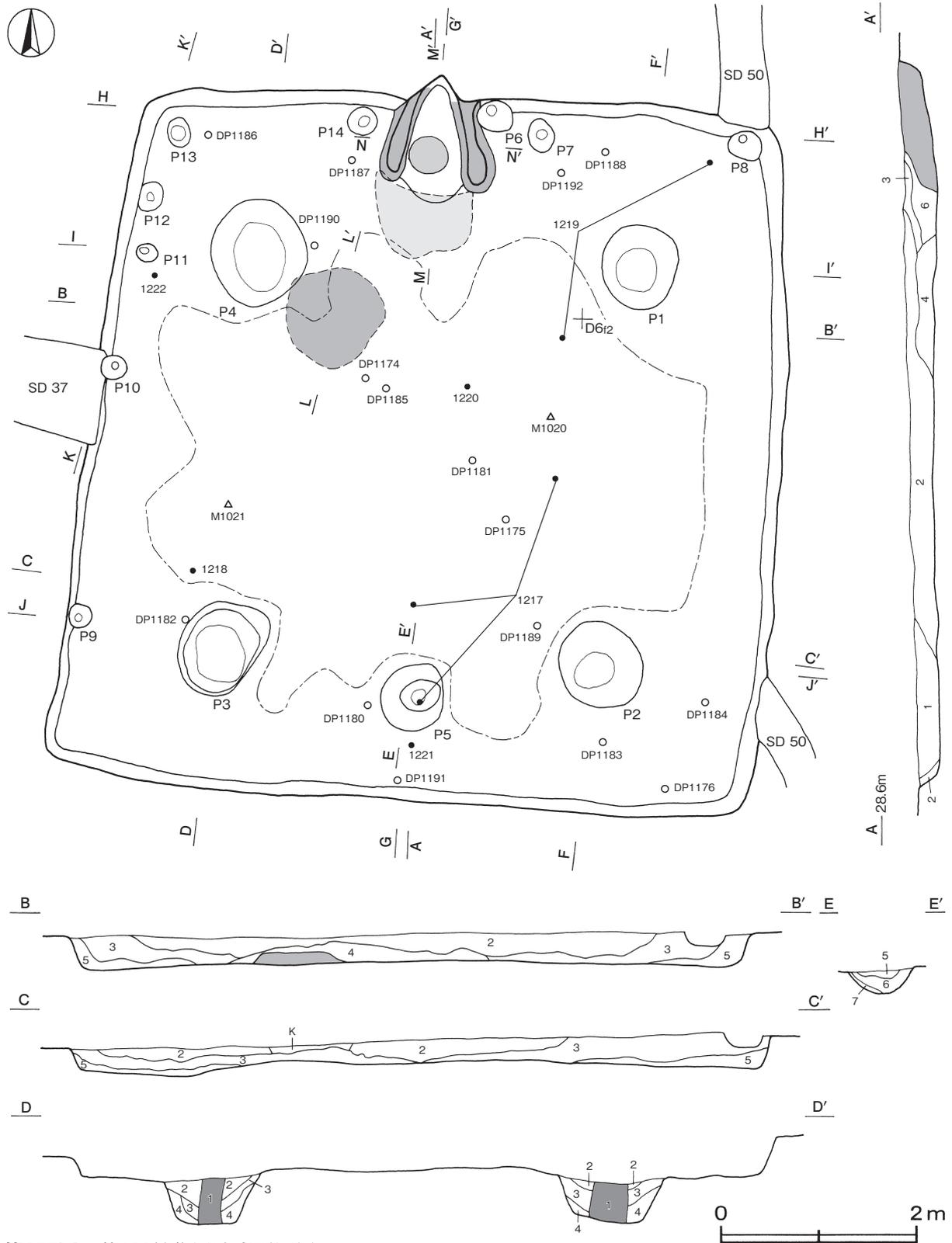
ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量	8 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	9 明褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ロームブロック少量	10 にぶい褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量	11 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 灰褐色	ローム粒子中量	12 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	13 明褐色	ローム粒子多量
7 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量		

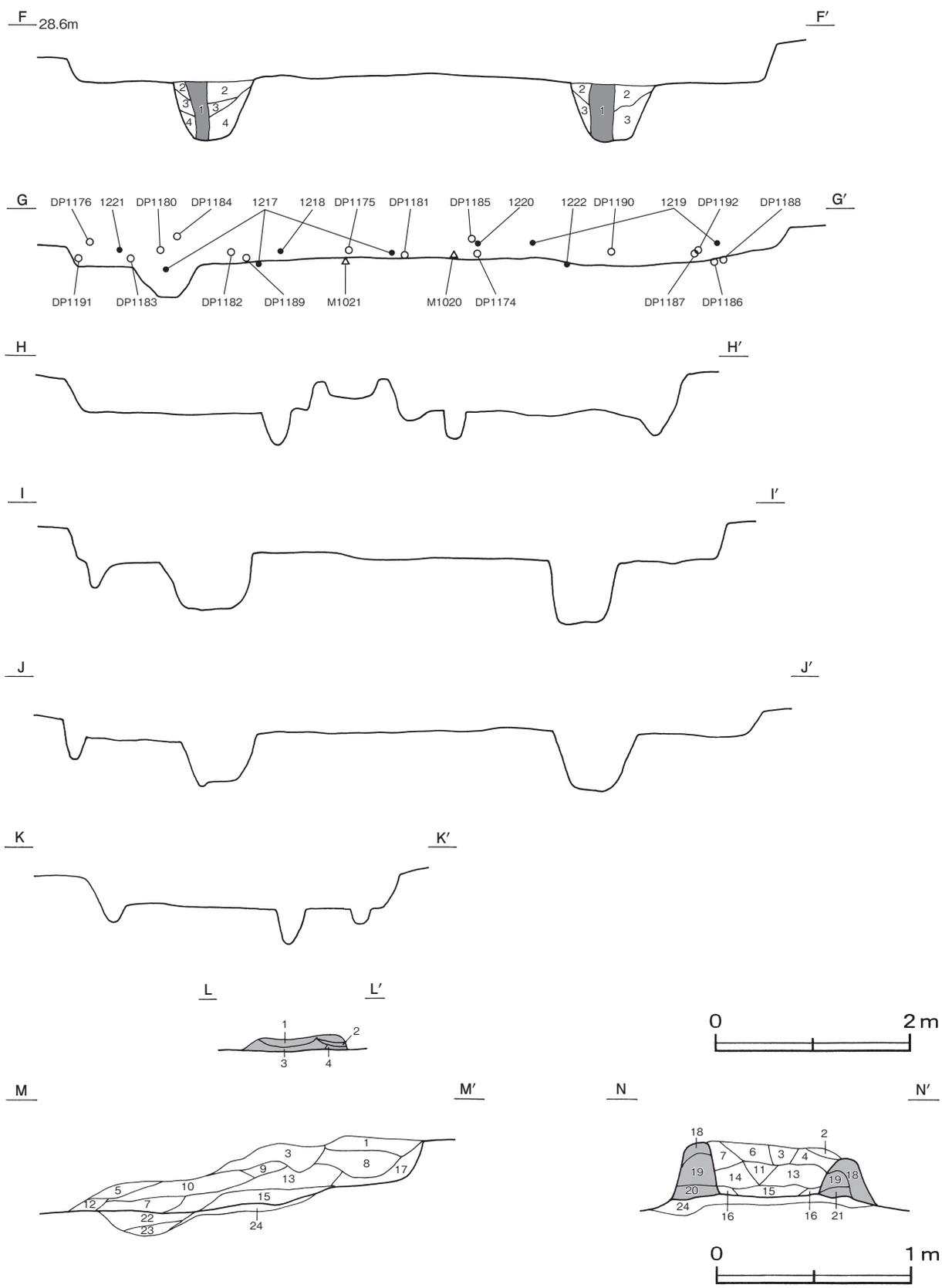
覆土 6層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

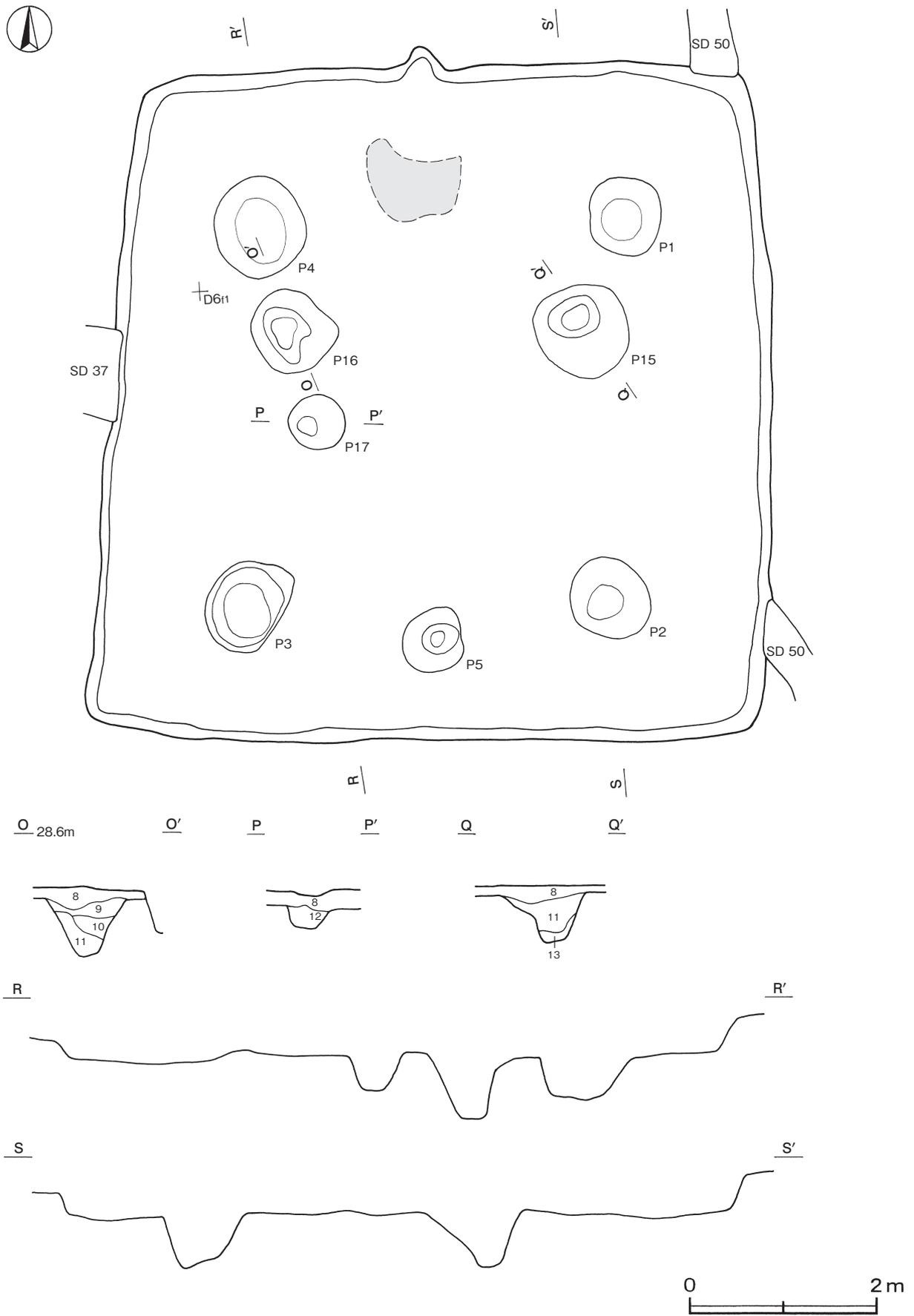
- | | | | |
|--------|-----------|---------|-----------------------------|
| 1 明褐色 | ロームブロック中量 | 4 にぶい褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 明褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量 |



第257図 第120号住居跡実測図(1)



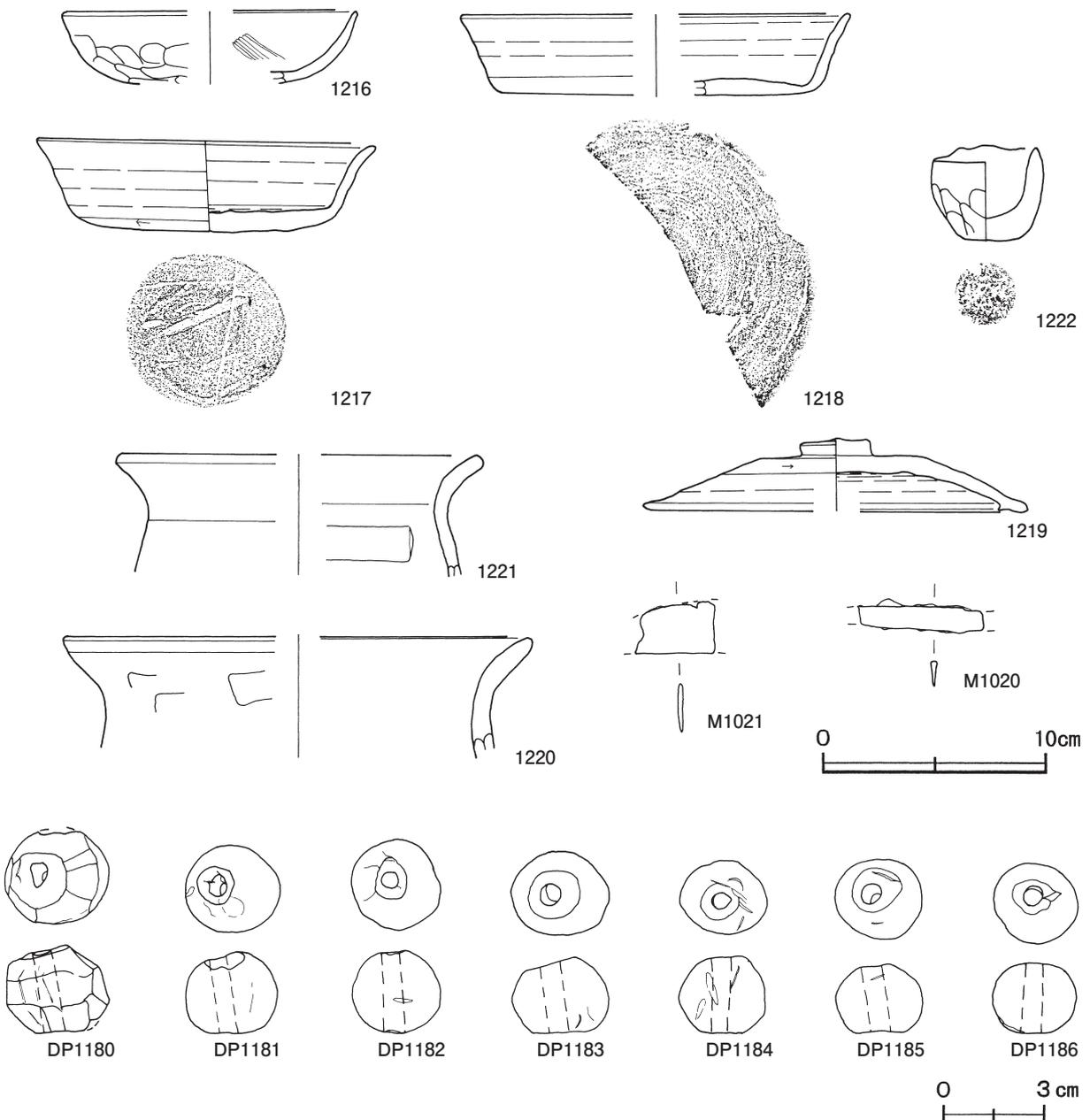
第258图 第120号住居跡实测图(2)



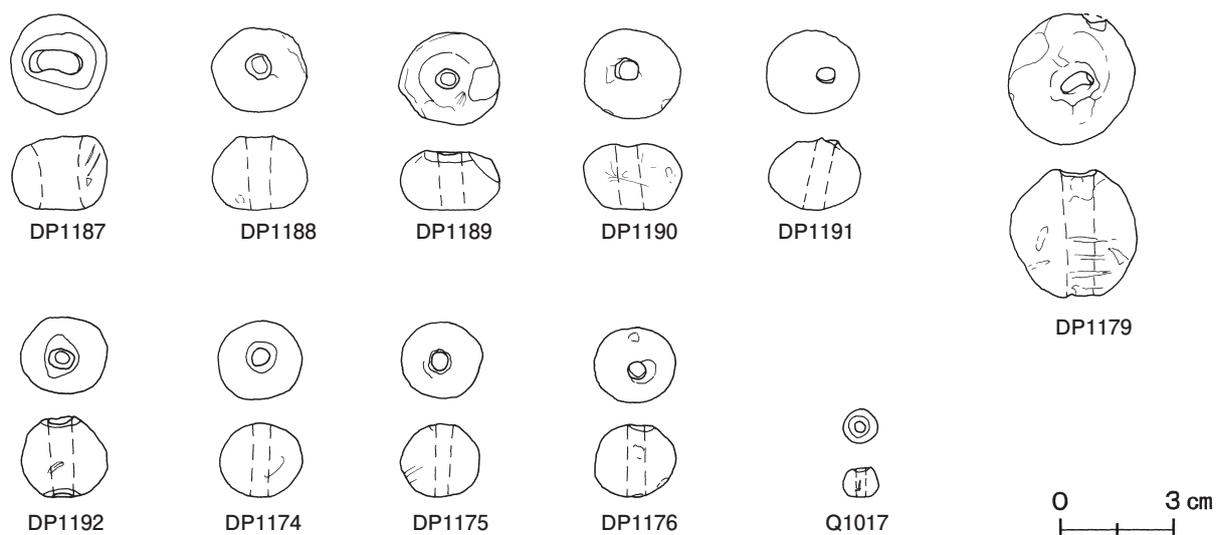
第259图 第120号住居跡实测图(3)

遺物出土状況 土師器片1410点（坏類265・高台付碗5・甕類1139・手捏土器1）、須恵器片85点（坏類53・高台付坏2・蓋15・壺類1・瓶類4・甕類10）、土製品84点（土玉5・球状土錘14・支脚片65）、石製品1点（小玉）、金属製品1点（鎌）、礫1点、鉄滓10点が出土している。遺物の大半は、全域の覆土上層から下層にかけて出土している。1217は中央部から南壁寄りの覆土中層から下層にかけて、1219は中央部から北東コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。1222・M1021は西壁寄り、DP1181は中央部、DP1183・DP1189は南東コーナー部、DP1186は北西コーナー部、DP1188は北東コーナー部、DP1191は南壁寄り、M1020は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、貼床の状態や竈手前の焼土範囲、床下から確認された柱穴の配置から、P2・P3・P15・P16を支柱穴、P5を出入り口施設のピットとして使用していた住居（P17は性格不明であるが）が、P2・P3を掘り直し、北側に拡張して、建て替えられた住居跡の可能性はある。建て替えの時期は不明であるが、廃絶された時期は、出土土器や重複関係から8世紀前葉と考えられる。



第260図 第120号住居跡出土遺物実測図(1)



第261図 第120号住居跡出土遺物実測図(2)

第120号住居跡出土遺物観察表 (第260・261図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1216	土師器	坏	[13.0]	(3.3)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面から底部手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	覆土中	20%
1217	須恵器	坏	15.0	4.1	6.9	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転 ヘラ切り後ヘラ削り	中層~下層	80% PL109
1218	須恵器	坏	[17.2]	3.7	[14.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り	下層	40%
1219	須恵器	蓋	[16.9]	3.4	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	中層	60%
1221	土師器	小形甕	[16.0]	(5.4)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	中層	10%
1220	土師器	甕	[20.6]	(5.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	10%
1222	土師器	手捏土器	4.6	4.2	2.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラナデ	下層	95% PL116

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1177	土玉	-	1.8	-	(2.5)	粘土	ナデ 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1178	土玉	-	1.7	-	(1.5)	粘土	ナデ 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1174	球状土錘	2.1	2.0	0.5	8.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1175	球状土錘	2.1	2.0	0.5	8.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1176	球状土錘	2.1	1.9	0.4	7.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1179	球状土錘	3.5	3.4	0.8	(35.4)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP1180	球状土錘	3.0	2.7	0.7	(18.3)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	中層	
DP1181	球状土錘	2.8	2.4	0.7	17.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1182	球状土錘	2.7	2.5	0.5	15.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1183	球状土錘	2.6	2.2	0.6	15.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1184	球状土錘	2.2	2.4	0.5	12.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1185	球状土錘	2.4	2.1	0.6	12.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1186	球状土錘	2.4	2.1	0.6	11.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1187	球状土錘	2.6	1.9	1.4	11.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1188	球状土錘	2.4	2.0	0.7	10.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1189	球状土錘	2.6	1.6	0.6	9.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1190	球状土錘	2.5	1.8	0.6	9.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1191	球状土錘	2.4	1.9	0.5	9.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1192	球状土錘	2.3	2.1	0.6	8.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1017	小玉	0.9	0.8	0.3	0.9	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL119

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1020	刀子	(5.7)	1.2	0.2	(6.8)	鉄	刀身部 断面三角形	下層	PL120
M1021	鎌	(3.7)	2.4	0.2	(8.3)	鉄	刀身部 断面三角形	下層	PL121

第121号住居跡（第262・263図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 h2区、標高28.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路、第27・50号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.75m、短軸4.45mの方形で、主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は4～26cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北東コーナー部と南西コーナー部際の一部を除き、壁下には幅12～28cm、深さ4～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで99cm、燃焼部幅53cmである。袖部は第10～13層の砂質粘土やロームを混ぜた褐灰色土で構築されている。また、第1層は天井部の崩落土、第14層は掘方の埋土である。火床部は床面とほぼ同じ深さで、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込まず、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	9 明褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2 にぶい褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	10 褐灰色	粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	11 にぶい褐色	粘土粒子中量、砂粒少量
4 黒褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量	12 褐灰色	粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
5 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	13 灰褐色	粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量
6 にぶい褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	14 褐色	ロームブロック微量
7 にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		
8 黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量		

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ32～56cmで、支柱穴である。P 5は深さ16cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	5 褐色	ロームブロック少量
3 明褐色	ロームブロック中量	6 にぶい褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量

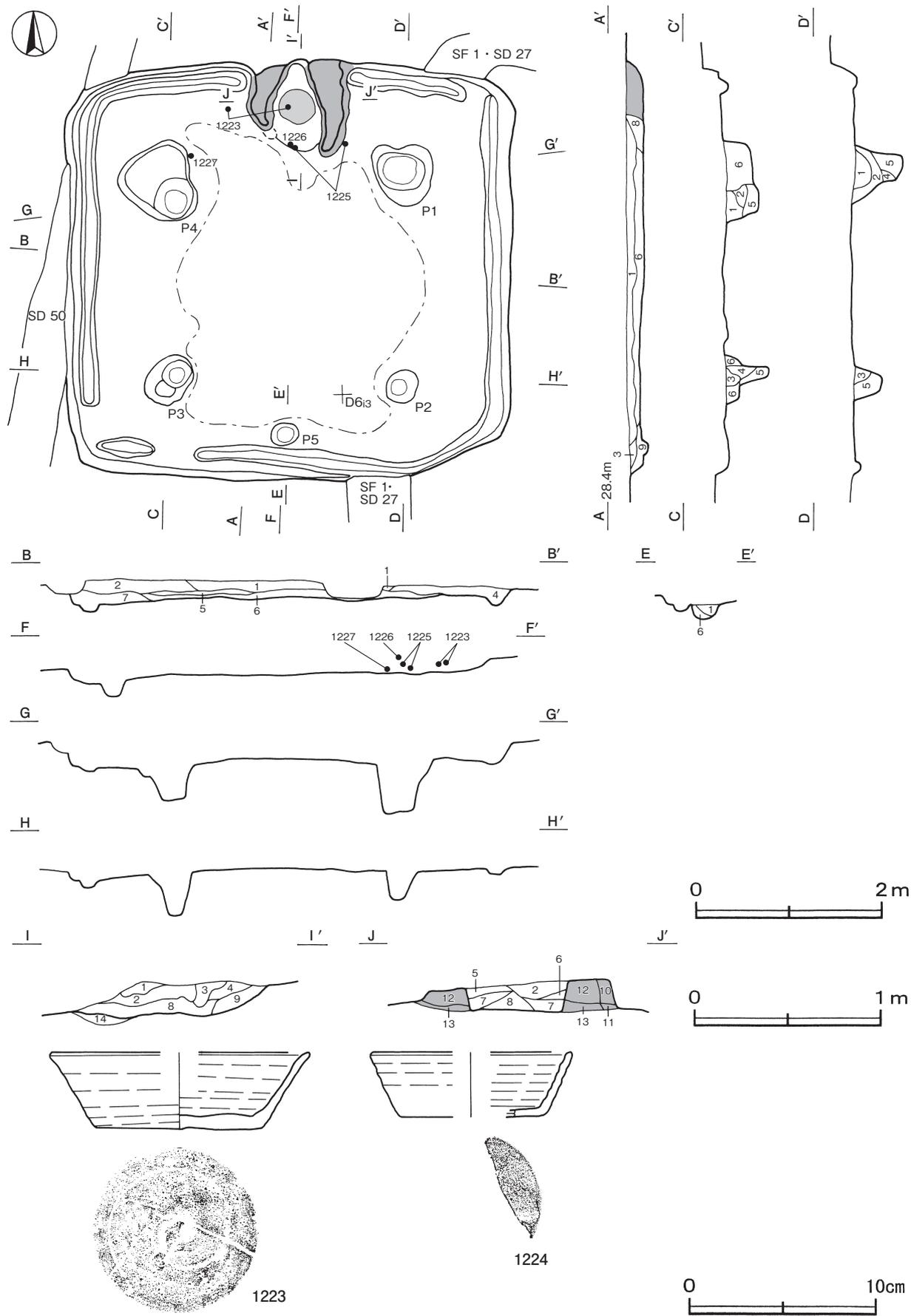
覆土 9層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

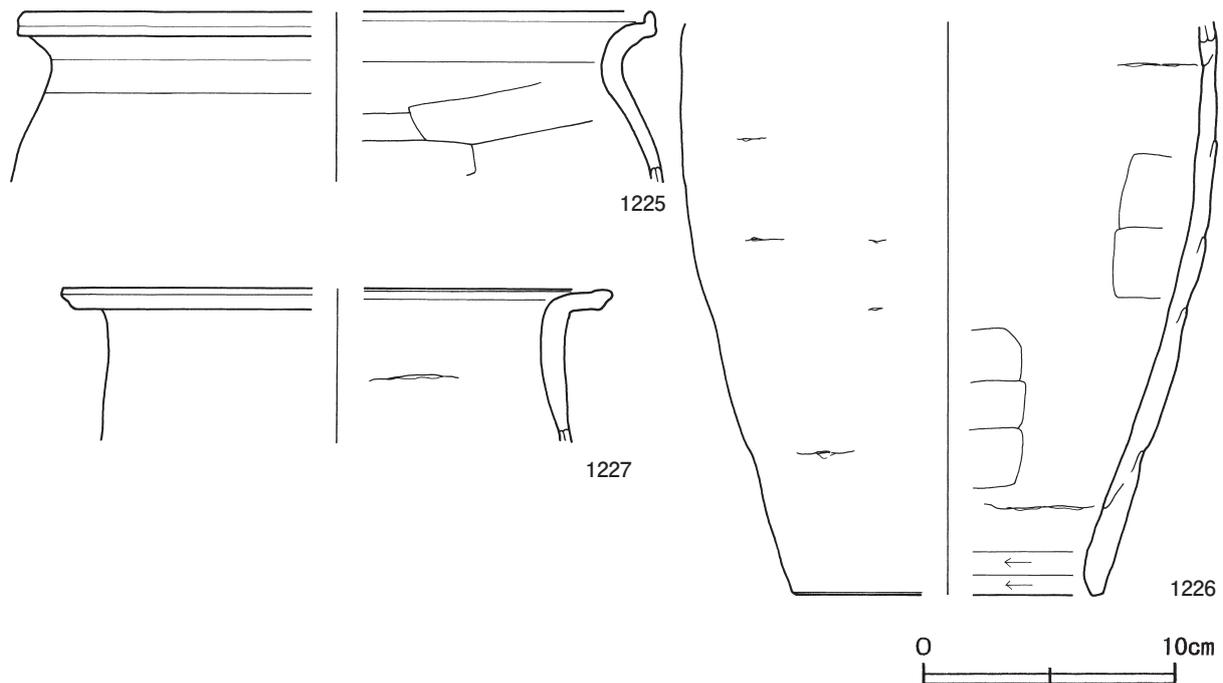
1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	7 にぶい褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
3 褐色	ロームブロック微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	9 にぶい褐色	ロームブロック中量
5 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片236点（坏類41・甕類190・甌5）、須恵器片34点（坏類23・蓋4・甕類7）、土製品8点（支脚片）が出土している。遺物の大半は、竈周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。1223は竈付近の覆土上層から中層、1226は竈内、1227は北西コーナー部寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。1225は竈内と竈脇の覆土中層、P 2内から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器や重複関係から8世紀中葉と考えられる。



第262图 第121号住居跡・出土遺物実測図



第263図 第121号住居跡出土遺物実測図

第121号住居跡出土遺物観察表（第262・263図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1223	須恵器	坏	[13.7]	4.2	8.8	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	上層～中層	70% PL109
1224	須恵器	坏	[10.7]	3.5	[7.6]	長石・雲母	灰白	普通	ロクロ目が強い	覆土中	10%
1225	土師器	甕	[24.8]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	竈内・P2内・中層	10%
1226	土師器	甌	-	(22.6)	[12.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラナデ 輪積痕	竈内	20%
1227	土師器	甌	[21.1]	(6.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	下層	10%

第122号住居跡（第264図）

位置 調査Ⅱ区東部のD6h4区、標高28.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路と第27号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.36m、短軸3.26mの方形で、主軸方向はN-92°-Eである。壁高は2～26cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北壁から北東コーナー部にかけての壁下には幅9～22cm、深さ5cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 東壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで92cm、燃烧部幅30cmである。袖部は第14・15層の砂質粘土やロームを混ぜた褐色土で構築されている。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて硬化している。煙道部は壁外に15cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量	9	灰褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
2	にぶい褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量	10	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
3	灰褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土粒子微量	11	灰褐色	砂粒中量、ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
4	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	12	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
5	にぶい褐色	ローム粒子少量	13	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
6	暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、砂粒微量	14	褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	15	灰褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量
8	褐色	ローム焼土少量			

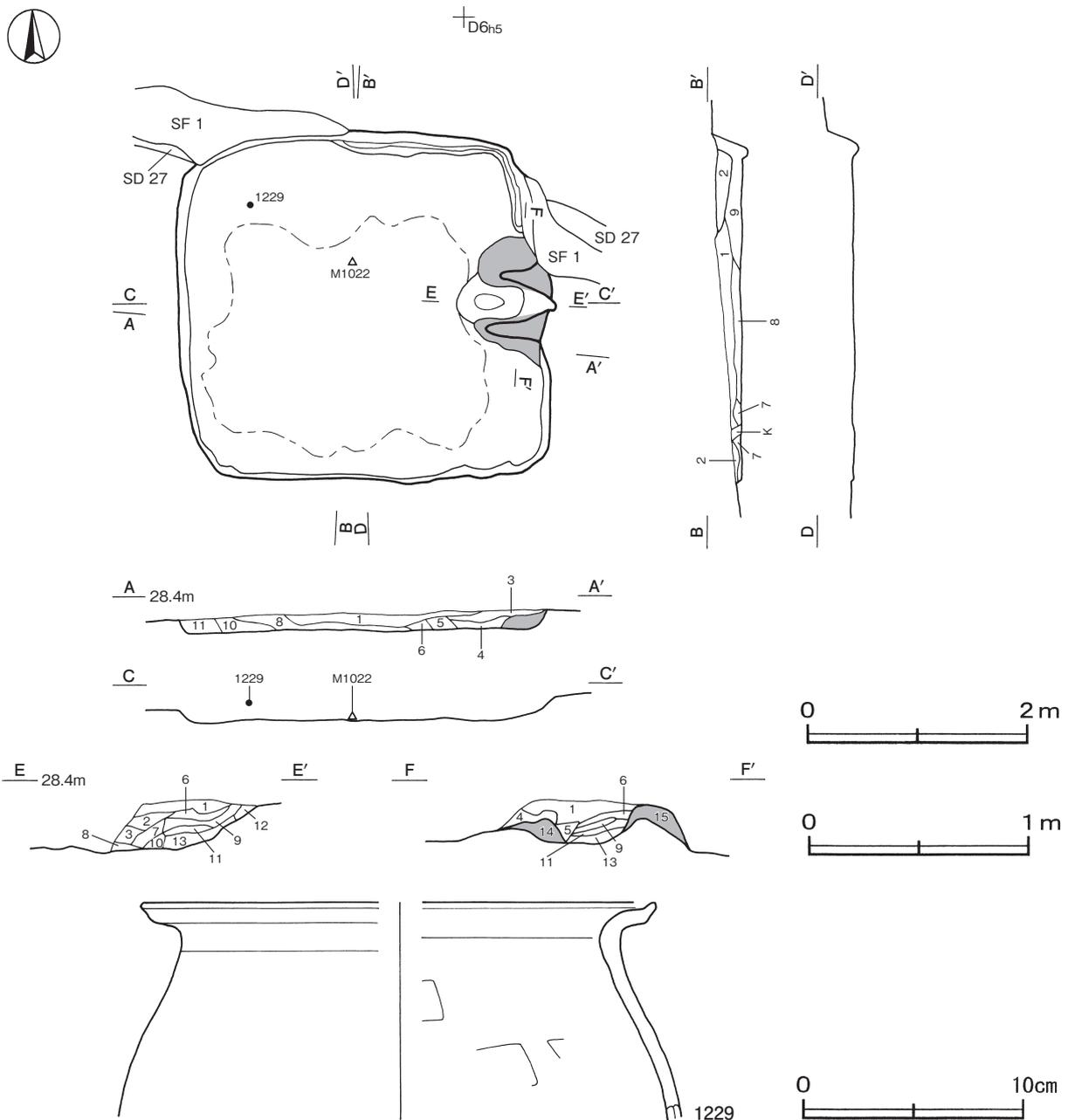
覆土 11層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|---------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 褐色 | 焼土ブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片239点（坏類15・鉢1・甕類223），須恵器片26点（坏），金属製品1点（釘）が出土している。遺物の大半は、西壁寄りの覆土上層から中層にかけて出土している。1229は北西コーナー部付近の覆土上層，M1022は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から8世紀代と考えられる。



第264図 第122号住居跡・出土遺物実測図

第122号住居跡出土遺物観察表（第264図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1229	土師器	甕	[23.2]	(9.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1022	釘	(2.6)	0.7	0.3	(1.3)	鉄	断面四角形 頭部欠損	下層	計測のみ

第123号住居跡（第265～267図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 h7区、標高28.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第471・473・474号土坑に掘り込まれている。

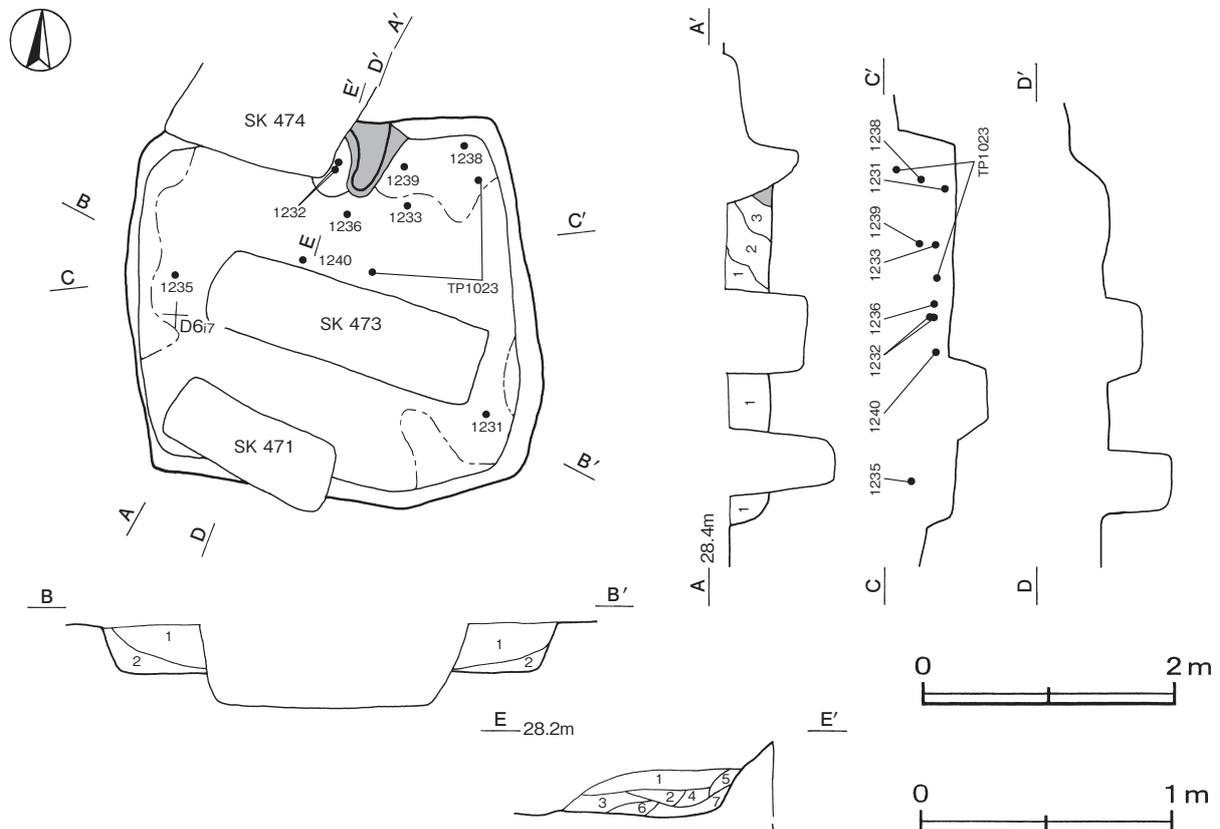
規模と形状 長軸3.16m、短軸3.00mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は34～39cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、北壁・西壁・南東コーナー部の一部を除いて、踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、第474号土坑に掘り込まれ、火床部と右袖部しか遺存していない。確認できた規模は焚口部から火床部まで60cm、燃焼部幅30cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。また、第1層は天井部の崩落土である。火床部は床面と同じ深さで、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土粒子中量, 砂粒少量, ローム粒子微量 | 5 灰褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 灰褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 砂粒微量 | 6 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 砂粒微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 4 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 粘土粒子微量 | |



第265図 第123号住居跡実測図

覆土 3層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

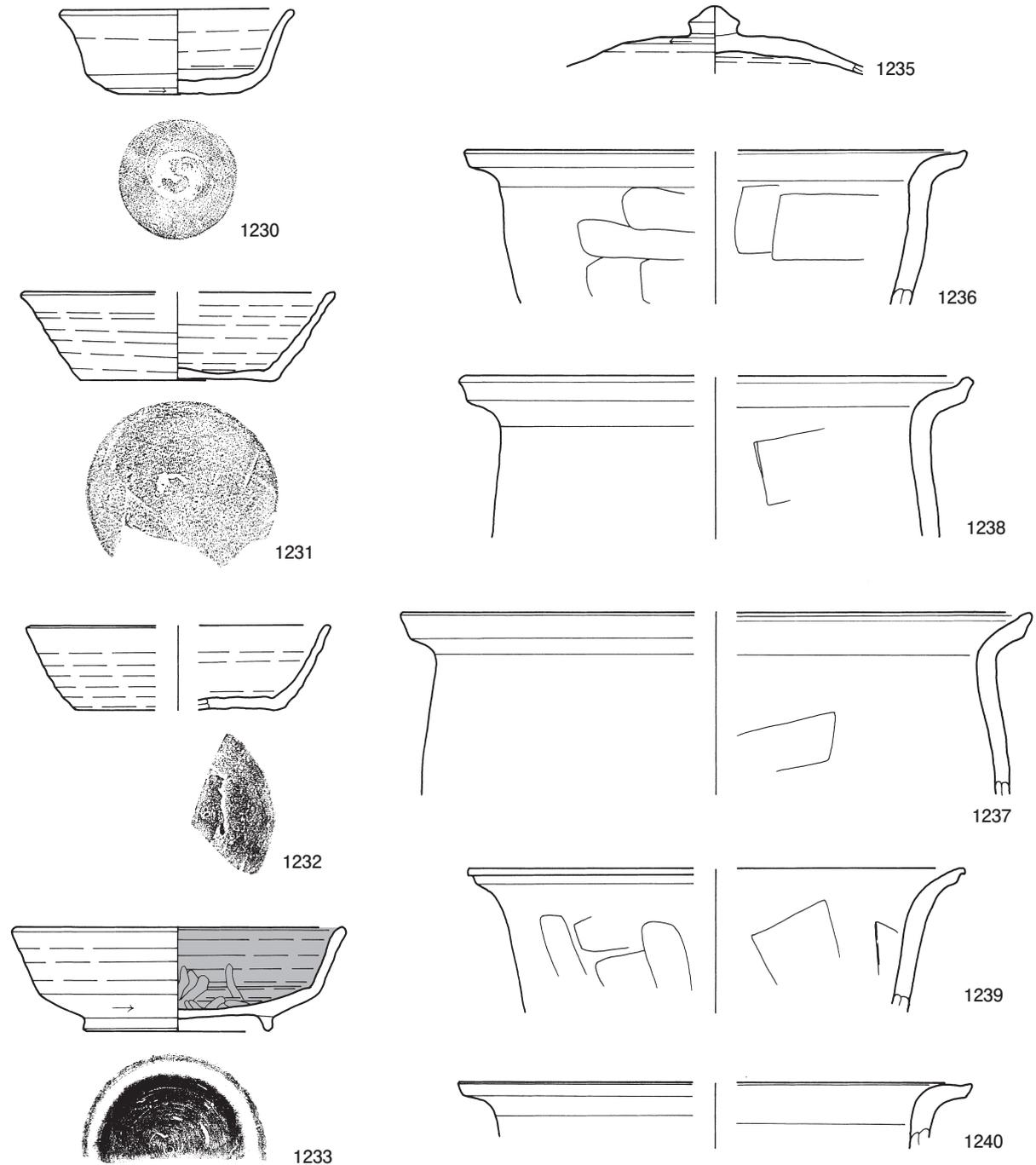
土層解説

- 1 明 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量

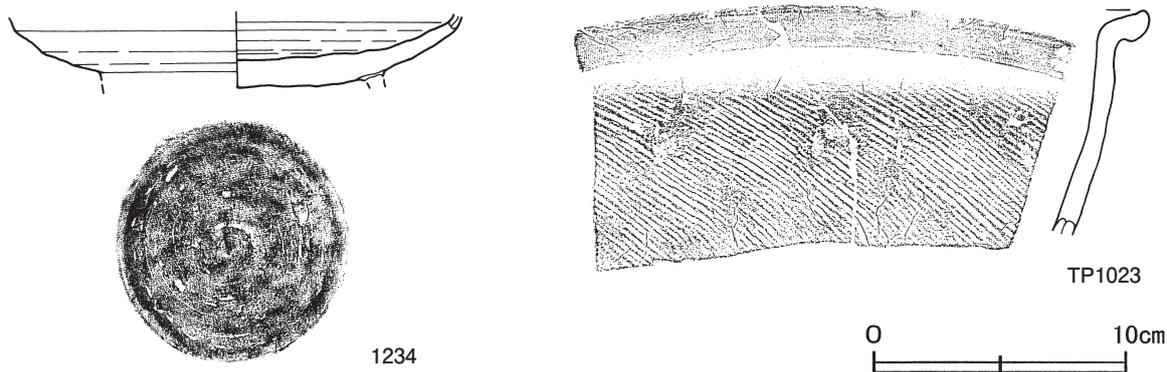
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・砂粒少量

遺物出土状況 土師器片178点（坏類6・高台付碗1・甕類156・瓶類15），須恵器片38点（坏類24・蓋2・盤1・壺1・甕類9・甌1），土製品2点（土玉・不明製品）が出土している。遺物の大半は，竈周辺から北東コーナー部にかけての覆土上層から中層に出土している。1231は南東コーナー部の覆土下層，1233は竈右袖部脇の覆土中層，1235は西壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から8世紀中葉と考えられる。



第266図 第123号住居跡出土遺物実測図(1)



第267図 第123号住居跡出土遺物実測図(2)

第123号住居跡出土遺物観察表 (第266・267図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1230	須恵器	坏	10.6	3.9	5.6	長石・石英・針状鉱物	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土中	80% PL109
1231	須恵器	坏	[14.4]	4.2	9.0	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り	下層	70% PL109
1232	須恵器	坏	[14.0]	3.9	[9.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り	竈内中層	20%
1233	土師器	高台付椀	15.2	4.9	8.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り	中層	50% 外面煤付着
1234	須恵器	盤	-	(3.0)	-	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	70%
1235	須恵器	蓋	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	擬宝珠状つまみ 天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	上層	60%
1236	土師器	鉢	[23.1]	(7.0)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部内・外面ヘラナデ	中層	10%
1237	土師器	甕	[29.2]	(8.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	覆土中	10%
1238	土師器	甕	[23.4]	(7.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	上層	10%
1239	土師器	甌	[23.0]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	上層	10%
1240	土師器	甌	[23.8]	(3.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	中層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1193	土玉	-	2.2	-	(3.5)	粘土	ナデ 一部欠損	覆土中	計測のみ

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1023	須恵器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	斜位の平行引き	上層～中層	

第124号住居跡 (第268図)

位置 調査Ⅱ区東部のD 6j9区, 標高28.2mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第475・476号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.68m, 短軸3.40mの方形で, 主軸方向はN-71°-Wである。壁高は5～15cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。西壁と南壁の一部を除き, 壁下には幅12～36cm, 深さ2～4cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。西壁中央部付近に粘土が貼り付られた状態で確認できた。

ピット 3か所。P1は深さ28cmで, 南壁際中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は深さ10・50cmで, 性格不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|----------|------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック少量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 6 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 灰褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 8 灰褐色 | ローム粒子少量 |

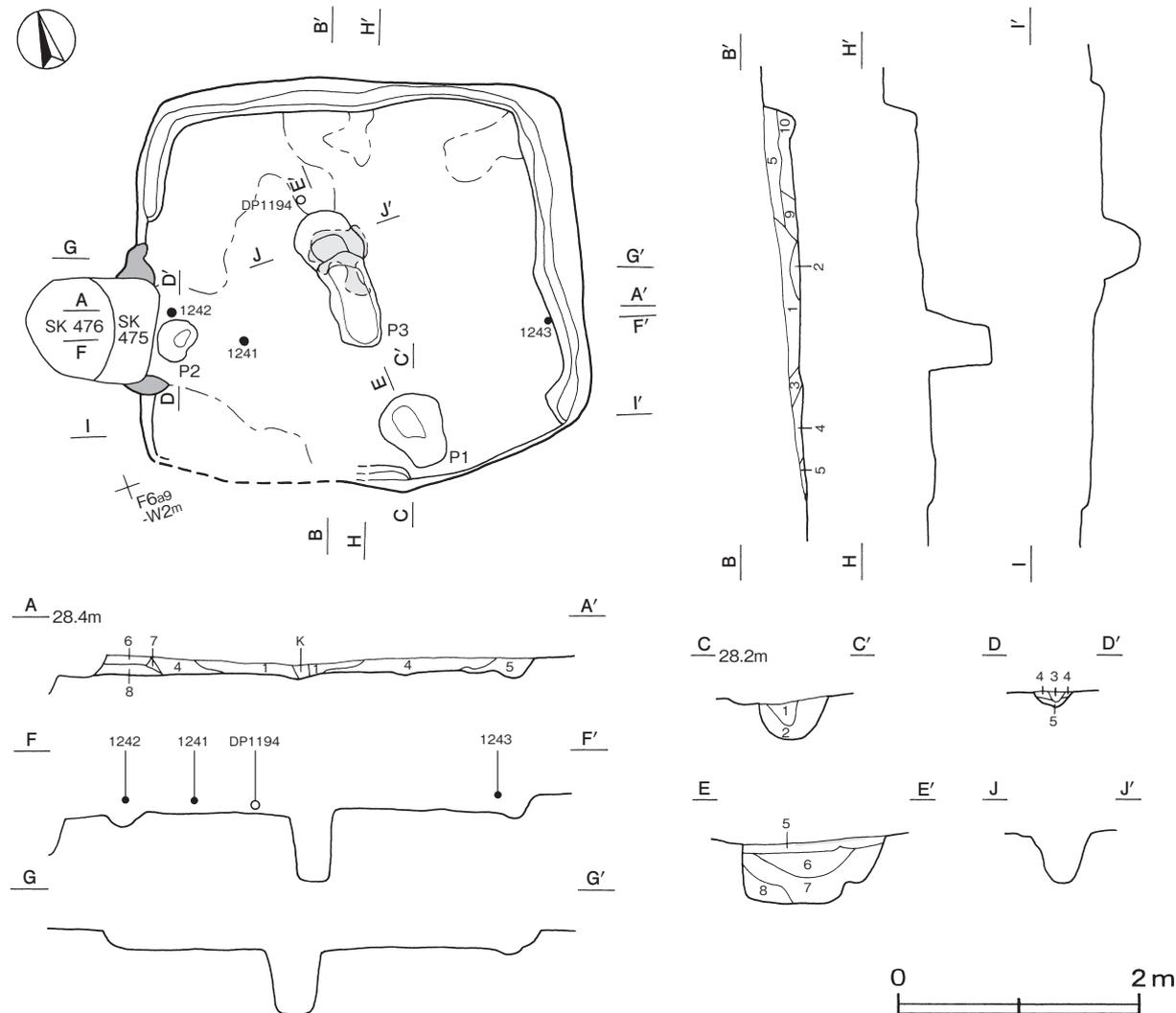
覆土 10層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

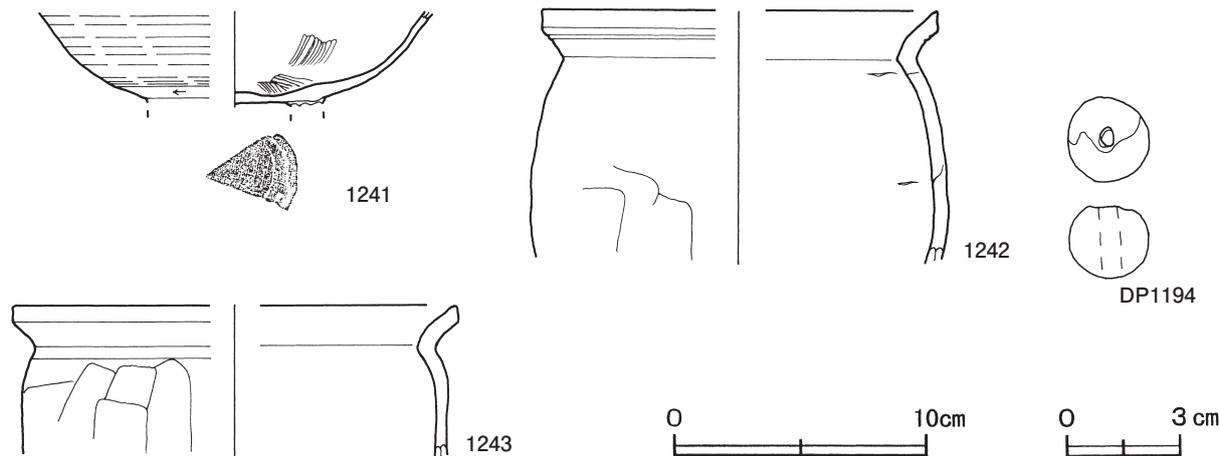
- | | | | |
|-------|----------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量 | 6 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| | | 9 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| | | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片146点（坏類48・高台付椀1・皿1・鉢1・甕類95），須恵器片10点（坏類6・甕類4），土製品1点（球状土錘），鉄滓1点が出土している。遺物の大半は，西部の覆土上層から出土している。1241・1242は西壁寄りの覆土上層，DP1194は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 西壁に貼り付けられた粘土は，土坑に掘り込まれており，竈の袖部の可能性があるが不明である。P3内から鉄滓が出土していることや，P3の確認面に鉄分が付着し，上面が硬化していることから，製鉄関連のピットとも考えられるが，鍛造剥片などは確認できなかったため，不明である。時期は，出土土器や重複関係から10世紀前葉と考えられる。



第268図 第124号住居跡実測図



第269図 第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表 (第269図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1241	土師器	高台付椀	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	上層	10%
1242	土師器	小形甕	[15.6]	(9.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕	上層	20%
1243	土師器	小形甕	[17.3]	(6.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1194	球状土錘	2.2	1.9	0.5	7.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	床面直上	

第125号住居跡 (第270図)

位置 調査Ⅱ区東部のD 6 i0区, 標高28.4の台地平坦部に位置している。

重複関係 第481・483号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.96m, 短軸2.95mの方形で, 主軸方向はN-108°-Eである。壁高は14~22cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。北壁・西壁・南壁の一部の壁下には幅15~34cm, 深さ1~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 東壁の南寄りに付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで70cm, 燃焼部幅34cmである。袖部はない。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に47cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分けられる。ロームブロックや粘土ブロックを含み, 不規則な堆積状況を示す人為堆積である。第6~10層は竈の土層である。

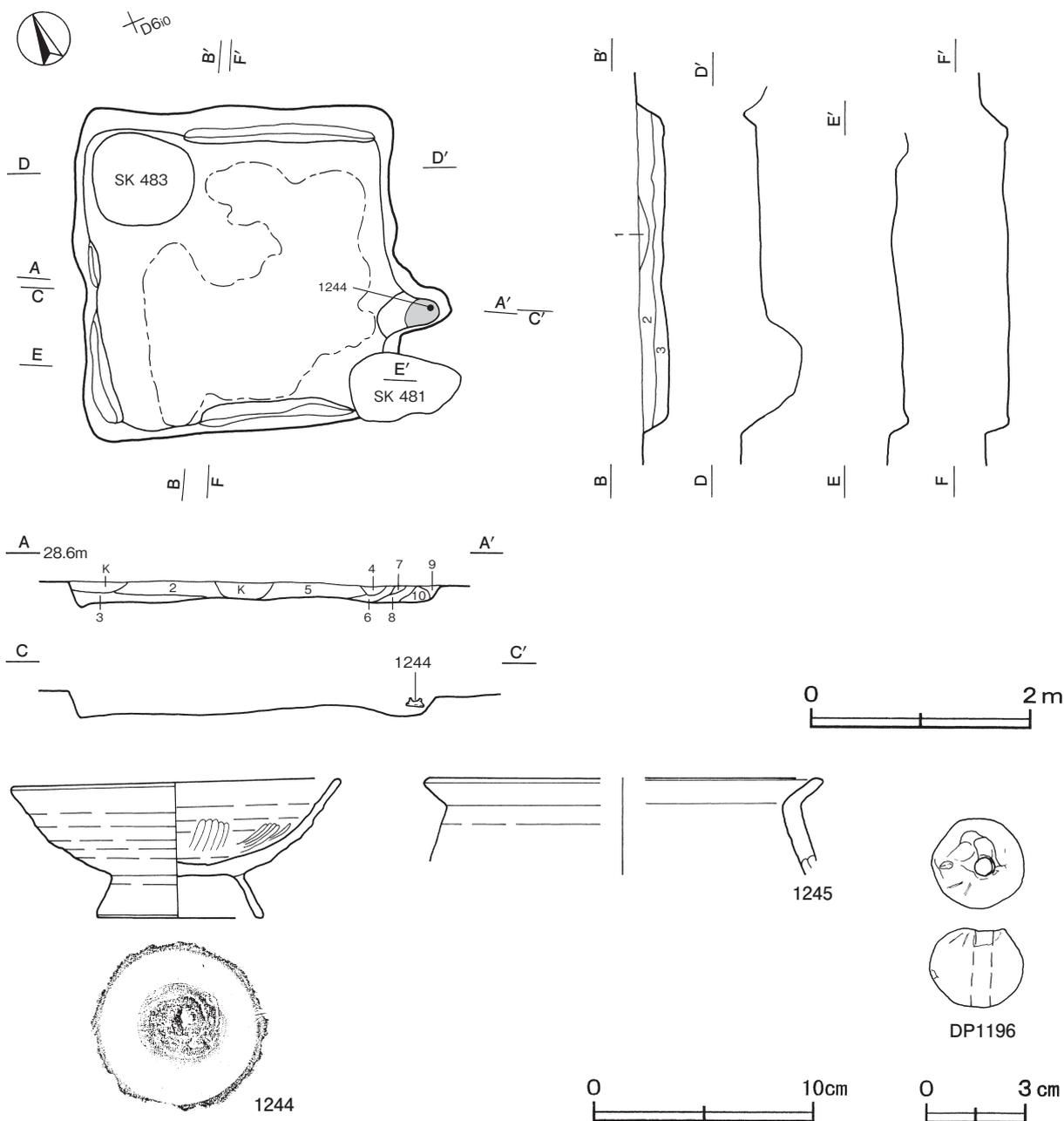
土層・竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	7 灰褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量
2 灰褐色	ロームブロック少量	8 灰褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量
3 褐色	ロームブロック中量	9 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量, 粘土粒子微量
4 灰褐色	粘土ブロック中量, 焼土粒子少量	10 にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量
5 灰褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量		
6 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片172点 (坏類48・高台付椀5・鉢4・甕類115), 須恵器片15点 (坏類1・高台付坏1・蓋1・瓶類1・甕類11), 土製品2点 (土玉・球状土錘), 椀状滓1点, 鉄滓7点が出土している。遺物の大半は竈内とその周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。1244は竈火床部の覆土中層から逆位で出土して

いる。火熱を受けておらず、竈廃絶時に何らかの目的で置かれたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から10世紀前葉と考えられる。



第270図 第125号住居跡・出土遺物実測図

第125号住居跡出土遺物観察表（第270図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1244	土師器	高台付椀	14.8	6.3	7.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下位回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	竈火床部中層	90% PL109
1245	土師器	甌	[17.6]	(4.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1195	土玉	-	1.8	-	(2.0)	粘土	一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1196	球状土錘	2.8	2.4	0.6	16.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1023	鉄滓	(6.2)	(5.3)	(4.3)	(118.7)	鉄	碗状滓	覆土中	計測のみ

第126号住居跡（第271・272図）

位置 調査Ⅱ区東部のD 6 g0区，標高28.6mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北壁から東壁にかけて攪乱を受けているが，長軸5.08m，短軸4.31mの長方形で，主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は19～30cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，コーナー部を除いて，踏み固められている。竈手前に粘土塊が，西壁寄りに焼土塊が確認された。粘土塊は壊された竈の部材と思われる。また，焼土塊は住居廃絶後の埋没時に投棄されたものである。

粘土塊土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------|---------|-------------------|
| 1 灰 白 色 | 粘土ブロック多量 | 3 灰 褐 色 | 粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 | 砂粒中量，粘土ブロック少量，焼土粒子微量 | | |

焼土塊土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|---------|-------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子少量 | 3 灰 褐 色 | 焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量 |
| 2 灰 褐 色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 4 灰 褐 色 | ロームブロック中量 |

竈 北壁中央部に付設されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで90cm，燃烧部幅32cmである。袖部は遺存していないが，確認された粘土塊から砂やロームを混ぜた灰褐色粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面から14cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込まず，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------|---------|------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック微量 | 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 3 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック微量 | | |

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ45～56cmで，支柱穴である。P 5は深さ20cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|-----------|-----------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 極 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 褐 色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰 褐 色 | 粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 4 褐 色 | ロームブロック少量 | 8 褐 色 | ロームブロック中量，焼土ブロック微量 |

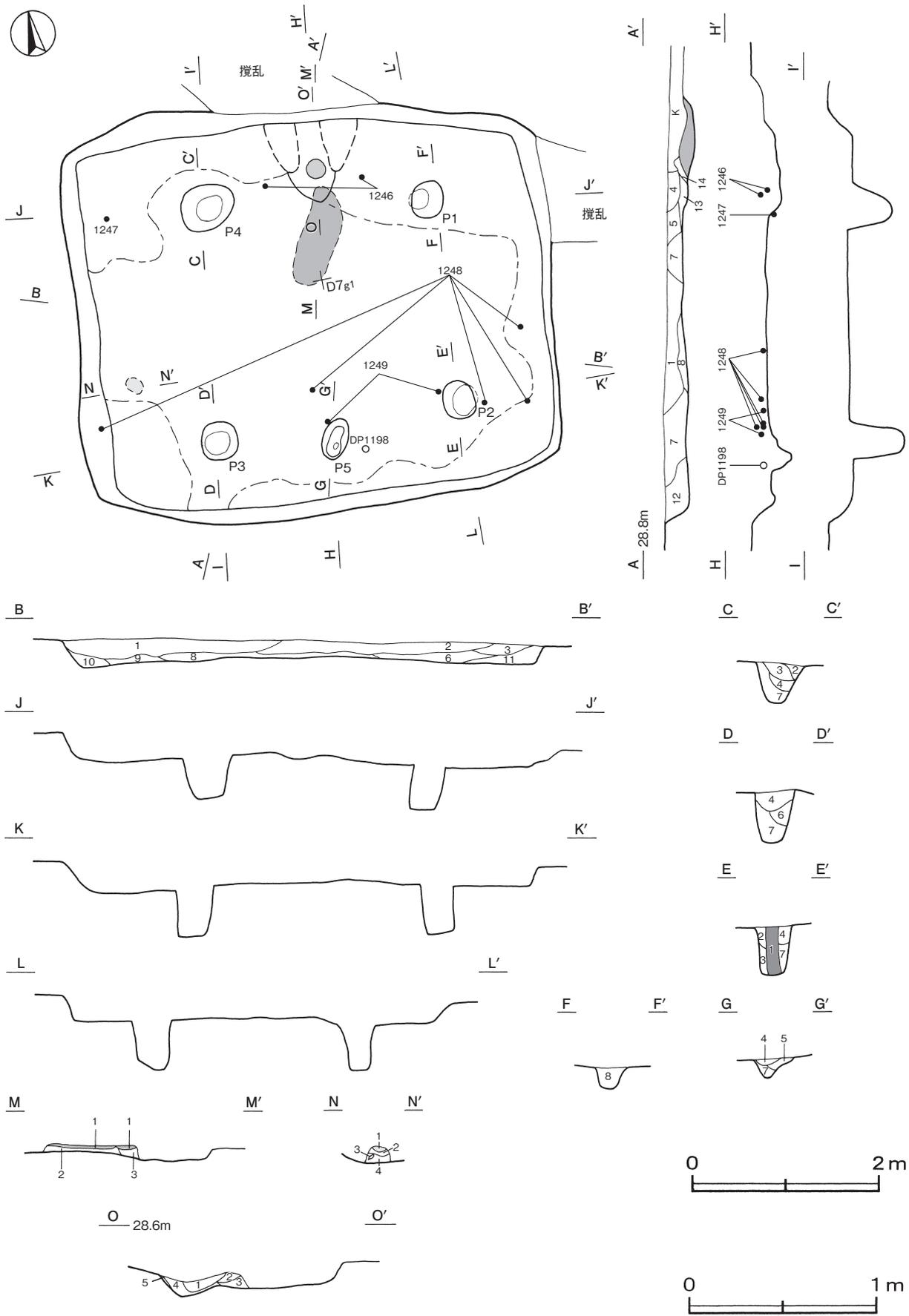
覆土 14層に分けられる。ロームブロックや粘土ブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

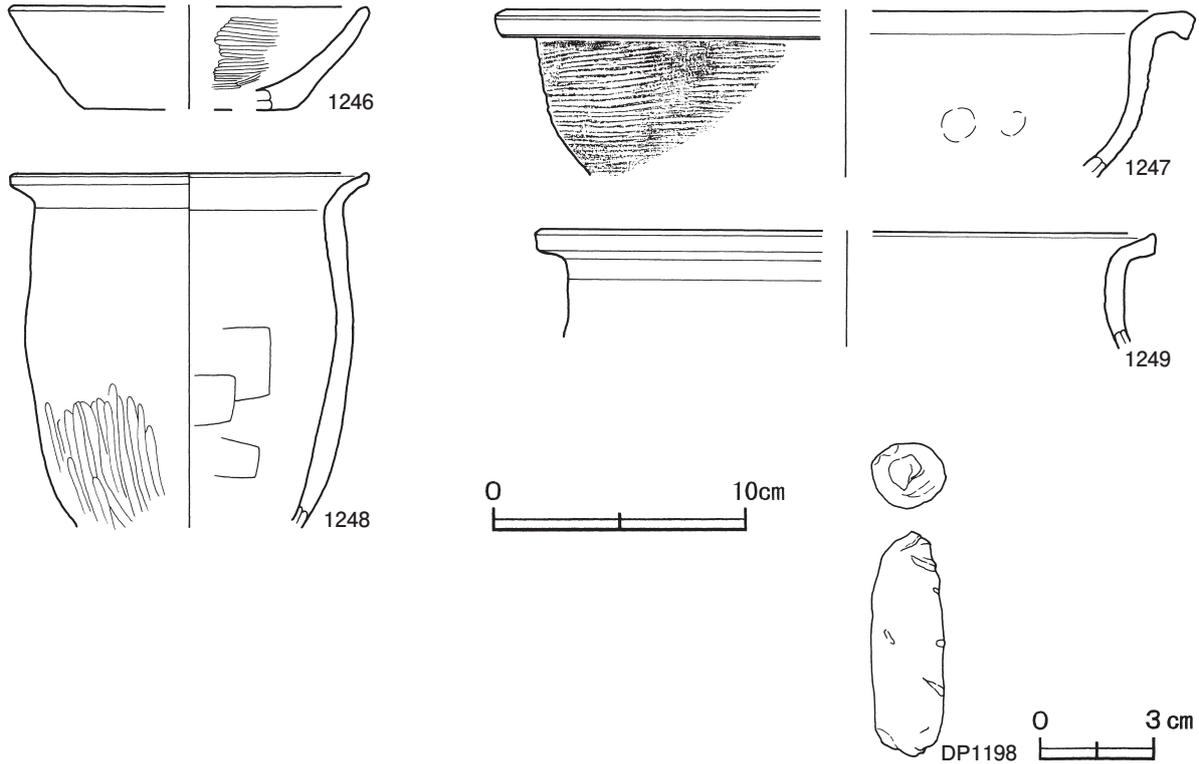
- | | | | |
|---------|---------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 9 褐 色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 灰 褐 色 | ロームブロック中量 | 10 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 11 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 4 にぶい褐色 | 砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子微量 | 12 灰 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 5 灰 褐 色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 13 黒 褐 色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量 |
| 6 灰 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量 | 14 灰 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量，粘土粒子微量 |
| 7 褐 色 | ロームブロック中量 | | |
| 8 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片357点（坏類51・甕類305・手捏土器1），須恵器片44点（坏類26・蓋7・瓶類1・甕類10），土製品2点（球状土錘・管状土錘）が出土している。遺物の大半は，竈周辺と南部の覆土中層から出土している。1246は竈両袖脇，1249は中央部，DP1198は南壁寄りの覆土中層，1247は北西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。1248は中央部と東壁寄りとな西コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第271图 第126号住居跡実測図



第272図 第126号住居跡出土遺物実測図

第126号住居跡出土遺物観察表（第272図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1246	土師器	坏	[14.0]	4.0	[8.0]	長石・石英	橙	普通	体部内面横位のヘラ磨き	中層	20%
1247	須恵器	鉢	[26.8]	(6.6)	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	体部横位の平行叩き 内面当具痕	下層	10%
1248	土師器	小形甕	14.0	(14.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面中位からヘラ磨き 内面ヘラナデ	中層	20%
1249	土師器	甕	[24.4]	(4.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ	中層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1197	球状土錘	2.5	2.3	0.5	(5.9)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1198	管状土錘	2.0	6.0	-	18.5	粘土	ナデ	中層	

第130号住居跡（第273～276図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD6c4区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

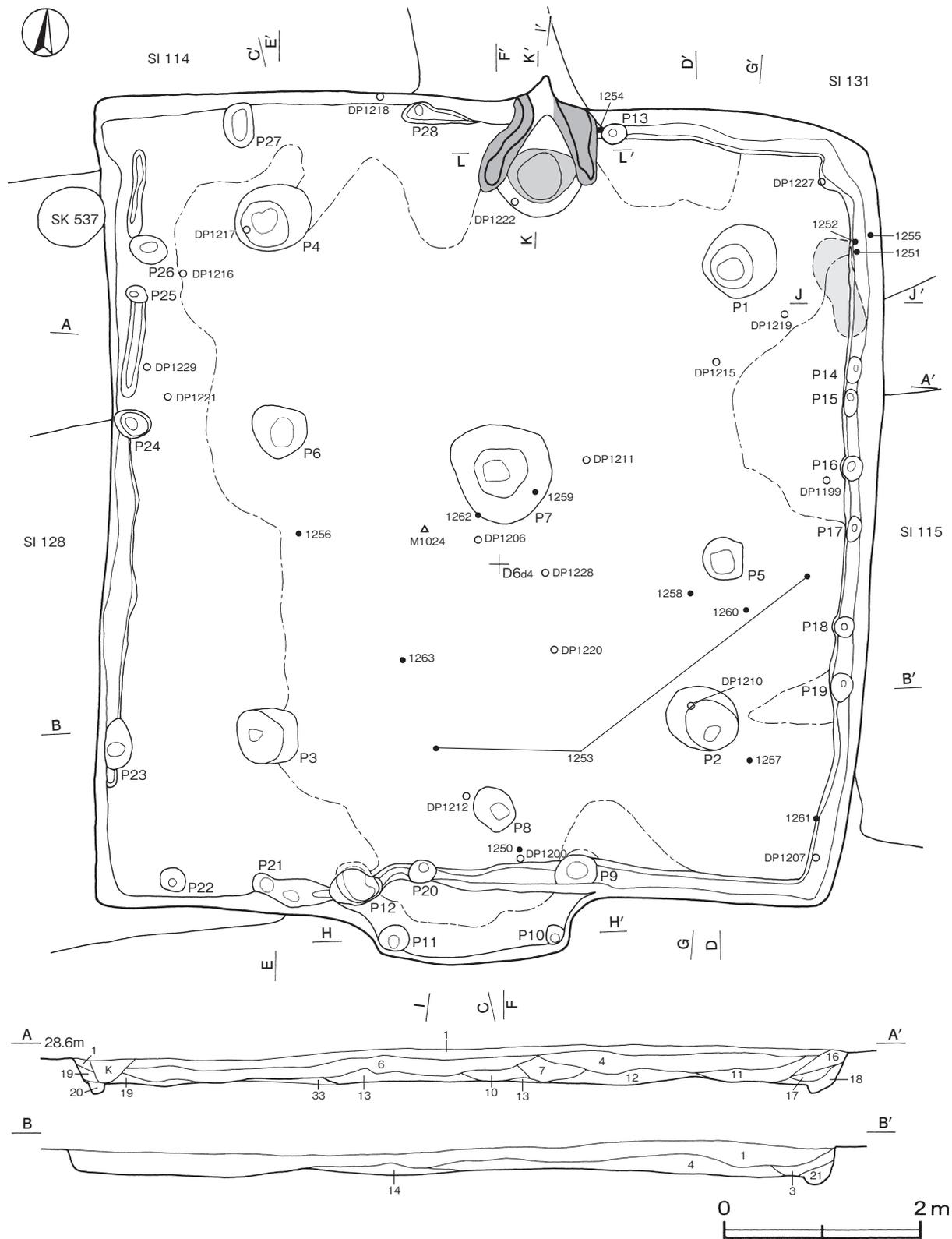
重複関係 第114・115・128・131号住居跡を掘り込み、第537号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.40m、短軸7.86mの方形で、南壁中央部に、幅2.12m、奥行き0.78mの逆台形を呈する張出部を持っている。主軸方向はN-5°-Eである。壁高は12～46cmで、ほぼ直立している。

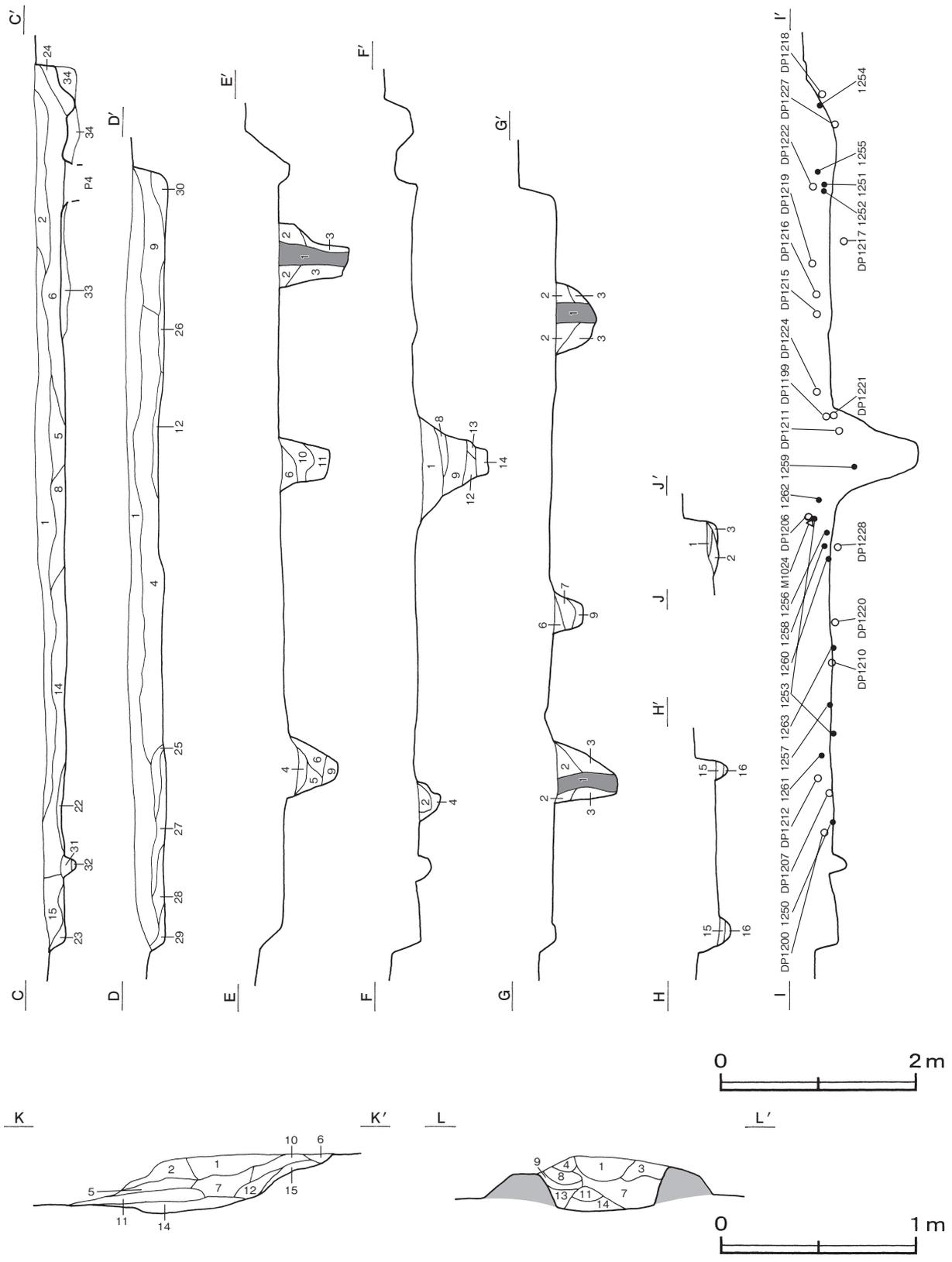
床 平坦で、西壁寄りを除いて、踏み固められている。西壁寄りと北東コーナー部から東壁にかけて、貼床が施されている。また、張出部を除き、壁下には幅10～42cm、深さ2～16cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。北東コーナー部に焼土塊が確認された。これは、住居廃絶後の埋没時に投棄されたものである。

焼土塊土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |



第273图 第130号住居跡実測图(1)



第274图 第130号住居跡実測図(2)

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで145cm、燃焼部幅72cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。また、第1層～4層・8層は天井部の崩落土である。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめ、火床面は火熱を受けて赤変しているが、硬化していない。煙道部は壁外に31cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰褐色	粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量	8 灰白色	粘土粒子多量, 砂粒中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
2 灰褐色	粘土ブロック・砂粒多量, ロームブロック・焼土ブロック少量	9 褐灰色	粘土粒子中量, 砂粒少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
3 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量, 焼土ブロック・ローム粒子微量	10 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック・焼土ブロック微量
4 褐灰色	粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック・焼土粒子微量	11 褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物微量
5 にぶい褐色	焼土ブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量, 炭化物・ローム粒子微量	12 灰黄褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
6 黒褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	13 灰褐色	粘土ブロック・砂粒中量, ローム粒子少量
7 にぶい褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	14 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子微量
		15 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 28か所。P1～P4は深さ57～76cmで、主柱穴である。P5・P6は深さ33・55cmで、主柱穴と掘方に違いがあることから、補助的な柱穴と考えられる。P7は深さ84cmで、中央部に位置しており、他のピットと比べ大形で深い性格は不明である。P8は深さ27cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。ロームブロックを含む暗褐色土を覆土とするP9～P12は深さ28～53cmで、張出部に位置していることから、出入り口施設を補助する柱穴と考えられる。P13～P28は深さ18～38cmで、ローム粒子を含む暗褐色土を覆土とする壁柱穴である。なお、第1層は柱の抜き取り痕である。

ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	9 褐色	ロームブロック中量
2 灰褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
3 灰褐色	ロームブロック中量	11 暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ローム粒子少量	12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
5 にぶい褐色	ロームブロック多量	13 褐色	ロームブロック多量
6 灰褐色	ロームブロック少量	14 褐色	ローム粒子多量
7 褐色	ロームブロック少量	15 暗褐色	ローム粒子中量
8 暗褐色	ロームブロック少量	16 暗褐色	ローム粒子多量

覆土 34層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

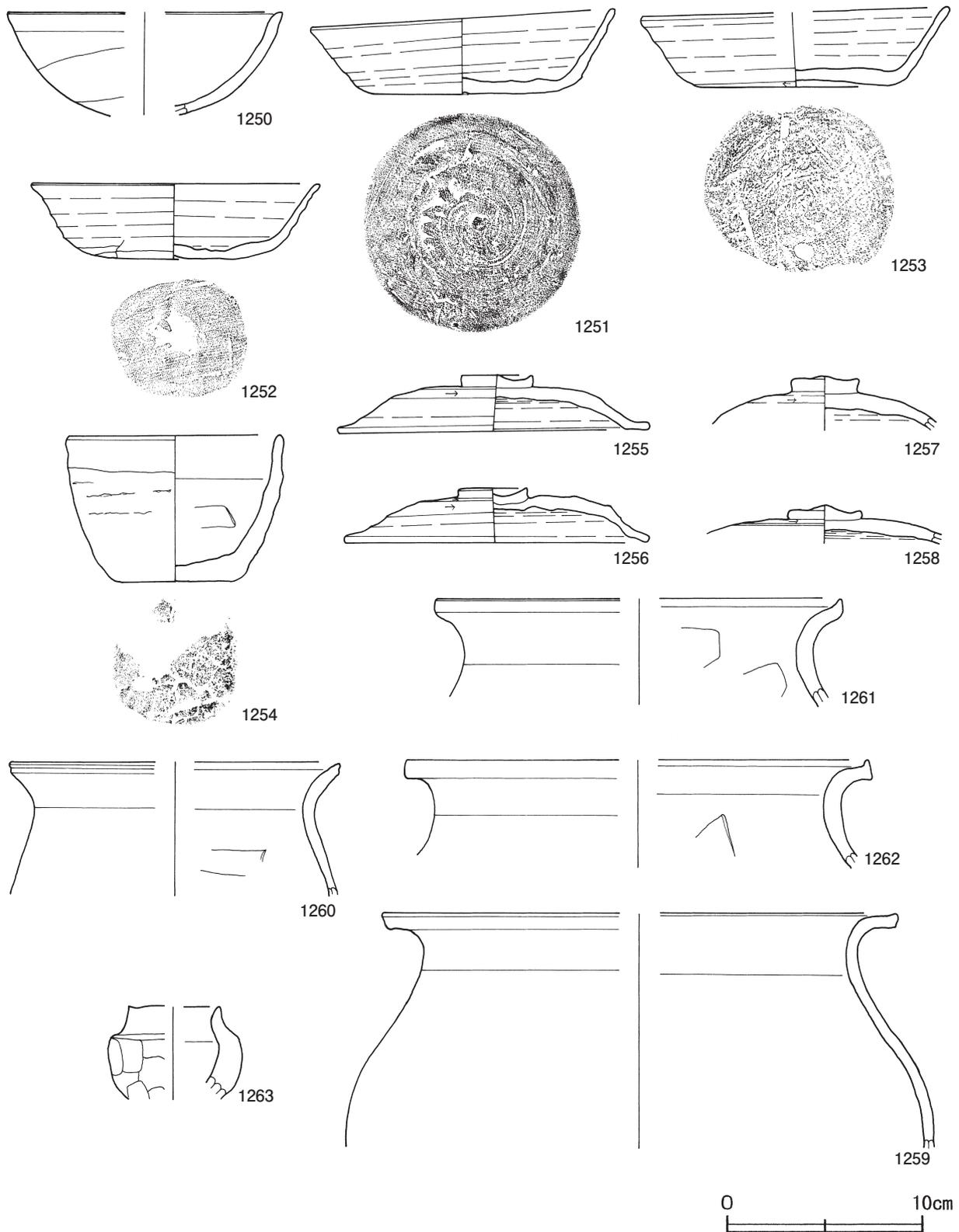
土層解説

1 褐色	ロームブロック少量	19 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	20 暗褐色	ローム粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	21 暗褐色	ロームブロック少量, 砂粒微量
4 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	22 灰褐色	ロームブロック・砂粒少量, 焼土粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	23 灰褐色	ロームブロック・砂粒少量
6 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	24 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
7 暗褐色	焼土粒子少量, ロームブロック微量	25 黒褐色	ロームブロック少量
8 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	26 灰褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量
9 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量	27 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
10 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	28 にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
11 灰褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量	29 黒褐色	ロームブロック微量
12 灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	30 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
13 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量	31 灰褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
14 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量	32 灰褐色	ロームブロック少量
15 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	33 灰褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
16 暗褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子微量	34 灰褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
17 にぶい褐色	ロームブロック少量		
18 褐色	ロームブロック中量		

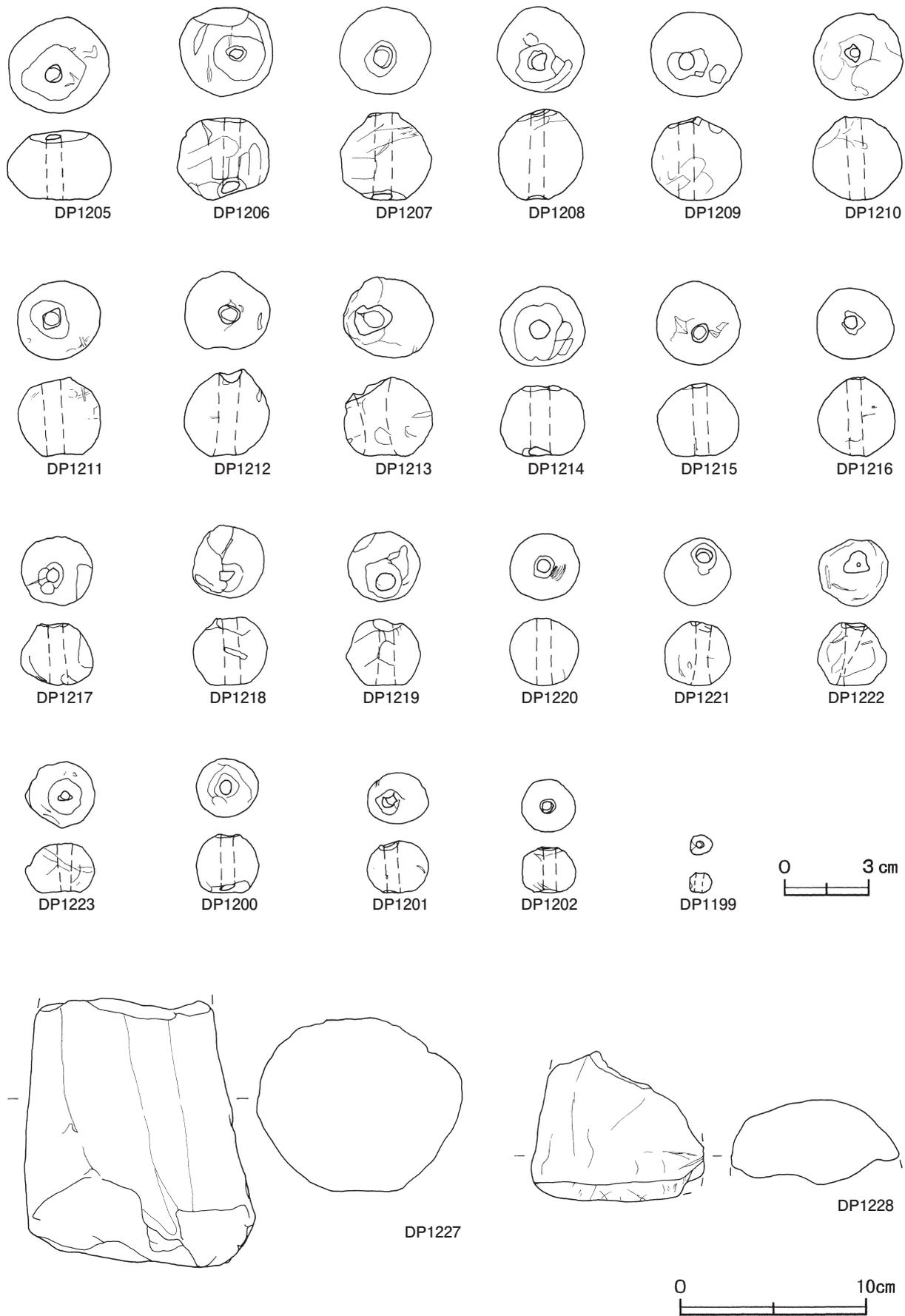
遺物出土状況 土師器片3936点（坏類536・甕類3395・甗1・ミニチュア土器4）、須恵器片502点（坏319・高台付坏1・蓋153・瓶3・甕26）、土製品31点（小玉1・土玉5・球状土錘22・支脚片3）、金属製品1点（刀子）、礫1点、鉄滓2点が出土している。遺物の大半は、西壁寄りを除く全域の覆土上層から下層に出土している。1251・1252は北東コーナー部の覆土下層から正位のまま重なって、1254は竈右袖部脇の覆土中層、1255は北東コーナー部の覆土中層から逆位で、1263は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。また、DP1199～DP1225は全域の覆土上層から下層にかけて散在し、出土している。1253は東壁寄りの覆土中層と南壁寄りの

覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 大形の住居で、集落の中心的な役割を持っていたと考えられる。出土土器や重複関係から8世紀前葉と考えられる。



第275図 第130号住居跡出土遺物実測図(1)



第276图 第130号住居跡出土遺物実測図(2)

第130号住居跡出土遺物観察表（第275・276図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1250	土師器	坏	[14.0]	(5.2)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り	下層	30%
1251	須恵器	坏	15.3	4.3	8.8	長石・石英・雲母	浅黄	普通	底部回転ヘラ切り	下層	100% PL110 外面煤付着
1252	須恵器	坏	14.6	3.8	6.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り	下層	100% PL110
1253	須恵器	坏	[15.7]	4.1	9.3	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り	中層～下層	70% PL110 内・外面煤付着
1254	土師器	椀	10.8	7.4	5.9	長石・石英	鈍い褐	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面輪襷痕 内面ヘラナデ	中層	80% PL110 二次焼成
1255	須恵器	蓋	15.7	3.0	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	中層	100% PL110 外面口縁部・内面煤付着
1256	須恵器	蓋	15.2	2.9	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	下層	60% PL110
1257	須恵器	蓋	-	(2.8)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	下層	30%
1258	須恵器	蓋	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	下層	10%
1259	土師器	甕	[25.9]	(12.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ	P 7内	10%
1260	土師器	甕	[16.7]	(6.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	下層	10%
1261	土師器	甕	[20.6]	(5.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	中層	10%
1262	土師器	甕	[23.4]	(5.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	中層	10%
1263	土師器	ミニチュア土器	[4.6]	(4.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ	下層	30%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1199	小玉	0.8	0.7	0.3	0.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1202	土玉	1.9	1.6	0.5	5.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1203	土玉	1.9	1.7	0.4	(3.2)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1204	土玉	1.8	1.5	-	(2.6)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1200	球状土錘	2.2	2.1	0.4	8.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1201	球状土錘	2.1	1.9	0.5	6.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1205	球状土錘	3.6	2.5	0.5	31.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1206	球状土錘	3.3	2.9	0.7	29.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1207	球状土錘	3.2	3.1	0.6	(27.7)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	
DP1208	球状土錘	3.0	3.2	0.6	26.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1209	球状土錘	3.2	3.0	0.6	25.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1210	球状土錘	3.1	3.0	0.6	26.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1211	球状土錘	3.0	2.9	0.6	20.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1212	球状土錘	2.9	3.1	0.8	21.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1213	球状土錘	3.2	2.9	1.3	20.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1214	球状土錘	3.0	2.6	0.7	(20.5)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP1215	球状土錘	2.9	2.6	0.6	19.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1216	球状土錘	2.7	2.8	0.5	18.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1217	球状土錘	2.5	2.2	0.6	14.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	P 4内	
DP1218	球状土錘	2.5	2.5	0.5	(16.0)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	中層	
DP1219	球状土錘	2.6	2.3	0.7	(12.9)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	上層	
DP1220	球状土錘	2.5	2.4	0.5	13.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1221	球状土錘	2.3	2.3	0.6	10.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1222	球状土錘	2.5	2.2	0.6	11.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1223	球状土錘	2.5	1.7	0.5	8.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1224	球状土錘	2.9	(2.3)	0.6	(11.9)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	中層	計測のみ
DP1225	球状土錘	2.6	(2.4)	0.4	(10.5)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1226	球状土錘	-	2.9	0.5	(7.2)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1227	支脚	(14.4)	12.5	(9.6)	(1500.0)	粘土	ナデ 一部欠損	下層	
DP1228	支脚	(8.1)	9.3	-	(240.0)	粘土	ナデ 一部欠損	下層	
DP1229	支脚	(5.6)	-	-	(148.6)	粘土	ナデ 一部欠損	覆土中	計測のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1024	刀子	(5.2)	1.4	0.3	(5.7)	鉄	茎部 一部欠損	上層	PL120 計測のみ

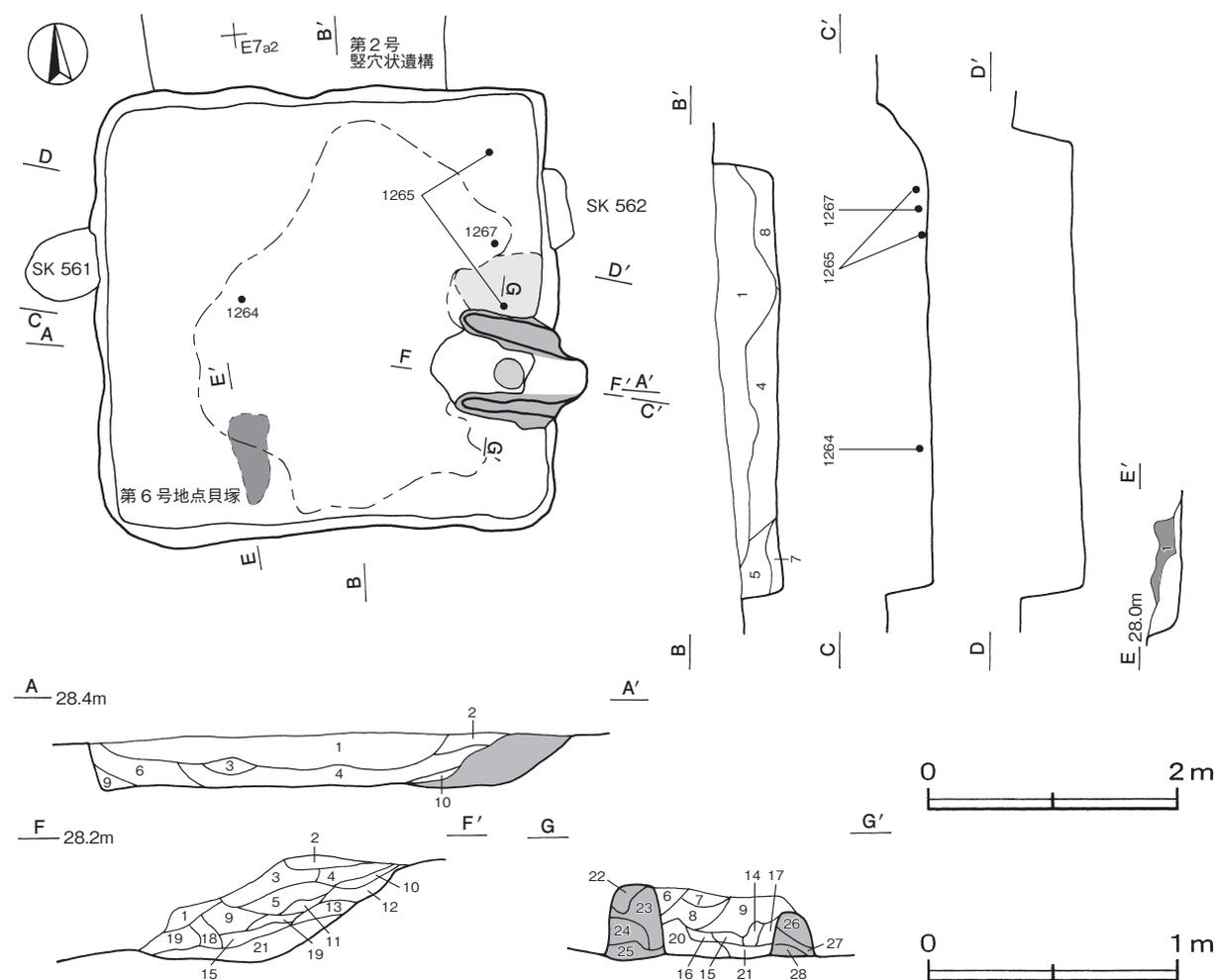
第138号住居跡 (第277 ~ 279図)

位置 調査Ⅱ区東部のE 7 a2区, 標高28.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号竪穴状遺構を掘り込み, 第6号地点貝塚, 第561・562号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.71m, 短軸3.64mの方形で, 主軸方向はN-100°-Eである。壁高は34~58cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。また, 竈左袖部脇の床面は, 焼土粒子を多量に含む暗赤褐色土で貼床が施されている。



第277図 第138号住居跡実測図

竈 東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで123cm， 燃焼部幅48cmである。袖部は第22層～28層の砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。また， 第3・5・9層は天井部の崩落土である。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめ， 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ， 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	16	褐灰色	焼土ブロック少量， ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
2	褐灰色	ロームブロック少量， 粘土粒子微量	17	極暗褐色	焼土ブロック少量， ローム粒子微量
3	明褐灰色	粘土ブロック多量， ロームブロック少量	18	にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子少量， 焼土ブロック微量
4	にぶい褐色	ロームブロック少量， 焼土ブロック・炭化粒子微量	19	橙黄色	ローム粒子多量， 焼土ブロック微量
5	にぶい褐色	粘土粒子中量， ロームブロック・焼土粒子微量	20	黒褐色	炭化粒子多量， 焼土ブロック少量， ローム粒子微量
6	にぶい褐色	粘土粒子中量， ロームブロック・焼土ブロック微量	21	暗赤褐色	焼土ブロック中量， 炭化粒子・粘土粒子少量， ローム粒子微量
7	灰褐色	粘土粒子少量， ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	22	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒中量， ロームブロック少量
8	灰褐色	粘土粒子少量， 焼土ブロック・ローム粒子微量	23	灰黄色	粘土ブロック多量， 砂粒中量， ロームブロック・焼土粒子微量
9	灰褐色	粘土粒子多量， ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	24	にぶい褐色	粘土粒子中量， 砂粒少量， 焼土ブロック・ローム粒子微量
10	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量， ロームブロック微量	25	にぶい黄褐色	砂粒中量， ローム粒子・粘土粒子少量
11	にぶい赤褐色	焼土粒子中量， 炭化粒子少量， ローム粒子・粘土粒子微量	26	灰褐色	砂粒多量， 粘土粒子中量， 焼土ブロック少量， ローム粒子微量
12	暗赤褐色	焼土ブロック中量， ローム粒子・炭化粒子微量	27	にぶい黄褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒中量
13	灰褐色	粘土ブロック・砂粒中量， ローム粒子少量	28	暗褐色	焼土粒子中量， ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
14	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子微量			
15	赤褐色	焼土ブロック中量， ローム粒子微量			

覆土 10層に分けられる。ロームブロックを含み， 不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

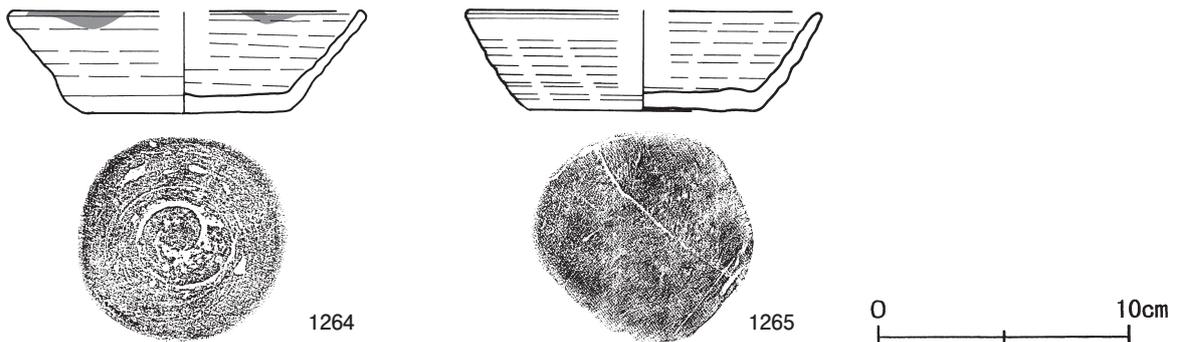
土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	6	暗褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量， 炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子少量	8	褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量， 焼土ブロック微量	9	褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子中量	10	灰褐色	炭化粒子中量， ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量

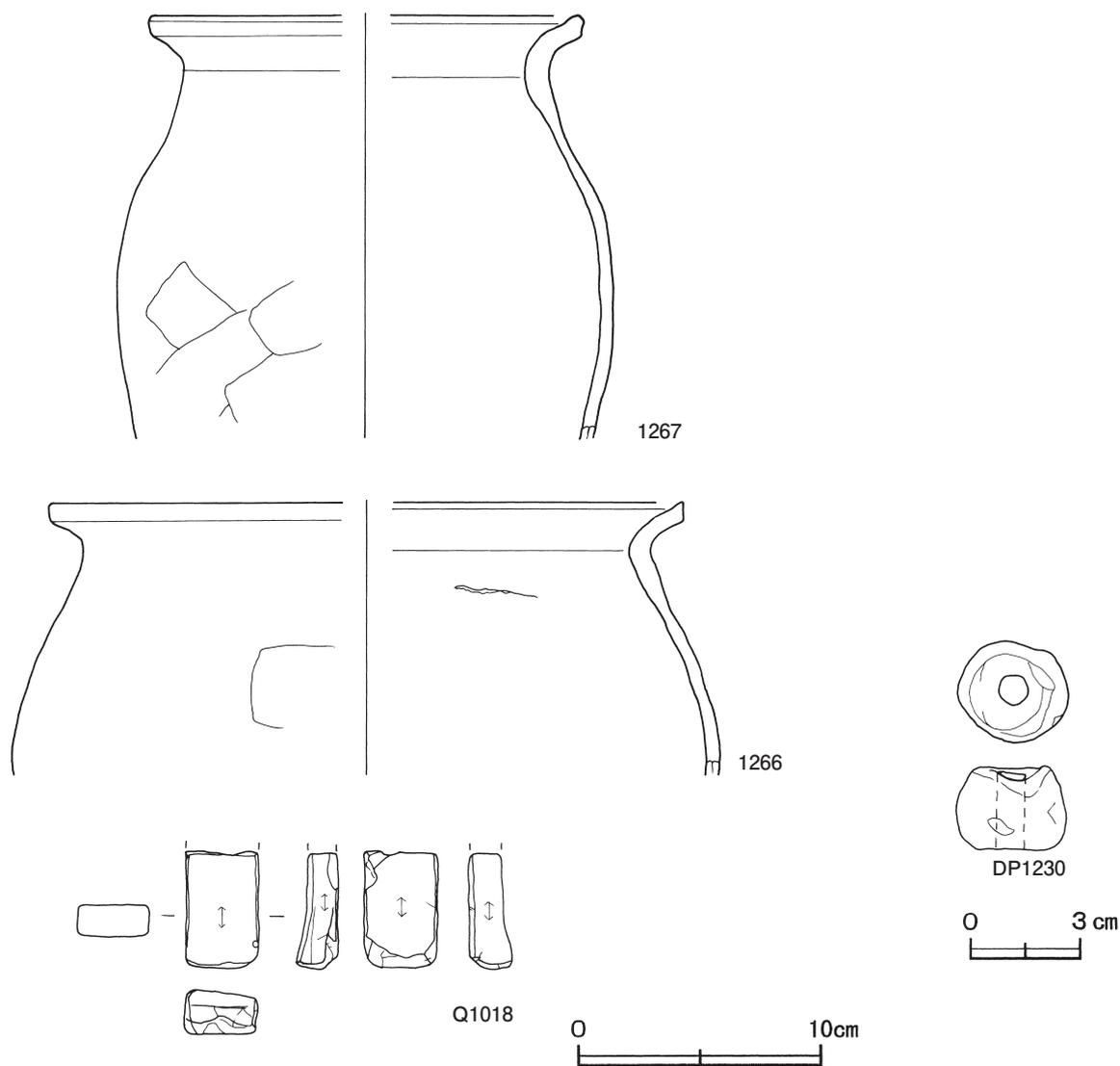
第6号地点貝塚 南西コーナー部の覆土第1層上面に長径0.73m， 短径0.23mの不整楕円形の範囲で貝層が確認された。貝層は単一の純貝層で， 厚さ2～16cmである。出土した貝は， ヤマトシジミ2344点（右殻900， 左殻1444）， カキ1点である。これらの貝殻は， 住居が埋め戻された途中で廃棄されたものである。

遺物出土状況 土師器片161点（坏7・高台付碗1・甕153）， 須恵器片36点（坏30・高台付坏1・蓋2・甕3）， 石器1点（砥石）， 土製品1点（球状土錘）， 礫3点が出土している。遺物の大半は南壁寄りの覆土中層から下層にかけて出土している。1264は中央部の覆土下層， DP1230・Q1018は竈周辺の覆土中からそれぞれ出土している。1265は， 北東コーナー部の覆土中層と竈周辺の覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は， 出土土器や重複関係から8世紀中葉と考えられる。第6号地点貝塚の形成時期は， 住居廃絶後， 埋め戻す段階で廃棄され， 住居廃絶とそれほど時期差はないものと考えられる。



第278図 第138号住居跡出土遺物実測図(1)



第279図 第138号住居跡出土遺物実測図(2)

第138号住居跡出土遺物観察表 (第278・279図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1264	須恵器	坏	[13.9]	4.0	7.7	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	下層	60% PL110
1265	須恵器	坏	[13.8]	3.9	9.0	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	上層～下層	40%
1266	土師器	甕	[25.8]	(11.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土中	10%
1267	土師器	甕	[17.4]	(17.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面直上	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1230	球状土錘	3.0	2.3	0.8	19.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1018	砥石	(4.8)	3.0	1.3	(34.7)	凝灰岩	砥面4面	覆土中	

第141号住居跡（第280・281図）

位置 調査Ⅱ区東部のD7i4区，標高28.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第140号住居跡を掘り込み，第28号溝と第2号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.48m，短軸4.43mの方形で，主軸方向はN-5°-Eである。壁高は24～32cmで，ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で，中央部を踏み固められている。貼床は，北壁中央部と北西コーナー部・北東コーナー部を20～27cmほど掘りくぼめた後，ロームブロックを含む褐色土を埋めている。東壁と北壁から西壁にかけての壁下には，幅22～26cm，深さ8～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

竈 北壁の中央部に付設されている。左袖上部を第28号溝に掘り込まれており，下部しか遺存していない。確認された規模は，焚口部から煙道部まで116cm，燃烧部幅39cmである。袖部は第17～22層の砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から3cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に7cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第15・16・23～32層は，焚口部の掘方への埋土である。

竈土層解説

1	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量	16	にぶい褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
2	褐灰色	粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック・ローム粒子微量	17	灰黄色	粘土ブロック・砂粒多量
3	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	18	灰褐色	ロームブロック中量，粘土粒子・砂粒少量
4	にぶい褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量	19	暗灰黄色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量
5	灰黄褐色	粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量	20	暗灰黄色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
6	灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	21	灰黄色	粘土ブロック・砂粒多量，ローム粒子少量
7	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子・砂粒微量	22	暗灰黄色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
8	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	23	灰黄褐色	粘土粒子中量，ロームブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
9	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量	24	にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
10	褐灰色	粘土粒子中量，焼土ブロック・砂粒少量	25	にぶい黄褐色	ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
11	灰褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量	26	灰黄褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
12	赤褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	27	暗褐色	ロームブロック少量
13	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，粘土粒子・炭化粒子・砂粒微量	28	褐色	ロームブロック少量
14	にぶい褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	29	暗灰黄色	粘土粒子中量，ロームブロック・砂粒少量
15	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量	30	暗褐色	ロームブロック少量
			31	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
			32	にぶい褐色	ロームブロック中量，粘土粒子少量

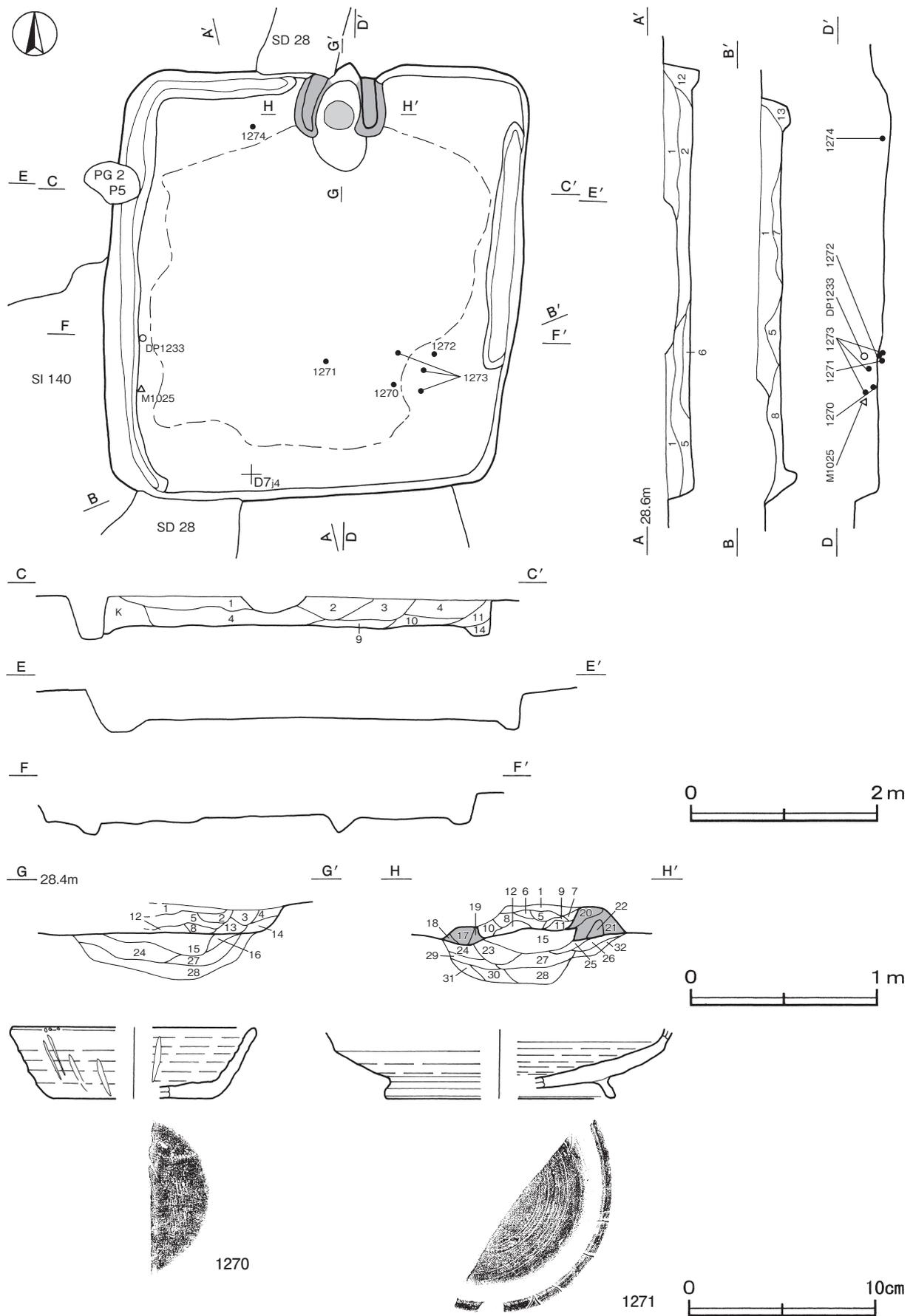
覆土 22層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

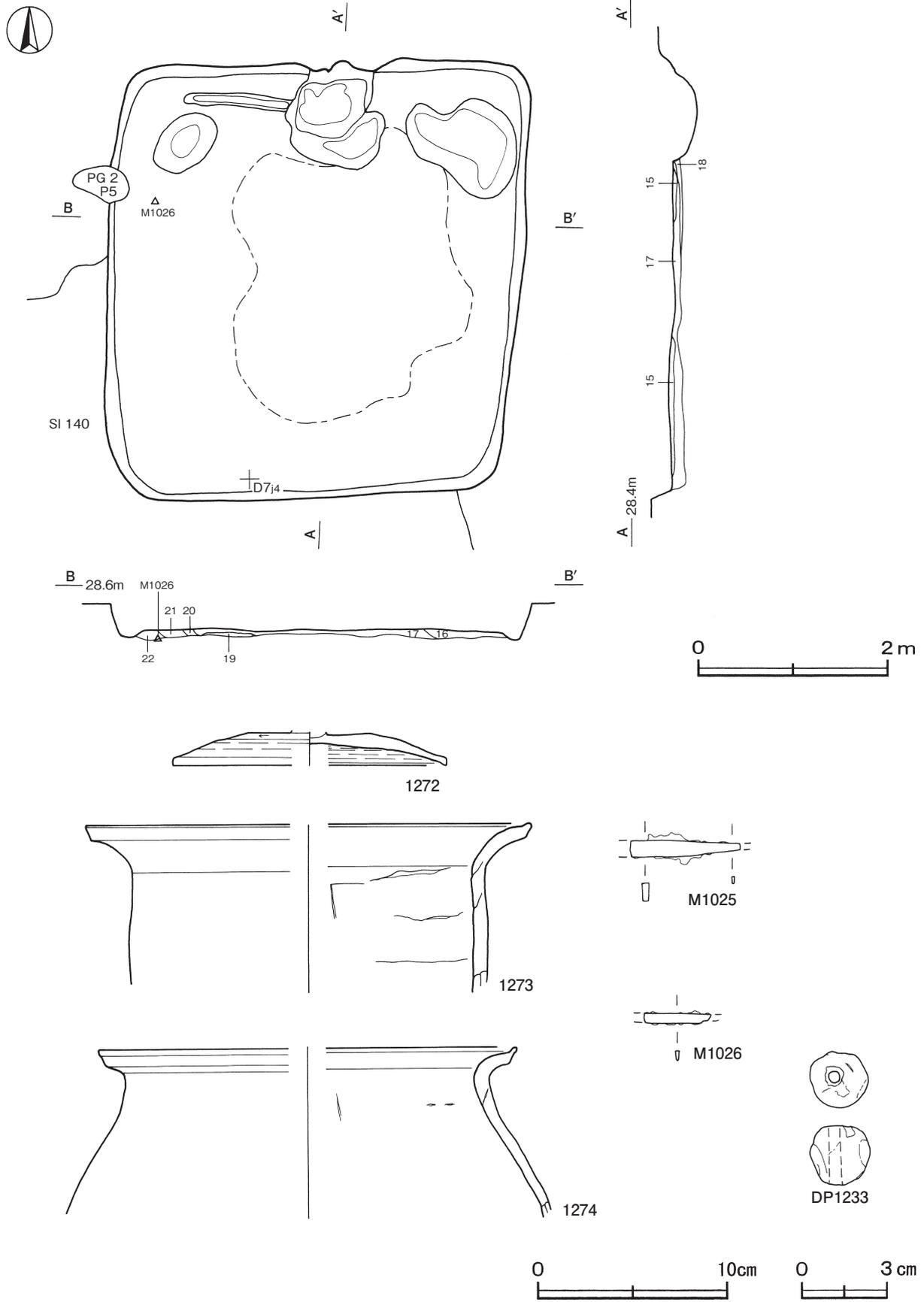
1	灰褐色	ロームブロック中量	12	褐色	ロームブロック微量
2	灰褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量	14	灰褐色	ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック少量	15	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量
5	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック少量
6	暗褐色	ローム粒子少量	17	暗褐色	ロームブロック中量
7	褐色	ロームブロック少量	18	褐色	ロームブロック少量
8	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	19	褐色	ロームブロック中量
9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	20	暗褐色	ローム粒子少量
10	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	21	暗褐色	ロームブロック多量，焼土粒子少量
11	暗褐色	ローム粒子微量	22	灰褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片258点（坏11・高台付椀2・甕類245），須恵器片34点（坏24・蓋3・盤2・甕類5），土製品11点（球状土錘1・支脚片10），金属製品2点（刀子・鉄鏃）が出土している。遺物の大半は，竈手前から南東コーナー部にかけての覆土上層から下層に出土している。1270は南東コーナー部の覆土下層，1271は中央部，1272は南東コーナー部の覆土下層，DP1233・M1025は南西コーナー部の覆土上層，M1026は北東コーナー部の貼床の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から8世紀中葉と考えられる。



第280图 第141号住居跡・出土遺物実測図(1)



第281图 第141号住居跡・出土遺物実測図(2)

第141号住居跡出土遺物観察表（第280・281図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1270	須恵器	坏	[12.9]	3.8	[8.5]	長石・雲母	灰白	普通	体部内・外面火だすき	下層	30%
1271	須恵器	盤	-	(3.7)	[12.0]	長石・石英	にぶい黄	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	下層	30%
1272	須恵器	蓋	[14.3]	(1.8)	-	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	下層	40%
1273	土師器	甕	[23.4]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	上層～下層	10%
1274	土師器	甕	[22.0]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	下層	10%

番号	器種	径	厚さ長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DPI233	土玉	2.0	2.1	0.4	8.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1025	刀子	(5.8)	0.9	0.15 ～0.4	(6.3)	鉄	茎部 一部欠損	上層	PL120
M1026	刀子	(3.5)	0.6	0.2	(1.4)	鉄	刀身部 一部欠損	掘り方	PL120

第142号住居跡（第282・283図）

位置 調査Ⅱ区東部のD7i5区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.42m、短軸4.02mの方形で、主軸方向はN-103°-Eである。壁高は6～24cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部から西壁・南壁際にかけて踏み固められている。南東コーナー部は攪乱されているが、壁下には、幅24～34cm、深さ2～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

竈 東壁やや南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで92cm、燃焼部幅50cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込まず、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰黄褐色	粘土ブロック・砂粒中量、炭化物・焼土粒子微量	10	灰褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	灰黄褐色	粘土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量			
3	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量	11	灰褐色	砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4	灰黄褐色	粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子微量	12	にぶい黄褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
5	にぶい褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量	13	褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子・砂粒微量
6	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量、粘土粒子微量	14	にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量
7	褐灰色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック微量	15	褐灰色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
8	灰褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・ローム粒子微量	16	にぶい褐色	ロームブロック中量
9	にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量			

ピット 6か所。P1～P4は深さ30～43cmで、主柱穴である。P5・P6は深さ22・32cmで、竈袖部の付け根に位置していることから、竈施設に伴うピットである。第2層は柱痕である。

ピット土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量	3	褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック少量			

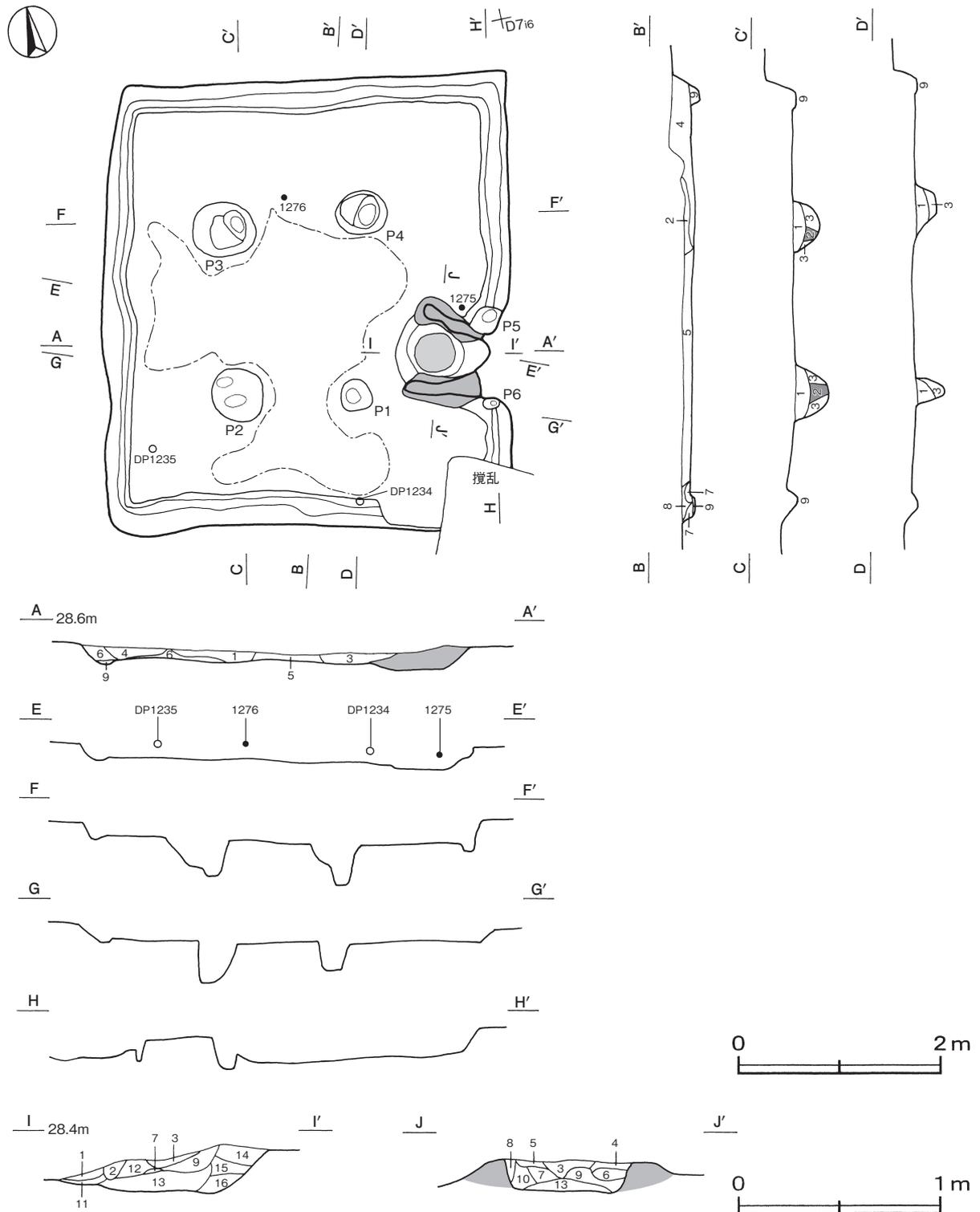
覆土 9層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

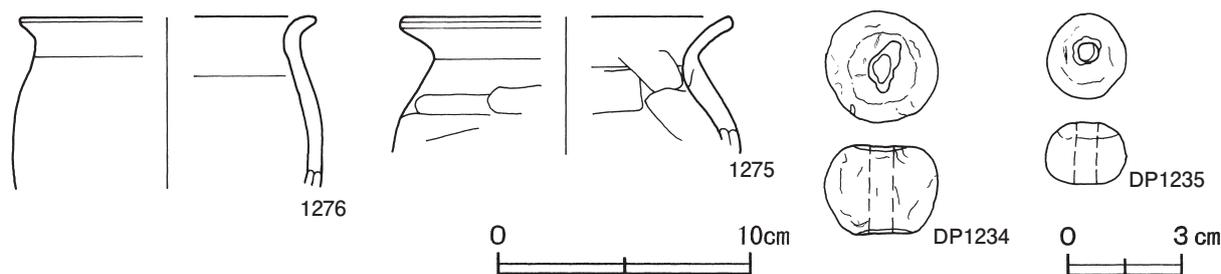
1	暗褐色	ロームブロック少量	6	褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック多量	7	褐色	ロームブロック多量
3	暗褐色	ロームブロック少量、砂粒微量	8	黒褐色	ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック中量	9	暗褐色	ローム粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子多量			

遺物出土状況 土師器片104点（坏1・甕類102・ミニチュア土器1），須恵器片19点（坏11・蓋3・甕類5），土製品11点（球状土錘2，支脚片9），礫1点，鉄滓1点が出土している。遺物の大半は，全域の覆土中層から出土している。1275は竈左袖部の脇，1276は北壁寄りの覆土中層，DP1234は南東コーナー部，DP1235は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀代と考えられる。



第282図 第142号住居跡実測図



第283図 第142号住居跡出土遺物実測図

第142号住居跡出土遺物観察表（第283図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1275	土師器	小形甕	[12.8]	(5.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	中層	10%
1276	土師器	小形甕	[11.5]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	中層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1234	球状土錘	3.0	2.3	0.6	21.8	粘土	ナデ 一方方向からの穿孔	中層	
DP1235	球状土錘	2.1	1.7	0.5	7.9	粘土	ナデ 一方方向からの穿孔	中層	

第145号住居跡（第284・285図）

位置 調査Ⅱ区西部のD 5 g6区，標高28.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.52m，短軸4.28mの方形で，主軸方向はN-0°である。壁高は3～14cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。北壁の一部を除く壁下には，幅8～26cm，深さ2～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで100cm，燃焼部幅50cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。また，第1・2層は天井部の崩落土である。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	明褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2	褐色	粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	極暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
3	にぶい褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	9	暗褐色	粘土粒子少量，砂粒微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	10	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5	灰褐色	粘土粒子中量，ロームブロック・砂粒少量，焼土粒子微量	11	褐色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・砂粒微量	12	黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子・砂粒微量
			13	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ58～65cmで，主柱穴である。P 5は深さ31cmで，性格不明である。第1層は柱痕である。

ピット土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック少量			

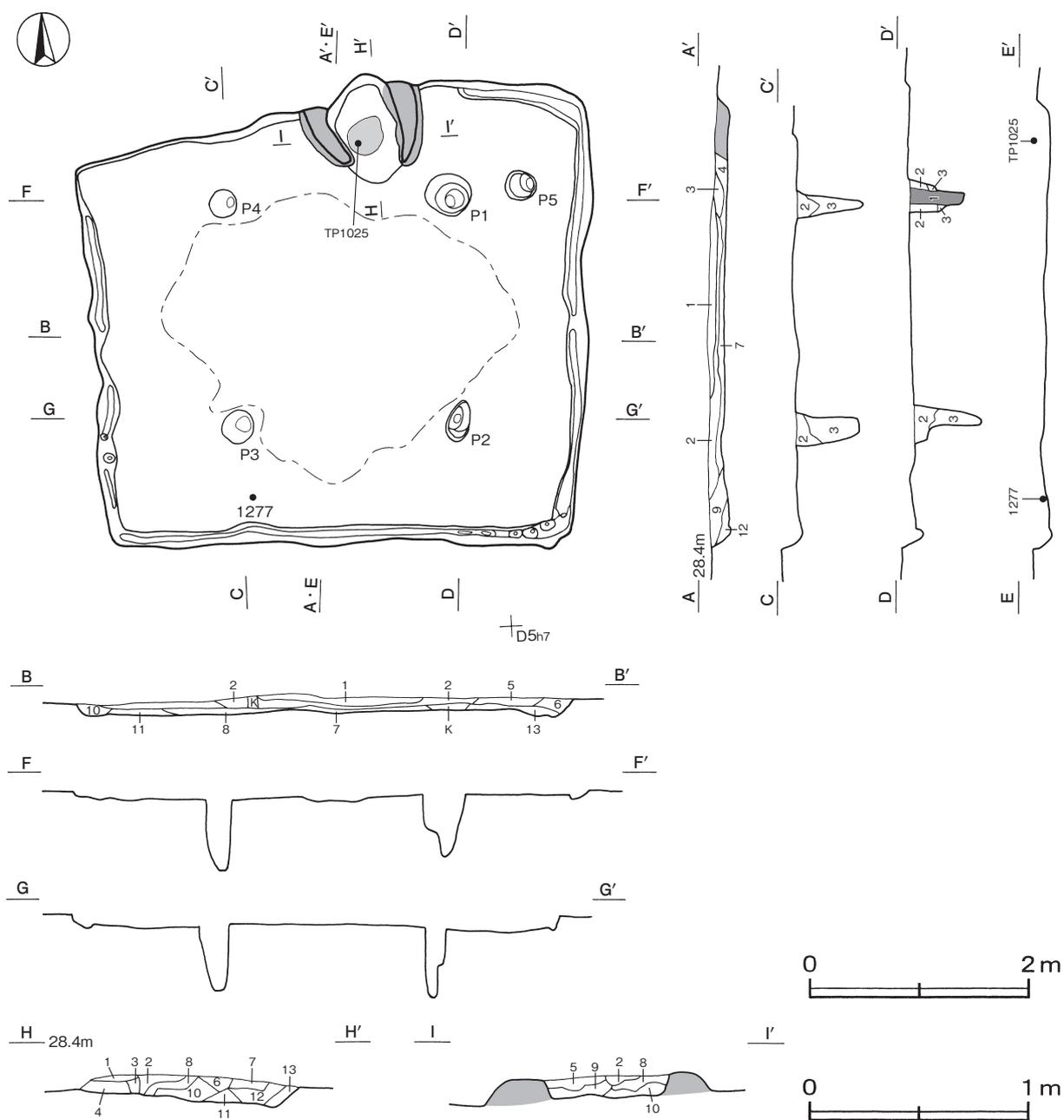
覆土 13層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

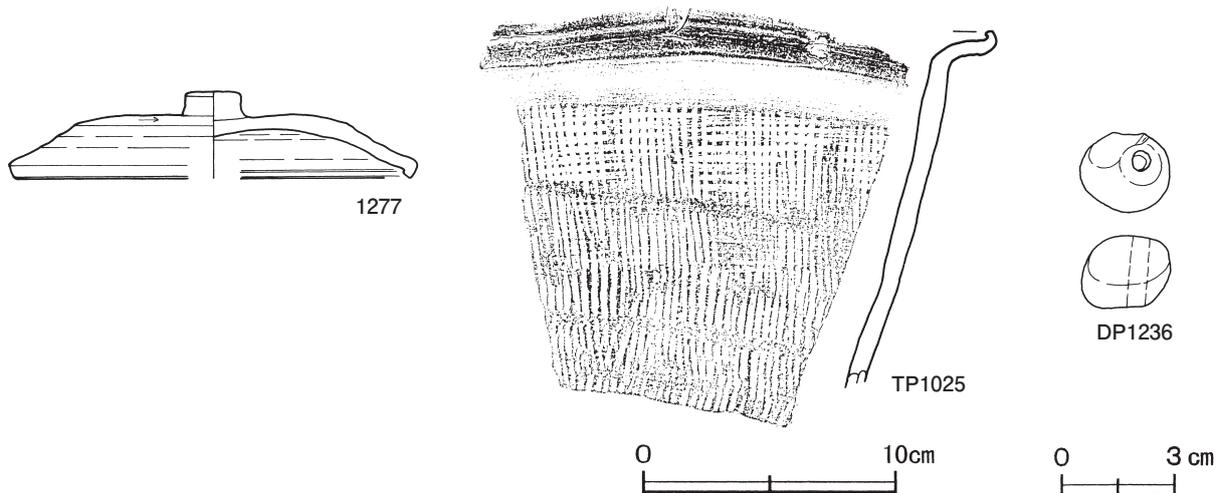
- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 11 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 褐色 | ローム粒子微量 | 12 褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 13 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片176点(坏13・甕類163), 須恵器片57点(坏41・蓋1・甕5・甗10), 土製品7点(球状土錘1・管状土錘1・支脚片5)が出土している。遺物の大半は, 北壁と南壁寄りの覆土上層から下層にかけて出土している。1277は南壁寄りの覆土下層, TP1025は竈内からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第284図 第145号住居跡実測図



第285図 第145号住居跡出土遺物実測図

第145号住居跡出土遺物観察表（第285図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1277	須恵器	蓋	[15.7]	3.4	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	下層	50%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1025	須恵器	鉢	長石・石英	灰	普通	擬格子叩き 内面円形の当て具痕	竈内上層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1236	球状土錘	2.3	1.9	0.5	9.5	粘土	ナデ 一方方向からの穿孔	覆土中	
DP1237	管状土錘	2.4	8.4	0.8	(30.9)	粘土	ナデ 一方方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ

第146号住居跡（第286・287図）

位置 調査Ⅱ区西部のD5h4区、標高28.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第147号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.20m、短軸2.96mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は19～27cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、壁際を除いて、踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されており、両袖部の一部しか遺存していない。規模は、焚口部から煙道部まで114cm、燃焼部幅76cmである。袖部は第16・17層の砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から3cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック微量	7	暗赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	8	灰褐色	ロームブロック中量, 粘土粒子微量
3	褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	9	にぶい褐色	粘土粒子中量, ロームブロック微量
4	灰褐色	粘土粒子中量, 炭化物少量, ロームブロック・焼土粒子微量	10	にぶい褐色	ロームブロック少量
5	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量	11	極暗褐色	焼土ブロック少量, ロームブロック微量
6	褐灰色	ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量	12	褐灰色	粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量
			13	灰褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
			14	極暗赤褐色	焼土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子微量
			15	極暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
			16	灰褐色	粘土粒子中量, ロームブロック微量
			17	明褐色	ロームブロック中量, 粘土粒子微量

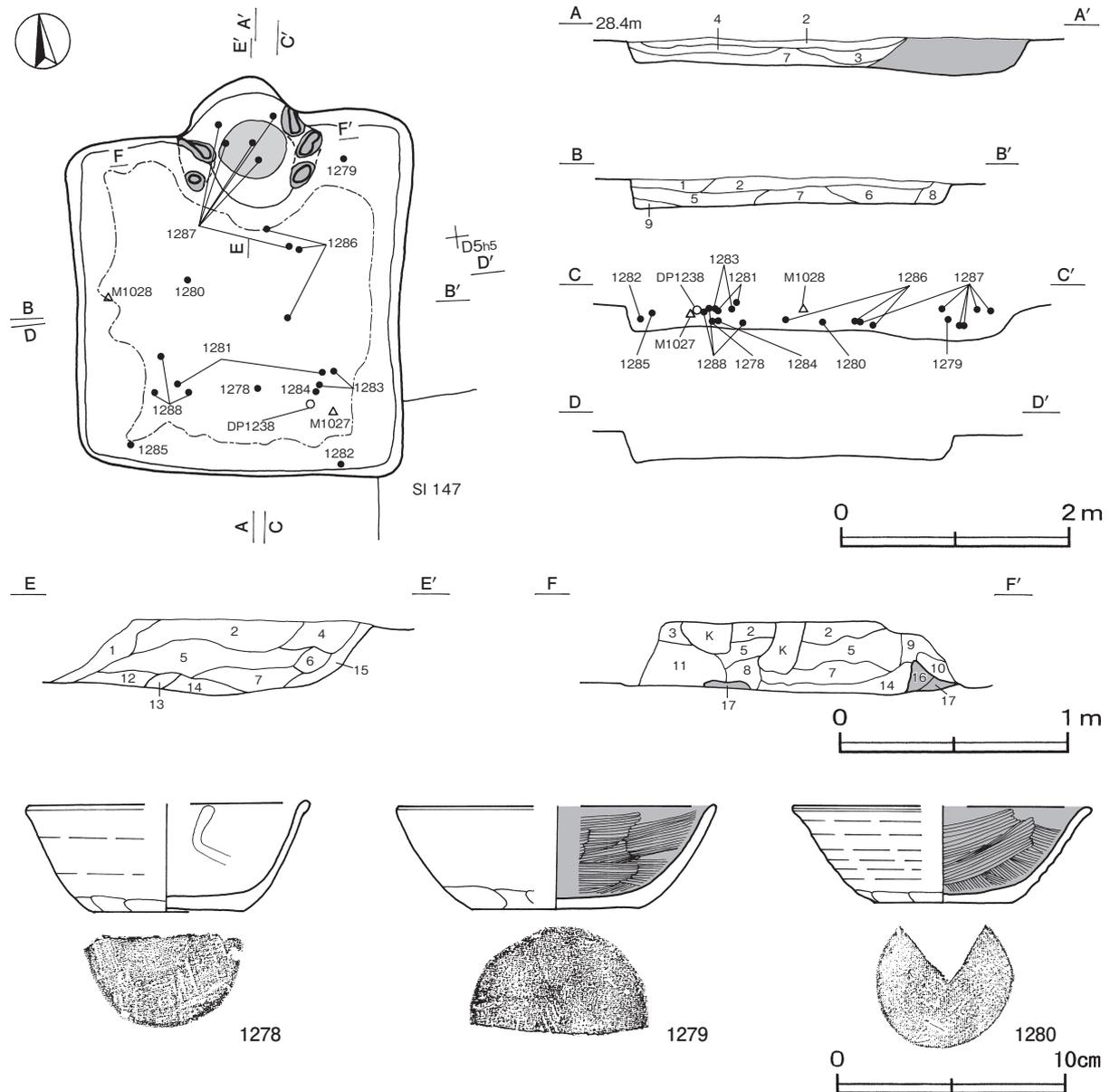
覆土 9層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

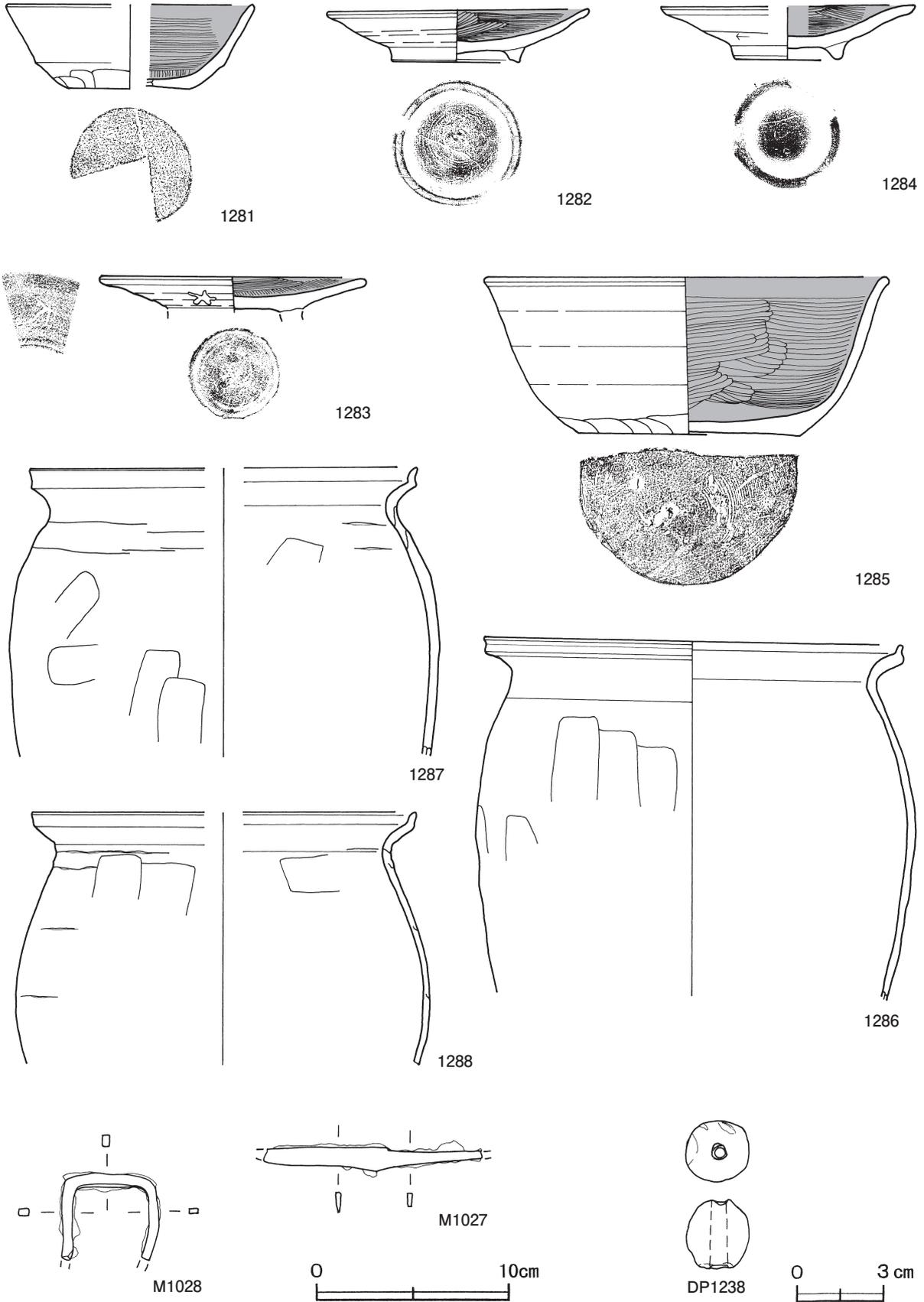
- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片495点(坏70・皿類8・鉢10・甕類407), 須恵器片33点(坏10・蓋11・甕12), 土製品2点(球状土錘), 金属製品2点(刀子・閃)が出土している。遺物の大半は, 竈内と中央部の覆土上層から下層にかけて出土している。1278は南壁寄り, 1279は北東コーナー部, 1280・1286は中央部の覆土下層, 1285は南西コーナー部, 1282・DP1238・M1027は南東コーナー部, M1028は西壁寄りの覆土上層, 1287は竈内と覆土上層から中層にかけて, それぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から9世紀中葉と考えられる。



第286図 第146号住居跡・出土遺物実測図



第287图 第146号住居跡出土遺物実測図

第146号住居跡出土遺物観察表（第286・287図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1278	土師器	坏	[12.2]	4.8	6.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ削り	下層	40%
1279	土師器	坏	[13.7]	4.5	7.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部ヘラ削り	中層	30%
1280	土師器	坏	[12.8]	4.3	6.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ削り後、多方向へのヘラ削り	下層	30%
1281	土師器	坏	[12.7]	4.4	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ削り	上層～中層	20%
1282	土師器	高台付皿	13.4	2.8	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後 高台貼り付け	中層	90% PL111
1283	土師器	高台付皿	13.5	(1.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ	上層	60% PL111 外面刻書「大」
1284	土師器	高台付皿	[13.0]	2.8	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後 高台貼り付け	下層	20%
1285	土師器	鉢	20.5	8.3	11.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部ナデ	中層	50%
1286	土師器	甕	21.4	(18.2)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ	下層	30%
1287	土師器	甕	[20.0]	(15.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ 輪積痕	竈内・上層～中層	20%
1288	土師器	甕	[19.7]	(13.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ 輪積痕	上層～下層	20%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1238	球状土錘	2.2	2.4	0.5	10.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1239	球状土錘	2.4	1.9	0.5	(8.3)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1027	刀子	(11.3)	1.3	0.3	(15.8)	鉄	刀身先端・茎部一部欠損	中層	PL120
M1028	門	(4.5)	5.0	0.4	(15.4)	鉄	断面四角形 一部欠損	上層	PL121

第147号住居跡（第288・289図）

位置 調査Ⅱ区西部のD 5 h5区、標高28.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第146号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南西コーナー部から南壁にかけて攪乱を受けている。長軸4.12m、短軸3.66mの方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁高は17～23cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、壁際を除いて、踏み固められている。南東コーナー部と北西コーナー部から西壁にかけての壁下には、幅11～30cm、深さ1～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

竈 北壁の中央部に付設されており、両袖部の一部が欠損している。規模は、焚口部から煙道部まで99cm、燃烧部幅50cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に12cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂粒微量	8	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子微量
2	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量	9	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
3	極暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量	10	灰褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
4	暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック微量	11	褐色	ロームブロック微量
5	灰褐色	焼土ブロック中量、砂粒少量、ローム粒子微量	12	極暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
6	灰褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック微量	13	灰褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
7	黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量			

ピット 6か所。P1～P4は深さ26～40cmで、主柱穴である。P5は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ32cmで、性格不明である。

ピット土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	2	褐色	ロームブロック中量
---	-----	-----------	---	----	-----------

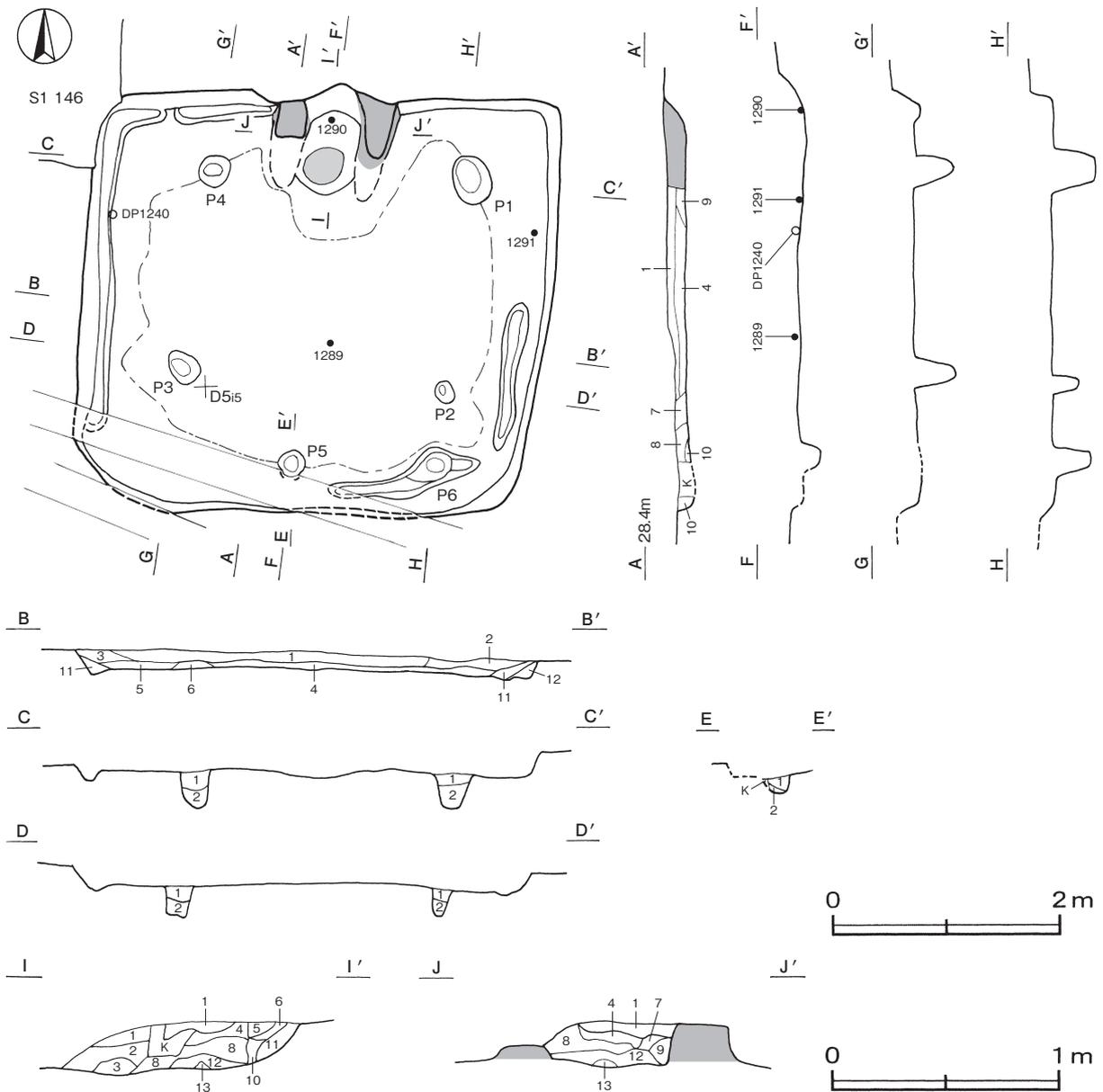
覆土 12層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

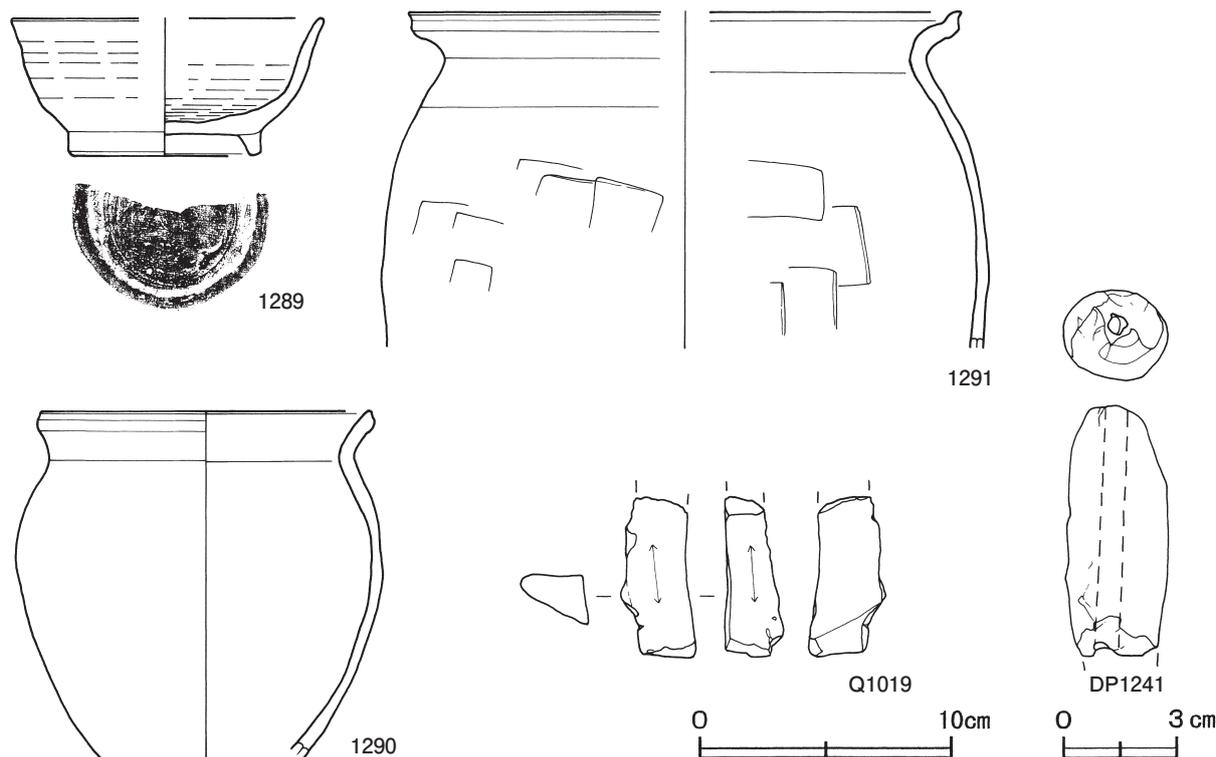
- | | | | |
|--------|------------------------|---------|-------------------|
| 1 灰 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 灰 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子少量 | 8 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 3 灰 褐色 | ロームブロック中量 | 9 暗 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 灰 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 10 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 11 暗 褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 暗 褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック少量 | 12 灰 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片597点（坏40・高台付椀1・甕類556），須恵器片94点（坏51・高台付坏1・蓋18・瓶1・甕23），土製品47点（球状土錘1・管状土錘1・不明土製品45），石器1点（砥石）が出土している。遺物の大半は全域の覆土中層から下層にかけて出土している。1289は中央部の覆土下層，1290は竈内，DP1240は北西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から9世紀前葉と考えられる。



第288図 第147号住居跡実測図



第289図 第147号住居跡出土遺物実測図

第147号住居跡出土遺物観察表（第289図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1289	須恵器	高台付坏	[12.2]	5.5	7.0	長石・石英	灰白	普通	底部回転糸切り後、高台貼り付け	下層	50%
1290	土師器	小形甕	13.0	(13.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体内・外面ナデ	竈内下層	60% PL111
1291	土師器	甕	[21.8]	(13.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体内・外面ヘラナデ	下層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1240	球状土錘	2.8	2.7	0.6	(15.1)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	計測のみ
DP1241	管状土錘	2.7	(6.7)	0.5	(42.1)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 端部欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1019	砥石	(6.4)	(3.0)	(2.3)	(38.3)	凝灰岩	砥面2面	覆土中	

第148号住居跡（第290・291図）

位置 調査Ⅱ区西部のD 5 j3区、標高28.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第149号住居に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外で、全域がトレンチにより攪乱を受けている。南北軸が4.90mで、東西軸は2.95mしか確認できなかった。主軸方向がN-95°-Eの長方形または方形と推測される。壁高は12cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、踏み固められていない。南東コーナー部に焼土塊が確認された。

焼土塊土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|------------------|---|-----|------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 | 明褐色 | ロームブロック少量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

竈 東壁の中央部に付設されており、袖部・火床部・煙道部ともに南部しか遺存していない。確認できた規模

は、焚口部から煙道部まで90cm、燃焼部幅30cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。また、第2・3層は天井部の崩落土である。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

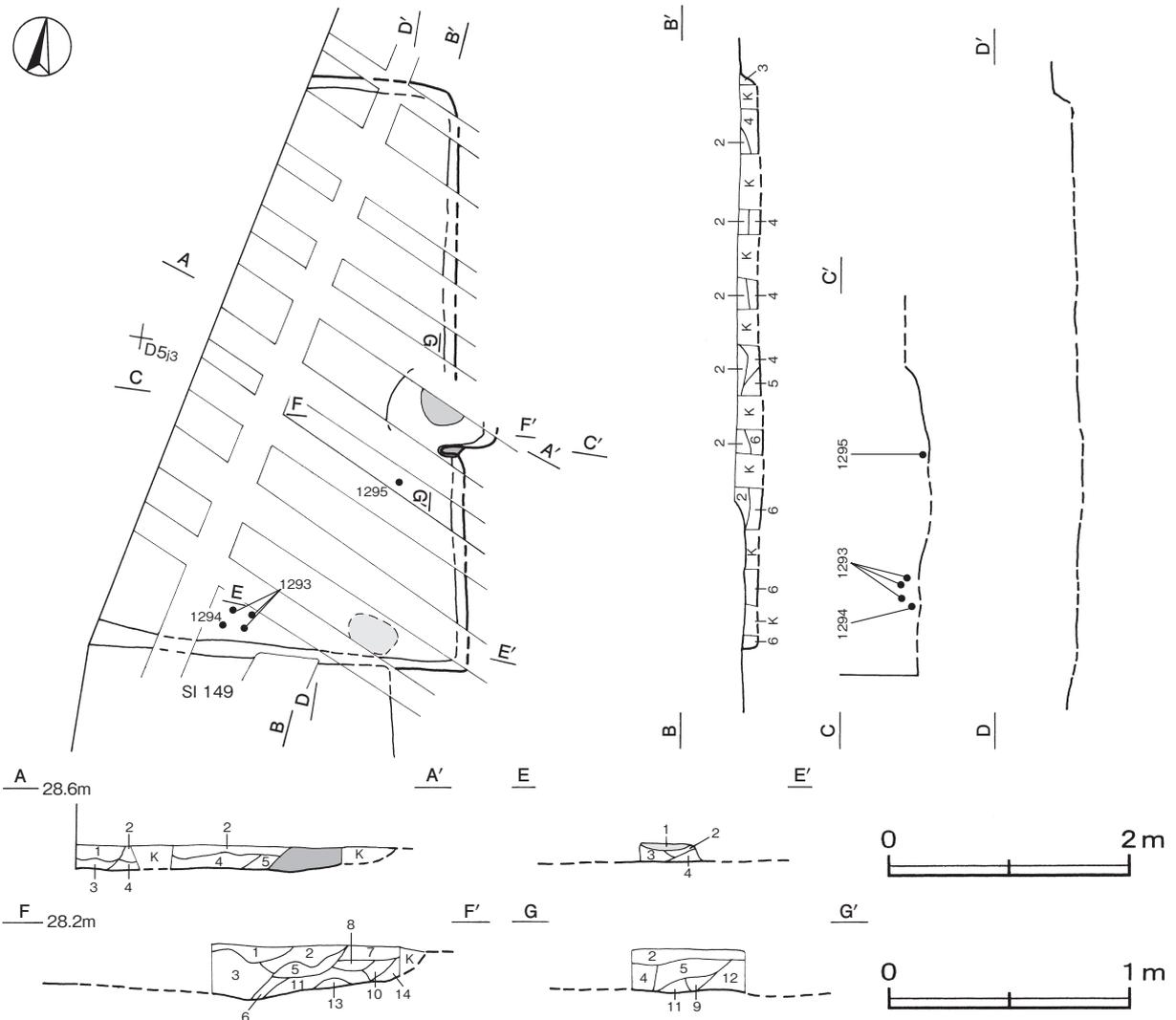
竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 8 明赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 3 褐灰色 | 粘土粒子・砂粒多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 9 灰黄褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 4 褐灰色 | ロームブロック少量 | 10 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 5 褐灰色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 11 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 12 にぶい黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| | | 13 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| | | 14 褐色 | ローム粒子中量 |

覆土 6層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

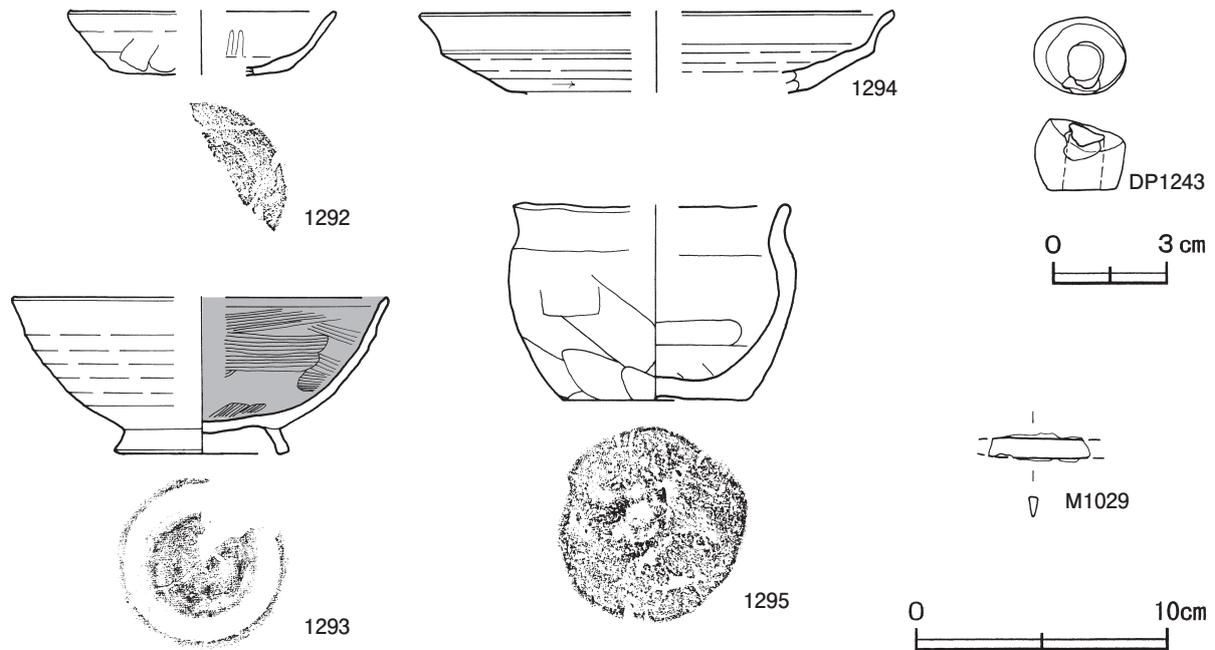
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |



第290図 第148号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片420点（坏63・高台付椀2・皿2・甕類353），須恵器片52点（坏26・盤1・蓋4・甕21），土製品8点（球状土錘1・管状土錘1・不明土製品6），金属製品2点（刀子，不明鉄製品）が出土している。遺物の大半は，竈周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。1293は南壁寄りの覆土上層，1294は南壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から9世紀後葉と考えられる。



第291図 第148号住居跡出土遺物実測図

第148号住居跡出土遺物観察表（第291図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1292	土師器	坏	[10.5]	2.5	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	覆土中	30%
1293	土師器	高台付椀	[14.8]	6.2	6.2	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	上層	30%
1294	須恵器	盤	[18.6]	(3.2)	-	長石・石英	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り	中層	10%
1295	土師器	小形甕	[10.5]	7.8	7.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	50%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1242	球状土錘	-	2.3	-	(4.6)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1243	管状土錘	2.4	1.9	1.0	(7.9)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 端部欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1029	刀子	(4.1)	0.8	0.4	(4.4)	鉄	刀身，先端部欠損	覆土中	PL120

第149号住居跡（第292図）

位置 調査Ⅱ区西部のD5j3区，標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第148号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 西部が調査区域外で，北部を中心にトレンチにより攪乱を受けている。壁が削平されており，床

の広がりから、規模は南北軸は5.55mで、東西軸は2.90mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され、主軸方向はN-80°-Eである。

床 平坦で、竈の前面が踏み固められている。

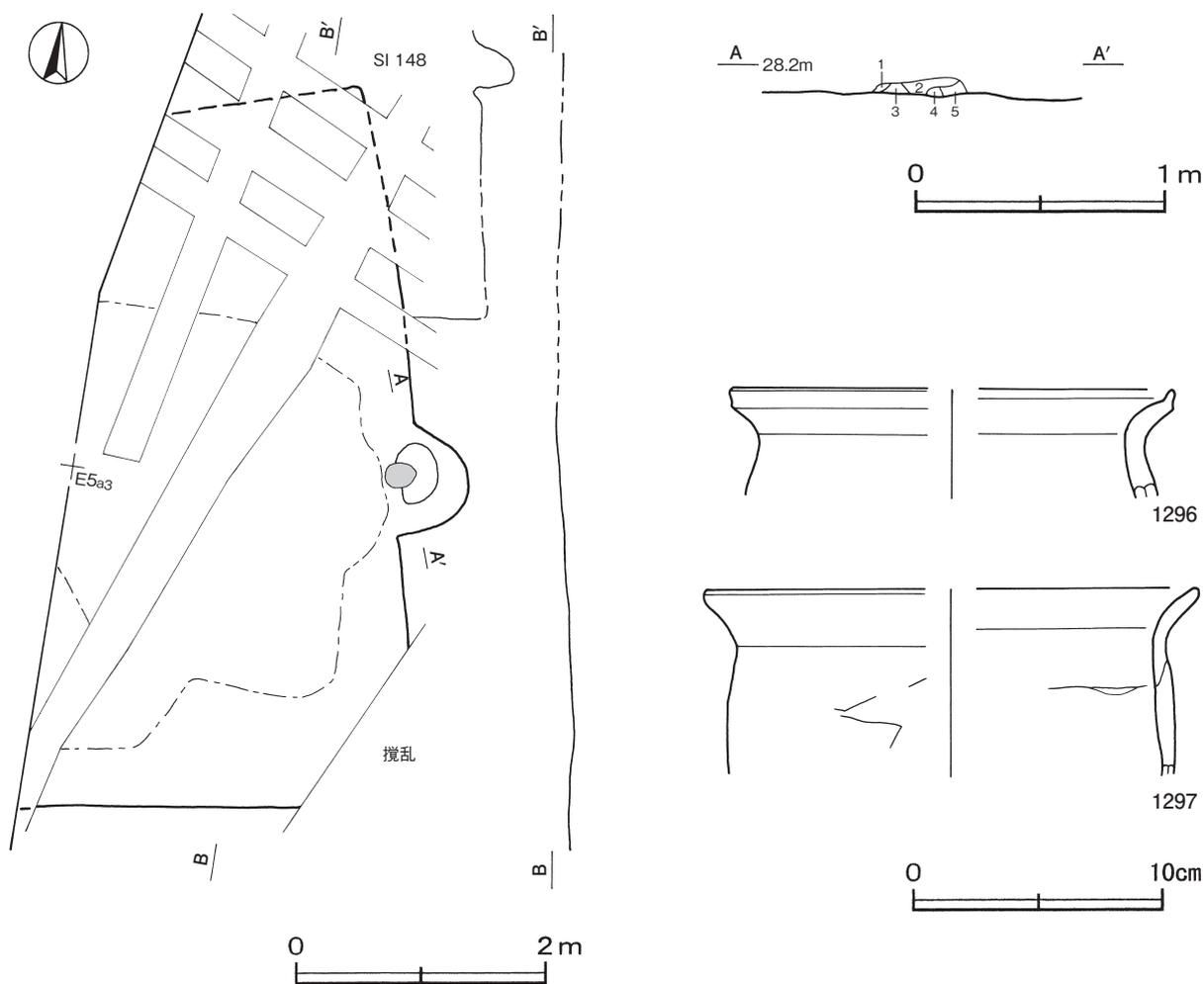
竈 東壁の中央部に付設されており、火床部と煙道部の一部しか遺存していない。確認できた規模は、焚口部から煙道部まで70cm、燃焼部幅48cmである。火床部は床面から1cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|---------------------------------|---|-----|-------------------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 3 | 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 | 赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量、砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 | 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| | | | 5 | 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片7点（甕）、須恵器片3点（坏2・甕1）が出土している。1296・1297は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀後葉と考えられる。



第292図 第149号住居跡・出土遺物実測図

第149号住居跡出土遺物観察表（第292図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1296	土師器	甕	[17.6]	(4.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ	覆土中	10%
1297	土師器	甕	[19.5]	(7.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 輪積痕	覆土中	10%

第152号住居跡（第293・294図）

位置 調査Ⅱ区西部のD5i8区，標高28.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 壁が削平されており，竈の位置と硬化面の広がりから，南北軸4.04m，東西軸2.24mしか確認できなかった。主軸方向がN-19°-Eの，長方形と推測される。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されており，左袖部・焚き口部・火床部しか遺存していない。確認できた規模は，焚き口部から火床部奥まで62cm，燃焼部幅42cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。北壁が削平されているため，壁外への掘り込みと立ち上がりは不明である。

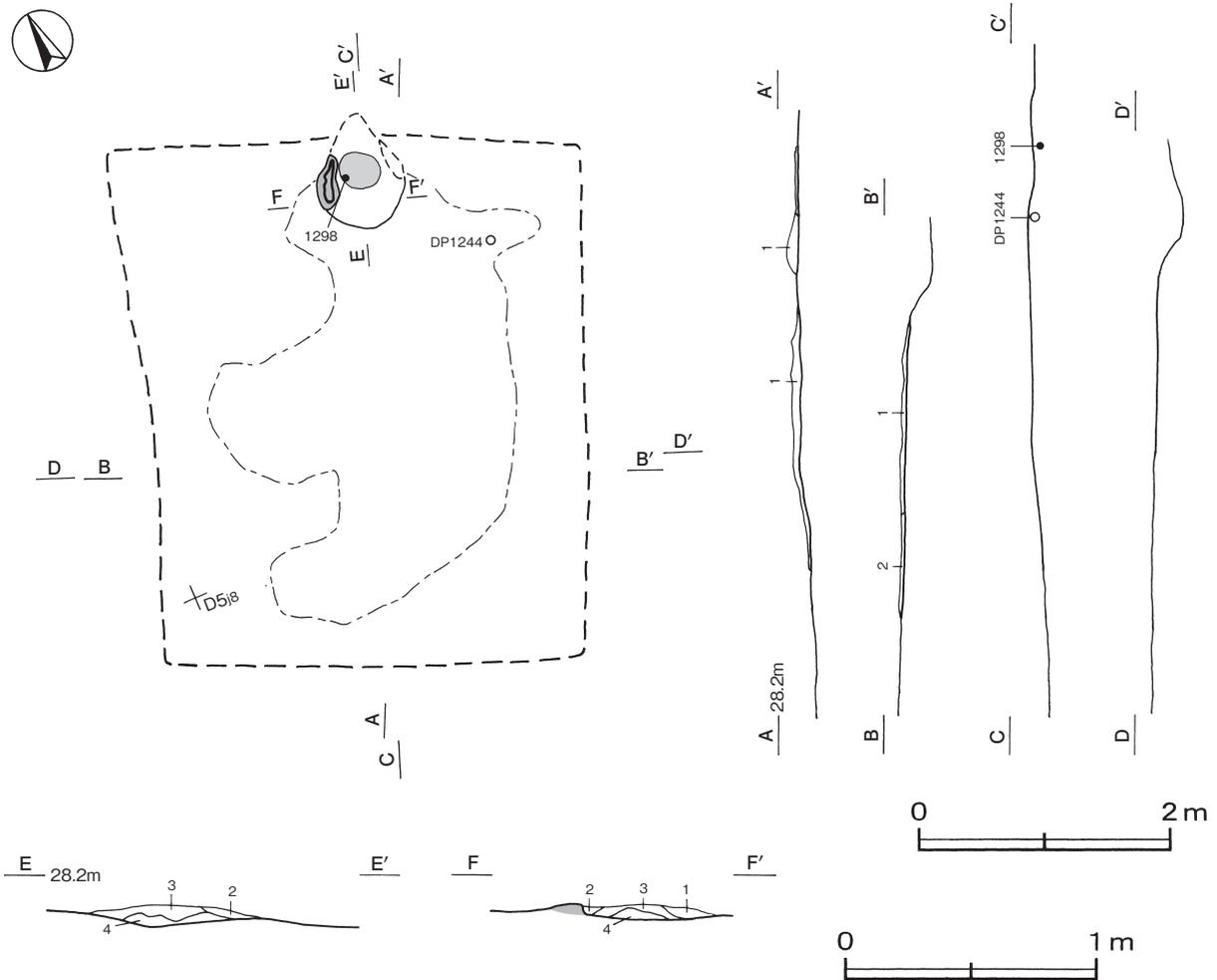
竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 褐色 | 粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量 |

覆土 2層に分けられる。層厚が薄く，堆積状況は不明である。

土層解説

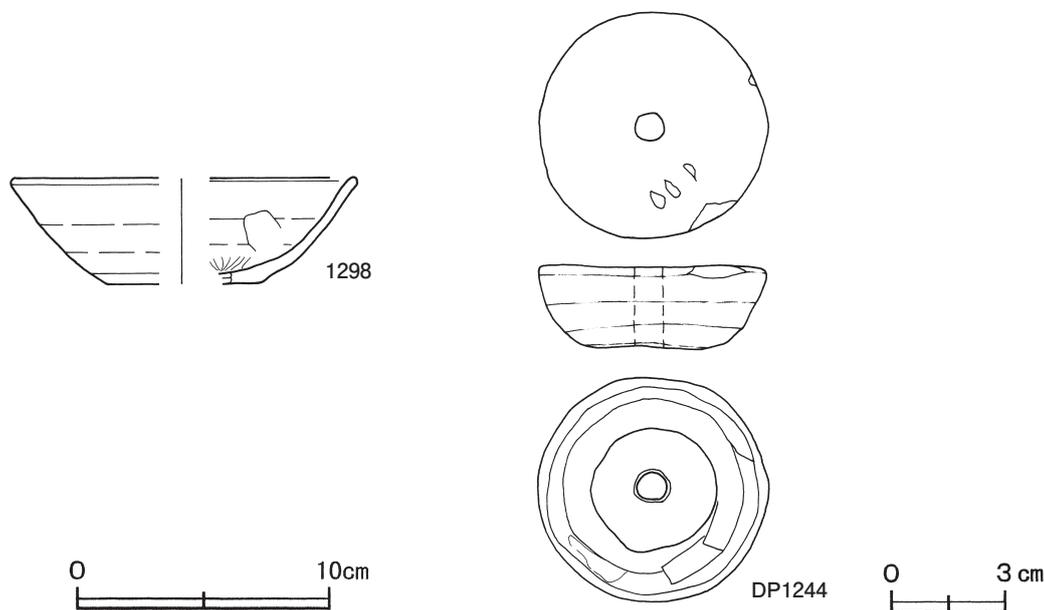
- | | | | |
|-------|----------------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 2 褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|----------------------|------|-----------|



第293図 第152号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片37点（坏11・椀1・甕類24・甑1），須恵器片3点（坏・蓋・甕），土製品1点（紡錘車）が出土している。1298は竈内，DP1244は北東コーナー部寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第294図 第152号住居跡出土遺物実測図

第152号住居跡出土遺物観察表（第294図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1298	土師器	坏	[13.5]	4.1	[6.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	竈内下層	20%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1244	紡錘車	6.1	2.3	0.7	92.3	粘土	全面ナデ 一方向からの穿孔	下層	

第155号住居跡（第295・296図）

位置 調査Ⅱ区西部のE 5 d6区，標高27.6mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第154号住居跡を掘り込み，第581・651・652・656～660・669～673号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外で，南東部の壁と床は削平されている。南北軸4.40m，東西軸4.70mで，方形と推測される。主軸方向はN-5°-Wである。壁高は40cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部から東壁にかけて踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。袖部は一部しか遺存していない。規模は，焚口部から煙道部まで70cm，燃焼部幅41cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。第2・5層は天井部の崩落土である。火床部は床面から3cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に6cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 褐灰色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| | | 5 灰褐色 | 粘土粒子多量，砂粒中量，焼土ブロック・ローム粒子微量 |

- | | | | |
|----------|---------------------------|-----------|--------------------------------|
| 6 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 13 灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック微量 |
| 8 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 14 にぶい褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 15 赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 16 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
| 11 暗赤灰色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 粘土粒子・砂粒微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ35～54cmで、支柱穴である。P5は深さ10cmで、性格不明である。

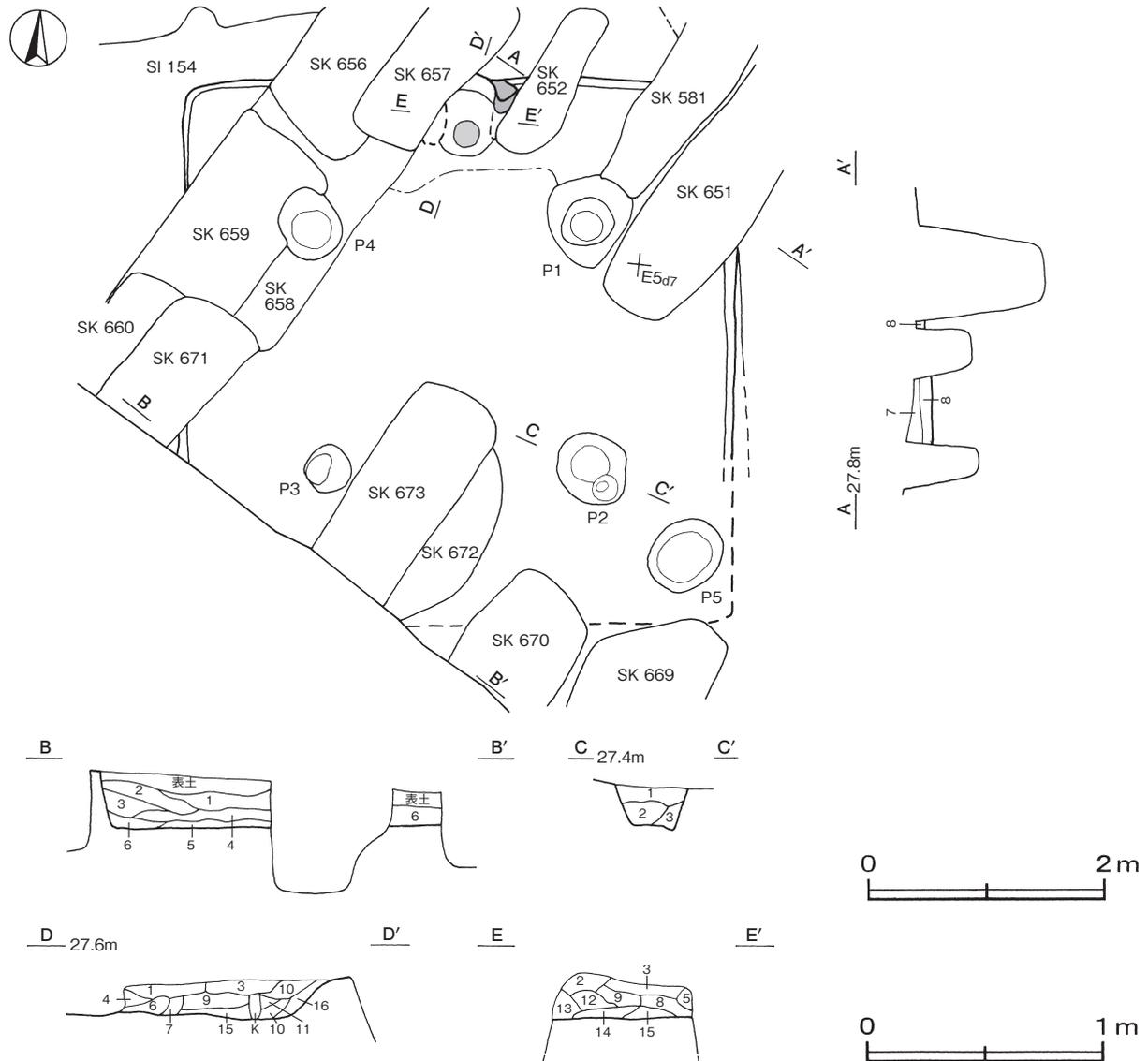
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

覆土 8層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

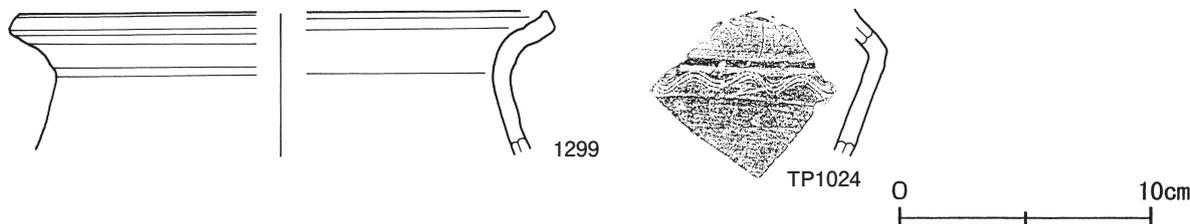
- | | | | |
|-------|------------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 灰褐色 | 砂粒少量, ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子・砂粒微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子微量 |



第295図 第155号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片93点（坏18・高台付椀1・高坏1・甕類73），須恵器片5点（坏1・長頸瓶1・甕3），金属製品1点（釘）が出土している。1299は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から8世紀代と考えられる。



第296図 第155号住居跡出土遺物実測図

第155号住居跡出土遺物観察表（第296図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1299	土師器	甕	[20.8]	(5.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ	覆土中	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1024	須恵器	長頸瓶	長石・雲母	黄灰	普通	2本単位の櫛描波状文	覆土中	

第158号住居跡（第297～299図）

位置 調査Ⅱ区西部のE6 d4区，標高26.5mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第650号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.58m，短軸3.08mの長方形で，主軸方向はN-88°-Eである。壁高は14～30cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈 東壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで84cm，燃焼部幅40cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量	9 灰褐色	焼土ブロック・炭化物微量
4 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	10 暗褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	11 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
6 暗褐色	粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		

覆土 10層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

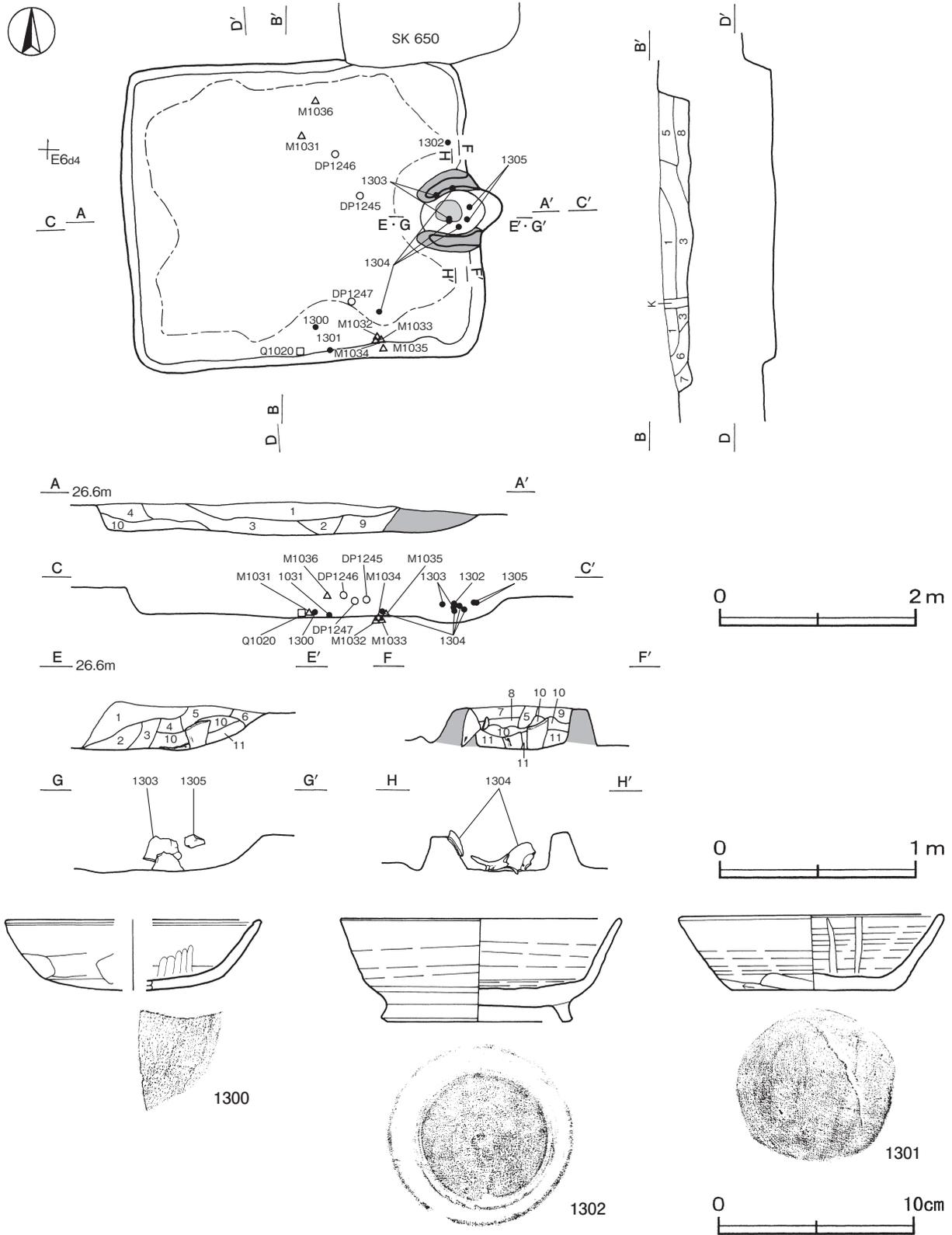
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2 灰褐色	粘土ブロック少量，ローム粒子微量	7 褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
4 黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 極暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	10 褐灰色	粘土ブロック中量，ロームブロック微量

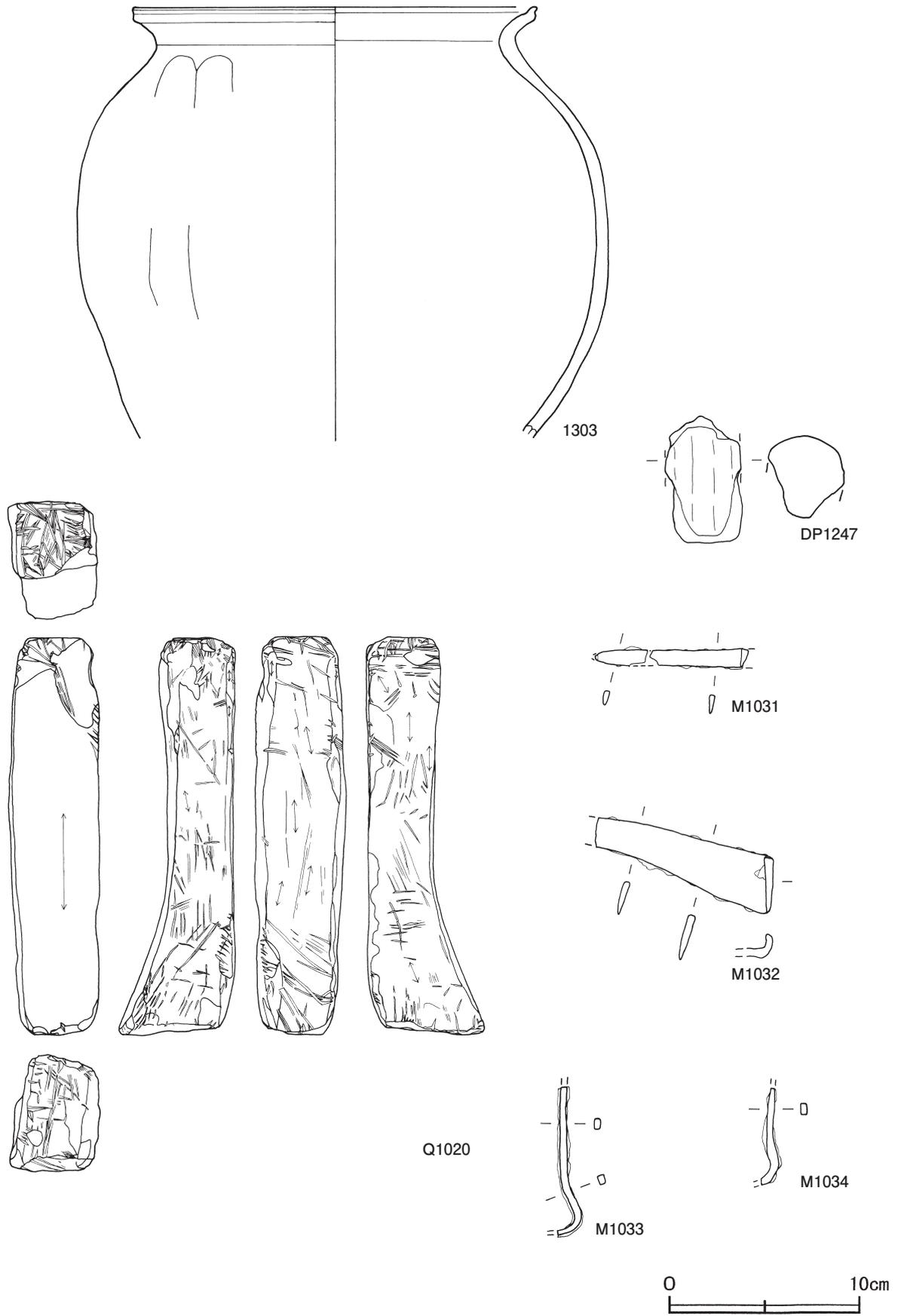
遺物出土状況 土師器片362点（坏26・高台付椀1・甕類332・甗2・手捏土器1），須恵器片38点（坏27・高台付坏1・瓶1・甕類9），土製品6点（球状土錘2，支脚片1・不明製品3），石器1点（砥石），金属製品

6点（鎌1・刀子1・釘4）が出土している。遺物の大半は、竈を中心に全域の覆土上層から下層にかけて出土している。1300・1301・Q1020・M1032～M1035は南壁寄りの覆土下層，1302は竈左袖部脇，DP1245・DP1246は中央部の覆土中層，1303・1305は竈の覆土内からそれぞれ出土している。

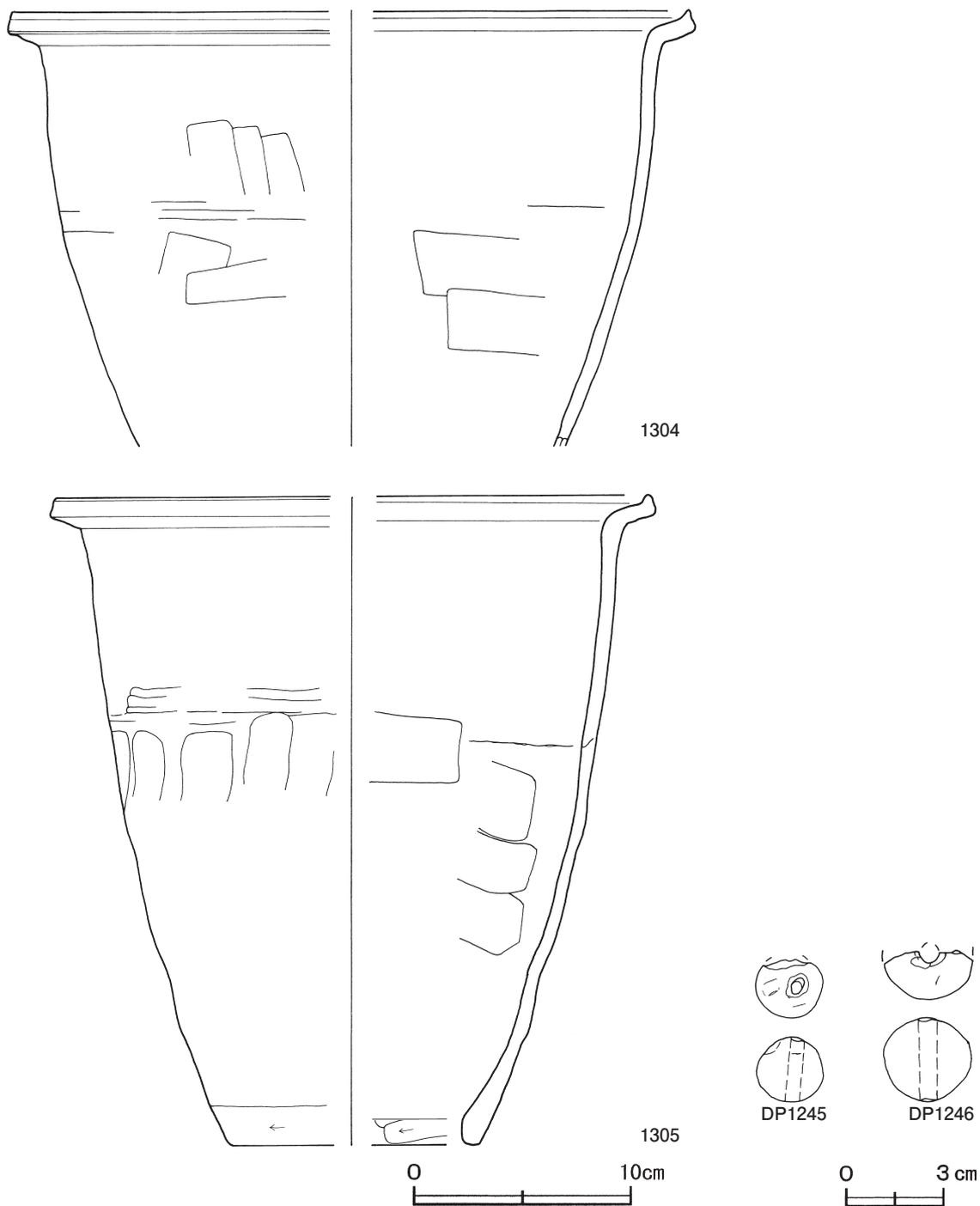
所見 時期は，出土土器や重複関係から8世紀中葉と考えられる。



第297図 第158号住居跡・出土遺物実測図



第298図 第158号住居跡出土遺物実測図(1)



第299図 第158号住居跡出土遺物実測図(2)

第158号住居跡出土遺物観察表 (第298・299図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1300	土師器	坏	[12.8]	3.6	[9.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	20%
1301	須恵器	坏	13.3	4.0	8.2	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り 内面火タスキ	下層	100% PL111
1302	須恵器	高台付坏	14.2	5.2	9.2	長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	上層	80% PL111
1303	土師器	甕	21.0	(22.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラナデ 内面ナデ	中層	30%
1304	土師器	鉢	[31.0]	(19.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	上層	20%
1305	土師器	甌	[27.0]	30.0	[11.8]	長石・石英・赤雲母・色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ 底端部内面ナデ削り	竈内上層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DPI245	土玉	2.0	2.0	0.4	(7.5)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	中層	
DPI246	球状土錘	[2.7]	2.5	0.6	(9.5)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	中層	

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DPI247	支脚	(6.7)	[4.3]	-	(89.7)	粘土	ナデ 一部欠損	中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q1020	砥石	20.9	4.7	6.2	(705.6)	凝灰岩	砥面4面	下層	PL120

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M1031	刀子	(8.1)	(1.1)	0.3	(5.3)	鉄	刀身部 先端部欠損	下層	PL120
M1035	刀子	(4.6)	0.5	0.4	(3.6)	鉄	茎部 断面四角形	下層	計測のみ
M1036	刀子	(3.9)	0.7	0.2	(1.7)	鉄	刀身部 先端部欠損	上層	計測のみ
M1032	鎌	(9.5)	3.1	0.3~ 0.35	(45.1)	鉄	刀身部 先端欠損	下層	PL121
M1033	不明鉄製品	(7.7)	0.4	0.6	(9.6)	鉄	断面四角形 先端部欠損	下層	PL120
M1034	不明鉄製品	(5.1)	0.6	0.4	(5.5)	鉄	断面四角形 先端部欠損	上層	PL120

第160号住居跡（第300・301図）

位置 調査Ⅱ区中央部のE 6 d7区，標高26.5mの台地斜面部に位置している。

規模と形状 斜面部のため，南部の壁と床が削平されている。東西軸が4.44mで，南北軸は3.50mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され，主軸方向はN-1°-Wである。壁高は6～34cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで94cm，燃焼部幅50cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に7cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量	12	極暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2	褐色	粘土粒子少量，ロームブロック・砂粒微量	13	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	14	灰褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量
4	褐灰色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	15	極暗赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
5	褐灰色	粘土粒子少量，ローム粒子微量	16	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子微量
6	灰褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量	17	極暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量
7	灰褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・砂粒微量	18	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
8	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	19	極暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子微量
9	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	20	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
10	にぶい褐色	ロームブロック微量	21	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
11	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量			

ピット 2か所。P 1・P 2は深さ30・12cmで，主柱穴である。

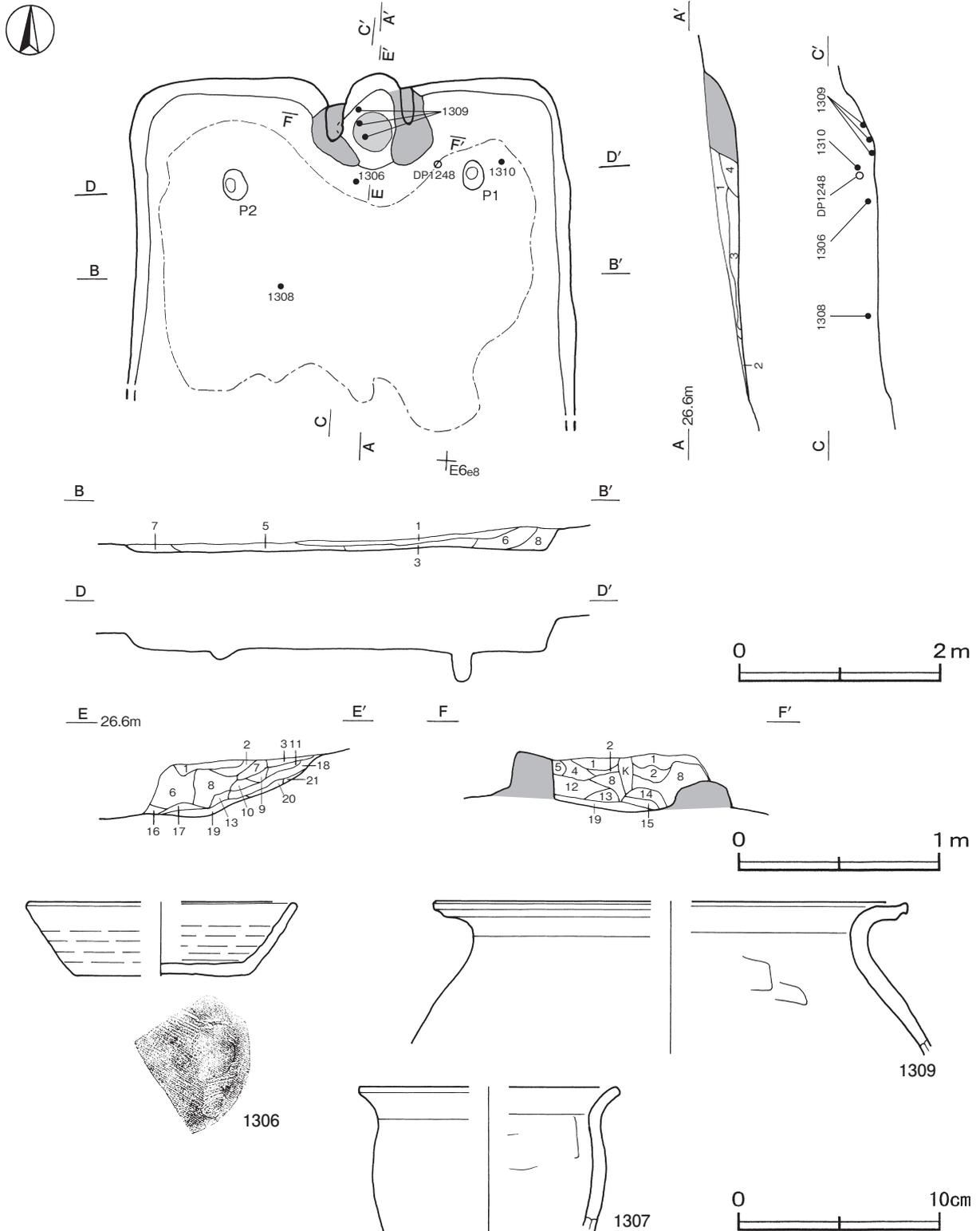
覆土 8層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

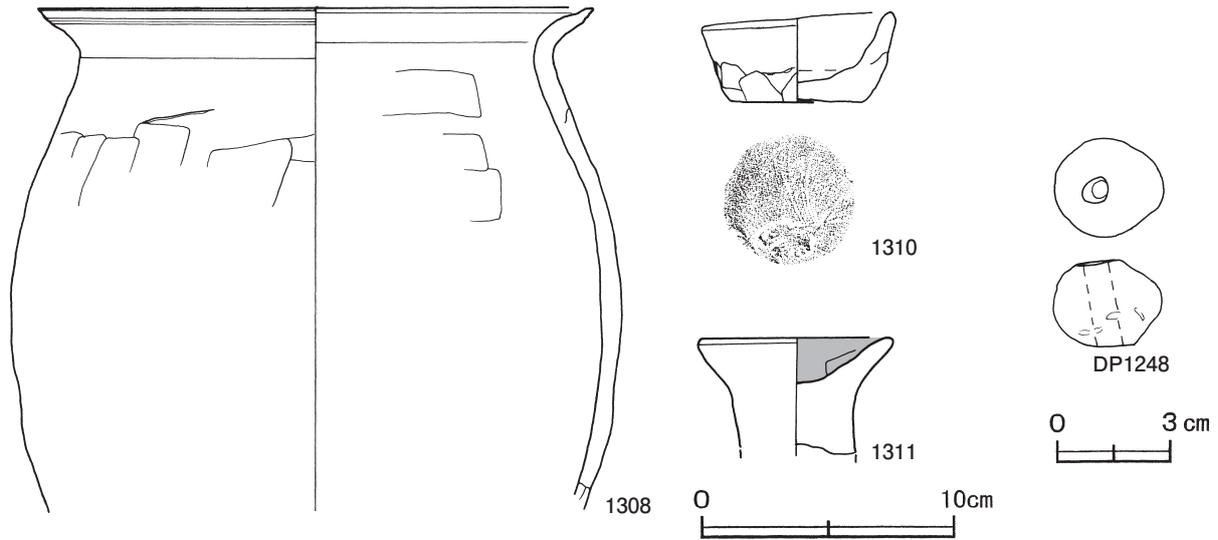
1	にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	5	灰褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
2	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量	6	褐灰色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
3	黒褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	極黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片240点（坏12・甕類226・ミニチュア土器1・手捏土器1），須恵器片26点（坏20・高台付坏1・甕5），土製品15点（球状土錘1・不明製品14）が出土している。遺物の大半は竈周辺の覆土中層から下層にかけて出土している。1306は竈の手前の覆土下層，1310は北東コーナー部，DP1248は竈の手前の覆土上層，1309は竈の覆土内からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第300図 第160号住居跡・出土遺物実測図



第301図 第160号住居跡出土遺物実測図

第160号住居跡出土遺物観察表（第300・301図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1306	須恵器	坏	[13.0]	3.7	[8.6]	長石	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	下層	20%
1307	土師器	小形甕	[12.8]	(7.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ナデ 内面ヘラナデ	竈内	10%
1308	土師器	甕	21.8	(20.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	下層	30%
1309	土師器	甕	[23.3]	(7.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 内面ヘラナデ	竈内	10%
1310	土師器	手捏土器	7.4	3.1	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラナデ	中層	90% PL116
1311	土師器	ミニチュア土器	7.6	(4.6)	-	長石・黒雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土中	90% PL116

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1248	球状土錘	2.8	2.3	0.7	16.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	

第161号住居跡（第302～304図）

位置 調査Ⅱ区中央部のE 6 f7区、標高25.5mの台地斜面部に位置している。

規模と形状 斜面部のために、南部の壁と床が削平されている。東西軸が5.08mで、南北軸は3.84mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は2～13cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北西コーナー部と北東コーナー部から粘土塊が確認されている。これらは、住居廃絶後に投棄されたものである。

粘土塊A土層解説

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量 | 4 極暗褐色 粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 |

粘土塊B土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子微量 | 4 灰赤褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 灰褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 | 5 黒褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 3 灰褐色 粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | |

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで100cm、燃烧部幅58cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から1cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に14cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

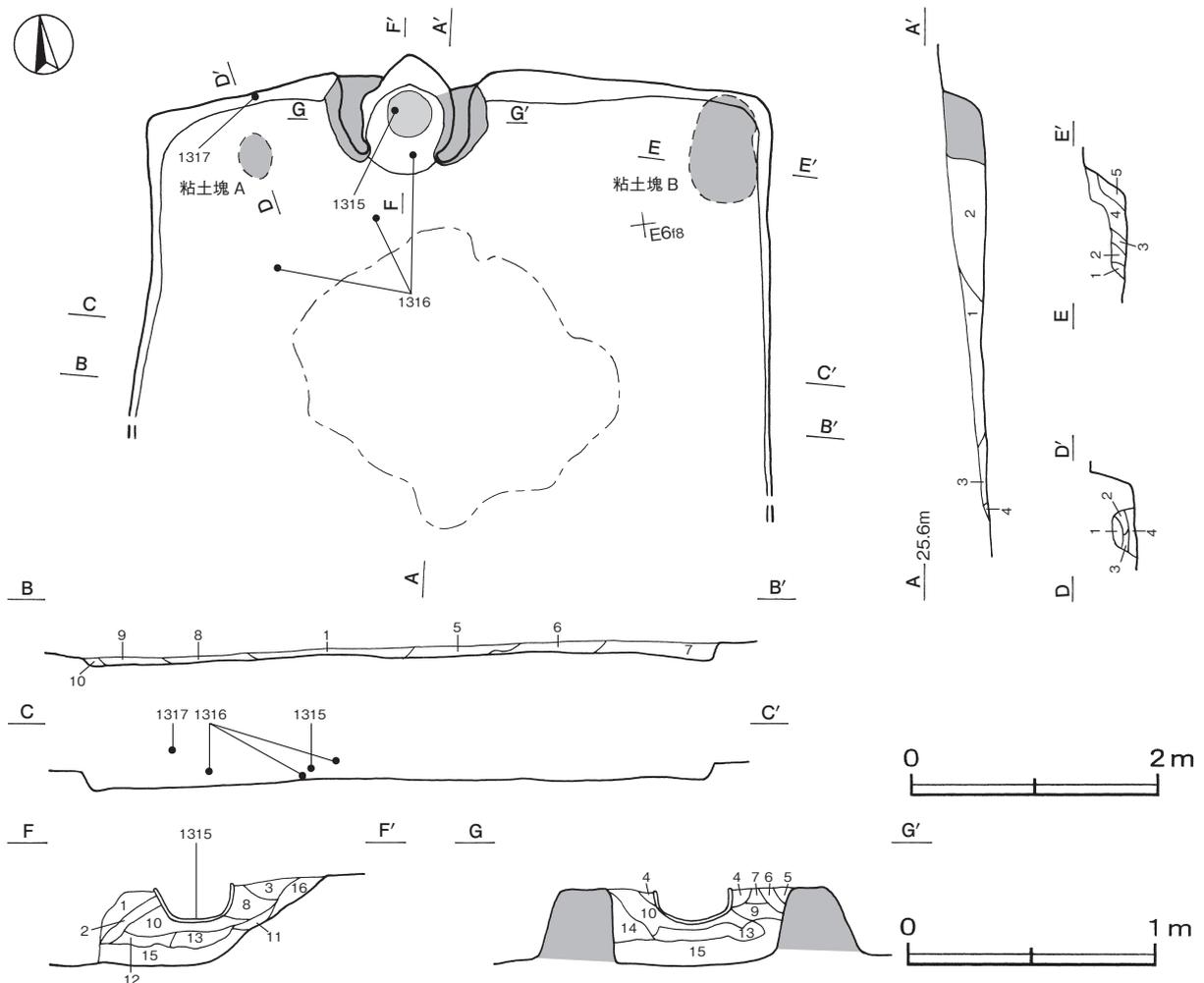
竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 11 にぶい褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 12 褐灰色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 | 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 16 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | | |
| 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子微量 | | |

覆土 10層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

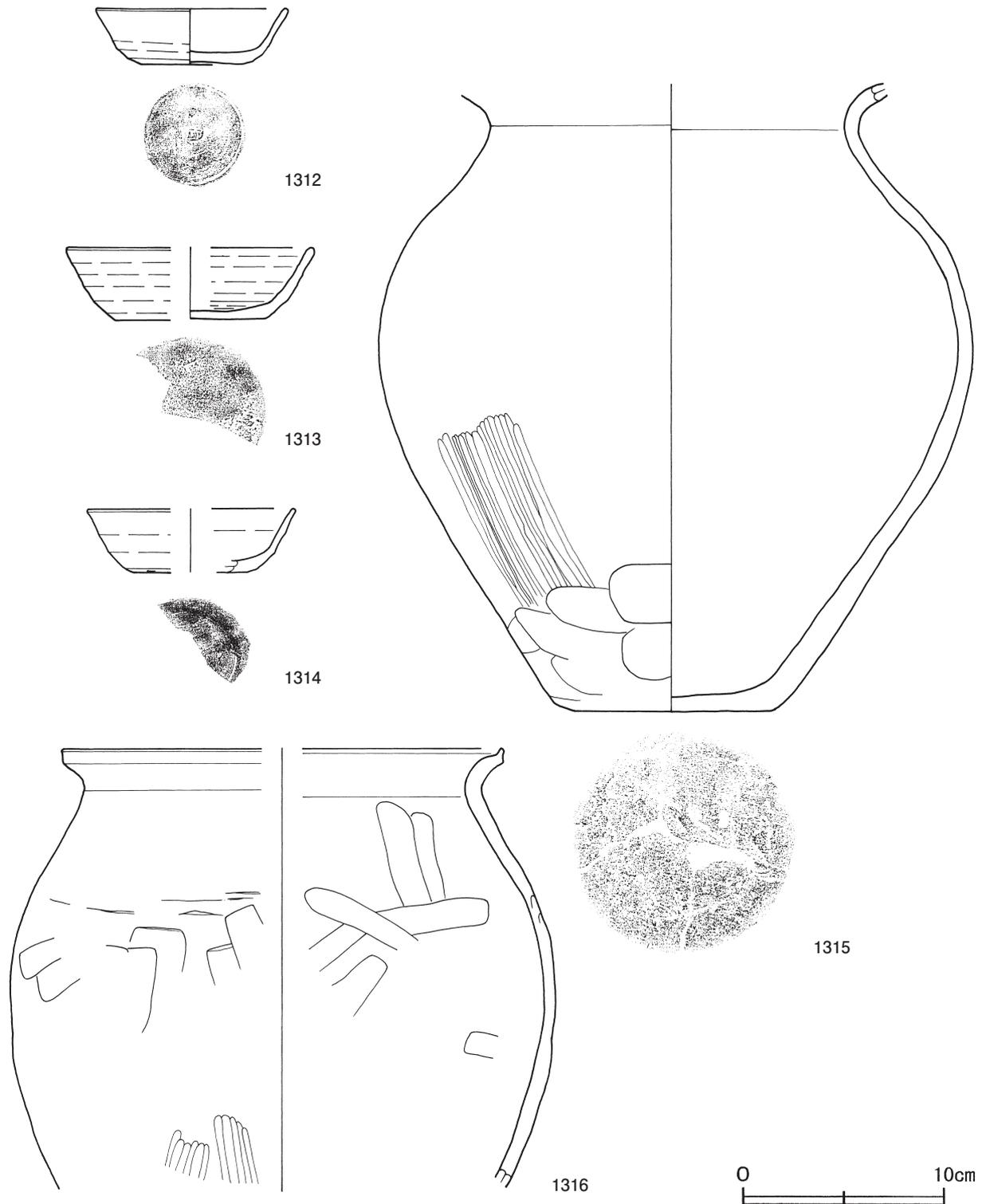
- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, ロームブロック微量 | 5 極暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック・砂粒少量, ローム粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒微量 | 7 黒褐色 | 砂粒少量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 | 粘土ブロック・砂粒少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 9 褐灰色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| | | 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |



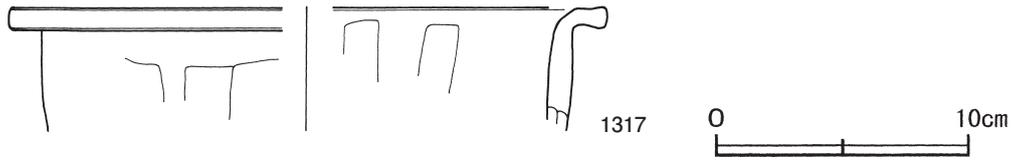
第302図 第161号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片692点（坏100・甕類589・甌2・手捏土器1），須恵器片51点（坏37・高台付坏3・蓋9・甕2），土製品29点（不明製品）が出土している。遺物の大半は竈内と北部の覆土下層から出土している。1315は竈の覆土中層から正位の状態で出土している。1316は竈の覆土内，中央部と西壁寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第303図 第161号住居跡出土遺物実測図(1)



第304図 第161号住居跡出土遺物実測図(2)

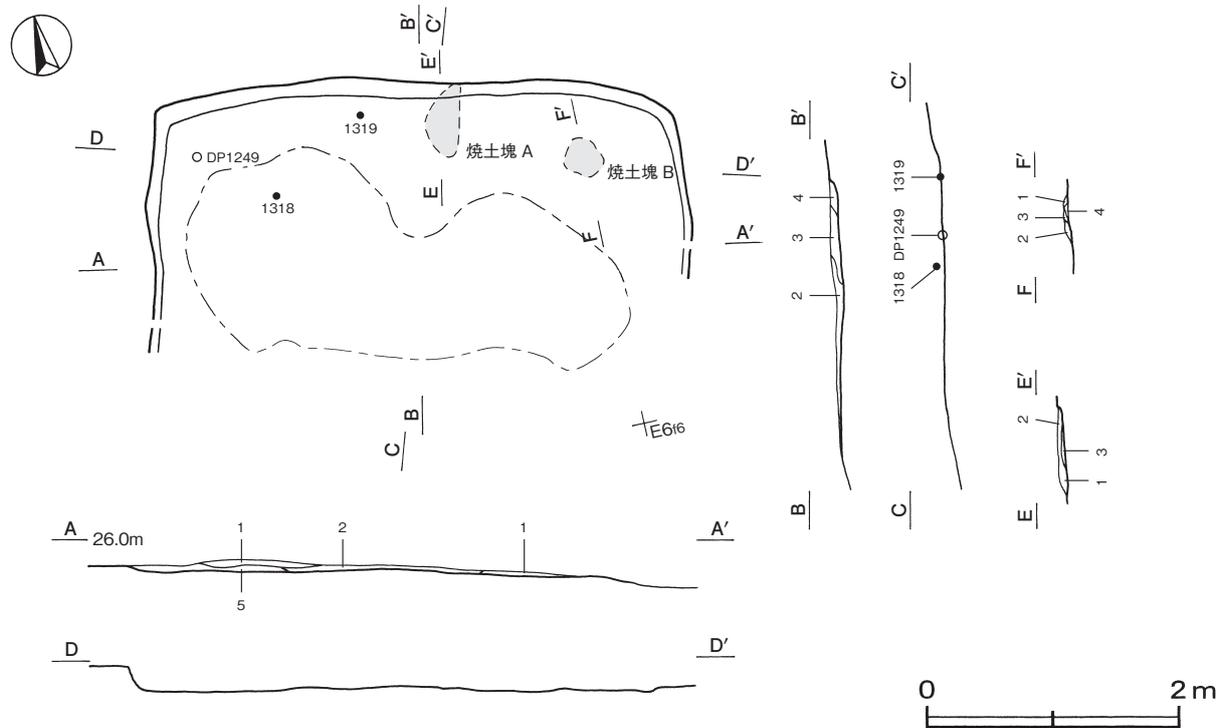
第161号住居跡出土遺物観察表 (第303・304図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1312	須恵器	坏	9.5	2.8	5.1	長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土中	70% PL111
1313	須恵器	坏	[12.2]	3.6	[7.4]	長石	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土中	30% 外面自然釉
1314	須恵器	坏	[10.2]	3.2	[5.6]	長石	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	30%
1315	土師器	甕	-	(31.2)	9.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面中位ヘラ磨き, 下位ヘラ削り	竈内中層	60% PL111
1316	土師器	甕	[21.6]	(22.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面中位ヘラナデ, 下位ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕	竈内中層・中層	10%
1317	土師器	甕	[23.4]	(4.8)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	上層	10%

第162号住居跡 (第305・306図)

位置 調査Ⅱ区中央部のE 6 e5区, 標高25.9mの台地斜面部に位置している。

規模と形状 斜面部のために, 中央部から南部の壁と床が削平されている。東西軸が4.32mで, 南北軸は2.20mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され, 主軸方向は不明である。壁高は4~19cmで, ほぼ直立している。



第305図 第162号住居跡実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北壁の中央部と北東コーナー部寄りに焼土塊が確認されている。これらは、住居廃絶後に投棄されたものである。

焼土塊A土層解説

- 1 灰 褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, 砂粒微量
- 2 灰 褐色 粘土粒子・砂粒少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量, 粘土粒子微量

焼土塊B土層解説

- 1 灰 褐色 粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 粘土粒子中量, 砂粒少量, 焼土ブロック微量
- 3 灰 褐色 砂粒中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, 粘土粒子・砂粒微量

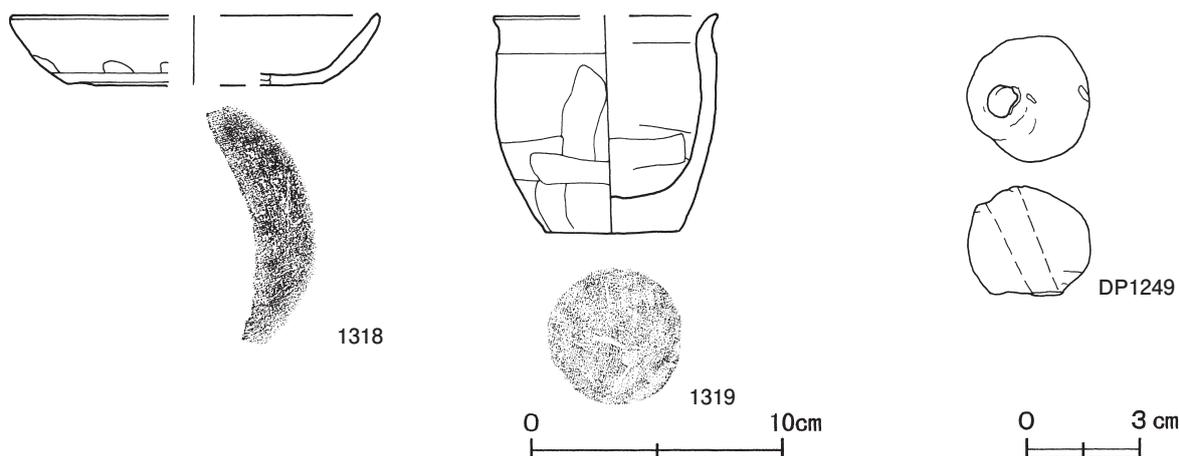
覆土 5層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量
- 3 極 暗 褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 灰 褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片62点（坏1・甕類61）、須恵器片12点（坏7・甕5）、土製品1点（球状土錘）が出土している。1318は北西コーナー部の覆土中層、1319は北壁寄りの覆土下層、DP1249は北西コーナー部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第306図 第162号住居跡出土遺物実測図

第162号住居跡出土遺物観察表（第306図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1318	土師器	坏	[14.4]	2.8	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	中層	20%
1319	土師器	小形甕	[8.7]	8.6	5.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	下層	80% PL112

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1249	球状土錘	3.4	2.9	0.8	25.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	床面直上	

第165号住居跡（第307・308図）

位置 調査Ⅱ区東部のD7h4区、標高28.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第28号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北壁から東壁にかけて調査区域外である。東西軸2.92m，南北軸2.62mの長方形である。主軸方向はN-95°-Eである。壁高は18～27cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，北壁から中央部が踏み固められている。南西コーナー部を除く壁下には，幅11～28cm，深さ3～4cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

竈 東壁の南東コーナー部寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで94cm，燃烧部幅44cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。右袖部の南側の壁面で確認された砂質粘土は壊れた袖部の一部と考えられる。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|----------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 |
| 2 赤褐色 | 焼土ブロック中量，炭化物少量，ローム粒子微量 | 6 黒色 | 炭化物中量，粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量 | 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子微量 |
| 4 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量 | 8 にぶい橙色 | ローム粒子中量，焼土ブロック少量 |

ピット 深さ24cmで，主柱穴である。

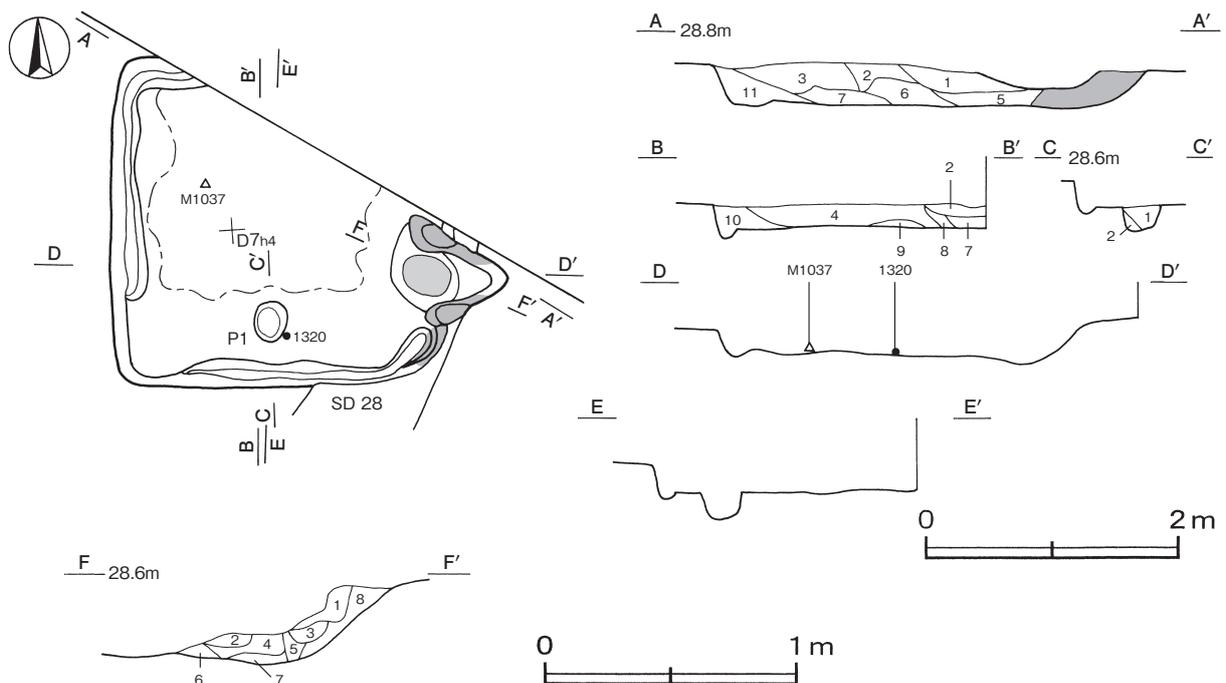
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 2 褐色 | ロームブロック微量 |
|-------|-----------|------|-----------|

覆土 11層に分けられる。ロームブロック・粘土ブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

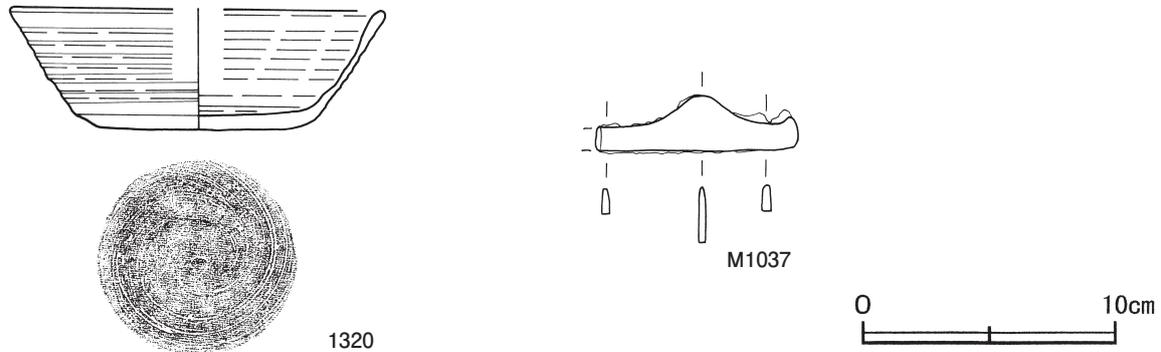
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|--------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック少量 | 10 灰褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック・砂粒少量 | 11 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |



第307図 第165号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片86点（坏2・甕類84），須恵器片11点（坏10・甕1），金属製品1点（刀子）が出土している。1320は南壁寄りの覆土下層と覆土中から出土した破片が接合したものである。M1037は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から8世紀後葉と考えられる。



第308図 第165号住居跡出土遺物実測図

第165号住居跡出土遺物観察表（第308図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1320	須恵器	坏	[14.6]	4.8	8.0	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層・覆土中	50%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
M1037	火打金	8.1	2.1	0.3~0.4	19.6	鉄	断面三角形 先端部欠損			下層	PL121

表14 竪穴住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)		壁溝	主柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	炉・竈				
116	D 6 g4	N-4°-W	方形 張出部持	7.00×6.80	28~55	平坦	ほぼ全周	4	2	11	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 灰軸陶器, 土玉, 球状土錘, 支脚, 班土, 刀子, 鉄鏝, 鏝	8世紀中葉	SI133 → 本跡 → SK478・479・567
117	D 6 b1	N-2°-W	方形	6.68×6.57	16~37	平坦	ほぼ全周	4	2	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 灰軸陶器, 球状土錘, 支脚, 刀子, 鉄鏝	8世紀前葉	SI114・128 → 本跡 → SD50
119	C 5 j7	N-3°-E	方形	3.50×3.20	21~25	平坦	一部	2	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 鉄鏝	9世紀前葉	SI118 → 本跡
120	D 6 f1	N-2°-E	方形	7.34×7.14	22~40	平坦	-	4	1	12	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 小玉, 土玉, 球状土錘, 支脚, 鏝, 鉄鏝	8世紀前葉	本跡 → SD37・50
121	D 6 h2	N-4°-E	方形	4.75×4.48	4~26	平坦	ほぼ全周	4	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 支脚	8世紀中葉	本跡 → SF1, SD27・50
122	D 6 h4	N-92°-E	方形	3.36×3.26	2~26	平坦	一部	-	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 釘	8世紀代	本跡 → SF1, SD27
123	D 6 h7	N-3°-W	方形	3.16×3.00	34~39	平坦	-	-	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 土玉	8世紀中葉	本跡 → SK471・473・474
124	D 6 j9	N-71°-W	方形	3.68×3.40	5~15	平坦	ほぼ全周	-	-	3	-	-	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 鉄鏝	10世紀前葉	本跡 → SK475・476
125	D 6 i0	N-108°-E	方形	2.96×2.95	14~22	平坦	一部	-	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 土玉, 球状土錘, 腕状土錘, 鏝	10世紀前葉	本跡 → SK481・483
126	D 6 g0	N-2°-E	長方形	5.08×4.31	19~30	平坦	-	4	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 管状土錘	8世紀後葉	
130	D 6 c4	N-5°-E	方形 張出部持	8.40×7.86	12~46	平坦	ほぼ全周	4	5	19	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 小玉, 土玉, 球状土錘, 支脚, 刀子, 鉄鏝	8世紀前葉	SI114・115・128・131 → 本跡 → SK537
138	E 7 a2	N-100°-E	方形	3.71×3.64	34~58	平坦	-	-	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 低石, 球状土錘	8世紀中葉	第2号竪穴状遺構 → 本跡 → SK561・562, SM6
141	D 7 i4	N-5°-E	方形	4.48×4.43	24~32	平坦	一部	-	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 支脚, 刀子, 鉄鏝	8世紀中葉	SI140 → 本跡 → SD28, PG2
142	D 7 i5	N-103°-E	方形	4.42×4.02	6~24	平坦	ほぼ全周	4	-	2	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 支脚, 鉄鏝	8世紀代	
145	D 5 g6	-	方形	4.52×4.28	3~14	平坦	ほぼ全周	4	-	1	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 管状土錘, 支脚	8世紀中葉	
146	D 5 h4	N-4°-E	方形	3.20×2.96	19~27	平坦	-	-	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 刀子, 門	9世紀中葉	SI147 → 本跡
147	D 5 h5	N-5°-E	方形	4.12×3.66	17~23	平坦	一部	4	1	1	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 管状土錘, 低石	9世紀前葉	本跡 → SI146
148	D 5 j3	N-95°-E	[長方形・方形]	4.90×(2.95)	12	平坦	-	-	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 管状土錘, 刀子	9世紀後葉	本跡 → SI149
149	D 5 j3	N-80°-E	[長方形・方形]	5.50×(2.90)	-	-	-	-	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器	9世紀後葉	SI148 → 本跡

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)		壁溝	主柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	炉・竈				
152	D 5 i 8	N-19°-E	[長方形・方形]	(4.04)×(2.24)	-	平坦	-	-	-	-	-	竈1	不明	土師器, 須恵器, 紡錘車	9世紀中葉	
155	E 5 d 6	N-5°-W	[方形]	(4.70)×(4.40)	40	平坦	-	4	-	1	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 釘	8世紀代	SI154→本跡→SK581・651・652・656～660・669～673
158	E 6 d 4	N-88°-E	長方形	3.58×3.08	14～30	平坦	-	-	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 支脚, 砥石, 箕, 刀子, 釘	8世紀中葉	本跡→SK650
160	E 6 d 7	N-1°-W	[長方形・方形]	4.44×(3.50)	6～34	平坦	-	2	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘	8世紀中葉	
161	E 6 f 7	N-7°-E	[長方形・方形]	5.08×(3.84)	2～13	平坦	-	-	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器	8世紀後葉	
162	E 6 e 5	-	[長方形・方形]	4.32×(2.20)	4～19	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘	8世紀前葉	
165	D 7 h 4	N-95°-E	長方形	2.92×2.62	18～27	平坦	ほぼ全周	1	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 刀子	8世紀後葉	本跡→SD28

(2) 竪穴状遺構

第1号竪穴状遺構 (第309・310図)

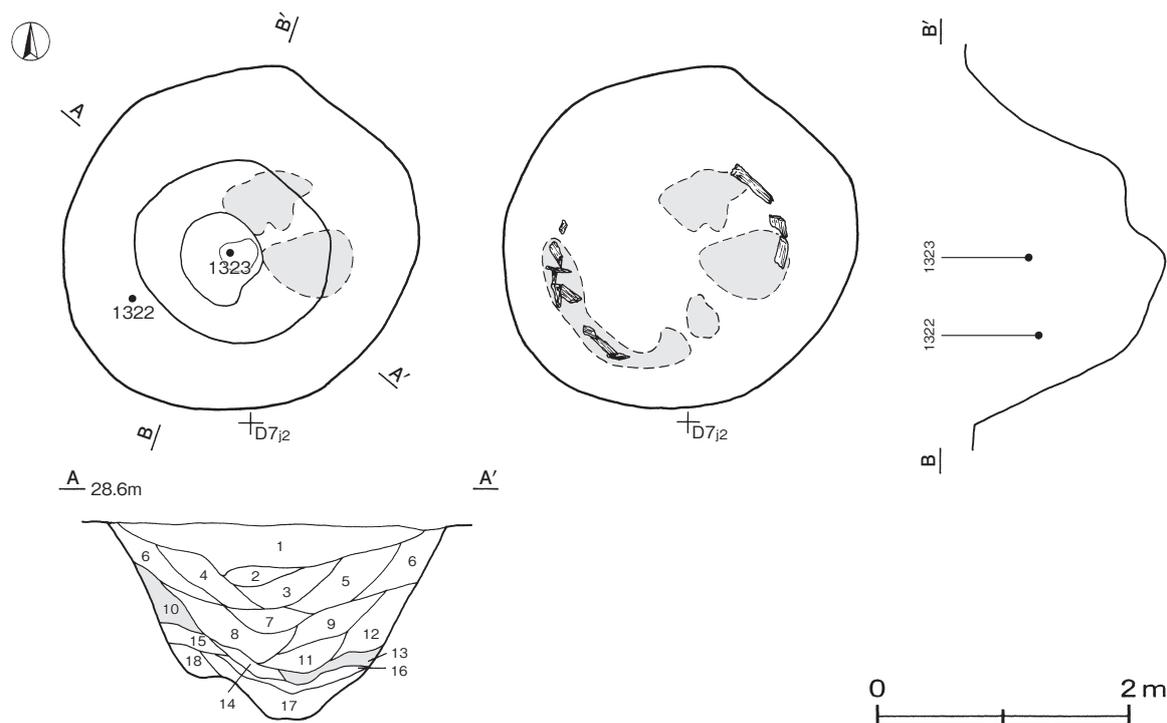
位置 調査Ⅱ区東部のD 7 i l区で、標高28.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.87m、短径2.68mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から1.24mの深さの所に段をもっている。深さは1.58mで、底面は皿状を呈し、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 18層に分けられる。大半の層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。また、覆土中層に焼土と炭化物が投棄されている。(10・13層)北東部の底面では、焼土塊が確認されている。

土層解説

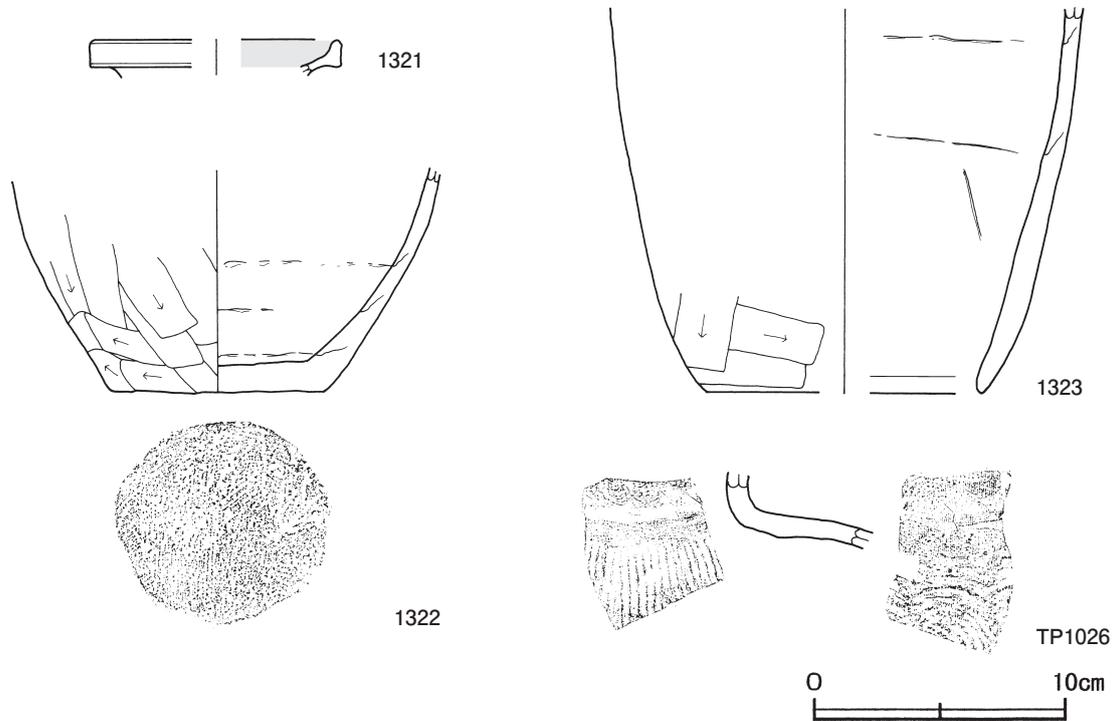
- | | | | |
|-------|-------------------|----------|--------------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 11 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 13 暗褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物中量, ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | 15 褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック多量 | 17 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 18 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |



第309図 第1号竪穴状遺構実測図

遺物出土状況 土師器片133点（坏12・高坏2・甕類118・甑1），須恵器片2点（甕類），灰釉陶器片1点（長頸瓶）が出土している。1322・1323は覆土中層，1321・TP1026は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀代と考えられる。遺構の形状や覆土の珪藻分析の結果から，氷室の可能性が高い。



第310図 第1号竪穴状遺構出土遺物実測図

第1号竪穴状遺構出土遺物観察表（第310図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1321	灰釉陶器	長頸瓶	[9.5]	(1.4)	-	長石	オリブ灰	緻密	内面施釉	覆土中	5%
1322	土師器	甕		(8.8)	8.4	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	中層	15%
1323	土師器	甑	-	(15.2)	[10.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端ヘラ削り 輪積痕	中層	10% 煤付着

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1026	須恵器	甕	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	縦位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中	

第2号竪穴状遺構（第311図）

位置 調査Ⅱ区東部のD7j2区，標高28.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第138号住居に掘り込まれている。

規模と形状 第138号住居に南部が掘り込まれており，長軸2.76m，短軸2.75mで，方形と推定される。主軸方向はN-2°-Eである。壁高は19～22cmで，ほぼ直立している。底面は凹凸で，踏み固められていない。

ピット 深さ20cmで，性格は不明である。

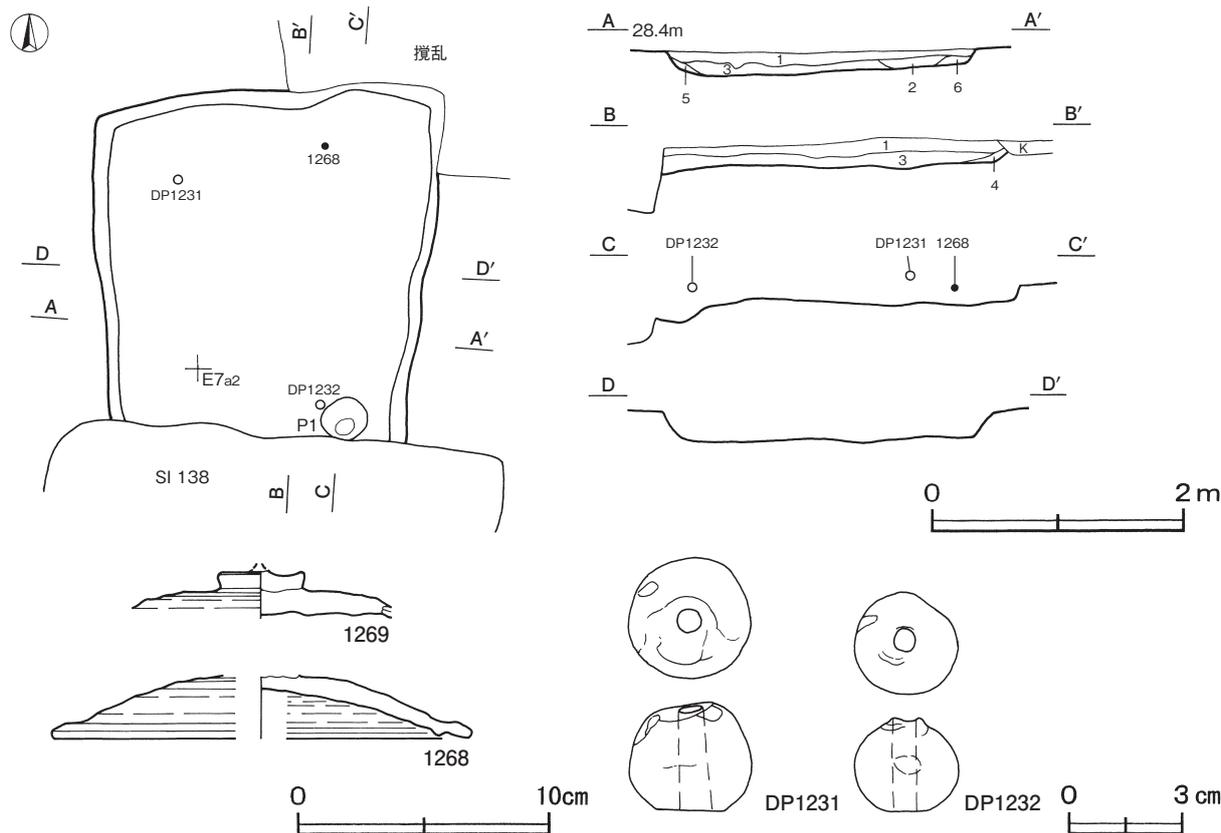
覆土 6層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量 | 6 褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片195点（坏18・甕177），須恵器片15点（坏3・蓋5・甕7），土製品2点（球状土錘）が出土している。遺物は、1268は北壁寄りの覆土中層，DP1232は南壁寄りの覆土下層，DP1231は北西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第311図 第2号竪穴状遺構・出土遺物実測図

第2号竪穴状遺構出土遺物観察表（第311図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1268	須恵器	蓋	[16.4]	(2.5)	-	長石・石英	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	中層	20%
1269	須恵器	蓋	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土中	20%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1231	球状土錘	3.2	2.9	0.8	30.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1232	球状土錘	2.7	2.5	0.6	16.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	

表15 竪穴状遺構一覧表

遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)	
				長径・軸×短径・軸 (m)	深さ (cm)							
1	D 7 i1	N - 28° - E	円形	2.87×2.68		158	皿状	外傾	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器	9世紀代	
2	D 7 j2	N - 2° - E	[方形]	(2.76)×2.75		19~22	凹凸	直立	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉	本跡→SI138

(3) 土坑

第444号土坑 (第312図)

位置 調査Ⅱ区北西部のD 6 a1区で、標高28.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第460号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は1.65mで、東西軸は1.30mだけ確認できた。南北径方向はN - 9° - Eで、隅丸長方形と推測できる。深さは60cm、底面は凹凸で、壁は外傾して立ち上がっている。

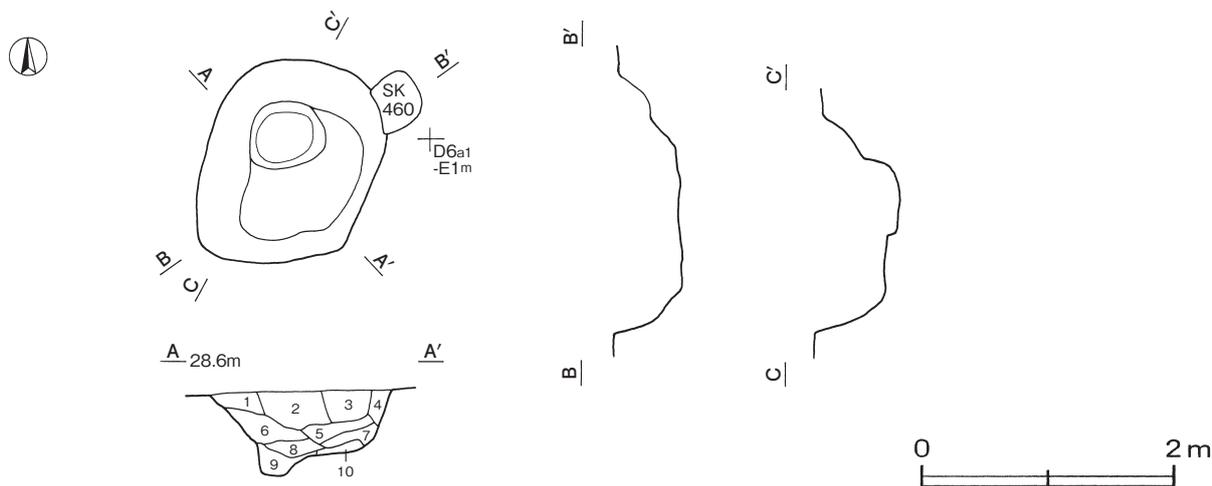
覆土 10層に分けられる。ロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------|---------|-------------------|
| 1 褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック少量 | 9 にぶい褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片6点(坏2・甕類4)、須恵器片1点(坏)が出土している。細片で図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられるが、性格は不明である。



第312図 第444号土坑実測図

第468号土坑 (第313図)

位置 調査Ⅱ区北西部のC 6 j1区で、標高28.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.48m、短径0.90mの不定形で、長径方向はN - 2° - Eである。深さは12cm、底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

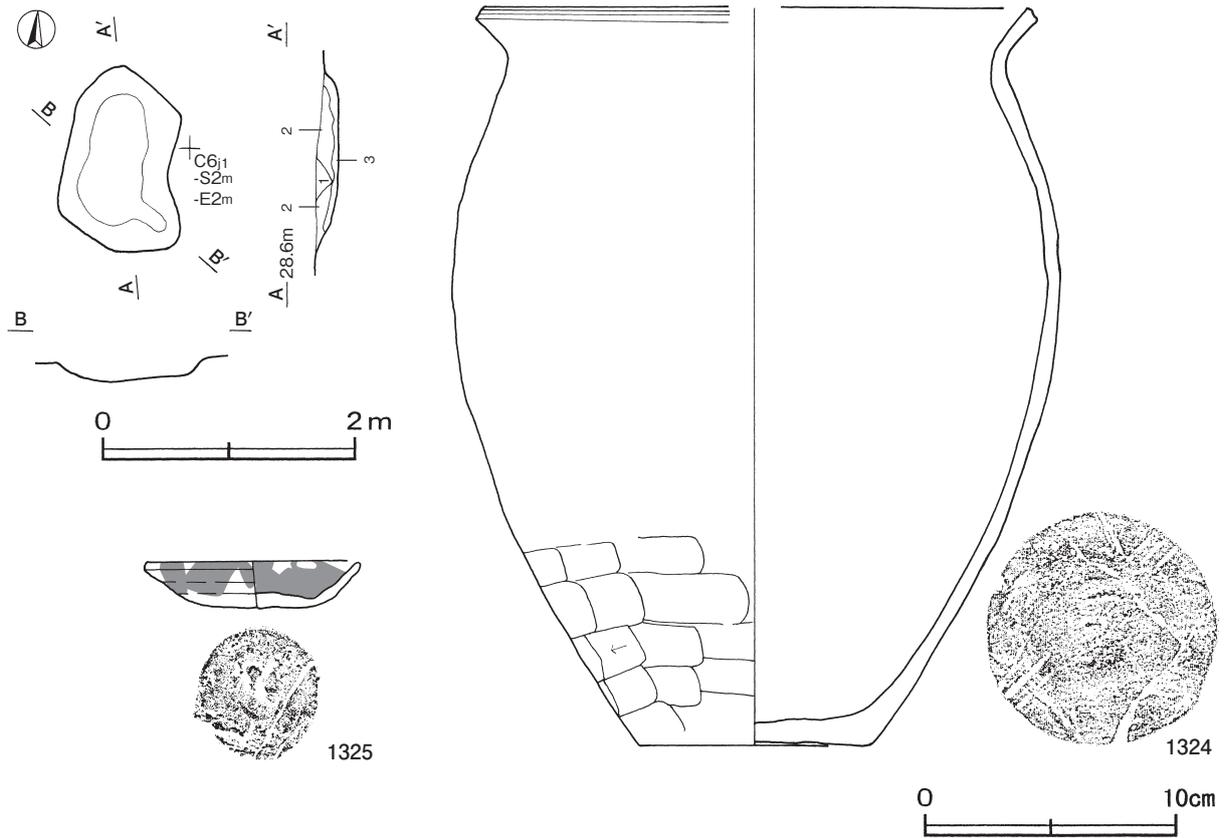
覆土 3層に分けられる。ロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 土師器片23点(坏3・小皿1・甕類19)が出土している。1324・1325は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀代と考えられるが、性格は不明である。



第313図 第468号土坑・出土遺物実測図

第468号土坑出土遺物観察表（第313図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1325	土師器	小皿	8.5	2.0	4.2	長石・石英	橙	普通	内面ナデ	覆土中	100% PL112
1324	土師器	甕	[21.5]	29.4	9.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中	50% PL112

第477号土坑（第314図）

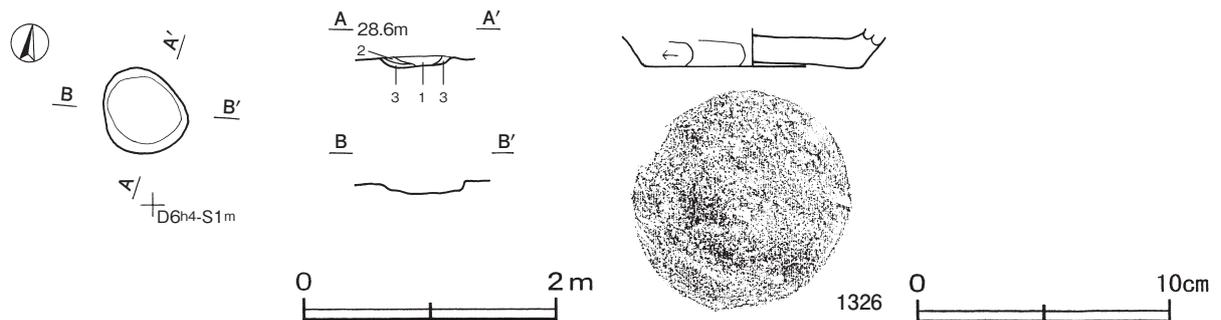
位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 h3区で、標高28.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.70m、短径0.65mの円形である。深さは7cm、底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分けられる。ロームブロックや焼土を含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ロームブロック・炭化粒子 中量
 2 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
 3 褐色 ローム粒子中量



第314図 第477号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片2点（甕類）が出土している。1326は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられるが、性格は不明である。

第477号土坑出土遺物観察表（第314図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1326	土師器	甕	—	(1.4)	8.5	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	5%

第478号土坑（第315図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 f3区で、標高28.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第116号住居跡、第563号土坑を掘り込み、第479号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第479号土坑に掘り込まれているため、東西径は1.02mで、南北径は1.35mだけ確認できた。南北径方向がN-48°-Eの不定形と推測できる。深さは23cm、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

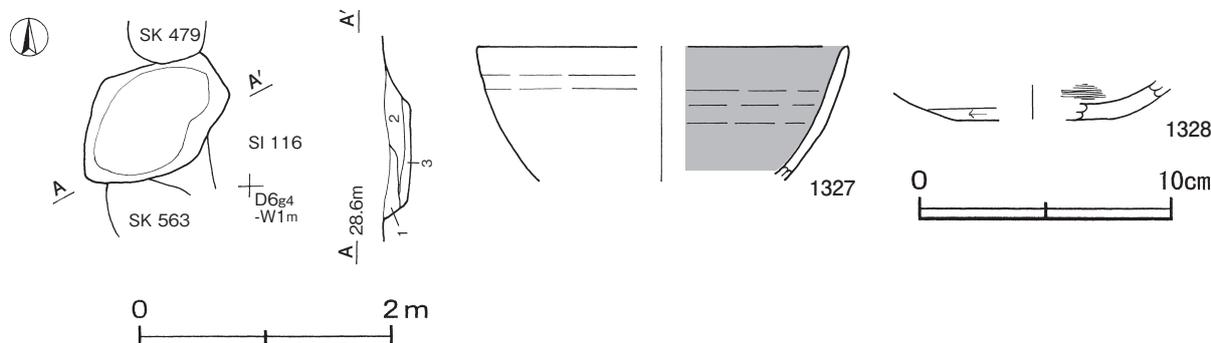
覆土 3層に分けられる。ロームブロックや焼土を含んでいることから人為堆積である。

土層解説

1 にぶい褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子中量、炭化粒子微量
 2 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
 3 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片15点（坏5・皿1・甕類9）が出土している。1327・1328は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀後葉と考えられるが、性格は不明である。



第315図 第478号土坑・出土遺物実測図

第478号土坑出土遺物観察表（第315図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1327	土師器	坏	[14.6]	(5.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通		覆土中	5%
1328	土師器	坏	—	(1.5)	[5.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中	5%

第479号土坑（第316図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 f3区で、標高28.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第116号住居跡、第478号土坑を掘り込んでいます。

規模と形状 長径0.63m、短径0.62mの円形である。深さは36cmで、底面は皿状を呈し、壁はほぼ直立している。

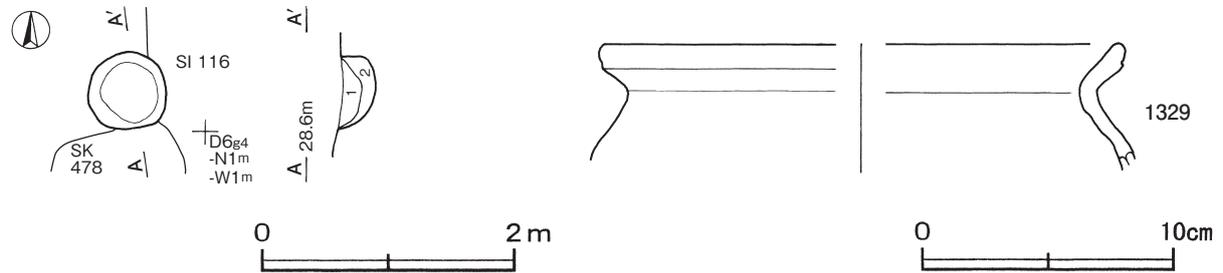
覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含んでいることから人為堆積である。

土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック中量、粘土粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片13点（坏4・甕類9），須恵器片1点（坏）が出土している。1329は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から10世紀代と考えられるが，性格は不明である。



第316図 第479号土坑・出土遺物実測図

第479号土坑出土遺物観察表（第316図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1329	土師器	甕	[20.2]	5.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ナデ	覆土中	5%

第549号土坑（第317図）

位置 調査Ⅱ区東部のD7h3区で，標高28.4mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.72m，短径0.65mの楕円形で，長径方向はN-72°-Wである。深さは19cm，底面は凹凸で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含んでいることから人為堆積である。

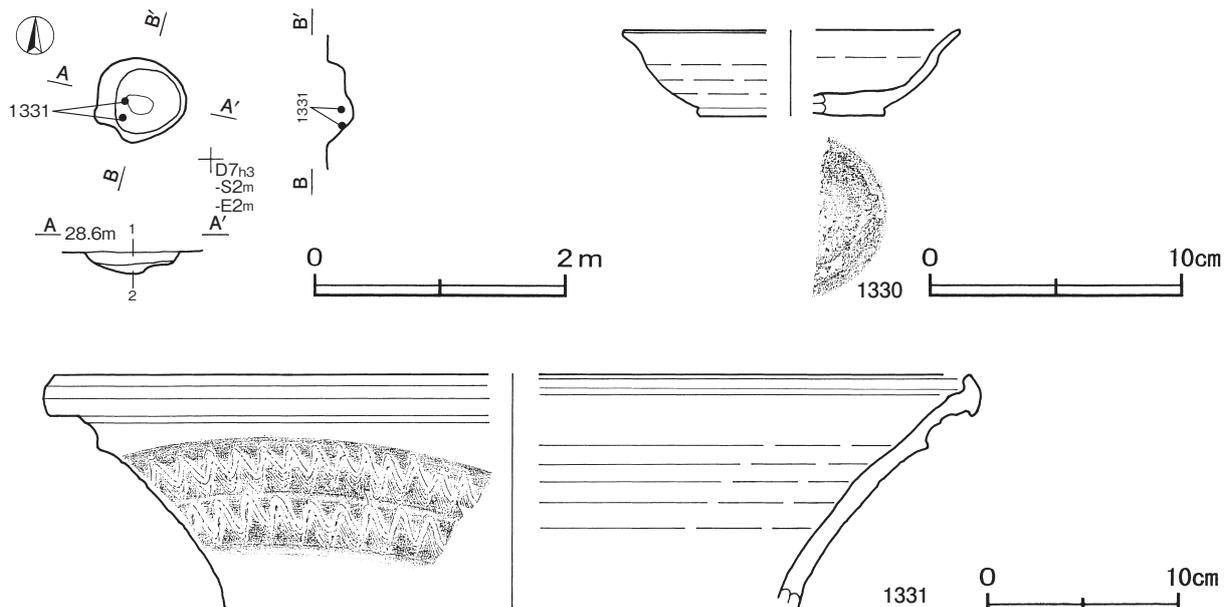
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片3点（坏1・甕類2），須恵器片2点（甕類）が出土している。1331は覆土中層，1330は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀代と考えられるが，性格は不明である。



第317図 第549号土坑・出土遺物実測図

第549号土坑出土遺物観察表（第317図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1330	土師器	坏	[13.4]	3.4	[7.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	30%
1331	須恵器	甕	[47.7]	(12.2)	-	長石・黒色粒子	灰	普通	頸部外面に3条1単位の櫛描波状文	中層	10%

第563号土坑（第318図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 g3区で、標高28.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第478号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.97m、短径0.61mの長楕円形で、長径方向はN-53°-Wである。深さは99cmで、底面は皿状を呈し、壁は直立している。

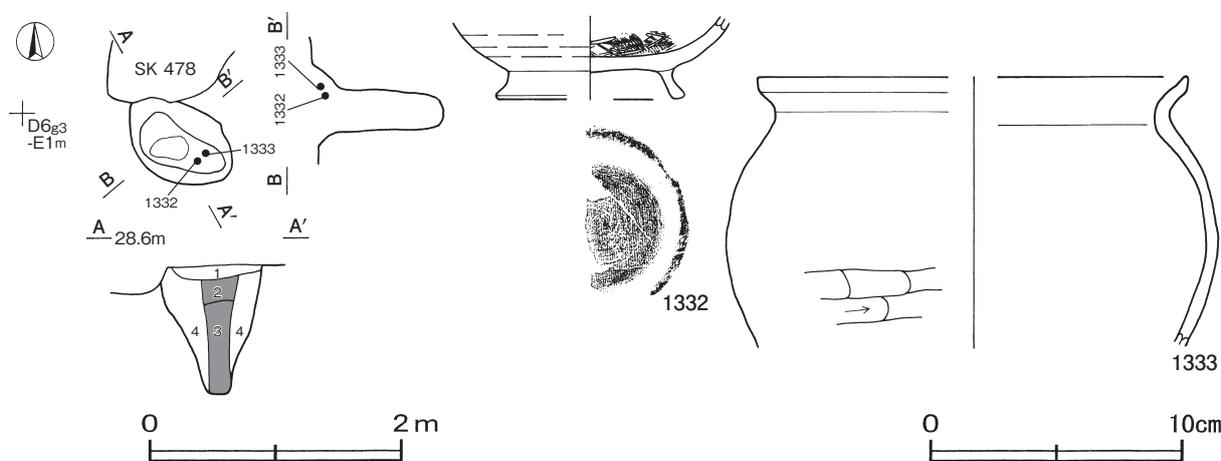
覆土 4層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不自然な堆積状況から人為堆積である。第2・3層は柱の抜き取り痕の可能性がある。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片2点（高台付椀・甕）が出土している。1332・1333は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 柱穴の可能性はあるが、周辺に建物跡を想定できるような柱穴は確認できなかった。時期は、出土土器や重複関係から9世紀後葉と考えられる。



第318図 第563号土坑・出土遺物実測図

第563号土坑出土遺物観察表（第318図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1332	土師器	高台付椀	-	(3.3)	[7.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後、高台貼り付け 内面ヘラ磨き	上層	15%
1333	土師器	甕	[17.0]	(10.7)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	上層	15%

第564号土坑（第319図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 e3区で、標高28.4mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.45m、短径0.38mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。深さは26cmで、底面は皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。不規則な堆積状況から人為堆積である。

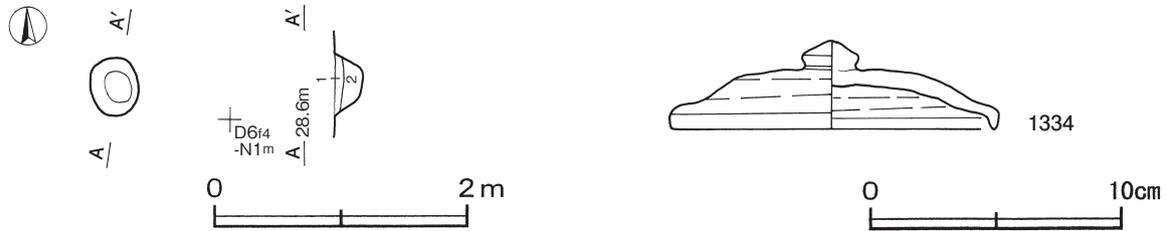
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量

2 黒褐色 ローム粒子・砂粒微量

遺物出土状況 土師器片1点（甕類），須恵器片1点（蓋）が出土している。1334は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられるが，性格は不明である。



第319図 第564号土坑・出土遺物実測図

第564号土坑出土遺物観察表（第319図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1334	須恵器	蓋	12.8	3.5	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	50% PL112

第612号土坑（第320図）

位置 調査Ⅱ区東部のD3h3区で，標高28.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.28m，短径1.18mの隅丸方形で，長径方向はN-50°-Eである。深さは14cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含んでいることから人為堆積である。

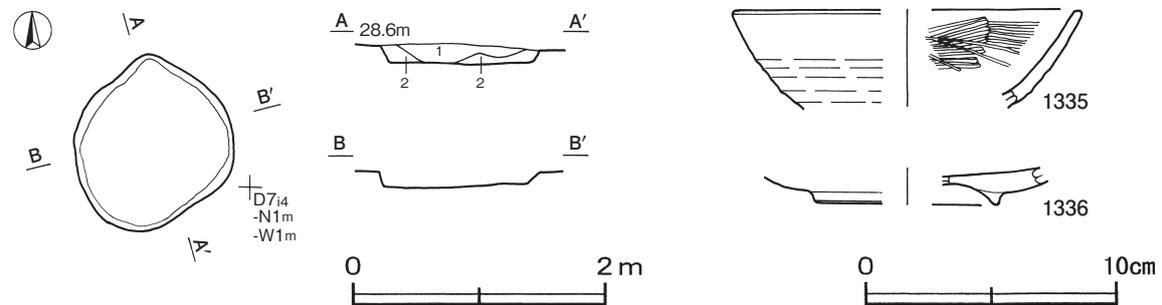
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片11点（坏5・高台付椀1・甕類5），須恵器片2点（坏）が出土している。1335・1336は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から9世紀後葉と考えられるが，性格は不明である。



第320図 第612号土坑・出土遺物実測図

第612号土坑出土遺物観察表（第320図）

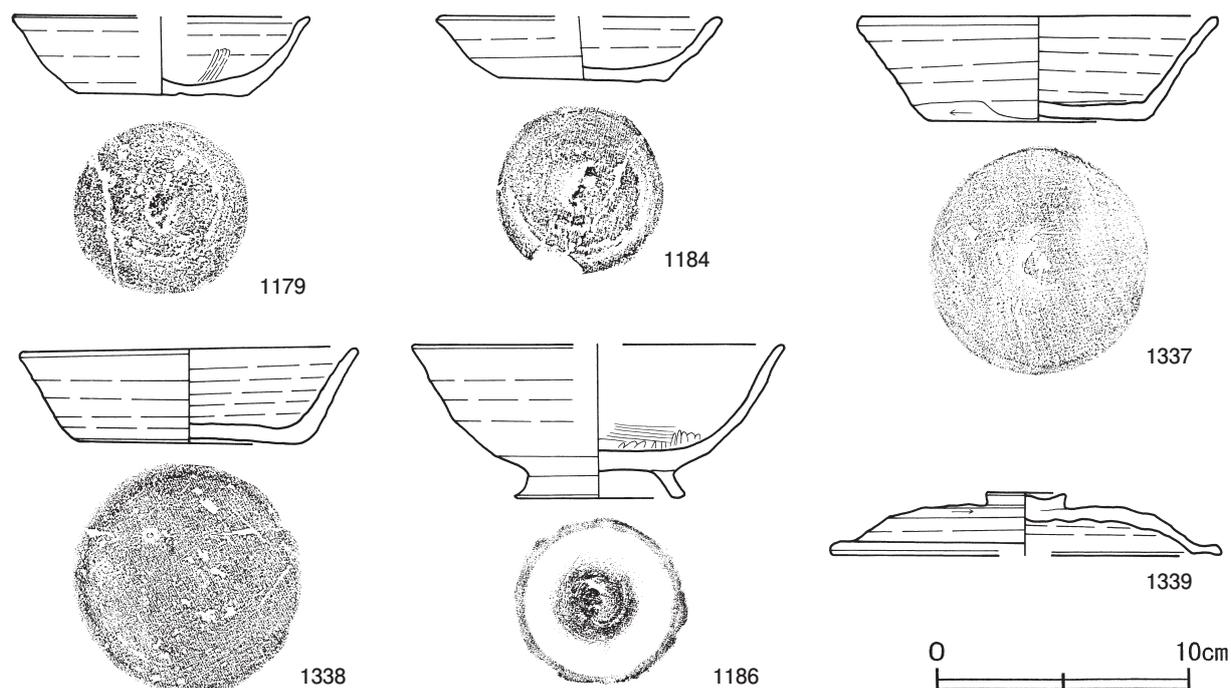
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1335	土師器	坏	[13.7]	(3.9)	-	長石・石英	橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	10%
1336	土師器	高台付坏	-	(1.5)	[7.0]	長石	橙	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す 内面ヘラ磨き	覆土中	5%

表16 土坑一覧表

遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
444	D 6 a0	N-9°-E	[隅丸長方形]	1.65×1.30	60	凹凸	外傾	人為	土師器, 須恵器	9世紀代	本跡→SK460
468	C 6 j1	N-2°-E	不定形	1.48×0.90	12	平坦	緩斜	人為	土師器	10世紀代	
477	D 6 h3	-	円形	0.70×0.65	7	平坦	緩斜	人為	土師器	9世紀代	
478	D 6 f3	N-48°-E	不定形	(1.35)×1.02	23	皿状	緩斜	人為	土師器	9世紀中葉	SI116, SK563→本跡→SK479
479	D 6 f3	-	円形	0.63×0.62	36	皿状	直立	人為	土師器, 須恵器	10世紀代	SI116, SK478→本跡
549	D 7 h3	N-72°-W	楕円形	0.72×0.65	19	凹凸	外傾	人為	土師器, 須恵器	9世紀代	
563	D 6 g3	N-53°-W	長楕円形	0.97×0.61	99	皿状	直立	人為	土師器	9世紀前葉	本跡→SK478
564	D 6 e3	N-20°-W	楕円形	0.45×0.38	26	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器	8世紀中葉	
612	D 3 h3	N-50°-E	隅丸方形	1.28×1.18	14	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	9世紀代	

(4) 遺構外出土遺物 (第321図)

今回の調査で、表土層などから遺構に伴わない奈良・平安時代の遺物が出土している。ここでは、特徴的な遺物について、実測図及び遺物観察表で掲載する。



第321図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第321図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1179	土師器	坏	[11.6]	3.1	6.5	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	内部縦位のヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	上層～中層	70% PL115
1337	須恵器	坏	14.1	4.1	8.7	長石・石英	黒褐	良好	体部手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後, 手持ちヘラ削り	SI111 覆土中	100% PL115
1338	須恵器	坏	13.2	3.9	8.6	長石	暗灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	SI111 覆土中	100% PL115
1184	須恵器	坏	[10.8]	2.6	6.6	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	上層	50%
1186	土師器	高台付椀	[14.4]	6.1	6.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	SI116 覆土中	70% PL115
1339	須恵器	蓋	[15.3]	2.5	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	SI128 覆土中	50%

4 中世・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、方形竪穴遺構 2 基、地下式坑 1 基、粘土貼土坑 1 基、土坑 81 基が確認されている。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 方形竪穴遺構

第 6 号方形竪穴遺構 (第 322 図)

位置 調査Ⅱ区中央部の E 6 b2 区で、標高 26.8m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 634 号土坑を掘り込み、第 1 号道路、第 27 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は 1.94m で、東西軸は 3.40m だけ確認できた。長軸方向が N - 89° - W の不整長方形と推測できる。壁高は 67 ~ 80cm で、外傾して立ち上がっている。

底面 中央部が若干低く、明確な硬化面は認められない。

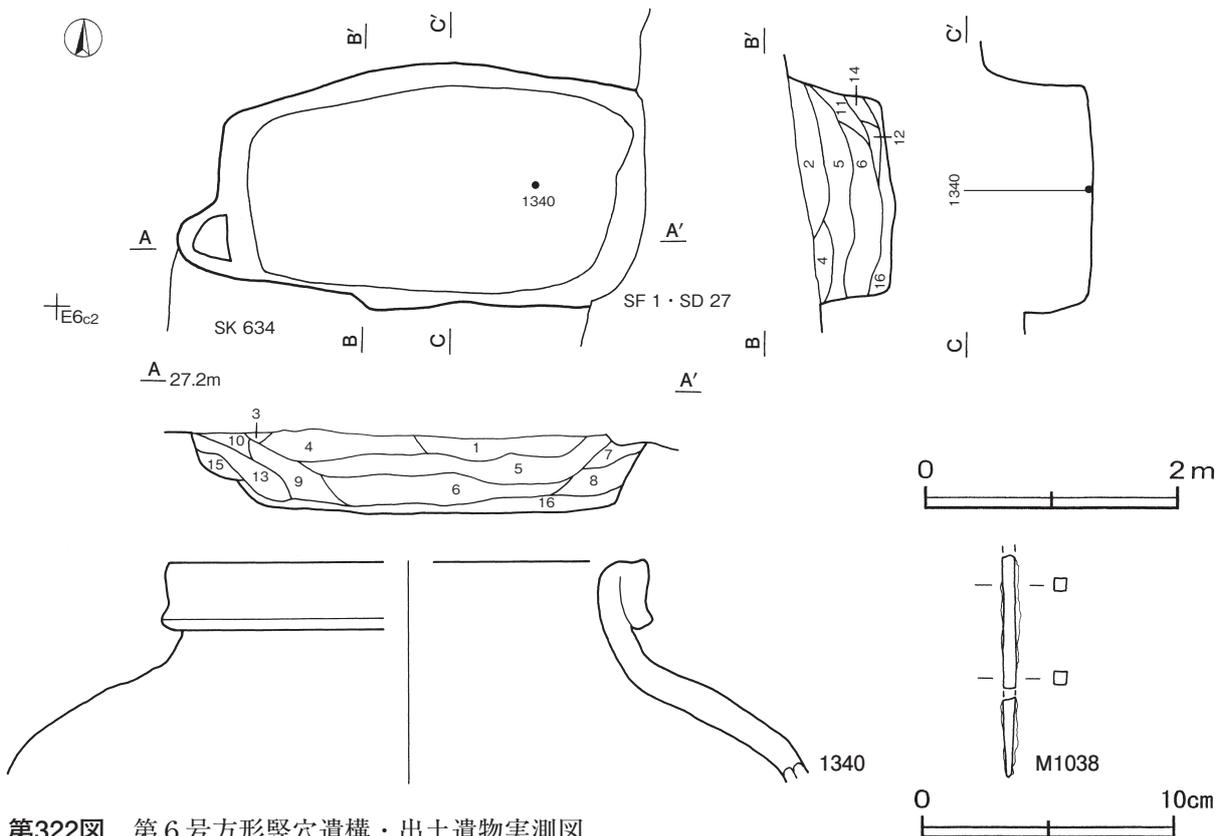
覆土 16 層に分けられる。各層にロームブロックを多く含んでいることから人為堆積である。

土層解説

1 灰 褐色	ロームブロック少量	9 灰 褐色	ローム粒子中量
2 灰 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	10 暗 褐色	ローム粒子少量
3 暗 褐色	ロームブロック多量	11 暗 褐色	ローム粒子中量
4 暗 褐色	ロームブロック中量	12 暗 褐色	ロームブロック少量
5 灰 褐色	ロームブロック中量	13 暗 褐色	ロームブロック微量
6 暗 褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	14 灰 褐色	ローム粒子多量
7 灰 褐色	ロームブロック多量	15 暗 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
8 暗 褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	16 暗 褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 陶器片 1 点 (甕), 鉄製品 1 点 (釘) が出土している。また、流れ込んだ土師器片 49 点 (坏 5・甕類 44), 須恵器片 8 点 (甕類), 磁器片 1 点 (碗), 鉄滓 1 点も出土している。1340 は覆土下層と覆土中から出土した破片が接合したものである。M1038 は覆土中から出土している。

所見 本跡は、他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。時期は、出土土器と重複関係から中世と考えられる。



第 322 図 第 6 号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第6号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第322図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1340	陶器	甕	[18.8]	(8.8)	-	長石・石英	橙	普通	内・外面ナデ	下層・覆土中	5% 常滑産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
MI038	釘	(8.8)	0.5	0.5	(10.5)	鉄	頭部欠損	覆土中	PL120

第7号方形竪穴遺構（第323図）

位置 調査Ⅱ区中央部のE 6 c4区で、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.89m、短軸1.47mの隅丸長方形で、長軸方向はN-89°-Eである。壁高は33～37cmで、外傾して立ち上がっている。

底面 西へ向かってなだらかに傾斜し、明確な硬化面は認められない。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積である。

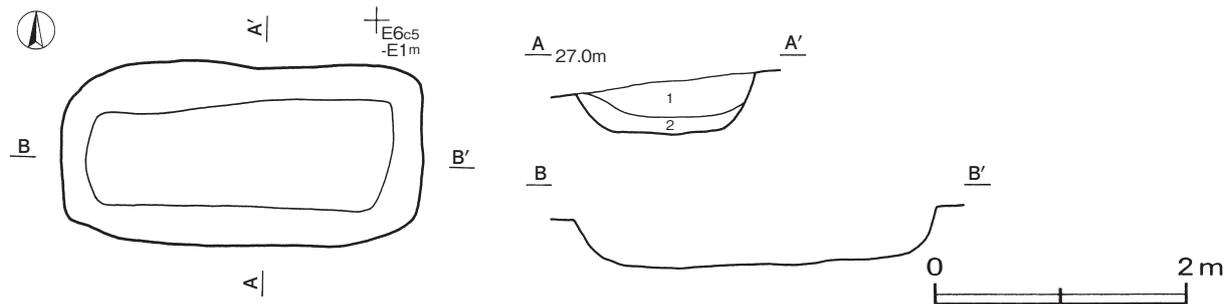
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

2 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 流れ込んだ土師器片7点（甕類）が出土している。

所見 本跡は、他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。時期は遺構の形状や覆土の状況などから中世と考えられる。



第323図 第7号方形竪穴遺構実測図

表17 方形竪穴遺構一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		底面	内部施設		覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)		主柱穴	ピット				
6	E 6 b2	N-89°-W	[不整形長方形]	(3.40)×1.94	67～80	平坦	-	-	人為	土師器、須恵器、陶器	中世	SK634→本跡→SF1・SD27
7	E 6 c4	N-89°-E	隅丸長方形	2.89×1.47	33～37	傾斜	-	-	人為	土師器	中世	

(2) 地下式坑

第1号地下式坑（第324図）

位置 調査Ⅱ区東部のD 7 j5区で、標高28.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第143号住居跡を掘り込んでいる。

確認状況 竪坑と主室東側が調査区域外のため、全体の規模と形状は不明である。

主室 南北軸3.68m、確認された東西軸1.79mの隅丸長方形で、南北軸方向はN-14°-Eである。天井部は遺存していない。壁は内傾して立ち上がり、確認面近くで外湾している。壁高は142cmで、底面は平坦である。

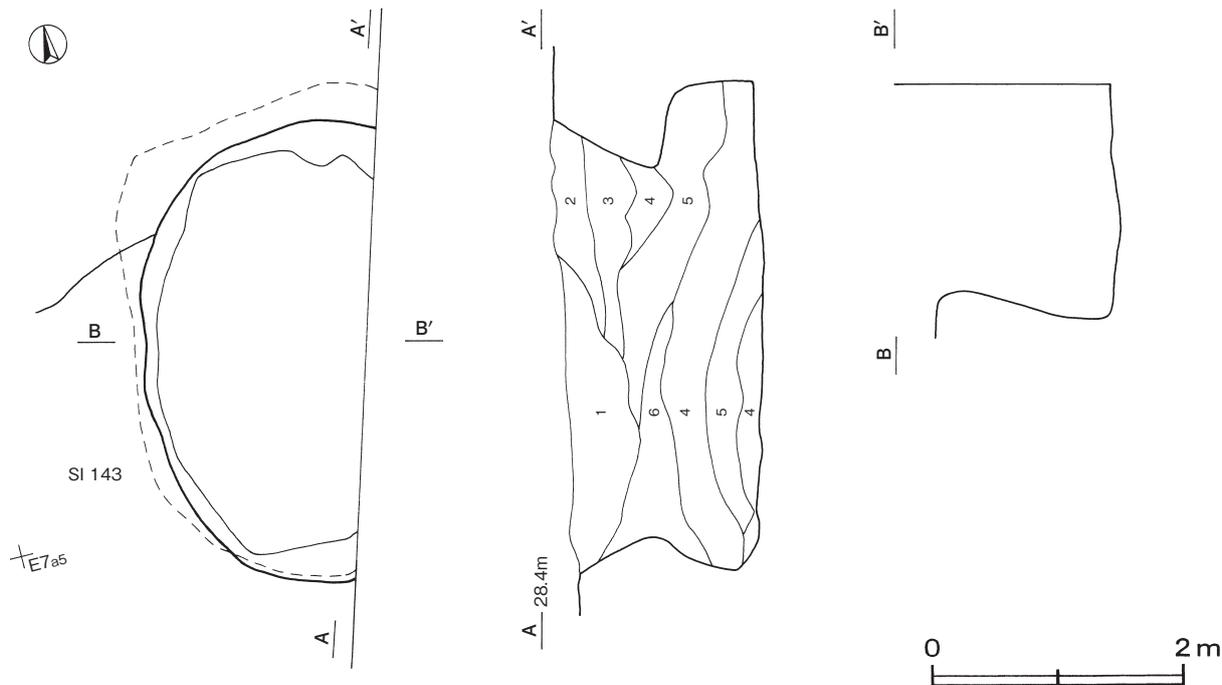
覆土 6層に分けられる。各層にロームブロックを多く含んでいることから人為堆積である。また、第4層は天井部の崩落土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック多量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 黒褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 流れ込んだ縄文土器片2点(深鉢), 土師器片59点(坏3・甕類56), 須恵器片6点(坏3・甕類3), 土製品1点(管状土錘)が出土している。

所見 時期は, 遺構の形状や覆土の状況などから中世と考えられる。



第324図 第1号地下式坑実測図

(3) 粘土貼り土坑

第1号粘土貼土坑 (第325図)

位置 調査Ⅱ区東部のD7h3区, 標高28.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.20m, 短径1.15mの楕円形で, 長径方向はN-70°-Wである。深さは26cmで, 底面は平坦である。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。底面及び壁面に6~12cmほどの厚さの白色粘土が均一に貼り付けられている。

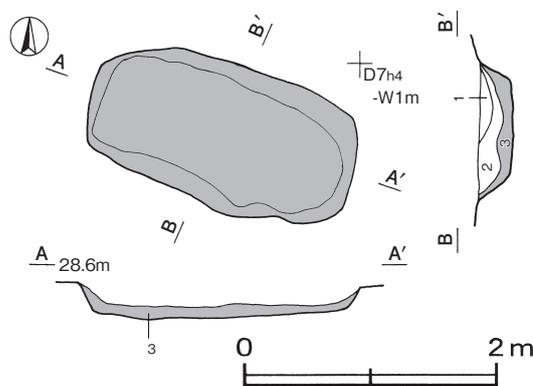
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。なお, 第3層は白色粘土層である。

土層解説

- | | |
|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片1点(甕), 須恵器片1点(坏)が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示することができない。

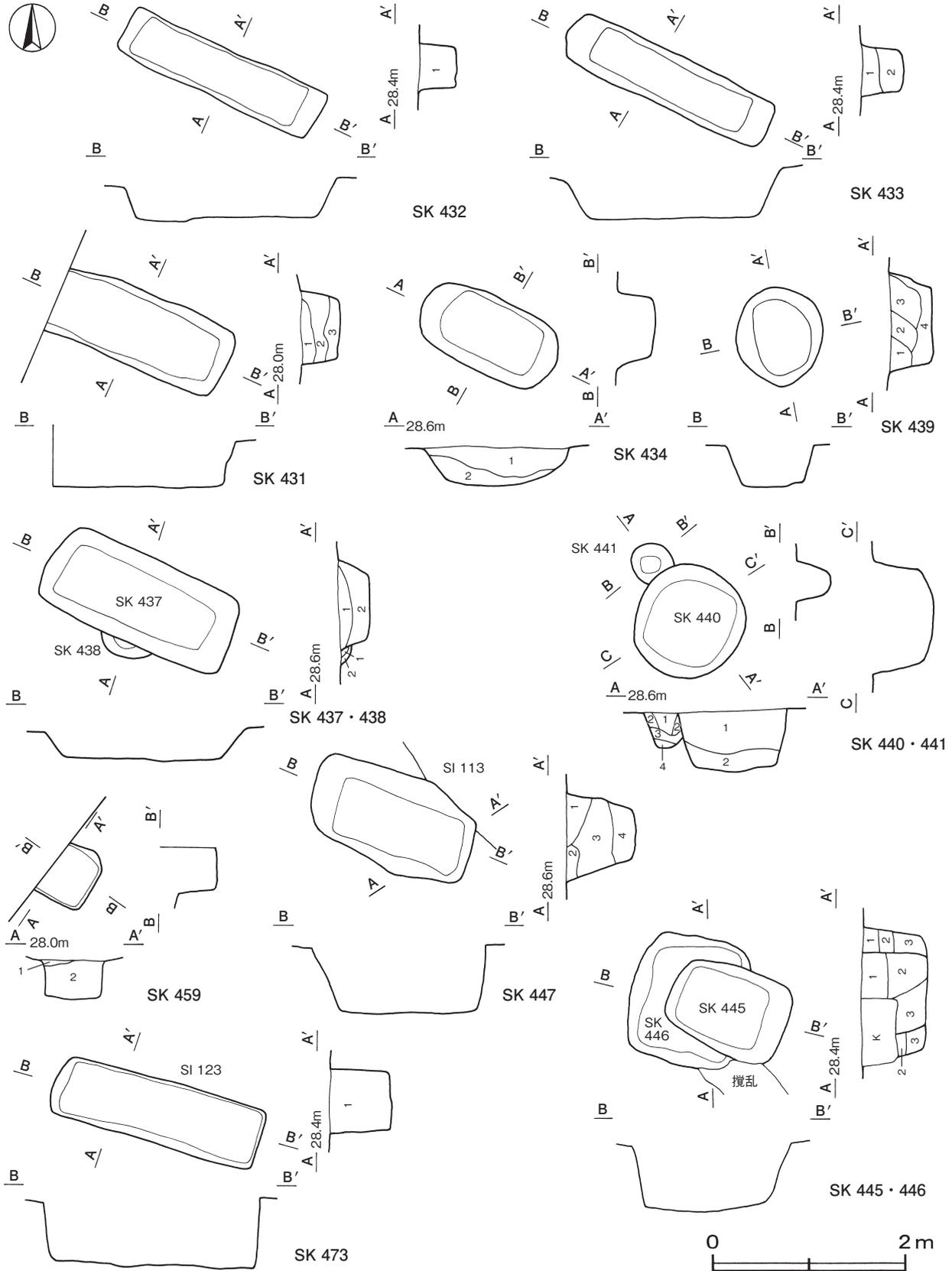
所見 時期は, 伴う遺物が出土していないため明確でないが, 粘土貼り土坑であることから中世・近世と推測される。



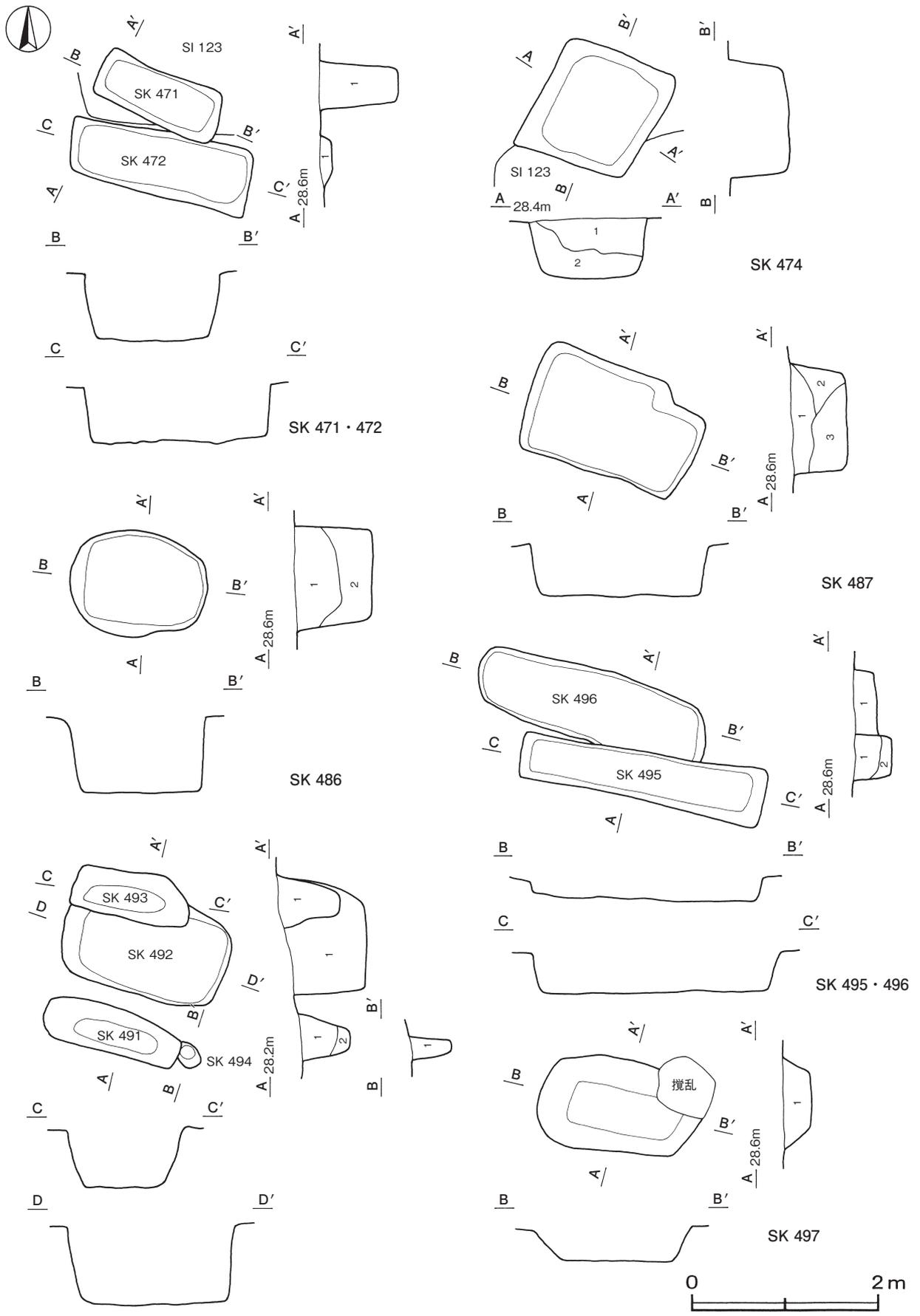
第325図 第1号粘土貼土坑実測図

(4) 土坑 (第326 ~ 331図)

重複関係から古墳、奈良・平安時代の遺構より新しく、陶磁器類が出土している覆土の様相が同じ81基の土坑の時期について中世・近世と判断した。性格は不明で、遺物も細片のため図示できないことから規模・形状等について実測図及び一覧表で掲載する。

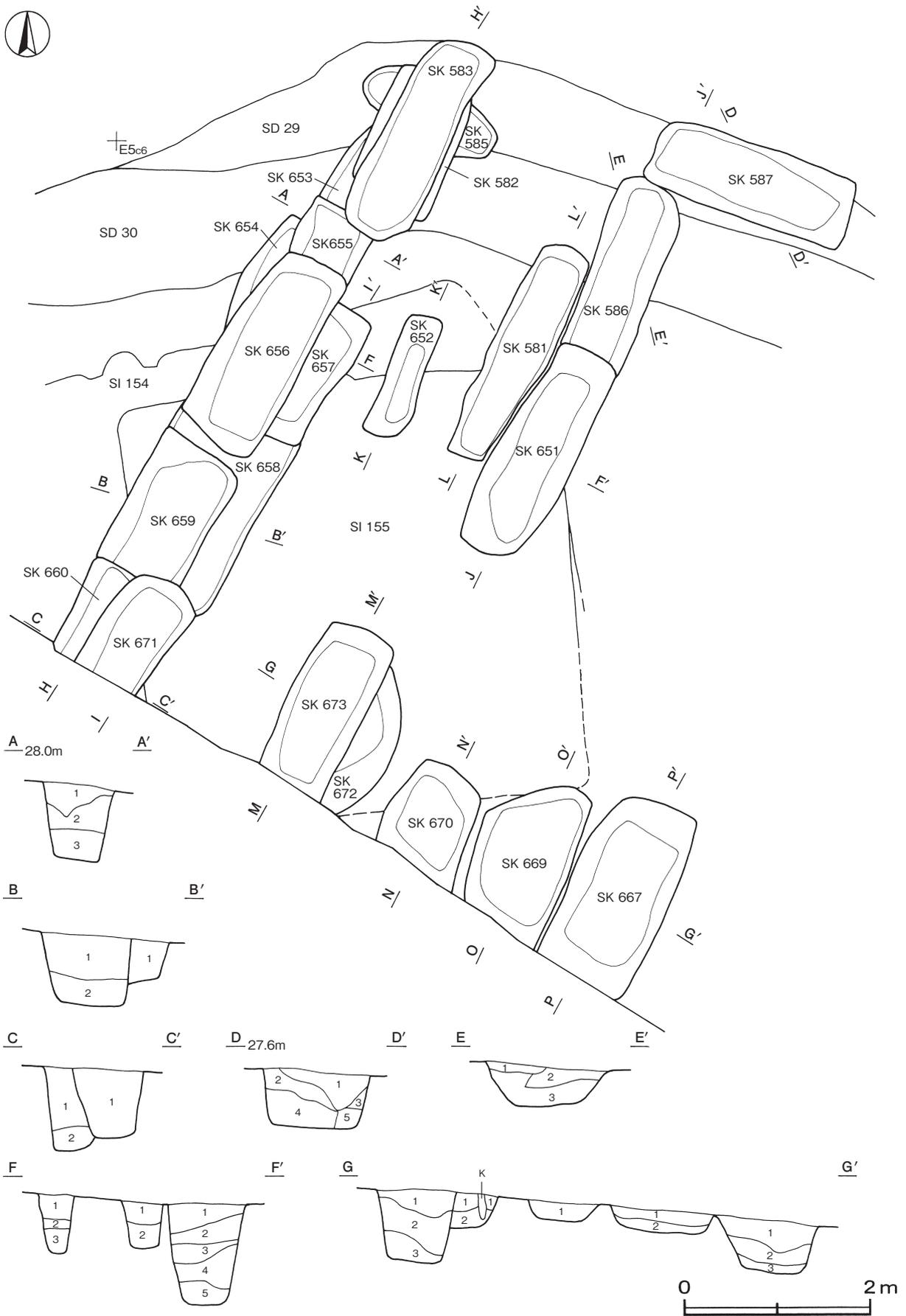


第326図 土坑実測図(1)

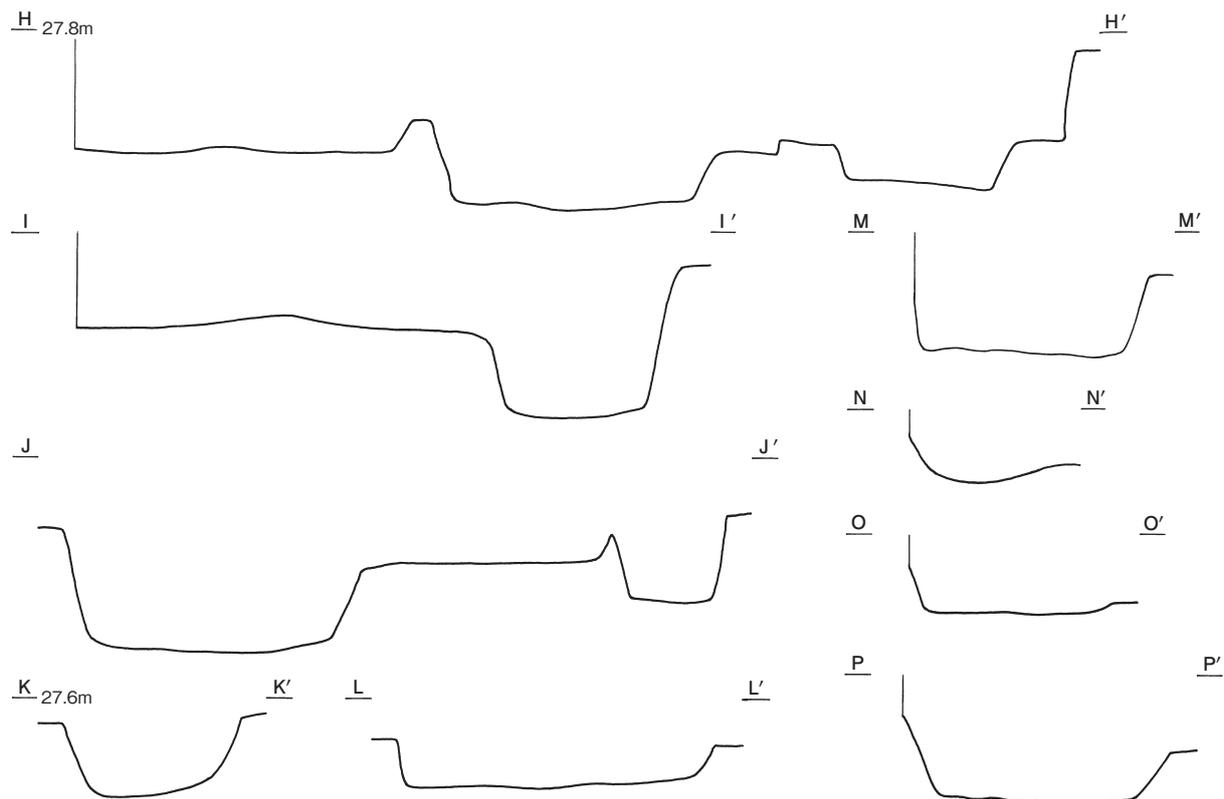


第327图 土坑实测图(2)

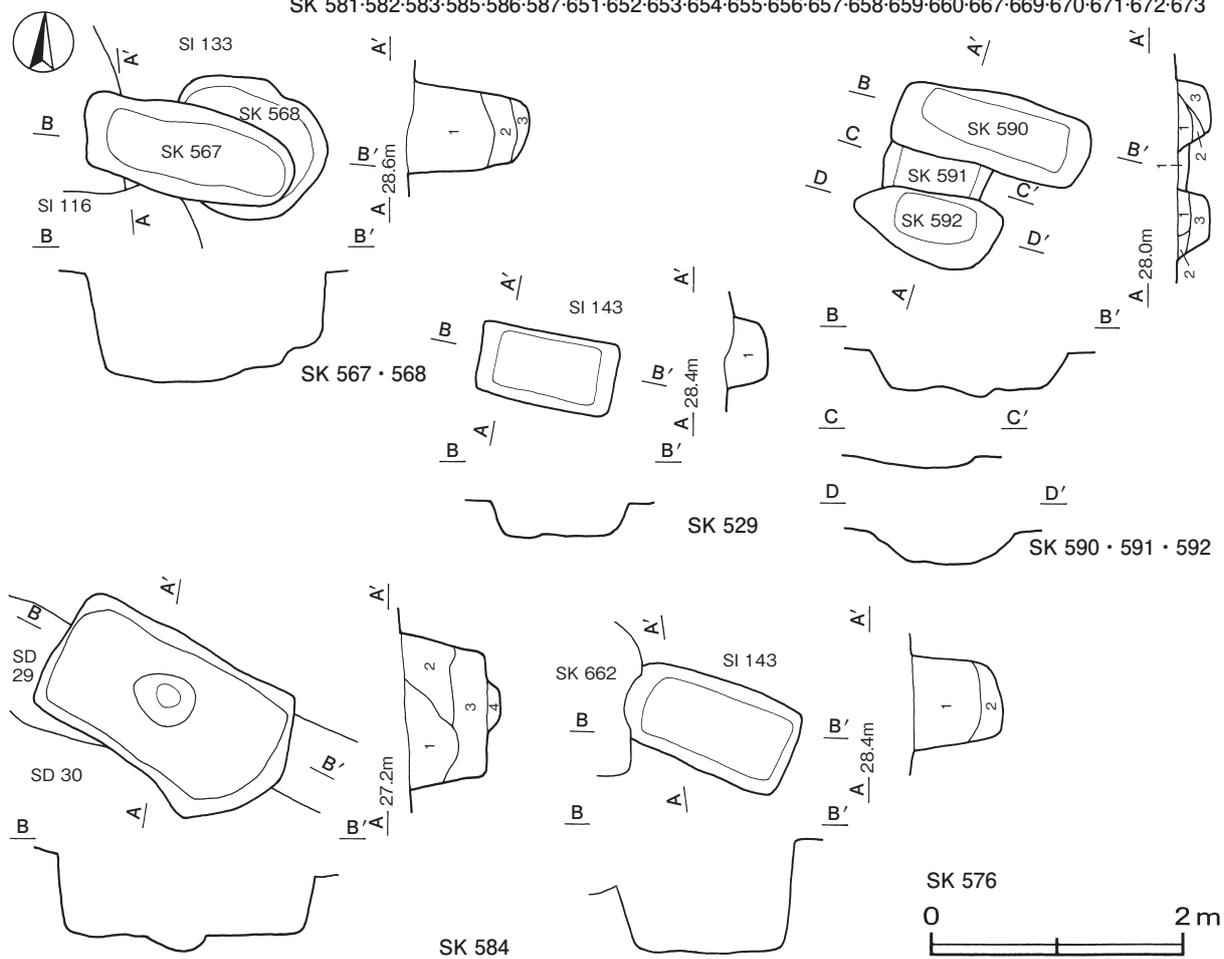
SK 491-492-493-494



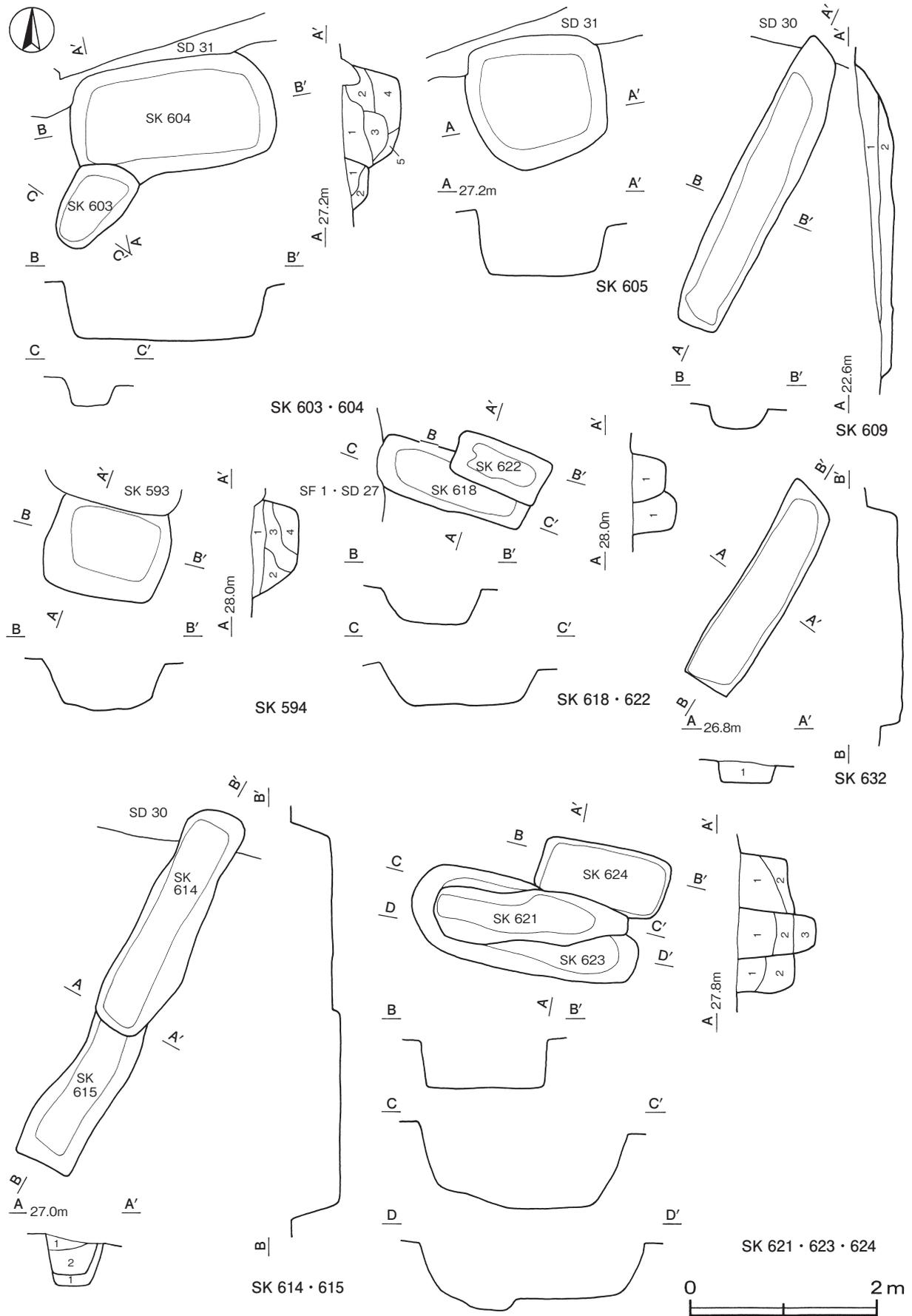
第328图 土坑实测图(3)



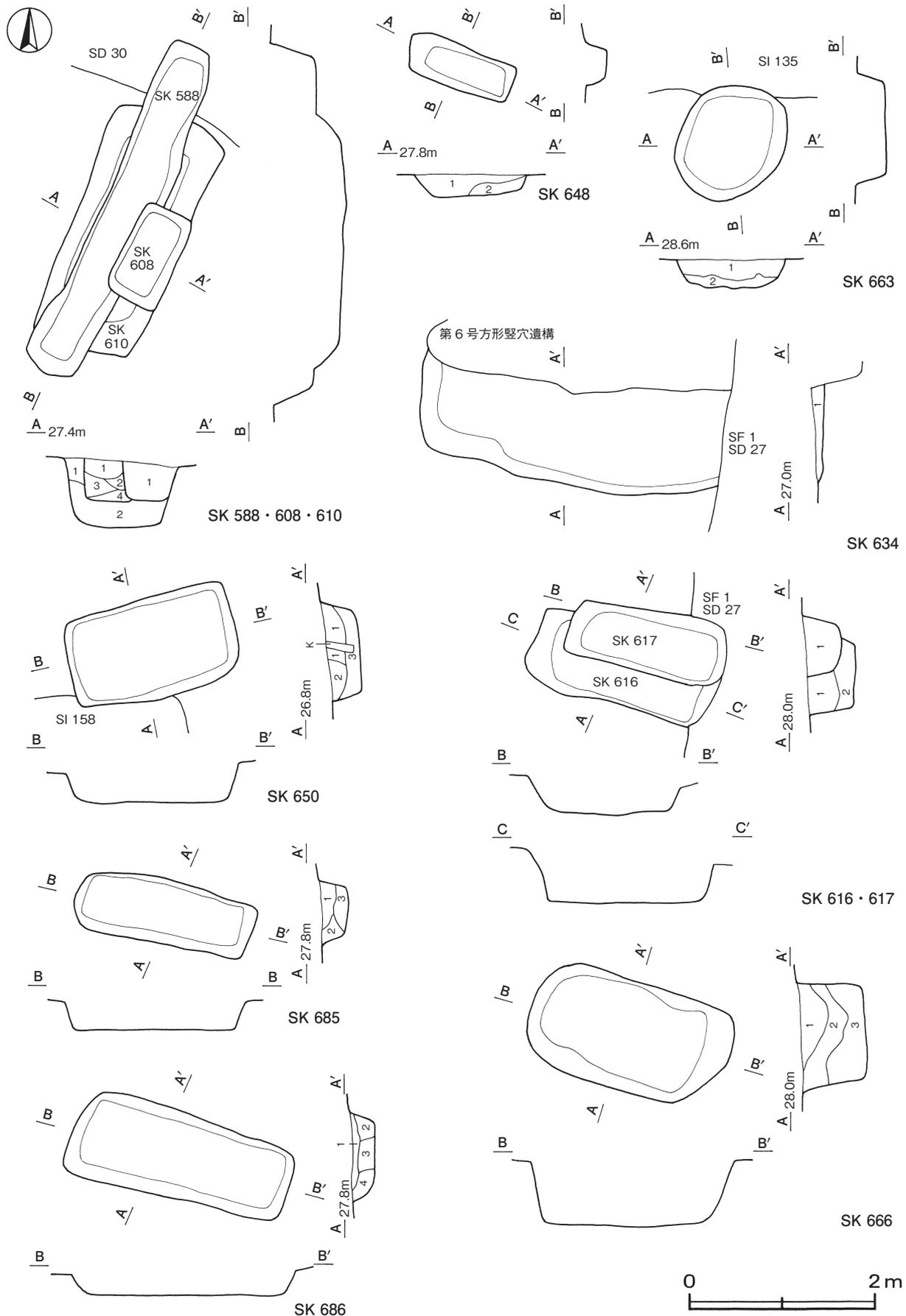
SK 581·582·583·585·586·587·651·652·653·654·655·656·657·658·659·660·667·669·670·671·672·673



第329图 土坑实测图(4)



第330图 土坑实测图(5)



第331图 土坑实测图(6)

- 第 431 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 第 432 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 第 433 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 第 434 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
 2 褐 色 ロームブロック少量
- 第 437 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 第 438 号土坑土層解説
 1 灰 褐 色 ローム粒子微量
 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 第 439 号土坑土層解説
 1 褐 色 ロームブロック少量
 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
 4 褐 色 ローム粒子少量
- 第 440 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
 2 灰 褐 色 ローム粒子少量
- 第 441 号土坑土層解説
 1 灰 褐 色 ローム粒子少量
 2 灰 褐 色 ローム粒子微量
 3 褐 色 ローム粒子微量
 4 褐 色 ローム粒子少量
- 第 445 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
 3 灰 褐 色 ロームブロック少量
- 第 446 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
 2 暗 褐 色 ローム粒子微量
 3 暗 褐 色 ローム微量
- 第 447 号土坑土層解説
 1 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 第 459 号土坑土層解説
 1 褐 色 ロームブロック中量
 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 第 471 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量
- 第 472 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量
- 第 473 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量
- 第 474 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量
 2 褐 色 ロームブロック中量
- 第 486 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子中量
 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子多量
- 第 487 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
 3 暗 褐 色 ロームブロック多量
- 第 491 号土坑土層解説
 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 第 492 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 第 493 号土坑土層解説
 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 第 494 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 第 495 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 第 496 号土坑土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 497 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 529 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 567 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 褐 色 ローム粒子中量

第 576 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 581 号土坑土層解説

1 灰 褐 色 ローム粒子中量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 584 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量

3 極 暗 褐 色 ロームブロック少量

4 褐 色 ロームブロック中量

第 586 号土坑土層解説

1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 褐 色 ロームブロック少量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 587 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

3 極 暗 褐 色 ロームブロック中量

4 黒 褐 色 ロームブロック多量

5 極 暗 褐 色 ロームブロック多量

第 588 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量

3 極 暗 褐 色 ロームブロック中量

4 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 590 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量

3 褐 色 ロームブロック中量

第 591 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 592 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量

2 黒 褐 色 ローム粒子少量

3 極 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 594 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 極 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 黒 褐 色 ロームブロック少量

4 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 603 号土坑土層解説

1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 褐 色 ローム粒子中量

第 604 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

4 褐 色 ロームブロック少量

5 明 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 608 号土坑土層解説

1 灰 褐 色 ロームブロック中量

第 609 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化物微量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 610 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 614 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量

2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 615 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 616 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

2 灰 褐 色 ロームブロック中量

第 617 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 618 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 621 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ローム粒子少量	3 暗 褐 色 ロームブロック中量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量	
第 622 号土坑土層解説	
1 褐 色 ロームブロック中量	
第 623 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ローム粒子中量	2 暗 褐 色 ロームブロック中量
第 624 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ロームブロック中量	2 暗 褐 色 ローム粒子少量
第 632 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ロームブロック中量	
第 634 号土坑土層解説	
1 灰 褐 色 ローム粒子少量	
第 648 号土坑土層解説	
1 黒 褐 色 ロームブロック中量	2 暗 褐 色 ロームブロック中量
第 650 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ロームブロック少量	3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2 褐 色 ロームブロック少量	
第 651 号土坑土層解説	
1 灰 褐 色 ロームブロック少量	4 暗 褐 色 ロームブロック微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量	5 暗 褐 色 ローム粒子中量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量	
第 652 号土坑土層解説	
1 褐 色 ロームブロック中量	3 暗 褐 色 ロームブロック微量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量	
第 655 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	3 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量	
第 658 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ロームブロック中量	
第 659 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ロームブロック中量	2 暗 褐 色 ロームブロック少量
第 660 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ロームブロック中量	2 黒 褐 色 ローム粒子中量
第 663 号土坑土層解説	
1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量	2 明 褐 色 ロームブロック多量
第 666 号土坑土層解説	
1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量	3 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量	
第 667 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ロームブロック中量	3 暗 褐 色 ローム粒子多量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量	
第 669 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ロームブロック少量	2 暗 褐 色 ローム粒子中量
第 670 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ロームブロック中量	
第 671 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ローム粒子中量	
第 672 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量	2 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量
第 673 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ローム粒子中量	3 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量	
第 685 号土坑土層解説	
1 暗 褐 色 ロームブロック中量	3 暗 褐 色 ロームブロック多量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量	
第 686 号土坑土層解説	
1 黒 褐 色 ロームブロック少量	3 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量	4 暗 褐 色 ロームブロック中量

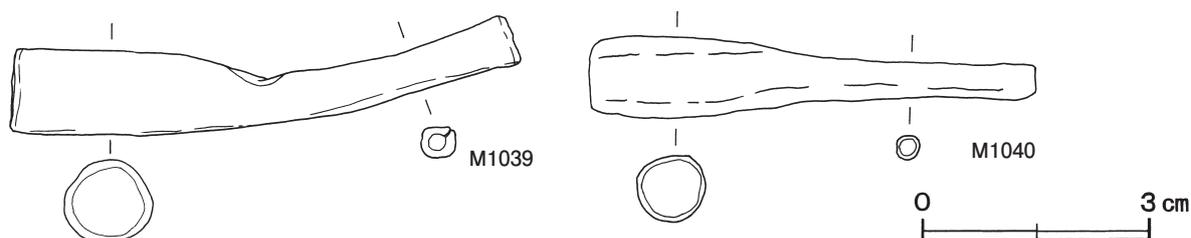
表18 土坑一覽表

遺構 番号	位 置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備 考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ (cm)						
431	D 5 d5	N - 65° - W	[長方形]	(1.90)×0.80	46	平坦	外傾	人為	土師器, 須惠器, 陶器	中世・近世	
432	D 5 d7	N - 64° - W	長方形	2.18×0.56	39	二段	直立 外傾	人為	-	中世・近世	
433	D 5 d8	N - 64° - W	長方形	2.30×0.56	50	平坦	直立 外傾	人為	土師器, 須惠器, 磁器	中世・近世	
434	D 5 e9	N - 64° - W	楕円形	1.52×0.77	39	四状	外傾 緩斜	人為	土師器	中世・近世	
437	D 5 b0	N - 64° - W	長方形	2.06×0.9	33	平坦	緩斜	自然	土師器, 須惠器, 陶器, 灰釉陶器	中世・近世	SK438 →本跡
438	D 5 b0	N - 64° - W	不明	0.51×(0.21)	11	[皿状]	緩斜	自然	-	中世・近世	本→SK437
439	D 6 e4	N - 5° - W	楕円形	1.05×0.90	44	平坦	外傾	人為	-	中世・近世	
440	D 6 e4	-	円形	1.19×1.11	62	皿状	外傾	自然	土師器, 須惠器, 陶器	中世・近世	SK441 →本跡
441	D 6 e4	-	[円形]	0.41×(0.35)	38	皿状	外傾	人為	-	中世・近世	本跡→SK440
445	D 5 f6	N - 64° - W	長方形	1.25×0.91	68	平坦	外傾	人為	-	中世・近世	SK446 →本跡
446	D 5 f6	N - 12° - E	[長方形]	1.35×1.10	64	平坦	直立	人為	-	中世・近世	本跡→SK445
447	D 5 d9	N - 68° - W	長方形	1.72×1.04	71	平坦	外傾	人為	土師器, 須惠器, 陶器, 不明鉄製品	中世・近世	SI113 →本跡
459	D 5 c6	-	[方形]	0.65×(0.59)	39	平坦	直立	人為	-	中世・近世	
471	D 6 i7	N - 65° - W	長方形	1.42×0.59	54(83)	平坦	直立	人為	-	中世・近世	SI123, SK472 →本跡
472	D 6 i7	N - 77° - W	長方形	1.96×0.72	62	平坦	直立	人為	-	中世・近世	本跡→SK471
473	D 6 h7	N - 75° - W	長方形	2.20×0.68	27(67)	平坦	外傾 緩斜	人為	土師器, 磁器	中世・近世	SI123 →本跡
474	D 6 h7	-	方形	1.33×1.26	66	皿状	外傾	人為	-	中世・近世	SI123 →本跡
486	D 6 h7	N - 83° - W	楕円形	1.48×1.12	82	平坦	直立 外傾	人為	-	中世・近世	
487	D 6 f8	N - 70° - W	不整長方形	1.90×1.09	58	平坦	直立 外傾	自然	-	中世・近世	
491	D 6 j6	N - 71° - W	楕円形	1.50×0.54	52	平坦	外傾	自然	土師器	中世・近世	SK494 →本跡
492	D 6 i6	N - 72° - W	[楕円形]	1.81×1.07	81	平坦	直立 外傾	自然	土師器, 須惠器	中世・近世	本跡→SK493
493	D 6 i6	N - 76° - W	不整楕円形	1.30×0.55	67	平坦	外傾	自然	土師器, 須惠器, 土師質土器	中世・近世	SK492 →本跡
494	D 6 i7	N - 34° - W	[楕円形]	0.34×0.20	47	皿状	外傾	自然	-	中世・近世	本跡→SK491
495	D 6 g7	N - 79° - W	長方形	2.66×0.64	44	平坦	直立 外傾	人為	-	中世・近世	SK496 →本跡
496	D 6 g7	N - 76° - W	[楕円形]	2.52×(0.76)	25	平坦	外傾	人為	-	中世・近世	本跡→SK495
497	D 6 f9	N - 77° - W	[楕円形]	1.70×(1.0)	36	平坦	緩斜	自然	土師器	中世・近世	
529	E 7 a4	N - 75° - W	長方形	1.09×0.59	27	平坦	外傾 緩斜	自然	土師器, 陶器	中世・近世	SI143 →本跡
567	D 6 e5	N - 72° - W	不整楕円形	1.75×0.71	40(88)	皿状	緩斜	自然	-	中世・近世	SI116・133, SK568 →本跡
568	D 6 e5	N - 62° - W	[楕円形]	1.26×1.07	30(76)	皿状	緩斜	不明	-	中世・近世	SI133 →本跡→SK567
576	E 7 a5	N - 70° - W	[長方形]	(1.43)×0.75	72	平坦	直立 緩斜	人為	-	中世・近世	SI143 →本跡→SK662
581	E 5 c7	N - 27° - E	長方形	2.5×0.64	49	平坦	緩斜	自然	-	中世・近世	SI154・155, SD30 →本跡
582	E 5 b6	N - 23° - E	[長方形]	1.40×0.95	20(45)	皿状	緩斜	不明	-	中世・近世	SD29・30, SK585・653 →本跡→SK583
583	E 5 b6	N - 29° - E	楕円形	2.37×0.75	74	平坦	外傾~ 緩斜	不明	-	中世・近世	SD29・30 → SK653・655・582・585 →本跡
584	E 5 c8	N - 58° - W	不整長方形	2.04×1.10	70	凸凹	外傾	人為	-	中世・近世	SD29・30 →本跡
585	E 5 b6	N - 58° - W	楕円形	1.55×0.52	20(35)	皿状	緩斜	不明	-	中世・近世	SD29・30 →本跡→SK582・583
586	E 5 c7	N - 22° - E	[楕円形]	(1.93)×0.80	40	皿状	緩斜	人為	-	中世・近世	SD29・30 →本跡→SK587・651
587	E 5 c7	N - 71° - W	長方形	2.25×0.80	59(69)	平坦	外傾	人為	-	中世・近世	SD29, SK586 →本跡
588	E 5 d7	N - 24° - E	不整長方形	3.88×0.62	50	平坦	緩斜	人為	-	中世・近世	SD30, SK610 →本跡→SK608
590	D 5 j7	N - 77° - W	長方形	1.57×0.62	20	凹凸	外傾 緩斜	自然	土師器	中世・近世	SK591 →本跡
591	D 5 j7	N - 76° - W	[長方形]	0.83×(0.31)	9	平坦	緩斜	自然	-	中世・近世	本跡→SK590・592
592	D 5 j7	N - 81° - W	不整楕円形	1.19×0.57	26	四状	外傾・ 緩斜	自然	-	中世・近世	SK591 →本跡
594	E 5 a7	N - 76° - W	[隅丸長方形]	1.30×(1.08)	53	四状	外傾・ 緩斜	人為	土師器	中世・近世	本跡→SK593
603	E 5 c0	N - 34° - E	楕円形	0.83×0.65	25	平坦	外傾	自然	-	中世・近世	SK604 →本跡
604	E 5 c0	N - 86° - E	[隅丸長方形]	2.19×1.23	56	皿状	外傾・ 緩斜	自然	縄文土器, 土師器	中世・近世	本跡→SD31, SK603
605	E 5 b0	-	[隅丸方形]	1.48×(1.46)	58	平坦	外傾	自然	-	中世・近世	本跡→SD31
608	E 5 d7	N - 29° - E	長方形	1.05×0.60		平坦	外斜	人為	-	中世・近世	SK588・610 →本跡

遺構番号	位 置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備 考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ (cm)						
609	E 5 d9	N-24°-E	不整長方形	3.34×0.57	24	皿状	緩斜	自然	-	中世・近世	SD30→本跡
610	E 5 d7	N-20°-E	長方形	2.74×2.21	81	平坦	緩斜	人為	-	中世・近世	本跡→SK588・608
614	E 5 d8	N-29°-E	不整長方形	2.48×0.74	37	平坦	外傾	人為	-	中世・近世	SD30, SK615→本跡
615	E 5 d8	N-28°-E	[不整長方形]	(2.25)×0.67	49	平坦	緩斜	人為	-	中世・近世	本→SK614
616	D 6 j2	N-73°-W	[長方形]	(2.01)×0.85	53	平坦	外傾	人為	-	中世・近世	本跡→SF 1・SD27, SK617
617	D 6 j2	N-75°-W	[長方形]	(1.72)×0.71	38	平坦	緩斜	人為	-	中世・近世	SK616→本跡→SF 1・SD27
618	D 6 j3	N-73°-W	[長方形]	(1.72)×0.65	46	平坦	緩斜	人為	土師器, 須恵器	中世・近世	本跡→SF 1・SD27, SK622
621	D 6 j3	N-86°-W	不整長方形	2.08×0.60	83	皿状	緩斜	人為	-	中世・近世	SK623・624→本跡
622	D 6 j3	N-67°-W	長方形	1.12×0.52	36	皿状	緩斜	人為	-	中世・近世	SK618→本跡
623	D 6 j3	N-71°-W	隅丸長方形	2.50×0.96	62	皿状	外傾	人為	-	中世・近世	本跡→SK621
624	D 6 j4	N-77°-W	[長方形]	1.38×(0.71)	58	平坦	直立	人為	-	中世・近世	本跡→SK621
632	E 5 d9	N-31°-E	不整長方形	2.34×0.60	30	平坦	外傾	自然	土師器, 陶器, 球状土鏝	中世・近世	
634	E 6 c2	N-87°-W	[不整長方形]	(3.34)×(1.15)	7	平坦	緩斜	自然	-	中世・近世	本跡→第6号方形堅 穴遺構, SF 1・SD27
648	E 6 a6	N-70°-W	長方形	1.19×0.47	24	平坦	外傾	人為	土師器	中世・近世	
650	E 6 c4	N-79°-E	長方形	1.84×1.08	36	平坦	外傾	自然	-	中世・近世	SI158→本跡
651	E 5 c7	N-29°-E	長方形	2.45×0.87	103	平坦	外傾	自然	-	中世・近世	SI154・155, SK 586→本跡
652	E 5 c6	N-20°-E	長方形	1.40×0.45	61	皿状	緩斜	自然	縄文土器, 土師器	中世・近世	SI154・155→本跡
653	E 5 c6	不明	不明	(1.10)×(0.30)	33	平坦	-	不明	-	中世・近世	SD29・30→本跡→ SK 582・583・655
654	E 5 c6	不明	不明	(1.35)×(0.40)	55	平坦	緩斜	不明	-	中世・近世	SI154, SD30→本 跡→SK655・656
655	E 5 c6	N-27°-E	[長方形]	(0.65)×0.65	77	平坦	外傾	自然	-	中世・近世	SD30, SK653・654 →本跡→SK583・656
656	E 5 c6	N-28°-E	長方形	2.25×0.95	123	平坦	外傾	人為	-	中世・近世	SI154・155, SK 654・ 655・657・658→本跡
657	E 5 c6	N-33°-E	[長方形]	1.60×(0.70)	115(124)	平坦	外傾	人為	-	中世・近世	SI154・155→SK658 →本跡→SK656
658	E 5 c6	N-28°-E	[長方形]	(2.10)×(0.48)	36(50)	平坦	外傾	人為	-	中世・近世	SI154・155→本跡→S K 656・657・659・671
659	E 5 d6	N-29°-E	[長方形]	(2.04)×0.98	60(75)	平坦	緩斜	人為	-	中世・近世	SI154・155, SK658 →本跡→SK660・671
660	E 5 d5	N-29°-E	[長方形]	(1.12)×(0.5)	74(90)	平坦	直立 外傾	自然	土師器, 須恵器	中世・近世	SI154, SK659→本 跡→SK671
663	D 6 d8	N-16°-E	楕円形	1.28×1.12	32	平坦	外傾 緩斜	人為	土師器	中世・近世	SI135→本跡
666	D 6 j2	N-74°-W	楕円形	2.20×1.14	82	平坦	外傾 緩斜	自然	土師器, 瓦	中世・近世	
667	E 5 e7	N-25°-E	[長方形]	(2.13)×1.09	35(56)	平坦	外傾 緩斜	人為	-	中世・近世	SI154→本跡
669	E 5 d7	N-20°-E	[不整長方形]	(1.70)×1.05	25	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	中世・近世	SI154・155→本跡
670	E 5 d6	N-24°-E	[不整長方形]	(1.12)×0.95	20	皿状	緩斜	人為	土師器	中世・近世	SI154・155→本跡
671	E 5 d6	N-38°-E	[長方形]	(1.26)×0.80	74	平坦	外傾	自然	-	中世・近世	SI154・155, SK658 ~ 660→本跡
672	E 5 d6	N-28°-E	[楕円形]	(1.65)×(0.42)	35	皿状	緩斜	自然	縄文土器, 土師器	中世・近世	SI154・155→本跡→SK673
673	E 5 d6	N-28°-E	[長方形]	(1.85)×0.83	60	平坦	外傾	自然	-	中世・近世	SI154・155, SK672→本跡
685	D 6 j6	N-77°-W	長方形	1.92×0.70	30	平坦	外傾	人為	-	中世・近世	
686	D 6 j6	N-74°-W	長方形	2.40×0.98	25	平坦	緩斜	人為	-	中世・近世	

(5) 遺構外出土遺物 (第332・333図)

表土層などから遺構に伴わない中世・近世の遺物が出土している。ここでは、実測図及び遺物観察表で掲載する。



第332図 遺構外出土遺物実測図(1)



第333図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第332・333図)

番号	器種	長さ	口付径	小口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1039	煙管	6.6	0.6	1.2	9.7	銅	吸い口	SI129 覆土中	PL121
M1040	煙管	6.4	0.4	1.1	4.8	銅	吸い口	SI143 覆土中	PL121
M1041	煙管	3.4	0.4	0.8	2.6	銅	吸い口	SI111 覆土中	PL121

番号	銭種	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M1042	古銭	2.5	5.0	(2.7)	1107	銅	北宋銭「大観通宝」	SI157 覆土中	PL121

5 その他の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

調査Ⅱ区では、竪穴住居跡が51軒検出している。その内の1軒は残存状態が悪く、遺物は出土していないことから、竈の火床面と床の硬化面をもとに、時期不明の竪穴住居跡として調査を行った。

第166号住居跡 (第334図)

位置 調査Ⅱ区西部のE 5 b9区、標高27.7mの台地斜面部(段切状の斜面部)に位置している。

重複関係 第29号溝、第596～598・678号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 壁が削平されており、硬化面の広がりや柱穴の位置から、南北軸5.94m、東西軸4.30mで、主軸方向がN-13°-Wの長方形と推測される。

床 平坦で、竈手前が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されていたと推測され、火床部しか遺存していない。確認できた規模は、火床部手前から奥まで48cm、燃焼部幅56cmである。火床部は床面から10cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。北壁が削平されているため、壁外への掘り込みは不明である。

竈土層解説

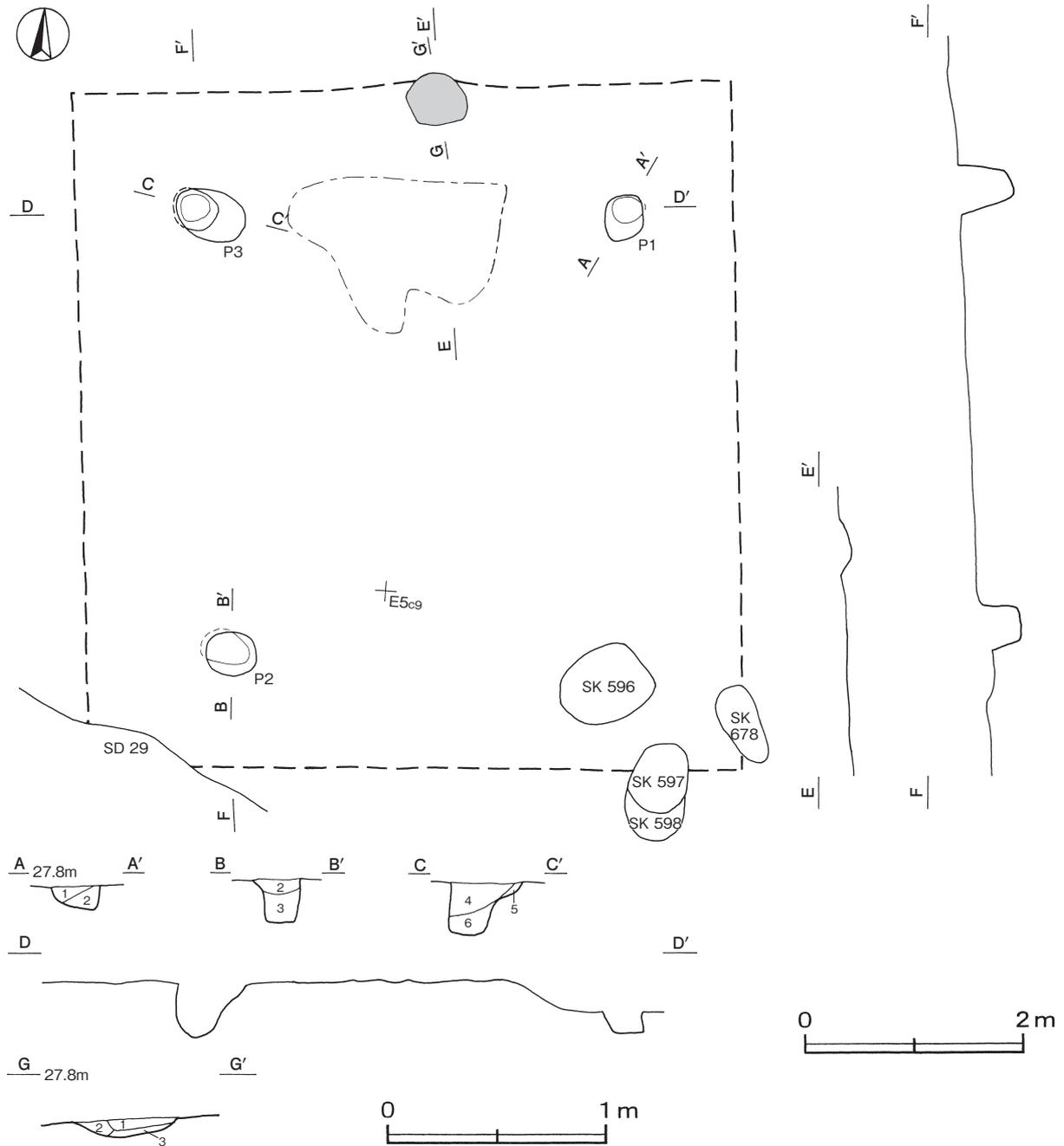
- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子微量 | 3 にぶい褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | |

ピット 3か所。P1～P3は確認面からの深さ22～52cmで、主柱穴である。

ピット土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 灰色 ロームブロック中量 |

所見 時期は、不明である。



第334図 第166号住居跡実測図

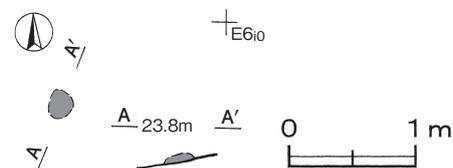
(2) 地点貝塚

第7号地点貝塚 (第335図)

位置 調査Ⅱ区南部のE 6 i9区, 標高23.6mの斜面部に位置している。

規模と形状 遺構確認面である第4層上面で, 長径0.22m, 短径0.20mの円形に貝の散布が確認された。出土した貝は層を形成しておらず, 地山には掘り込みの痕跡が確認されていない。確認された貝は, ヤマトシジミ229点(右殻117, 左殻112)である。

所見 時期は, 出土遺物がないため不明である。



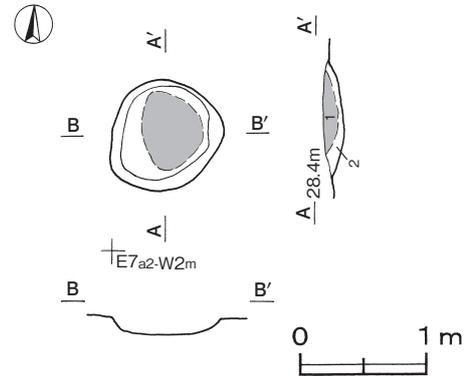
第335図 第7号地点貝塚実測図

第8号地点貝塚（第336図）

位置 調査Ⅱ区東部のD7j1区，標高28.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.88m，短径0.84mの円形で，深さ16cmの土坑内に，長径0.63m，短径0.48mの楕円形で，長径方向がN-25°-Wの範囲で貝層が確認された。

貝層 単一層である。第1層はレンズ状に堆積した純貝層で，厚さ12cmである。第2層は土坑の覆土で，レンズ状の堆積をしていることから自然堆積である。貝は土坑にある程度土砂が堆積した後，廃棄されたものと考えられる。出土した貝は，ヤマトシジミ232点（右殻95，左殻137）である。



第336図 第8号地点貝塚実測図

土層解説

- 1 純貝層 貝多量
- 2 褐色 ロームブロック少量

所見 時期は，出土遺物がないため不明である。

表19 地点貝塚一覧表

遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	貝出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸 (m)	深さ (cm)						
7	E 6 i9	-	円形	0.22 × 0.20	-	-	-	-	ヤマトシジミ	不明	
8	D 7 j1	N - 25° - W	楕円形	0.63 × 0.48	12	-	-	-	ヤマトシジミ	不明	

(3) 道路跡

第1号道路跡（第337図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 h6～E 6 d3区，標高28.3～26.6mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第121・122号住居跡，第6号方形竪穴遺構，第27・33号溝跡，第458・616～618・625・634号土坑を掘り込み，第626号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第27号溝跡の走行方向に重なるように，長さは40mほど確認でき，幅は0.2～1.0mである。E 6 e3区から北方向（N-1°-W）へ28mほど直線状に伸び，D 6 h3区で東に屈曲し12mほど直線状に伸びている。

覆土 単一層である。本跡より古い遺構の覆土最上層が厚さ2～6cmで硬化しており，各遺構の埋没後に踏み固められたものと考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

所見 重複している中世と考えられる第6号方形竪穴遺構，第616～618・634号土坑より新しいが，本跡より新しい第626号土坑が時期不明のため時期を限定することができない。

第2号道路跡（第337図）

位置 調査区東部のE 7 b5～E 7 d4区，標高28.0～27.6mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第144号住居跡を掘り込んでいます。

規模と形状 路面と考えられる硬化した土が，長さは9mほど，幅0.7～1.0mの範囲で断続的に確認された。E 7 d4区から北方向（N-6°-E）へ7mほど直線状に伸び，E 7 b4区で東へ屈曲し直線状に2mほど伸び，

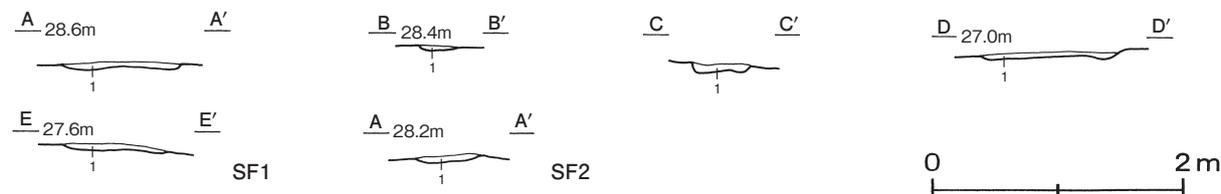
調査区域外に至っている。南端も調査区域外に延びているものと推測される。地山に深さ5cmの掘り込みが遺存している箇所が確認されており、全体的に溝状の掘り込みを利用していたものと考えられる。

覆土 単一層である。溝状の掘り込みに堆積した土砂が硬化している。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

所見 時期は、重複関係から第144号住居跡より新しいが、遺物が出土していないため不明である。



第337図 第1・2号道路跡実測図

表20 道路跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	規模			断面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)						
1	D 6 i5 ~ D 6 e3 D 6 h6 ~ E 6 d3	N - 1° - W	L字形	40.0	0.2 ~ 1.0	2 ~ 6	U字状	緩斜	-	-	不明	SI121・122, 第6方形竪穴遺構, SD27・33, SK458・616 ~ 618・625・634 → 本跡 → SK626
2	E 7 b5 ~ E 7 d4	N - 6° - E	L字形	(9.0)	0.7 ~ 1.0	5	U字状	緩斜	-	-	不明	SI144 → 本跡

(4) 溝跡

第27号溝跡 (第338図)

位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 h6 ~ E 6 e3区, 標高28.3 ~ 26.6mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第121・122号住居跡, 第6号方形竪穴遺構, 第33号溝跡, 第458・616 ~ 618・625・634号土坑を掘り込み, 第1号道路, 第626号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長さは46mほどで, 北方向(N - 1° - W)へ30mほど直線状に延び, D 6 h3区で東に屈曲し16mほど直線状に延びている。上幅0.24 ~ 2.00m, 下幅0.13 ~ 1.08m, 深さ7 ~ 11cmである。断面形は逆台形状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

3 暗褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片188点(坏7, 甕180, 甑1), 須恵器片20点(坏19・甕1), 陶器片2点(播鉢), 石器1点(砥石), 鉄滓1点が覆土中から出土している。いずれも小片のため図示することができない。

所見 時期は, 重複している近世の第616 ~ 618・625・634号土坑より新しいが, 本跡より新しい第1号道路跡や第626号土坑が時期不明なことや伴う遺物が出土していないため不明である。また, 性格も不明である。

第28号溝跡 (第338図)

位置 調査Ⅱ区東部のD 7 g4 ~ E 7 e1区, 標高28.7 ~ 27.5mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第140・141・165号住居跡を掘り込み, 第39号溝, 第556号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側が調査区域外のため確認された長さは34.75mで, 北東方向(N - 25° - E)へ直線状に延び

ている。上幅0.38～1.55m，下幅0.20～1.15m，深さ12～30cmである。断面形は逆台形状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

2 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片1点（坏）が覆土中から出土している。小片のため図示することができない。

所見 時期は，重複している8世紀後葉の第165号住居跡より新しいが，本跡より新しい第556号土坑が時期不明なことや伴う遺物が出土していないため不明である。また，性格も不明である。

第29号溝跡（第338図）

位置 調査Ⅱ区西部のE 5 c6～E 5 c9区，標高27.6mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第166号住居跡を掘り込み，第30号溝，第582～587・653号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第30号溝跡と重複しているため確認された長さは14.68mで，北西方向（N-72°-W）へ弧状に延びている。上幅0.56～1.08m，下幅0.30～0.72mだけが確認され，深さ8～18cmである。断面形はU字状もしくは逆台形状と推測され，確認された壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片9点（深鉢），土師器片690点（坏37，高台付椀1，甕649，手捏土器3），須恵器片86点（坏37，高台付坏2，蓋5，甕42），灰釉陶器片1点（瓶），陶器片5点（碗4，香炉1），磁器片14点（碗10，猪口3，急須1），瓦質土器片1点（甕），土製品3点（球状土錘1，支脚2），鉄製品3点（不明）が覆土中から出土している。いずれも小片や磨滅した細片のため図示することができない。

所見 時期は，重複している近世の第528～587・653号土坑より古い，伴う遺物が出土していないため不明である。また，性格も不明である。

第30号溝跡（第338図）

位置 調査Ⅱ区西部のE 5 c4～E 6 g1区，標高27.6mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第151号住居跡，第29・34・38号溝跡を掘り込み，第581～586・588・609・614・653～655号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西側が調査区域外のため確認された長さは42mほどで，北西方向（N-58°-W）へ蛇行して延びている。上幅0.45～1.62m，下幅0.10～1.38m，深さ4～12cmである。断面形は逆台形状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

3 褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢），土師器片88点（坏7，高台付坏1，椀2，甕78），須恵器片6点（坏1，甕5），灰釉陶器片1点（不明），土師質土器片1点（鍋），陶器片1点（碗），磁器片1点（碗）が出土している。これらは覆土中から出土している。いずれも小片のため図示することができない。

所見 時期は、重複している7世紀の第151号住居跡より新しく、近世の586・609・588・614・653～655号土坑より古い、伴う遺物が出土していないため不明である。また、性格も不明である。

第31号溝跡（第338図）

位置 調査Ⅱ区中央部のE 6 b0～E 6 b2区、標高27.0mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第604～606号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長さは14.50mで、北東方向(N-75°-E)へ直線状に延びている。上幅0.36～0.68m、下幅0.08～0.26m、深さ19～21cmである。断面形はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片9点（坏3、甕6）、須恵器片1点（坏）が覆土中から出土している。いずれも磨滅した細片のため図示することができない。

所見 時期は、重複している第604～606号土坑より新しいが、伴う遺物が出土していないため不明である。また、性格も不明である。

第32号溝跡（第338図）

位置 調査Ⅱ区中央部のE 6 b4～E 6 e3区、標高26.5mの緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長さは11.50mで、北方向(N-18°-E)へ直線状に延びている。上幅0.49～0.98m、下幅0.05～0.53m、深さ19～39cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。第2・3層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積で、第1層は粘土ブロックを多く含んでいることから人為堆積である。

土層解説

1 灰褐色 粘土ブロック多量

2 暗褐色 ローム粒子少量

3 褐色 ロームブロック少量

所見 時期は、出土遺物や重複関係がないため不明である。

第33号溝跡（第338図）

位置 調査Ⅱ区中央部のE 6 a2～E 6 b5区、標高27.3mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第1号道路、第27号溝、第626号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長さは12.04mで、北西方向(N-83°-W)へ直線状に延びている。上幅0.10～0.90m、下幅0.08～0.10m、深さ10～20cmである。断面形はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片11点（甕）、須恵器片1点（蓋）が覆土中から出土している。いずれも小片のため図示することができない。

所見 時期は、重複している第1号道路跡や第626号土坑が時期不明なことや、伴う遺物が出土していないため不明である。また、性格も不明である。

第34号溝跡（第338図）

位置 調査Ⅱ区南部のE 6 g2区，標高25.6mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第35号溝跡を掘り込み，第30号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西側が調査区域外のため確認された長さは10.28mで，北東方向（N - 44° - E）へ弧状に延びている。上幅1.06～2.38m，下幅0.46～0.65m，深さ12cmである。断面形は逆台形状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片55点（坏6，高台付坏1，高坏1，甕47），須恵器片15点（坏4，甕11）が出土している。これらは覆土中から出土しており，小片のため図示することができない。

所見 時期は，重複している第30・35号溝跡が時期不明なことや，伴う遺物が出土していないため不明である。また，性格も不明である。

第35号溝跡（第338図）

位置 調査Ⅱ区南部のE 6 g3区，標高24.8mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第34号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南側が調査区域外であるため確認された長さは8.36mで，北東方向（N - 9° - E）へ直線状に延び，E 6 f4区で東に屈曲している。上幅0.35～0.55m，下幅0.16～0.29m，深さ12cmである。断面形はU字状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師器片13点（坏4，甕9），須恵器片2点（甕）が出土している。これらは覆土中から出土しており，磨滅した細片のため図示することができない。

所見 時期は，重複している第34号溝跡が時期不明なことや，伴う遺物が出土していないため不明である。また，性格も不明である。

第36号溝跡（第338図）

位置 調査Ⅱ区南部のE 6 i0区，標高25.0mの緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 南側が調査区域外のため確認された長さは6.30mで，北西方向（N - 8° - W）へ弧状に延びている。上幅0.55～2.15m，下幅0.26～1.12m，深さ32～42cmである。断面形は逆台形状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|---------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 にぶい褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | | |

所見 時期は，出土遺物や重複関係がないため不明である。

第37号溝跡（第338図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD 5 e8～D 6 f2区，標高28.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第120号住居跡を掘り込み、第50号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東端は第50号溝跡と重複しており、西端は不明瞭なため確認された長さは16.80mで、西方向（N-78°-E）へ直線状に伸び、D 5 e8区で南に屈曲している。上幅0.49～0.98m、下幅0.20～0.67m、深さ17cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 焼土粒子微量

2 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片13点（坏1、甕12）、須恵器片1点（高台付坏）が覆土中から出土している。いずれも小片のため図示することができない。

所見 時期は、重複している8世紀前葉の第120号住居跡より新しいが、本跡より新しい第50号溝跡が時期不明なことや、伴う遺物が出土していないため不明である。また、性格も不明である。

第38号溝跡（第338図）

位置 調査Ⅱ区西部のE 5 d0区、標高26.2mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第30号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南端が第30号溝跡と重複しているため確認された長さは2.55mで、北方向（N-8°-W）へ直線状に伸びている。上幅0.20～0.34m、下幅0.09m、深さ3cmである。掘り込みが浅いため断面形及び壁の立ち上がりは不明瞭である。

遺物出土状況 縄文土器片3点（不明）、土師器片24点（甕）、磁器片1点（不明）が覆土中から出土している。いずれも摩滅した細片ため図示することができない。

所見 時期は、重複している第30号溝跡が時期不明なことや、伴う遺物が出土していないため明確でない。また、性格も不明である。

第39号溝跡（第338図）

位置 調査Ⅱ区東部のD 7 g4～E 7 a3区、標高27.6mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第28号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長さは9.98mで、北東方向（N-28°-E）へ5.64m直線状に伸び、D 7 d2区で東に屈曲し、4.34m直線状に伸びている。上幅0.17～0.67m、下幅0.04～0.50m、深さ10cmである。断面形はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

3 褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ロームブロック少量

所見 時期は、重複している第28号溝跡が時期不明なことや、伴う遺物が出土していないため不明である。また、性格も不明である。

第50号溝跡（第338図）

位置 調査Ⅱ区中央部のC 6 i1～D 6 j2区、標高28.4～26.4mの台地平坦部から緩やかな斜面部にかけて位置している。

重複関係 第114・117・120・121・128号住居跡，第37号溝跡を掘り込み，第535・536・542号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側が調査区域外のため確認された長さは51.16mで，北方向（N-15°-E）へ蛇行して延びている。上幅0.24～1.88m，下幅0.12～0.48m，深さ4～20cmである。断面形はU字状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

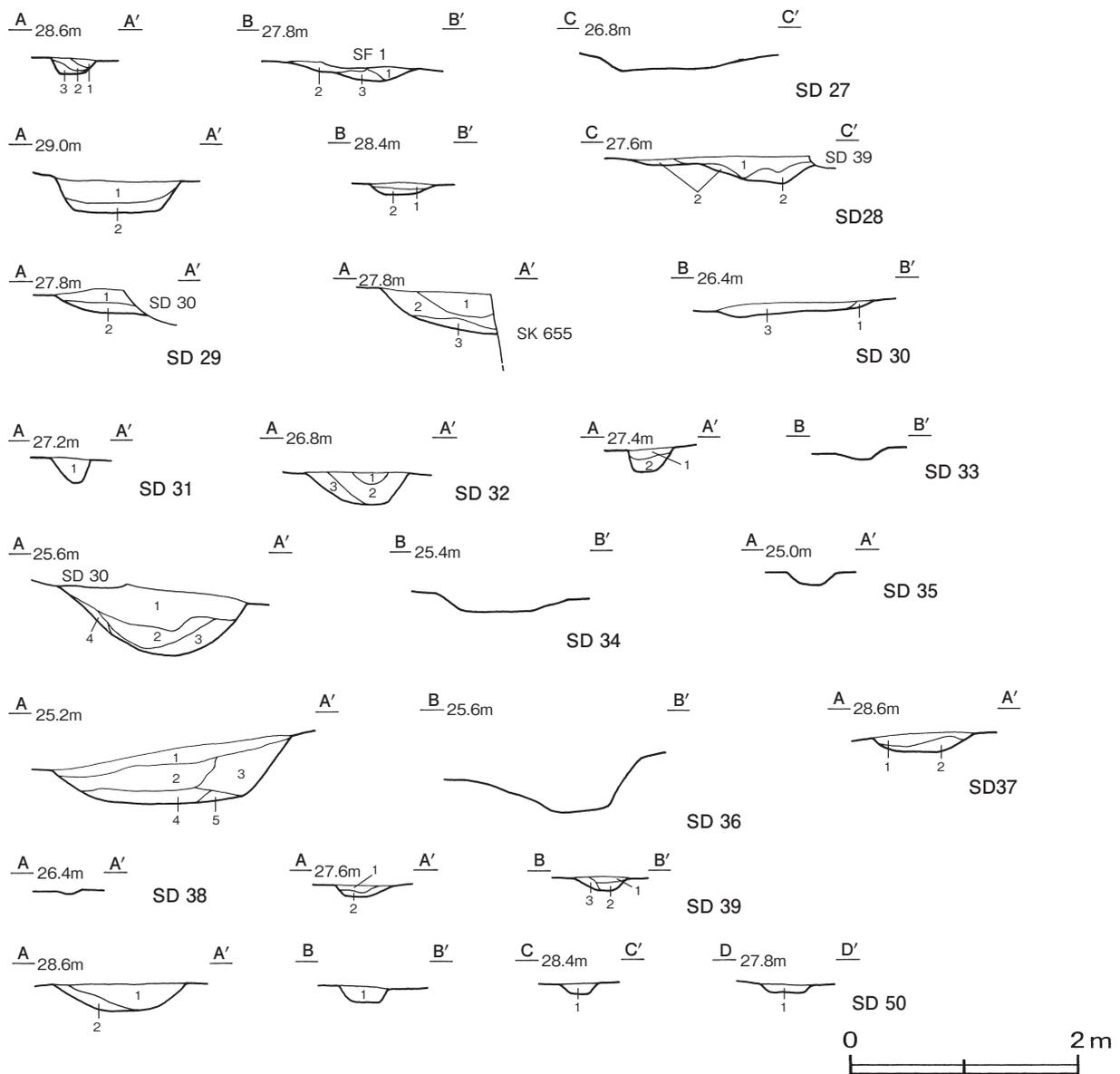
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子微量

所見 時期は，重複している8世紀中葉の第121号住居跡より新しいが，本跡より新しい第535・536・542号土坑が時期不明なことや，伴う遺物が出土していないため不明である。また，性格も不明である。



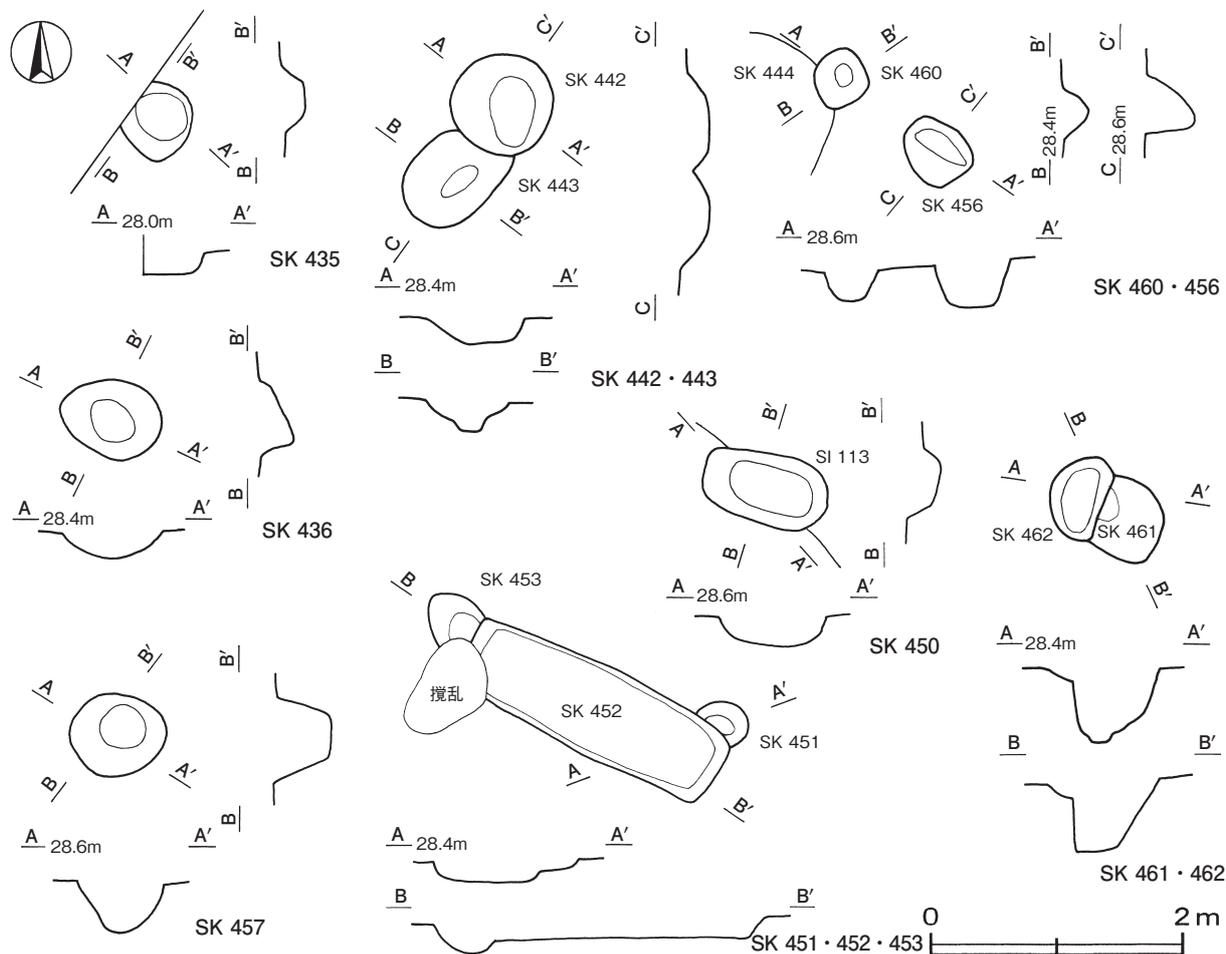
第338図 第27～39・50号溝跡実測図

表21 溝跡一覧表

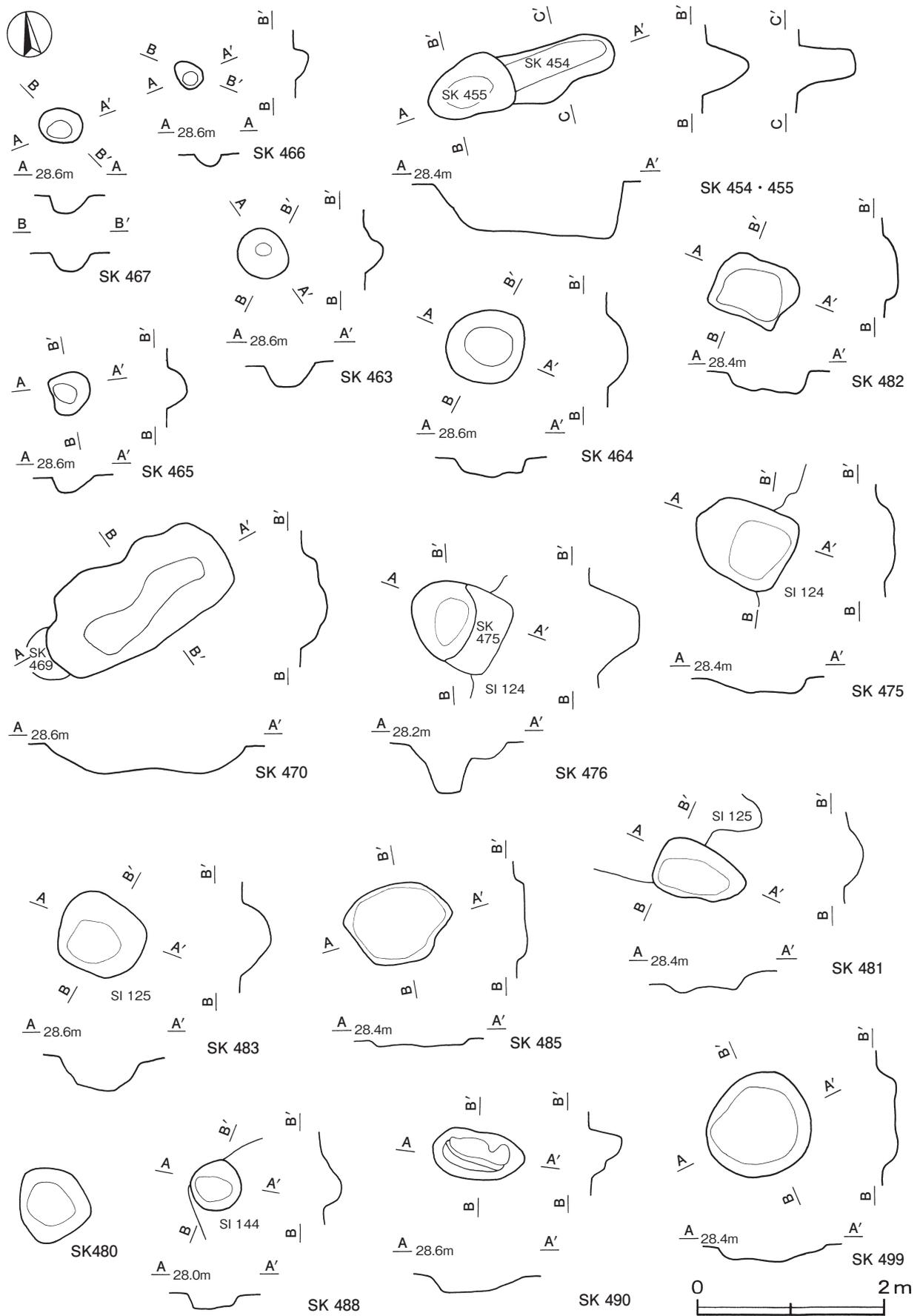
遺構番号	位置	主軸方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)						
27	D 6h6 ~ E 6e3	N - 1° - W	L字形	46.00	0.24 ~ 2.00	0.13 ~ 1.08	7 ~ 11	逆台形	緩斜・外傾	自然	土師器, 須恵器, 陶器, 砥石	不明	SI121・122, 第6方形竪穴遺構, SD33, SK458・616・618・625・634→本跡→SF 1, SK626
28	D 7g4 ~ E 7e1	N - 25° - E (直線)	(直線)	(34.75)	0.38 ~ 1.55	0.20 ~ 1.15	12 ~ 30	逆台形	緩斜・外傾	自然	土師器	不明	SI140・141・165→本跡→SD39, SK556
29	E 5c6 ~ E 5c9	N - 72° - W (弧状)	(弧状)	(14.68)	0.56 ~ 1.08	0.30 ~ 0.72	8 ~ 18	U字・逆台形	緩斜	自然	縄文土器, 土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 陶器, 磁器, 瓦質土器, 球状土器, 支脚, 不明鉄製品	不明	SI166→本跡→SD30, SK582 ~ 587・653
30	E 5c4 ~ E 6g1	N - 58° - W (蛇行)	(蛇行)	(42.00)	0.45 ~ 1.62	0.10 ~ 1.38	4 ~ 12	逆台形	緩斜	自然	縄文土器, 土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 磁器	不明	SI151, SD29・34・38→本跡→SK581 ~ 586・588・609・614・653 ~ 655
31	E 6b0 ~ E 6b2	N - 75° - E 直線	直線	14.50	0.36 ~ 0.68	0.08 ~ 0.26	19 ~ 21	U字	外傾	自然	土師器, 須恵器	不明	SK604 ~ 606→本跡
32	E 6b4 ~ E 6e3	N - 18° - E 直線	直線	11.50	0.49 ~ 0.98	0.05 ~ 0.53	19 ~ 39	逆台形	緩斜	自然・人為	-	不明	-
33	E 6a2 ~ E 6b5	N - 83° - W 直線	直線	12.04	0.10 ~ 0.90	0.08 ~ 0.10	10 ~ 20	U字	緩斜・外傾	自然	土師器, 須恵器	不明	本跡→SF 1, SD27, SK626
34	E 6g2	N - 44° - E (弧状)	(弧状)	(10.28)	1.06 ~ 2.38	0.46 ~ 0.65	12	逆台形	緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	SD35→本跡→SD30
35	E 6g3	N - 9° - E L字形	L字形	(8.36)	0.35 ~ 0.55	0.16 ~ 0.29	12	U字	外傾	-	土師器, 須恵器	不明	本跡→SD34
36	E 6i0	N - 8° - W (弧状)	(弧状)	(6.30)	0.55 ~ 2.15	0.26 ~ 1.12	32 ~ 42	逆台形	緩斜	自然	-	不明	-
37	D 5e8 ~ D 6f2	N - 78° - E L字形	L字形	(16.80)	0.49 ~ 0.98	0.20 ~ 0.67	17	逆台形	緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	SI120→本跡→SD50
38	E 5d0	N - 8° - W (直線)	(直線)	(2.55)	0.20 ~ 0.34	0.09	3	-	-	-	縄文土器, 土師器, 磁器	不明	本跡→SD30
39	D 7g4 ~ E 7a3	N - 28° - E L字形	L字形	9.98	0.17 ~ 0.67	0.04 ~ 0.50	10	U字	緩斜	自然	-	不明	SD28→本跡
50	C 6i1 ~ D 6j2	N - 15° - E (蛇行)	(蛇行)	(51.16)	0.24 ~ 1.88	0.12 ~ 0.48	4 ~ 20	U字	緩斜	自然	-	不明	SI114・117・120・121・128, SD37→本跡→SK535・536・542

(5) 土坑 (第339 ~ 346図)

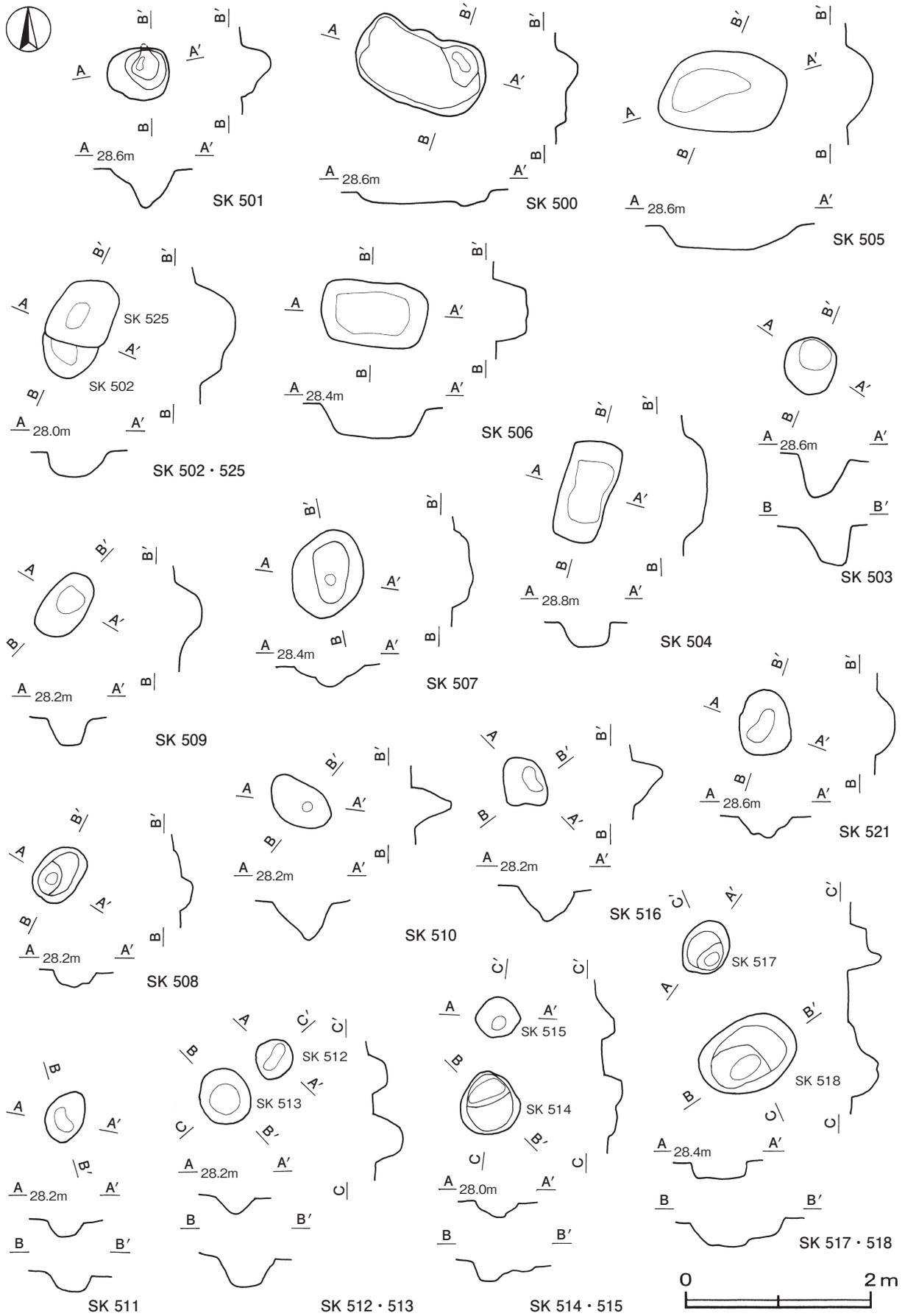
時期・性格ともに不明な土坑148基については、規模・形状等については実測図と一覧表を掲載する。



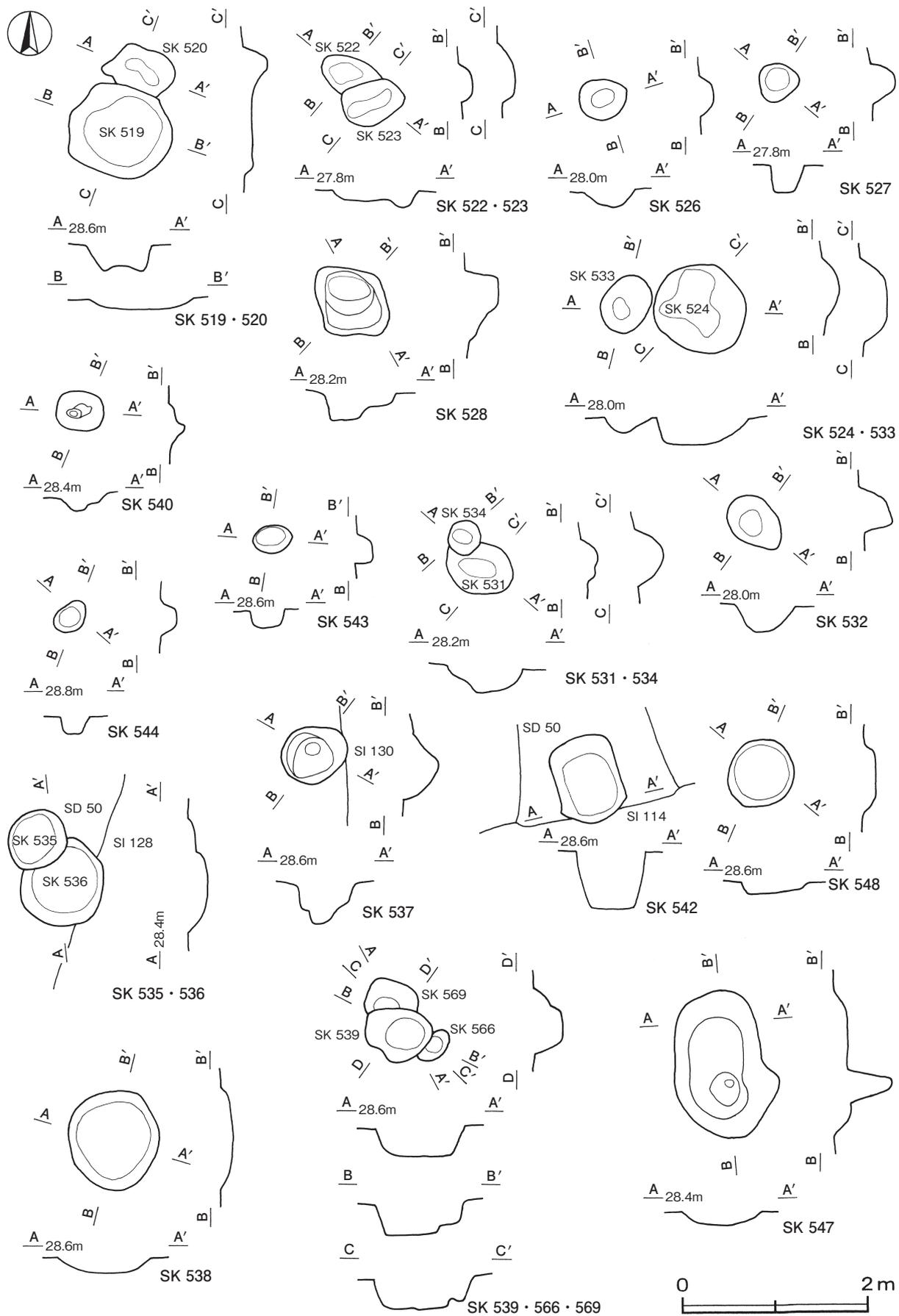
第339図 土坑実測図(1)



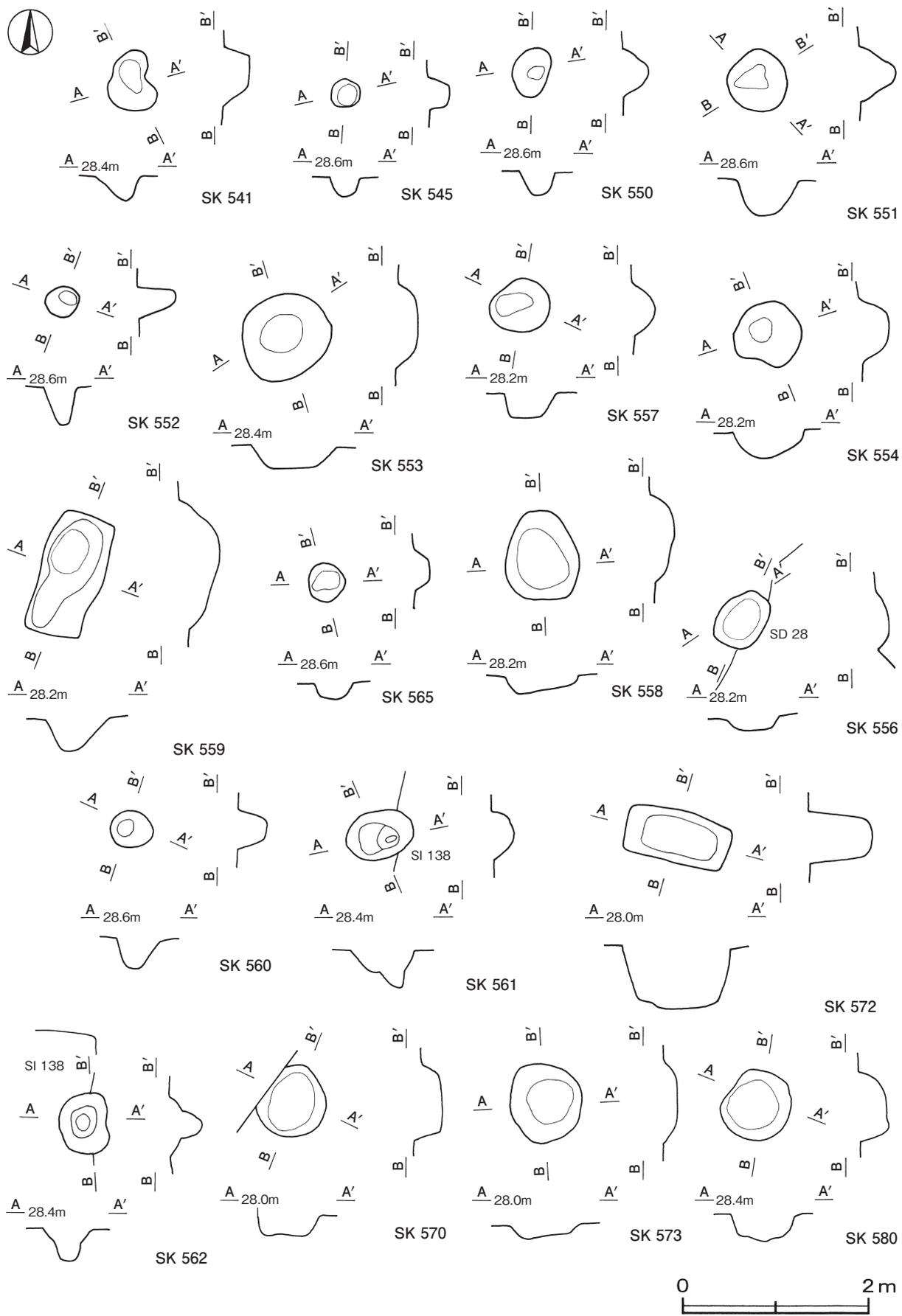
第340图 土坑实测图(2)



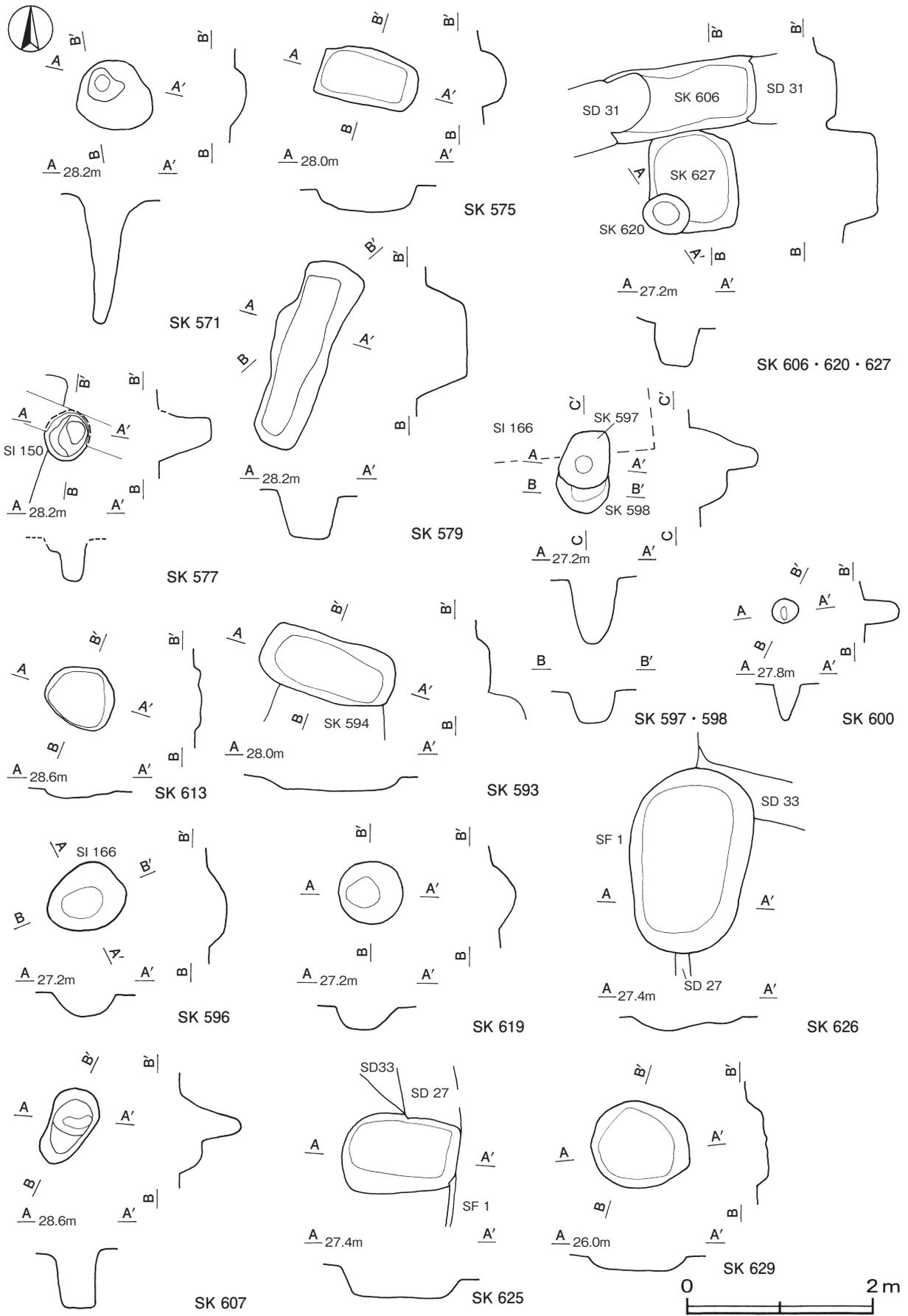
第341图 土坑实测图(3)



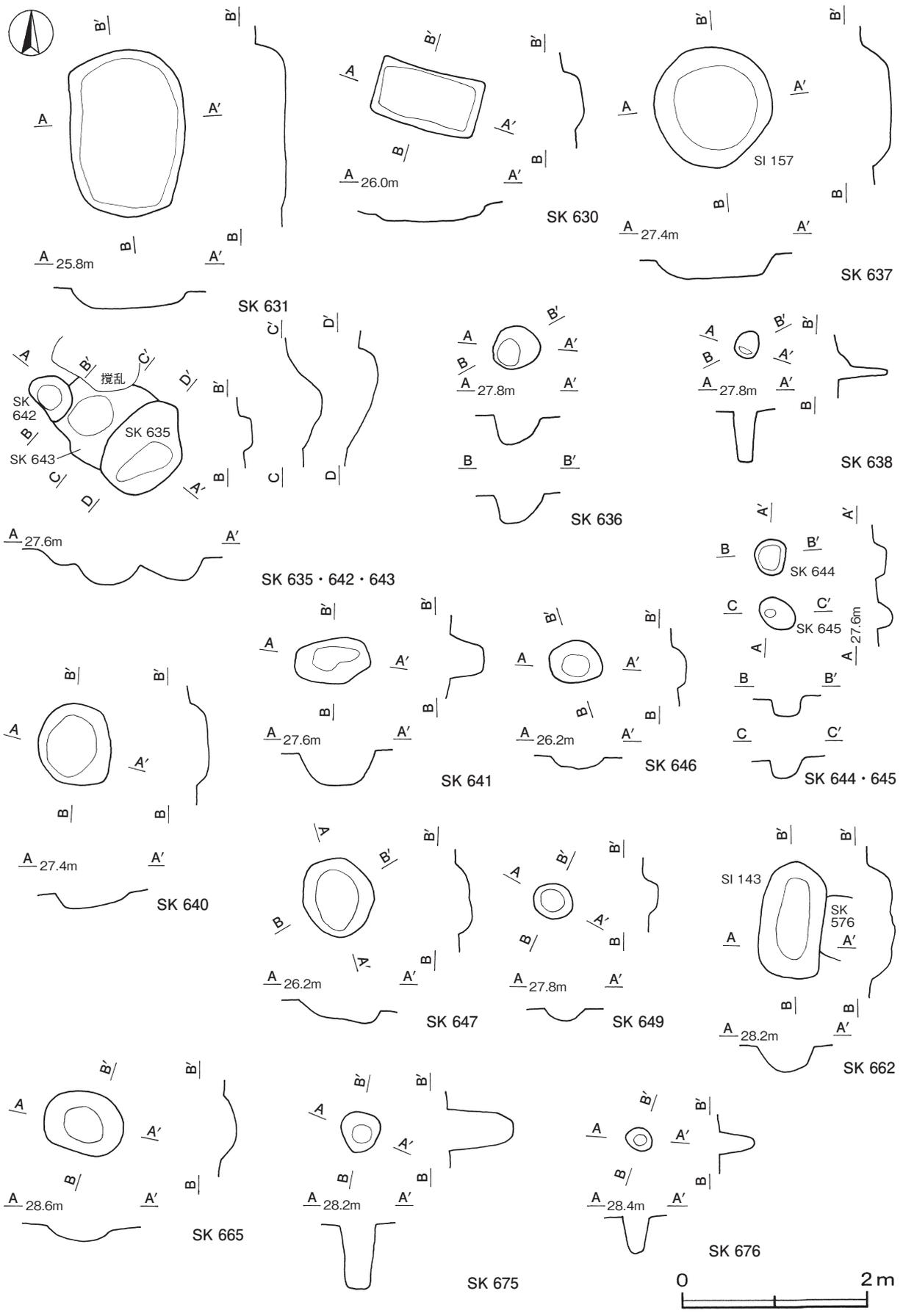
第342图 土坑实测图(4)



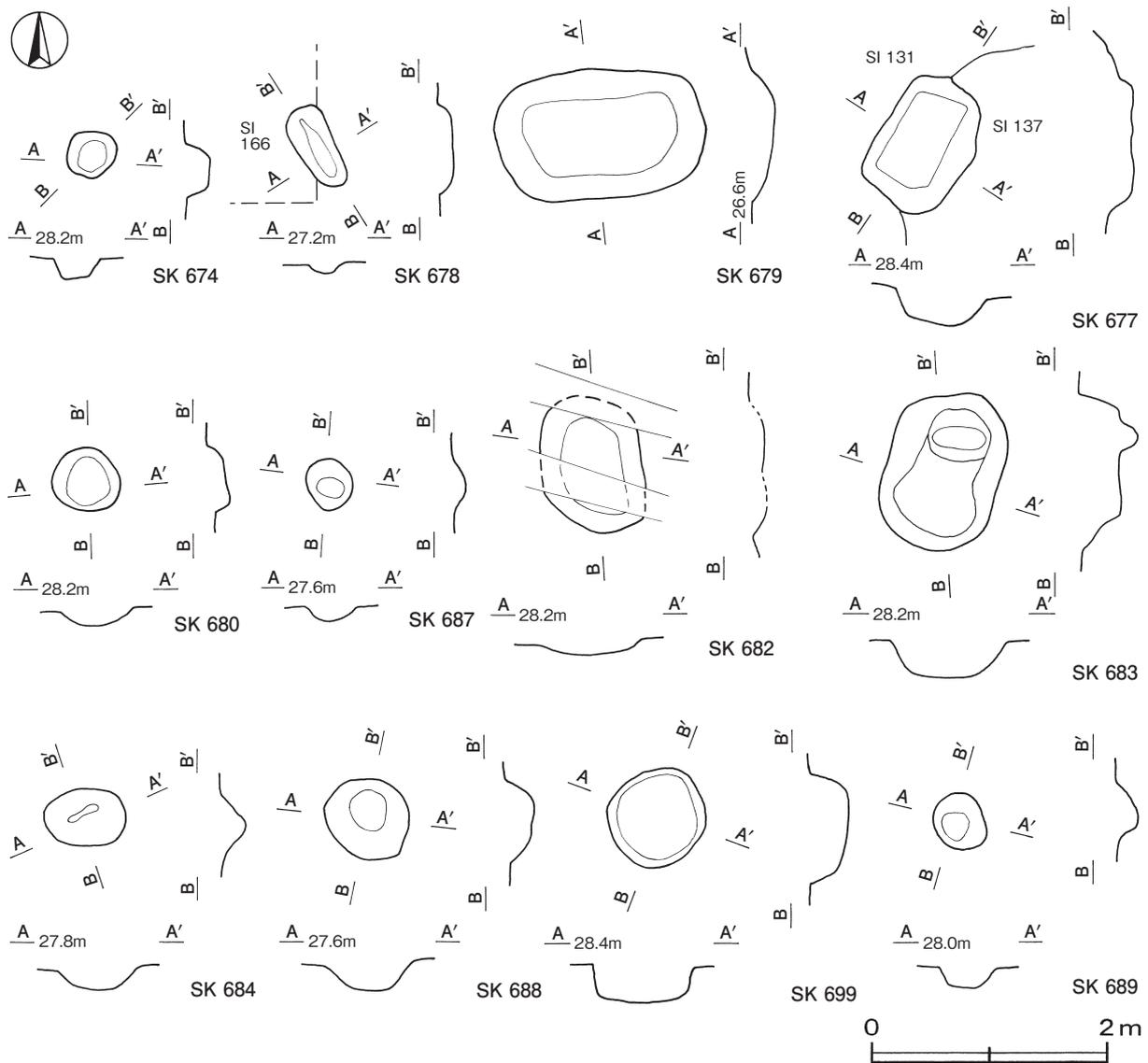
第343图 土坑实测图(5)



第344图 土坑实测图(6)



第345图 土坑实测图(7)



第346図 土坑実測図(8)

表22 土坑一覽表

遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸 (m)	深さ (cm)						
435	C 5 h9	-	[円形]	0.56×(0.50)	20	皿状	外傾 緩斜	自然	土師器	不明	
436	D 5 b0	N-78°-W	楕円形	0.80×0.52	30	皿状	緩斜	自然	-	不明	
442	D 5 h7	-	円形	0.79×0.79	20	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	SK443→本跡
443	D 5 h7	N-46°-E	[楕円形]	(0.77)×0.64	25	皿状	緩斜	自然	-	不明	本跡→SK442
450	D 5 e9	N-72°-W	楕円形	1.01×0.57	27	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	SI113→本跡
451	C 5 j0	N-58°-W	[楕円形]	0.41×(0.25)	30	平坦	緩斜	自然	-	不明	本跡→SK452
452	C 5 j0	N-61°-W	[長方形]	2.15×0.73	15	平坦	緩斜	人為	土師器, 須恵器	不明	SK451・453→本跡
453	C 5 j0	N-43°-W	[楕円形]	(0.52)×0.40	26	皿状	緩斜	自然	縄文土器, 土師器	不明	本跡→SK452
454	C 6 j1	N-75°-E	[不整楕円形]	(1.56)×0.62	63	皿状	外傾	自然	-	不明	本跡→SK455
455	C 5 j0	N-10°-W	不整楕円形	[0.94]×0.65	47	皿状	緩斜	自然	-	不明	SK454→本跡
456	D 6 a1	N-47°-W	楕円形	0.56×0.46	37	皿状	直立 緩斜	自然	-	不明	
457	C 5 j0	N-85°-W	楕円形	0.75×0.65	44	皿状	緩斜	人為	-	不明	

遺構 番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸 (m)	深さ (cm)						
460	C 6 j1	-	方形	0.44×0.42	24	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	SK444 →本跡
461	C 6 j1	N-36°-W	[楕円形]	(0.73)×0.59	60	皿状	外傾	自然	土師器	不明	本跡→SK462
462	C 5 i0	N-14°-E	不整楕円形	0.66×0.45	8	皿状	緩斜	自然	-	不明	SK461 →本跡
463	D 5 a0	N-50°-W	楕円形	0.57×0.51	25	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
464	D 5 a9	N-35°-E	楕円形	0.83×0.79	20	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器	不明	
465	D 6 a1	N-49°-E	楕円形	0.46×0.45	23	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
466	D 5 a0	-	楕円形	0.32×0.23	17	凹凸	外傾 緩斜	自然	土師器	不明	
467	D 5 a0	N-75°-W	楕円形	0.48×0.39	20	凹凸	外傾 緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	
470	D 6 c6	N-56°-E	不定形	2.15×1.03	30	凹凸	緩斜	人為	-	不明	SK469 →本跡
475	D 6 j8	N-67°-W	不定形	1.18×0.88	51	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI124, SK476 →本跡
476	D 6 j8	N-4°-W	[楕円形]	0.88×[0.80]	21	皿状	緩斜	自然	-	不明	SI124 →本跡→SK475
480	D 6 e4	-	円形	0.40×0.36	25	-	-	不明	-	不明	
481	D 6 i0	N-69°-W	[不整長方形]	[1.00]×0.62	20	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI125 →本跡
482	D 6 i0	N-66°-W	不整長方形	0.90×0.71	19	皿状	外傾	人為	土師器	不明	
483	D 6 i9	N-69°-W	楕円形	0.93×0.84	32	皿状	緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	SI125 →本跡
485	D 6 i8	N-45°-E	不定形	1.00×0.91	10	平坦	外傾	自然	-	不明	
488	E 7 c3	-	円形	0.55×0.55	18	皿状	外傾	自然	土師器	不明	SI144 →本跡
490	D 6 h9	N-82°-W	不整楕円形	1.00×0.52	37	二段	外傾 緩斜	自然	土師器	不明	
499	D 7 i1	N-61°-E	卵形	1.15×1.09	14	凹凸	緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	
500	D 7 h3	N-67°-W	不整長方形	1.43×0.83	25	平坦	外傾 緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	
501	D 7 h3	N-79°-W	楕円形	0.64×0.58	43	皿状	外傾 緩斜	自然	土師器	不明	
502	E 7 b1	-	[円形]	0.61×(0.38)	32	皿状	緩斜	自然	-	不明	本跡→SK525
503	D 7 g2	-	円形	0.58×0.56	46	傾斜	直立 緩斜	自然	縄文土器	不明	
504	D 6 f0	N-18°-E	長方形	1.12×0.55	26	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
505	D 6 h9	N-73°-E	不定形	1.42×0.95	22	皿状	外傾 緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	
506	D 7 j2	N-82°-W	隅丸長方形	1.14×0.70	34	平坦	緩斜	人為	縄文土器, 土師器	不明	
507	D 7 j1	N-14°-E	卵形	0.98×0.79	26	二段	緩斜	人為	土師器, 須恵器	不明	
508	E 7 a1	N-31°-E	長楕円形	0.63×0.46	18	二段	緩斜	自然	-	不明	
509	E 7 a1	N-36°-E	長楕円形	0.76×0.46	28	皿状	緩斜	自然	-	不明	
510	E 7 a1	N-53°-E	長楕円形	0.71×0.48	40	U字	外傾	人為	土師器	不明	
511	E 6 a0	N-32°-E	長楕円形	0.58×0.40	18	皿状	外傾 緩斜	自然	土師器	不明	
512	E 6 a0	-	円形	0.45×0.43	17	皿状	外傾 緩斜	自然	-	不明	
513	E 6 a0	N-40°-W	楕円形	0.61×0.52	31	皿状	外傾	人為	-	不明	
514	E 6 a9	N-16°-W	卵形	0.67×0.63	22	二段	外傾	人為	-	不明	
515	E 6 a0	-	円形	0.48×0.44	20	皿状	緩斜	人為	-	不明	
516	E 6 a9	N-42°-W	隅丸台形	0.61×0.52	39	U字	緩斜	自然	-	不明	
517	D 6 jo	N-33°-E	楕円形	0.60×0.48	32	二段	外傾	自然	-	不明	
518	D 7 jo	N-58°-E	楕円形	1.07×0.79	28	二段	緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	
519	D 7 h1	N-67°-W	楕円形	1.14×0.95	11	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	SK520 →本跡
520	D 7 h1	N-62°-W	不定形	0.68×(0.58)	28	凹凸	外傾	自然	-	不明	本跡→SK519
521	D 7 i2	N-17°-E	楕円形	0.72×0.60	22	凹凸	緩斜	人為	-	不明	
522	E 7 c1	N-55°-W	[楕円形]	(0.62)×0.41	12	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	本跡→SK523
523	E 7 c1	N-68°-E	隅丸長方形	0.68×0.45	17	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	SK522 →本跡
524	E 7 b2	-	円形	1.01×0.92	30	皿状	外傾 緩斜	人為	土師器	不明	
525	E 7 b1	N-22°-E	不整長方形	0.75×0.65	44	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器	不明	SK502 →本跡
526	E 7 b2	-	円形	0.50×0.46	14	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	

遺構 番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸 (m)	深さ (cm)						
527	E 7 c1	N - 41° - E	隅丸台形	0.40×0.38	28	皿状	緩斜	人為	-	不明	
528	E 7 a3	N - 45° - W	不定形	0.96×0.80	38	二段	外傾 緩斜	自然	-	不明	
531	D 6 j8	N - 51° - W	[楕円形]	0.80×0.60	33	皿状	緩斜	自然	須恵器	不明	本跡→SK534
532	D 6 j8	N - 50° - W	楕円形	0.65×0.47	33	平坦	緩斜	人為	土師器, 須恵器	不明	
533	E 7 b2	N - 40° - E	楕円形	0.63×0.50	13	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	
534	D 6 j8	N - 22° - E	楕円形	0.39×0.33	17	凹凸	緩斜	人為	-	不明	SK531→本跡
535	D 6 d2	N - 53° - E	楕円形	0.67×0.60	10	平坦	外傾	自然	-	不明	SI128, SD50, SK536→本跡
536	D 6 d2	N - 10° - E	[楕円形]	0.99×0.88	68	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI128, SD50→本跡→SK535
537	D 6 c2	N - 63° - E	楕円形	0.73×0.60	40	二段	外傾	自然	土師器	不明	SI130→本跡
538	D 6 b3	N - 2° - W	楕円形	1.07×0.97	17	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	
539	D 6 e4	N - 53° - W	不定形	0.68×0.57	35	皿状	緩斜	自然	-	不明	SK566・569→本跡
540	D 7 i1	N - 72° - W	楕円形	0.50×0.45	17	二段	緩斜	人為	土師器	不明	
541	D 7 j1	N - 6° - W	不定形	0.66×0.51	27	皿状	外傾 緩斜	人為	-	不明	
542	C 6 j1	N - 15° - W	不整長方形	0.95×0.70	63	皿状	外傾	人為	-	不明	SI114, SD50→本跡
543	D 7 g1	N - 77° - E	楕円形	0.40×0.30	19	皿状	外傾	自然	-	不明	
544	D 7 g1	N - 37° - E	楕円形	0.40×0.28	18	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	
545	D 6 h0	-	円形	0.31×0.29	22	皿状	外傾	自然	-	不明	
547	E 7 a2	N - 6° - W	不整楕円形	1.59×1.12	14・61	二段	緩斜	人為	-	不明	
548	D 7 g2	N - 21° - E	楕円形	0.75×0.68	14	皿状	緩斜	自然	-	不明	
550	D 7 i2	N - 10° - E	長楕円形	0.53×0.35	27	U字	緩斜	自然	-	不明	
551	D 7 i3	N - 23° - W	楕円形	0.72×0.65	39	二段	緩斜	自然	土師器	不明	
552	D 6 g0	N - 46° - E	楕円形	0.35×0.31	40	U字	直立 緩斜	自然	-	不明	
553	D 7 j2	N - 72° - E	楕円形	0.98×0.92	22	平坦	緩斜	自然	-	不明	
554	E 7 a2	N - 68° - E	不整円形	0.73×0.66	28	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
556	E 7 b2	N - 39° - E	長楕円形	0.65×0.50	15	皿状	緩斜	自然	-	不明	SD28→本跡
557	E 7 b3	N - 76° - E	不整楕円形	0.64×0.58	25	平坦	外傾 緩斜	人為	-	不明	
558	E 7 a3	N - 2° - W	不整楕円形	0.97×0.78	22	平坦	緩斜	自然	-	不明	
559	D 6 j8	N - 21° - E	不整長方形	1.38×0.69	43	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
560	D 6 g8	N - 76° - W	楕円形	0.49×0.40	32	皿状	外傾 緩斜	自然	-	不明	
561	E 7 a1	N - 15° - W	楕円形	0.70×0.53	46	二段	緩斜	人為	-	不明	SI138→本跡
562	E 7 a2	N - 0°	不整楕円形	0.71×0.49	38	二段	外傾	自然	-	不明	SI138→本跡
565	D 6 e3	-	円形	0.41×0.40	18	皿状	緩斜	自然	-	不明	
566	D 6 e4	N - 40° - E	[楕円形]	0.42×(0.20)	28	皿状	緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	本跡→SK539
569	D 6 e4	-	[方形]	0.56×(0.53)	34	皿状	緩斜	自然	-	不明	本跡→SK539
570	D 5 e4	N - 20° - E	[楕円形]	0.78×(0.67)	27	平坦	外傾	自然	-	不明	
571	E 5 a4	N - 64° - W	不定形	0.85×0.75	133	皿状	直立 緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	
572	E 5 b7	N - 75° - W	長方形	1.13×0.56	68	凹凸	外傾	人為	土師器, 須恵器, 鉄滓	不明	
573	E 5 a7	N - 34° - W	不整楕円形	0.87×0.78	14	平坦	緩斜	自然	土師器	不明	
575	E 5 a7	N - 75° - W	舟形	1.06×0.61	32	凹凸	外傾	人為	土師器, 須恵器, 陶器	不明	
577	E 5 a4	N - 10° - E	[楕円形]	[0.55]×0.49	47	皿状	直立 緩斜	自然	土師器	不明	SI150→本跡
579	D 5 h7	N - 20° - E	不整長方形	2.10×0.65	48	ほぼ平坦	外傾 緩斜	人為	土師器	不明	
580	D 5 i3	N - 26° - E	楕円形	0.76×0.68	30	凹凸	外傾	自然	-	不明	
593	E 5 a7	N - 70° - W	隅丸長方形	1.46×0.65	16	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	SK594→本跡
596	E 5 c9	N - 56° - E	楕円形	0.83×0.70	27	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器	不明	SI166→本跡
597	E 5 c9	N - 7° - E	舟形	0.62×0.53	70	皿状	外傾	自然	土師器, 須恵器	不明	SI166, SK598→本跡
598	E 5 c9	N - 3° - E	[楕円形]	0.56×(0.39)	37	平坦	外傾	人為	-	不明	本跡→SK597

遺構 番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸 (m)	深さ (cm)						
600	E 5 a8	-	円形	0.28×0.27	40	平坦	外傾	自然	-	不明	
606	E 6 b1	N-81°-E	[長方形]	[1.73]×0.76	20	皿状	外傾 緩斜	人為	-	不明	本跡→SD31
607	D 7 i4	N-33°-E	不定形	0.86×0.49	75	平坦	直立 緩斜	自然	-	不明	
613	D 7 h3	N-55°-W	楕円形	0.75×0.66	9	凹凸	緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	
619	E 6 b4	-	円形	0.70×0.67	21	皿状	緩斜	自然	-	不明	
620	E 6 b1	N-66°-W	楕円形	0.50×0.41	50	平坦	外傾	自然	-	不明	SK627→本跡
625	E 6 b3	N-85°-W	[隅丸長方形]	(1.24)×0.86	27	平坦	緩斜	自然	-	不明	本跡→SF1, SD27
626	E 6 b3	N-7°-E	楕円形	2.00×1.31	17	平坦	緩斜	自然	-	不明	SF1, SD27, SD33→本跡
627	E 6 b1	N-2°-W	[長方形]	(1.09)×0.95	50	平坦	垂直	不明	-	不明	本跡→SK620
629	E 6 e2	N-66°-W	楕円形	1.09×0.93	15	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	
630	E 6 f2	N-74°-W	長方形	1.17×0.66	13	皿状	外傾 緩斜	自然	-	不明	
631	E 6 f3	N-1°-E	楕円形	1.81×1.23	16	皿状	緩斜	自然	縄文土器, 土師器	不明	
635	E 6 b9	N-39°-E	不定形	1.08×0.77	27	傾斜	外傾 緩斜	自然	-	不明	SK643→本跡
636	E 6 a4	N-81°-E	不整円形	0.50×0.46	30	皿状	外傾 緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	
637	E 6 b6	-	円形	1.30×1.28	12 (20)	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	SI157→本跡
638	D 6 j4	N-16°-E	楕円形	0.30×0.23	54	U字	直立	自然	-	不明	
640	E 6 c8	N-31°-W	不整楕円形	0.90×0.82	26	平坦	緩斜	自然	-	不明	
641	E 6 b8	N-78°-E	不整隅丸 長方形	0.60×0.49	39	平坦	外傾 緩斜	人為	-	不明	
642	E 6 b8	N-37°-W	楕円形	0.50×0.38	14	皿状	外傾	自然	土師器, 須恵器, 陶器, 磁器	不明	SK643→本跡
643	E 6 b8	N-40°-E	[不定形]	1.01×(0.67)	39	皿状	緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	本跡→SK635・642
644	E 6 b9	N-34°-E	楕円形	0.38×0.33	18	平坦	緩斜	自然	-	不明	
645	E 6 b9	N-62°-W	楕円形	0.43×0.31	23	平坦	外傾 緩斜	自然	-	不明	
646	E 6 d6	N-67°-W	楕円形	0.58×0.47	13	皿状	外傾 緩斜	人為	-	不明	
647	E 6 e5	N-14°-W	楕円形	0.87×0.77	22	傾斜	緩斜	自然	土師器	不明	
649	E 6 a6	N-68°-W	楕円形	0.45×0.38	13	皿状	緩斜	自然	-	不明	
662	E 7 a4	N-7°-E	不整長方形	1.24×0.64	26	凹凸	緩斜	自然	-	不明	SI143, SK576→本跡
665	D 5 e0	N-78°-W	楕円形	0.85×0.65	16	皿状	緩斜	自然	-	不明	
674	D 5 g0	N-46°-E	楕円形	0.44×0.40	18	平坦	外傾	自然	-	不明	
675	D 6 g1	N-75°-W	楕円形	0.30×0.24	39	皿状	外傾	自然	土師器	不明	
676	D 5 f9	N-8°-E	不整円形	0.44×0.41	66	平坦	直立	人為	-	不明	
677	D 6 a4	N-29°-E	不整長方形	1.15×0.80	25	凹凸	緩斜	自然	-	不明	SI131・137→本跡
678	E 5 c9	N-31°-W	長楕円形	0.75×0.35	13	皿状	緩斜	人為	須恵器, 陶器	不明	SI166→本跡
679	E 6 c1	N-84°-E	隅丸長方形	1.77×1.10	20	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
680	D 6 j8	N-85°-E	楕円形	0.59×0.53	13	皿状	緩斜	自然	-	不明	
682	E 5 a4	N-2°-W	[楕円形]	[1.14]×0.53	13	皿状	緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	
683	E 5 a4	N-17°-E	楕円形	1.39×0.96	49	二段	外傾 緩斜	自然	-	不明	
684	E 6 b0	N-81°-E	楕円形	0.69×0.47	20	皿状	緩斜	自然	-	不明	
687	E 6 a5	N-29°-W	楕円形	0.43×0.37	12	平坦	外傾	自然	-	不明	
688	E 6 a5	N-41°-W	楕円形	0.78×0.67	24	皿状	緩斜	自然	-	不明	
689	D 6 i5	N-23°-W	不整楕円形	0.48×0.40	17	皿状	緩斜	人為	-	不明	
699	D 5 h4	N-20°-E	楕円形	0.90×0.82	32	皿状	外傾	自然	-	不明	

(6) ピット群

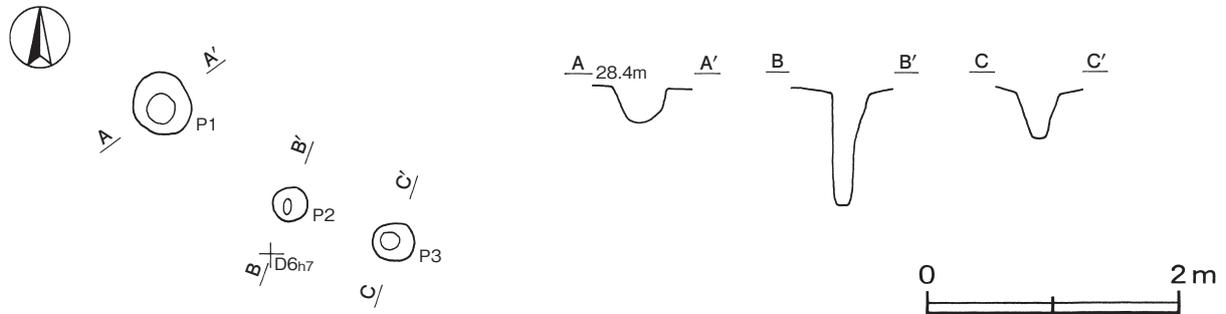
第1号ピット群 (第347図)

位置 調査Ⅱ区南部のE 6 g6～E 6 g7区, 標高28.3mの緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 東西2.3m, 南北1.5mの範囲から, ピット3か所が確認された。平面形は長径0.29～0.51m, 短径0.27～0.45mの円形または楕円形で, 深さは27～96cmである。

遺物出土状況 土師器片2点(甕), 鉄滓8点P1の覆土中から出土している。土器片は, いずれも細片のため図示することができない。

所見 時期は, 伴う遺物が出土していないため不明である。配置に規則性がなく, 性格は不明である。



第347図 第1号ピット群実測図

第2号ピット群 (第348・349図)

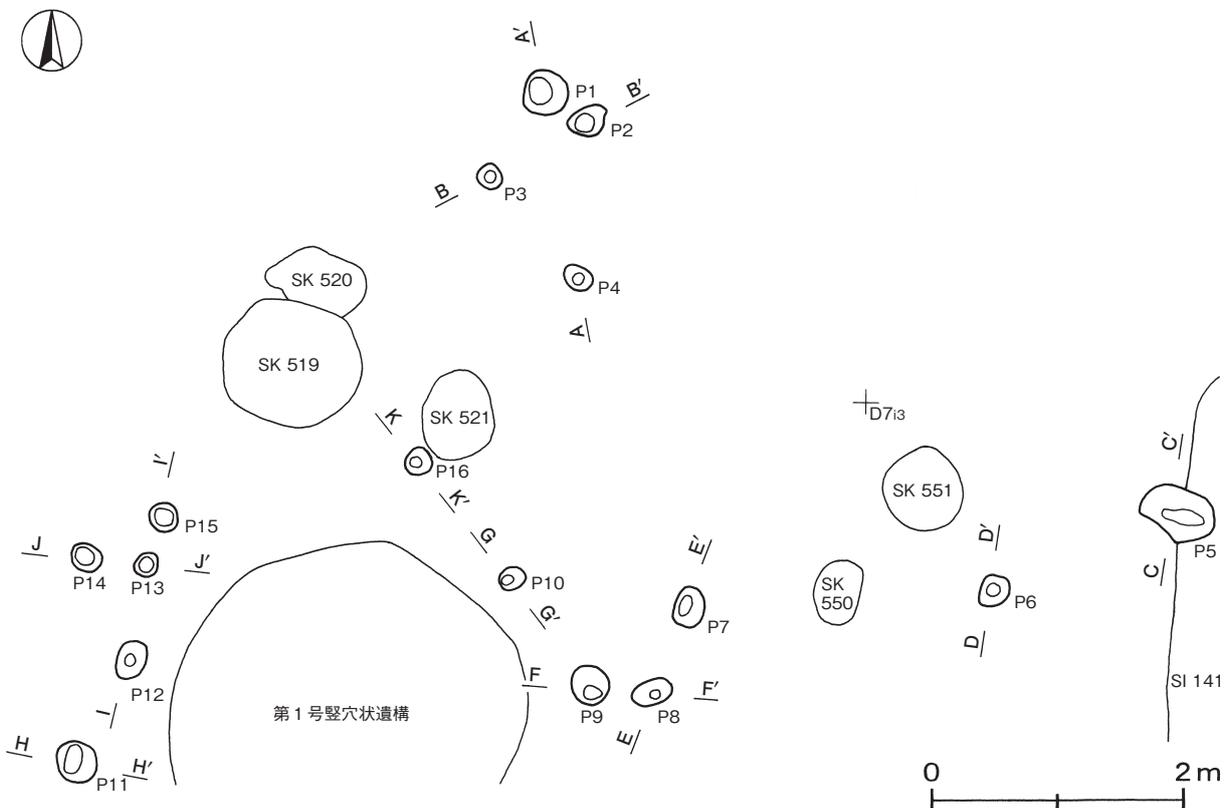
位置 調査Ⅱ区東部のD7h2～D7i3区, 標高28.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第141号住居跡を掘り込んでいる。

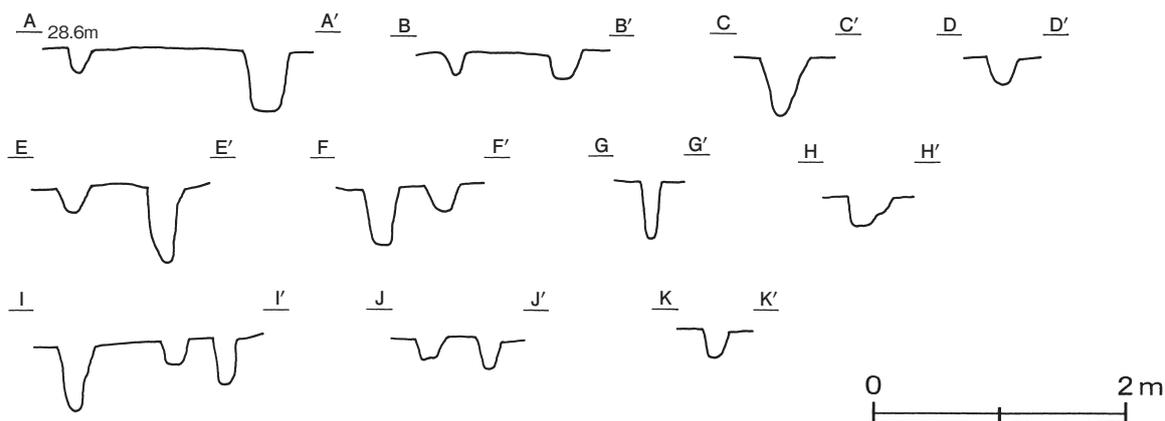
規模と形状 東西9.1m, 南北5.7mの範囲から, ピット16か所が確認された。平面形は長径0.20～0.61m, 短径0.17～0.44mの円形または楕円形で, 深さは17～63cmである。

遺物出土状況 土師器片2点(坏, 甕)が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示することができない。

所見 時期は, 伴う遺物が出土していないため不明である。配置に規則性がなく, 性格は不明である。



第348図 第2号ピット群実測図(1)



第349図 第2号ピット群実測図(2)

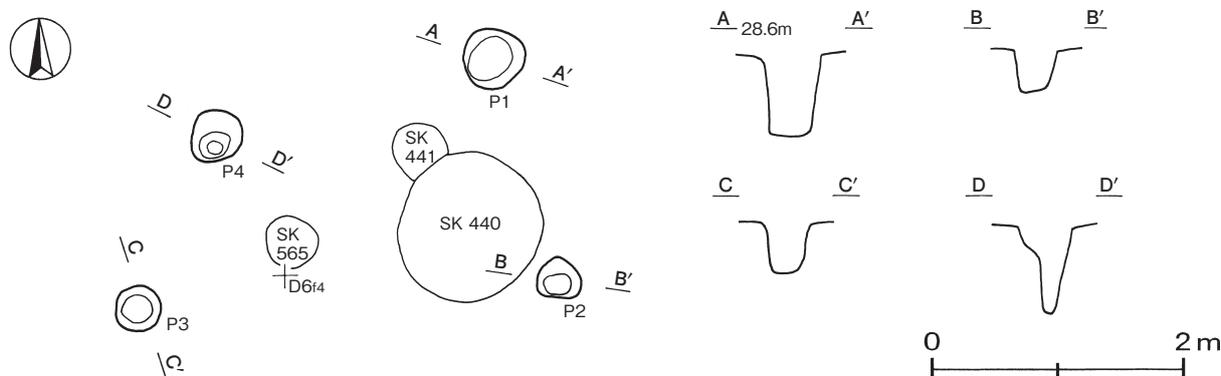
第3号ピット群 (第350図)

位置 調査Ⅱ区北部のD 6 e3～D 6 f4区、標高28.4mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東西3.7m，南北2.4mの範囲から，ピット4か所が確認された。平面形は長径0.36～0.50m，短径0.33～0.49mの円形で，深さは33～72cmである。

遺物出土状況 土師器片2点（甕）がP 3の覆土中から出土している。いずれも細片のため図示することができない。

所見 時期は，伴う遺物が出土していないため不明である。配置に規則性がなく，性格は不明である。



第350図 第3号ピット群実測図

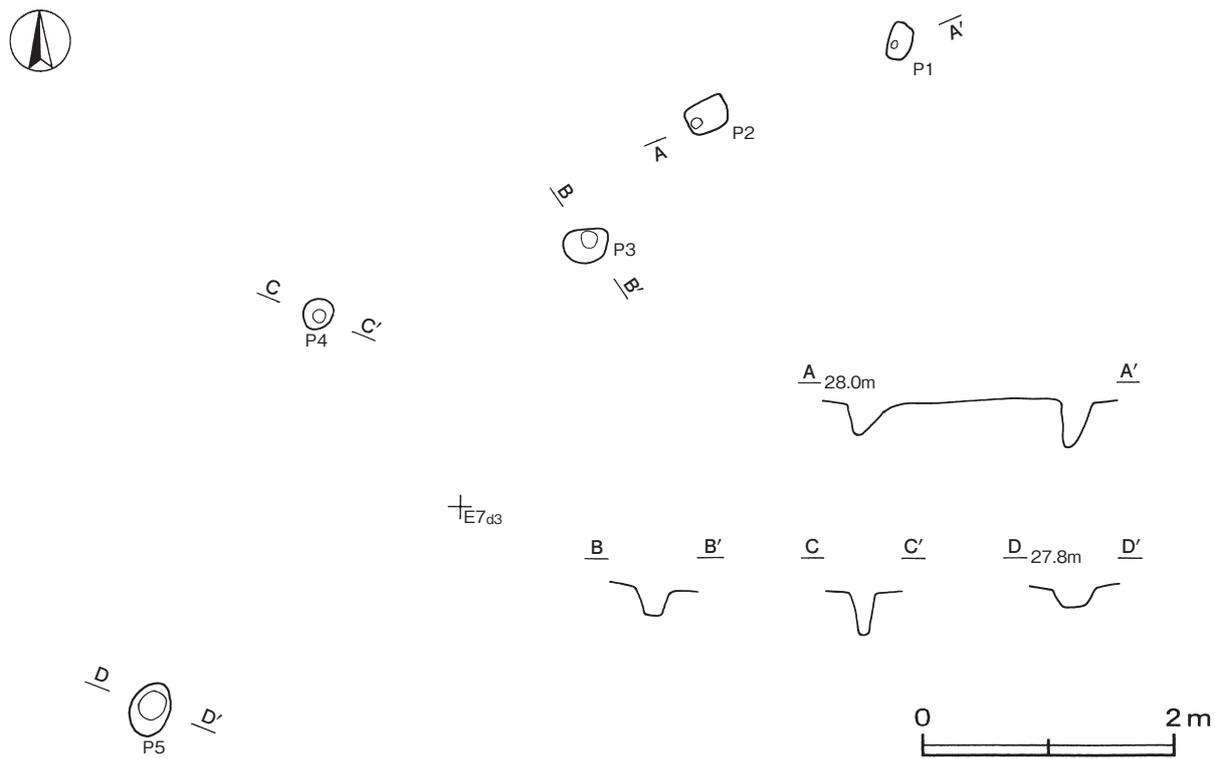
第4号ピット群 (第351図)

位置 調査Ⅱ区東部のE 7 c2～E 7 d2区，標高27.7mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東西6.2m，南北5.6mの範囲から，ピット5か所が確認された。平面形は長径0.23～0.43m，短径0.20～0.31mの円形または楕円形で，深さは20～38cmである。

遺物出土状況 土師器片1点（甕）がP 5の覆土中から出土している。細片のため図示することができない。

所見 時期は，伴う遺物が出土していないため不明である。配置に規則性がなく，性格は不明である。

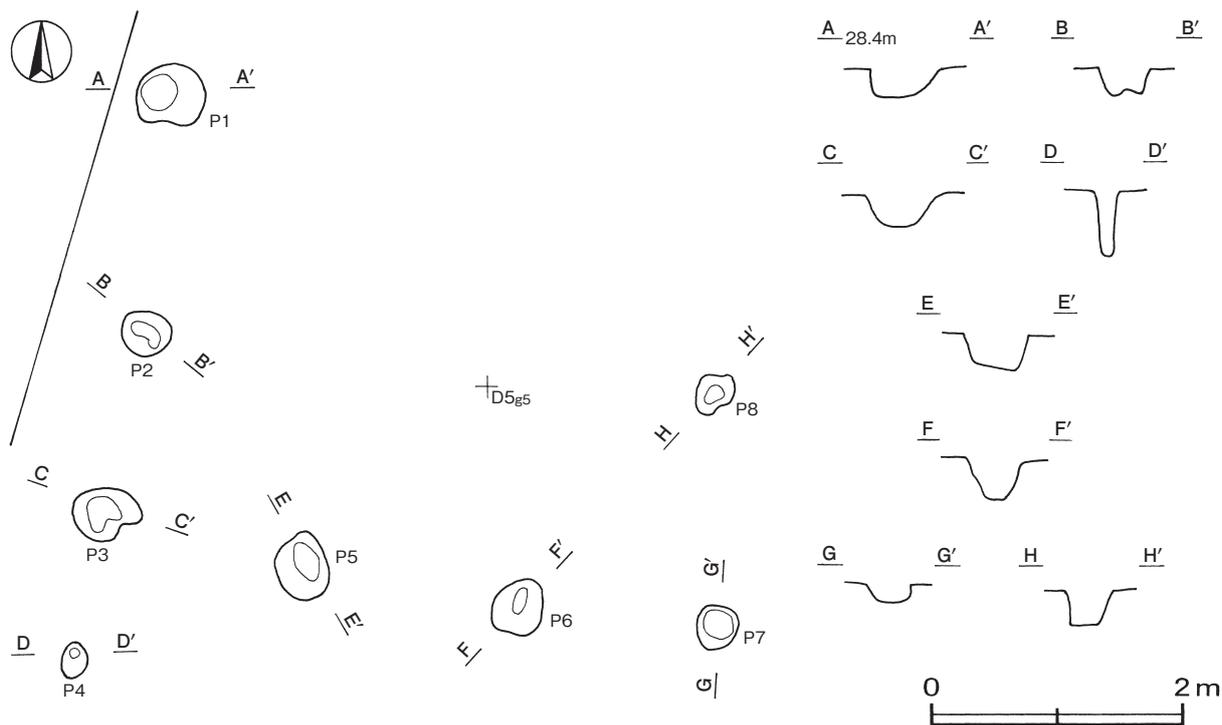


第351図 第4号ピット群実測図

第5号ピット群 (第352図)

位置 調査Ⅱ区西部のD 5 f4～D 5 g5区, 標高28.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東西5.3m, 南北5.0mの範囲から, ピット8か所が確認された。各ピットは1.1～2.0mの間隔で東西・南北に並んでいる。平面形は長径0.26～0.55m, 短径0.16～0.48mの楕円形または不整楕円形で, 深さは20～38cmである。



第352図 第5号ピット群実測図

遺物出土状況 土師器片7点(坏1, 甕6)がP1~P3・P5・P6の覆土中から出土している。いずれも細片のため図示することができない。

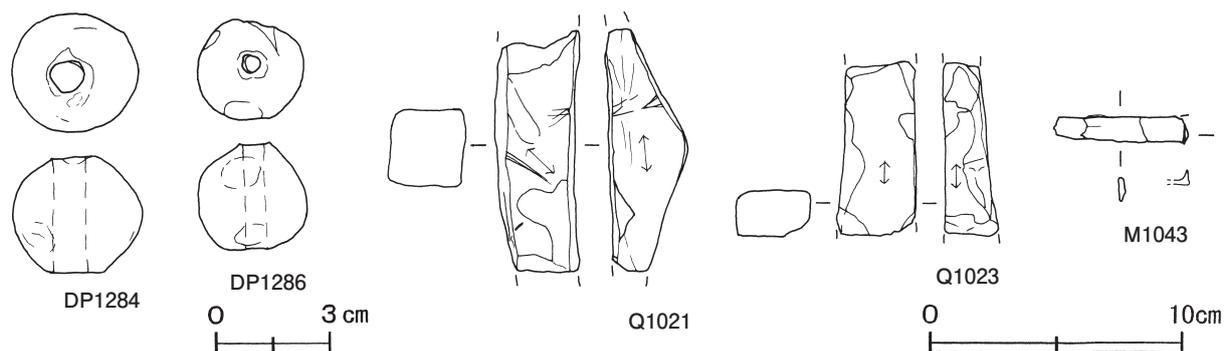
所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明である。配置に規則性があり、建物跡もしくは柵跡などの可能性が考えられるが、明確でないことからピット群とした。

表23 ピット群一覧表

遺構番号	位置	範囲		ピット数	ピット平面形	ピット規模			覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
		東西	南北			長径	短径	深さ(cm)				
1	E6g6~E6g7	2.3	1.5	3	円形・楕円形	0.29~0.51	0.27~0.45	27~96	-	土師器, 鉄滓	不明	-
2	D7h2~D7i3	9.1	5.7	16	円形・楕円形	0.20~0.61	0.17~0.44	17~63	-	土師器	不明	SI141→本跡
3	D6e3~D6f4	3.7	2.4	4	円形	0.36~0.50	0.33~0.49	33~72	-	土師器	不明	-
4	E7c2~E7d2	6.2	5.6	5	円形・楕円形	0.23~0.43	0.20~0.31	20~38	-	土師器	不明	-
5	D5f4~D5g5	5.3	5.0	8	楕円形・不整楕円形	0.26~0.55	0.16~0.48	20~38	-	土師器	不明	-

(7) 遺構外出土遺物(第353図)

調査Ⅱ区の遺構外で出土した遺物のうち、時期が特定できないものを、実測図及び一覧表で掲載する



第353図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表(第353図)

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1284	球状土錘	3.4	3.1	0.8~0.9	28.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	表土	
DP1285	球状土錘	2.9	2.4	0.7	17.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	表土	計測のみ
DP1286	球状土錘	2.8	2.8	0.6	(20.5)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	表土	
DP1287	球状土錘	2.4	2.1	0.5	(10.8)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	SD29 覆土中	計測のみ
DP1250	管状土錘	3.2~3.3	3.4	0.9~1.0	(32.7)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	UPI 覆土中	計測のみ

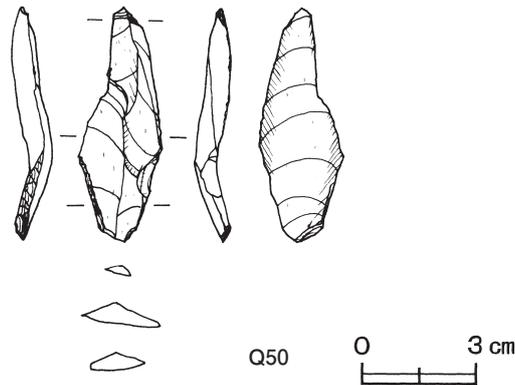
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1021	砥石	(9.5)	3.5	3.2	(118.0)	凝灰岩	砥面2面	SD27 覆土中	
Q1022	砥石	(8.9)	2.6	2.8	(80.5)	凝灰岩	砥面4面 欠落部分多	SD34 覆土中	計測のみ
Q1023	砥石	(6.9)	3.1	1.9	(62.0)	凝灰岩	砥面2面	SD34 覆土中	
Q1024	砥石	(3.8)	2.9	2.3	(26.9)	凝灰岩	砥面4面	表土	計測のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1043	鎌	(5.3)	(1.1)	(0.3)	(6.7)	鉄	先端・茎部一部欠損	SD29 覆土中	PL121
M1044	釘	(5.2)	0.6	0.5	(6.4)	鉄	断面四角形	SD29 覆土中	計測のみ
M1045	釘	(2.2)	0.4	0.3	(1.0)	鉄	断面四角形	SD29 覆土中	計測のみ

第5節 Ⅲ区の遺構と遺物

1 旧石器時代の遺物

Ⅲ区の調査では、遺構の覆土中から、旧石器時代の遺物であるナイフ形石器が出土している。ここでは、実測図を掲載し、計測値などを一覧表で記載した。



第354図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第354図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 50	ナイフ形石器	6.2	2.2	1.2	6.2	チャート	縦長剥片を素材とし、先端部及び基部の側縁に腹面からブランディングを施す。二側縁に微細剥離痕	SI76 覆土中	PL63

2 縄文時代の遺構と遺物

Ⅲ区の当時代の遺構は、陥し穴1基が確認された。以下、遺構と遺物、遺構外出土遺物について記述する。

(1) 陥し穴

第1号陥し穴（第355図）

位置 調査Ⅲ区北西部のB 2j7区、標高27.3mの台地先端部に位置している。

重複関係 第62号住居、第15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.05m、短径1.90mの不整円形で、長軸方向はN-0°である。深さは2.03mで、底面は平坦である。壁は、下部は直立し、120～130cmから上部は外傾して立ち上がっている。

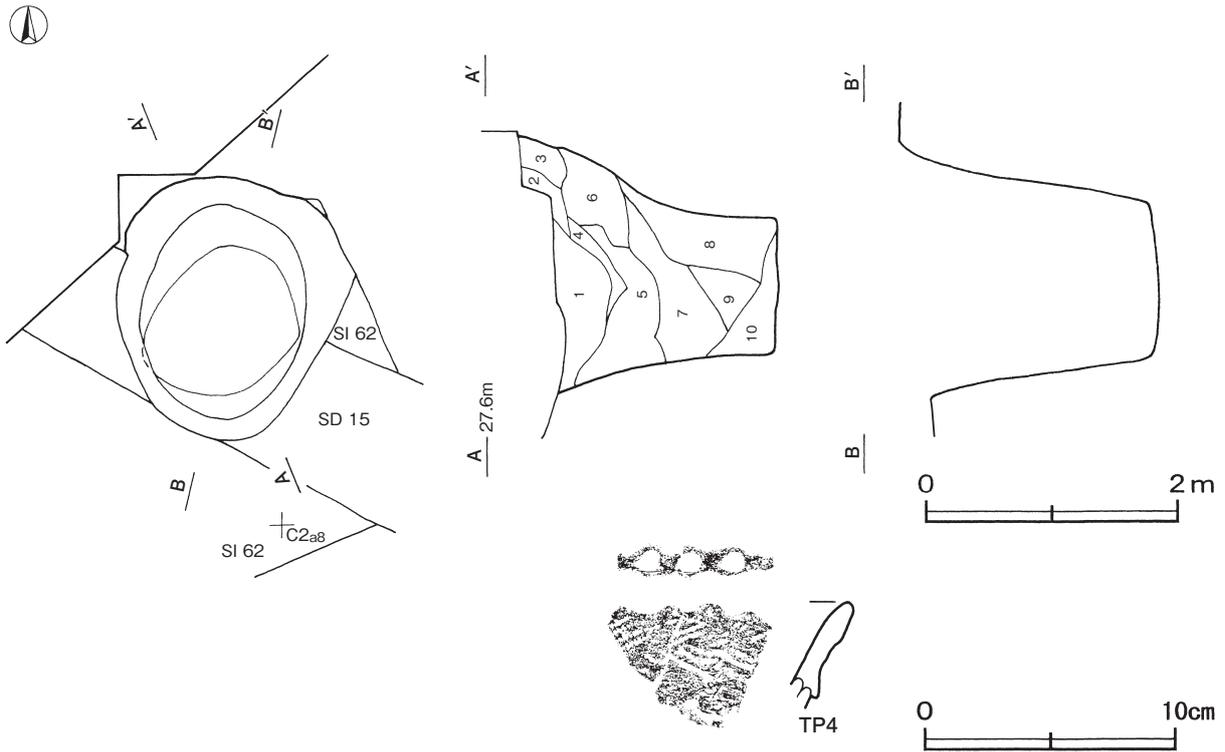
覆土 10層に分けられる。ロームブロックを多量に含み、不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック多量
2 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量（縮まり弱い）
3 褐色	ロームブロック中量	8 褐色	ロームブロック多量（縮まり強い）
4 暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック微量
5 暗褐色	ロームブロック少量	10 黒褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 覆土中から縄文土器片1点（鉢類）が出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代前期末葉と考えられる。



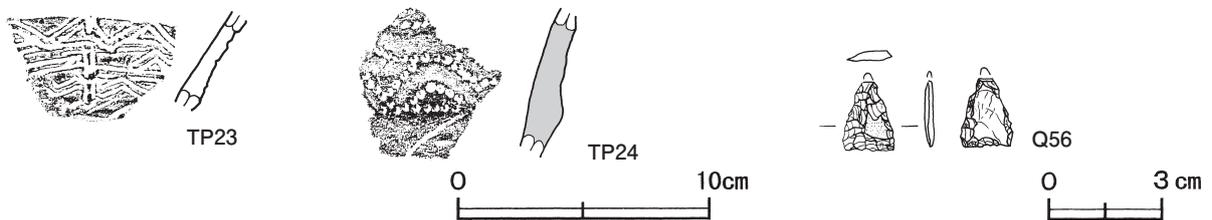
第355図 第1号陥し穴・出土遺物実測図

第1号陥し穴出土遺物観察表（第355図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP4	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口唇部押圧 口縁部に単節縄文を施文	覆土中	PL63 前期末葉

(2) 遺構外出土遺物（第356図）

今回の調査で、表土層等から遺構に伴わない縄文時代の遺物が出土している。ここでは、実測図及び遺物観察表で掲示する。



第356図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第356図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP23	縄文土器	深鉢	石英・赤色粒子	褐	普通	半裁竹管による平行沈線と連続山形文施文	HG3 覆土中	PL63 前期後半
TP24	縄文土器	深鉢	石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	円形刺突文による幾何学的文様施文	HG3 覆土中	PL63 早期末

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 56	石鎌	(1.8)	1.4	0.3	(0.8)	黒曜石	無茎鎌 両面押圧剥離調整	SI85 覆土中	PL63

3 古墳時代の遺構と遺物

Ⅲ区の当時代の遺構は、竪穴住居跡が43軒、遺物包含層2か所が確認された。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第61号住居跡（第357・358図）

位置 調査Ⅲ区北西部のB 2j7区、標高27.3mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第62号住居跡を掘り込み、第15・17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南側は第17号溝、北壁の一部が第15号溝によって掘り込まれており、東西軸が2.84mで、南北軸は2.28mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-28°-Eである。壁高は7～50cmで、壁は直立している。

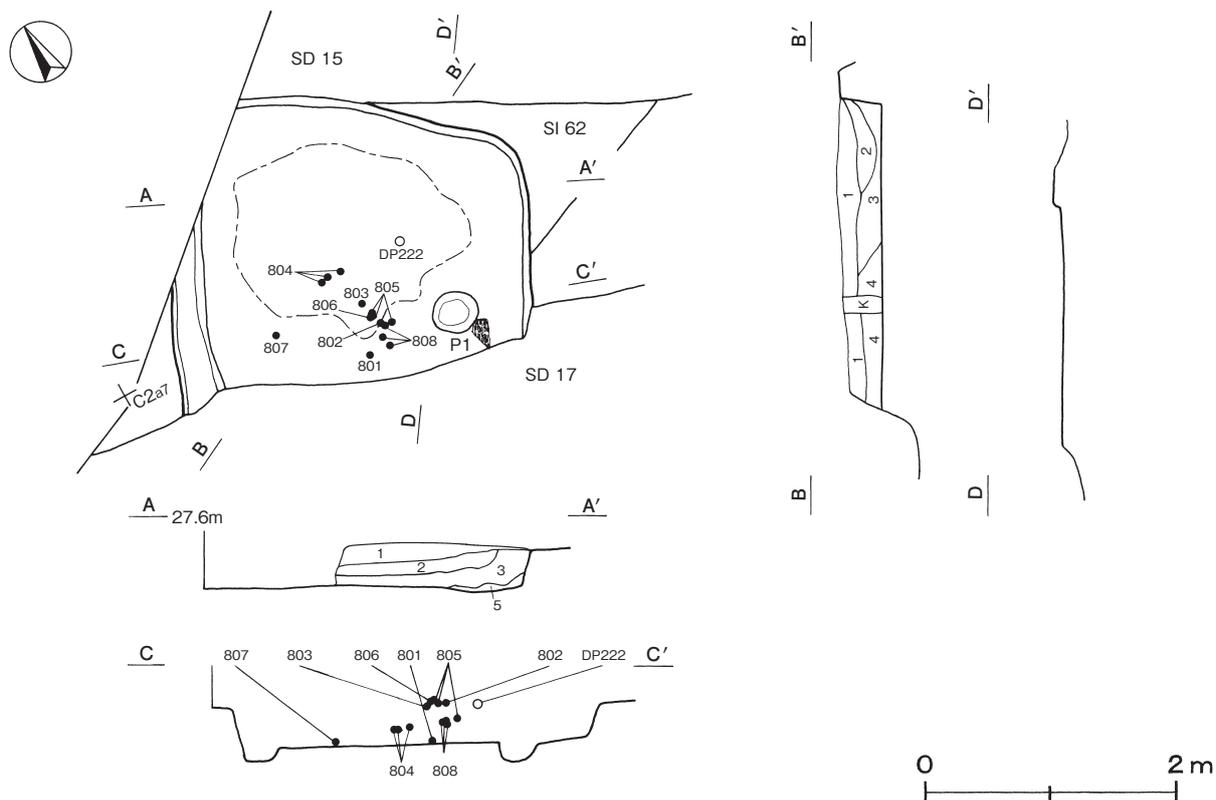
床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅26～34cm、深さ4～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。また、床面から炭化材が確認されている。

ピット 深さ19cmで支柱穴と考えられる。

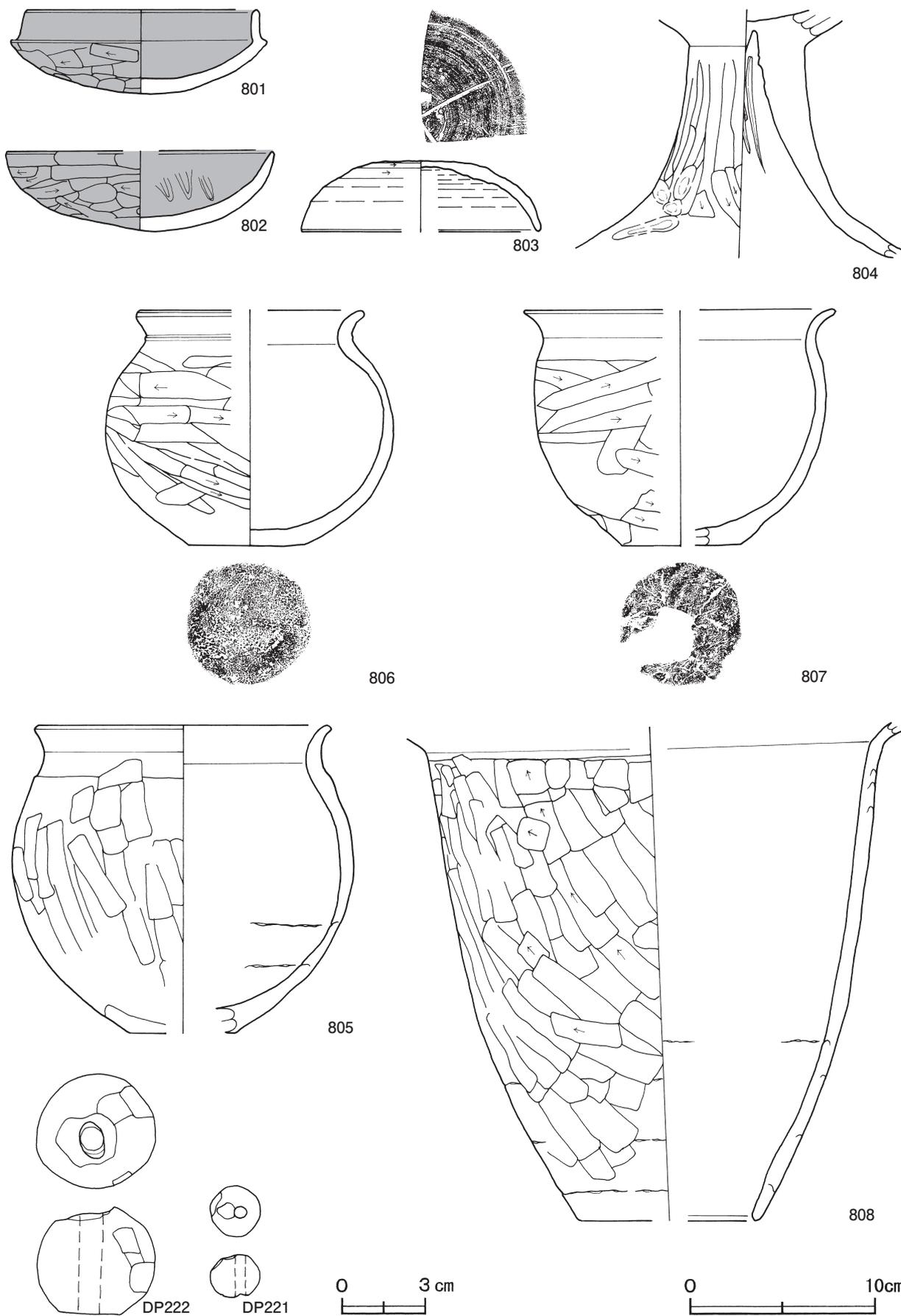
覆土 5層に分けられる。ロームブロックや炭化物などが多く混入していることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | 5 褐色 | ロームブロック多量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | | |



第357図 第61号住居跡実測図



第358图 第61号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片517点（坏類58，高坏1，甕447，甑11），須恵器片1点（蓋），土製品2点（土玉，球状土錘）が出土している。801・807は中央部の床面直上から出土している。

所見 床面からの炭化材や，堆積覆土の炭化材の含有率から，焼失住居と判断できる。時期は，出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。

第61号住居跡出土遺物観察表（第358図）

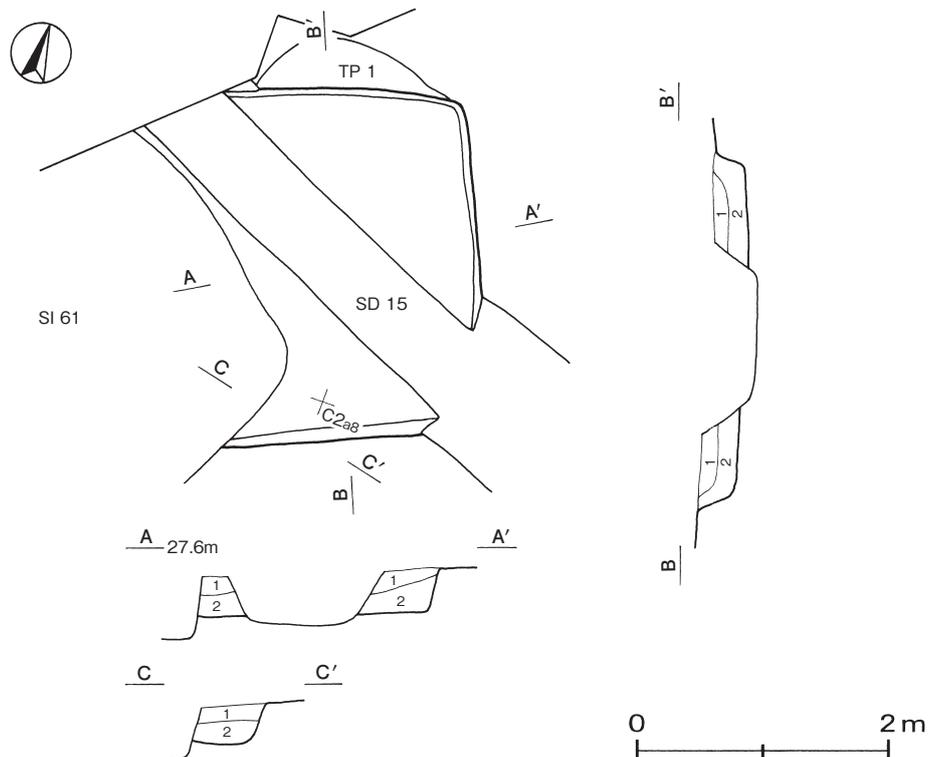
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
801	土師器	坏	12.4	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へら削り	床面直上	100% PL36
802	土師器	坏	[14.4]	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	上層	80% PL36
803	須恵器	蓋	[12.8]	3.8	-	長石	にぶい黄橙	普通	天井部回転へら削り	上層	25%天井部へら書き「+」カPL38
804	土師器	高坏	-	(13.2)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	脚部外面へらナデ・へら削り 指頭痕 内面棒状工具による刺突痕	中層	40%
806	土師器	小形甕	[12.0]	12.7	6.3	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部・底部外面へら削り	上層	45% PL38
805	土師器	甕	15.6	16.6	[5.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へら削り	中層	70%
807	土師器	甕	[16.6]	12.7	6.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部・底部外面へら削り	床面直上	50% PL38
808	土師器	甑	-	(26.8)	[9.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	頸部外面横ナデ 体部外面へら削り	中層	80% PL37

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP221	土玉	1.8	1.5	0.5	(3.9)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP222	球状土錘	4.2	3.9	1.3	65.3	粘土	外面削り 一方向からの穿孔	上層	

第62号住居跡（第359図）

位置 調査Ⅲ区北西部のB2j7区，標高27.3mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第1号陥し穴を掘り込み，第61号住居，第15号溝に掘り込まれている。



第359図 第62号住居跡実測図

規模と形状 南西部が第61号住居によって掘り込まれているため、南北軸が2.72mで、東西軸は2.60mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推測され、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は24~36cmで、壁は直立している。
床 平坦で、硬化面は認められない。

覆土 2層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

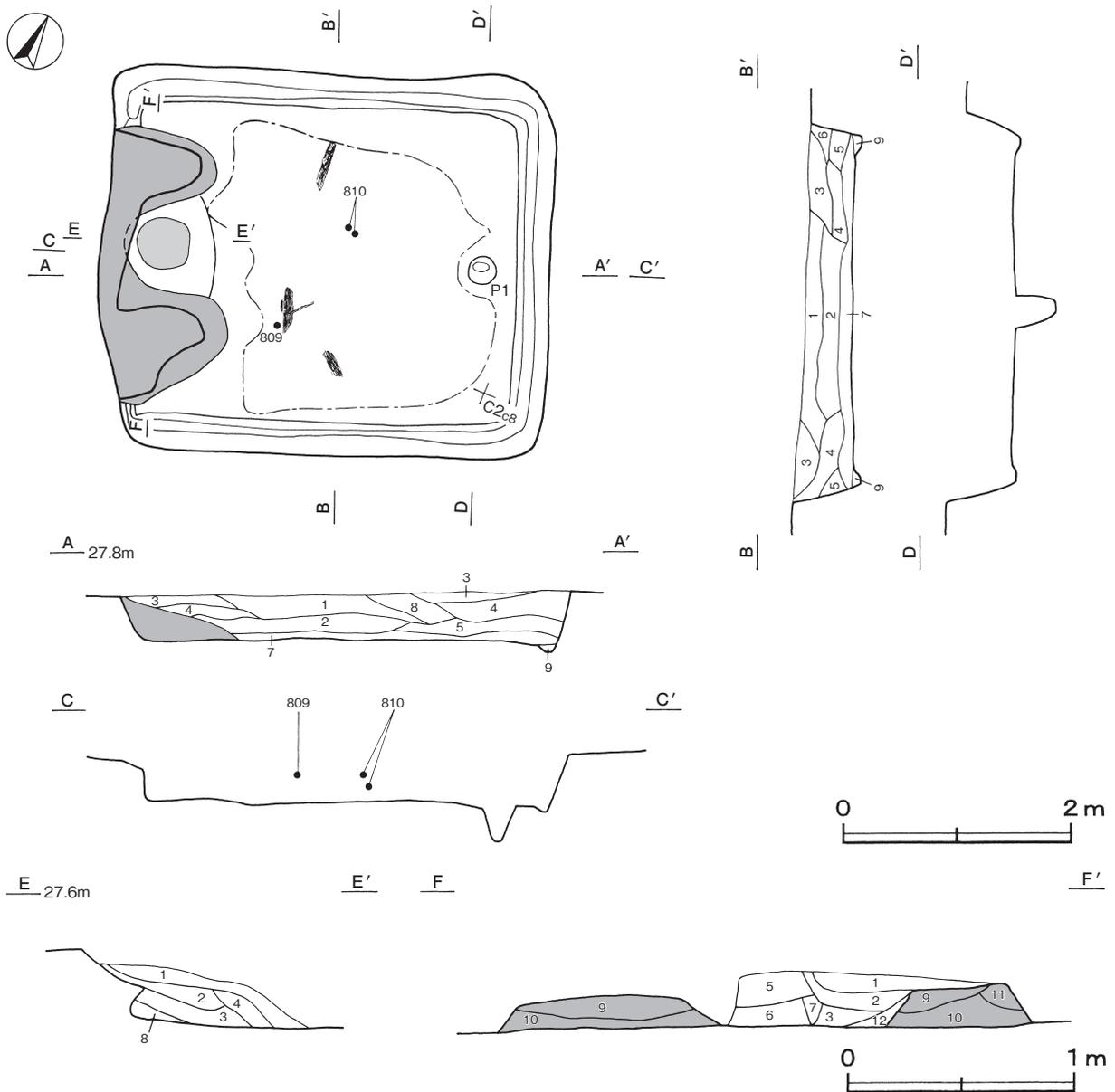
2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片88点（坏類15、甕類73）が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。

第63号住居跡（第360・361図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC2b7区、標高27.4mの台地縁辺部に位置している。



第360図 第63号住居跡実測図

規模と形状 長軸3.93m，短軸3.32mの長方形で，主軸方向はN-110°-Wである。壁高は32～50cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅26～40cm，深さ3～5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，床面から炭化材の出土が確認されている。

竈 西壁中央に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで73cm，燃烧部幅80cmである。袖部は第9～11層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込まず，火床面から奥に段を有している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|-----------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，粘土粒子微量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 4 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 褐色 | ローム粒子中量，砂質粘土粒子・焼土粒子微量 |
| 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 11 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子微量 |
| 6 灰褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量 |

ピット 深さ32cmで東壁中央部付近に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。

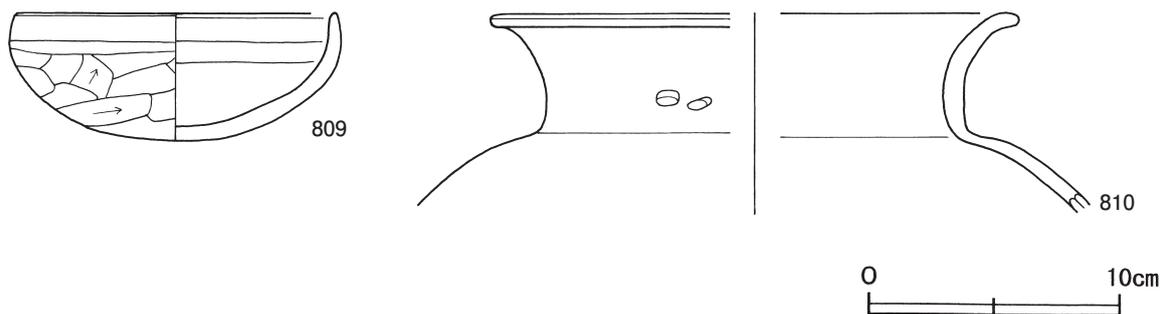
覆土 9層に分けられる。ロームブロックを含み，焼土粒子や炭化粒子の混入，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量，砂質粘土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片199点（坏類32，甕類163，壺3，甌1）が出土している。810は中央部の覆土中層から覆土下層にかけての出土である。

所見 床面からの炭化材や，堆積覆土の炭化材の含有率から，焼失住居と判断できる。時期は，出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第361図 第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表（第361図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
809	土師器	坏	12.6	5.1	-	長石・石英・白色粒子・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中層	95% PL36
810	土師器	甕	[21.0]	(7.9)	-	長石・石英・小礫	橙	普通	口縁部横ナデ 内・外面磨耗	中層～下層	10%

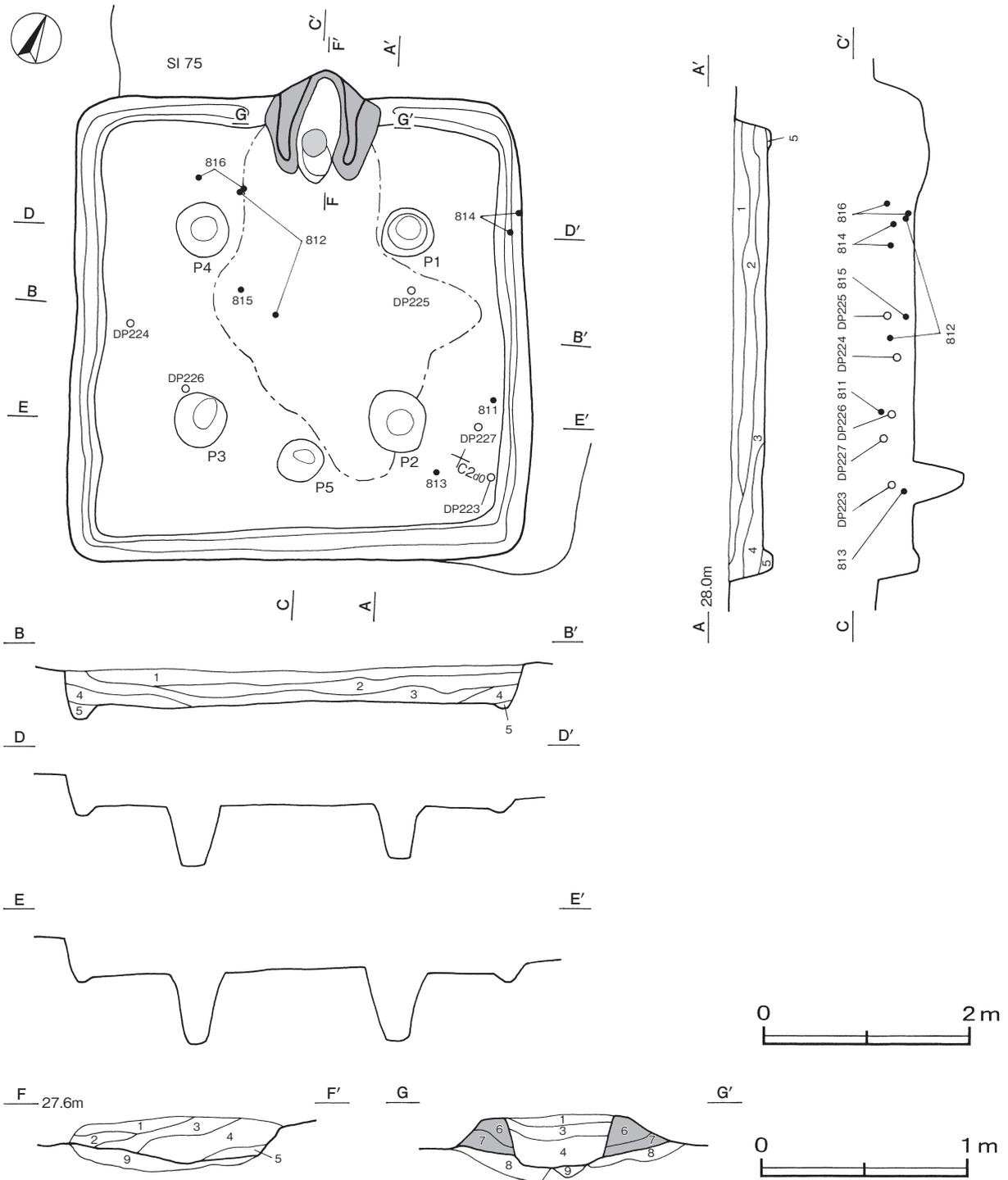
第64号住居跡 (第362・363図)

位置 調査Ⅲ区北西部のC 2 c9区, 標高27.8mの台地に位置している。

重複関係 第75号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.50m, 短軸4.46mの方形で, 主軸方向はN-27°-Wである。壁高は30~36cmで, 壁は直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には幅24~36cm, 深さ6~14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第362図 第64号住居跡実測図

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで102cm、燃焼部幅40cmである。袖部は第8層のロームを主体とした土を基部とし、第6・7層の粘土やロームを混ぜた土を積み上げて構築されている。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

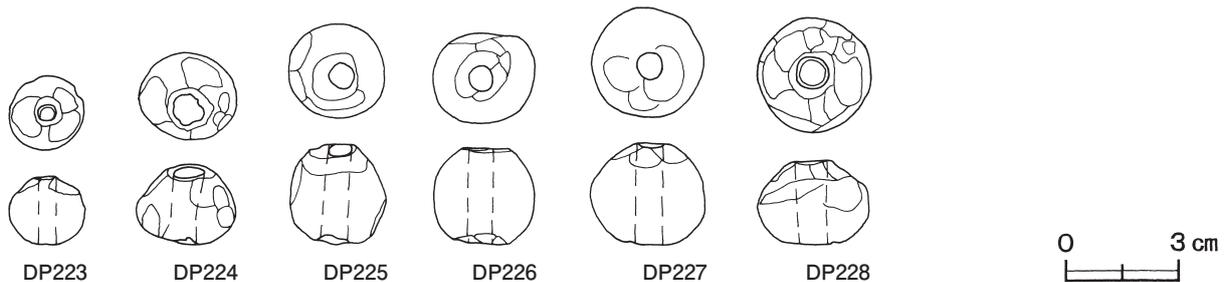
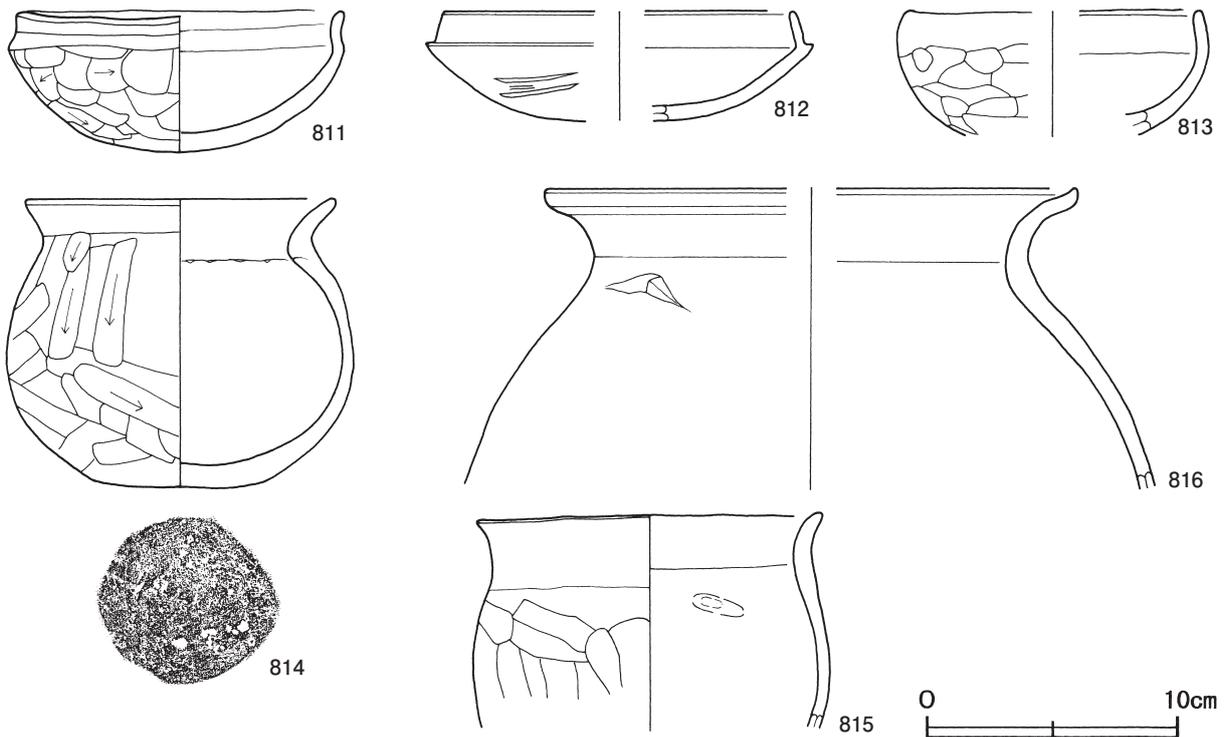
- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 6 灰褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 灰褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・粘土ブロック微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 5 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ50～67cmで主柱穴である。P5は深さ46cmで南壁中央部付近に位置していること、硬化面の範囲などから出入り口施設に伴うピットである

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |



第363図 第64号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片1343点（坏類151, 高坏3, 甕類1189）, 須恵器片1点（坏）土製品9点（土玉3, 球状土錘6）が出土している。815は中央部西寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第64号住居跡出土遺物観察表（第363図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
811	土師器	坏	12.8	5.5	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	90%
812	土師器	坏	[14.0]	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層～下層	40%
813	土師器	坏	[11.7]	(4.9)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	20%
814	土師器	小形甕	12.2	11.6	6.8	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕	中層	60% PL39
815	土師器	小形甕	13.6	(8.7)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 指頭痕	中層	50% PL39
816	土師器	甕	[21.0]	(11.9)	-	長石・石英・雲母・礫	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面磨耗 口縁部端つまみ上げ	上層～床面直上	15%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP223	球状土錘	2.0	1.8	0.5	6.1	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP224	球状土錘	2.6	2.1	1.0	9.9	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP225	球状土錘	2.5	2.6	0.6	13.9	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP226	球状土錘	2.7	2.6	0.7	(17.2)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP227	球状土錘	3.0	2.7	0.7	20.3	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP228	球状土錘	3.1	2.2	0.9	(17.4)	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第65号住居跡（第364・365図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC3b1区, 標高27.6mの台地に位置している。

重複関係 第67・73号住居, 第15・17号溝, 第407号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.08m, 短軸6.00mの方形で, 主軸方向はN-18°-Wである。壁高は28～38cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部は踏み固められているが, 一部溝により掘り込まれている。壁下には幅22～28cm, 深さ3～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで124cm, 燃烧部幅56cmである。袖部は第10層のロームを主体とした土を基部とし, 第8・9層の砂質粘土やローム・焼土を混ぜた土を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込まず, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

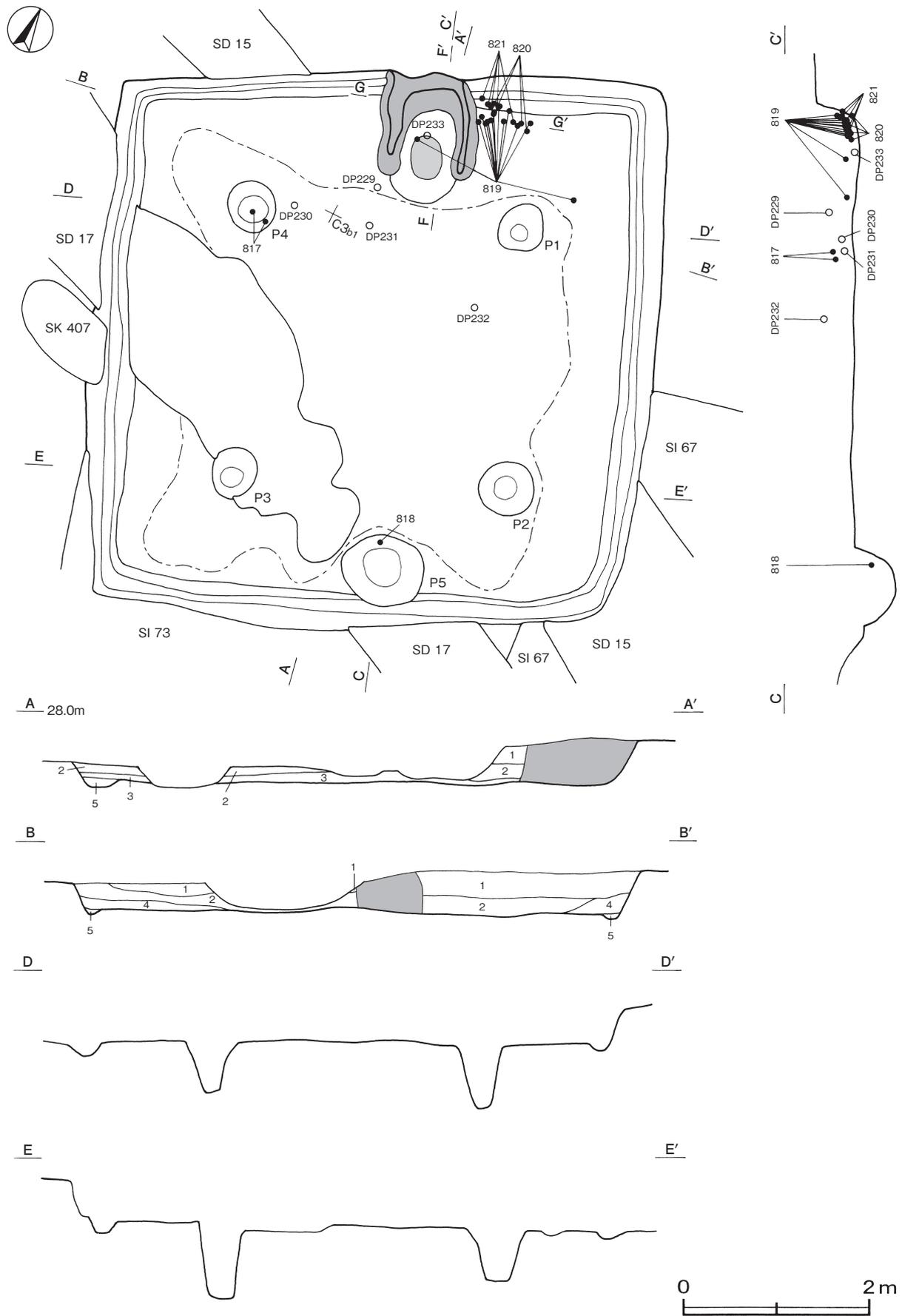
- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量 | 11 赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ56～81cmで主柱穴である。P5は深さ43cmで南壁中央部付近に位置していること, 硬化面の広がり方などから出入口施設に伴うピットと考えられる。

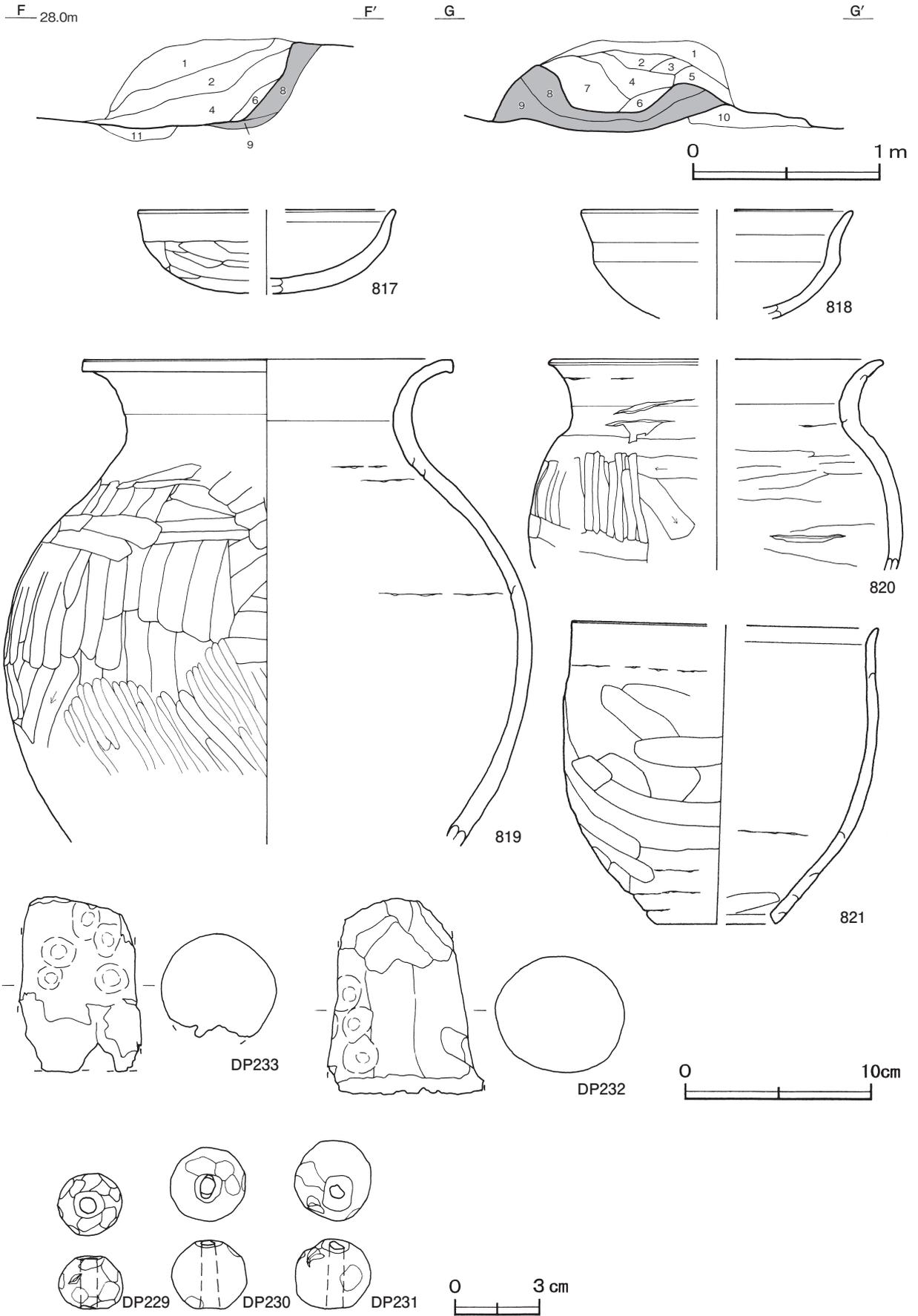
覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック微量 | | |



第364图 第65号住居跡実測図



第365图 第65号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片596点（坏類103，甕類491，甌2），土製品7点（土玉3，支脚4）が出土している。819・820は竈右袖脇の覆土中層から覆土下層，818はP5内覆土中層，DP233は竈内火床部に埋没した状態でそれぞれ出土している。

所見 DP233は竈使用時の状態を保った状況で出土している。時期は，出土土器から6世紀前葉と考えられる。

第65号住居跡出土遺物観察表（第365図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
817	土師器	坏	[13.6]	4.5	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	40%
818	土師器	坏	[14.4]	(5.8)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ	P5内中層	20%
819	土師器	甕	19.7	(26.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 下位ヘラ磨き 輪積痕	中層～下層	45% PL39
820	土師器	甕	[17.6]	(11.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕	中層～下層	20%
821	土師器	甌	[16.4]	16.0	6.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 輪積痕	中層	70% PL40

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP229	球状土錘	2.3	2.4	0.6	8.6	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP230	球状土錘	2.7	2.5	0.9	16.0	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP231	球状土錘	2.8	2.5	0.7	18.0	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔	中層	

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP232	支脚	(10.5)	(6.0)	(8.4)	(479.1)	粘土	外面ヘラ削り 指頭痕 両端欠損	上層	
DP233	支脚	(9.3)	(6.0)	(6.5)	(305.9)	粘土	外面ナデ 指頭痕 両端欠損	竈火床部立位	

第66号住居跡（第366・367図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC3d1区，標高27.9mの台地に位置している。

重複関係 第72号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.20m，短軸5.00mの方形で，主軸方向はN-108°-Wである。壁高は12～30cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅24～32cm，深さ4～16cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

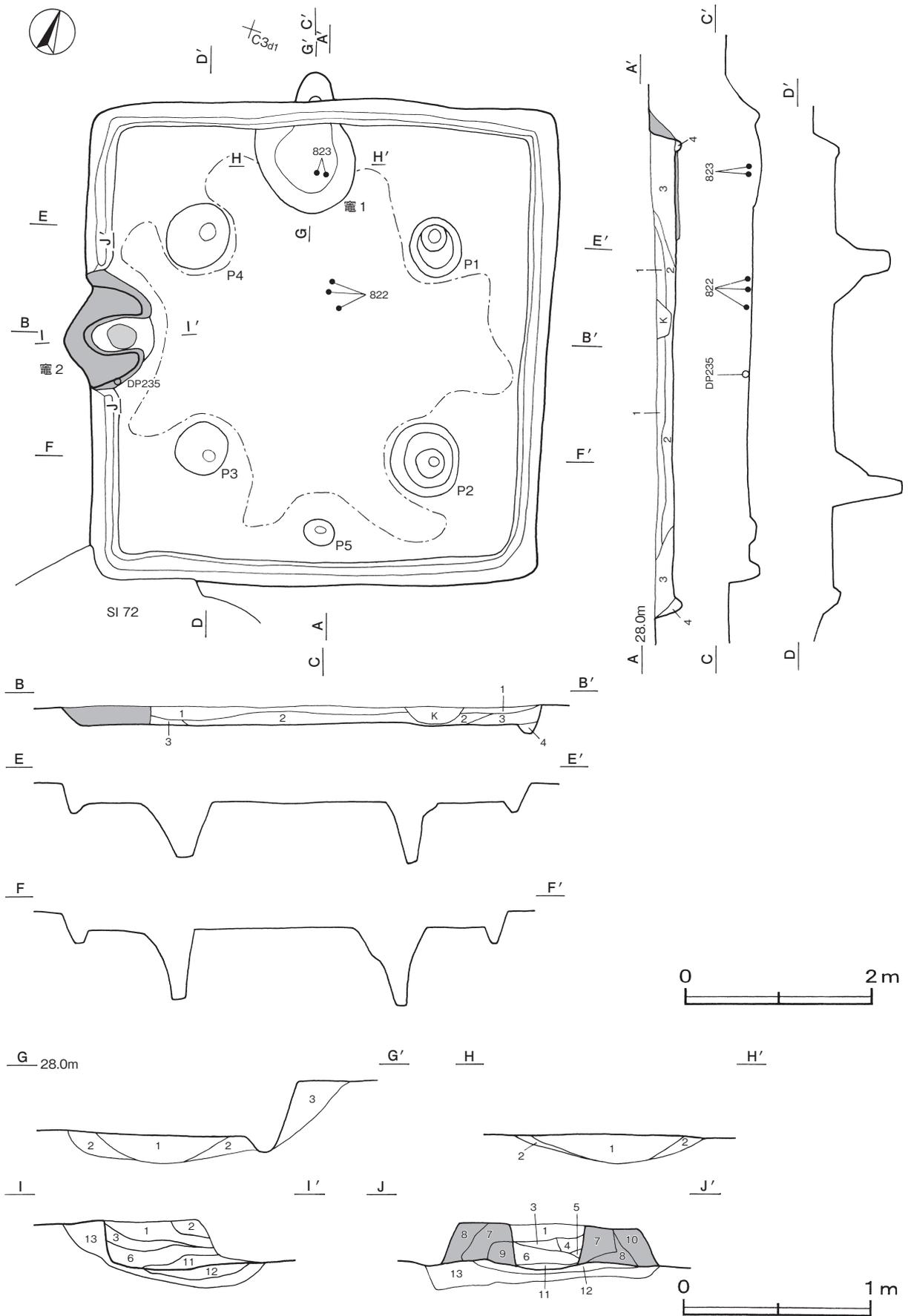
竈 2か所。竈1は北壁中央部に残る火床部と煙道部の痕跡からその存在を推測することができる。竈2は西壁中央部に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで76cm，燃烧部幅36cmである。袖部は第12・13層のロームを主体とした土を基部とし，第7～10層の砂質粘土やローム・焼土を混ぜた土を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈1土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|-------|---------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 | | |

竈2土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック微量 |
| 4 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック微量 | 11 明赤色 | 焼土ブロック中量，炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 13 褐色 | ローム粒子中量 |
| 7 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量 | | |



第366图 第66号住居跡実測图

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ65～82cmで主柱穴である。P 5は深さ15cmで南壁中央部に位置していること、硬化面の広がり方などから出入り口施設に伴うピットである。

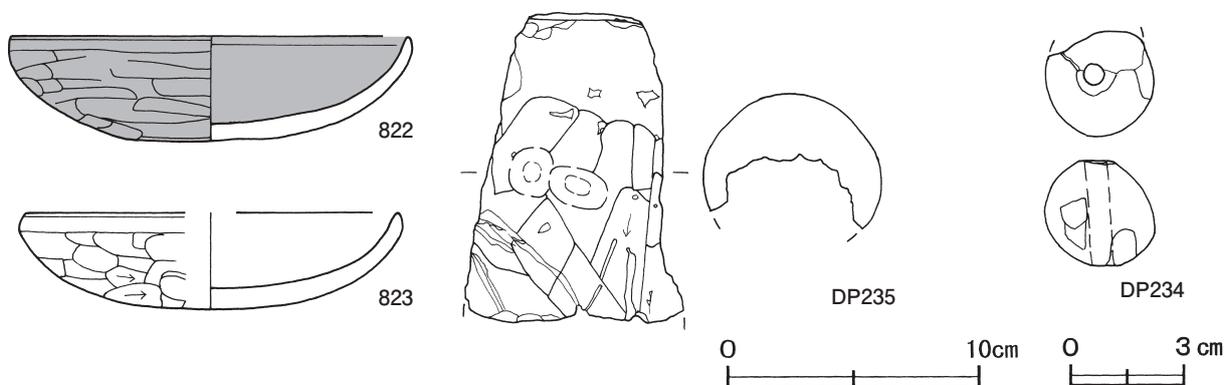
覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片270点（坏類77，高坏1，鉢2，甕類190），土製品3点（球状土錘，支脚，不明土製品）が出土している。822は中央部の覆土下層，823は北部中央の覆土下層，DP235は竈2左袖外脇の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 2つの竈の関係は，残存状況から竈1が竈2に先行するものと考えられる。時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第367図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表（第367図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
822	土師器	坏	15.7	4.2	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	85% PL38
823	土師器	坏	[14.8]	3.8	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	50%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP234	球状土錘	2.9	2.8	0.6	(18.3)	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP235	支脚	(12.4)	4.5	8.7	(375.9)	粘土	外面ヘラ削り 指頭痕 下端欠損	床面直上	

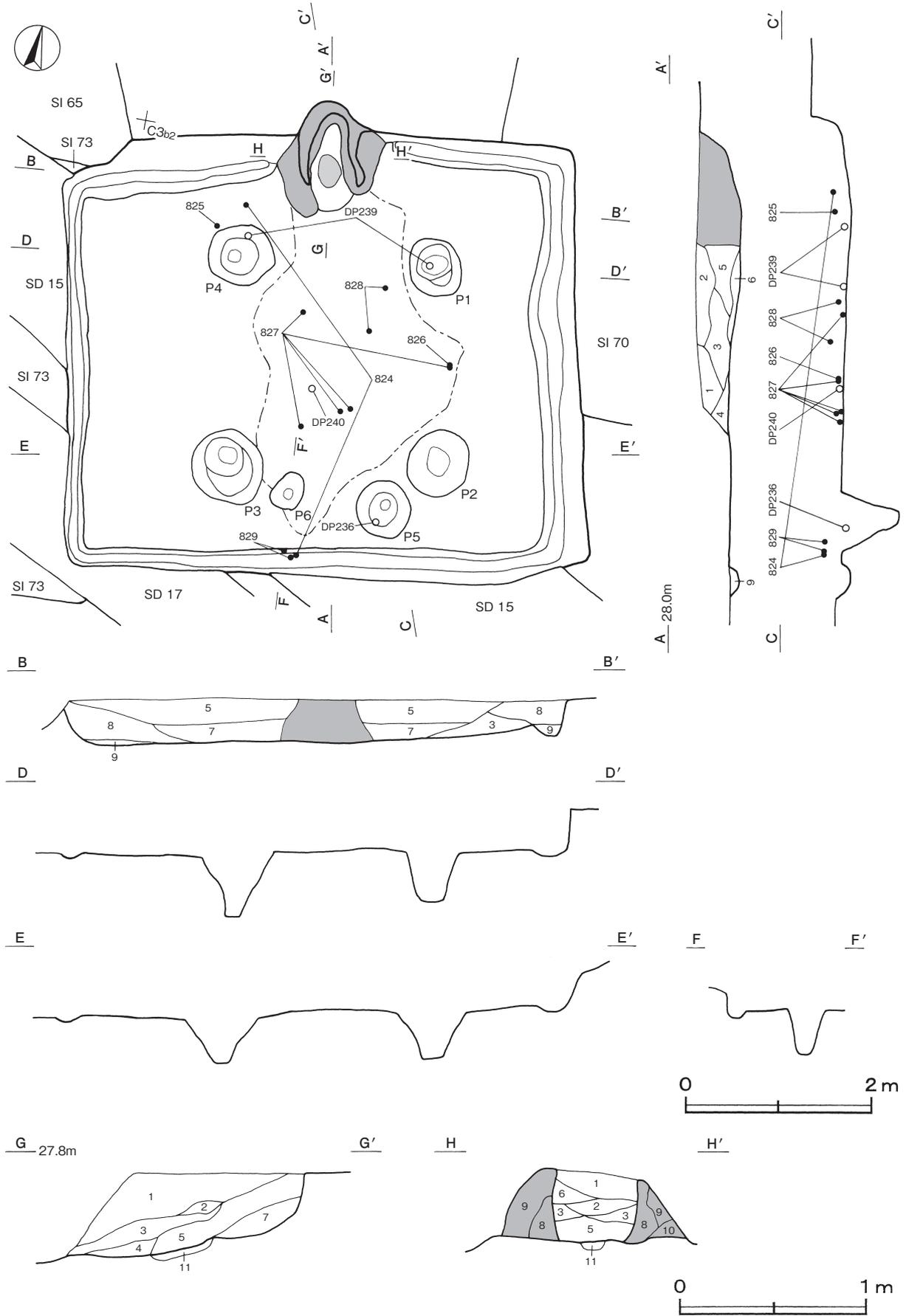
第67号住居跡（第368～370図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 b2区，標高27.4mの台地に位置している。

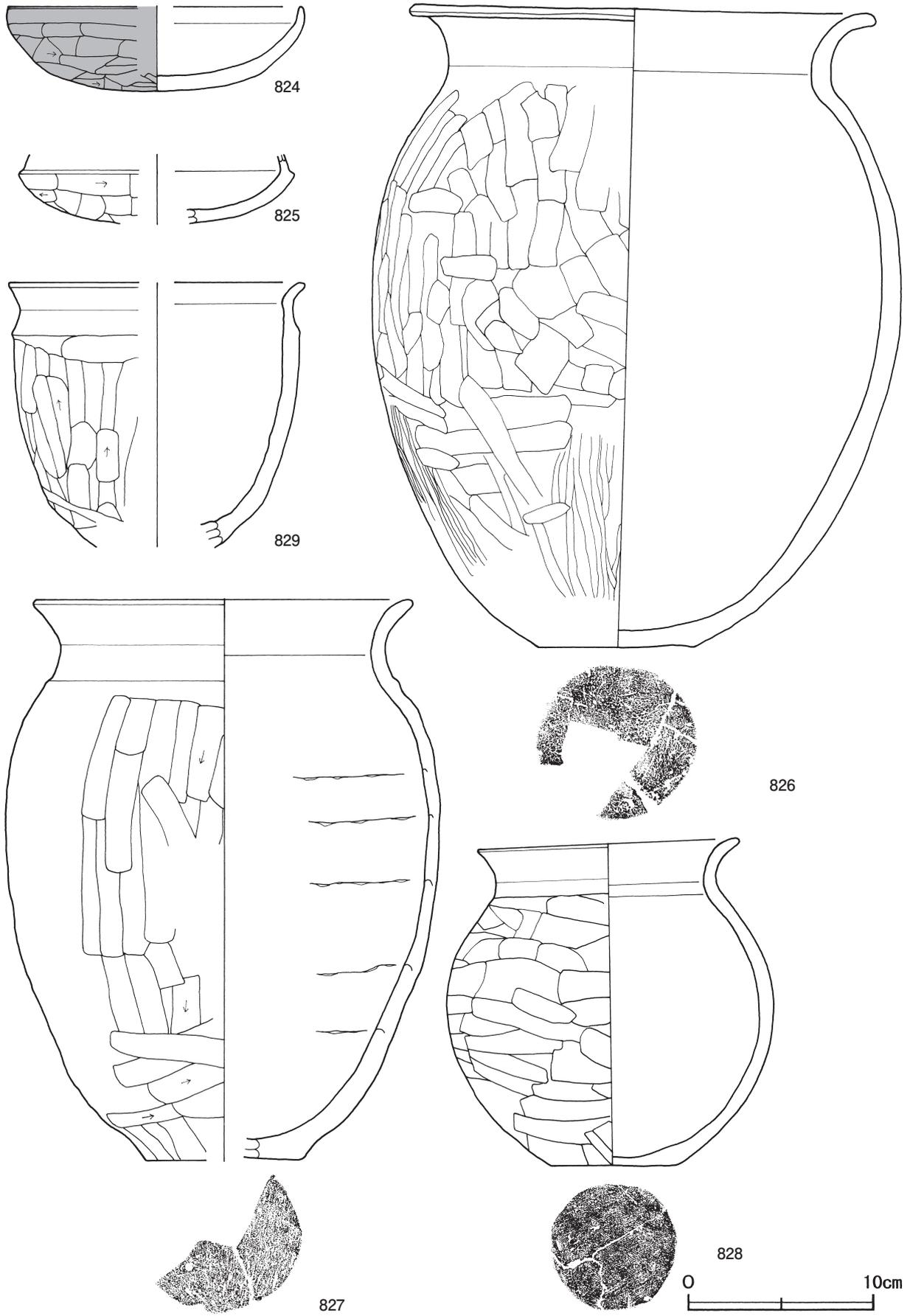
重複関係 第65・70・73号住居跡を掘り込み，第15・17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.45m，短軸4.72mの長方形で，主軸方向はN-10°-Wである。壁高は20～40cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅22～58cm，深さ3～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第368图 第67号住居跡実測図



第369图 第67号住居跡出土遺物実測図(1)

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで105cm、燃烧部幅37cmである。袖部は第8～10層の砂質粘土やローム・焼土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|---------|-----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| | | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |

ピット 6か所。P1～P4は深さ52～69cmで、支柱穴である。P5は深さ60cmで、南壁中央部やや東寄りに位置していること、硬化面の範囲などから出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ48cmで、性格は不明である。

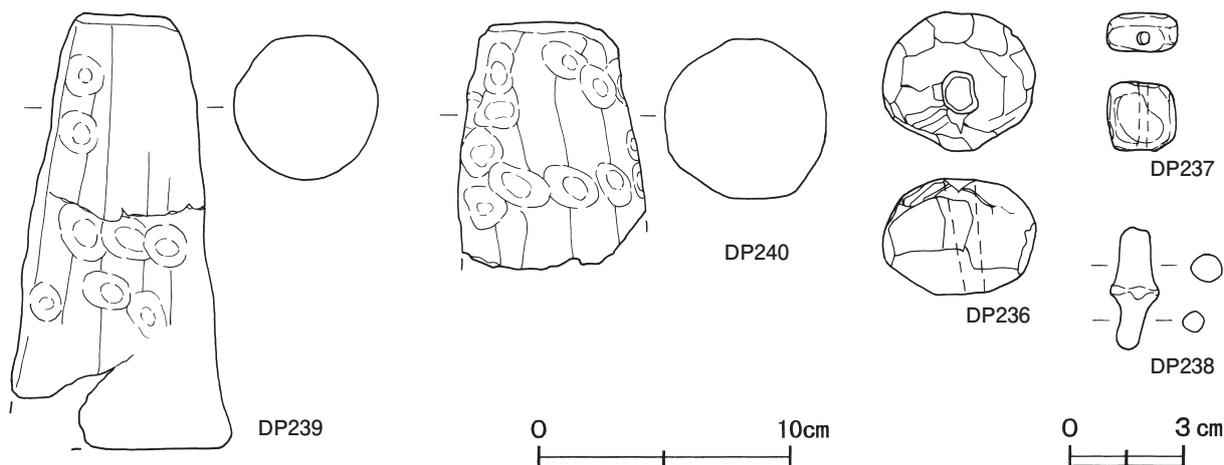
覆土 9層に分けられる。ロームブロックを含み、焼土粒子や炭化粒子が混入した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片322点（坏類67、甕類254、甌1）、土製品12点（球状土錘1、支脚8、不明土製品3）、不明土粒244.5g、ヤマトシジミ345点（右殻212・左殻133）が出土している。827は中央部の覆土中層から覆土下層に散在、DP240は中央部の覆土下層、DP239は中央部の北寄りの覆土中層から床面直上にかけて、DP236はP5内の覆土上層、なお、不明土粒は826の甕の中から、ヤマトシジミは竈内から出土している。

所見 不明土粒はコガネムシ科の幼虫の糞の可能性が指摘され、後世の混入物と考えられる。また、竈内から出土しているヤマトシジミには焼けた痕跡が見られないため、住居廃絶後の流れ込みまたは投げ込みと考えられる。時期は出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第370図 第67号住居跡出土遺物実測図(2)

第67号住居跡出土遺物観察表（第369・370図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
824	土師器	坏	[15.8]	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層～中層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
825	土師器	坏	-	(3.7)	-	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	25%
828	土師器	小形甕	13.8	17.6	6.8	長石・石英・白色粒子	赤橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	95% PL39
826	土師器	甕	24.3	34.8	8.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 下端ヘラ磨き	下層	80% PL40
827	土師器	甕	20.0	33.0	[8.5]	長石・石英・赤色粒子・小礫	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕	中層～下層	50% PL40
829	土師器	甕	[16.0]	(14.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	30%

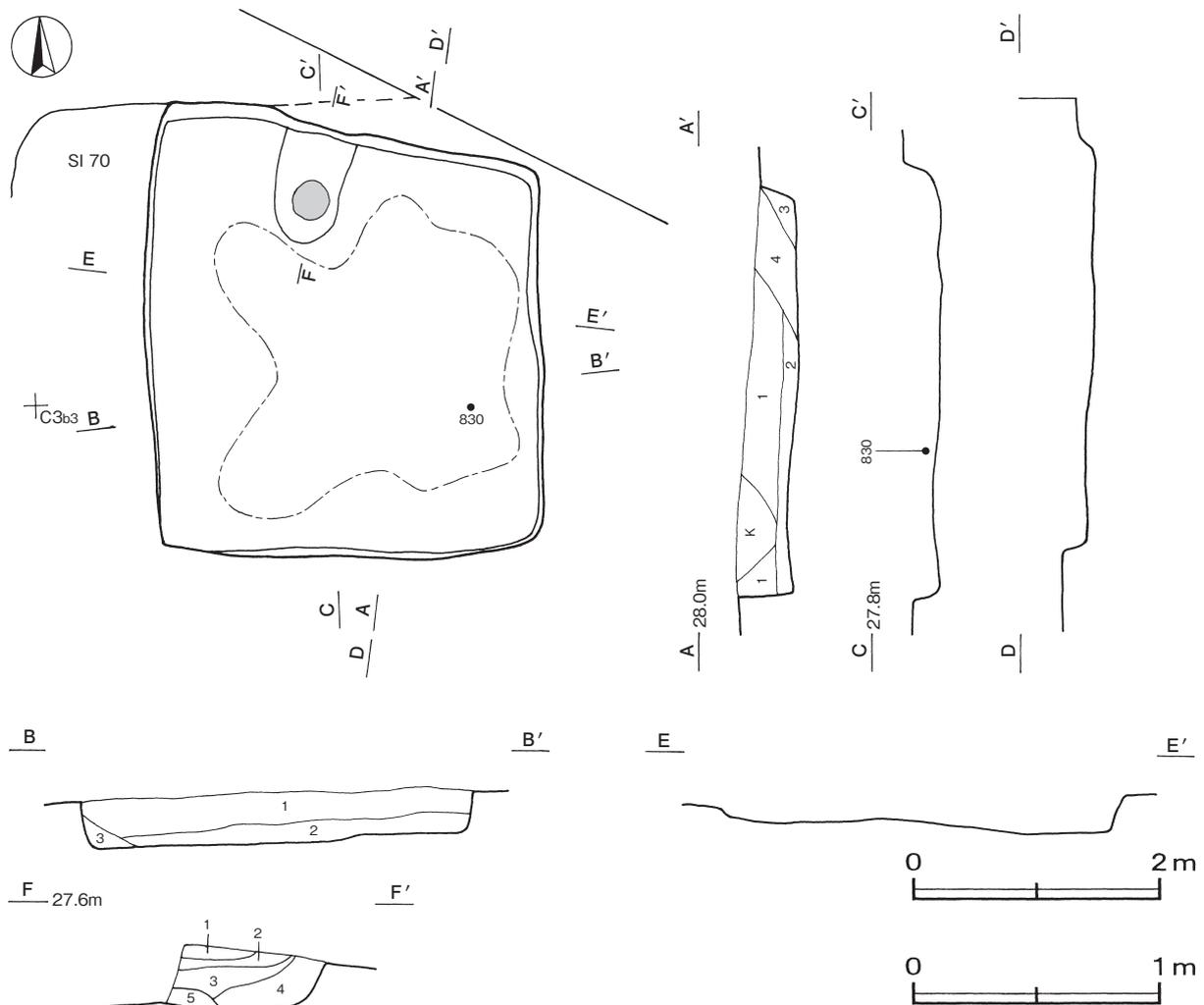
番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP236	球状土錘	4.0	3.1	1.1	(40.7)	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	P 5 内上層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP237	不明土製品	1.8	1.8	1.0	4.4	粘土	外面ヘラ削り 一方向からの穿孔	覆土中	PL47
DP238	不明土製品	3.2	1.2	1.2	2.7	粘土	外面ナデ	覆土中	PL47

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP239	支脚	17.3	4.3	(8.7)	(619.3)	粘土	外面ヘラ削り 指頭痕 下端一部欠損	中層～床面直上	
DP240	支脚	(9.8)	(4.4)	(7.3)	(366.4)	粘土	外面ヘラ削り 指頭痕 一部欠損	下層	

第68号住居跡 (第371・372図)

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 a3区, 標高27.6mの台地に位置している。



第371図 第68号住居跡実測図

重複関係 第70号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.65m，短軸3.20mの長方形で，主軸方向はN-0°である。壁高は7～48cmで，壁は直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで90cm，確認できた燃焼部幅は52cmである。袖部は壊されていたため，確認できなかった。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込んでおらず，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |

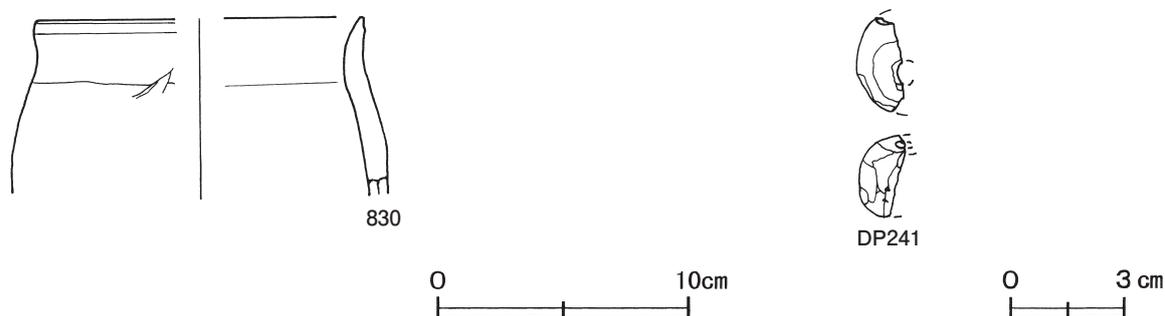
覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片93点（坏類18，高坏1，甕類74），土製品1点（土玉）が出土している。830が東壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第372図 第68号住居跡・出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表（第372図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
830	土師器	小形甕	[12.8]	(7.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面磨耗	中層	15%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP241	球状土錘	(2.5)	2.1	(0.2)	(5.1)	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔カ	覆土中	

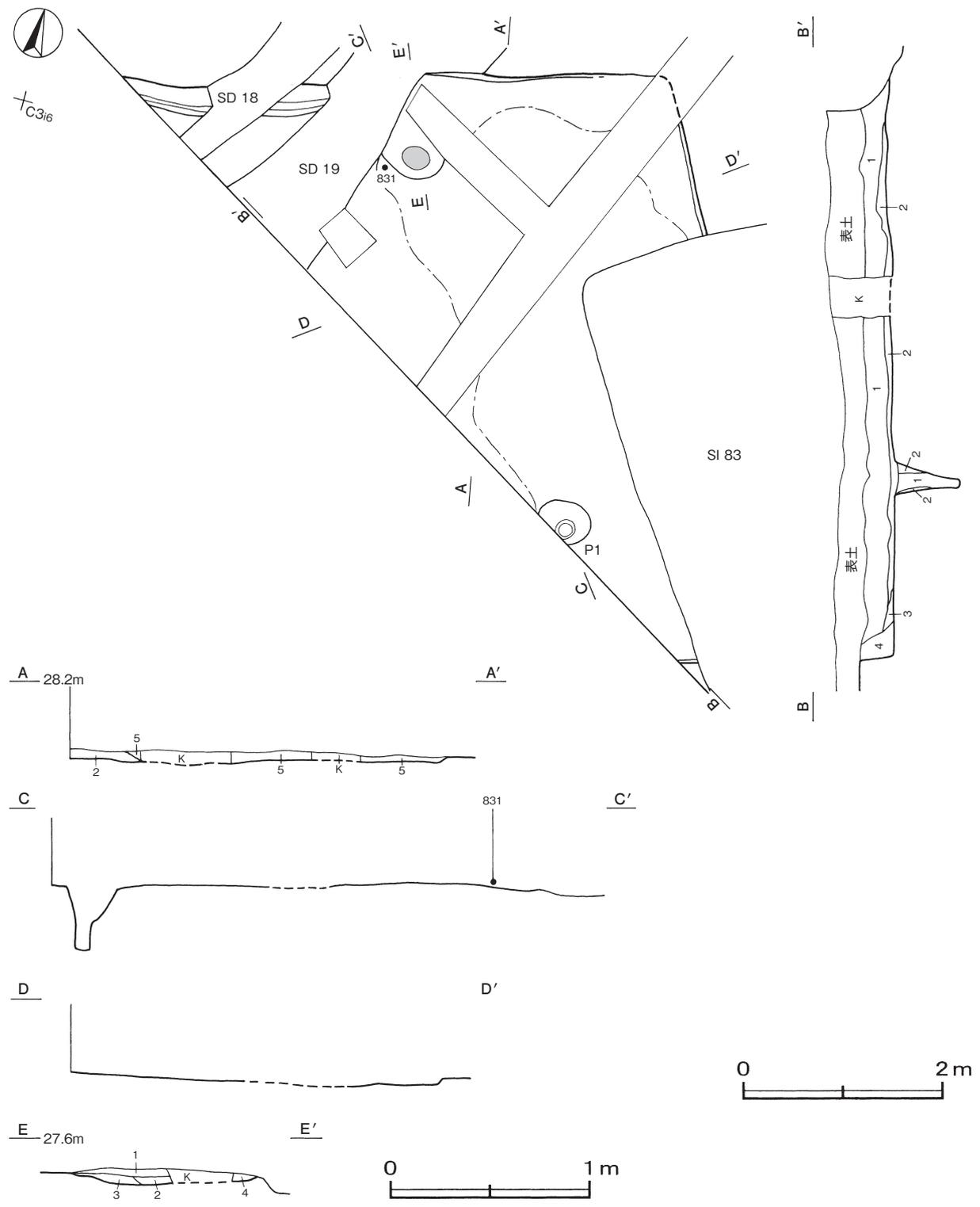
第69号住居跡（第373・374図）

位置 調査Ⅲ区中央部西寄りのC3i7区，標高27.8mの台地に位置している。

重複関係 第83号住居，第18・19号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、南北軸が5.98m、東西軸が5.33mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-14°-Wである。壁高は6cmで、壁は直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅24~30cm、深さ4cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。



第373図 第69号住居跡実測図

竈 北壁中央に付設されており、煙道部の一部と袖部は溝などの攪乱によって壊されている。規模は焚口部から煙道部まで62cmで、確認できた燃焼部幅は43cmである。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 深さ64cmで、支柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|------|--------------|------|--------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
|------|--------------|------|--------------|

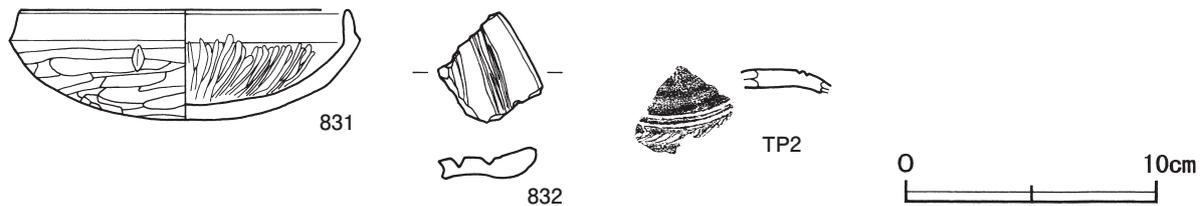
覆土 5層に分けられる。水平な堆積状況を示し、覆土含有物の粒子の少ないことから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片62点（坏類16, 甕類46）、須恵器片1点（甕）、土製品1点（支脚）が出土している。遺物の出土は少なく、細片が多い。831は竈焚き口付近の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第374図 第69号住居跡出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表（第374図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
831	土師器	坏	13.0	4.4	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	90% PL38
832	土師器	甕 (転用砥石)	-	(3.7)	-	長石・石英・ 白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 断面V字状の研磨痕跡あり	覆土中	25%
番号	種別	器種	胎土			色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
TP2	須恵器	甕	長石・石英・白色粒子			黄灰	普通	肩部外面に刺突文を施し、上位に2条1単位の沈線を施文	覆土中	5%	

第70号住居跡（第375・376図）

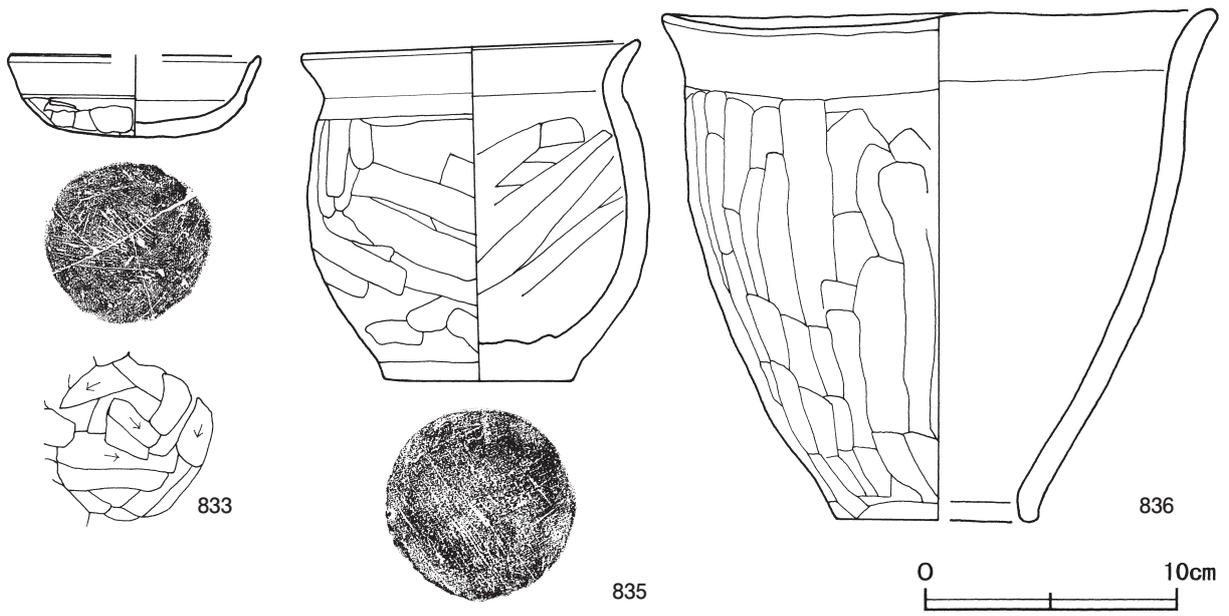
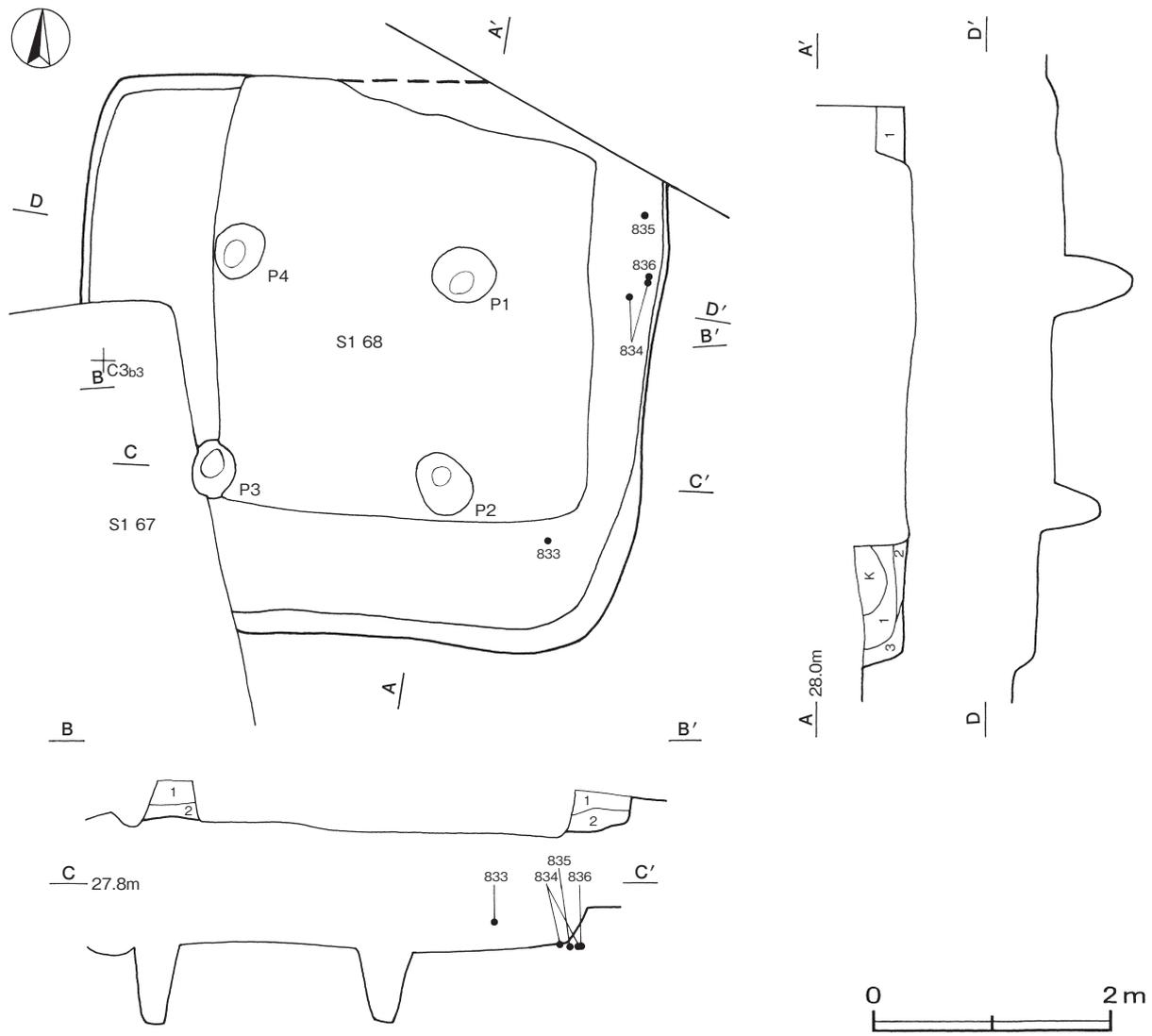
位置 調査Ⅲ区北西部のC3a3区、標高27.6mの台地に位置している。

重複関係 第67・68号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.92m、短軸4.70mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は20～38cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、硬化面は認められない。

ピット 4か所。P1～P4は深さ46～66cmで支柱穴である。



第375図 第70号住居跡・出土遺物実測図

覆土 3層に分けられるが、壁際の覆土が確認されただけで堆積状況は不明である。

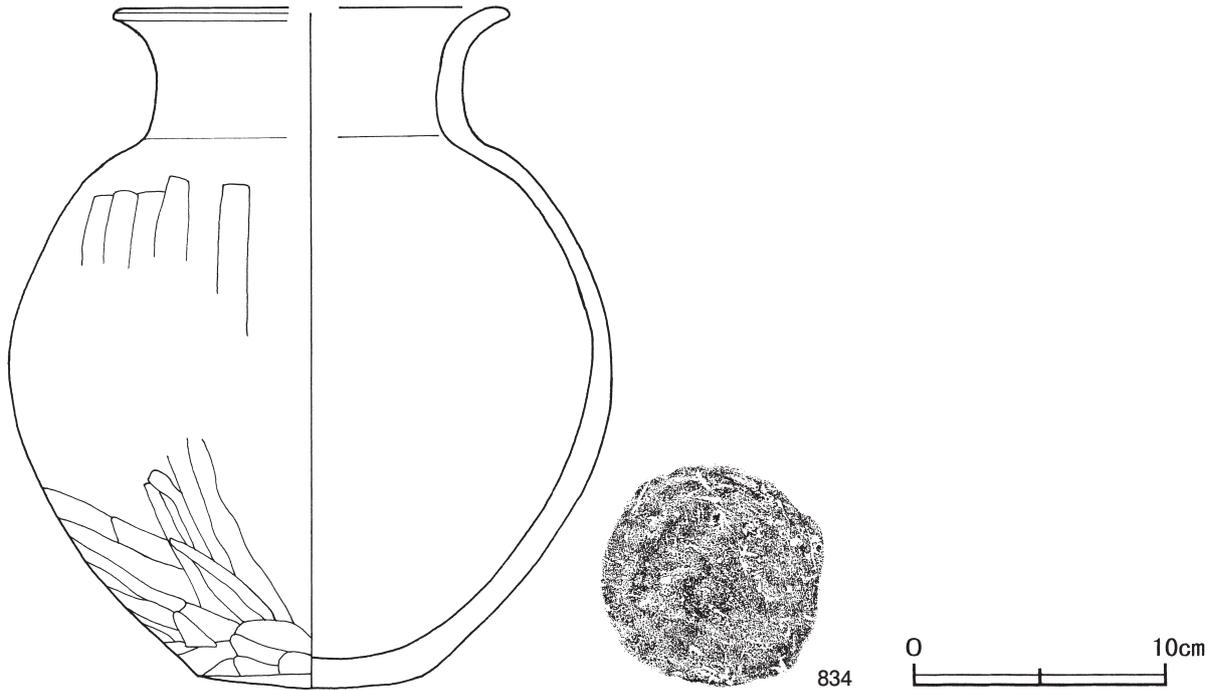
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量
2 褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片10点（坏類3，甕類6，甔1）が出土している。834・835・836は北東部の床面直上から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。



第376図 第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表（第375・376図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
833	土師器	坏	[9.8]	3.3	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部・底部外面ヘラ削り	中層	75% PL38
834	土師器	甕	[15.0]	27.2	8.8	長石・石英・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面直上	45%
835	土師器	小形甕	13.4	34.8	13.7	長石・石英・赤色粒子・小礫	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面直上	95% PL39
836	土師器	甔	21.8	20.5	8.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面直上	95% PL40

第71号住居跡（第377図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC3f2区、標高27.8mの台地に位置している。

重複関係 第16号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、南北軸が3.82mで、東西軸は3.40mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は40～50cmで、壁は直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅32～38cm、深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。また、北西コーナー一部と東壁北寄りの覆土下部に2か所の焼土が堆積している。

ピット 深さ64cmで、規模や配置から性格を推測することはできなかった。

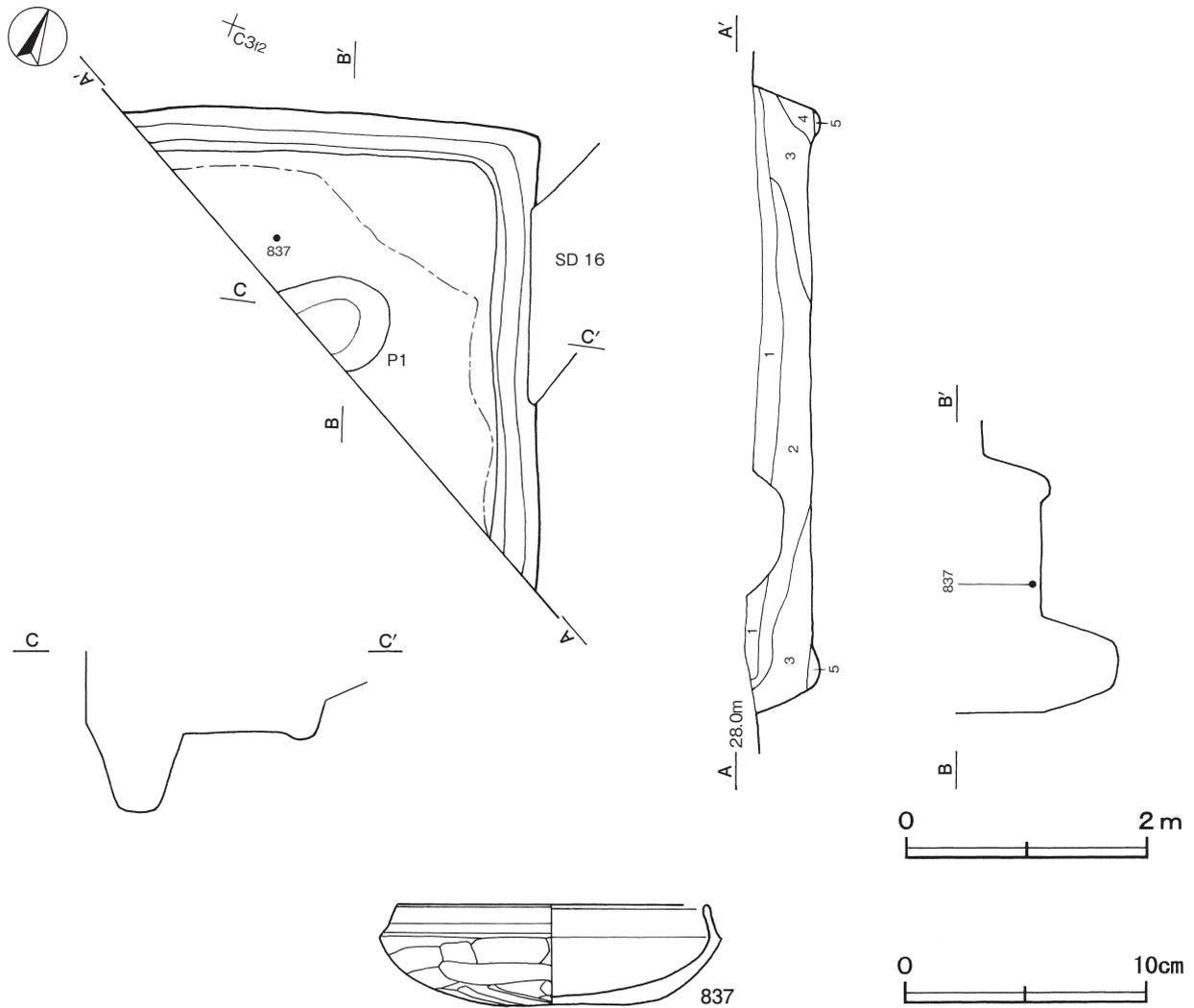
覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片107点(坏類17, 甕類89, 甌1)が出土している。遺物の出土は少なく, 細片が多い。837は中央部の覆土下層から出土している。

所見 炭化材は確認されていないが, 焼土塊の存在から焼失住居と推測される。時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第377図 第71号住居跡・出土遺物実測図

第71号住居跡出土遺物観察表 (第377図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
837	土師器	坏	12.7	4.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	90% PL38

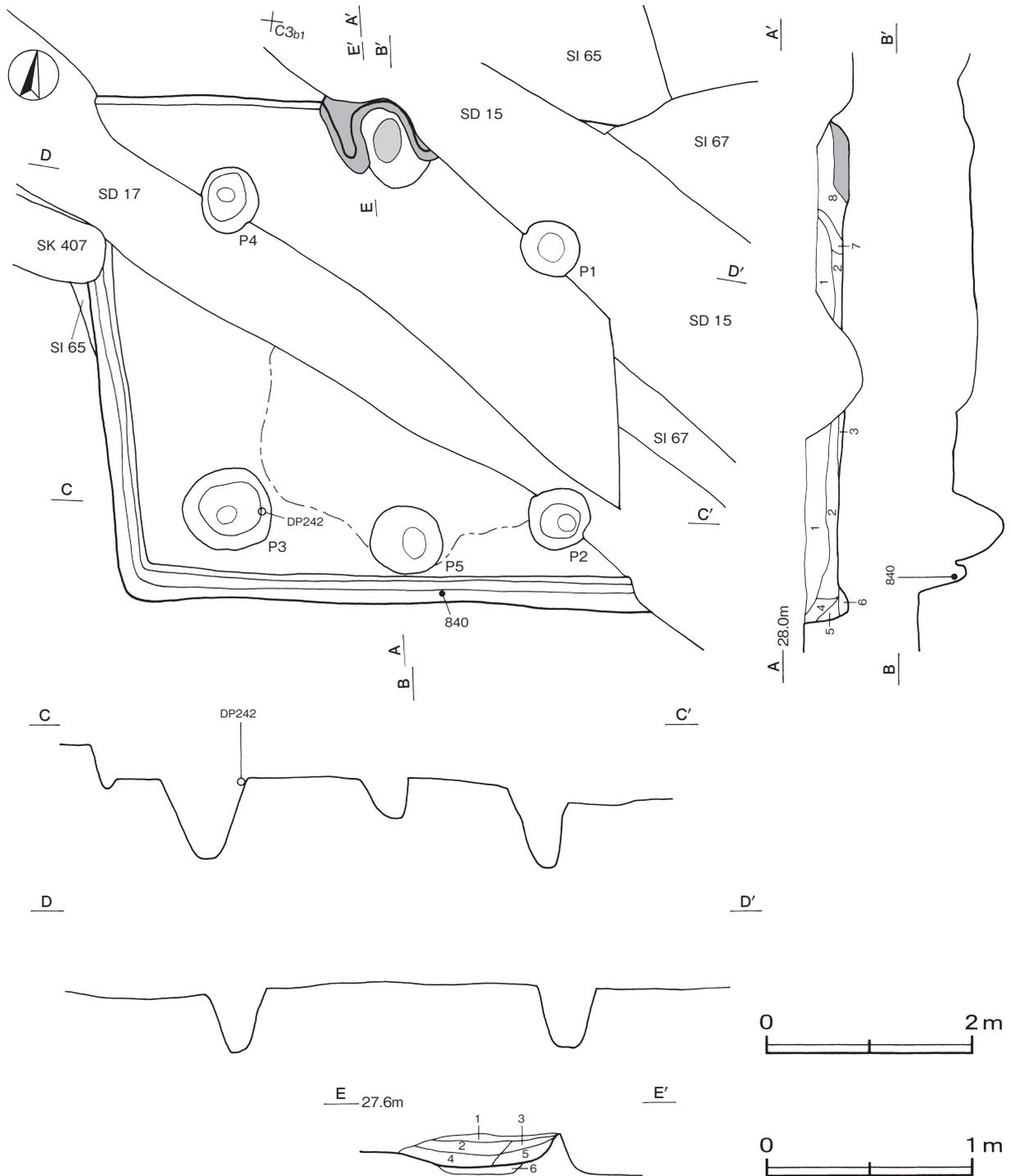
第73号住居跡 (第378・379図)

位置 調査Ⅲ区北西部のC3b1区, 標高27.6mの台地に位置している。

重複関係 第65号住居跡を掘り込み, 第67号住居, 第15・17号溝, 第407号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸が4.85m, 東西軸は4.98mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され, 主軸方向はN-2°-Wである。壁高は32~40cmで, 壁は直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には幅24~30cm, 深さ8~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。



第378図 第73号住居跡実測図

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで85cm、燃焼部幅43cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた土によって構築されている。火床部は床面から10cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------|-------|---------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 赤褐色 | 焼土ブロック中量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ55～76cmで、支柱穴である。P5は深さ46cmで、南壁中央部に位置していること、硬化面の広がり方などから出入口施設に伴うピットと考えられる。

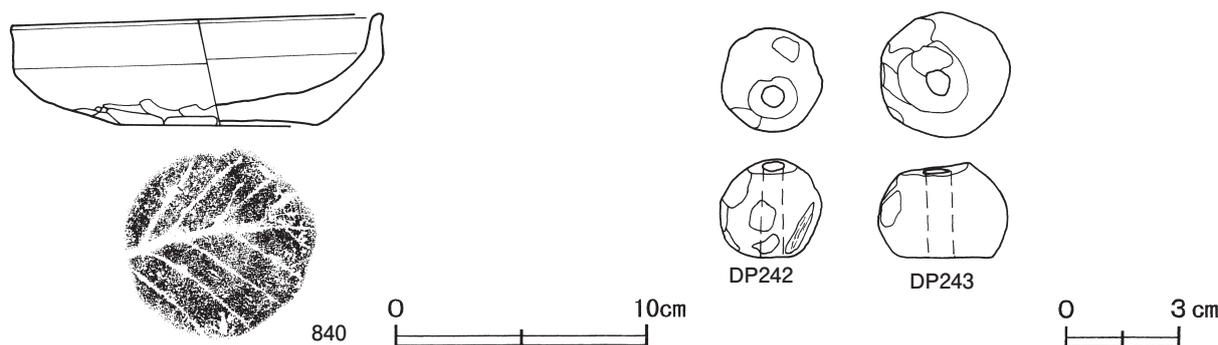
覆土 8層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片335点（坏類41、甕類294）、土製品2点（球状土錘）が出土している。840は逆位で南壁際中央部の覆土下層、DP242はP3内の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第379図 第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表（第379図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
840	土師器	坏	14.6	4.5	8.6	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面下端ヘラ削り 底部木葉痕	下層	90% PL41

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP242	球状土錘	2.8	2.6	0.6	(17.4)	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	P3上層	
DP243	球状土錘	3.4	2.5	0.6	(29.9)	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	

第74号住居跡（第380・381図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC3f6区、標高27.7mの台地に位置している。

重複関係 第80・88号住居跡を掘り込み、第82号住居、第17・18号溝、第394・418～420号土坑に掘り込まれている。

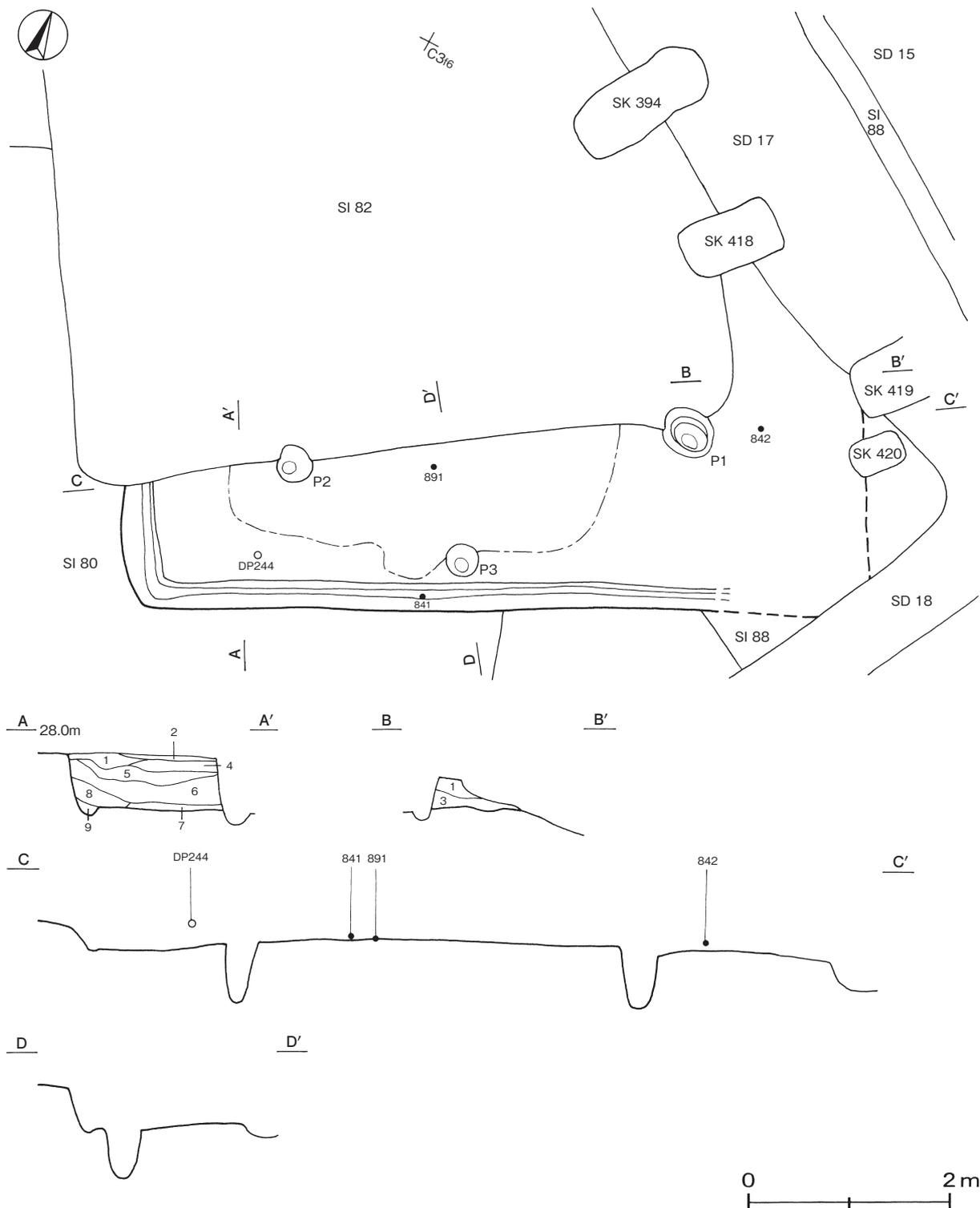
規模と形状 北西部が第82号住居により、北東部が第17号溝によりそれぞれ掘り込まれているため、東西軸が5.92m、南北軸が2.00mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-38°-Wである。

壁高は25～42cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、踏み固められた範囲が確認されている。壁下には幅22～36cm、深さ3～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 3か所。P1・P2は深さ59cmで、主柱穴と考えられる。P3は深さ51cmで、南壁中央部に位置していること、硬化面の範囲などから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。



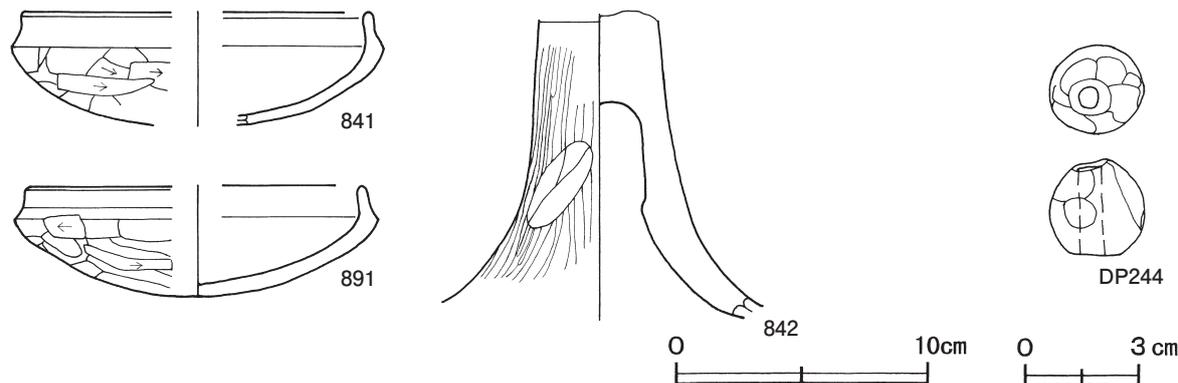
第380図 第74号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|---------|---------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック中量 | 7 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 |
| 4 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 黒 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片23点（坏類6，高坏3，甕類14），土製品2点（土玉，支脚）が出土している。842は南東コーナー部の覆土下層，841は南壁中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第381図 第74号住居跡出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表（第381図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
841	土師器	坏	[13.6]	(4.5)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	40%
891	土師器	坏	[13.1]	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	45%
842	土師器	高坏	-	(12.2)	-	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き	下層	40%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP244	球状土錘	2.6	2.6	0.7	14.8	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔	中層	

第75号住居跡（第382・383図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC2c9区，標高27.8mの台地に位置している。

重複関係 第64号住居に掘り込まれている。

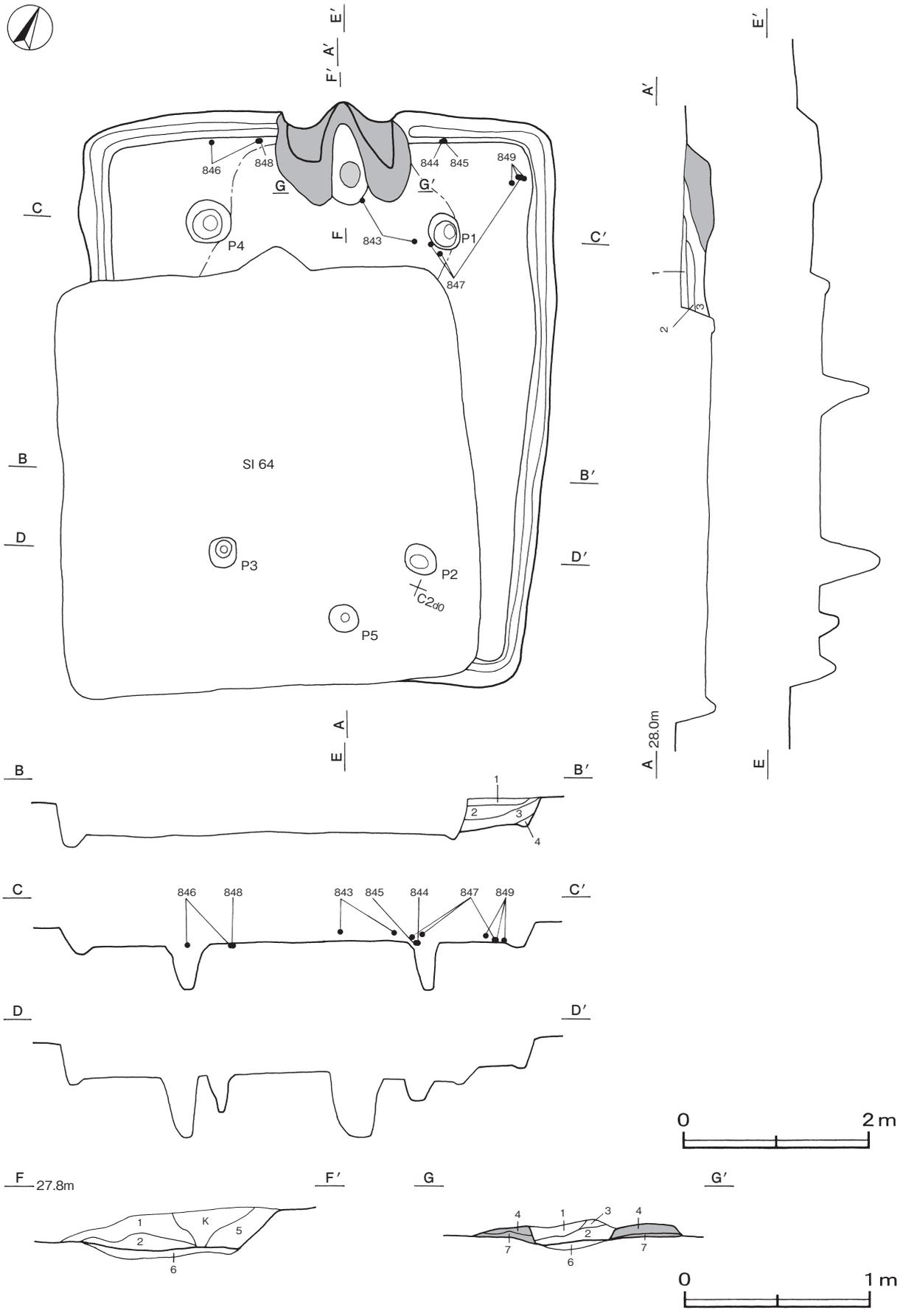
規模と形状 長軸6.16m，短軸5.00mの長方形で，主軸方向はN-21°-Wである。壁高は18～30cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，踏み固められた範囲が確認されている。壁下には幅18～28cm，深さ4～5cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで112cm，燃焼部幅36cmである。袖部は第4・7層の粘土やローム・焼土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子微量 | 5 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子少量，粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 赤 褐 色 | 焼土ブロック多量 |
| | | 7 灰 褐 色 | 粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |



第382图 第75号住居跡実測図

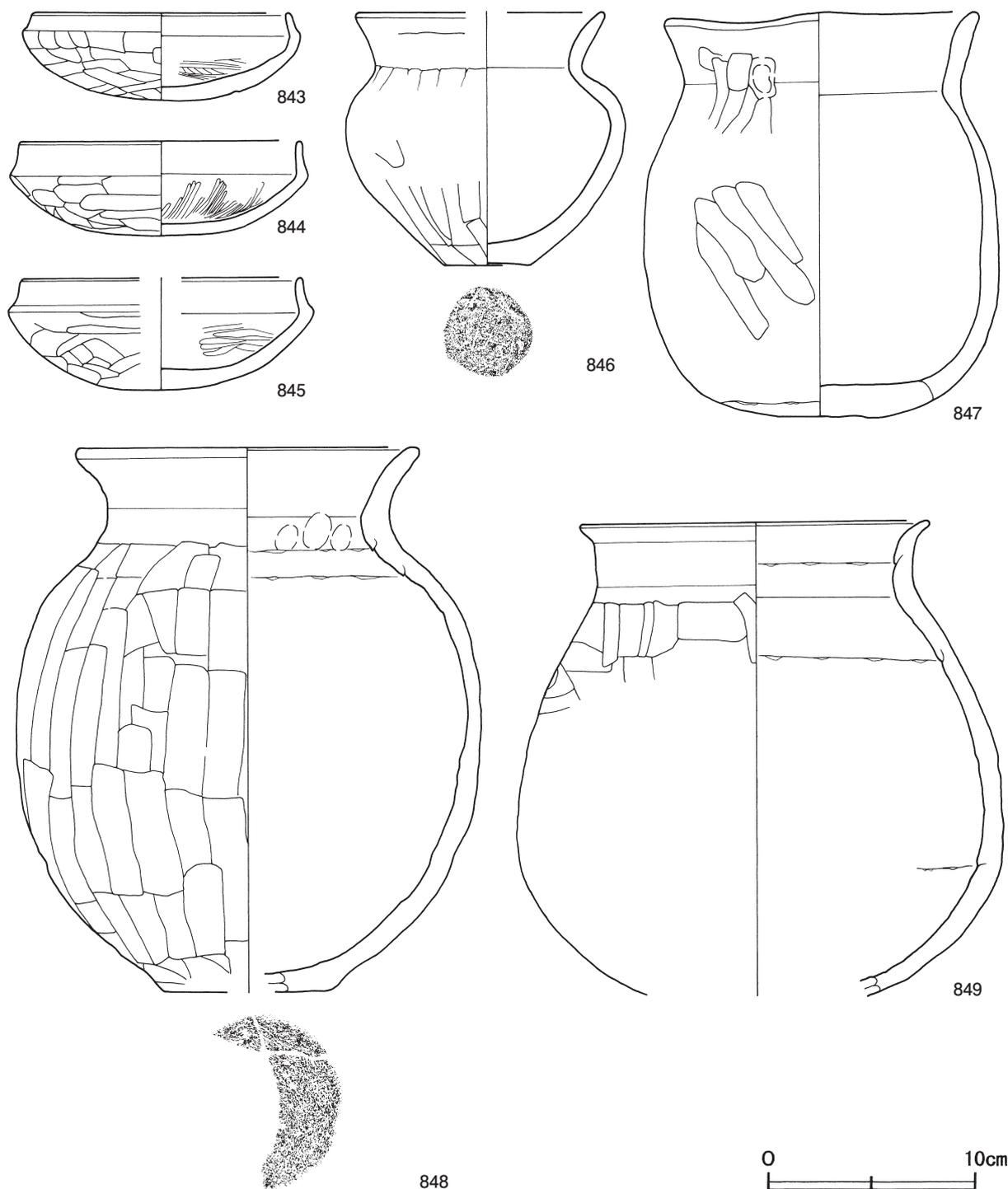
ピット 5か所。P 1～P 4は深さ22～50cmで、支柱穴である。P 5は深さ18cmで、南壁中央部やや東寄りに位置していることなどから出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片133点（坏類12, 甕類121）が出土している。844・845は北壁東部の床面直上, 849は北東コーナー部の床面直上, 847は北東部の覆土上層から覆土下層, 846・848は北壁西部の床面直上からそれぞれ出土している。



第383図 第75号住居跡出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。

第75号住居跡出土遺物観察表（第383図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
843	土師器	坏	12.4	4.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	上層	80% PL38
844	土師器	坏	13.3	4.6	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面直上	75% PL38
845	土師器	坏	[13.4]	5.4	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面直上	70%
846	土師器	小形甕	[11.8]	12.2	4.2	長石・石英・白色粒子	赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面直上	75% PL41
847	土師器	小形甕	14.7	19.7	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ後指頭痕 体部外面ヘラ削り	上層～下層	90% PL41
848	土師器	甕	16.2	26.4	[8.4]	長石・石英・小礫	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 頸部内面指頭痕	床面直上	70%
849	土師器	甕	16.8	(22.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面剥離	床面直上	70% PL42

第76号住居跡（第384～386図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC3c5区、標高27.6mの台地に位置している。

重複関係 第86号住居跡を掘り込み、第15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 一辺4.21mの方形で、主軸方向はN-24°-Wである。壁高は32～53cmで、壁は直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。また、壁下には幅22～40cm、深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで106cm、燃烧部幅41cmである。袖部は第13層のロームを主体とした土を基部とし、第10～12層の粘土やロームを混ぜた土を積み上げて構築されている。火床部は床面から3cmほどくぼんでおり、火床面は第6層上面で火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・灰微量	10 灰褐色	粘土粒子多量
5 灰褐色	灰中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	11 灰褐色	粘土粒子中量、ロームブロック微量
6 にぶい赤褐色	焼土ブロック・灰中量、ローム粒子・炭化粒子微量	12 灰褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量
		13 暗赤褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ46～58cmで、支柱穴である。P5は深さ45cmで、南壁中央部付近に位置していること、硬化面の広がり方などから出入口施設に伴うピットである。

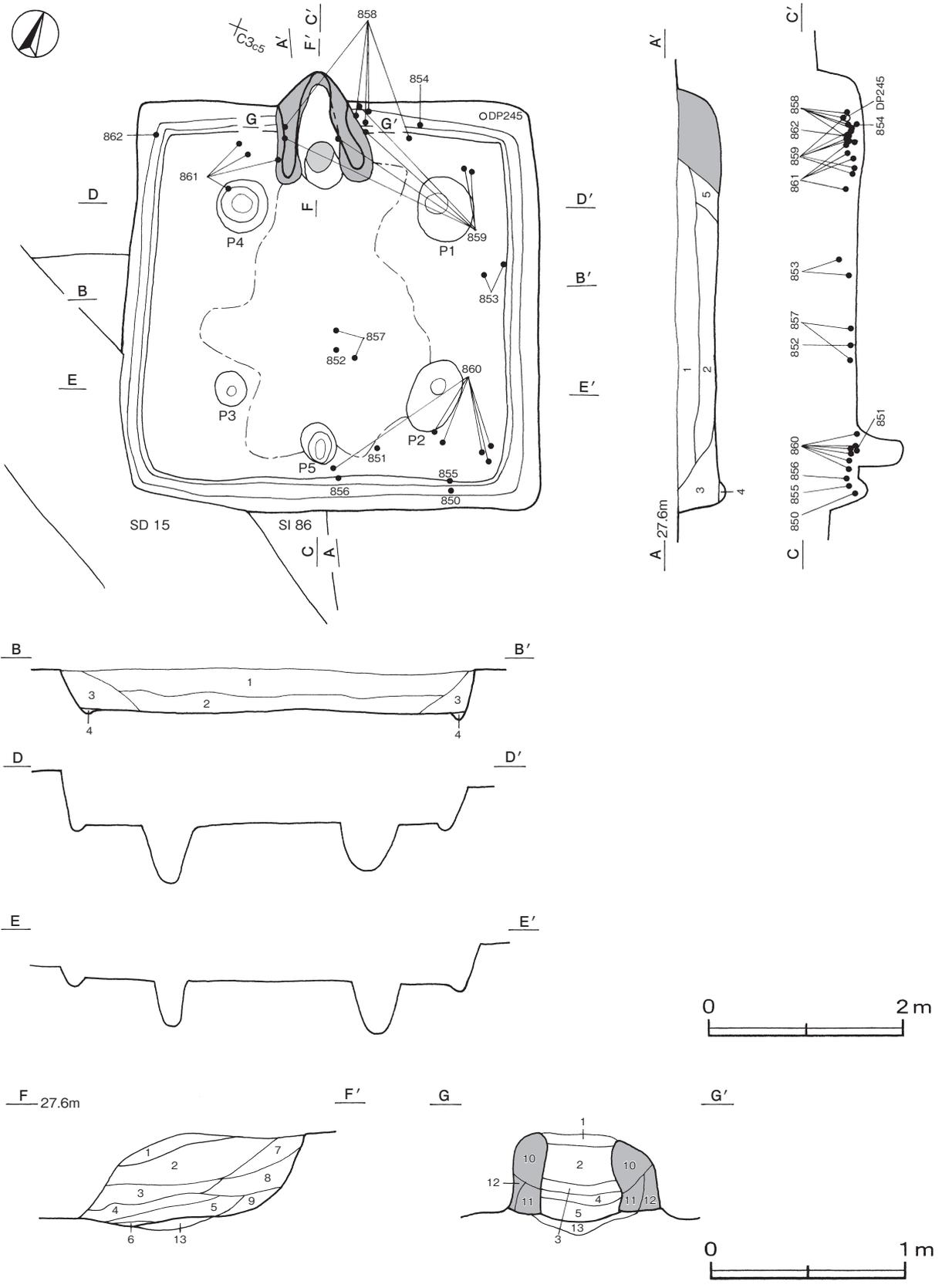
覆土 5層に分けられる。壁際の堆積や、中央部の堆積状況などから自然堆積である。

土層解説

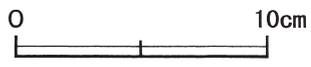
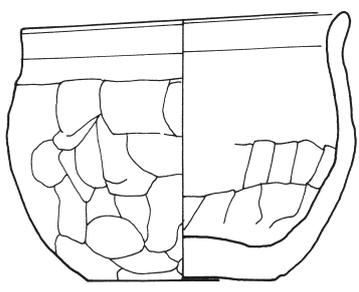
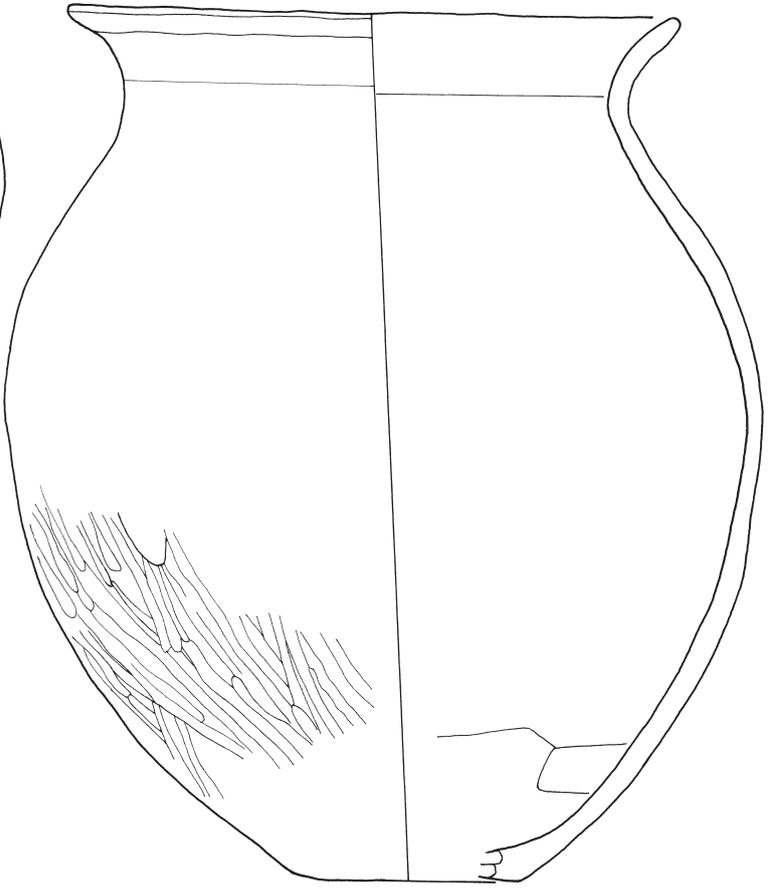
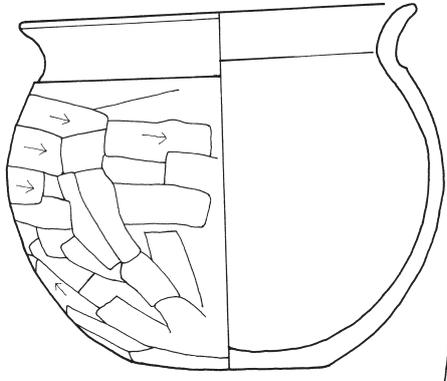
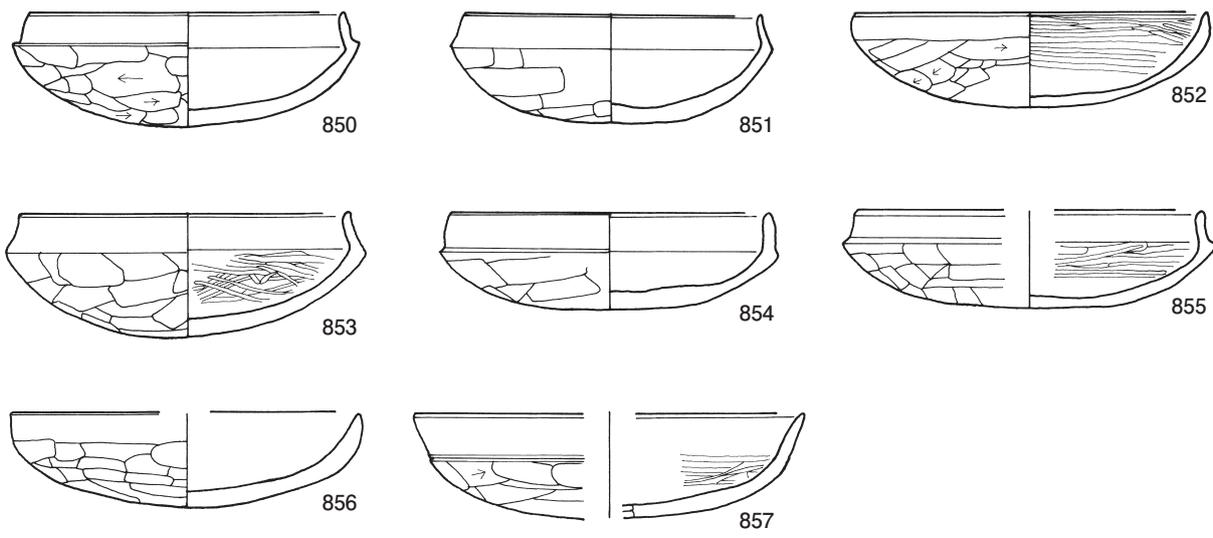
1 暗褐色	ローム粒子少量	4 黒褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	5 暗褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック微量		

遺物出土状況 土師器片288点（坏類36、甕類249、甗2、手捏土器1）、土製品16点（支脚）が出土している。857は中央部の覆土下層から床面直上、852は正位で床面直上、854は北壁際東寄りの覆土下層、DP245は北東コーナー部の覆土下層、850・855は口縁部を重ねた状態で南壁際東寄りの覆土下層、860は南東部の覆土下層、851は正位で南部中央の床面直上、861は北西部の覆土中層から覆土下層、862は北西コーナー部の覆土下層、859は竈周辺から北東コーナー部の覆土下層にかけてそれぞれ出土している。

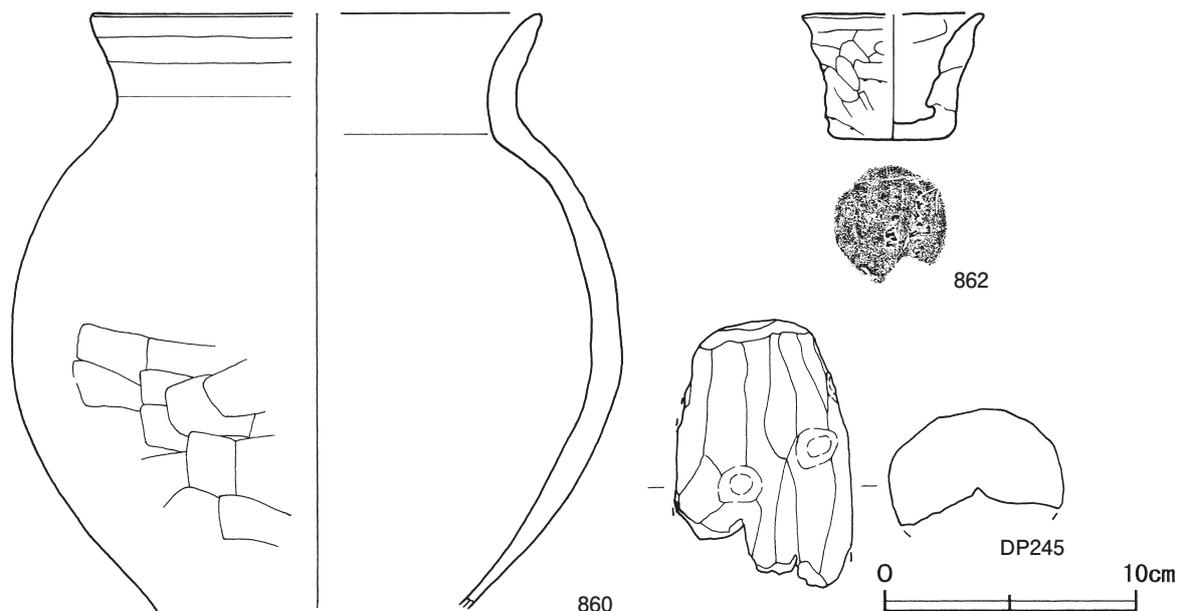
所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第384図 第76号住居跡実測図



第385图 第76号住居跡出土遺物実測図(1)



第386図 第76号住居跡出土遺物実測図(2)

第76号住居跡出土遺物観察表 (第385・386図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
850	土師器	坏	12.4	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	100% PL41
851	土師器	坏	11.7	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面直上	95% PL41
852	土師器	坏	14.0	3.8	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面直上	90% PL41
853	土師器	坏	12.9	5.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	中層	85% PL41
854	土師器	坏	12.6	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	70% PL41
855	土師器	坏	[13.6]	3.8	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	60% PL42
856	土師器	坏	[13.8]	3.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	55%
857	土師器	坏	[15.6]	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層～床面	45%
861	土師器	小形甕	12.6	10.8	7.4	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中層～下層	80% PL42
858	土師器	甕	15.4	14.5	7.8	長石・石英・白色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	70% PL42
859	土師器	甕	23.8	34.4	9.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面下端ヘラ磨き 内面下端ヘラナデ	下層	50%
860	土師器	甕	[17.8]	(23.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	20%
862	土師器	手捏土器	[7.0]	5.0	4.6	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラナデ	下層	70% PL64

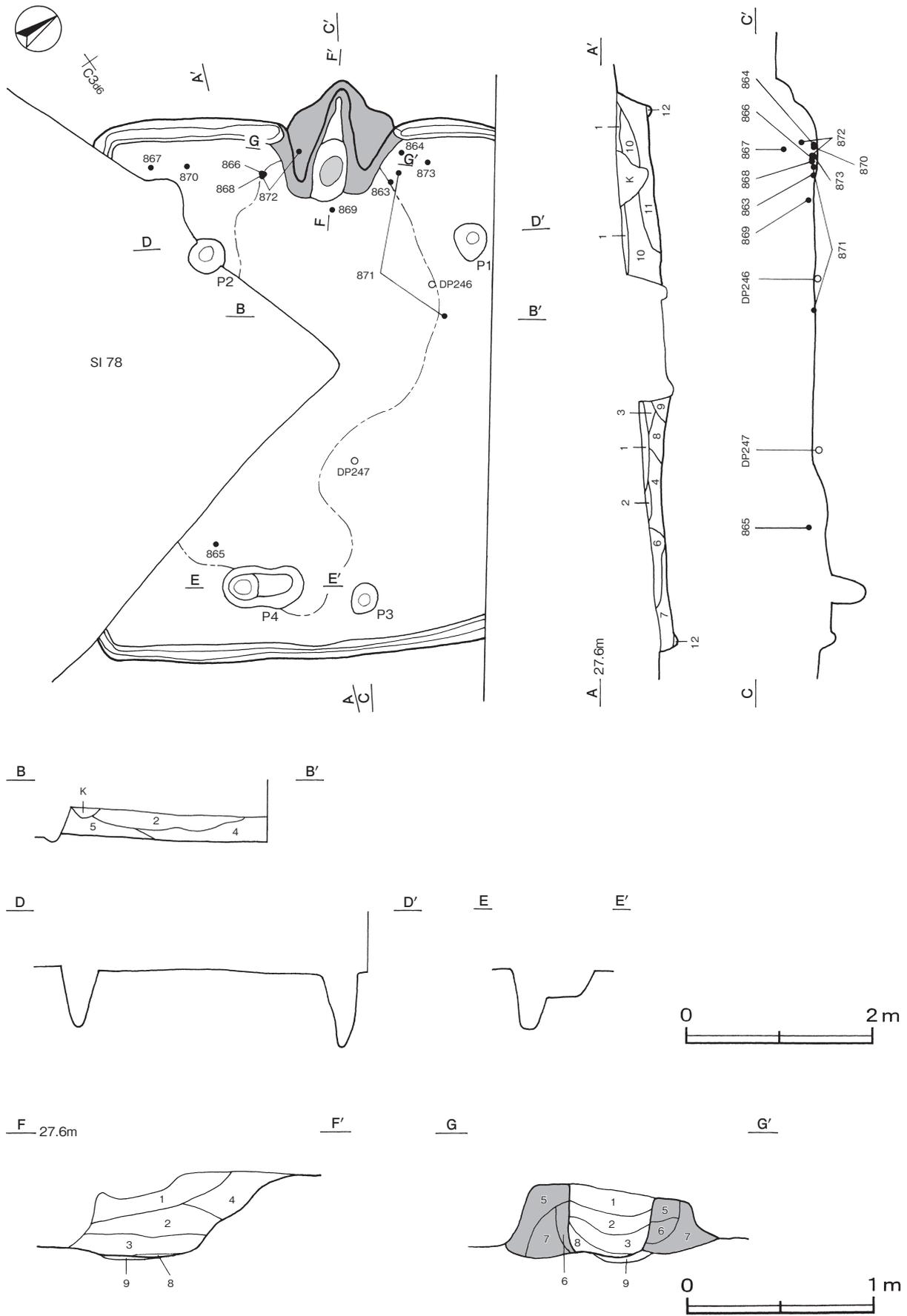
番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP245	支脚	(10.6)	4.7	(7.0)	274.4	粘土	外面ヘラ削り 指頭痕 下端欠損	下層	

第77号住居跡 (第387～389図)

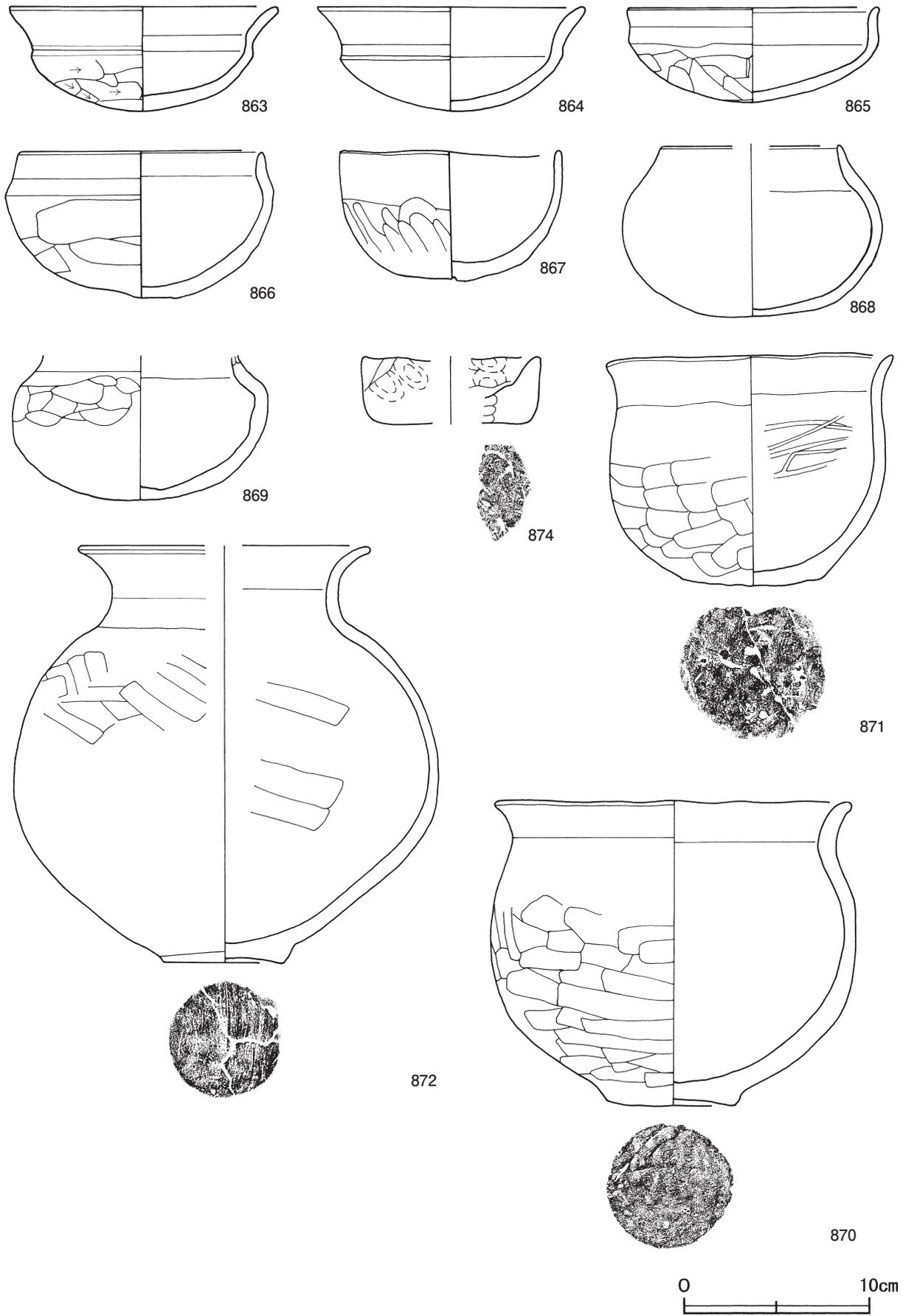
位置 調査Ⅲ区北西部のC3c6区、標高27.4mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第85号住居跡を掘り込み、第78号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外に延び、西壁の大部分が第78号住居に掘り込まれているため、南北軸が5.70mで、東西軸は4.12mしか確認されなかった。方形または長方形と推測される。主軸方向はN-54°-Wである。壁高は15～45cmで、壁は直立している。



第387图 第77号住居跡実測図



第388図 第77号住居跡出土遺物実測図(1)

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅14～24cm、深さ4～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで120cm、燃焼部幅36cmである。袖部は第5～7層の粘土やローム・焼土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり、火床面は第9層上面で火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に52cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
2	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	5	灰褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	6	灰褐色	焼土粒子・粘土粒子中量
			7	灰褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子微量
			8	褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
			9	明赤褐色	焼土ブロック多量

ピット 4か所。P1・P2は深さ47cm・61cmで、主柱穴と考えられる。P3は深さ36cmで、竈と相対していること、硬化面の範囲などから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ31cmと62cmで、南壁に平行しているが、規模や配置から機能・性格を推測することはできないが、出入り口施設との関連も想定できる。

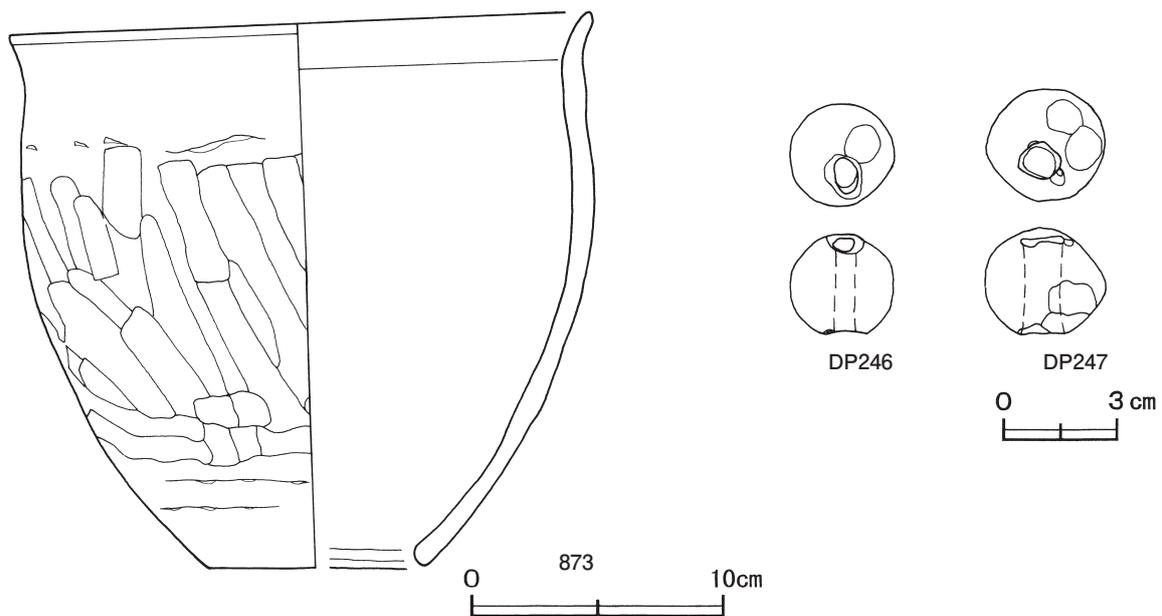
覆土 12層に分けられる。ロームブロックを含み、焼土粒子や炭化粒子の混入など、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	10	にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量	11	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	12	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量			
7	暗褐色	ロームブロック微量			

遺物出土状況 土師器片308点（坏類47、椀3、高坏1、壺1、甕類254、甌1、手捏土器1）、土製品3点（球状土錘2、支脚1）、鉄滓3点が出土している。DP247は中央部の床面直上、864は北壁東部の覆土下層、863・873は北東部の覆土下層、871は覆土下層から床面直上、DP246は床面直上、870は正位で北西部の床面直上、872は竈周辺から左袖内の中層から覆土下層、868は竈内から左袖外の覆土下層、866は竈左袖外の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。



第389図 第77号住居跡出土遺物実測図(2)

第77号住居跡出土遺物観察表（第388・389図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
863	土師器	坏	14.3	5.7	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	90% PL42
864	土師器	坏	14.4	5.6	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部磨耗	下層	85% PL42
865	土師器	坏	13.4	5.1	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	85% PL42
866	土師器	椀	13.0	7.9	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	80% PL42
867	土師器	椀	11.6	7.3	7.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	70% PL42
868	土師器	椀	[9.4]	9.3	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部磨耗	下層	50%
869	土師器	椀	-	(7.8)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	70% PL43
870	土師器	甕	18.8	16.5	6.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面直上	90% PL43
871	土師器	甕	15.3	12.5	7.7	長石・石英・赤色粒子	黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面沈線痕を残すヘラナデ	下層～床面	95% PL43
872	土師器	甕	[15.4]	22.5	6.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中層～下層	55%
873	土師器	甗	22.8	22.1	8.6	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	95% PL45
874	土師器	手捏土器	[9.4]	3.7	[8.6]	長石・石英	にぶい褐	普通	内・外面指頭痕	覆土中	40% PL64

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP246	球状土錘	2.8	2.7	0.9	(19.2)	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	床面直上	
DP247	球状土錘	3.2	2.9	1.2	(22.5)	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	床面直上	

第78号住居跡（第390・391図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC3d6区、標高27.3mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第77・85・86号住居跡を掘り込み、第82号住居、第15・17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 一辺4.88mの方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は24～52cmで、壁は直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅16～30cm、深さ4～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで126cm、燃焼部幅34cmである。袖部は第15層のロームを主体とした土で基部とし、第12・13層の粘土やロームを混ぜた土を積み上げて構築されている。火床部は床面から3cmほどくぼんでおり、火床面は第6層上面で火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	8	にぶい褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化物・焼土粒子微量
2	灰褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量、粘性強	9	灰褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	10	褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4	にぶい褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5	にぶい褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12	にぶい褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
6	暗赤褐色	焼土ブロック多量	13	灰褐色	粘土粒子多量
7	暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	14	にぶい褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
			15	褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・粘土粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ33～67cmで、主柱穴である。P5は深さ36cmで、南壁中央部に位置していること、硬化面の広がり方などから出入り口施設に伴うピットである。

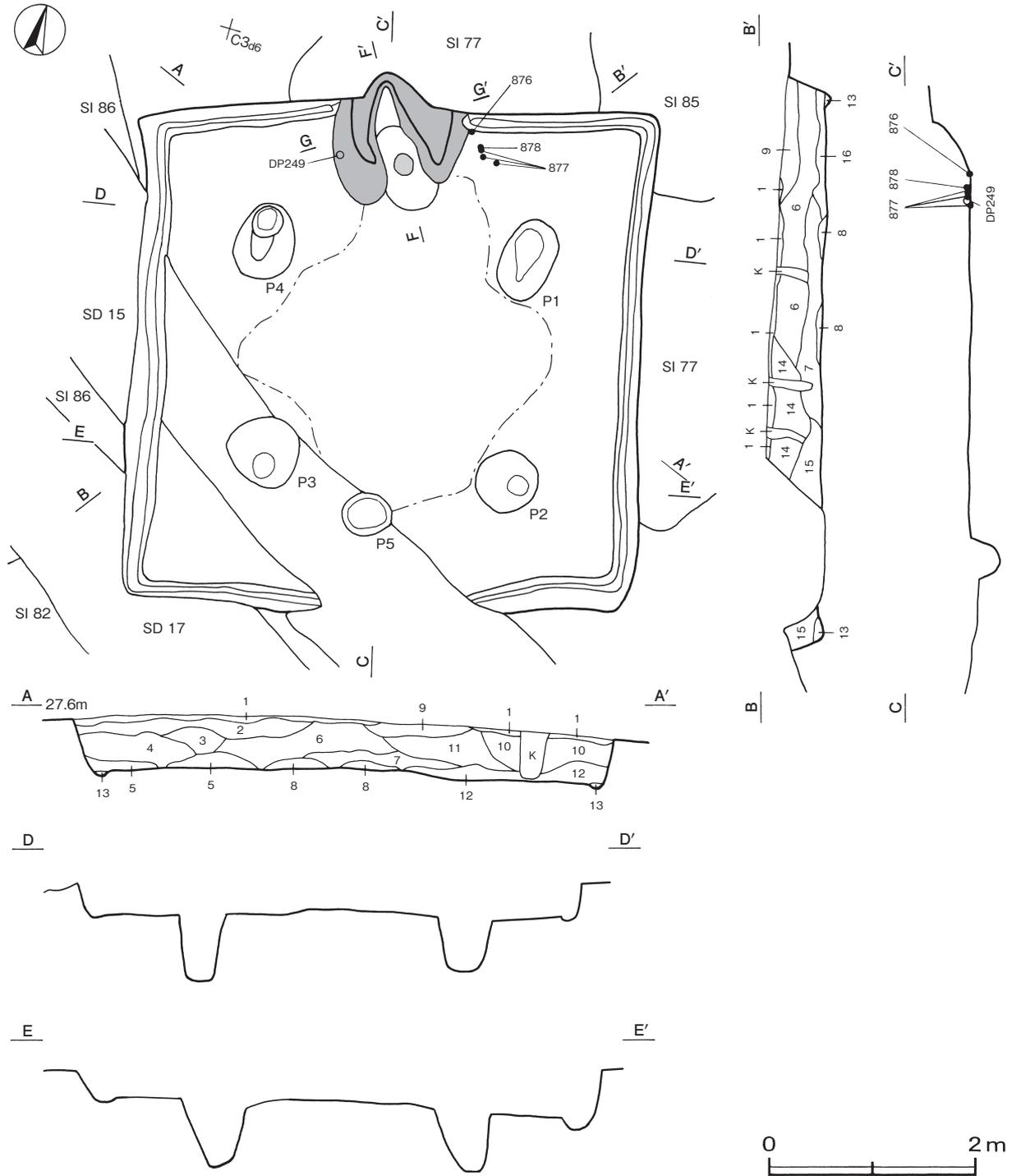
覆土 16層に分けられる。ロームブロックを含み、焼土粒子や炭化粒子が混入した不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック少量

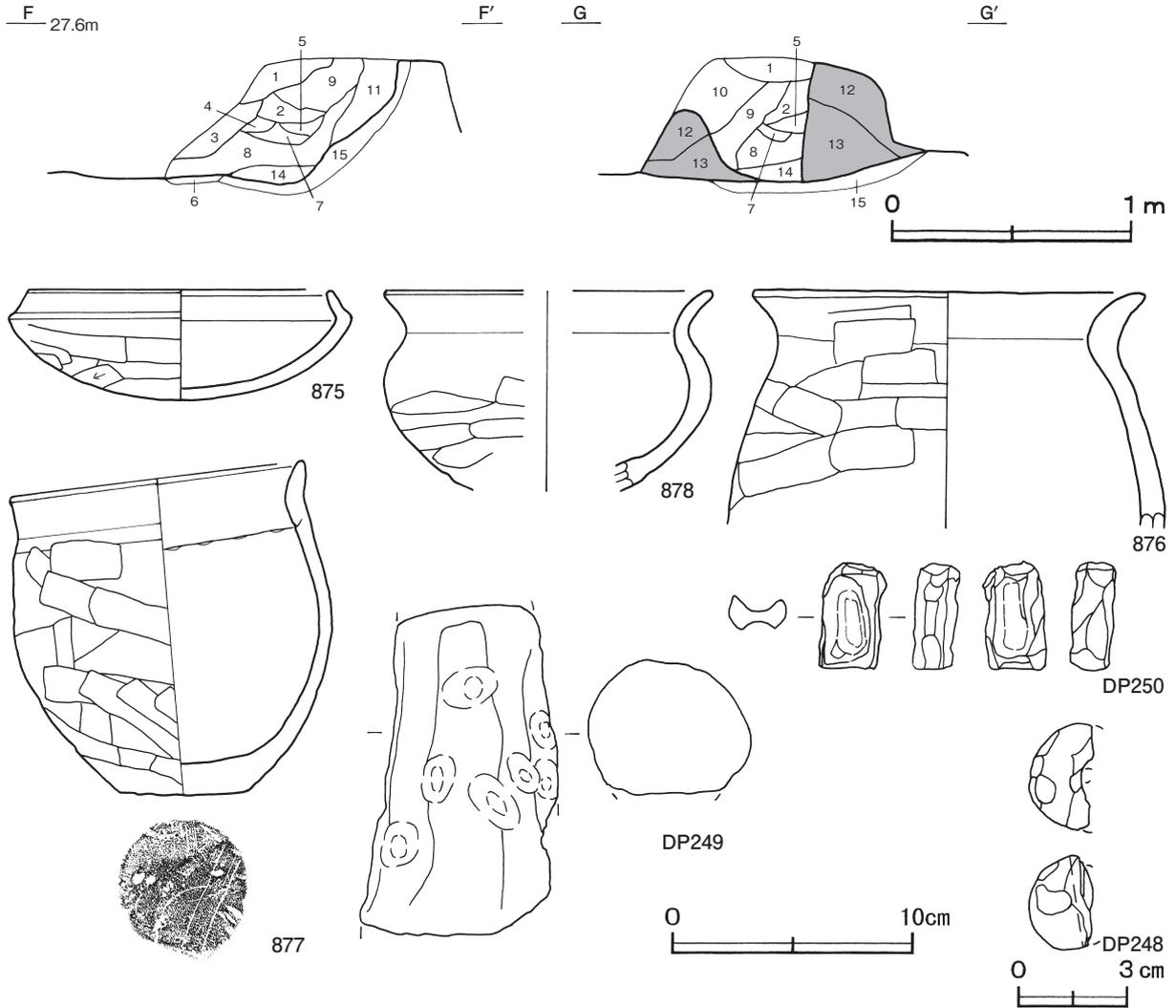
- | | | | |
|--------|------------------------|--------|----------------------|
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片230点(坏類42, 高坏1, 甕類186, 甌1), 土製品6点(球状土錘1, 支脚4, 不明土製品1), 滑石片1点, 鉄滓7点, 貝殻1点(カキ)が出土している。876・878は竈右袖外の覆土下層, 877は覆土下層から床面直上にかけてそれぞれ出土している。



第390図 第78号住居跡実測図

所見 竈内出土のカキに焼けた痕跡はなく、竈が使用されなくなっから入り込んだものと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第391図 第78号住居跡・出土遺物実測図

第78号住居跡出土遺物観察表（第391図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
875	土師器	坏	12.4	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	80%
876	土師器	甕	16.2	(9.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	30%
877	土師器	小形甕	12.2	13.9	5.5	長石・石英・小礫	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層～床面直上	90% PL44
878	土師器	碗	[13.3]	(8.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	20%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP248	球状土錘	(3.0)	2.6	0.7	(10.7)	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP249	支脚	(13.7)	6.0	(8.1)	(496.6)	粘土	外面ヘラ削り 指頭痕 両端欠損	下層	

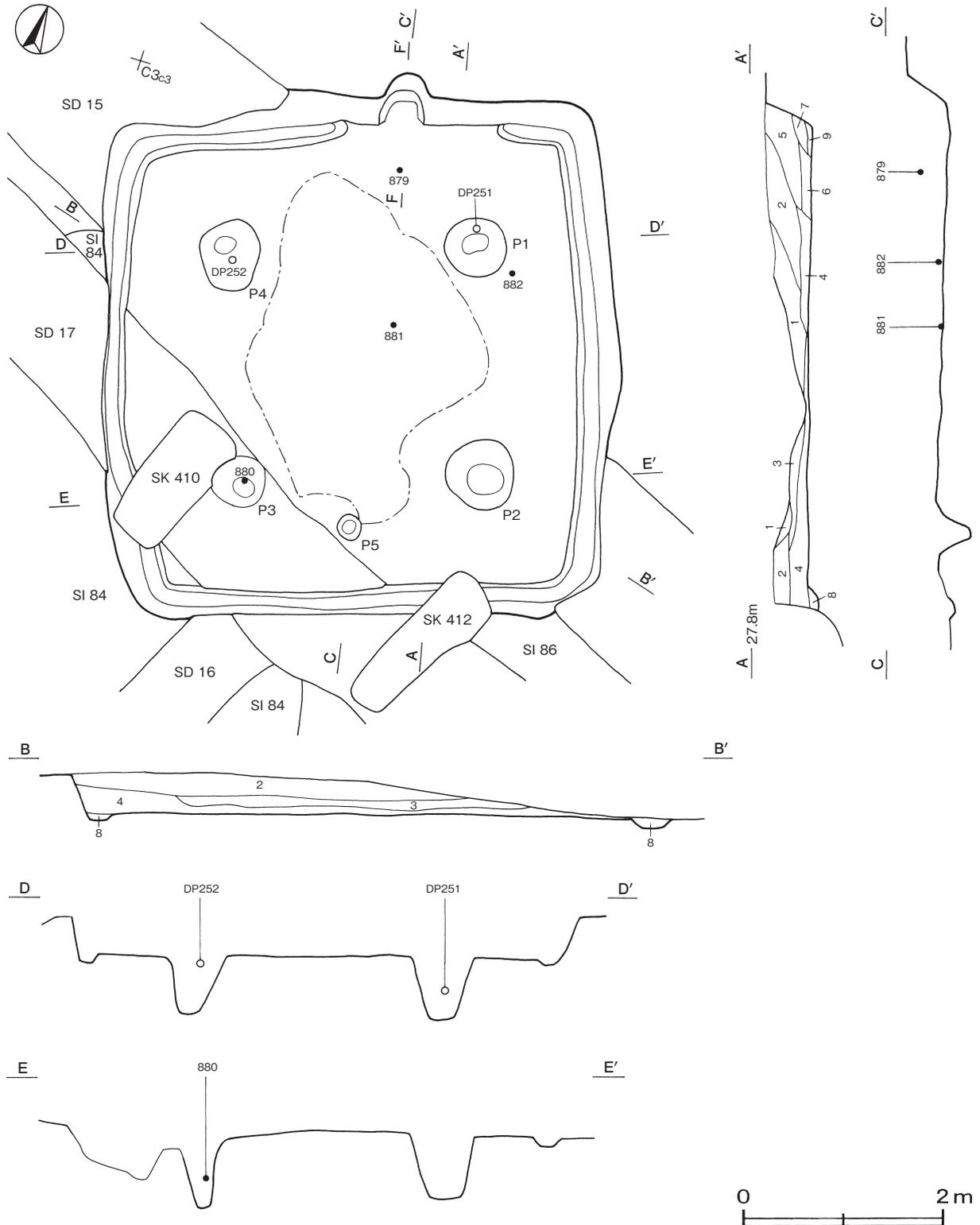
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP250	不明土製品	4.5	2.8	2.0	16.0	粘土	外面指頭痕	覆土中	PL47

第79号住居跡 (第392・393図)

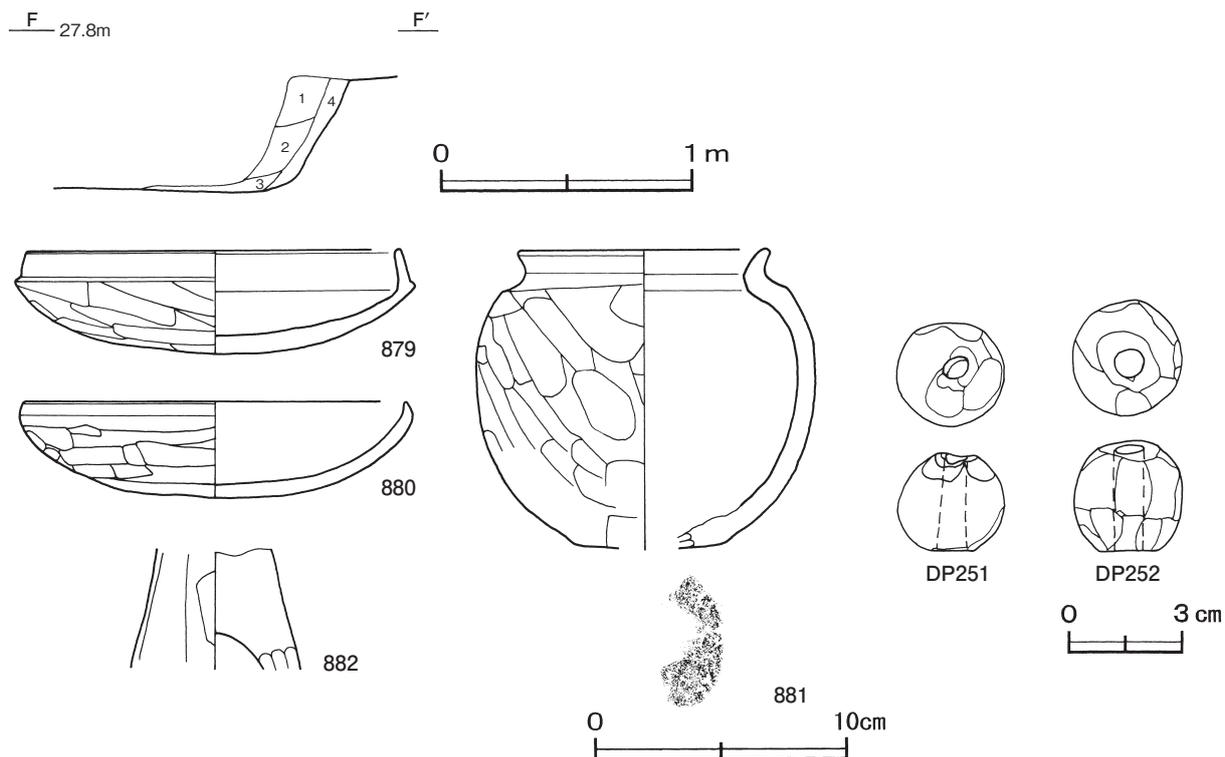
位置 調査Ⅲ区北西部のC3c3区, 標高27.6mの台地に位置している。

重複関係 第84・86号住居跡を掘り込み, 第15～17号溝, 第410・412号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.24m, 短軸5.15mの方形で, 主軸方向はN-17°-Wである。壁高は12～40cmで, 壁は直立している。



第392図 第79号住居跡実測図



第393図 第79号住居跡・出土遺物実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅18～48cm、深さ3～10cmで逆台形字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央に付設されていた痕跡が認められる。袖部・火床部は破壊されているため、煙道部の掘り込みが確認できるだけである。規模は煙道部の奥行きが56cm、煙道部幅が50cmであり、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ59～66cmで、支柱穴である。P5は深さ35cmで、南壁中央部に位置していること、硬化面の広がり方などから出入口施設に伴うピットである。

覆土 9層に分けられる。レンズ状の層序を示している自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片193点（坏類33、高坏1、小形甕1、甕類158）、土製品2点（球状土錘）、鉄滓1点が出土している。881は中央部の覆土下層、DP251はP1内の覆土中層、880は南西部の覆土中からP3内の覆土下層、DP252はP4内の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。

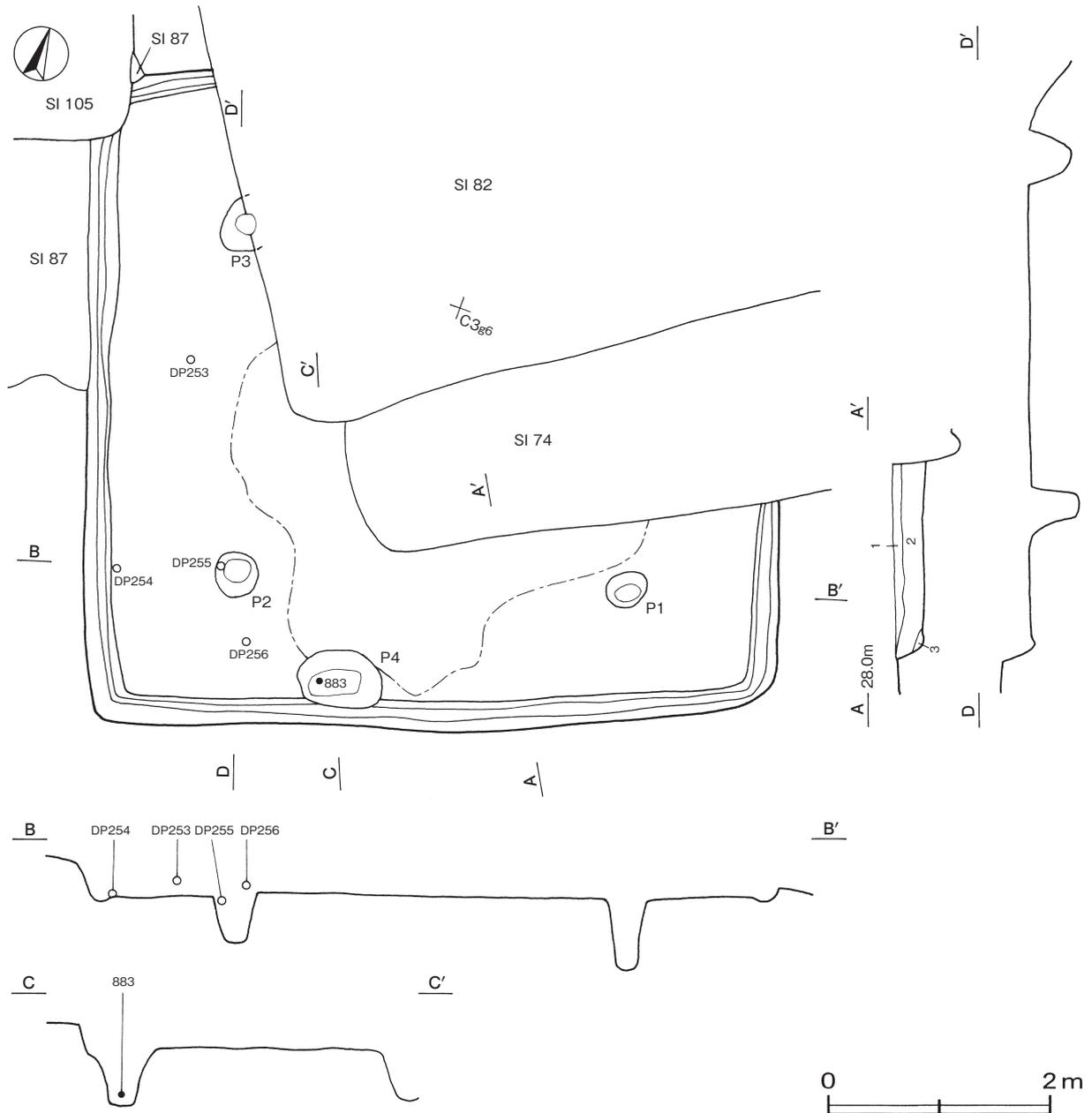
第79号住居跡出土遺物観察表 (第393図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
879	土師器	坏	14.7	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	90% PL43
880	土師器	坏	15.2	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中～P3内下層	45%
881	土師器	小形甕	9.7	12.0	[6.0]	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	60% PL44
882	土師器	高坏	-	(4.8)	-	長石・石英・赤色粒子・小礫	橙	普通	脚部外面ヘラ削り	下層	10%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP251	球状土錘	2.8	2.6	0.8	(17.3)	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔	P1内中層	
DP252	球状土錘	2.8	3.0	0.8	23.1	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔	P4内上層	

第80号住居跡 (第394・395図)

位置 調査Ⅲ区北西部のC3g5区、標高27.8mの台地に位置している。



第394図 第80号住居跡実測図

重複関係 第106号住居跡を掘り込み、第74・82・87・105号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.22m、短軸5.92mの方形で、主軸方向はN-24°-Wである。壁高は28～32cmで、壁は直立している。

床 平坦で、踏み固められた範囲が確認されている。壁下には幅18～28cm、深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 4か所。P1～P3は深さ40～62cmで、支柱穴と考えられる。P4は深さ53cmで、南壁中央部やや西寄りに位置していること、硬化面の範囲などから出入口施設に伴うピットと考えられる。

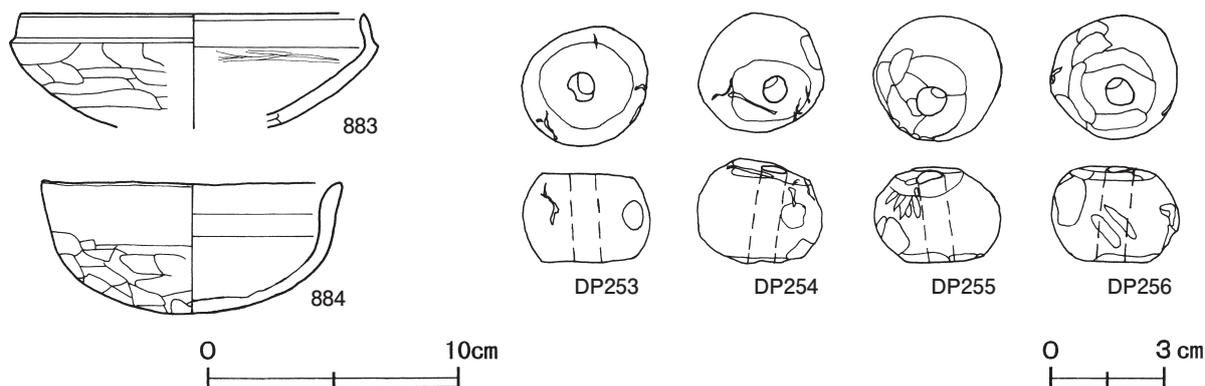
覆土 3層に分けられる。覆土の残存がごく一部であるため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片140点（坏類20、甕類120）、土製品4点（球状土錘）が出土している。DP256は南西部の覆土下層、883は南西部覆土中からP4内の覆土下層、DP255はP2内の覆土上層、DP254は西壁際南部の覆土下層、DP253は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第395図 第80号住居跡出土遺物実測図

第80号住居跡出土遺物観察表（第395図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
883	土師器	坏	13.6	(4.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中～P4内下層	30%
884	土師器	坏	11.8	5.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面磨耗	覆土中	80%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP253	球状土錘	3.4	2.4	0.7	28.2	粘土	上下カット 一方向からの穿孔	中層	
DP254	球状土錘	3.3	2.7	0.7	27.8	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP255	球状土錘	3.4	2.6	0.8	(28.4)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	P2内上層	
DP256	球状土錘	3.4	2.5	0.8	28.9	粘土	上下カット 一方向からの穿孔	下層	

第81号住居跡（第396図）

位置 調査Ⅲ区中央部のC4j1区、標高26.8mの台地に位置している。

重複関係 第104号住居跡、第3号遺物包含層を掘り込んでいます。

規模と形状 南東壁の一部が残るだけで、ほかの壁は削平により壊されているため、南北軸3.38m、東西軸

3.09mの長方形または方形と推測され、主軸方向はN-24°-Eである。壁高は3~5cmで、壁は直立している。床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで60cm、燃烧部幅44cmである。袖部は基部のみが残存している。火床部は床面から1cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に23cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

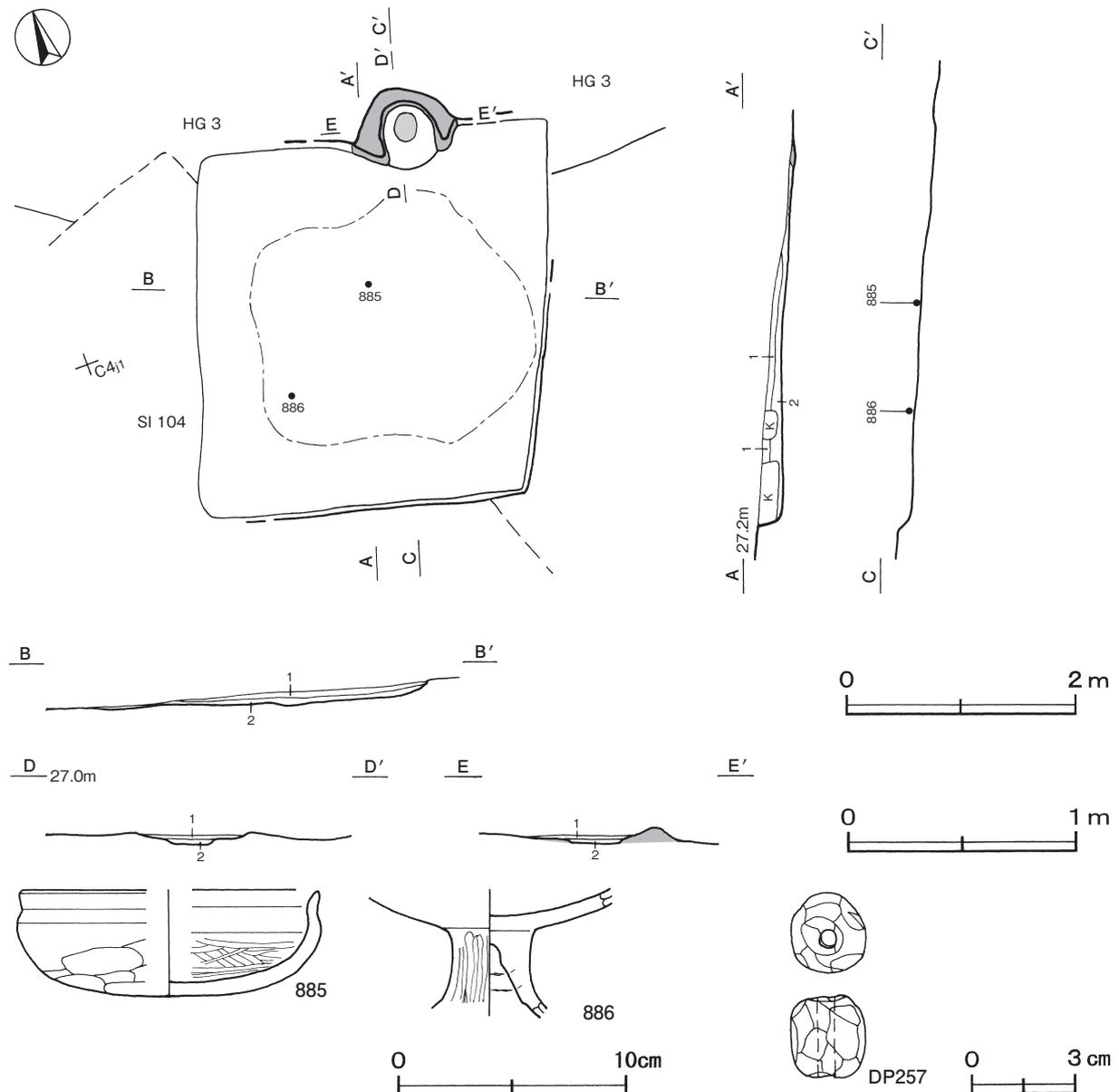
- 1 黒 褐 色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 明 赤 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

覆土 2層に分けられる。堆積覆土の粒子は細かく、水平な堆積をしていることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片71点（坏類6，高坏1，甕類64），土製品1点（球状土錘），鉄滓1点が出土している。885は中央部の覆土下層から出土している。



第396図 第81号住居跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。

第81号住居跡出土遺物観察表（第396図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
885	土師器	坏	[13.0]	4.6	-	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	40%
886	土師器	高坏	-	(5.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き	中層	10%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP257	球状土錘	2.4	2.5	0.5	11.9	粘土	外面ヘラ削り 一方向からの穿孔	覆土中	

第82号住居跡（第397～399図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC3f5区、標高27.8mの台地に位置している。

重複関係 第74・78・80・88号住居跡を掘り込み、第15・17号溝、第394・417・418号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.54m、短軸6.40mの方形である。主軸方向はN-32°-Wである。壁高は10～62cmで、壁は直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅22～42cm、深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。ほかに、北西部と南東部の壁際に焼土が3か所確認されている。

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで144cm、燃焼部幅55cmである。袖部は第12・13層の粘土やローム・焼土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、火床面は第14層上面で、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

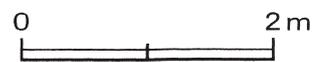
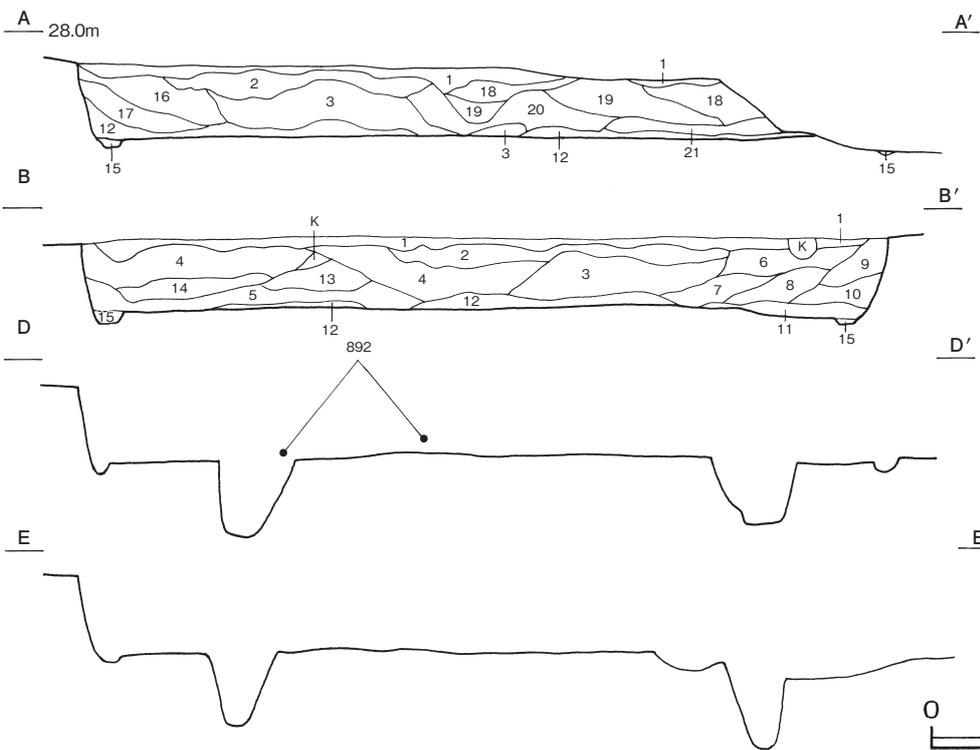
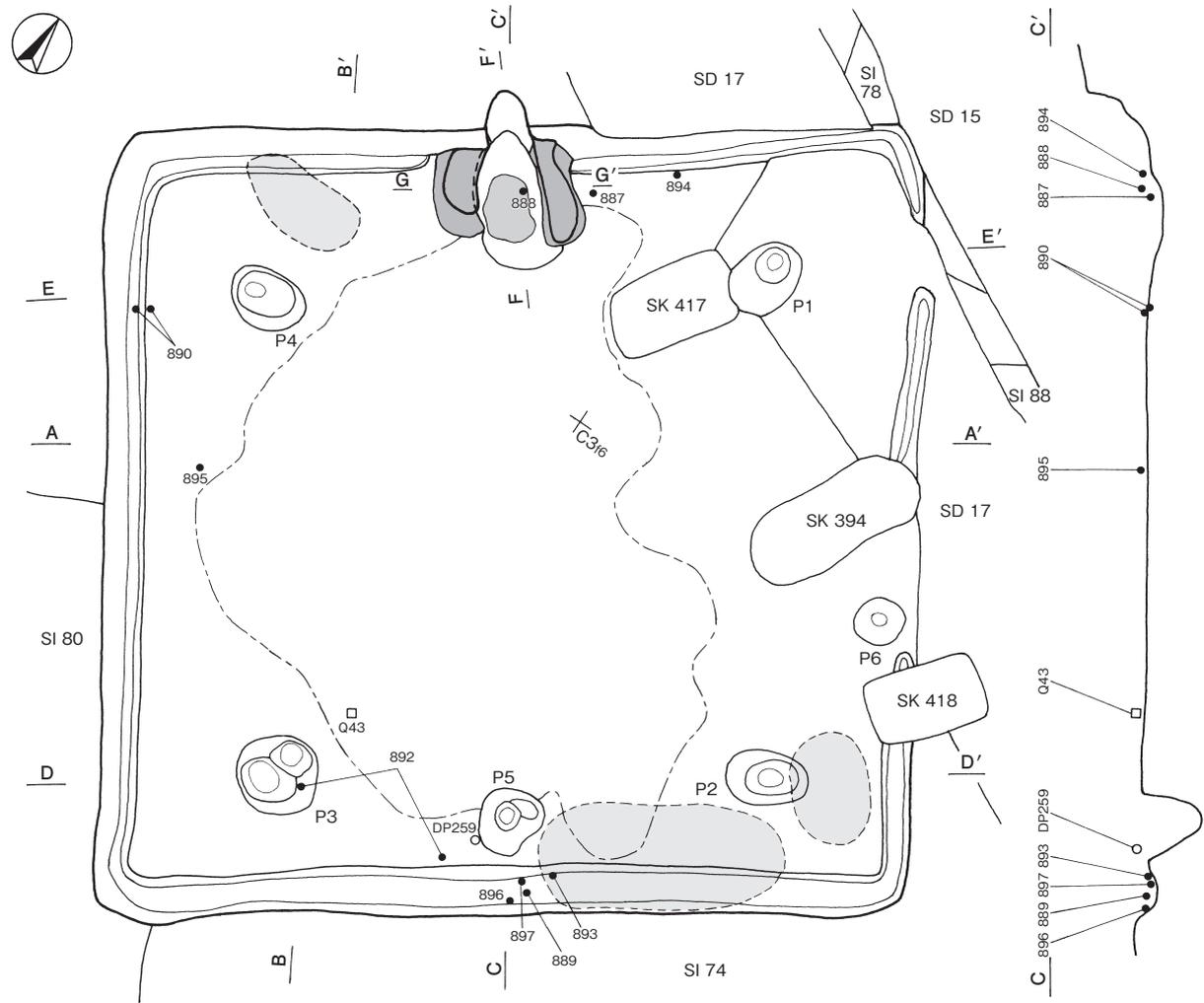
1 灰褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	7 にぶい褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 灰褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
		13 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土粒子微量
		14 明赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量
		15 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、粘土粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ54～68cmで、支柱穴である。P5は深さ62cmで、南壁中央部に位置していること、硬化面の広がり方などから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 21層に分けられる。ロームブロックを含み、焼土粒子や炭化粒子が混入した、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	15 黒褐色	ローム粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
6 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	17 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量
7 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	18 暗赤褐色	焼土ブロック中量・ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量	19 暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
9 褐色	ロームブロック少量	20 暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子微量
10 褐色	ロームブロック中量	21 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
11 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量		



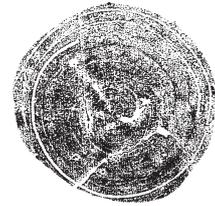
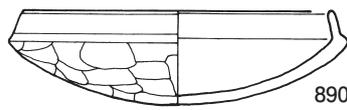
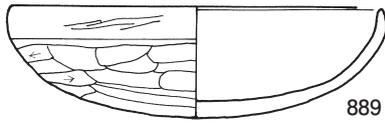
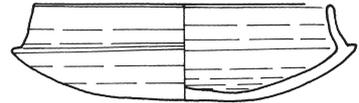
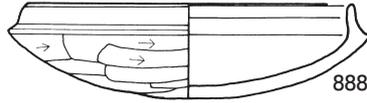
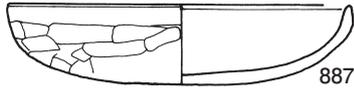
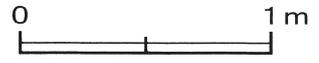
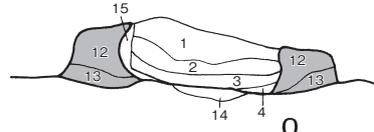
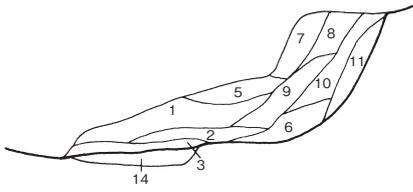
第397图 第82号住居跡実測図

F 27.8m

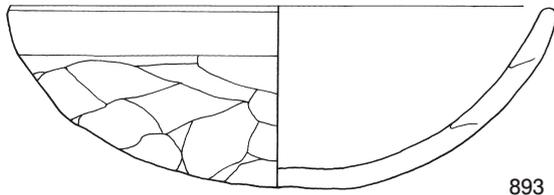
F'

G

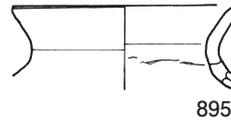
G'



892



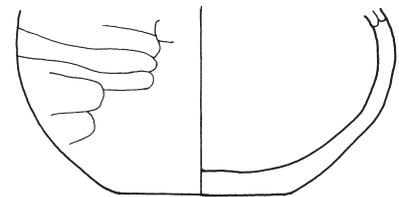
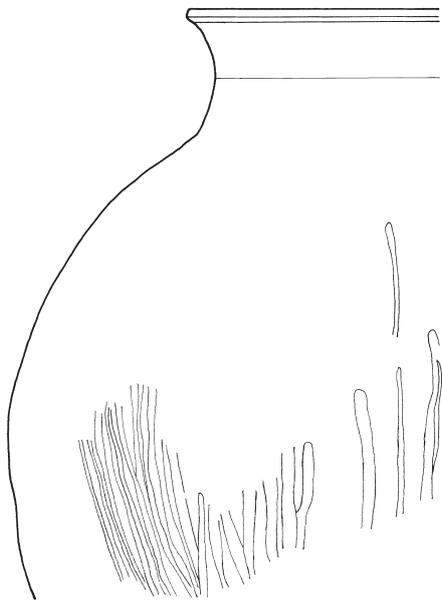
893



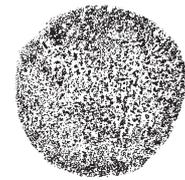
895



894



896



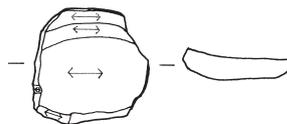
897



898



899



Q41



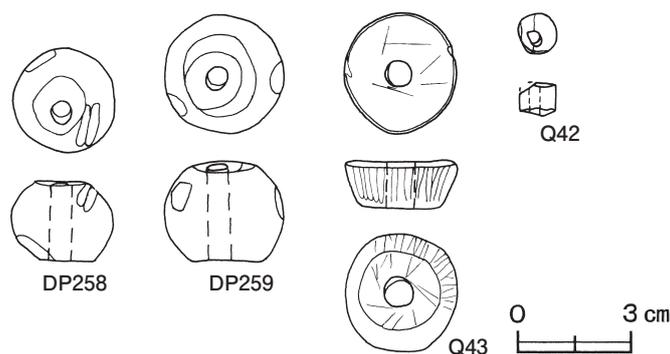
M51



第398图 第82号住居跡・出土遺物実測図(1)

遺物出土状況 土師器片737点（坏類232, 高坏11, 鉢1, 壺1, 甕類485, 甌2, ミニチュア土器5）, 須恵器片9点（坏類4, 蓋3, 1, 不明1）, 土製品3点（土玉2, 球状土錘1）, 石器1点（砥石）, 石製品2点（白玉, 紡錘車）, 鉄製品4点（不明）が出土している。888は竈内の覆土中層, 887は竈右袖外の覆土下層, 894は北壁際東部の覆土下層, 889は南壁際中央部の覆土下層, 893・897は正位で床面直上, 896は南壁際中央部の床面直上, 892は南西部の覆土中層からP3上面, 890は西壁際北部の覆土下層, 895は西壁中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 住居内から確認された焼土塊などから, 焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第399図 第82号住居跡出土遺物実測図(2)

第82号住居跡出土遺物観察表（第398・399図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
887	土師器	坏	13.5	3.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へラ削り	下層	100% PL43
888	土師器	坏	12.8	3.8	-	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へラ削り	中層	95% PL43
889	土師器	坏	14.8	4.3	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へラ削り	下層	90% PL43
890	土師器	坏	12.2	3.7	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へラ削り	下層	80% PL43
892	須恵器	坏	11.6	4.2	-	長石	灰黄	普通	底部回転へラ削り	中層～P3上面	95% PL43
893	土師器	坏	21.2	8.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面直上	85% PL45
894	須恵器	甌	[13.8]	(2.7)	-	長石	灰	普通	頸部外面上位歯歯描波状文(5条)を施文	下層	10%
895	土師器	小形壺	8.8	(3.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	下層	10%
896	土師器	甕	[21.6]	(23.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へラ磨き 内面ナデ	床面直上	30%
897	土師器	甕	-	(7.4)	6.8	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面へラ削り	床面直上	70%
898	土師器	ミニチュア土器	6.7	3.1	4.4	長石・石英・白色粒子	橙	普通	体部外面ナデ	覆土中	95% PL64
899	土師器	ミニチュア土器	3.6	(3.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へラ削り	覆土中	40% PL64

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP258	球状土錘	2.8	2.1	0.6	15.9	粘土	外面へラナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP259	球状土錘	3.2	2.7	0.6	27.0	粘土	上下カット 外面へラナデ 一方向からの穿孔	中層	

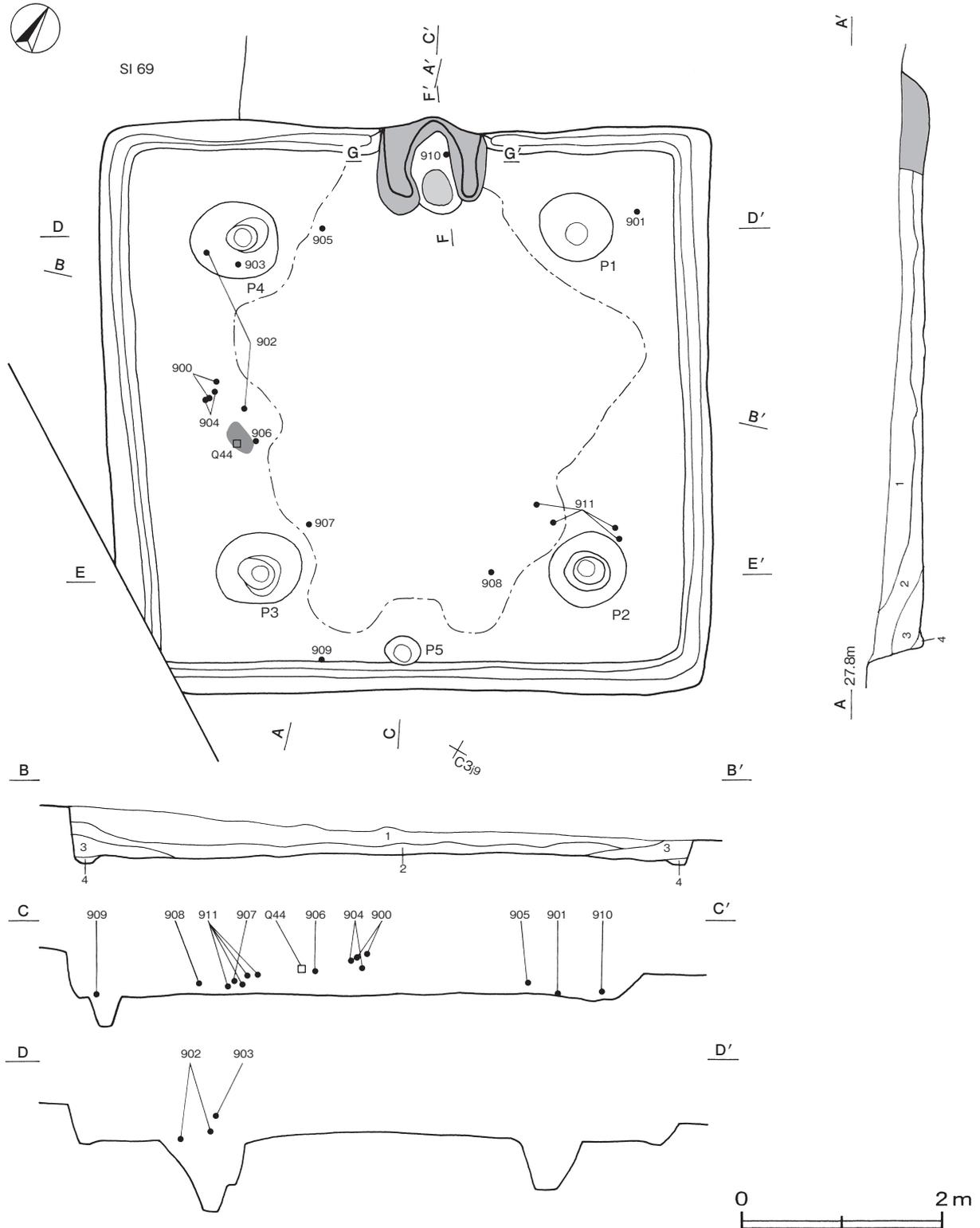
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 41	砥石	4.6	4.6	1.3	27.2	粘板岩	砥面5面	覆土中	PL47

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 42	白玉	(1.1)	(0.9)	0.3	1.0	滑石	側面は円筒形 一方向からの穿孔	覆土中	PL47
Q 43	紡錘車	3.1	1.3	0.8	18.7	滑石	円錐台形 一方向からの穿孔 側面縦方向の研磨	中層	PL47

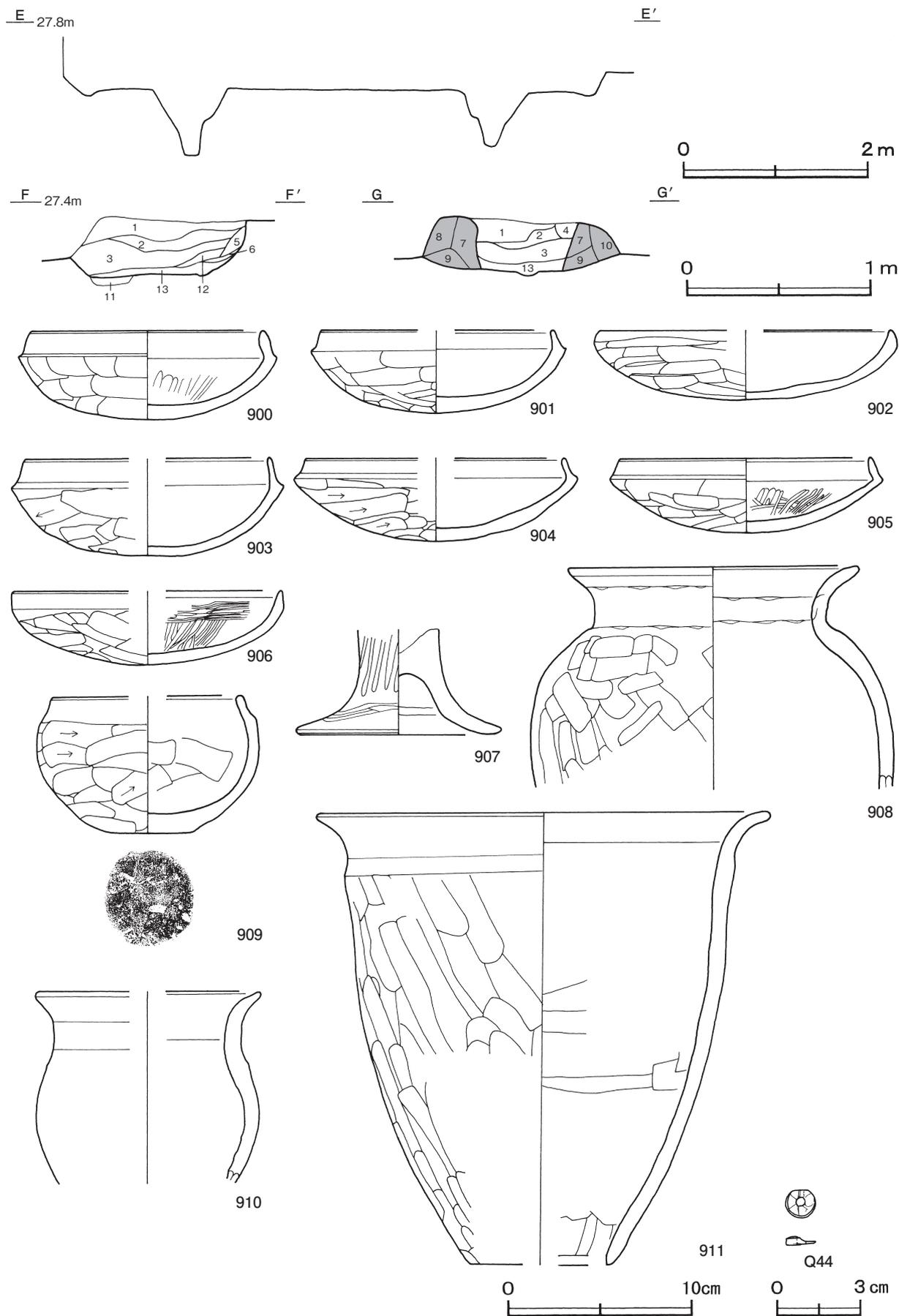
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 51	不明鉄製品	(5.3)	(3.0)	0.4	(20.0)	鉄	断面は片側尖端が薄くはなるが、刃ではない	覆土中	

第83号住居跡 (第400・401図)

位置 調査Ⅲ区中央部のC 3 i8区, 標高27.6mの台地に位置している。



第400図 第83号住居跡実測図



第401图 第83号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第69号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.00m, 短軸5.70mの方形である。主軸方向はN-31°-Wである。壁高は20～45cmで、壁は直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅20～38cm, 深さ4～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。ほかに、西部中央に貝殻集中地点が1か所確認されている。

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで92cm, 燃焼部幅38cmである。袖部は第7～10層の粘土やローム・焼土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に14cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|---------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | 7 灰褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量 | 8 灰褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 9 灰褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 | 11 明赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| | | 13 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ51～75cmで、主柱穴である。P5は深さ26cmで、南壁中央部に位置していること、硬化面の広がり方などから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片367点(坏類82, 椀1, 高坏4, 甕類280), 石製品1点(白玉), 炭化材3点, ヤマトシジミ579点(右殻311・左殻268)が出土している。910は竈内の覆土中層, 901は北東コーナー部の覆土下層, 911は南東部の覆土中層から覆土下層, 908は南東部の覆土下層, 909は南壁際中央部の床面直上, 906は西部中央の覆土下層, 902は北西部の覆土中層から覆土下層, 903はP4内の覆土上層, Q44は西部中央の貝殻集中地点の貝層中からそれぞれ出土している。

所見 西部中央の貝殻集中地点は掘り方が確認できなかったため、住居廃絶後に投げ込まれたものと考えられる。時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。

第83号住居跡出土遺物観察表(第401図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
900	土師器	坏	12.7	4.9	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	上層	90% PL43
901	土師器	坏	[12.6]	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	80%
902	土師器	坏	[15.8]	3.8	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層～下層	70%
903	土師器	坏	[13.2]	5.2	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	P4内上層	70%
904	土師器	坏	[14.0]	4.4	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	60%
905	土師器	坏	13.6	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	60% PL44
906	土師器	坏	[14.6]	4.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	45%
907	土師器	高坏	-	(5.7)	11.2	長石・石英	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き	中層	40% PL44
908	土師器	甕	15.7	(12.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕	下層	30% PL45
909	土師器	椀	[10.0]	6.9	4.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面直上	70%
910	土師器	甕	[12.0]	(10.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	竈内中層	10%
911	土師器	甗	23.6	24.7	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中層～下層	65% PL45

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 44	白玉	1.1	0.3	0.3	0.2	滑石	側面は円筒状 一方向からの穿孔	貝層覆土中	PL48

第84号住居跡 (第402・403図)

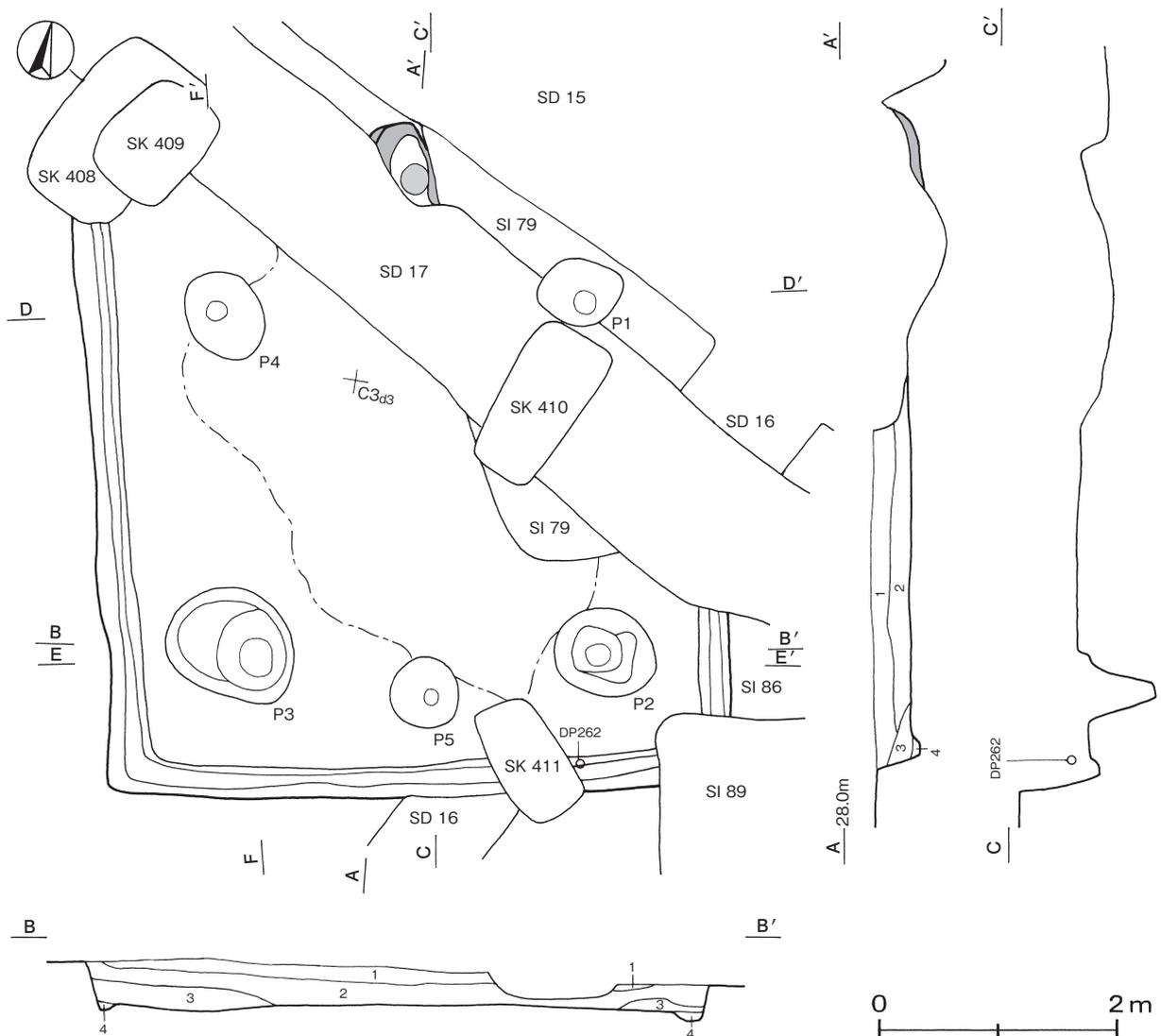
位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 d3区、標高27.9mの台地に位置している。

重複関係 第86号住居跡を掘り込み、第79・89号住居、第15～17号溝、第408～411号土坑に掘り込まれている。

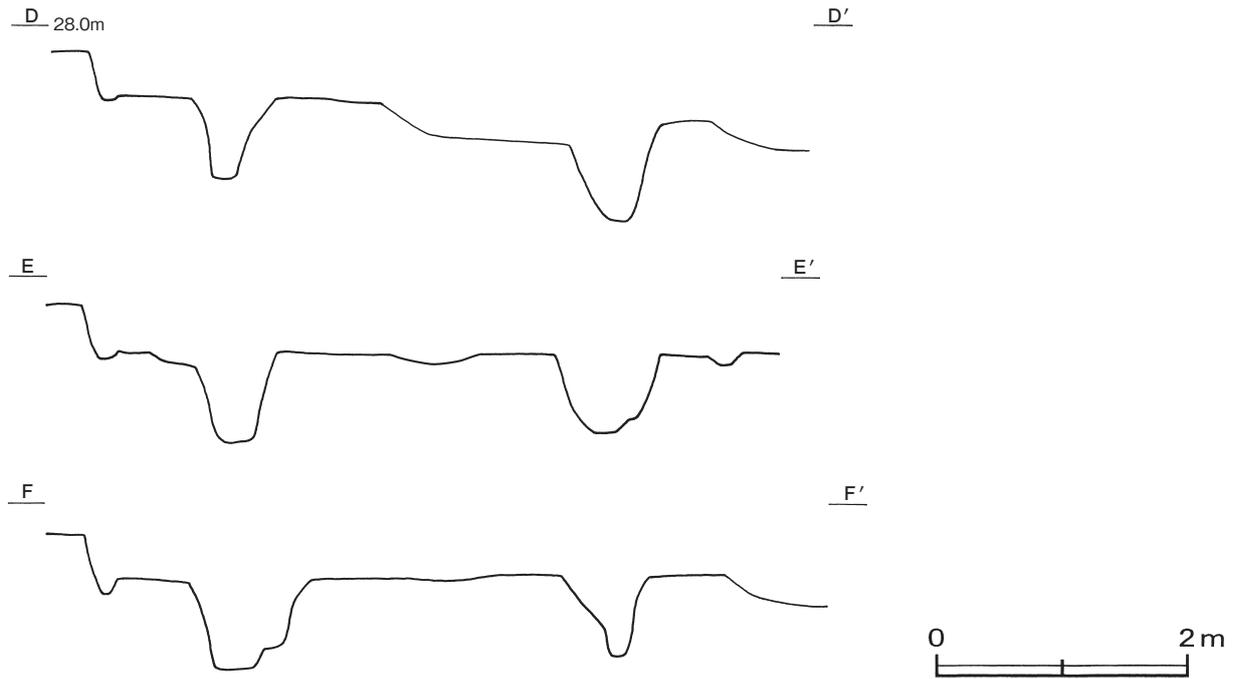
規模と形状 北壁と東壁の大部分が、第15・17号溝によって掘り込まれているため、南北軸5.55m、東西軸は5.20mで、南北軸が5.55mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は35～68cmで、壁は直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅27～30cm、深さ3～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央に付設されているが、大部分を第79号住居、第17号溝によって削り取られている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで50cm、燃烧部幅32cmである。袖部は粘土やロームを混ぜた土によって構築されている。火床部は床面から10cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。



第402図 第84号住居跡実測図



ピット 5か所。P 1～P 4は深さ57～72cmで、支柱穴である。P 5は深さ60cmで、南壁中央部に位置していること、硬化面の広がり方などから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

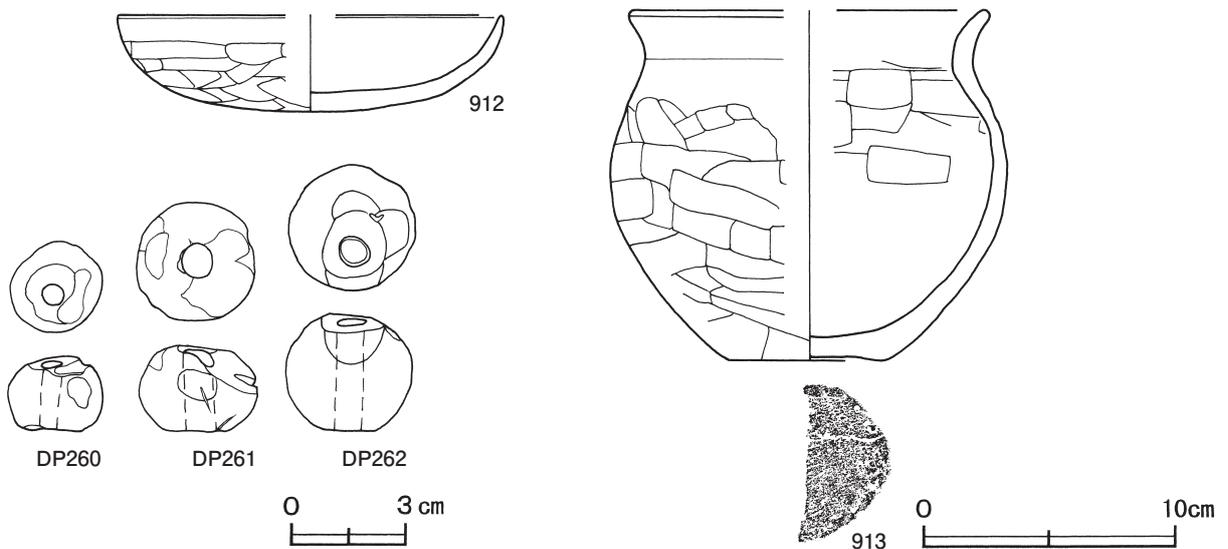
土層解説

- | | | | |
|------|----------------|-------|--------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片115点（坏類34，不明1，甕類80），土製品2点（土玉，球状土錘）が出土している。

912・913は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第403図 第84号住居跡・出土遺物実測図

第84号住居跡出土遺物観察表（第403図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
912	土師器	坏	[15.2]	3.8	-	長石・石英・白色粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	50%
913	土師器	甕	[13.8]	13.9	6.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	45%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP260	球状土錘	2.5	1.9	0.5	(10.9)	粘土	上下カット 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP261	球状土錘	3.1	(2.3)	0.7	(20.8)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP262	球状土錘	3.3	3.1	0.8	31.9	粘土	外面ヘラ削り 一方向からの穿孔	下層	

第85号住居跡（第404・405図）

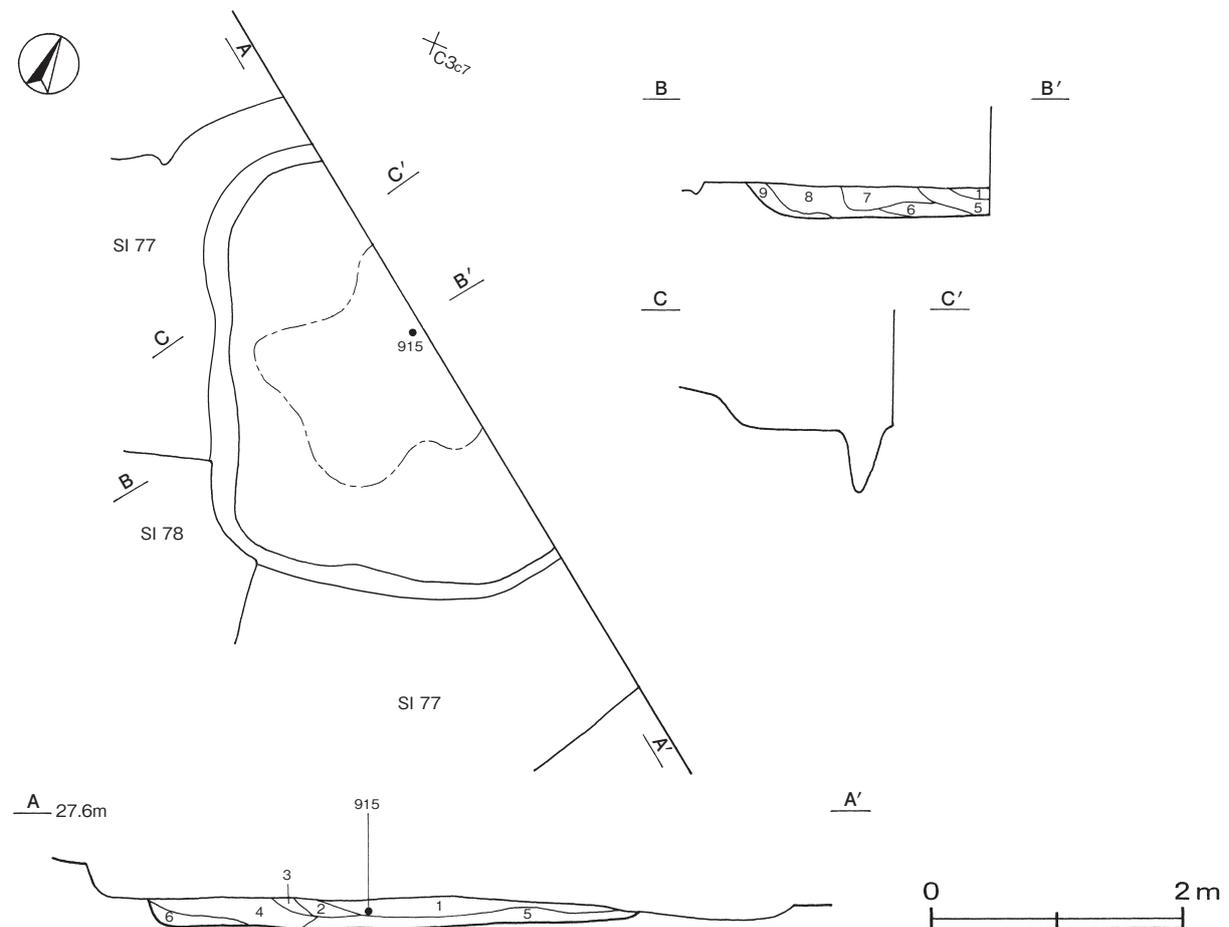
位置 調査Ⅲ区北西部のC3c7区、標高26.9mの台地に位置している。

重複関係 第77・78号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北部・東部は調査区域外へ延びているため、南北軸が3.90mで、東西軸は2.30mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-52°-Wである。壁高は10～28cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

覆土 9層に分けられる。ロームブロックを含み、焼土粒子や炭化粒子が混入した、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。



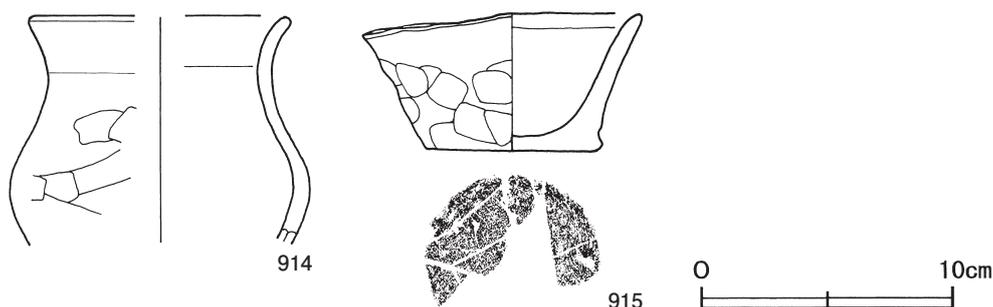
第404図 第85号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 灰褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| | | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片156点（坏類38, 小型甕1, 甕類116, 手捏土器1）, 滑石1点が出土している。遺物は覆土中からの出土で, その多くは細片である。914は南部の覆土中, 915は住居内の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。



第405図 第85号住居跡出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表（第405図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
914	土師器	小形甕	[10.1]	(9.0)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	30%
915	土師器	手捏土器	11.1	5.5	6.8	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	70% PL44

第86号住居跡（第406・407図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC3e4区, 標高27.7mの台地に位置している。

重複関係 第76・78・79・84・89・90号住居, 第15・17号溝, 第412～416号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 多くの壁を他の遺構に掘り込まれているため, 南北軸が6.62mで, 東西軸は8.04mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され, 主軸方向はN-19°-Wである。壁高は8～30cmで, 壁は直立して立ち上がっている。

床 重複のため凹凸であり, 硬化面も確認できなかった。壁下には幅20～26cm, 深さ8～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

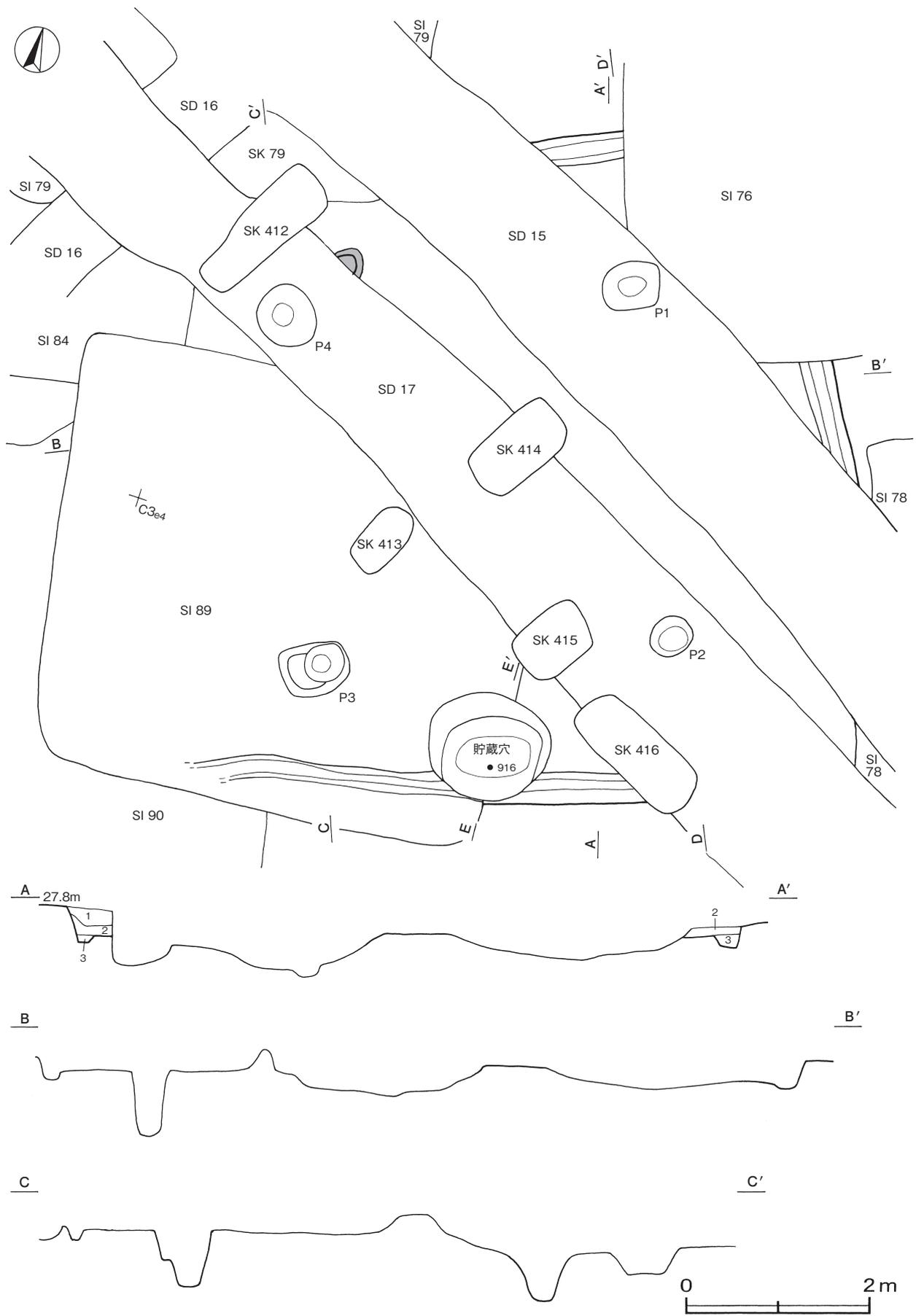
竈 北壁中央付近に袖部の残存が確認できるが, 詳細は不明である。

ピット 4か所。P1～P4は深さ25～60cmで, 支柱穴である。

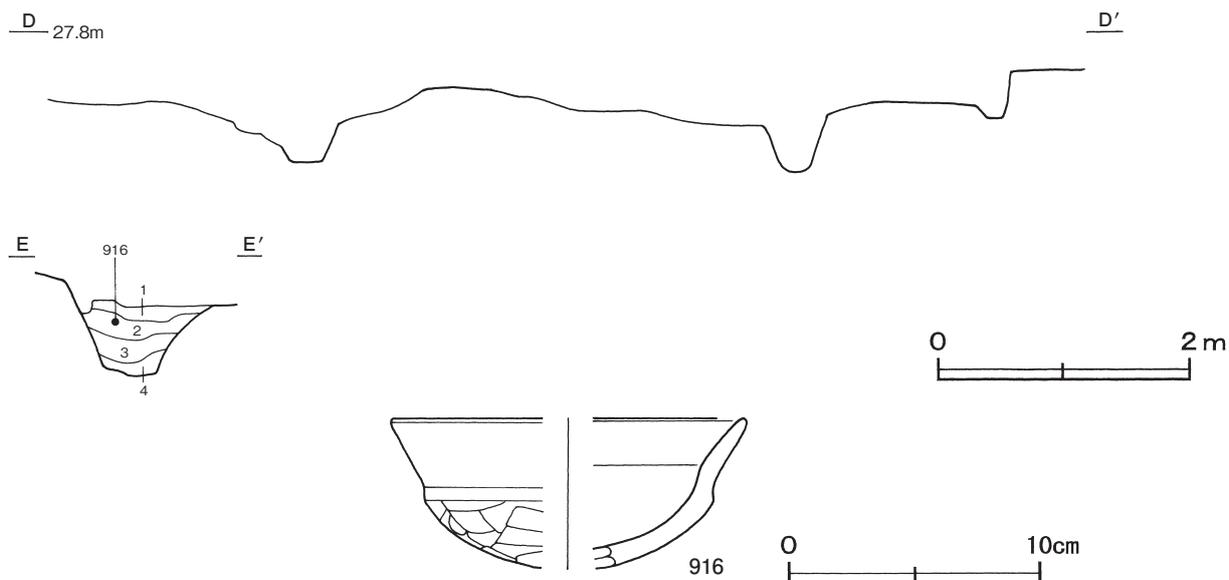
貯蔵穴 長径136cm, 短径120cmの楕円形で, 深さ55cmである。底面は皿状を呈し, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |



第406図 第86号住居跡実測図



第407図 第86号住居跡・出土遺物実測図

覆土 3層に分けられる。覆土の残存が一部であるため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片114点（坏類10, 甕類103, 甗1）が出土している。916は貯蔵穴の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。

第86号住居跡出土遺物観察表（第407図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
916	土師器	坏	[14.0]	(5.9)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	貯蔵穴上層	30%

第88号住居跡（第408図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3e7区, 標高27.2mの台地に位置している。

重複関係 第74・82号住居, 第15・17・18号溝, 第394・418～421号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西壁を第74・82号住居に掘り込まれているため, 長軸7.00m, 短軸5.78mの長方形と推測される。主軸方向はN-32°-Wである。壁高は12～14cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 重複のため凹凸であり, 硬化面も確認できなかった。壁下には幅25～38cm, 深さ6～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 3か所。P1～P3は深さ36～43cmで, 支柱穴と考えられる。

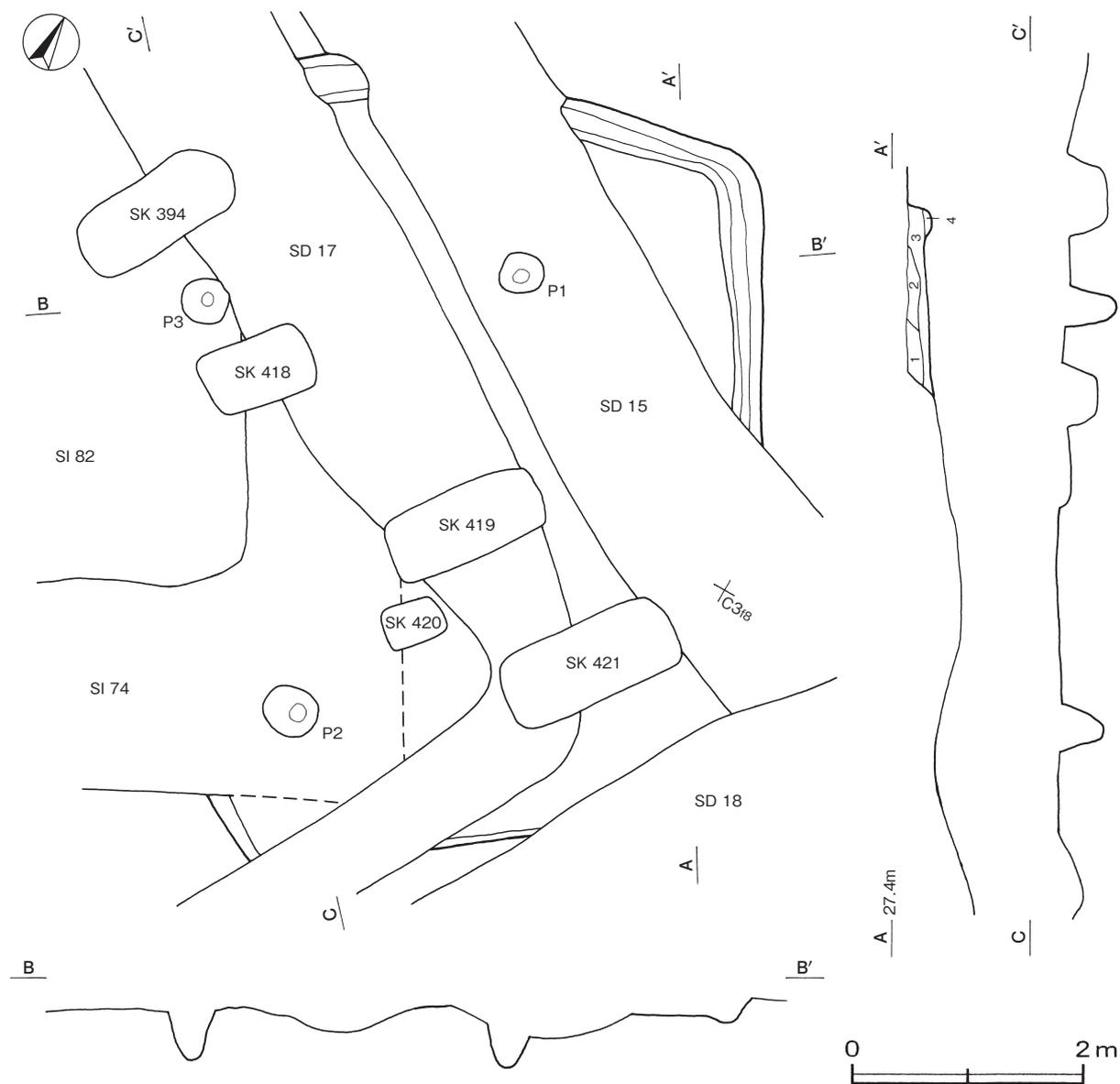
覆土 4層に分けられる。覆土の残存が一部であるため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片9点（坏類5, 甕類4）が出土している。遺物は細片が多く, 図示できない。

所見 時期は、重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第408図 第88号住居跡実測図

第89号住居跡（第409・410図）

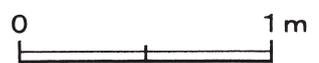
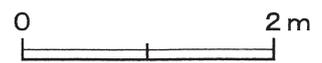
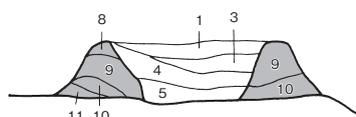
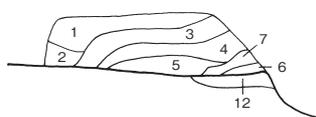
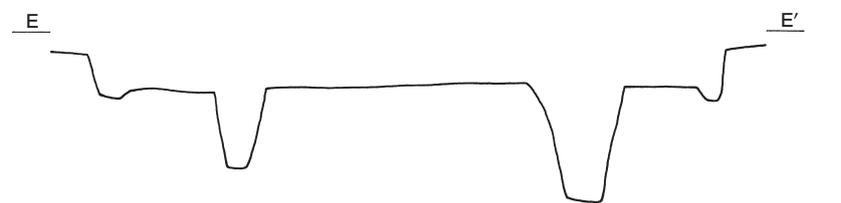
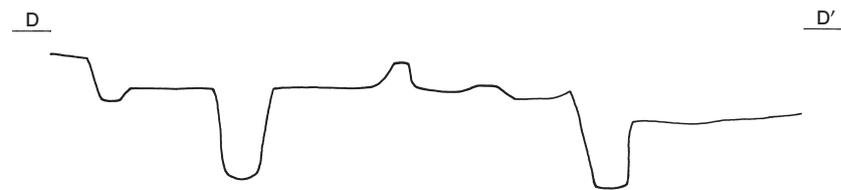
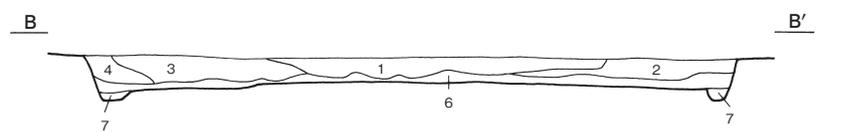
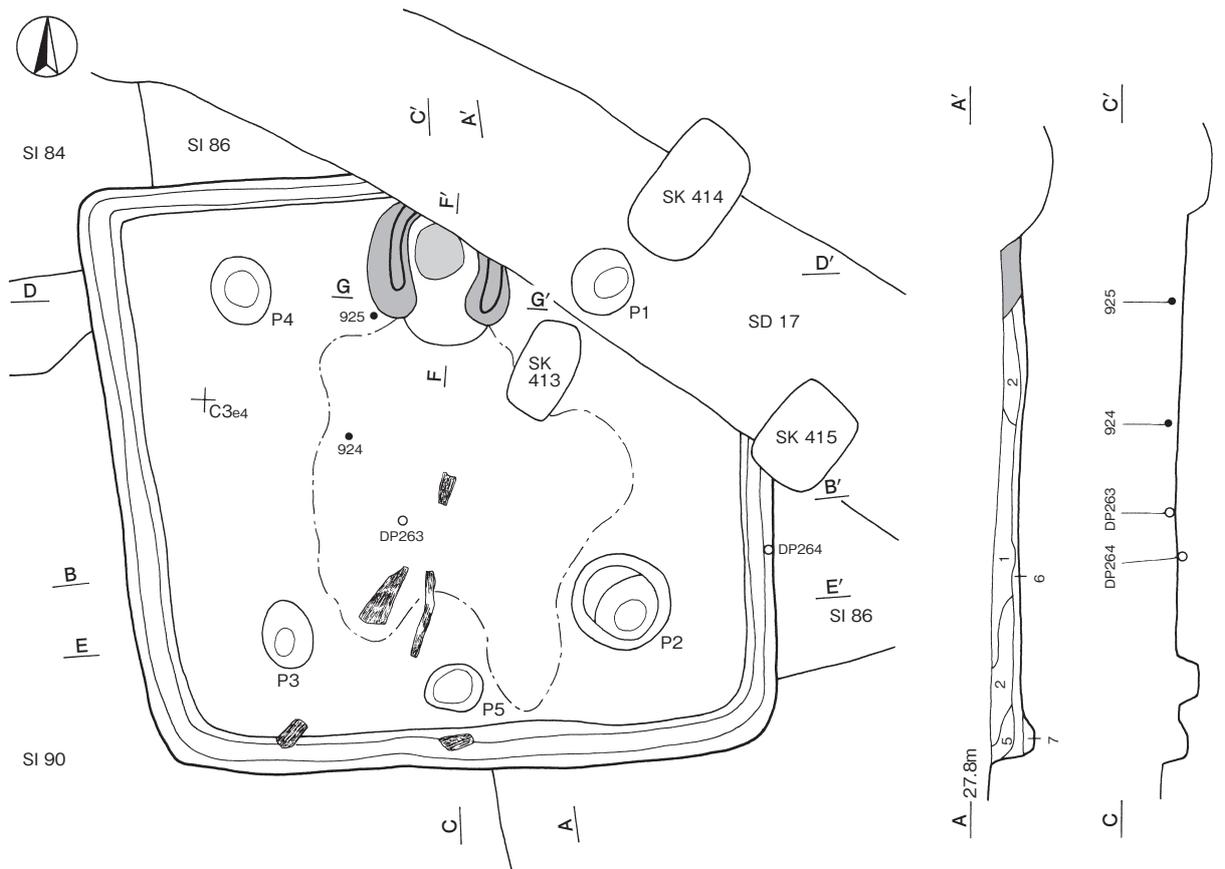
位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 e4区，標高27.6mの台地に位置している。

重複関係 第84・86・90号住居跡を掘り込み，第17号溝，第413～415号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.26m，短軸4.37mの長方形である。主軸方向はN - 5° - Wである。壁高は10～28cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅22～38cm，深さ8～10cmで逆台形状の断面を呈する壁溝が確認されている。また，床面から炭化材が出土している。

竈 北壁中央部に付設されているが，煙道部は第17号溝に壊されている。規模は焚口部から火床部奥端部まで96cm，燃烧部幅55cmである。袖部は第8～11層の粘土やローム・焼土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ平坦で，火床面は火を受けて赤変硬化している。



第409图 第89号住居跡実测图

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|------------|-----------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗 褐 色 | 粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 褐 色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| | | 11 灰 褐 色 | 粘土粒子・焼土ブロック少量 |
| | | 12 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック多量 |

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ52～94cmで、支柱穴である。P 5は深さ16cmで、南壁中央部に位置していること、硬化面の広がり方などから出入り口施設に伴うピットである。

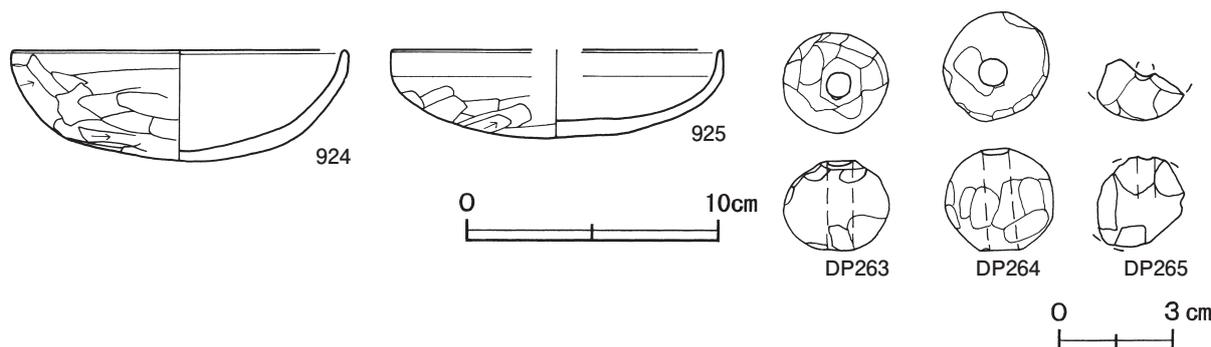
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 |
| 3 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 黒 褐 色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片188点（坏類13, 甕類175），土製品3点（球状土錘），鉄滓17点，炭化材5点が出土している。DP263は中央部の覆土下層，DP264は東部中央壁溝覆土中，925は竈左袖外の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 堆積覆土の炭化物の含有率や、床面からの炭化材の出土状況などから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第410図 第89号住居跡出土遺物実測図

第89号住居跡出土遺物観察表（第410図）

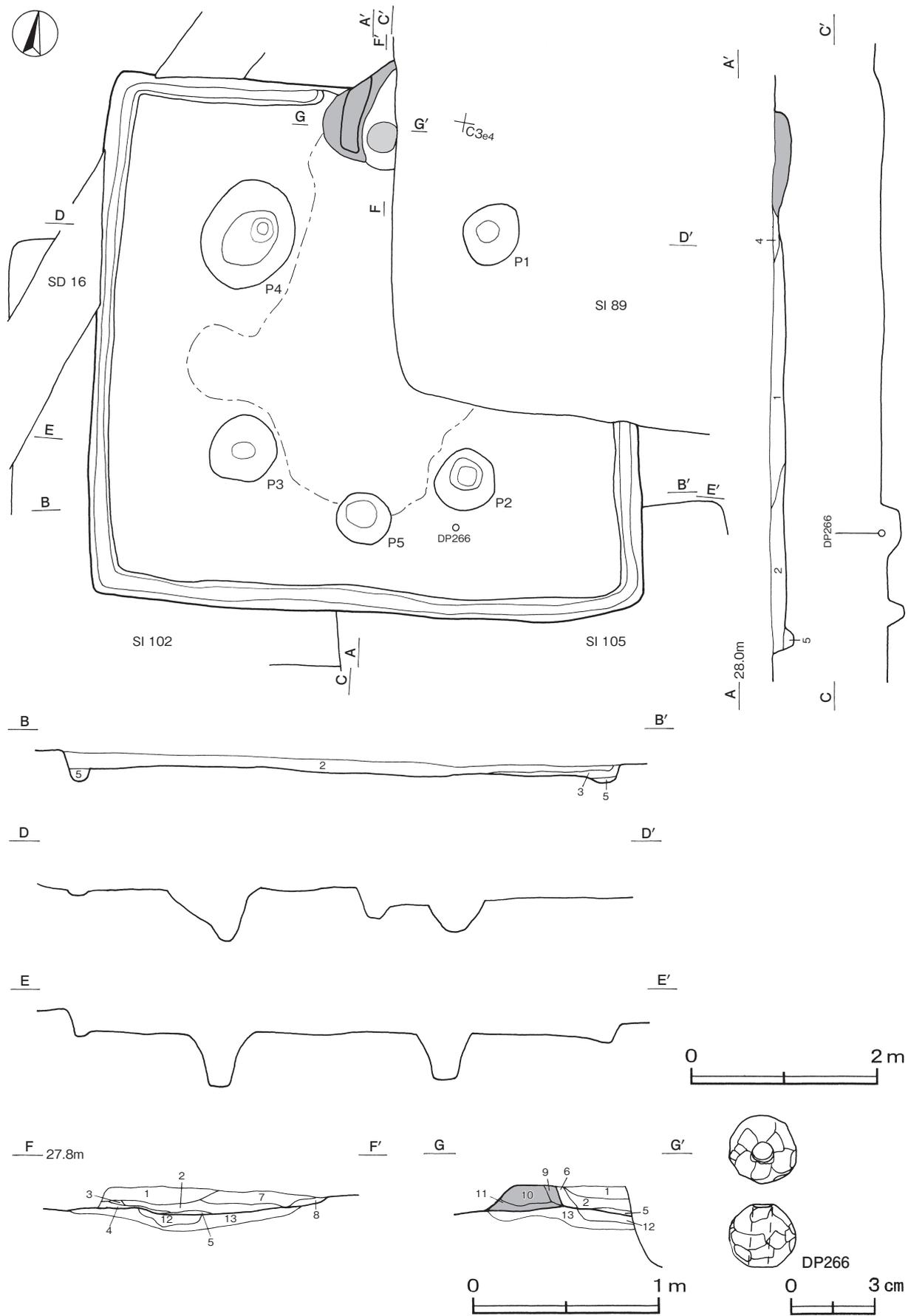
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
924	土師器	坏	13.1	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	90% PL44
925	土師器	坏	[13.2]	3.4	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	70%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP263	球状土錘	2.8	2.4	0.7	16.4	粘土	外面ヘラ削り 一方向からの穿孔	下層	
DP264	球状土錘	2.8	2.9	0.8	20.8	粘土	外面ヘラ削り 一方向からの穿孔	壁溝覆土中	
DP265	球状土錘	(2.3)	(2.3)	(0.5)	(5.9)	粘土	外面ヘラ削り 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	

第90号住居跡（第411図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 e3区，標高27.7mの台地に位置している。

重複関係 第102・105号住居跡を掘り込み，第89号住居，第16号溝に掘り込まれている。



第411图 第90号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸5.84m, 短軸5.67mの方形である。主軸方向はN-7°-Wである。壁高は13~20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅18~30cm, 深さ4~18cmで逆台形状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されているが、右袖部は第89号住居によって掘り込まれている。規模は焚口部から煙道部まで116cmで、確認できた燃焼部幅は37cmである。袖部は第13層のロームを主体とした土で基部とし、第9~11層の粘土やローム・焼土を混ぜた土を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ平坦で、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| 1 灰 褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗 褐色 炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗 褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 赤 褐色 焼土ブロック中量 | 9 暗 褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 灰 褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 暗 褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 6 明 赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子微量 | 12 暗 赤褐色 焼土ブロック多量 |
| | 13 褐色 ロームブロック多量 |

ピット 5か所。P1~P4は深さ33~58cmで、主柱穴である。P5は深さ18cmで、南壁中央部に位置していること、硬化面の広がり方などから出入口施設に伴うピットである。

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片203点(坏類38, 甕類164, 甌1), 土製品1点(球状土錘)が出土している。DP266は南東部の床面直上から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。

第90号住居跡出土遺物観察表(第411図)

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP266	球状土錘	2.4	2.3	0.7	11.6	粘土	外面ヘラ削り 一方向からの穿孔	床面直上	

第91号住居跡(第412図)

位置 調査Ⅲ区南東部のD4b3区, 標高27.7mの台地に位置している。

規模と形状 東西軸が4.50mで、南北軸は3.22mしか確認できなかった。長方形と推測され、主軸方向はN-70°-Wである。壁高は0~12cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 北にやや傾斜し、中央部が踏み固められている。

炉 南東部に位置している。長径44cm, 短径36cmの円形である。床面を10cm掘り込んだ地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

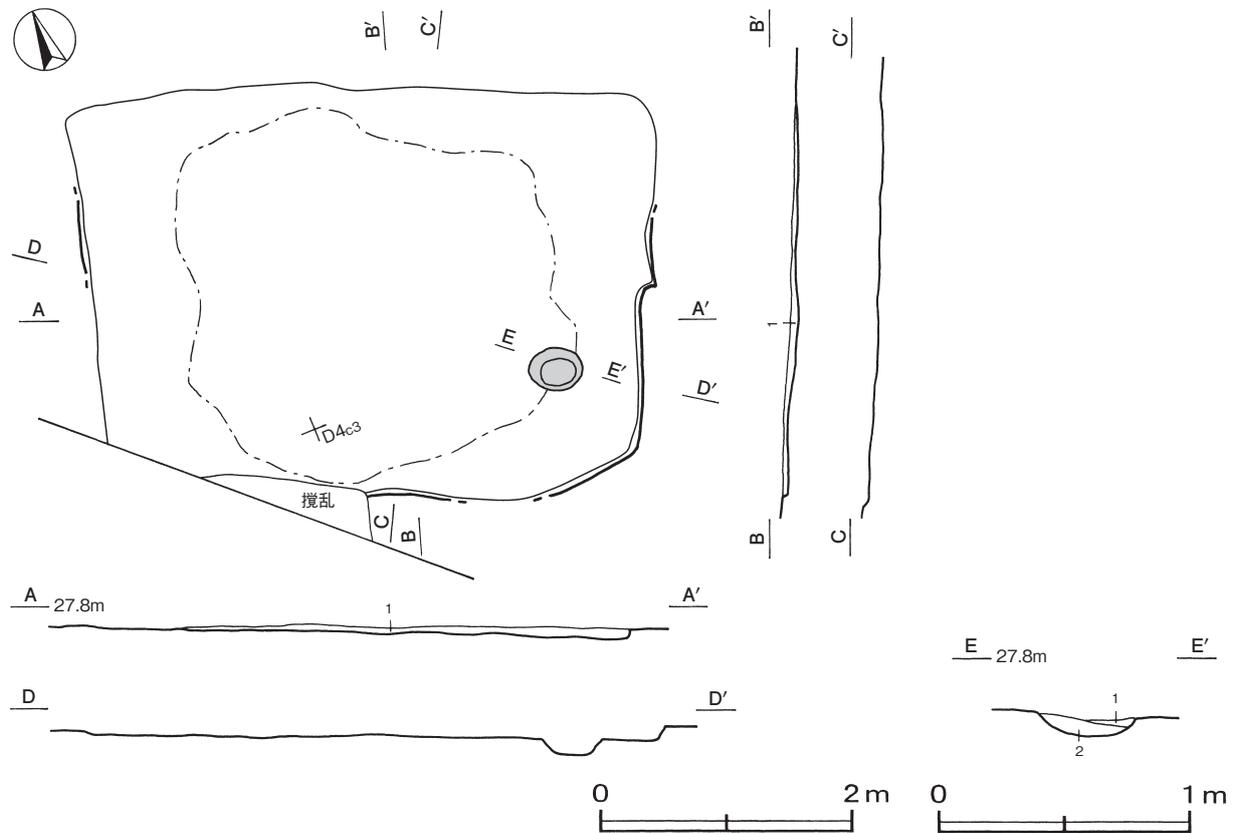
- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1 暗 赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 2 暗 赤褐色 焼土ブロック多量 |
|--------------------------|------------------|

覆土 単一層であり、覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | |
|------------------------------|
| 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
|------------------------------|

遺物出土状況 土師器片27点（坏類2，甕類25）が出土している。遺物が少なく，細片のため図示できない。
所見 時期は，炉が付設されていることや出土土器から5世紀と考えられる。



第412図 第91号住居跡実測図

第92号住居跡（第413・414図）

位置 調査Ⅲ区南東部のD 4 d4区，標高28.0mの台地に位置している。

重複関係 第98号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南西部が調査区域外へ延びているため，南北軸は4.10mで，東西軸3.64mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され，主軸方向はN-17°-Wである。壁高は16～34cmで，壁は直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅16～30cm，深さ4～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで87cmが確認され，確認できた燃焼部幅は47cmである。袖部は第4・5層の粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から7cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量 | 4 灰褐色 粘土粒子中量，ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量 | 5 灰褐色 粘土粒子・ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量 | |

ピット 深さ57cmで，支柱穴と考えられる。

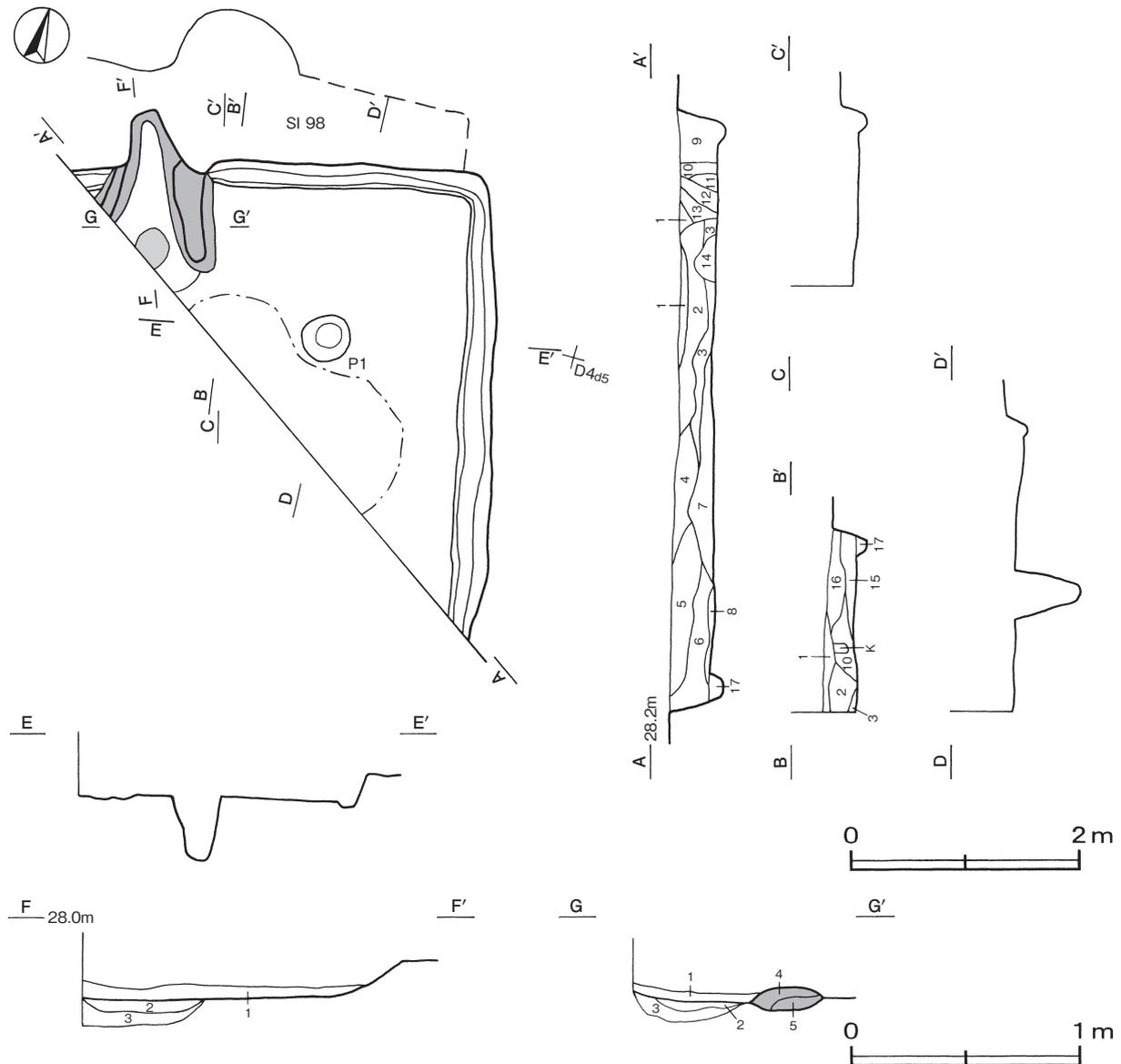
覆土 17層に分けられる。ロームブロックを含み、焼土粒子や炭化粒子が混入した不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

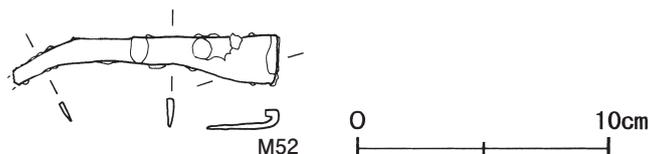
- | | | | |
|---------|---------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物・粘土粒子微量 | 12 灰褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 15 黒褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 17 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 8 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |
| 9 にぶい褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 | | |
| 10 灰褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片41点（坏類2，高坏1，甕類37，甌1），土製品14点（支脚），鉄製品1点（鎌）が出土している。M52は竈内の覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第413図 第92号住居跡実測図



第414図 第92号住居跡出土遺物実測図

第92号住居跡出土遺物観察表 (第414図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M52	鎌	(10.6)	2.0	0.3	(14.4)	鉄	刃身断面三角形 刃先欠損	竈内覆土中	

第93号住居跡 (第415・416図)

位置 調査Ⅲ区南東部のD4e6区、標高28.0mの台地に位置している。

重複関係 第94号住居跡を掘り込み、第24号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、南北軸が5.58m、東西軸が4.46mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は28~38cmで、壁は直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁に2つの竈が確認できる。向かって左側が痕跡だけの竈1である。右側の竈2は住居廃絶時まで使用されたと考えられる。竈1は北壁に残る焚口部と火床部、煙道部の痕跡からその存在を推測することができる。規模は焚口部から煙道部まで106cm、確認できた燃烧部幅は41cmである。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。竈2の規模は焚口部から煙道部まで130cm、燃烧部幅47cmである。袖部は第17層のロームを主体とした土で基部とし、第10~16層の粘土やロームを混ぜた土を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ平坦で、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込まず、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈1土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	4	暗褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量
			5	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量

竈2土層解説

1	にぶい褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量	9	暗赤褐色	焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	10	灰褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量	11	明灰褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子微量	12	褐灰色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
5	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	13	褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量
6	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	14	赤褐色	粘土粒子・焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子微量
7	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量	15	赤褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
8	赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子・粘土粒子微量	16	褐色	ロームブロック中量
			17	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量

ピット 深さ56cmで、主柱穴と考えられる。

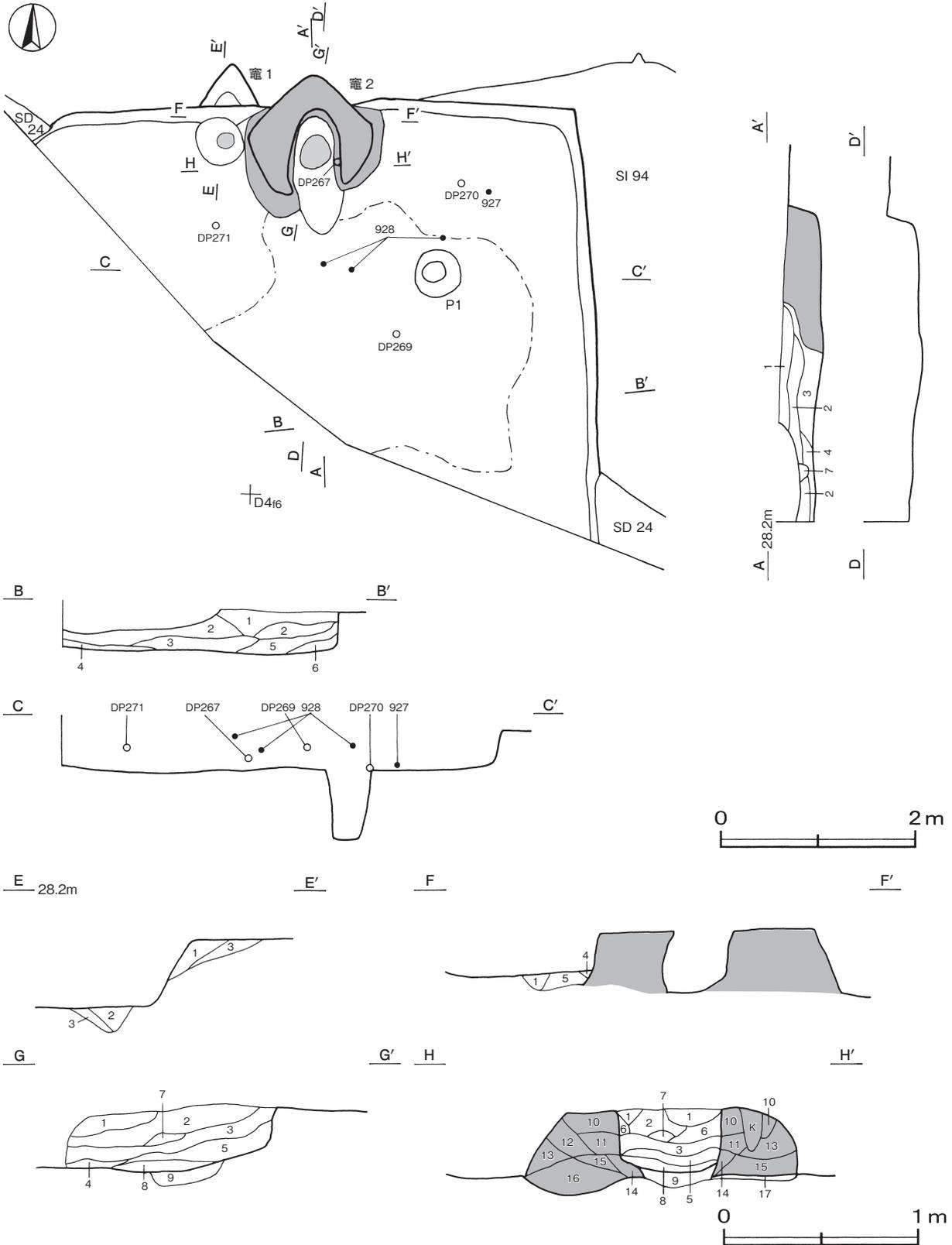
覆土 7層に分けられる。ロームブロックを多量に含み、焼土粒子や炭化粒子が混入する人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	3	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	4	褐色	ロームブロック中量

- 5 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 7 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量

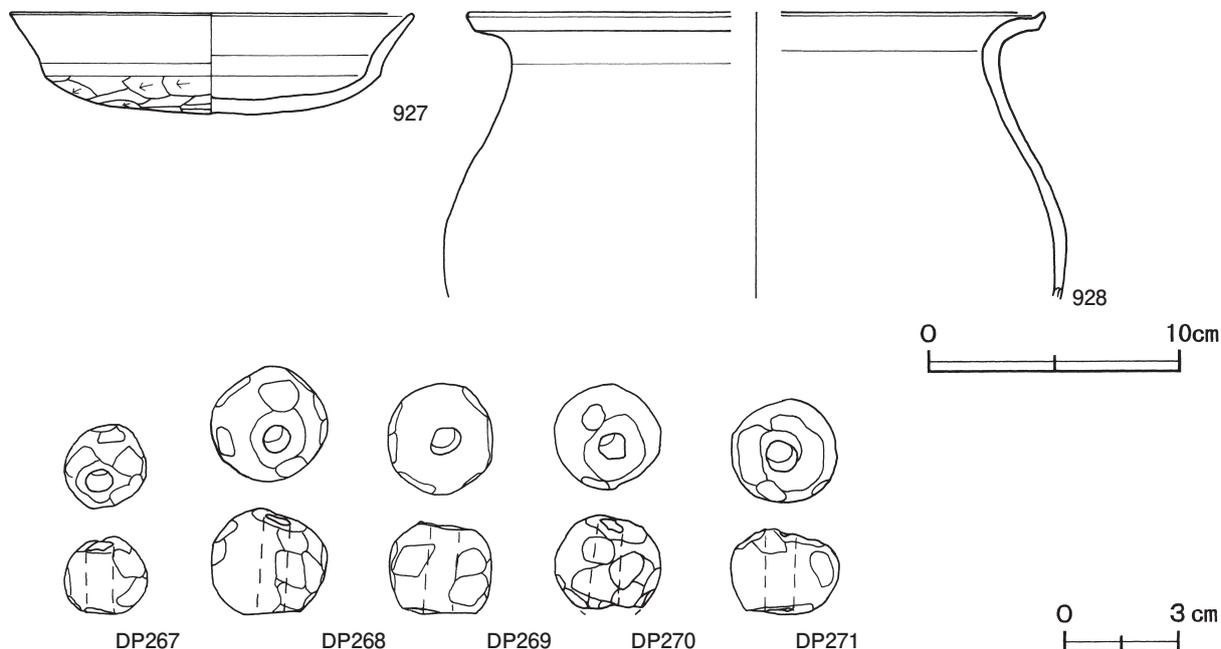
遺物出土状況 土師器片968点(坏類94, 甕類872, 甌1, 手捏土器1), 土製品7点(土玉1, 球状土錘6), 鉄滓10点が出土している。927は北東部の覆土下層, DP270は床面直上, DP267は竈内の覆土下層からそれぞれ



第415図 第93号住居跡実測図

れ出土している。

所見 2つの竈の関係は、残存状況から竈1が竈2に先行するものである。時期は、出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第416図 第93号住居跡出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表（第416図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
927	土師器	坏	16.2	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へら削り	下層	55%
928	土師器	甕	[22.8]	(11.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	中層	15% 外面煤附着

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP267	球状土錘	2.3	2.1	0.8	8.6	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	竈内下層	
DP268	球状土錘	3.0	2.9	0.7	(22.1)	粘土	外面へら削り 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP269	球状土錘	3.0	2.4	0.8	(19.0)	粘土	外面へら削り 一方向からの穿孔 上下カット 一部欠損	中層	
DP270	球状土錘	2.8	(2.5)	0.8	(16.3)	粘土	外面へら削り 一方向からの穿孔 一部欠損	床面直上	
DP271	球状土錘	2.8	2.3	0.8	17.2	粘土	外面へら削り 一方向からの穿孔	中層	

第94号住居跡（第417・418図）

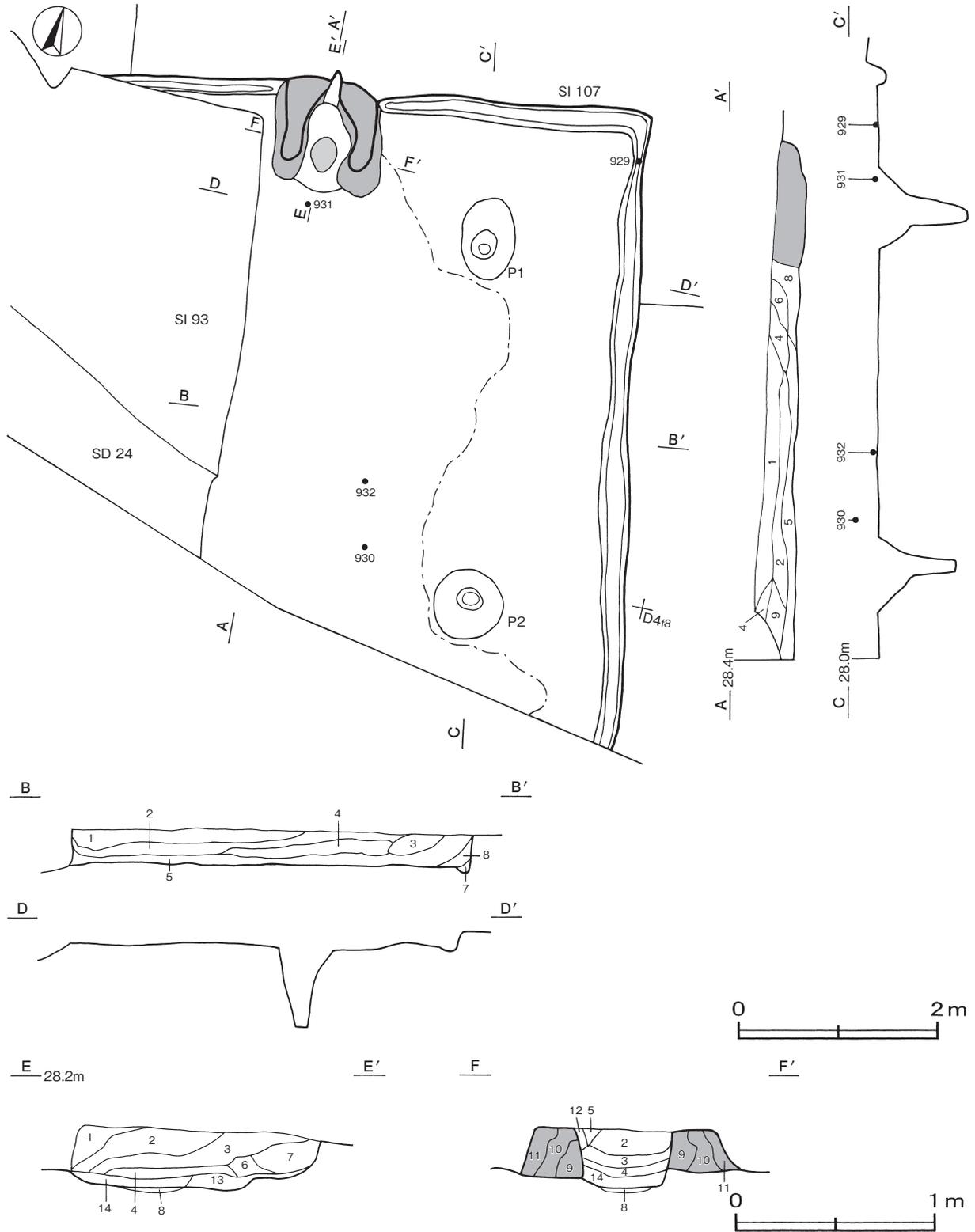
位置 調査Ⅲ区南東部のD 4e7区、標高27.7mの台地に位置している。

重複関係 第107号住居跡を掘り込み、第93号住居、第24号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南部は調査区域外に延び、西部が第93号住居によって掘り込まれているため、南北軸が6.40mで、東西軸は5.50mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は10～40cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、踏み固められた範囲が確認されている。壁下には幅10～32cm、深さ4～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで123cm、燃焼部幅42cmである。袖部は第9～11層の粘土や焼土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面から12cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。



第417図 第94号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量・炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック微量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 灰褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土粒子微量 |
| 4 赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子粘土粒子微量 | 10 灰褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 5 明灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子微量 | 11 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| | | 13 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| | | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子微量 |

ピット 2か所。P1・P2は深さ77cm・83cmで、主柱穴と考えられる。

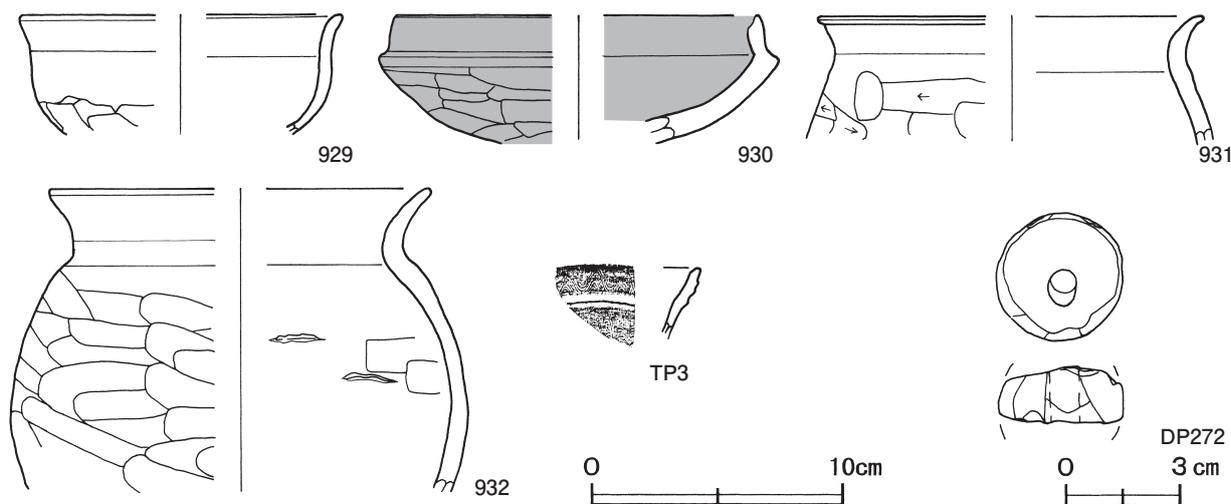
覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片318点(坏類44, 高坏2, 甕類272), 須恵器片5点(坏類3, 甕類1, 甌1), 土製品4点(土玉1, 支脚3), 鉄滓2点が出土している。932は中央部の覆土下層, 931は竈焚口部前の覆土下層, 929は北東コーナー部の下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第418図 第94号住居跡出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表 (第418図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
929	土師器	坏	[12.8]	(4.8)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面下端ヘラ削り	下層	15%
930	土師器	坏	[14.4]	(5.1)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	25%
931	土師器	甕	[15.2]	(5.1)	-	長石・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	15%
932	土師器	甕	[15.0]	(12.0)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	15%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP3	須恵器	甌	長石・石英・小礫	黒	普通	口縁部外面に櫛歯描波状文(8条)2本を区画する沈線1条を施文	下層	5%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP272	球状土錘	3.4	(1.5)	0.8	(14.1)	粘土	外面ヘラ削り 一方向からの穿孔 一部欠損	上層	

第95号住居跡（第419図）

位置 調査Ⅲ区南東部のC 4j3区，標高27.1mの台地に位置している。

重複関係 第20号溝に掘り込まれている。

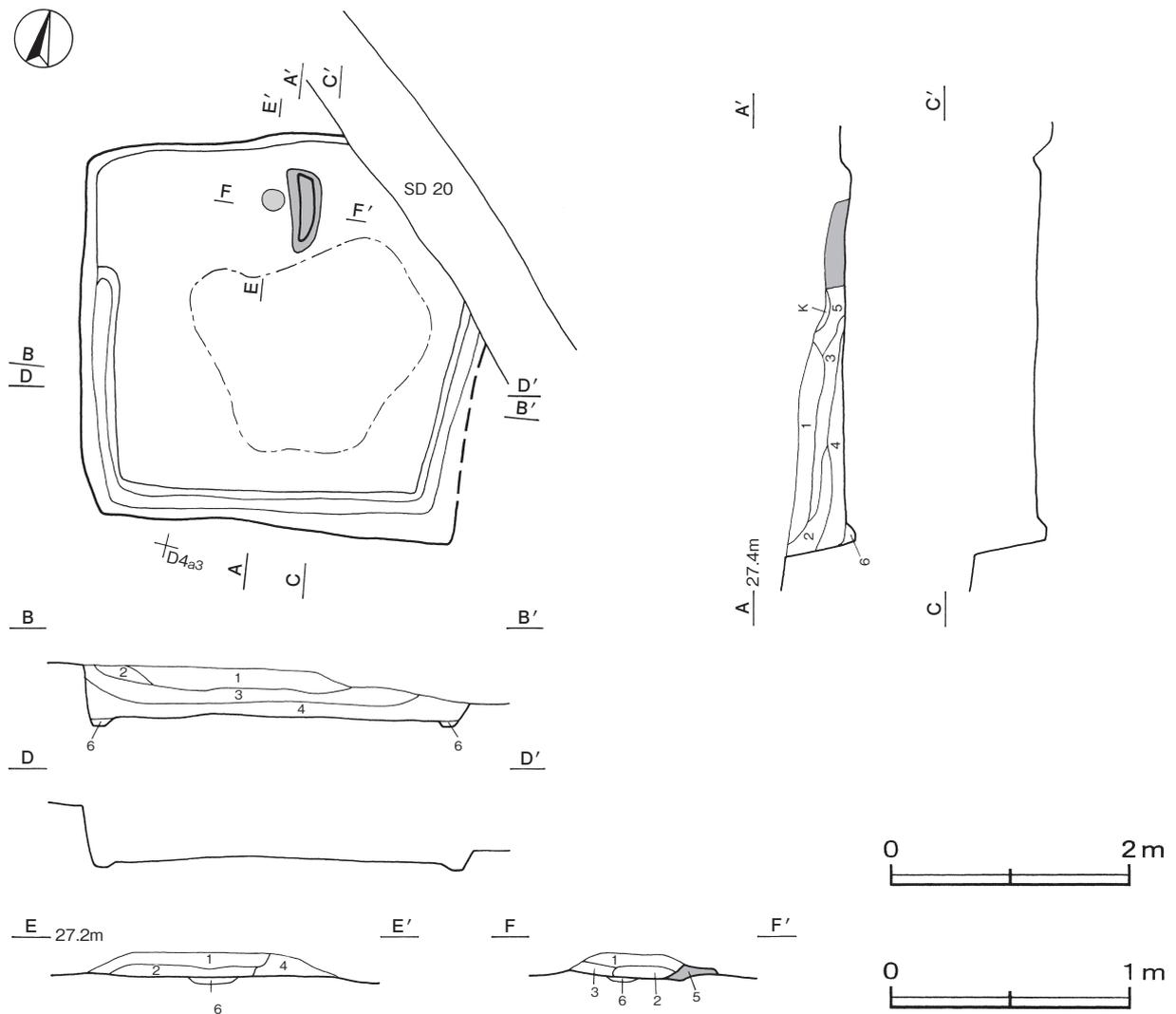
規模と形状 長軸3.28m，短軸3.20mで，方形と推測される。主軸方向はN - 8° - Wである。壁高は6 ~ 54cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅22 ~ 40cm，深さ3 ~ 6cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央に付設されているが，左袖部と焚口部及び煙道部は壊されているため，確認できた規模は右袖部長は70cmである。袖部は第5層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部の壁外の掘り込みは確認されないため，壁の内側にあったものと推測される。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|---------|-----------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量，砂質粘土粒子微量 | 5 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 明赤褐色 | 焼土粒子多量 |



第419図 第95号住居跡実測図

覆土 6層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

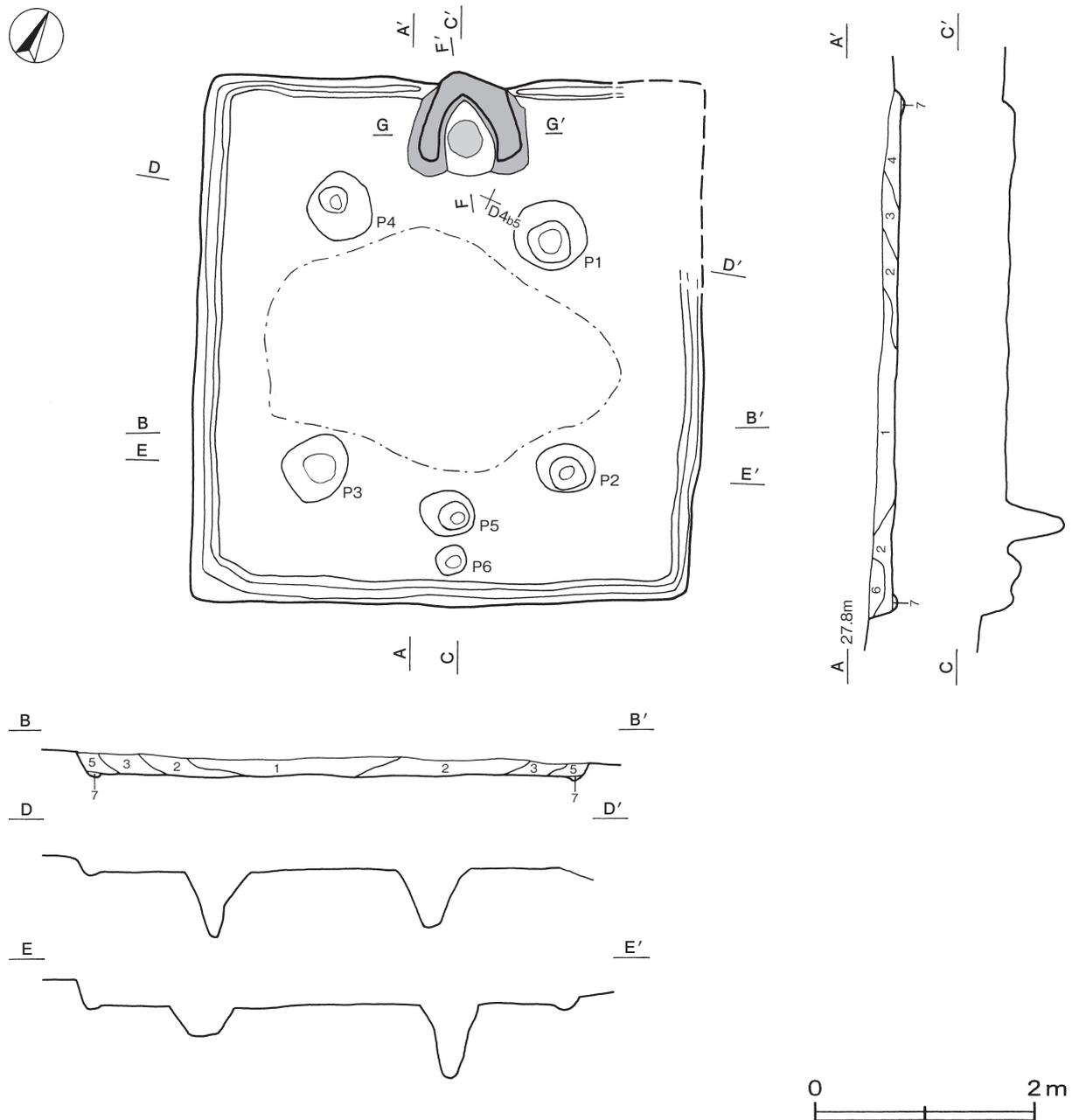
- | | | | |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片46点（坏類4，甕類42）が出土している。遺物の出土量は少なく，細片が多いため，図示できない。

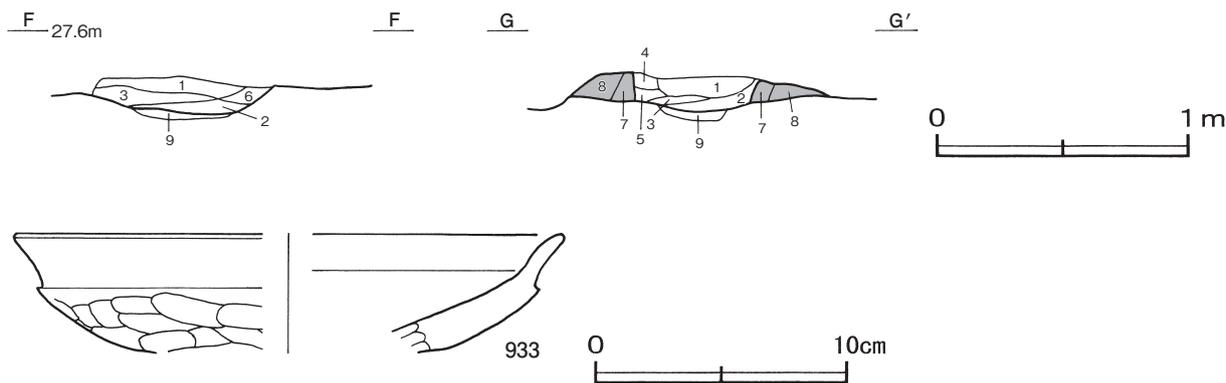
所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第96号住居跡（第420・421図）

位置 調査Ⅲ区南東部のD 4 b4区，標高27.6mの台地に位置している。



第420図 第96号住居跡実測図



第421図 第96号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 北東コーナー部が削平されているが、長軸4.80m、短軸4.58mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は8~24cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅10~24cm、深さ2~3cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで75cm、燃烧部幅45cmである。袖部は第7・8層の砂質粘土や焼土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に3cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 灰褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 7 灰褐色 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 3 灰褐色 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 灰褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量 | |

ピット 6か所。P1~P4は深さ25~72cmで、主柱穴である。P5は深さ56cm、P6は深さ17cmで、南壁中央部に位置していること、硬化面の広がり方などから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 7層に分けられる。レンズ状の層序を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片111点（坏類15、甕類96）、土製品6点（支脚）が出土している。933は住居の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第96号住居跡出土遺物観察表（第421図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
933	土師器	坏	[21.6]	(4.7)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	25%

第97号住居跡（第422・423図）

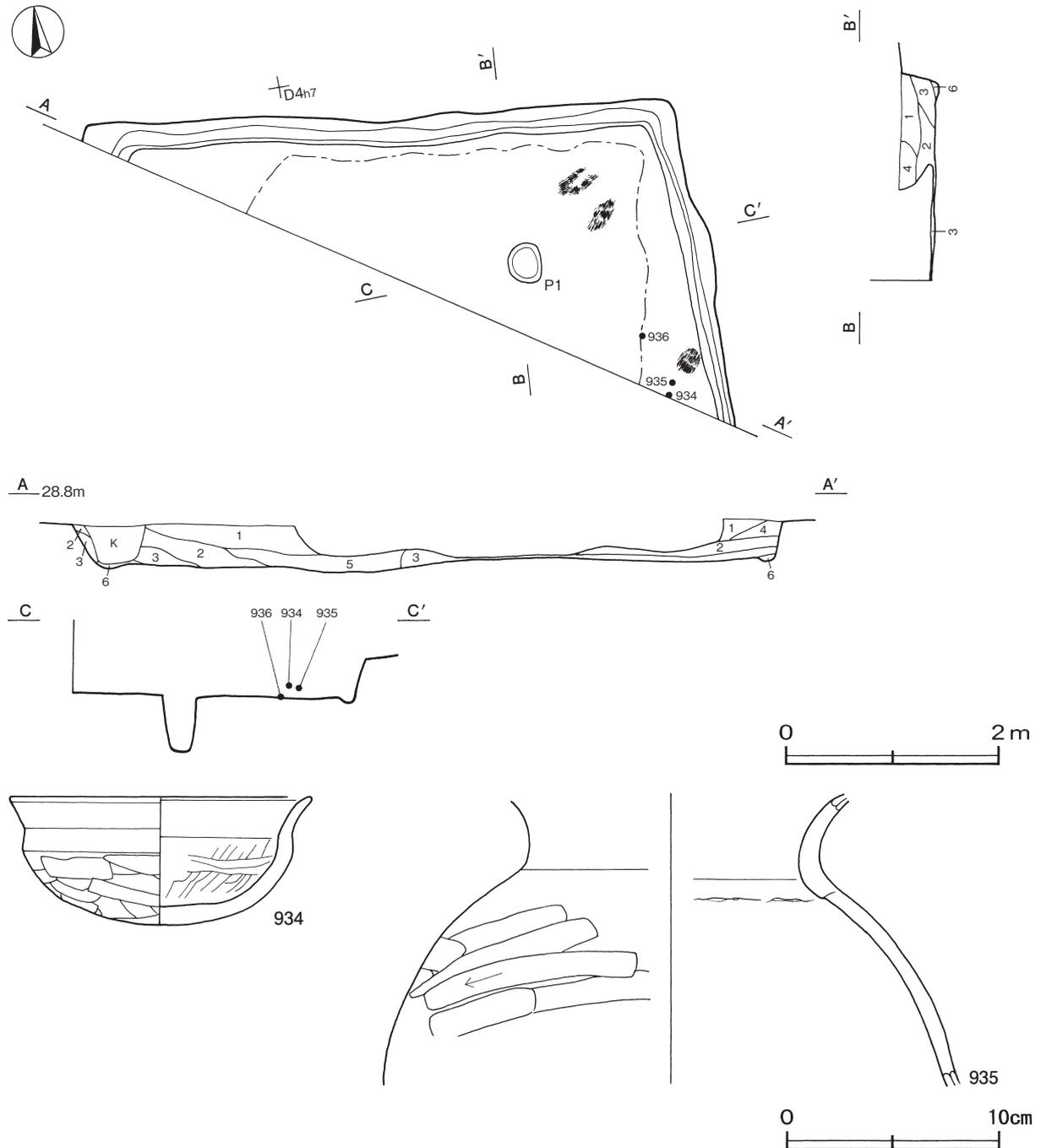
位置 調査Ⅲ区南部のD4h7区、標高28.6mの台地に位置している。

重複関係 第99号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南西部の多くが調査区域外に延びているため、東西軸が5.50m、南北軸が3.15mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は30~40cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、踏み固められた範囲が確認されている。壁下には幅16~20cm、深さ4~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 深さ53cmで、主柱穴と考えられる。



第422図 第97号住居跡・出土遺物実測図

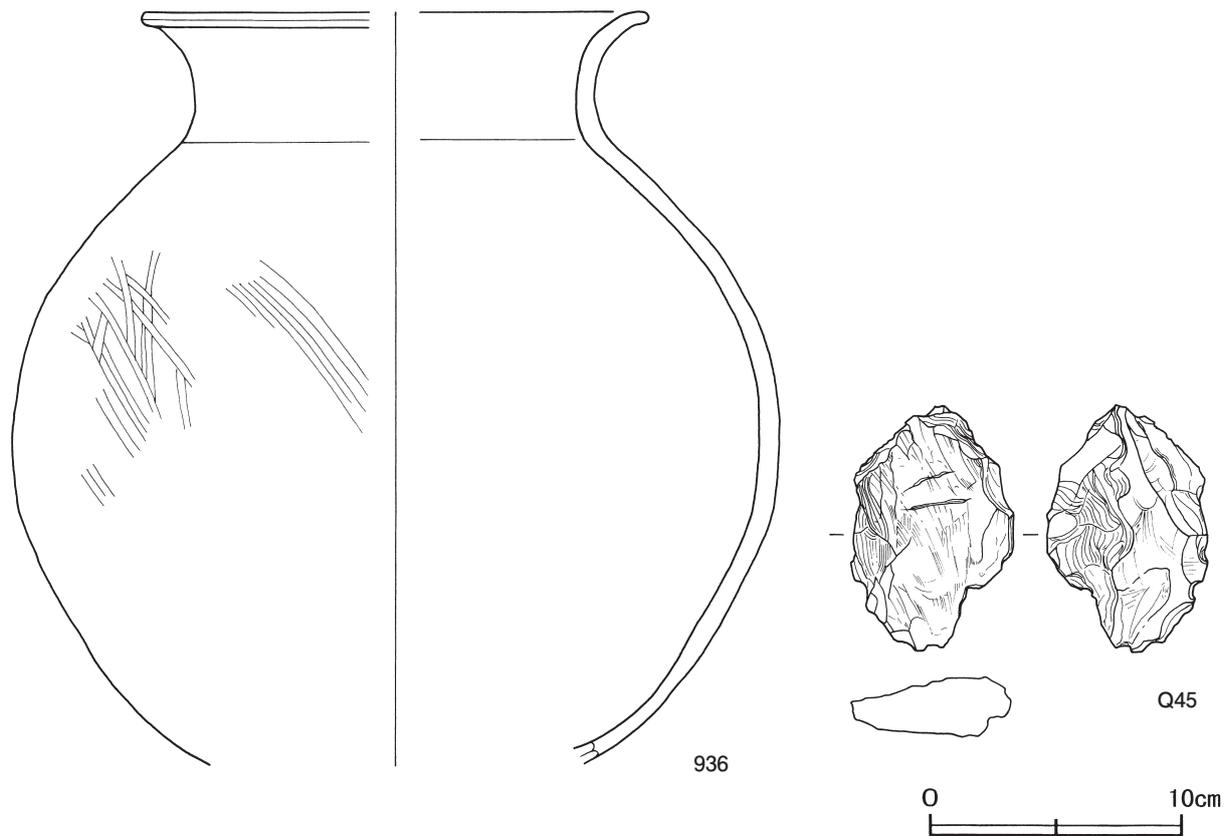
覆土 6層に分けられる。ロームブロックを含み、焼土粒子と炭化粒子が混入した、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片134点(坏類22, 甕類112), 滑石片1点が出土している。934・935は東部中央の覆土下層, 936は床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。



第423図 第97号住居跡出土遺物実測図

第97号住居跡出土遺物観察表 (第423図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
934	土師器	坏	14.2	6.1	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	90% PL44
935	土師器	甕	-	(13.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕	下層	45% PL46
936	土師器	甕	[19.6]	(30.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ磨き	床面直上	40%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 45	石核カ	9.8	6.4	3.0	189.0	滑石	表面に2条の棒状工具による切り込みがある	覆土中	PL64

第98号住居跡 (第424図)

位置 調査Ⅲ区南東部のD 4 c4区, 標高27.9mの台地に位置している。

重複関係 第92号住居に掘り込まれている。

規模と形状 西部は調査区域外に延び、中央部から南部にかけては第92号住居によって掘り込まれ、北壁東部と東壁北部は削平のため、東西軸が4.36m、南北軸が1.00mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-17°-Wと考えられ、壁高は16cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、踏み固められた範囲が確認されている。

竈 北壁に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで82cm、燃焼部幅41cmである。袖部は第5・6層の砂質粘土や焼土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 5 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 7 明赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 4 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | |

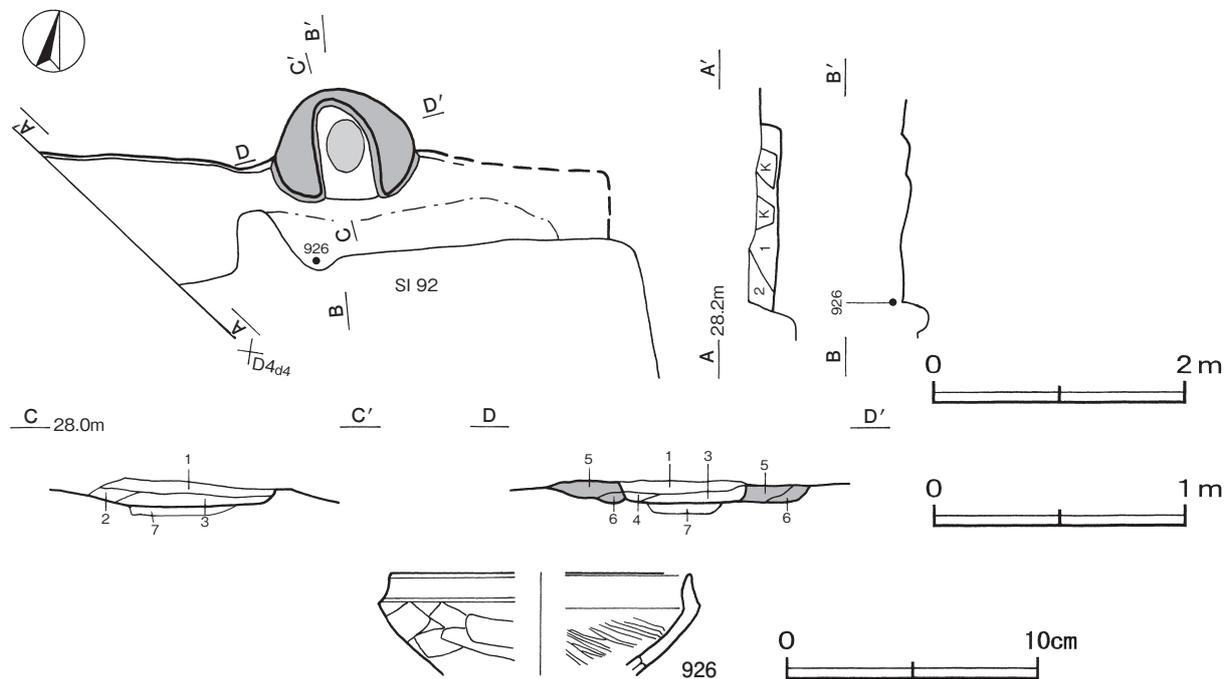
覆土 2層に分けられる。攪乱も多く、覆土の残存が一部であるため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
|-------------------------|------------------------------------|

遺物出土状況 土師器片5点（坏類3，甕類2），土製品5点（支脚）が出土している。926は竈焚口部前の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第424図 第98号住居跡・出土遺物実測図

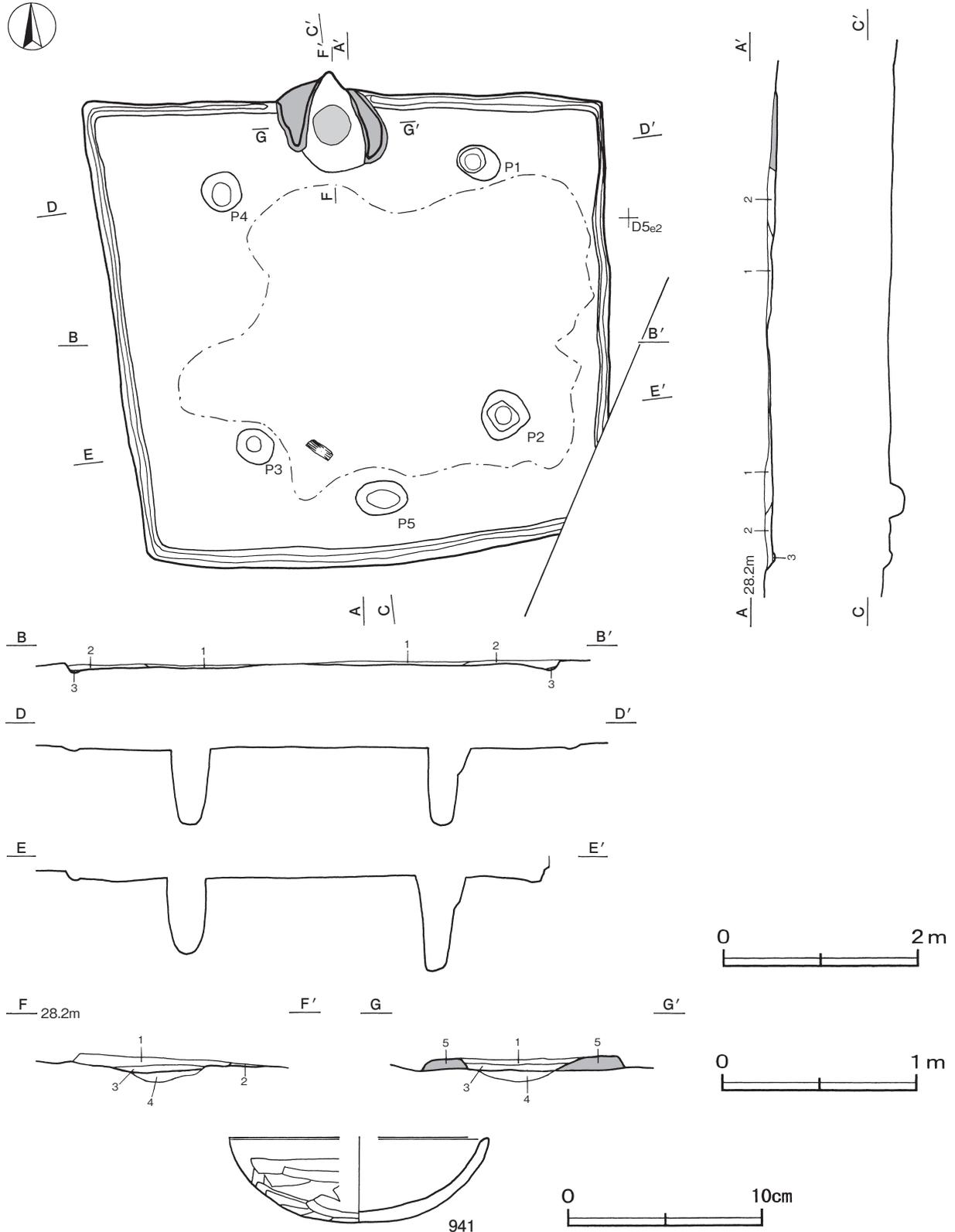
第98号住居跡出土遺物観察表（第424図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
926	土師器	坏	[11.9]	(4.2)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	中層	15%

第101号住居跡（第425図）

位置 調査Ⅲ区南東部のD 5 e1区，標高28.0mの台地に位置している。

規模と形状 長軸5.08m，短軸4.96mの方形である。主軸方向はN-0°である。壁高は0~10cmで，壁は外傾して立ち上がっている。



第425図 第101号住居跡・出土遺物実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅6～22cm、深さ2～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。また、床面から炭化材が出土している。

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで104cm、燃烧部幅54cmである。袖部は第5層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床面から緩斜して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 明赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ79～98cmで、支柱穴である。P5は深さ17cmで、南壁中央部に位置していること、硬化面の範囲から出入り口施設に伴うピットである。

覆土 3層に分けられる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片85点（坏類12、甕類70、甌3）が出土している。941は覆土中から出土している。

所見 床面からの炭化材の出土などから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。

第101号住居跡出土遺物観察表（第425図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
941	土師器	坏	[13.2]	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナテ 体部外面ヘラ削り	覆土中	40%

第102号住居跡（第426図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC3e3区、標高27.7mの台地に位置している。

重複関係 第89・90・105号住居、第16号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北東部は第89・90号住居に、南東部は第105号住居によってそれぞれ掘り込まれ、南北軸が4.60mで、東西軸は3.44mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は4～21cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦であるが、中央部が第90号住居によって掘り込まれているため硬化面は確認できなかった。壁下には幅20～32cm、深さ3～8cmで逆台形状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 6か所。P1～P4は深さ21～38cmで、支柱穴である。P5は深さ10cmで、南壁中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ32cmでP1の右側に位置しているが、性格は不明である。

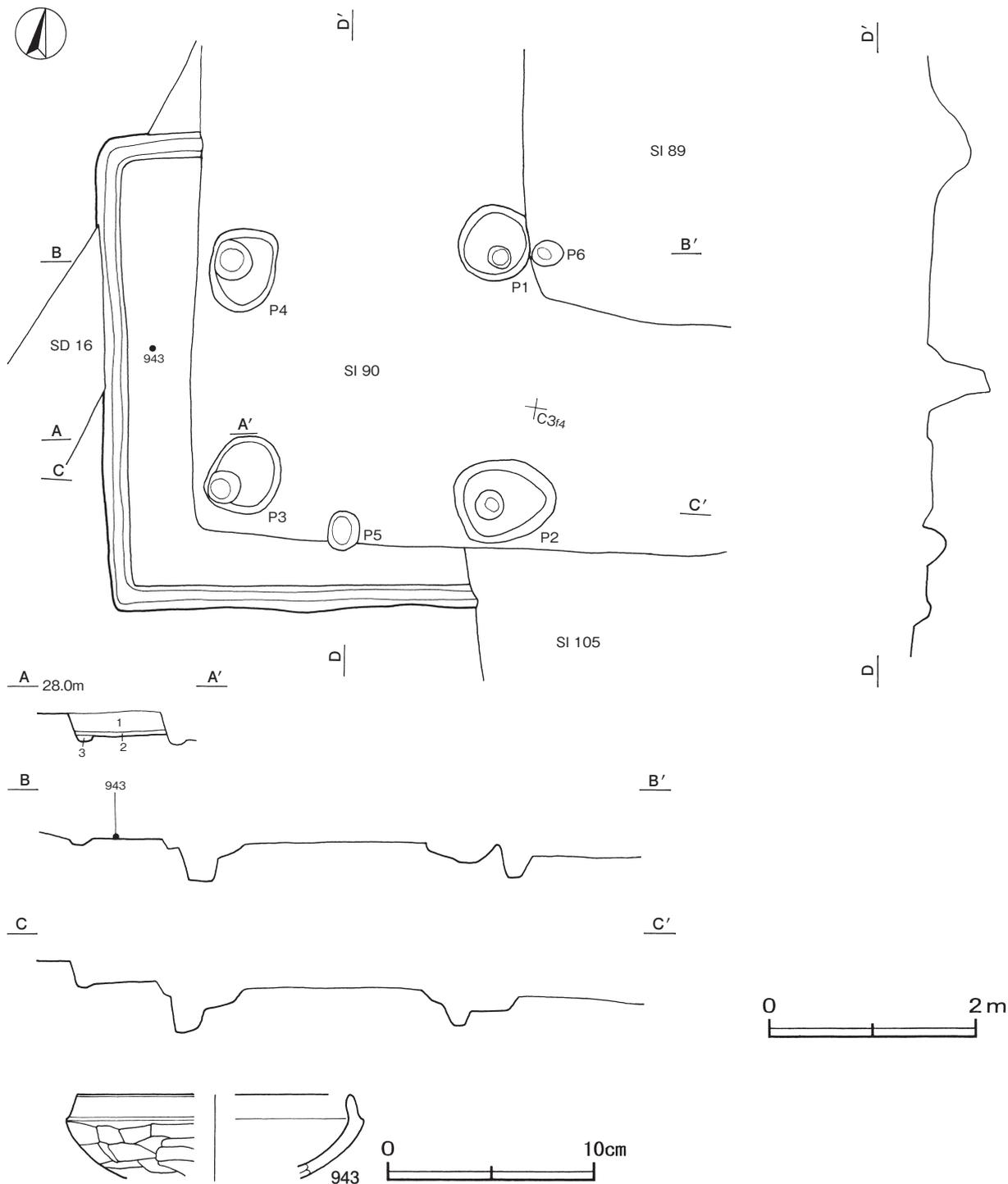
覆土 3層に分けられる。覆土の残存が一部であるため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック多量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片53点（坏類6、甕類47）が出土している。943は西壁中央部の覆土下層から出土しているが混入したものと考えられる。

所見 時期は、重複関係から6世紀前葉と考えられる。



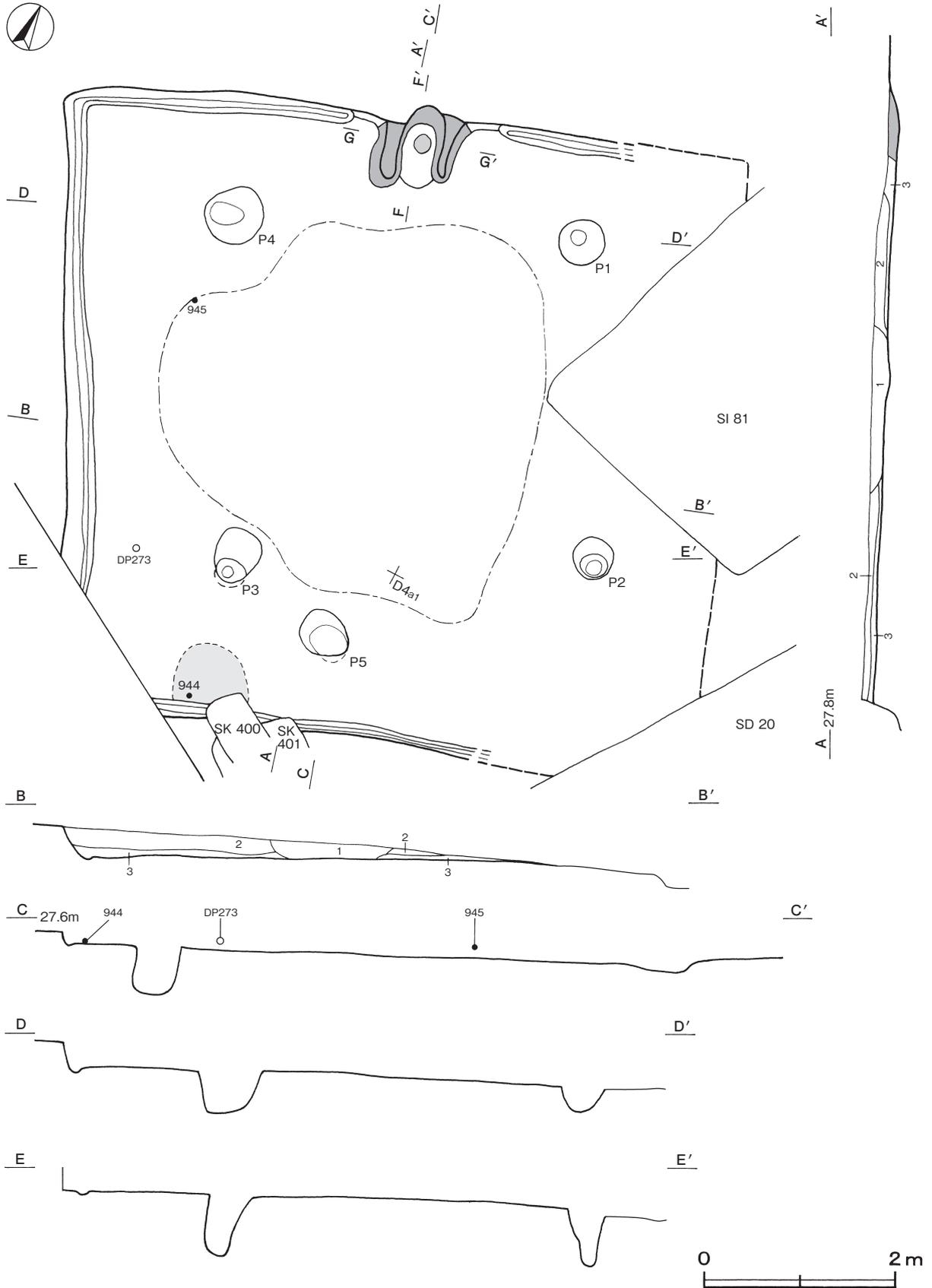
第426図 第102号住居跡・出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表（第426図）

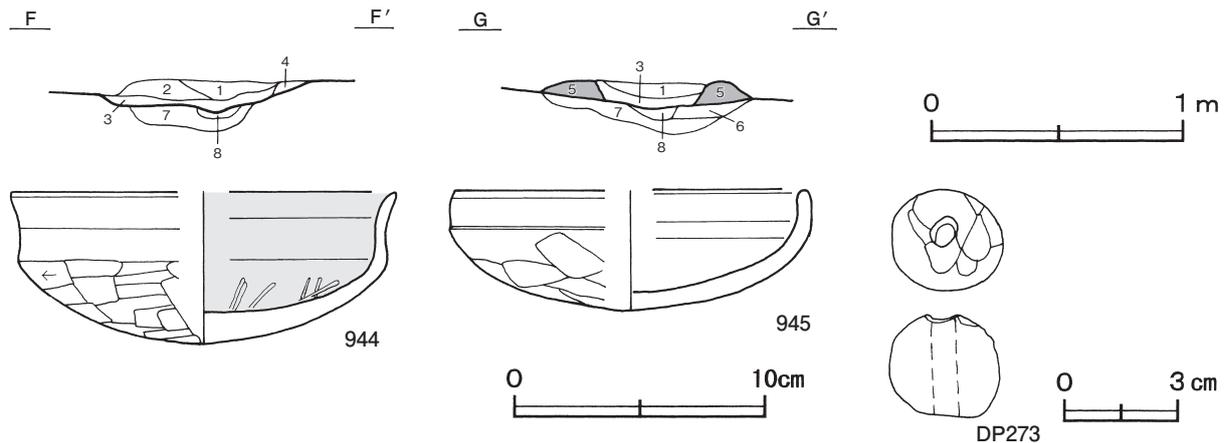
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
943	土師器	坏	[13.1]	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へラ削り	下層	10%

第104号住居跡 (第427・428図)

位置 調査Ⅲ区中央部のC 3j0区, 標高27.5mの台地に位置している。



第427図 第104号住居跡実測図



第428図 第104号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第81号住居，第20号溝，第400・401号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東壁の一部が第81号住居によって掘り込まれ，東部が削平を受けているため，南北軸が6.54mで，東西軸は6.20mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され，主軸方向はN-21°-Wである。壁高は6～15cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅20～30cm，深さ2～4cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで88cm，燃焼部幅34cmである。火床部は第6・7層のロームを主体とした土で埋土し，その上に第5層の砂質粘土やローム・焼土を混ぜた土を積み上げて袖が構築されている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に14cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|---------------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 5 | 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子微量 | 7 | 暗褐色 | ロームブロック微量（しまり弱い） |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ28～66cmで，支柱穴である。P5は深さ51cmで，南壁中央部やや西寄りに位置しているが，硬化面の広がり方などから出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|---|----|-----------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 | 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片180点（坏類21，甕類159），土製品1点（球状土錘）が出土している。944は南西部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。

第104号住居跡出土遺物観察表（第428図）

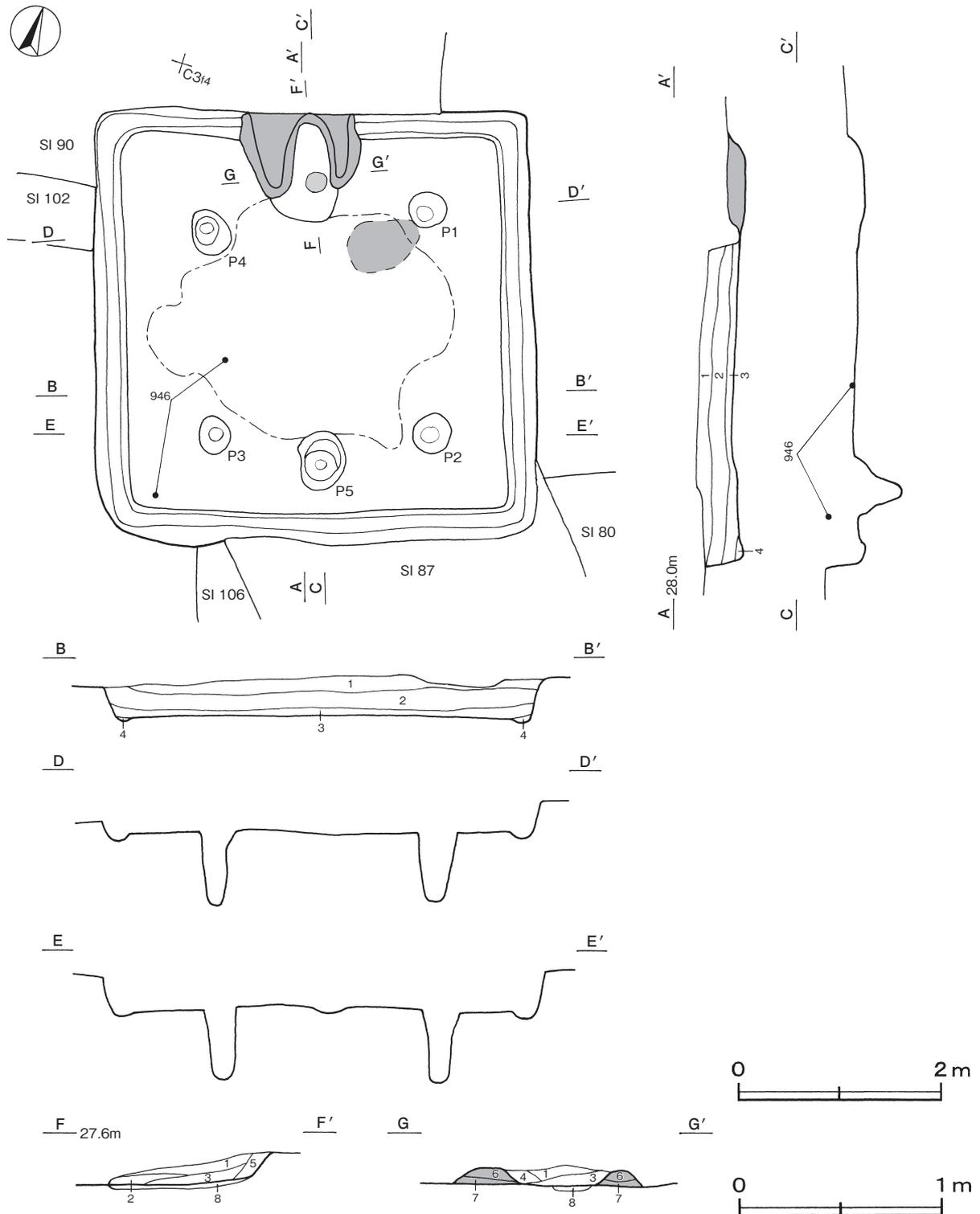
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
944	土師器	坏	[15.2]	6.0	-	長石・石英	赤	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	70% PL44
945	土師器	坏	[14.0]	4.7	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	50%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP273	球状土錘	2.9	(2.7)	0.7	(19.5)	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔	中層	

第105号住居跡 (第429・430図)

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 f4区, 標高27.8mの台地に位置している。

重複関係 第80・102・106号住居跡を掘り込み, 第87・90号住居に掘り込まれている。



第429図 第105号住居跡実測図

規模と形状 長軸4.32m，短軸4.25mの方形である。主軸方向はN-19°-Wである。壁高は30～38cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅25～35cm，深さ4～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。ほかに，北東部に長径74cm，短径52cm，床面からの厚さ20cmほどの粘土の固まりが確認されている。

竈 北壁中央に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで106cm，燃焼部幅37cmである。袖部は第6・7層の粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部はほぼ平坦で，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込まず，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 6 灰褐色 | 粘土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 灰褐色 | 粘土粒子少量，ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 明赤褐色 | 焼土粒子多量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ69～73cmで，支柱穴である。P5は深さ44cmで，南壁中央部に位置していること，硬化面の広がり方などから出入り口施設に伴うピットである。

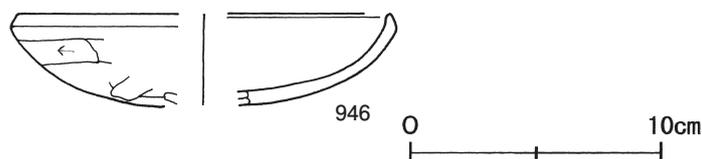
覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積を示している自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片39点（坏類13，甕類26）が出土している。946は南西部の覆土上層から出土した破片と覆土下層から出土した破片が接合したものであり，混入したものと考えられる。

所見 確認された粘土塊は住居廃絶後に混入したと考えられる。時期は，重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第430図 第150号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表（第430図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
946	土師器	坏	[14.8]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層～下層	10%

第106号住居跡（第431図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC3g4区，標高27.8mの台地に位置している。

重複関係 第80・87・105号住居に掘り込まれている。

規模と形状 他の遺構によって多くの部分が掘り込まれているため，東西軸が2.95m，南北軸が0.95mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され，主軸方向はN-18°-Wである。壁高は5～10cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，踏み固められた範囲が確認されている。壁下には幅8～14cm，深さ3～4cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 深さ36cmで、南壁中央部と推測される場所に位置していること、硬化面の範囲などから出入り口施設に伴うピットの可能性が考えられる。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。長径58cm、短径54cmの円形で、深さ10cmである。底面は平坦で、壁は緩斜して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量 2 褐色 ロームブロック中量

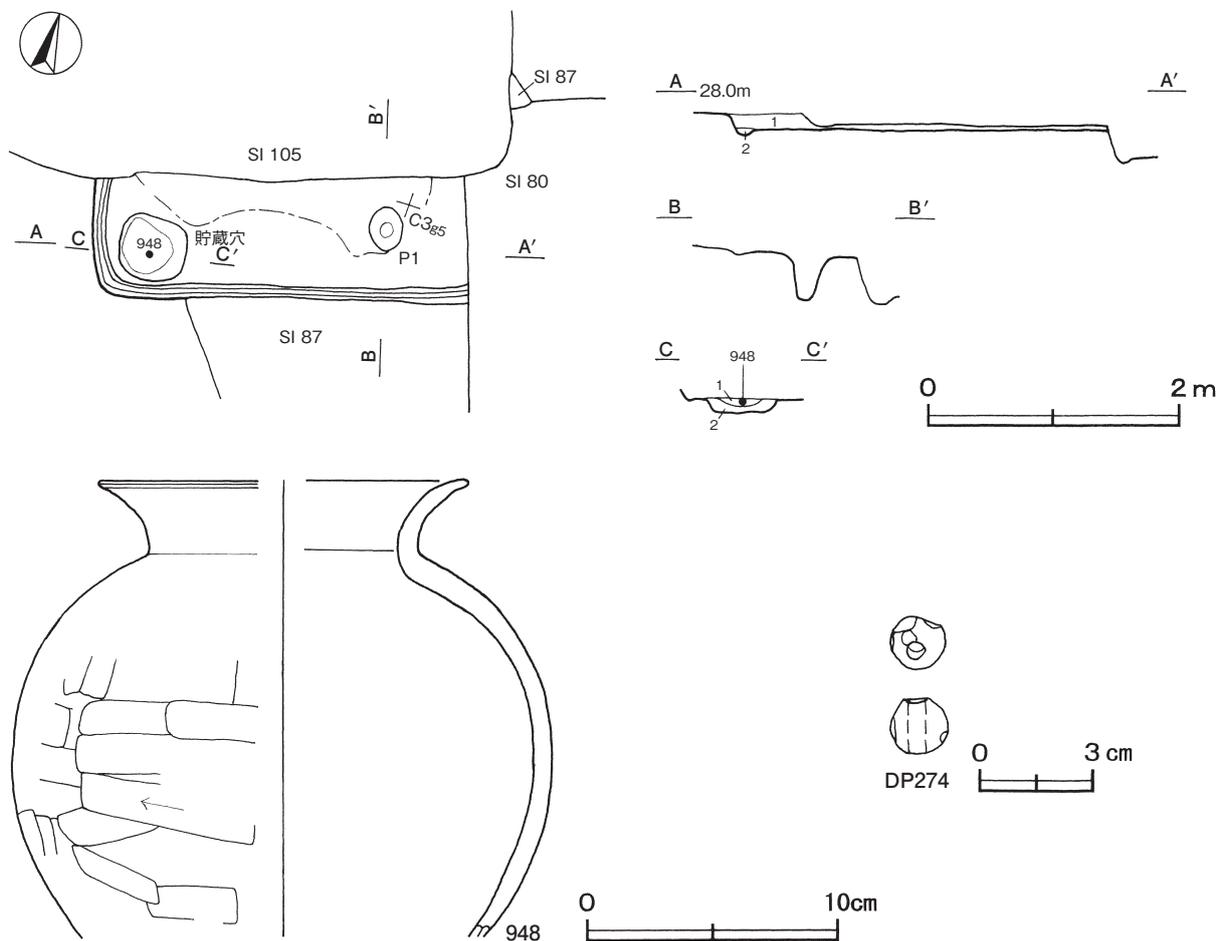
覆土 2層に分けられる。覆土の残存が一部であるため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片8点（高坏1，甕類6，壺1），土製品1点（土玉）が出土している。948は貯蔵穴の覆土上層から出土した破片と、覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。



第431図 第106号住居跡・出土遺物実測図

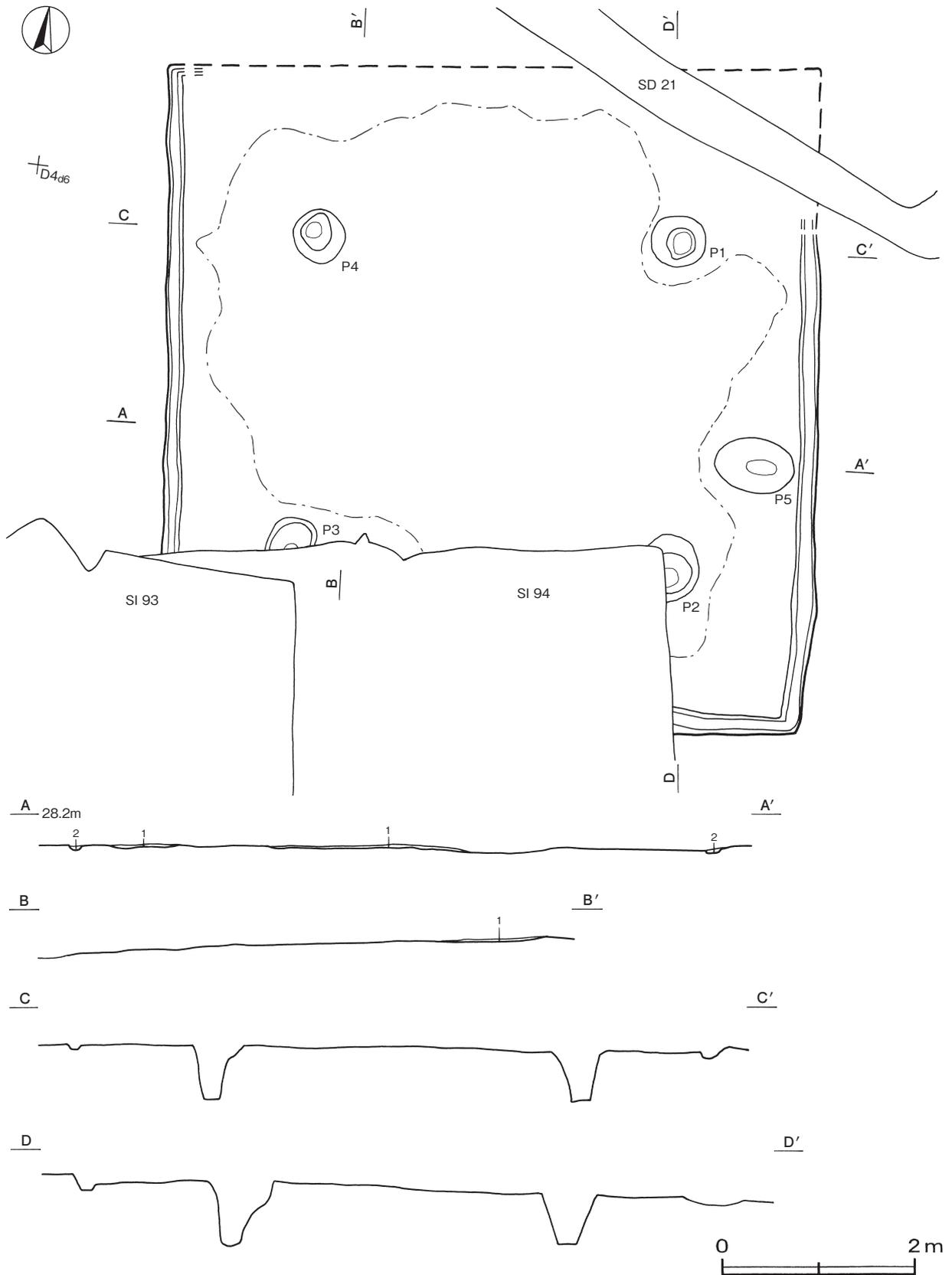
第106号住居跡出土遺物観察表（第431図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
948	土師器	壺	[14.6]	(18.1)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へラ削り	貯蔵穴上層	40% PL46
番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
DP274	土玉	1.5	1.5	0.5	3.0	粘土	外面ナデ	一方向からの穿孔	覆土中		

第107号住居跡（第432図）

位置 調査Ⅲ区南東部のD 4 d7区，標高27.8mの台地に位置している。

重複関係 第93・第94号住居，第21号溝に掘り込まれている。



第432図 第107号住居跡実測図

規模と形状 北壁は削平により，南壁西部と西壁南部は第94号住居によって掘り込まれているため，東西軸が6.68mで，南北軸は5.04mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され，主軸方向はN-82°-Eである。壁高は6～10cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 やや北に向かって傾斜し，ほぼ全面が踏み固められている。壁下には幅16～28cm，深さ2～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 5か所。P1～P4は深さ30～72cmで，支柱穴である。P5は深さ12cmで，規模や配置から出入り口施設に伴うピットと推測される。

覆土 2層に分けられる。覆土の残存が一部であるため，堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ローム粒子微量

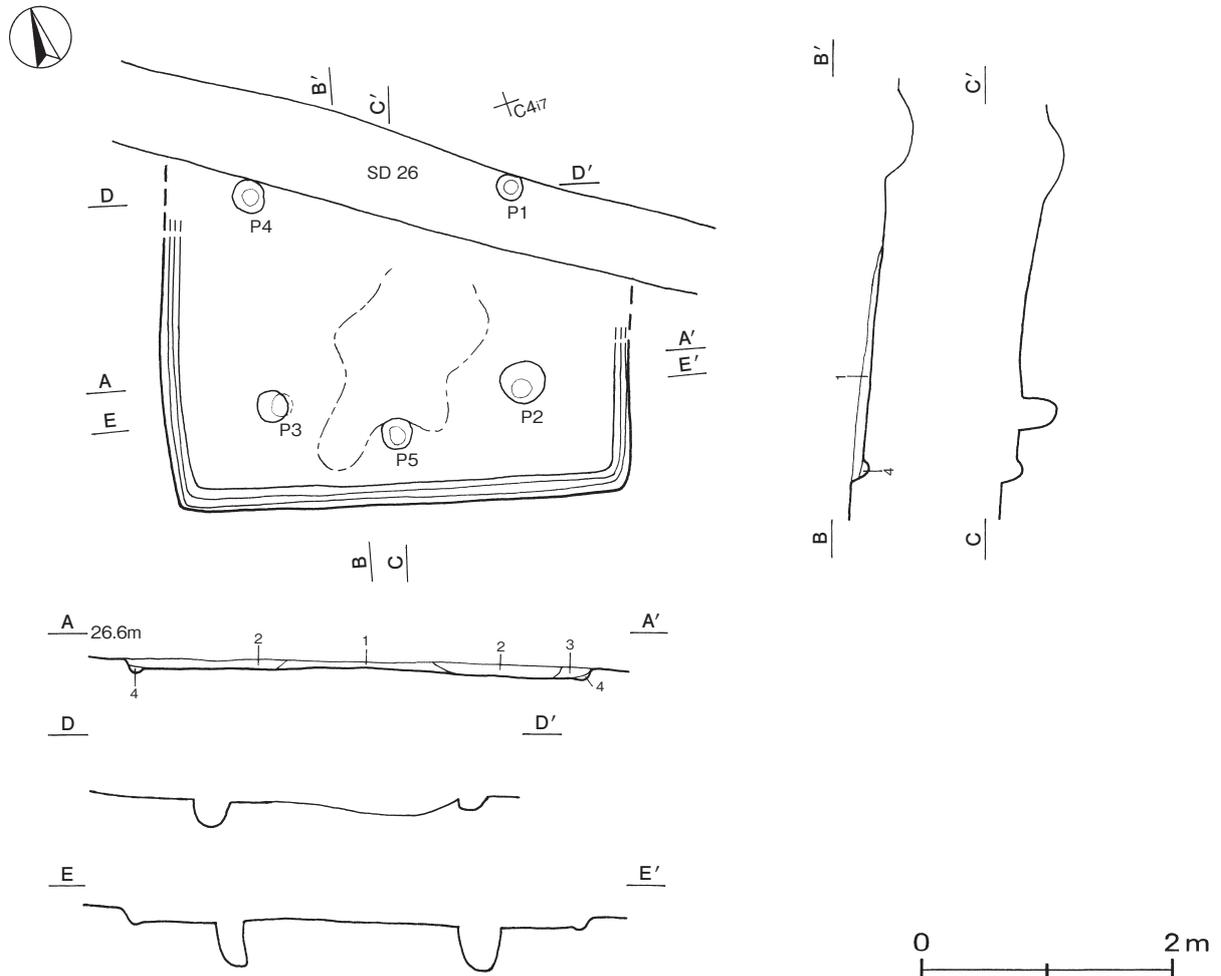
遺物出土状況 土師器片27点（坏類4，高坏1，甕類22），鉄滓2点が出土している。遺物の出土量は少なく，細片が多いため，図示することができない。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。

第109号住居跡（第433図）

位置 調査Ⅲ区中央部のC4i6区，標高26.5mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第26号溝に掘り込まれている。



第433図 第109号住居跡実測図

規模と形状 北部が第26号溝に掘り込まれていることや削平されているため、東西軸が3.68mで、南北軸は2.70mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推測され、主軸方向はN-20°-Eである。壁高は10～16cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅12～20cm、深さ3～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 5か所。P1～P4は深さ34～36cmで、支柱穴と考えられる。P5は深さ29cmで、南壁中央部に位置していること、硬化面の範囲などから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層に分けられる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 4 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片43点（坏類5，甕類38）が出土している。遺物の出土量が少なく、細片が多いため図示できない。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。

表24 住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)	
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)		壁溝	支柱穴	出入口	ピット	炉・竈					貯蔵穴
61	B 2 j7	N-28°-E	[方形]	2.84×(2.28)	7～50	平坦	一部	1	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	6世紀後葉	SI62 → 本跡 → SD15・17
62	B 2 j7	N-22°-W	[長方形]	2.72×(2.60)	24～36	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器	6世紀前葉	TP1 → 本跡 → SI61 → SD15
63	C 2 b7	N-110°-W	長方形	3.93×3.32	32～50	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器	6世紀前葉	
64	C 2 c9	N-27°-W	方形	4.50×4.46	30～36	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品	6世紀後葉	SI75 → 本跡
65	C 3 b1	N-18°-W	方形	6.08×6.00	28～38	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品	6世紀前葉	本跡 → SI67・73, SD15・17, SK407
66	C 3 d1	N-108°-W	方形	5.20×5.00	12～30	平坦	全周	4	1	-	竈2	-	自然	土師器, 土製品	6世紀前葉	本跡 → SI72
67	C 3 b2	N-10°-W	長方形	5.45×4.72	20～40	平坦	全周	4	1	1	竈1	-	人為	土師器, 土製品, ヤマトシジミ, 不明土粒	6世紀後葉	SI65・70・73 → 本跡 → SD15・17
68	C 3 a3	-	長方形	3.65×3.20	7～48	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品	6世紀中葉	SI70 → 本跡
69	C 3 i7	N-14°-W	(長方形)	(5.98)×(5.33)	6	平坦	一部	1	-	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品	6世紀中葉	本跡 → SI83, SD18・19
70	C 3 a3	-	方形	4.92×4.70	20～38	平坦	-	4	-	-	-	-	不明	土師器	6世紀前葉	本跡 → SI67・68
71	C 3 f2	N-17°-W	[方形・長方形]	(3.82)×(3.40)	40～50	平坦	[全周]	-	-	1	-	-	自然	土師器	6世紀後葉	本跡 → SD16
73	C 3 b1	N-2°-W	長方形	4.85×(4.98)	32～40	平坦	一部	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品	6世紀中葉	SI65 → 本跡 → SI67, SD15・17, SK407
74	C 3 f6	N-39°-W	[方形・長方形]	(5.92)×(2.00)	25～42	平坦	一部	2	1	-	-	-	自然	土師器, 土製品	6世紀後葉	SI80・88 → 本跡 → SI82, SD17・18, SK394・418～420
75	C 2 c9	N-21°-W	長方形	6.16×5.00	18～30	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	自然	土師器	6世紀中葉	本跡 → SI64
76	C 3 c5	N-24°-W	正方形	4.21×4.21	32～53	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品	6世紀後葉	SI86 → 本跡 → SD15
77	C 3 c6	N-54°-W	[長方形]	5.70×(4.12)	15～45	平坦	一部	2	1	1	竈1	-	人為	土師器, 土製品, 鉄滓	6世紀前葉	SI85 → 本跡 → SI78
78	C 3 d6	N-20°-W	正方形	4.88×4.88	24～52	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	人為	土師器, 土製品, 滑石, 鉄滓, 貝殻	6世紀後葉	SI77・85・86 → 本跡 → SI82, SD15・17
79	C 3 c3	N-17°-W	方形	5.24×5.15	12～40	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品, 鉄滓	7世紀前葉	SI84・86 → 本跡 → SD15・17, SK410・412
80	C 3 g5	N-24°-W	方形	6.22×5.92	28～32	平坦	[全周]	3	1	-	-	-	不明	土師器, 土製品	6世紀中葉	SI106 → 本跡 → SI74・82・87・105
81	C 4 j1	N-24°-E	[方形]	(3.38)×(3.09)	3～5	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品, 鉄滓	6世紀中葉	SI104, HG 3 → 本跡
82	C 3 f5	N-32°-W	方形	6.54×6.40	10～62	平坦	ほぼ全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 石製品, 鉄製品	7世紀前葉	SI74・78・80・88 → 本跡 → SD15・17, SK394・417・418
83	C 3 i8	N-31°-W	方形	6.00×5.70	20～45	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 石製品, 炭化材, ヤマトシジミ	6世紀後葉	SI69 → 本跡
84	C 3 d3	N-12°-W	[方形・長方形]	(5.55)×5.20	35～68	平坦	一部	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品	6世紀中葉	SI86 → 本跡 → SI79・89, SD15～17, SK408～411
85	C 3 e7	N-52°-W	[方形・長方形]	3.90×(2.30)	10～28	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 滑石	6世紀前葉	本跡 → SI77・78
86	C 3 e4	N-19°-W	[方形・長方形]	(8.04)×6.62	8～30	凹凸	一部	4	-	-	[竈1]	1	不明	土師器	6世紀前葉	本跡 → SI76・78・79・84・89・90, SD15・17, SK412～416
88	C 3 e7	N-32°-W	[長方形]	(7.00)×5.78	12～14	凹凸	一部	3	-	-	-	-	不明	土師器	6世紀中葉	本跡 → SI74・82, SD15・17・18, SK394・418～421

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時 期	備 考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)		壁溝	主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
89	C 3 e4	N-5°-W	長方形	5.26×4.37	10~28	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品, 鉄滓, 炭化材	7世紀前葉	SI84・86・90→本跡→SD17, SK413~415
90	C 3 e3	N-7°-W	方形	5.84×5.67	13~20	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品	6世紀後葉	SI102, 105→本跡→SI89, SD16
91	D 4 b3	N-70°-W	[長方形]	4.50×(3.22)	0~12	傾斜	-	-	-	-	炉1	-	不明	土師器	5世紀代	
92	D 4 d4	N-17°-W	[方形・長方形]	(4.10)×(3.64)	16~34	平坦	[全周]	1	-	-	竈1	-	人為	土師器, 土製品, 鉄製品	7世紀前葉	SI98→本跡
93	D 4 e6	N-1°-W	[方形・長方形]	(5.58)×(4.46)	28~38	平坦	-	1	-	-	竈2	-	人為	土師器, 土製品, 鉄滓	7世紀前葉	SI94→本跡→SD24
94	D 4 e7	N-1°-W	[方形・長方形]	(6.40)×(5.50)	10~40	平坦	[全周]	2	-	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 鉄滓	6世紀中葉	SI107→本跡→SI93, SD24
95	C 4 j3	N-8°-W	方形	4.38×4.32	6~54	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	人為	土師器	6世紀後葉	本跡→SD20
96	D 4 b4	N-23°-W	長方形	4.80×4.58	8~20	平坦	[全周]	4	2	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品	7世紀前葉	
97	D 4 h7	N-1°-W	[方形・長方形]	5.50×(3.15)	30~40	平坦	[全周]	1	-	-	-	-	人為	土師器, 滑石	6世紀前葉	本跡→SI99
98	D 4 c4	N-17°-W	[方形・長方形]	(4.36)×(1.00)	16	平坦	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器, 土製品	6世紀後葉	本跡→SI92
101	D 5 e1	-	方形	5.08×4.96	0~10	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	不明	土師器	6世紀中葉	
102	C 3 e3	N-8°-W	[方形・長方形]	4.60×(3.44)	4~21	平坦	一部	4	1	1	-	-	不明	土師器	6世紀前葉	本跡→SI89・90・105, SD16
104	C 3 j0	N-21°-W	[方形・長方形]	6.54×(6.20)	6~15	平坦	一部	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品	6世紀前葉	本跡→SI81, SD20, SK400・401
105	C 3 f4	N-19°-W	方形	4.32×4.25	30~38	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器	6世紀中葉	SI80・102・106→本跡→SI87・90
106	C 3 g4	N-18°-W	[方形・長方形]	(2.95)×(0.95)	5~10	平坦	一部	-	1	-	-	1	不明	土師器, 土製品	6世紀前葉	本跡→SI80・87・105
107	D 4 d7	N-82°-E	[方形・長方形]	6.68×(5.04)	6~10	傾斜	[全周]	4	1	-	-	-	不明	土師器, 鉄滓	6世紀前葉	本跡→SI93・94, SD21
109	C 4 i6	N-20°-E	[方形・長方形]	3.68×(2.70)	10~16	平坦	[全周]	4	1	-	-	-	不明	土師器	6世紀後葉	本跡→SD26

(2) 遺物包含層

Ⅲ区における2つの遺物包含層は、調査区域北辺を西から東へと向かう谷津の北から南へ入り込む2本の小谷津に遺物が流れ込んだものと考えられる。以下、その状況について記す。

第3号遺物包含層（第434・435図）

位置 調査Ⅲ区中央部のC 3 f0～C 4 i3区、標高22.5～27.0mの台地から北側に傾斜する斜面に位置している。

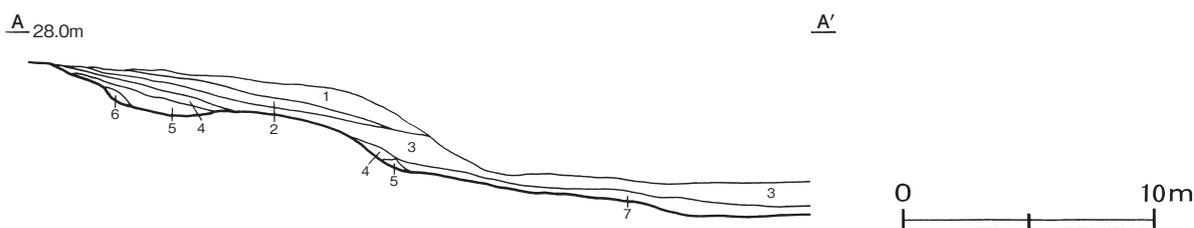
規模と形状 調査区域中央部の北側の黒色土で、地形的には北方向から入り込んだ谷津頭であり、25m×20mである。

土層 7層に分けられる。遺物包含層を明確に捉えることはできなかったが、南端部であるC 3 i0地点の比較的上層から集中して出土している。

土層解説

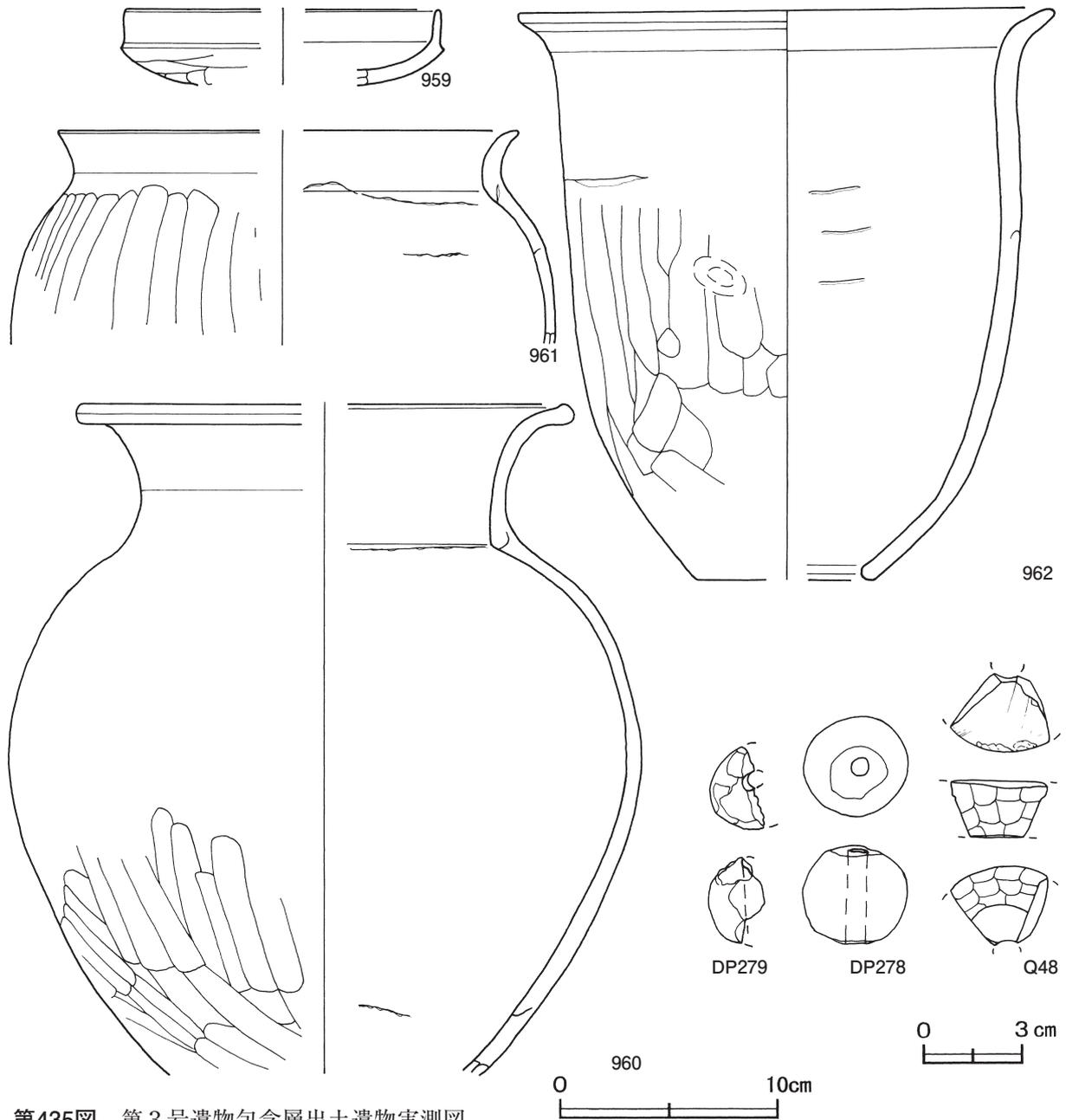
- | | | | |
|---------|----------------|---------|--------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒 褐 色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片872点（坏類80，高坏5，甗6，甕類781），須恵器片23点（坏類6，蓋2，甕類15），土製品3点（球状土錘），石製品1点（紡錘車）が出土している。遺物の散布はC 3 i1付近に集中している。



第434図 第3号遺物包含層実測図

所見 本包含層は北方向から入り込んだ谷津頭にあたり、その南西側から南東部の台地平坦部には、古墳時代の集落跡が存在している。出土遺物はこの集落から投棄されたものや流入したものと考えられる。形成された時期は出土土器から6世紀と考えられる。



第435図 第3号遺物包含層出土遺物実測図

第3号遺物包含層出土遺物観察表（第435図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
959	土師器	坏	[14.4]	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	15%
960	土師器	甕	[21.8]	(31.1)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面下端ヘラ削り	覆土中	40%
961	土師器	甕	[20.4]	(9.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	15%
962	土師器	甗	24.5	26.2	[8.0]	長石・石英・赤色粒子	黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 指頭痕	覆土中	65% PL46

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP278	球状土錘	3.2	3.0	0.6	29.6	粘土	外面磨耗 一方向からの穿孔	覆土中	
DP279	球状土錘	(2.6)	(2.6)	(0.3)	(6.7)	粘土	外面ヘラ削り 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 48	紡錘車	3.0	1.8	(0.2)	(11.8)	粘板岩	側面磨き痕跡あり 一方向からの穿孔	覆土中	

第4号遺物包含層（第436図）

位置 調査Ⅲ区南東部のC 4 h9～D 5 a1区、標高24.3～27.3mの台地から北側に傾斜する斜面に位置している。

規模と形状 調査区域南東部の北側の黒色土で、地形的には北方向から入り込んだ谷津頭であり、20m×15mである。

土層 4層に分けられる。遺物包含層を明確に捉えることはできなかったが、北部のC 4 h9地区の比較的上層から集中して出土している。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

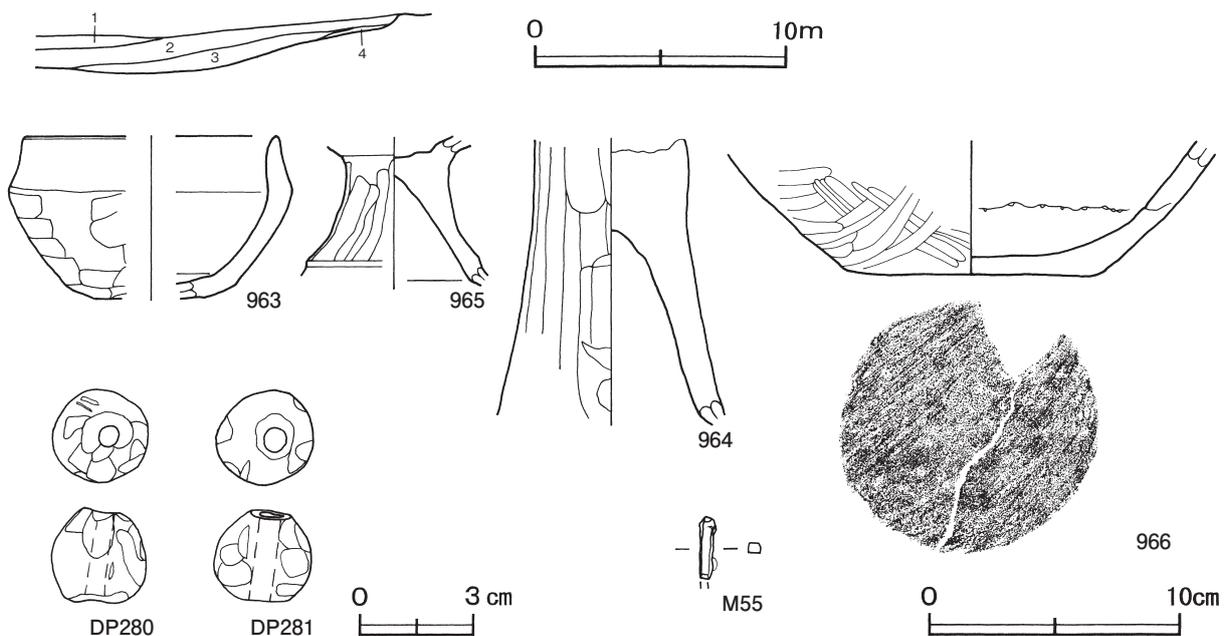
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片864点（坏類59，椀1，高坏6，甌5，甕類793），須恵器片12点（蓋3，甕類9），土製品3点（土玉1，球状土錘2），鉄製品4点（釘1，不明3）が出土している。遺物の散布はC 4 h9付近に集中している。

所見 本包含層は北方向から入り込んだ谷津頭にあたり、その南西側から南部にかけて広がる台地平坦部に、古墳時代の集落跡が存在している。出土した遺物群はこの集落から投棄されたものや流入したものと考えられる。形成された時期は、出土土器から6世紀と考えられる。

B 28.0m

B'



第436図 第4号遺物包含層・出土遺物実測図

第4号遺物包含層出土遺物観察表（第436図）

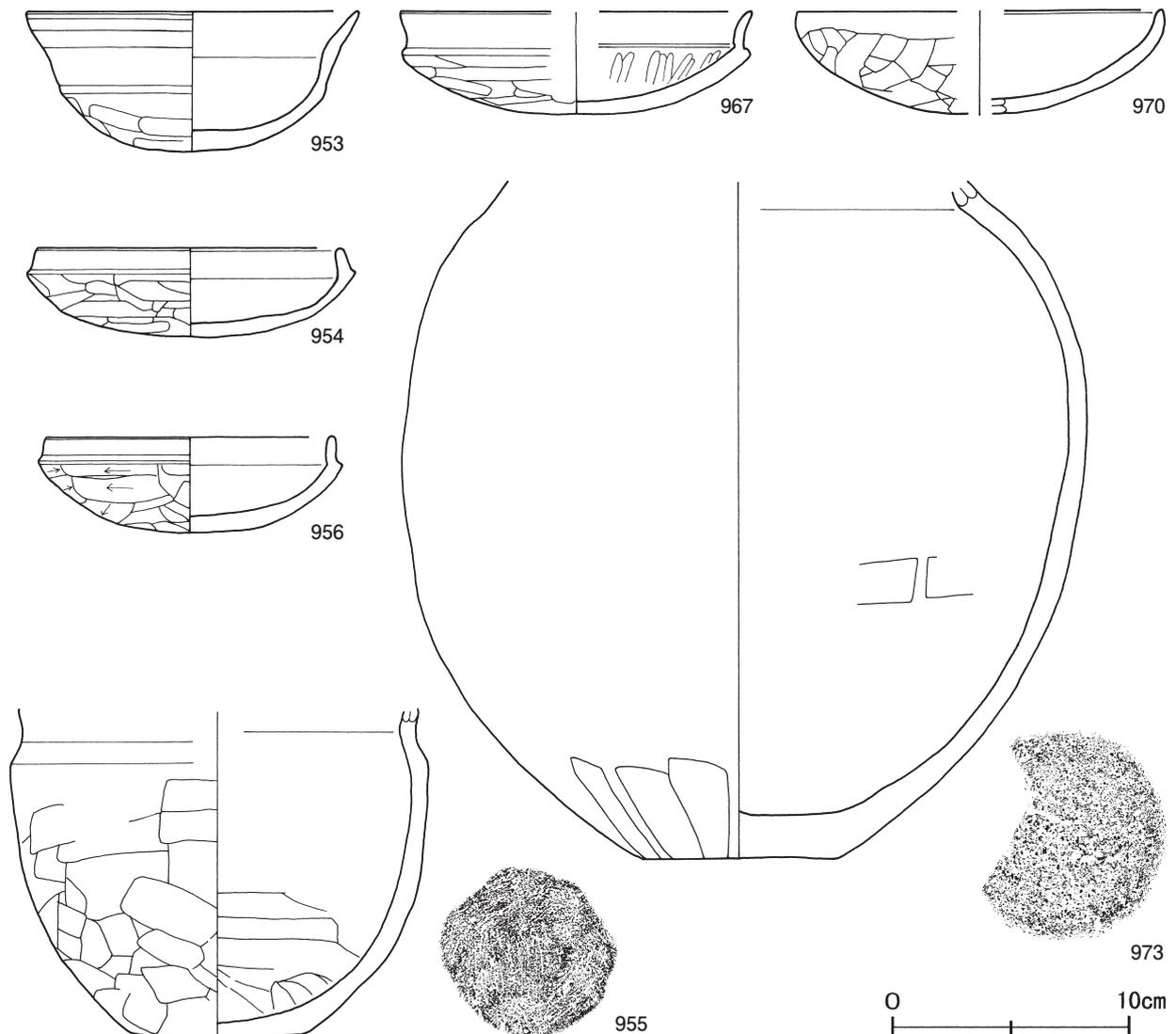
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
963	土師器	埴	[10.0]	6.5	[4.4]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	15%
964	土師器	高坏	-	(11.3)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	脚部外面ヘラ削り	覆土中	20%
965	土師器	高坏	-	(6.0)	-	長石・石英・赤色粒子・礫	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ削り	覆土中	15%
966	須恵器	甕	-	(5.4)	10.0	長石	浅黄橙	普通	体部外面下端ヘラ磨き	覆土中	15%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP280	球状土錘	2.5	2.5	0.6	(14.1)	粘土	外面ヘラ削り 一方向からの穿孔	覆土中	
DP281	球状土錘	2.6	2.4	0.6	(15.4)	粘土	外面ヘラ削り 一方向からの穿孔	覆土中	

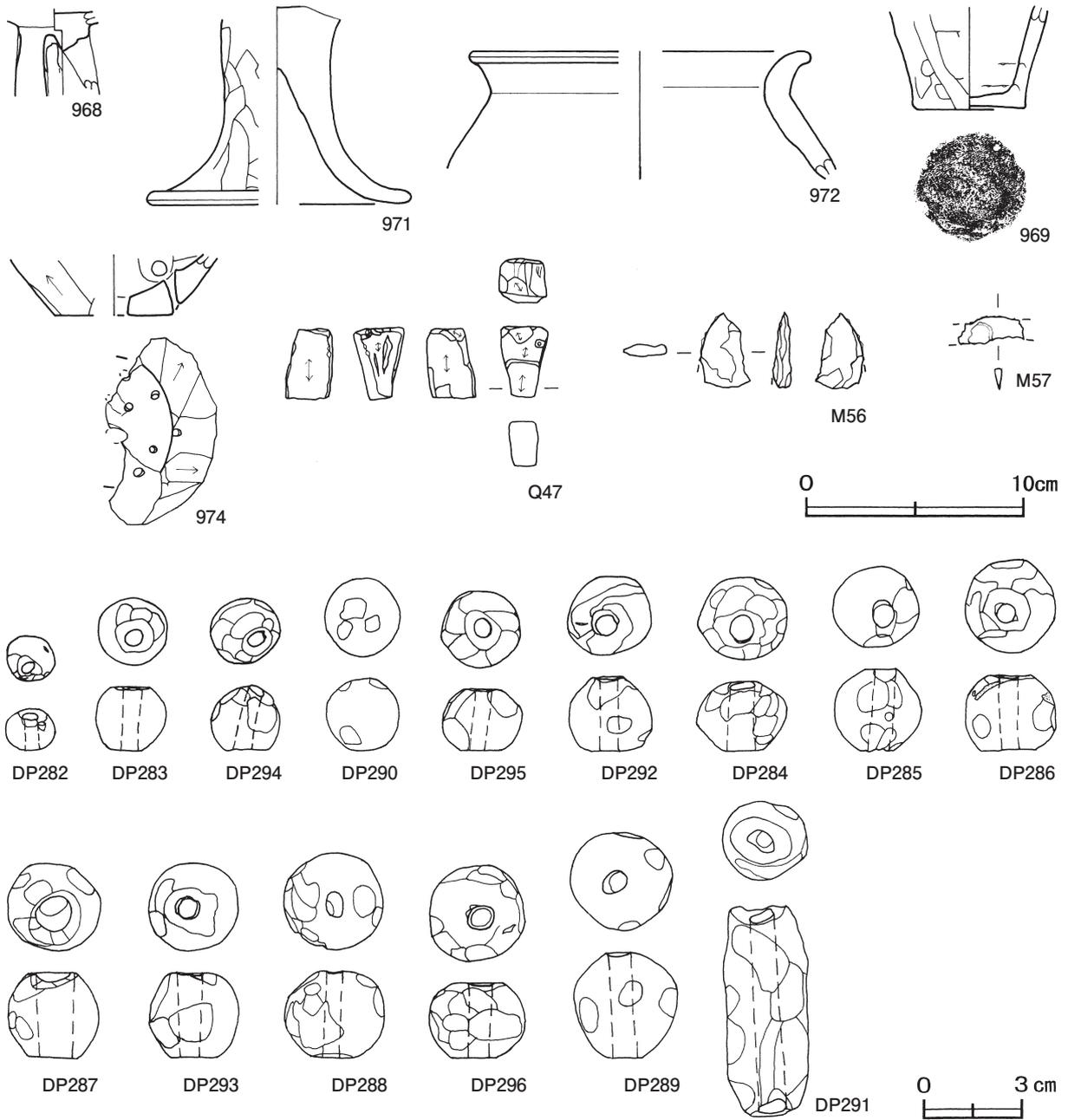
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 55	釘カ	(2.5)	0.7	0.4	(2.0)	鉄	断面四角形 先端部欠損	覆土中	

(3) 遺構外出土遺物（第437・438図）

今回の調査で、表土層から遺構に伴わない古墳時代の遺物が出土している。ここでは土師器を中心に、実測図及び遺物観察表で提示する。



第437図 遺構外出土遺物実測図(1)



第438図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第437・438図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
953	土師器	坏	14.0	5.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	SD15 覆土中	85% PL44
954	土師器	坏	12.8	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	SD15 覆土中	75% PL46
955	土師器	甕	-	(14.0)	7.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	SD15 覆土中	70%
956	土師器	坏	12.1	4.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	SD17 覆土中	95% PL46
967	土師器	坏	[14.8]	4.3	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	表土中	50% PL46
968	土師器	高坏	-	(4.0)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	脚部外面ヘラ削り	表土中	10%
969	土師器	手捏土器	-	(4.7)	5.1	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り	表土中	60%
970	土師器	坏	[15.4]	4.3	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	表土中	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
971	土師器	高坏	-	(9.3)	[11.6]	長石・石英	淡黄色	普通	脚部外面ヘラ削り	表土中	30%
972	土師器	甕	[15.0]	(5.8)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面磨耗	表土中	15%
973	土師器	甕	-	(28.6)	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	表土中	65%
974	土師器	甗	-	(2.8)	[5.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端ヘラ削り 底部棒状工具による多数の穿孔	表土中	5% PL46

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP282	土玉	1.5	1.3	0.5	2.6	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	表土中	
DP283	球状土錘	2.1	2.0	0.7	9.3	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	表土中	
DP284	球状土錘	2.8	2.1	0.9	13.7	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔	表土中	
DP285	球状土錘	2.6	(2.5)	0.7	(15.0)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	表土中	
DP286	球状土錘	(2.8)	2.3	0.6	(19.1)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 上下カット	表土中	
DP287	球状土錘	2.9	2.7	1.2	17.1	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 上下カット	表土中	
DP288	球状土錘	3.1	2.7	0.5	(22.7)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	表土中	
DP289	球状土錘	3.1	3.2	0.8	27.6	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	表土中	
DP290	球状土錘	2.5	2.3	-	12.7	粘土	外面ナデ 未穿孔	表土中	
DP291	管状土錘	2.6	6.5	0.8	37.5	粘土	外面指頭痕 一方向からの穿孔	表土中	PL47
DP292	球状土錘	2.6	2.3	0.6	(13.9)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	表土中	
DP293	球状土錘	(2.8)	(2.6)	(0.8)	(17.2)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	表土中	
DP294	球状土錘	2.1	2.0	0.5	7.5	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	表土中	
DP295	球状土錘	2.4	1.9	0.5	9.7	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	表土中	
DP296	球状土錘	3.0	2.3	0.7	19.1	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 上下カット	表土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 47	砥石	(3.2)	2.2	1.9	(17.6)	凝灰岩	砥面5面 刃物を研いだと考えられる刻み	SD17 覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 56	不明金属製品	(3.5)	(2.3)	0.4	(9.6)	鉄	平面形五角形	表土中	
M 57	刀子	(3.0)	1.2	0.3	(2.4)	鉄	両端欠損	表土中	

4 奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡4軒が確認されている。以下、遺構及び遺物について記述する。

堅穴住居跡

第72号住居跡（第439図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3e1区、標高27.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第66号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南西側が調査区域外に延びているため、東西軸が2.98mで、南北軸は1.7mしか確認されなかった。主軸方向がN-40°-Eの方形または長方形と推定される。壁高は10～12cmで、ほぼ直立している。

床 確認できた部分はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅16～22cm、深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北東壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで62cm、燃焼部幅47cmである。袖部は第5層のロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗 赤 褐 色 焼土ブロック中量
- 3 暗 赤 褐 色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 暗 赤 褐 色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量
- 5 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量

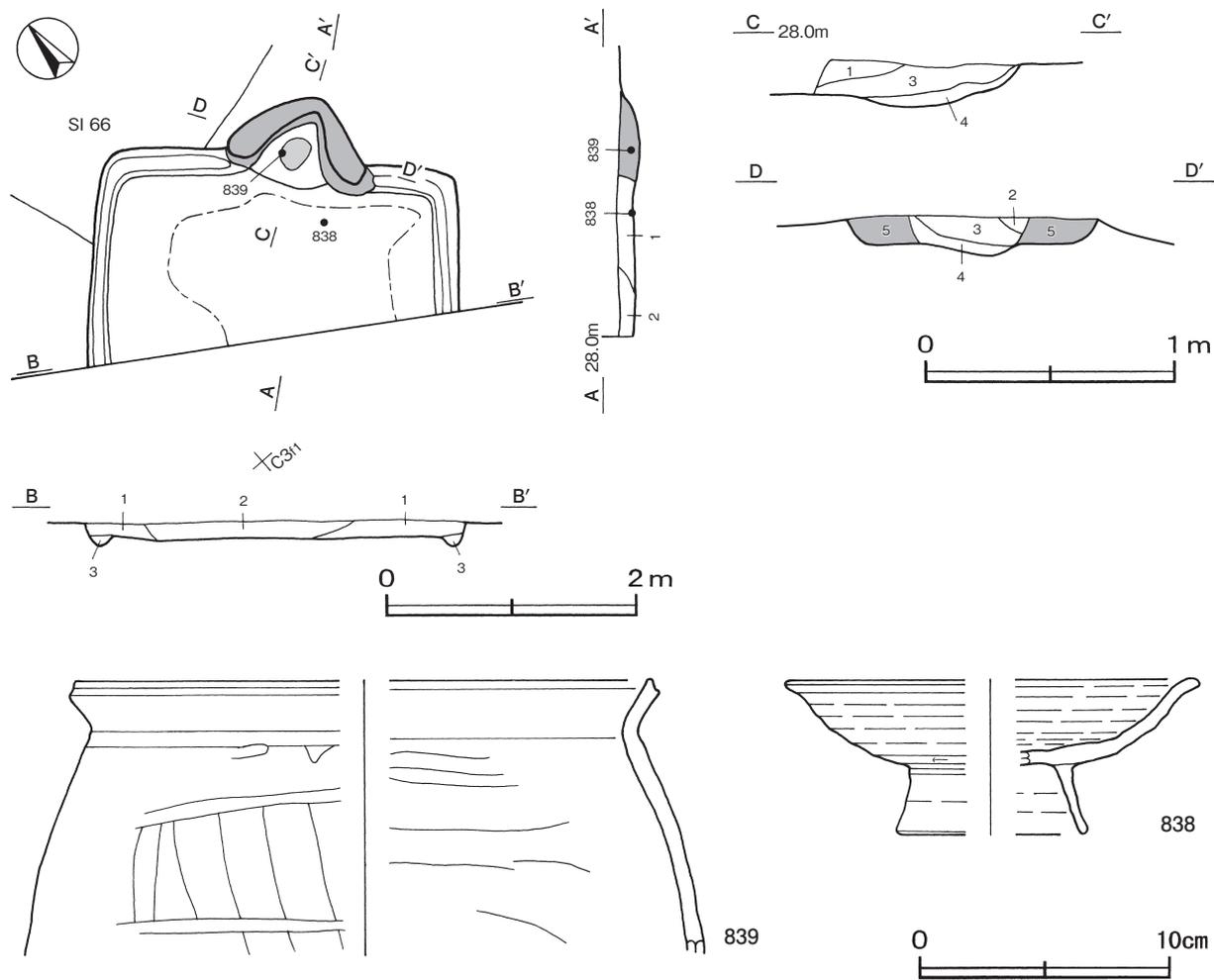
覆土 3層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片57点（坏類10・高台付椀3・皿3・甕類41）が出土している。839は竈火床部から出土している。また、838は竈焚口部前側の床面直上から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第439図 第72号住居跡・出土遺物実測図

第72号住居跡出土遺物観察表（第439図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
838	土師器	高台付椀	[16.2]	6.2	[7.4]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部ナデ後高台貼り付け	床面直上	20%
839	土師器	甕	[23.0]	(11.0)	-	長石・石英・針状鉱物	明赤褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラナデ 内面ヘラナデ	竈火床部	10%

第87号住居跡 (第440・441図)

位置 調査Ⅲ区北西部のC3g4区, 標高27.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第80・105・106号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.34m, 短軸3.12mの方形で, 主軸方向はN-49°-Eである。壁高は4~6cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 2か所。竈1は, 北東壁中央部に付設されているが, 明確な袖部及び煙道部は確認できなかった。規模は焚口部から燃焼部まで70cm, 燃焼部幅82cmである。火床部は床面とほぼ平坦で, 火床面は火を受けて赤変硬化している。竈2は, 南東壁中央部に付設されているが, 明確な袖部は確認できなかった。規模は焚口部から煙道部まで62cm, 燃焼部幅59cmである。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。また, 火床部内に土師器高台付椀を転用した支脚が設置されている。

竈1土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量

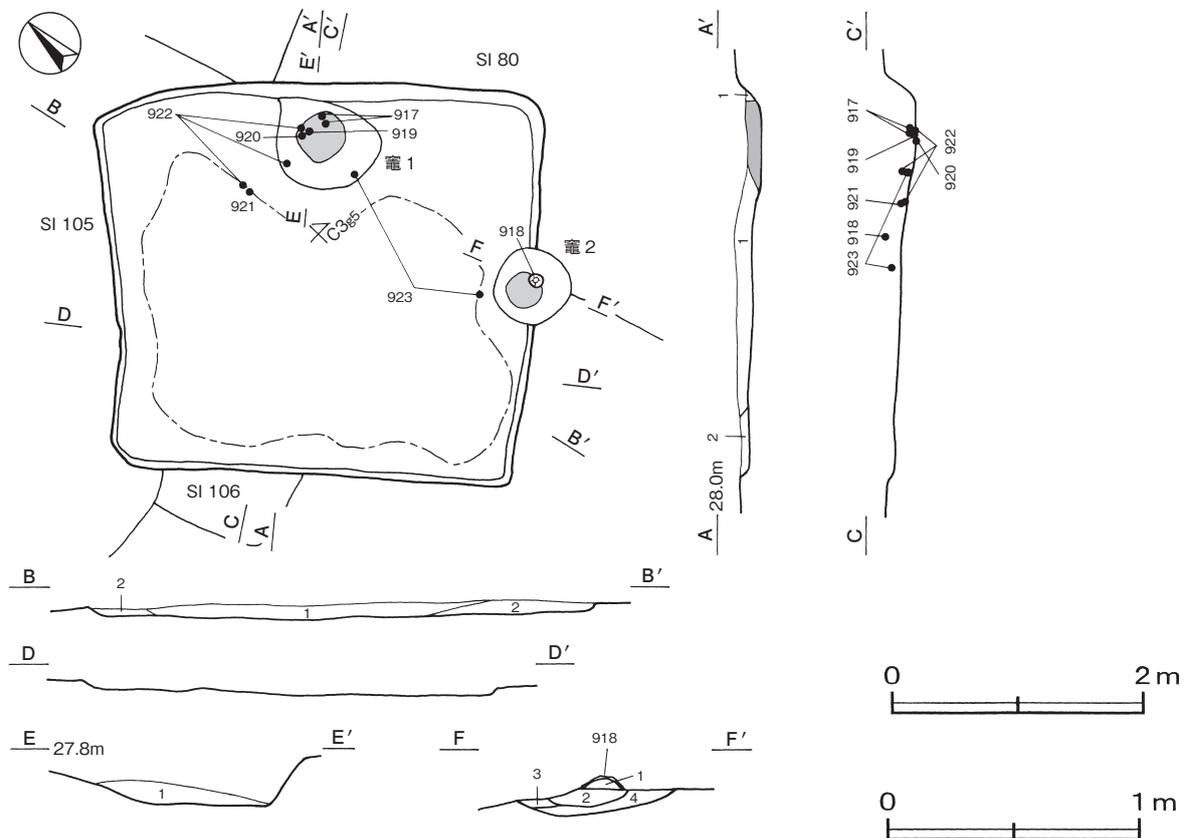
竈2土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量
 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量, ロームブロック微量
 3 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
 4 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 2層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

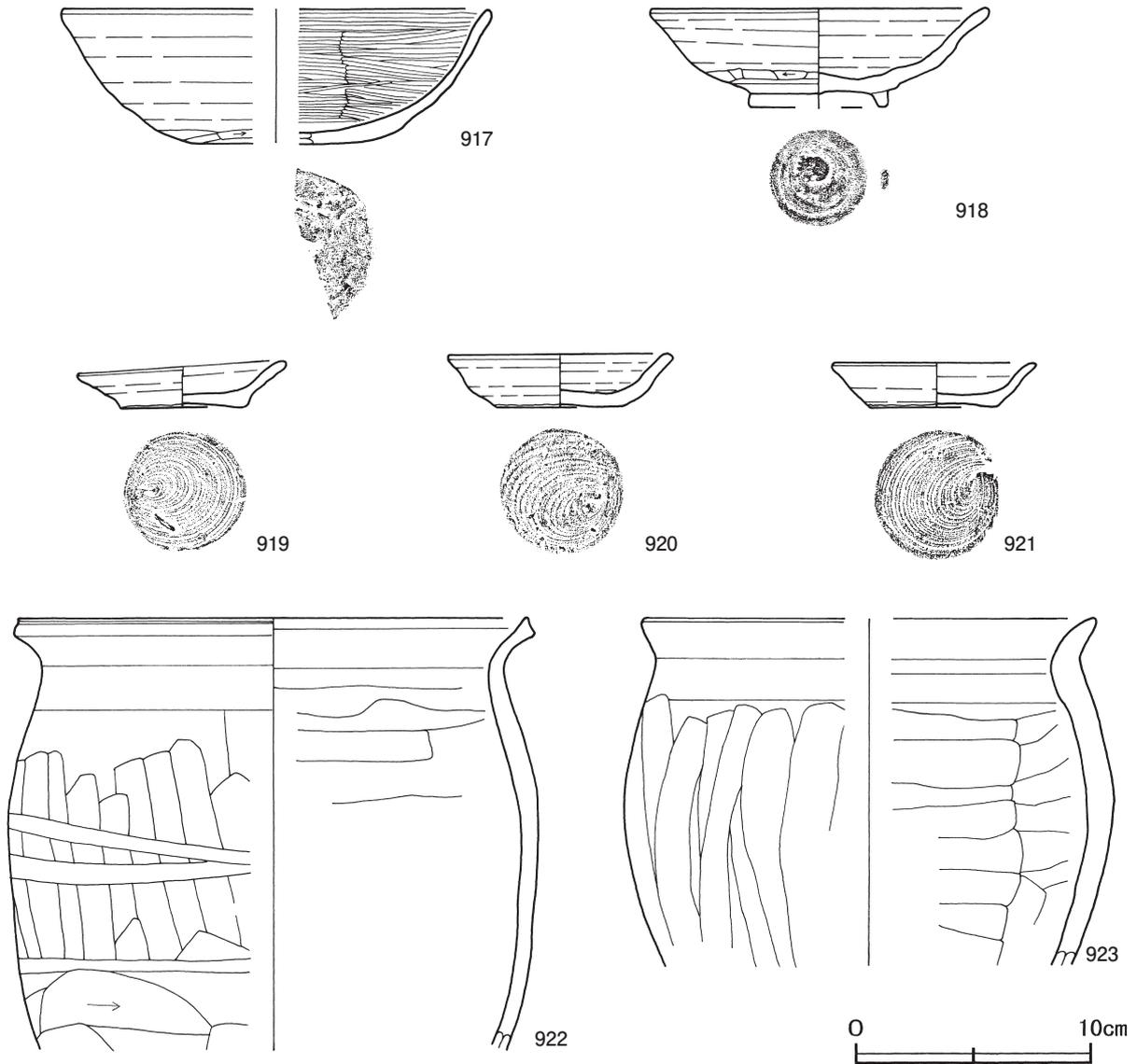
- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量
 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量



第440図 第87号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片265点（坏類32・高台付椀5・皿3・甕類225），須恵器片6点（坏類3・蓋2・甕類1），鉄滓2点が出土している。919は竈1の火床部から逆位の状態，920は竈1の火床部から正位の状態，917は竈1の火床部，922は竈1の焚口から火床部と竈1の焚口部前側，923は竈1の焚口部と竈2の焚口部前側からそれぞれ出土している。918は支脚に転用されたもので，竈2の火床部から逆位の状態で出土している。また，921は竈1の焚口部前側の床面直上から逆位の状態で出土している。

所見 時期は，出土土器から11世紀前葉と考えられる。



第441図 第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表（第441図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
917	土師器	坏	[18.2]	5.7	[8.0]	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	竈1 火床部	50%
918	土師器	高台付椀	14.2	4.2	[5.8]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通 二次焼成	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	竈2 火床部	90% PL57 支脚転用
919	土師器	小皿	8.8	1.9	5.2	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	竈1 火床部	100% PL57
920	土師器	小皿	9.2	2.2	5.4	長石・石英・白雲母	橙	普通	底部回転糸切り	竈1 火床部	95% PL57

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
921	土師器	小皿	8.6	1.9	5.4	長石・石英・針状鉍物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	床面直上	90% PL57
922	土師器	甕	21.6	(18.4)	-	長石・石英・針状鉍物	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラナデ、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈1焚口～火床部 竈1前側	30%
923	土師器	甕	[19.0]	(14.8)	-	長石・石英・針状鉍物	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラナデ 内面ヘラナデ	竈1焚口部 竈2前側	20%

第99号住居跡（第442・443図）

位置 調査Ⅲ区南部のD4h7区、標高28.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第97号住居跡を掘り込み込んでいる。

規模と形状 南西側が調査区域外に延びているため、確認できたのは東西軸が4.1mで、南北軸は0.6mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-38°-Eである。壁高は14～18cmで、ほぼ直立している。

床 確認できた部分はほぼ平坦で、硬化面は認められない。

竈 北東壁中央部に付設されており、確認できた規模は燃烧部から煙道部まで110cm、燃烧部幅44cmである。袖部は第4層のロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。また、煙道部の両壁に補強材として置き竈片が設置されている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量 |

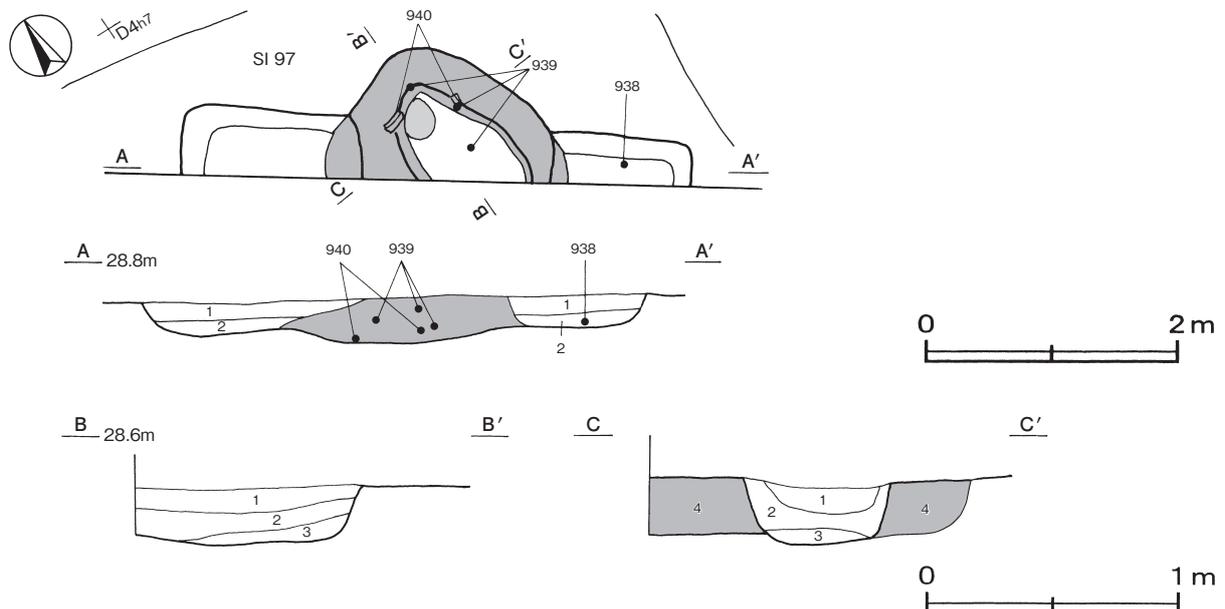
覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

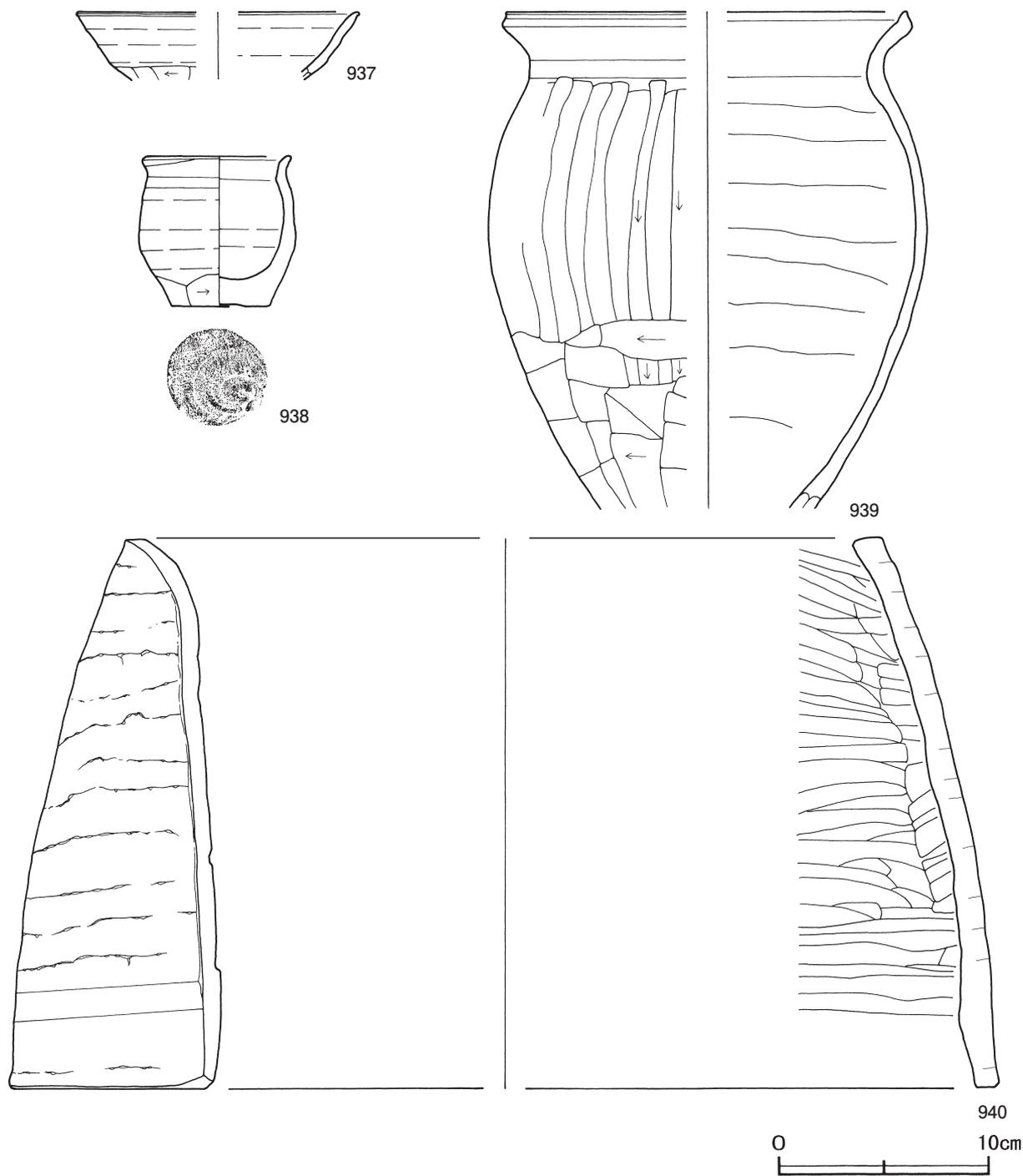
- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
|------------------------|----------------------|

遺物出土状況 土師器片39点（坏類14・小形甕1・甕類21・置き竈3）が出土している。939は竈火床から煙道部にかけて出土している。940は竈の補強材に転用されたもので、煙道部両壁から出土している。また、938は竈袖部右側の床面直上から横位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第442図 第99号住居跡実測図



第443図 第99号居住跡出土遺物実測図

第99号住居跡出土遺物観察表 (第443図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
937	土師器	坏	[13.2]	(3.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	竈覆土中	20%
938	土師器	小形甕	6.8	7.1	4.8	長石・石英・針状鉍物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転条切り後手持ちヘラ削り	床面直上	100% PL57
939	土師器	甕	[19.0]	(23.7)	-	長石・石英・針状鉍物・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り, 下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈火床～煙道部	50%
940	土師器	置き竈	[35.9]	(26.4)	[46.4]	長石・石英・針状鉍物	橙	普通	体部外面輪積痕 内面横位のヘラナデ 基部内・外面横ナデ	竈煙道部	10% 竈補強材転用

第108号住居跡（第444・445図）

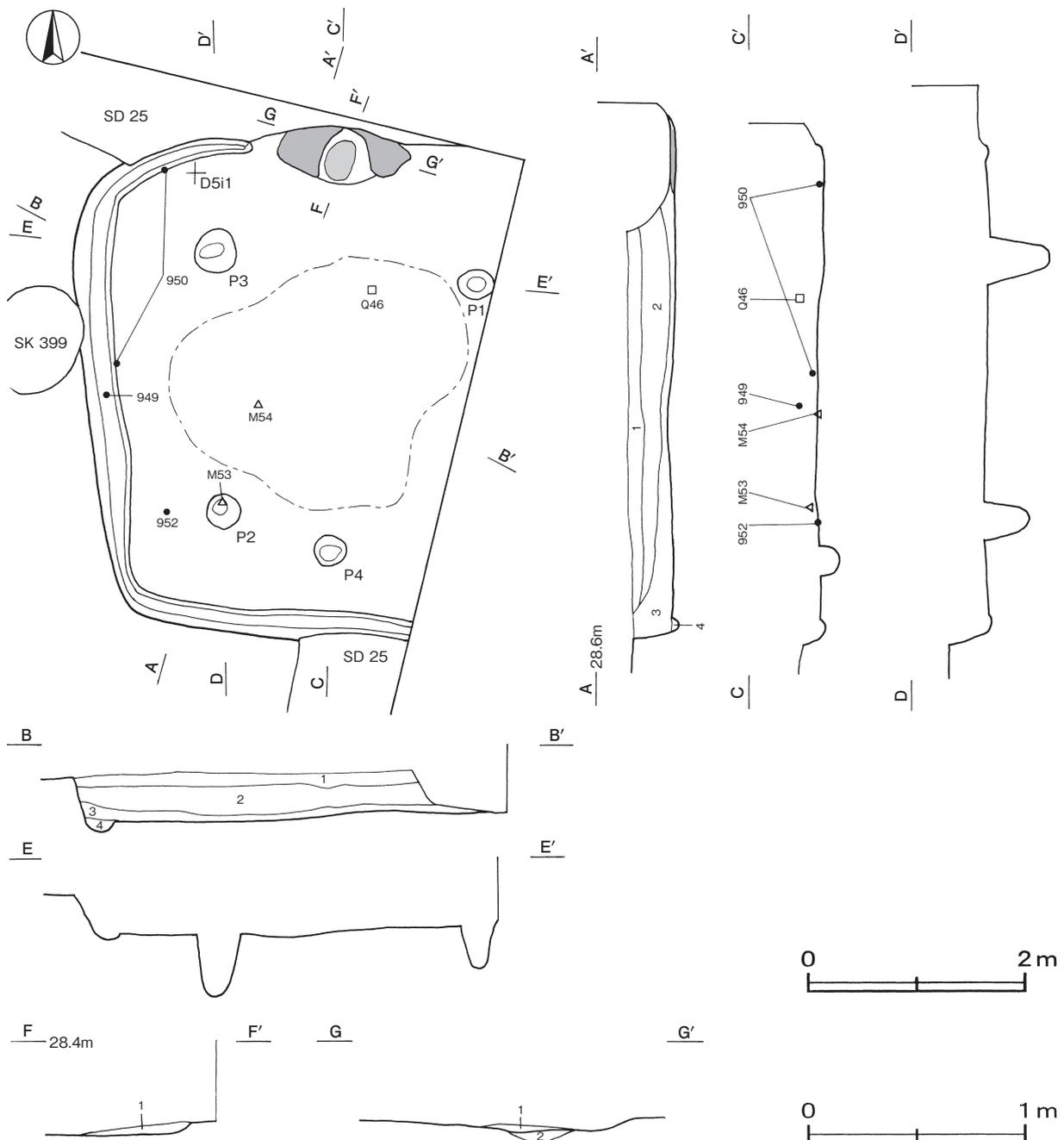
位置 調査Ⅲ区南部のD 5 i l区，標高28.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第399号土坑，第25号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東側が調査区域外に延びているため，南北軸が4.60m，東西軸は4.0mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され，主軸方向はN - 1° - Eである。壁高は38 ~ 46cmで，ほぼ直立している。

床 確認できた部分はほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北側の一部を除く壁下には幅14 ~ 32cm，深さ4 ~ 10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。第25号溝跡と重複しているため，袖部と考えられる粘土が薄く遺存しているだけである。火床面は火を受けて赤変硬化している。



第444図 第108号居住跡実測図

竈土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量

ピット 4か所。P1～P3は深さ40～60cmで、主柱穴である。P4は深さ22cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

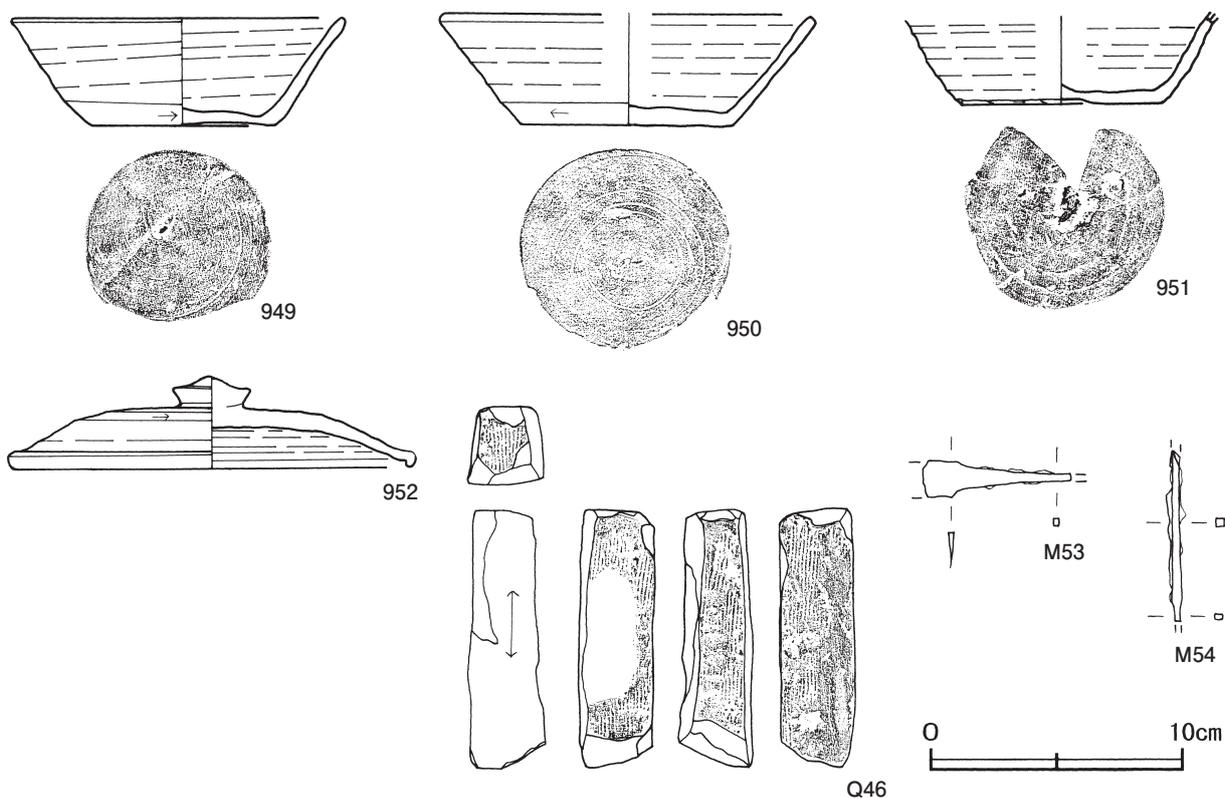
覆土 4層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片387点（高台付椀3・甕類384）、須恵器片70点（坏類44・高台付坏2・盤2・蓋1・甕類21）、土製品4点（土玉類1・管状土錘2・支脚片1）、石器1点（砥石）、鉄製品3点（刀子1・鏃1・不明1）が出土している。952は西壁際から正位の状態、M54は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。また、950は北西コーナー部の床面と西壁際の覆土下層から散らばって出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第445図 第108号居住跡出土遺物実測図

第108号住居跡出土遺物観察表（第445図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
949	須恵器	坏	13.0	4.3	7.2	長石・石英・針状鉱物	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	中層	70% PL57 稲敷A
950	須恵器	坏	[14.4]	4.4	8.4	長石・石英・針状鉱物	灰黄	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	下層～床面	50% 稲敷A
951	須恵器	坏	-	(3.6)	8.0	長石・石英・白雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土中	40% 新治A
952	須恵器	蓋	15.8	3.6	-	長石・石英	黄灰	良好	天井部ヘラ削り後つまみ貼り付け	床面直上	100% PL57 新治B

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 46	砥石	10.2	3.0	3.1	151.2	凝灰岩	砥面2面 4面に櫛歯状工具による痕跡	中層	PL64

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 53	刀子	(5.9)	1.4	0.3	(5.0)	鉄	刃部・茎部一部欠損	下層	
M 54	鎌	(6.8)	0.4	0.4	(5.5)	鉄	長頸鎌 鎌身部・茎部一部欠損	床面直上	

表25 竪穴住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)		壁溝	主柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	炉・竈				
72	C 3 e1	N-40°-E	[方形・長方形]	2.98×(1.7)	10~12	平坦	[全周]	-	-	-	-	竈1	人為	土師器	10世紀後葉	SI66→本跡
87	C 3 g4	N-49°-E	方形	3.34×3.12	4~6	平坦	-	-	-	-	-	竈2	人為	土師器	11世紀前葉	SI80・105・106→本跡
99	D 4 h7	N-38°-E	[方形・長方形]	[4.1]×(0.6)	14~18	平坦	-	-	-	-	-	竈1	人為	土師器	10世紀後葉	SI97→本跡
108	D 5 i1	N-1°-E	[方形・長方形]	4.60×(4.0)	38~44	平坦	[ほぼ全周]	3	1	-	-	竈1	人為	土師器・須恵器・砥石・刀子・鉄鎌	8世紀中葉	本跡→SK399, SD25

5 中世・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、溝跡12条が確認されている。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 溝跡

溝跡については、中世・近世の陶磁器類の出土の有無や重複関係から当該期の遺構として判断したが、図示できるような陶磁器類は少なく、性格も不明なものが多い。ここでは、特徴的な溝跡と出土遺物についてのみ取り上げ、その他は全体図及び一覧表で掲載する。

第15号溝跡（第446図）

位置 調査Ⅲ区北西部のB 2j7～C 3f8区、標高27.5～27.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第62・65・67・73・78・79・86・88号住居跡、第1号陥し穴、第16号溝跡を掘り込み、第421号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西側が調査区域外に延びるため、確認できた長さは48.4mである。走行方向はN-63°-Wで、北西方向へほぼ直線的に延びている。上幅0.9～2.0m、下幅0.7～1.5m、深さは20～60cmである。断面形はU字状で、両壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 覆土中から土師質土器片1点（内耳鍋）、陶器片1点（瓶類）、磁器片1点（皿）、鉄滓1点が出土しているが、いずれも細片で図示できない。そのほかにも、混入あるいは流入したものと思われる土師器片97点が出土している。

所見 本跡は、南側に平行して位置する第17号溝、確認できたほぼ中央で垂直に交わる第16号溝、東端で垂直に交わる第18号溝、その第18号溝の東側に位置する第19号溝と機能的に関連する区画溝と思われる。時期は出土遺物や重複関係から中世後半から近世前半と考えられる。

第17号溝跡（第446・447図）

位置 調査Ⅲ区北西のC 2 a6～C 3 h6区，標高27.6～27.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第65・67・69・73・74・77・79・82・86・88・89号住居跡を掘り込み，第394・405～410・412・414～421号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西から北東方向に延び，第15号溝手前でL字形に曲がって南東から北西方向へ延びている。南側及び西側が調査区域外に延びているため，確認できた長さは南西－北東溝が11.4m，南東－北西溝が50.5mである。主軸方向は南西－北東溝がN-32°-E，南東－北西溝がN-68°-Wで，北東コーナーを挟んでほぼ直線的に延びている。上幅0.4～2.3m，下幅0.2～1.3m，深さは30～50cmである。断面形はU字状で，両壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 覆土中から陶器片1点（常滑片口鉢Ⅱ類），鉄滓1点が出土している。そのほかにも，混入あるいは流入したと思われる土師器片420点，須恵器片1点，土玉類1点が出土している。

所見 本跡は，南東－北西溝の北側に平行して位置する第15号溝，南東－北西溝の確認できたほぼ中央で垂直に交わる第16号溝，南西－北東溝の東側に平行して位置する第18・19号溝と関連する区画溝と思われる。時期は出土遺物や重複関係から中世後半から近世前半と考えられる。

第20号溝跡（第446図）

位置 調査Ⅲ区南東部のD 4 a1～C 4 j8区，標高27.5～26.3mの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第95号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南西から北東に走り，第3遺物包含層の手前でL字形に曲がって北西から南東方向に走り，再び第21号溝付近でL字形に曲がって南西から北東方向へ走る。確認できた長さは南側の南西－北東溝が9.5m，北西－南東溝が19.0m，北側の南西－北東溝が8.3mである。主軸方向は南側の南西－北東溝がN-36°-E，北西－南東溝がN-121°-E，北側の南西－北東溝がN-45°-Eで，それぞれのコーナーを挟んでほぼ直線的に延びる。上幅0.4～1.4m，下幅0.2～1.0m，深さは8～18cmである。断面形は浅いU字状で，両壁は緩やかに立ち上がる。また，北西－南東溝の南側と，北側の南西－北東溝の東側は，段切状に切り土整地されており，段切状遺構上面から本跡底面までの深さは50～60cmである。

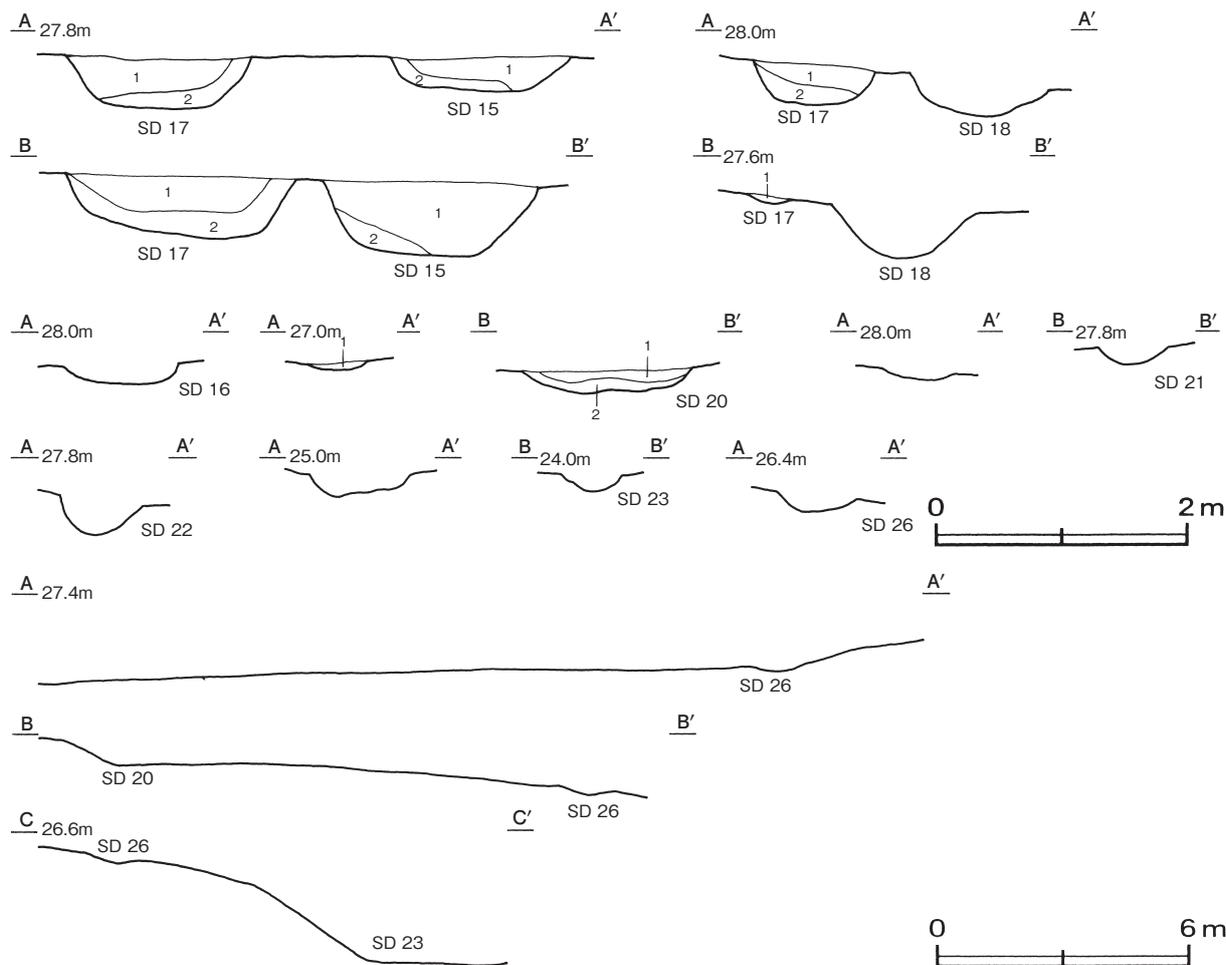
覆土 2層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

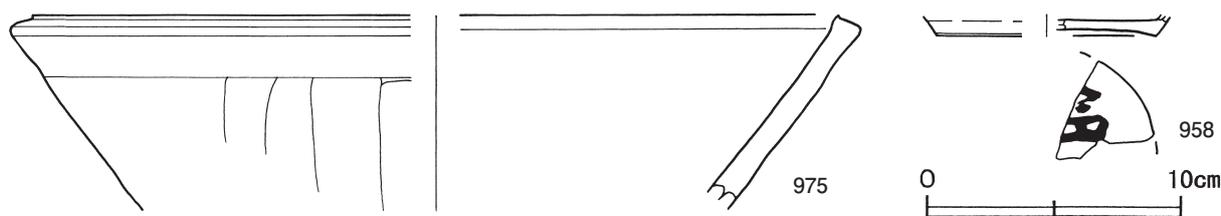
1 暗褐色 ロームブロック微量 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 覆土中から陶器片4点（瀬戸・美濃鉄釉天目茶碗・灰釉水注・灰釉筒形香炉，常滑甕）が出土しているが，いずれも細片で図示できない。そのほかにも，混入あるいは流入したと思われる土師器片38点，須恵器片2点が出土している。

所見 本跡は，南及び東側の段切状遺構の下場に伴う溝で，北端で垂直に交わる第26号溝と機能的に関連する区画溝と思われる。時期は出土遺物や重複関係から中世後半から近世前半と考えられる。



第446図 第15～18・20～23・26号溝跡実測図



第447図 第17・25号溝跡出土遺物実測図

第17・25号溝跡出土遺物観察表 (第447図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
975	陶器	片口鉢	[32.0]	(7.7)	-	長石	にぶい赤褐	良好	粘土紐巻き上げ成形 口縁端部上へ突出する 口縁部横ナデ 縦位のヘラ削り 内面ナデ	覆土中	10% PL59 常滑6b型式磁石転用
958	陶器	碗	-	(0.9)	[8.8]	緻密	釉灰白・にぶい赤褐・胎土暗褐	良好	内面糠白釉・鉄釉を施釉 へラ削り 削り出し高台 底部回転	覆土中	10% PL61 笠間・益子 底部外面墨書「邑」カ

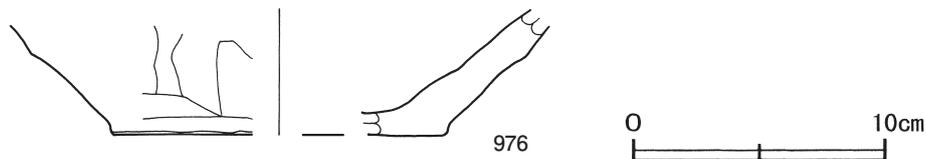
表26 溝跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)						
15	B 2j7 ~ C 3f8	N - 63° - W	ほぼ直線	(48.4)	0.9 ~ 2.0	0.7 ~ 1.5	20 ~ 60	U字状	緩斜	自然	土師質土器・陶器・磁器・鉄滓	中世後半 ~ 近世前半	S162・65・67・73・78・79・86・88, TP1・SD16 → 本跡 → SK421
16	C 3d3 ~ C 3f2	N - 27° - E	ほぼ直線	(10.2)	0.7 ~ 1.0	0.4 ~ 0.7	24 ~ 30	浅いU字状	緩斜	自然		中世・近世	S171・86・90・102 → 本跡 → SD15, SK411

遺構番号	位置	主軸方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)						
17	C 2a6 ~ C 3h6	N - 32° - E N - 68° - W	L字形	(11.4) (50.5)	0.4 ~ 2.3	0.2 ~ 1.3	30 ~ 50	U字状	緩斜	自然	陶器・鉄滓	中世後半 ~ 近世前半	SI65・67・69・73・74・ 77・79・82・86・88・89 →本跡→SK394・405 ~410・412・414~421
18	C 3e9 ~ C 3i6	N - 31° - E	ほぼ直線	(21.4)	0.9 ~ 1.8	0.4 ~ 0.8	14 ~ 32	浅いU 字状	緩斜	自然	陶器	中世・ 近世	SI69, SD19→本跡
19	C 3e9 ~ C 3i6	N - 41° - E	ほぼ直線	(13.5)	0.7 ~ 1.3	0.2 ~ 0.5	24 ~ 44	浅いU 字状	緩斜	自然		中世・ 近世	SI69→本跡→SD18
20	D 4a1 ~ C 4j8	N - 36° - E N - 121° - E N - 45° - E	L字形	9.5 19.0 7.7	0.4 ~ 1.4	0.2 ~ 1.0	8 ~ 18	浅いU 字状	緩斜	自然	陶器	中世後半 ~ 近世前半	SI95→本跡
21	D 4b6 ~ D 4b9	N - 148° - W N - 60° - W N - 22° - E	コの字状	7.3 8.4 3.0	0.5 ~ 0.7	0.1 ~ 0.4	8 ~ 14	浅いU 字状	緩斜	自然		中世・ 近世	SI107, HG4, 段 切状遺構→本跡
22	D 4b9 ~ D 5c2	N - 35° - W	ほぼ直線	13.0	0.5 ~ 1.1	0.3 ~ 0.5	24 ~ 28	浅いU 字状	緩斜	自然		中世・ 近世	HG4→本跡
23	C 4f4 ~ D 5a3	N - 58° - W	ほぼ直線	(40.0)	0.4 ~ 0.8	0.1 ~ 0.4	14 ~ 18	浅いU 字状	緩斜	自然		中世・ 近世	HG4→本跡
24	D 4d5 ~ D 4f7	N - 59° - W	ほぼ直線	(9.7)	(1.0)	(0.9)	22 ~ 28	-	緩斜	自然		近世	SI93・94→本跡
25	D 4h0 ~ D 5j1	N - 2° - E N - 65° - W	L字形	(4.1) (3.6)	(1.4)	0.5 ~ 0.8	36 ~ 40	-	緩斜	自然	陶器	近世	SI108→本跡
26	D 4h5 ~ D 5b2	N - 58° - W	ほぼ直線	(35.5)	0.4 ~ 0.8	0.2 ~ 0.3	20 ~ 28	浅いU 字状	緩斜	自然		中世・ 近世	SI109, HG4, 段 切状遺構→本跡

(2) 遺構外出土遺物 (第448図)

今回の調査で、表土層等から遺構に伴わない中世・近世の遺物が出土している。ここでは、陶器など特徴的な遺物について、実測図及び遺物観察表で掲載する。



第448図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第448図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
976	陶器	片口鉢	-	(5.0)	[13.2]	長石	にぶい橙	良好	粘土紐巻き上げ成形 体部外面縦 位のヘラ削り 内面ナデ 断面磨れ	D 4区表土	10% 常滑 PL59 砥石転用

6 その他の遺構

Ⅲ区の時期不明の遺構は、竪穴住居跡2軒、土坑35基である。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第100号住居跡 (第449図)

位置 調査Ⅲ区南東部のD 4e9区、標高28.0mの台地に位置している。

規模と形状 長軸2.92m、短軸2.58mの長方形である。主軸方向はN-17°-Wである。壁高は2~4cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部と北西部の一部が踏み固められている。壁下には幅18~30cm、深さ6~12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

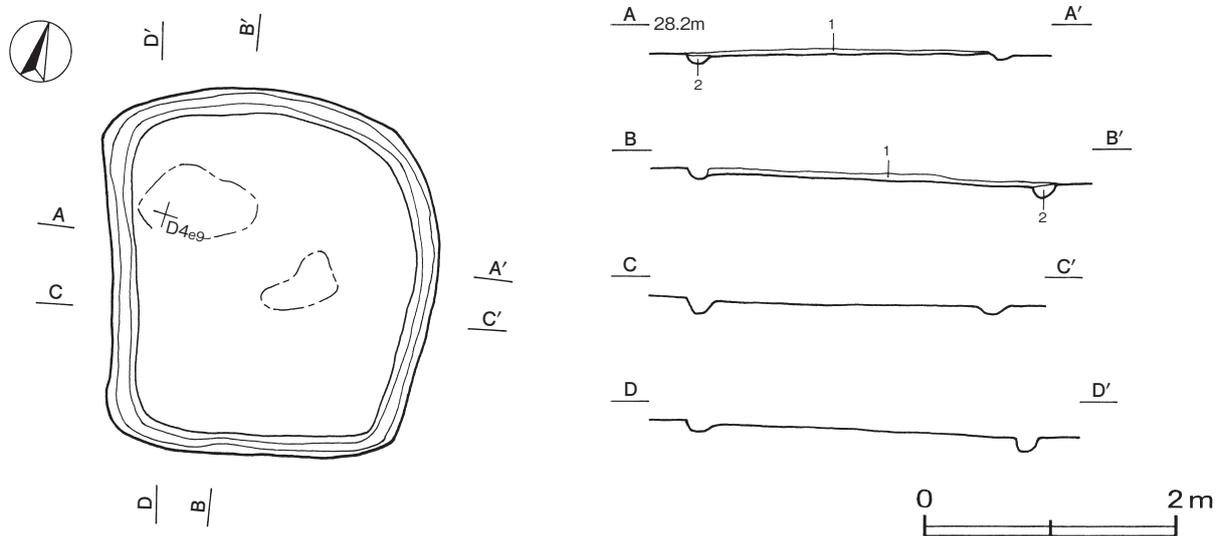
覆土 2層である。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

所見 炉・竈などの内部施設や出土遺物が確認されないため, 時期は不明である。



第449図 第100号住居跡実測図

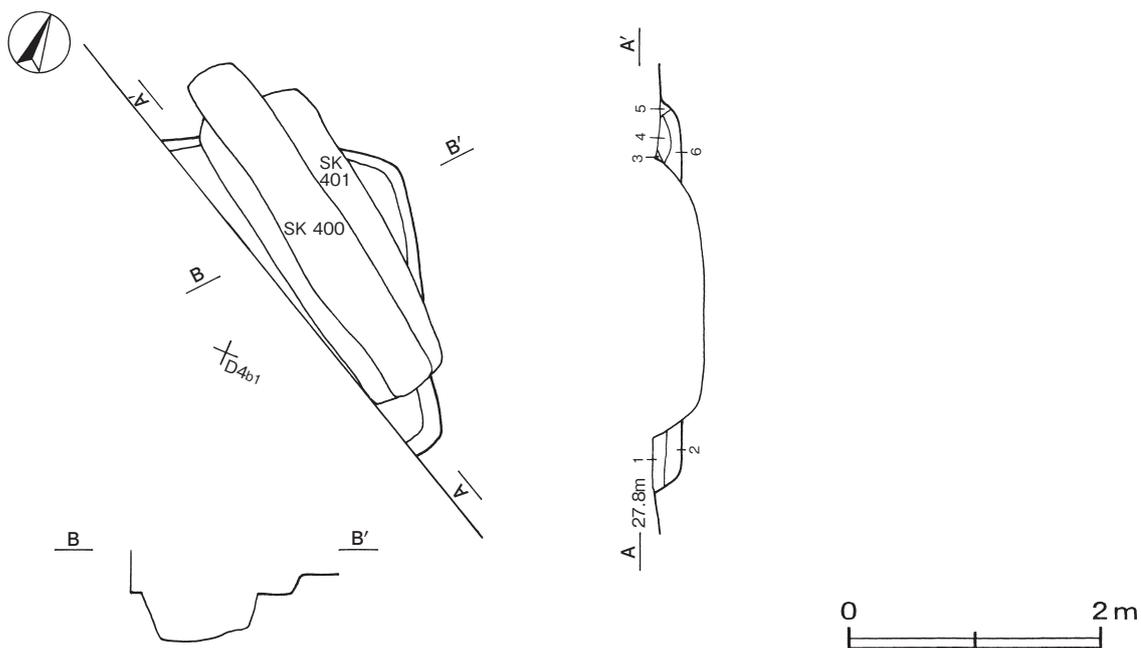
第103号住居跡 (第450図)

位置 調査Ⅲ区中央部のD 3 a0区, 標高27.7mの台地に位置している。

重複関係 第400・401号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外に伸びているため, 確認できた規模は南北軸2.32m, 東西軸1.72mの方形または長方形と推測される。主軸方向はN-30°-Wである。壁高は14~25cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 中央部が他の遺構によって掘り込まれているため, 床面の状況は不明である。



第450図 第103号住居跡実測図

覆土 6層に分けられる。ロームブロックを含み、焼土粒子や炭化粒子の混入した不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック微量 |

所見 炉・竈などの内部施設や出土遺物が確認されていないため、時期は不明である。

表27 住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)			主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
100	D4e9	N-17°-W	長方形	2.92×2.58	2~4	平坦	全周	-	-	-	-	-	不明	-	不明	
103	D3a0	N-30°-W	[方形・長方形]	2.32×(1.72)	14~25	不明	-	-	-	-	-	-	人為	-	不明	本跡→SK400・401

(2) 土坑

第391号土坑 (第451図)

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 g3区, 標高27.7mの台地に位置している。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、確認できた規模は北東径1.56m, 北西~南東径1.16mで長径方向はN-55°-Wの楕円形と推測される。深さ20cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分けられる。ロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 3 褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |

遺物出土状況 覆土中から土師器片1点(甕類)が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 時期は不明である。

第392号土坑 (第451図)

位置 調査Ⅲ区北西部のC 2 c8区, 標高27.8mの台地に位置している。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、確認できた規模は東南軸1.78m, 南北軸1.00mで長軸方向がN-1°-Wの方形または長方形と推測され、深さ20cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 4層に分けられる。ロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

所見 時期は、遺物の出土もないため不明である。

第393号土坑 (第451図)

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 g4区, 標高27.9mの台地に位置している。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、確認できた規模は北西~南東径1.54m, 北東~南西径1.18mで主軸方向がN-55°-Wの楕円形と推測され、深さ34cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分けられる。ロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | | |

所見 時期は, 遺物の出土もないため不明である。

第394号土坑 (第451図)

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 e6区, 標高27.1mの台地に位置している。

重複関係 第82・88号住居跡, 第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.48m, 短径0.60mの長楕円形で, 深さ28cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 長径方向はN-25°-Eである。

覆土 単一層である。堆積覆土の含有物の粒子は細かいが, 層厚が厚いことなどから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 |
|-------|-----------|

遺物出土状況 覆土中から土師器片11点(甕類)が出土しているが, 細片のため図示できない。

所見 時期は不明である。

第395号土坑 (第451図)

位置 調査Ⅲ区南部のD 4 j0区, 標高28.3mの台地に位置している。

規模と形状 長径0.60m, 短径0.56mの円形で, 深さは20cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。含有物は粒子が細かく, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |
|-------|-----------|-------|-----------|

遺物出土状況 覆土中から焼土塊は出土したが, 遺物は確認されなかった。

所見 時期は, 出土遺物もないことから不明である。

第396号土坑 (第451図)

位置 調査Ⅲ区南部のD 4 j0区, 標高28.1mの台地に位置している。

規模と形状 長径0.72m, 短径0.38mの楕円形で, 深さは24cmである。底面は皿状で, 壁は緩斜して立ち上がり, 長軸方向はN-35°-Wである。

覆土 2層に分けられる。含有物は粒子が細かく, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子微量 |
|-------|-----------|-------|---------|

所見 時期は, 出土遺物もないことから不明である。

第397号土坑 (第451図)

位置 調査Ⅲ区南部のD 4 i0区, 標高28.3mの台地に位置している。

規模と形状 長軸1.34m, 短軸0.84mの隅丸長方形で, 深さは24cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち

上がり、長軸方向はN-25°-Eである。

覆土 3層に分けられる。含有物にブロック状のものが多くことから、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 覆土中から土師器片21点（坏類6，甕類15），須恵器片2点（坏類）が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 時期は不明である。

第398号土坑（第451図）

位置 調査Ⅲ区南部のD 4 i0区，標高28.3mの台地に位置している。

規模と形状 長軸1.22m，短軸0.82mの隅丸長方形で，深さは61cmである。底面は平坦で，壁は東壁に段を有し，西壁は直立している。長軸方向はN-36°-Eである。

覆土 3層に分けられる。含有物にブロック状のものが多くことから，人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 覆土中から土師器片17点（坏類1，甕類16），須恵器片1点（坏類），縄文土器片1点（鉢類）が出土している。これらは細片のため図示できない。

所見 時期は不明である。

第399号土坑（第451図）

位置 調査Ⅲ区南部のD 4 i0区，標高28.3mの台地に位置している。

重複関係 第108号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.04m，短径0.84mの楕円形で，底面は平坦である。深さは35cmで，壁は外傾して立ち上がり，長径方向はN-16°-Eである。

覆土 2層に分けられる。含有物の粒子は細かいが，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
|-------|-----------|-------|--------------|

遺物出土状況 覆土中層から土師器片6点（甕類），須恵器片1点（坏類）が出土している。これらは細片のため図示できない。

所見 時期は不明である。

第400号土坑（第451図）

位置 調査Ⅲ区中央部のD 4 a1区，標高27.7mの台地に位置している。

重複関係 第103・104号住居跡，第401号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.06m，短軸0.49mの長方形で，深さは40cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-54°-Wである。

遺物出土状況 覆土中から土師器片3点（甕類）が出土しているが，細片のため図示できない。

所見 時期は不明である。

第401号土坑（第451図）

位置 調査Ⅲ区中央部のD 4 a1区，標高27.7mの台地に位置している。

重複関係 第103・104号住居跡を掘り込み，第400号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.66m，短軸0.94mの長方形で，深さは36cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-52°-Wである。

覆土 5層に分けられる。含有物にブロック状のものが多くことから，人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

所見 時期は不明である。

第404号土坑（第451図）

位置 調査Ⅲ区南部のD 4 i0区，標高28.2mの台地に位置している。

規模と形状 長径1.42m，短径1.20mの楕円形で，深さは34cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長径方向はN-50°-Wである。

遺物出土状況 覆土上層から土師器片5点（高坏1，甕類4），縄文土器片1点（鉢類）が出土しているが，細片のため図示できなかった。

所見 時期は不明である。

第405号土坑（第451図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 2 a8区，標高27.4mの台地に位置している。

重複関係 第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.48m，短径0.86mの楕円形で，深さは20cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長径方向はN-69°-Wである。

覆土 2層に分けられる。含有物は粒子が細かく，レンズ状の堆積である自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子中量 |
|-------|-----------|-------|---------|

所見 時期は不明である。

第406号土坑（第451図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 2 a9区，標高27.6mの台地に位置している。

重複関係 第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.50m，短軸0.64mの隅丸長方形で，深さは16cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-26°-Eである。

覆土 単一層である。含有物の粒子は細かいが，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-------|-----------------------|

所見 時期は不明である。

第407号土坑（第451図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 2 b0区，標高27.7mの台地に位置している。

重複関係 第73号住居跡，第17号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.28m，短径0.68mの楕円形で，深さは50cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN - 76° - Wである。

覆土 単一層である。含有物の粒子は細かいが，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

所見 時期は不明である。

第408号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 c2区，標高27.8mの台地に位置している。

重複関係 第84号住居跡，第17号溝跡を掘り込み，第409号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.60m，短軸0.90mの長方形で，深さは34cmである。底面は平坦で，壁は直立している。長軸方向はN - 36° - Eである。

覆土 単一層である。含有物の粒子は細かいが，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

所見 時期は不明である。

第409号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 c2区，標高27.8mの台地に位置している。

重複関係 第84号住居跡，第17号溝跡，第408号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.04m，短軸0.80mの長方形で，深さは50cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長軸方向はN - 30° - Eである。

所見 時期は不明である。

第410号土坑（第451図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 c3区，標高27.4mの台地に位置している。

重複関係 第79・84号住居跡，第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.34m，短軸0.68mの長方形で，深さは72cmある。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN - 29° - Eである。

所見 時期は不明である。

第411号土坑（第451図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 d3区，標高27.6mの台地に位置している。

重複関係 第84号住居跡，第16号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.09m, 短軸0.58mの長方形で, 深さは26cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-43°-Wである。

覆土 単一層である。含有物の粒子は細かいが, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 覆土中から土師器片1点(甕)が出土しているが, 細片のため図示できない。

所見 時期は不明である。

第412号土坑 (第452図)

位置 調査Ⅲ区中央部のC3d4区, 標高27.1mの台地に位置している。

重複関係 第79・86号住居跡, 第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.64m, 短軸0.50mの長方形で, 深さは40cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-31°-Eである。

覆土 3層に分けられる。含有物の粒子は細かいが, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量

2 褐色 ロームブロック中量

所見 時期は不明である。

第413号土坑 (第452図)

位置 調査Ⅲ区北西部のC3d4区, 標高27.3mの台地に位置している。

重複関係 第86・89号住居跡, 第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.80m, 短軸0.44mの長方形で, 深さは18cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 長軸方向はN-34°-Eである。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックが含有することや, 堆積状況から人為堆積と考える。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック中量

所見 時期は不明である。

第414号土坑 (第452図)

位置 調査Ⅲ区北西部のC3d4区, 標高27.3mの台地に位置している。

重複関係 第86・89号住居跡, 第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.12m, 短軸0.64mの長方形で, 深さは36cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-30°-Eである。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックが含有することや, 堆積状況から人為堆積と考える。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 褐色 ローム粒子中量

所見 時期は不明である。

第415号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 e5区，標高27.4mの台地に位置している。

重複関係 第86・89号住居跡，第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.84m，短軸0.59mの長方形で，深さは24cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-34°-Eである。

所見 時期は不明である。

第416号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 e5区，標高27.2mの台地に位置している。

重複関係 第86号住居跡，第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.54m，短軸0.62mの長方形で，深さは26cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-64°-Wである。

所見 時期は不明である。

第417号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 e6区，標高27.1mの台地に位置している。

重複関係 第82号住居跡，第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.06m，短軸0.62mの長方形で，深さは8cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長軸方向はN-32°-Eである。

覆土 単一層である。含有物の粒子は細かいが，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 覆土中から土師器片2点（坏類，甕類），縄文土器片1点（鉢類）が出土しているが，細片のため図示できない。

所見 時期不明である。

第418号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 f6区，標高27.1mの台地に位置している。

重複関係 第82・88号住居跡，第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.97m，短軸0.60mの長方形で，深さは24cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-42°-Eである。

所見 時期は不明である。

第419号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 f7区，標高27.1mの台地に位置している。

重複関係 第74・88号住居跡，第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.36m，短軸0.63mの長方形で，深さは26cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-39°-Eである。

所見 時期は不明である。

第420号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 f7区，標高27.1mの台地に位置している。

重複関係 第74・88号住居跡，第17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.50m，短軸0.34mの長方形で，深さは8cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-29°-Eである。

覆土 単一層である。含有物の粒子は細かいが，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

所見 時期は不明である。

第421号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 f7区，標高27.0mの台地に位置している。

重複関係 第88号住居跡，第15・17号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.58m，短軸0.74mの長方形で，深さは28cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長軸方向はN-38°-Eである。

所見 時期は不明である。

第422号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区中央部のC 2 b6区，標高27.3mの台地に位置している。

規模と形状 長径0.64m，短径0.62mの円形で，深さは22cmである。底面は皿状で，壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。粒子が細かく，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック微量

所見 時期は不明である。

第423号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 2 b7区，標高27.3mの台地に位置している。

規模と形状 径0.62mの円形で，深さは33cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。粒子が細かく，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

所見 時期は不明である。

第424号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のB 2 j0区，標高27.5mの台地に位置している。

規模と形状 長径1.28m，短径1.02mの楕円形で，深さは24cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-52°-Eである。

覆土 2層に分けられる。粒子が細かく，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子微量

2 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 覆土中から土師器片11点（甕類）が出土しているが，細片のため，図示できない。

所見 時期は不明である。

第425号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のB 3 j1区，標高27.6mの台地に位置している。

規模と形状 長径1.02m，短径0.94mの円形で，深さは26cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。粒子が細かく，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 褐色 ロームブロック少量

所見 時期は不明である。

第426号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 c4区，標高27.5mの台地に位置している。

規模と形状 長径1.00m，短径0.92mの円形で，深さは19cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。粒子が細かく，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

2 褐色 ローム粒子中量

所見 時期は不明である。

第427号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区北西部のC 3 c4区，標高27.5mの台地に位置している。

規模と形状 長径0.76m，短径0.64mの楕円形で，深さは40cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-57°-Eである。

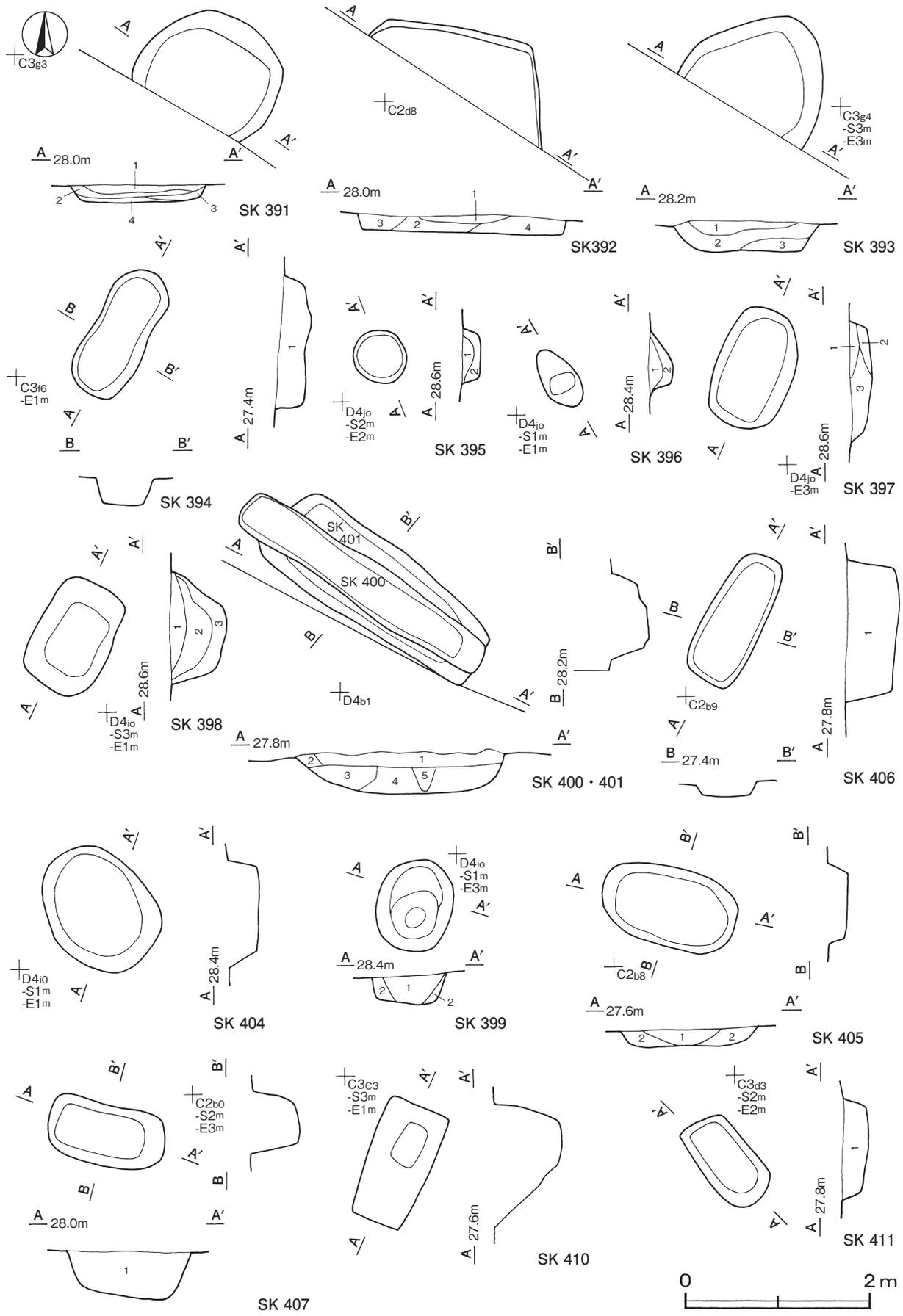
覆土 2層に分けられる。粒子が細かく，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

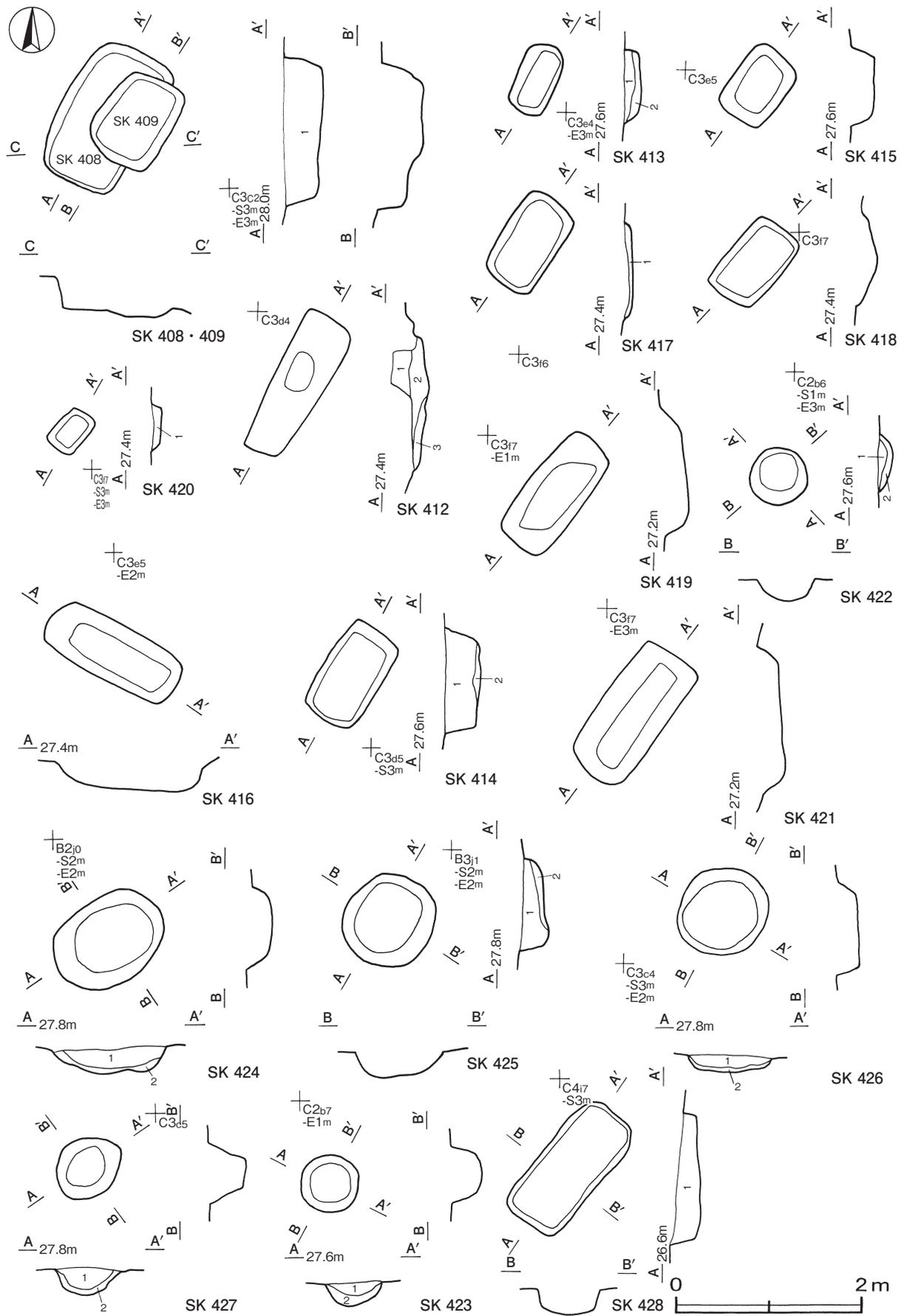
1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック微量

所見 時期は不明である。



第451图 土坑实测图(1)



第452图 土坑实测图(2)

第428号土坑（第452図）

位置 調査Ⅲ区中央部のC 4 i7区，標高26.5mの台地に位置している。

規模と形状 長軸1.50m，短軸0.68mの長方形で，深さは28cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-40°-Eである。

覆土 単一層である。含有物の粒子は細かいが，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 覆土中から土師器片4点（甕類）が出土しているが，細片のため図示できない。

所見 時期は不明である。

表28 土坑一覧表

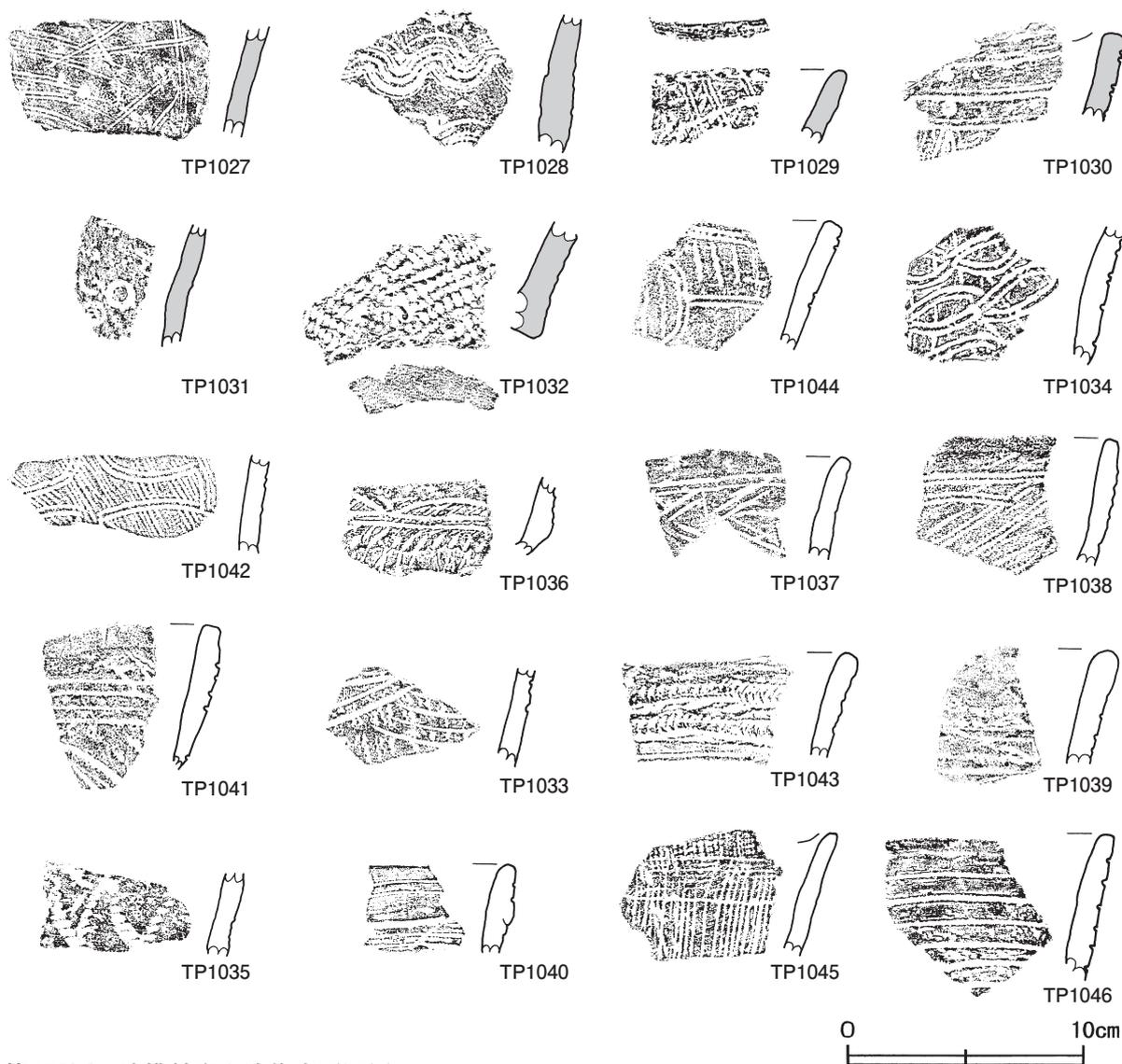
遺構番号	位置	長軸・長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
				長軸・長径×短軸・短径(m)	深さ (cm)						
391	C 3 g3	N-55°-W	[楕円形]	1.56×(1.16)	20	平坦	外傾	人為	土師器	不明	
392	C 2 c8	N-1°-W	[方形長方形]	1.78×(1.00)	20	平坦	直立	人為	-	不明	
393	C 3 g4	N-55°-W	[楕円形]	1.54×(1.18)	34	平坦	外傾	人為	-	不明	
394	C 3 e6	N-25°-E	長楕円形	1.48×0.60	28	平坦	外傾	人為	土師器	不明	SI82・88, SD17→本跡
395	D 4 j0	-	円形	0.60×0.56	20	平坦	外傾	自然	-	不明	
396	D 4 j0	N-35°-W	楕円形	0.72×0.38	24	皿状	緩斜	自然	-	不明	
397	D 4 i0	N-25°-E	隅丸長方形	1.34×0.84	24	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	不明	
398	D 4 i0	N-36°-E	隅丸長方形	1.22×0.82	61	平坦	有段	人為	土師器, 須恵器, 縄文土器	不明	
399	D 4 i0	N-16°-E	楕円形	1.04×0.84	35	平坦	外傾	人為	土師器・須恵器	不明	SI108→本跡
400	D 4 a1	N-54°-W	長方形	3.06×0.49	40	平坦	外傾	不明	土師器	不明	SI103・104, SK401→本跡
401	D 4 a1	N-52°-W	長方形	2.66×0.94	36	平坦	外傾	人為	-	不明	SI103・104, →本跡 →SK400
404	D 4 i0	N-50°-W	楕円形	1.42×1.20	34	平坦	外傾	不明	土師器・縄文土器	不明	
405	C 2 a8	N-69°-W	楕円形	1.48×0.86	20	平坦	外傾	自然	-	不明	SD17→本跡
406	C 2 a9	N-26°-E	隅丸長方形	1.50×0.64	16	平坦	外傾	人為	-	不明	SD17→本跡
407	C 2 b0	N-76°-W	楕円形	1.28×0.68	50	平坦	外傾	人為	-	不明	SI73, SD17→本跡
408	C 3 c2	N-36°-E	長方形	1.60×0.90	34	平坦	直立	人為	-	不明	SI84, SD17→本跡→SK409
409	C 3 c2	N-30°-E	長方形	1.04×0.80	50	平坦	外傾	人為	-	不明	SI84, SD17, SK408→本跡
410	C 3 c3	N-29°-E	長方形	1.34×0.68	72	皿状	外傾	人為	-	不明	SI79・84, SD17→本跡
411	C 3 d3	N-43°-W	長方形	1.09×0.58	26	平坦	外傾	人為	土師器	不明	SI84, SD16→本跡
412	C 3 d4	N-31°-E	長方形	1.64×0.50	40	平坦	外傾	人為	-	不明	SI79・86, SD17→本跡
413	C 3 d4	N-34°-E	長方形	0.80×0.44	18	平坦	外傾	人為	-	不明	SI86・89, SD17→本跡
414	C 3 d4	N-30°-E	長方形	1.12×0.64	36	平坦	外傾	人為	-	不明	SI86・89, SD17→本跡
415	C 3 e5	N-34°-E	長方形	0.84×0.59	24	平坦	外傾	不明	-	不明	SI86・89, SD17→本跡
416	C 3 e5	N-64°-W	長方形	1.54×0.62	26	平坦	外傾	不明	-	不明	SI86, SD17→本跡
417	C 3 e6	N-32°-E	長方形	1.06×0.62	8	平坦	外傾	人為	-	不明	SI82, SD17→本跡
418	C 3 f6	N-42°-E	長方形	0.97×0.60	24	皿状	外傾	不明	-	不明	SI82・88, SD17→本跡
419	C 3 f7	N-39°-E	長方形	1.36×0.63	26	平坦	外傾	不明	-	不明	SI74・88, SD17→本跡
420	C 3 f7	N-29°-E	長方形	0.50×0.34	8	平坦	外傾	人為	-	不明	SI74・88, SD17→本跡
421	C 3 f7	N-38°-E	長方形	1.58×0.74	28	平坦	外傾	不明	-	不明	SI88, SD15・17→本跡
422	C 2 b6	-	円形	0.64×0.62	22	皿状	緩斜	自然	-	不明	
423	C 2 b7	-	円形	0.62×0.62	33	皿状	外傾	自然	-	不明	
424	B 2 j0	N-52°-E	楕円形	1.28×1.02	24	平坦	外傾	自然	土師器	不明	

遺構番号	位置	長軸・長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
				長軸・長径×短軸・短径(m)	深さ (cm)						
425	B 3 j1	-	円形	1.02×0.94	26	平坦	外傾	自然	-	不明	
426	C 3 c4	-	円形	1.00×0.92	19	平坦	外傾	自然	-	不明	
427	C 3 c4	N - 57° - E	楕円形	0.76×0.64	40	平坦	外傾	自然	-	不明	
428	C 4 i7	N - 40° - E	長方形	1.50×0.68	28	平坦	外傾	人為	土師器	不明	

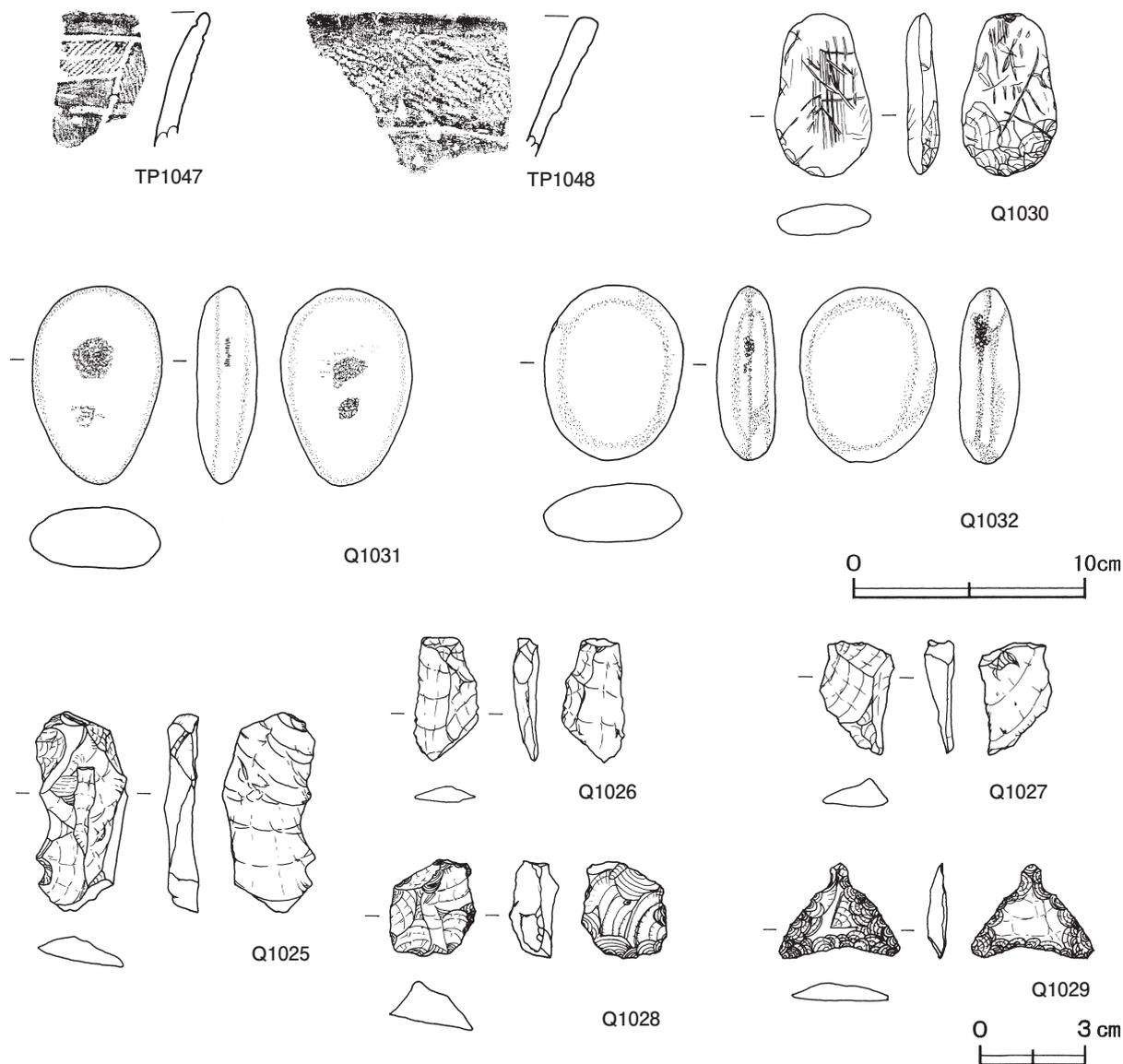
第6節 IV区の遺構と遺物

1 縄文時代の遺物

IV区では当時代の遺構は確認できなかったが、調査区内の標高27m以上の平坦地から遺物が出土している。以下、縄文時代の遺構外出土遺物について記述する。



第453図 遺構外出土遺物実測図(1)



第454図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第453・454図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1027	縄文土器	深鉢	石英・雲母	橙	普通	半截竹管による沈線文	SI-175 覆土中	前期前葉 PL98
TP1028	縄文土器	深鉢	砂粒・石英	にぶい黄	普通	半截竹管によるコンパス文	SI-175 覆土中	前期前葉 PL98
TP1029	縄文土器	深鉢	長石・雲母	褐	普通	半截竹管による刺突文・沈線文	SI-175 覆土中	前期前葉 PL98
TP1030	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	半截竹管による刺突文沈線文	SI-175 覆土中	前期前葉 PL98
TP1031	縄文土器	深鉢	石英・雲母	明赤褐	普通	円形竹管文	SI-178 覆土中	前期前葉 PL98
TP1032	縄文土器	深鉢	砂粒	橙	普通	単節縄文による縦位の羽状縄文	SI-174 覆土中	前期後葉 PL98
TP1033	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	貝殻腹縁文半截竹管による平行沈線文	SI-170 覆土中	前期後葉 PL98
TP1034	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	半截竹管による木の葉状文	表土	前期後葉 PL98
TP1035	縄文土器	深鉢	長石・雲母	灰黄褐	普通	貝殻腹縁連続波状文	SI-169 覆土中	前期後葉 PL98
TP1036	縄文土器	深鉢	細砂・長石・石英	にぶい褐	普通	地文撚糸文L 半截竹管による木の葉状文 隆帯状にキザミ	SI-176 覆土中	前期後葉 PL98
TP1037	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	羽状の沈線文	SD-46 覆土中	前期後葉 PL98
TP1038	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文撚糸文L 半截竹管による平行沈線文	SI-170 覆土中	前期後葉 PL98
TP1039	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	爪形文 沈線文	SI-186 覆土中	前期後葉 PL98
TP1040	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	沈線文	SI-170 覆土中	前期後葉 PL98

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1041	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	貝殻腹縁文半截竹管による平行沈線文	SI-169 覆土中	前期後葉 PL98
TP1042	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	地文捺糸文半截竹管による木の葉状文	SI-171 覆土中	前期後葉 PL98
TP1043	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	横位の爪形文沈線文	SI-167 覆土中	前期後葉 PL98
TP1044	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	横位の爪形文貝殻腹縁文半截竹管による平行沈線文	SI-187 覆土中	前期後葉 PL98
TP1045	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	貝殻圧痕文縦位の平行沈線文	SI-187 覆土中	前期後葉 PL98
TP1046	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	横位の縄文	表土	後期 PL98
TP1047	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線区画内充填縄文	SI-169 覆土中	後期 PL98
TP1048	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	単節縄文R L	SI-170 覆土中	後期 PL98

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1028	搔器	2.8	2.4	1.4	9.3	黒曜石	離面側からの両面押圧剥離調整	SI-173 覆土中	二次加工 PL119
Q1029	石匙	2.7	3.5	0.6	3.5	流紋岩	両面押圧剥離 浅い基部の抉り	表面採集	PL119
Q1025	剥片	5.7	2.6	1.1	13.4	頁岩	平坦打面 上部からの剥離	SI-186 覆土中	二次加工 PL119
Q1026	剥片	3.6	1.9	0.7	3.8	安山岩	平坦打面 上部からの剥離	SI-171 覆土中	PL119
Q1027	剥片	3.3	2.2	0.8	3.5	黒曜石	平坦打面 上部からの剥離	表面採集	PL119
Q1030	打製石斧	7.0	4.0	1.3	55.3	緑色凝灰岩	扁平礫利用の片刃	SD-46 覆土中	PL119
Q1031	敲石	8.4	5.6	2.6	175.5	硬砂岩	両面・側面部敲打痕	SI-168 覆土中	
Q1032	敲石	7.5	5.9	2.5	170.1	石英	側面部使用痕	SI-175 覆土中	

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡9軒、土坑1基が確認されている。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴住居跡

第169号住居跡（第455・456図）

位置 調査Ⅳ区中央部のG 9 a3区、標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第168・187・189号住居、第21号掘立柱建物に掘り込まれている。第188号住居跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 南東コーナー部が調査区域外である。南北軸が7.54mで、東西軸は4.28mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は17～22cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されていたと推測され、火床部しか遺存していない。確認できた規模は、火床部手前から奥まで38cm、幅48cmである。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 3か所。P 1～P 3は深さ62～73cmで、主柱穴である。

ピット土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	5 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 灰 褐 色	ロームブロック中量	6 暗 褐 色	ロームブロック少量
3 灰 褐 色	ロームブロック少量	7 暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 灰 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量	8 暗 褐 色	ロームブロック中量

覆土 15層に分けられる。ロームブロックや焼土粒子を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

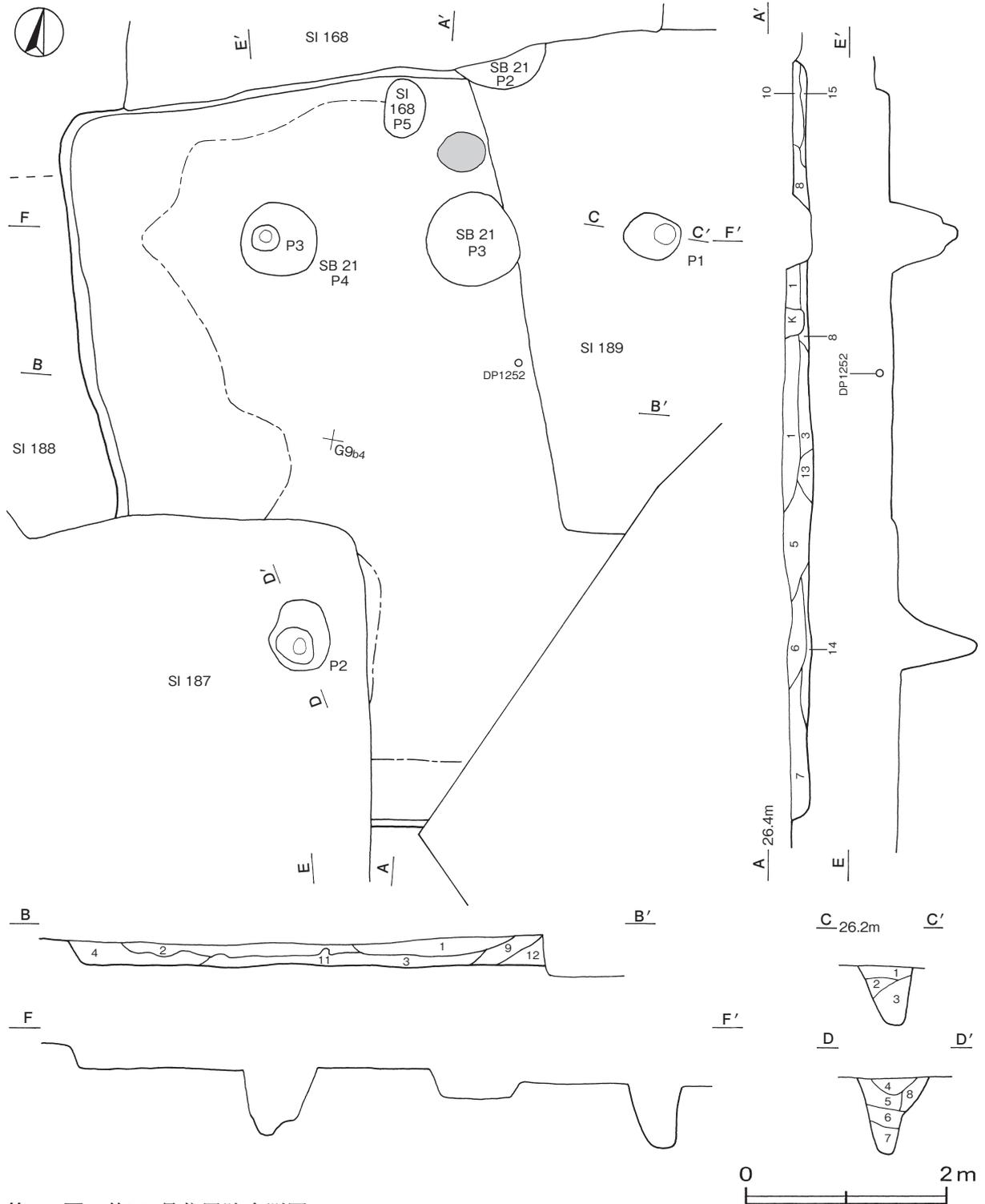
土層解説

1 灰 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2 灰 褐 色	ロームブロック少量	6 灰 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
3 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7 灰 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
4 暗 褐 色	ロームブロック少量	8 暗 褐 色	ロームブロック少量、砂粒微量

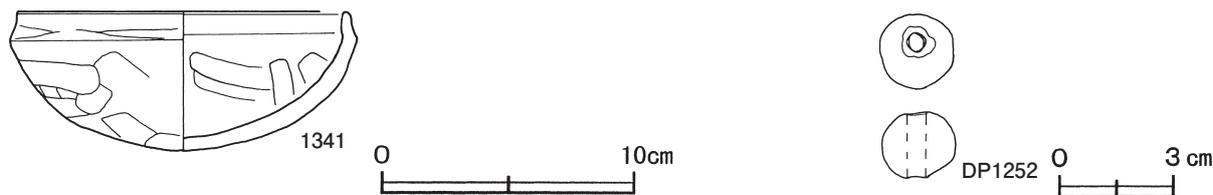
- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|------------------------|
| 9 褐色 | ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂粒少量, 粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子中量 | 14 褐色 | ロームブロック微量 |
| | | 15 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片648点(坏119・甕類529),土製品9点(球状土錘1・支脚片8),礫1点が出土している。遺物の大半は中央部の覆土上層から下層にかけて出土している。1341は覆土中, DP1252は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は,出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第455図 第169号住居跡実測図



第456図 第169号住居跡出土遺物実測図

第169号住居跡出土遺物観察表（第456図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1341	土師器	坏	12.8	5.7	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	80% PL104

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1252	球状土錘	2.0	1.7	0.5	5.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	

第170号住居跡（第457・458図）

位置 調査Ⅳ区中央部のF 8j0区、標高26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第171号住居跡を掘り込み、第714号土坑と第49号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外のため、確認できた規模は、南北軸6.84m、東西軸5.92mで、長方形または方形と推測される。主軸方向は不明である。壁高は12～25cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、壁際を除いて、踏み固められている。南壁の中央部に焼土塊、P 2脇に炭化材が確認されている。

焼土塊土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1 明赤褐色 焼土ブロック多量 | 3 にぶい褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 | 4 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |

ピット 5か所。P 1～P 3は深さ53～109cmで、主柱穴である。P 4とP 5は深さ32cm・22cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 | 9 灰褐色 ロームブロック中量 |
| 2 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 10 暗褐色 炭化材多量、ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量 | 11 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック微量 | 12 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量 | 13 極暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 14 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 15 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 8 灰褐色 ロームブロック少量 | |

覆土 16層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

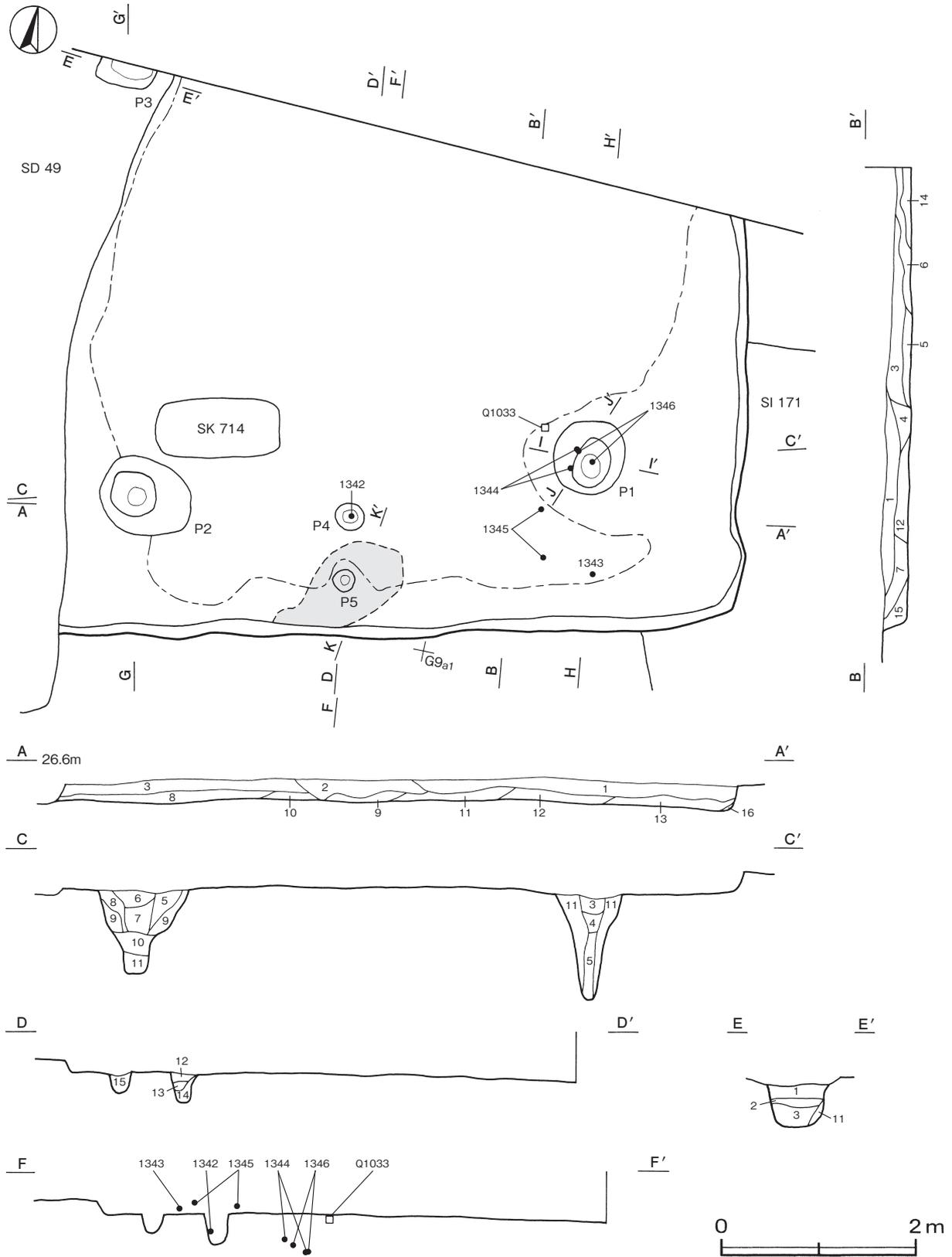
土層解説

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1 灰褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 9 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 10 灰褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 11 灰褐色 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量 |
| 4 灰褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 12 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量 |
| 5 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 13 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 | 14 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子少量 | 15 褐色 ローム粒子微量 |
| 8 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 灰褐色 ロームブロック少量 |

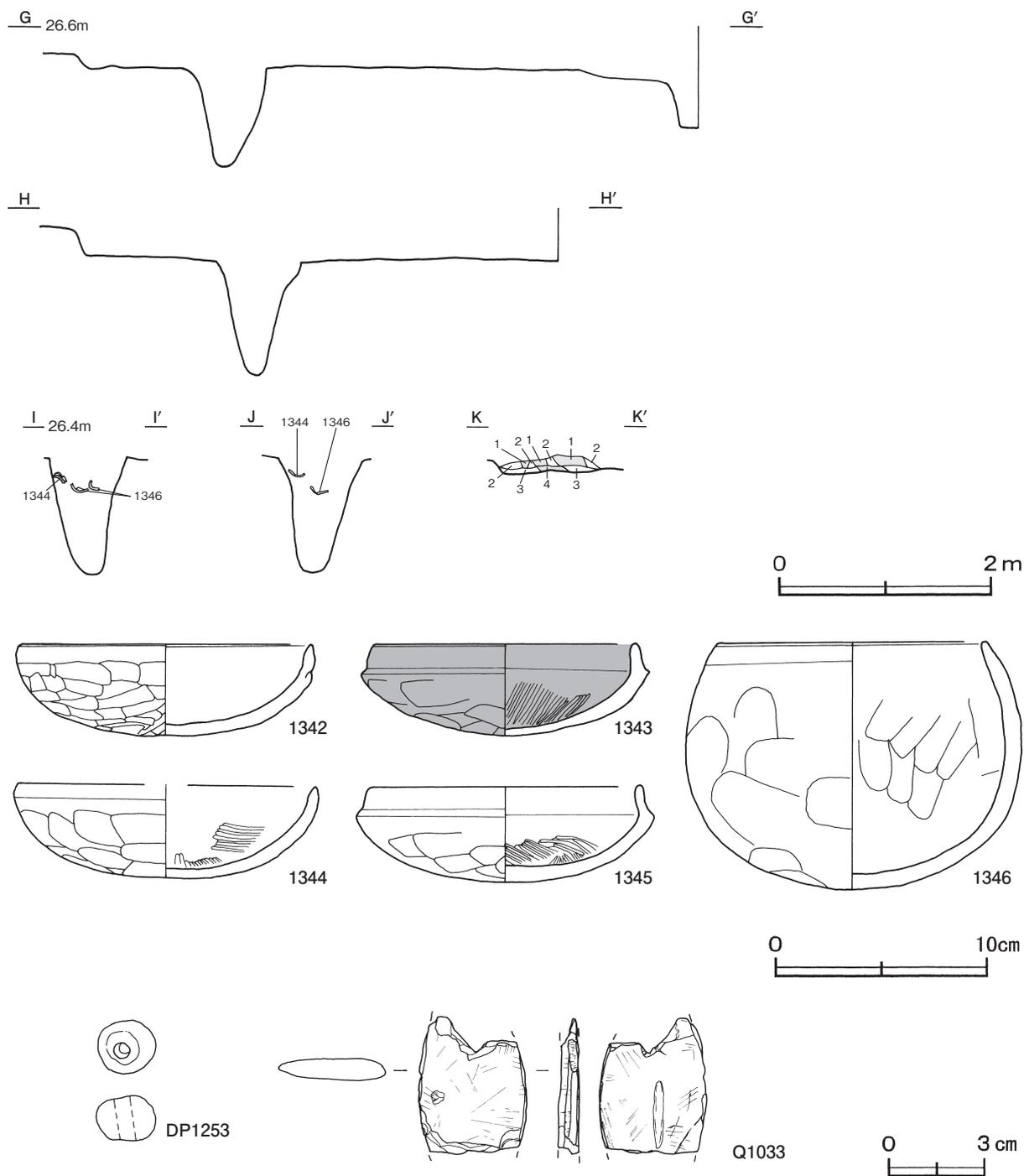
遺物出土状況 土師器片1300点（坏類136・甕類1164）、土製品27点（土玉1・球状土錘1・不明土製品25）、鉄滓4点が出土している。遺物の大半は中央部とピット周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。1342はP 4内の覆土中、1343は南東コーナー部の覆土中層、1344・1346はP 1の覆土中、1345は南東コーナー部の

覆土上層から中層にかけて、Q1033はP1脇の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 ピットの覆土や南壁際の焼土の堆積状況から、焼失住居と考えられる。時期は、出土土器や重複関係から6世紀末から7世紀初頭と考えられる。



第457図 第170号住居跡実測図



第458図 第170号住居跡・出土遺物実測図

第170号住居跡出土遺物観察表（第458図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1342	土師器	坏	13.6	4.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面ナデ	P 4 内	100% PL106
1343	土師器	坏	12.3	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	中層	100% PL106
1344	土師器	坏	[14.0]	4.5	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	P 1 内	90% PL106
1345	土師器	坏	12.8	4.0	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	上層～中層	80% PL106
1346	土師器	小形甕	12.7	11.7	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	P 1 内	70% PL106

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1253	土玉	1.8	1.4	0.6	4.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1254	球状土錘	3.4	3.2	(0.7)	(16.8)	粘土	ナデ 一部欠損	覆土中	計測のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1033	剣形模造品	(4.3)	3.4	0.7	(15.1)	滑石	先端部欠損 全面研磨	下層	PL119

第171号住居跡（第459・460図）

位置 調査Ⅳ区中央部のF 9j2区，標高26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第170号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.13m，短軸5.00mの方形で，主軸方向はN-24°-Wである。壁高は15～22cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで94cm，燃焼部幅46cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から1cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外には掘り込まず，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量，粘土粒子微量	8	褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量
2	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子少量，粘土粒子・砂粒微量	9	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・砂粒微量
3	暗褐色	ロームブロック少量，砂粒微量	10	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	11	暗褐色	砂粒少量，ロームブロック微量
5	にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック少量
6	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・砂粒少量	13	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	にぶい褐色	ロームブロック・砂粒少量，焼土粒子・粘土粒子微量	14	明褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，砂粒微量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ17～63cmで，支柱穴である。P 5は深さ64cmで，南東壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ローム粒子少量	5	暗褐色	ローム粒子少量
3	褐色	ロームブロック少量			

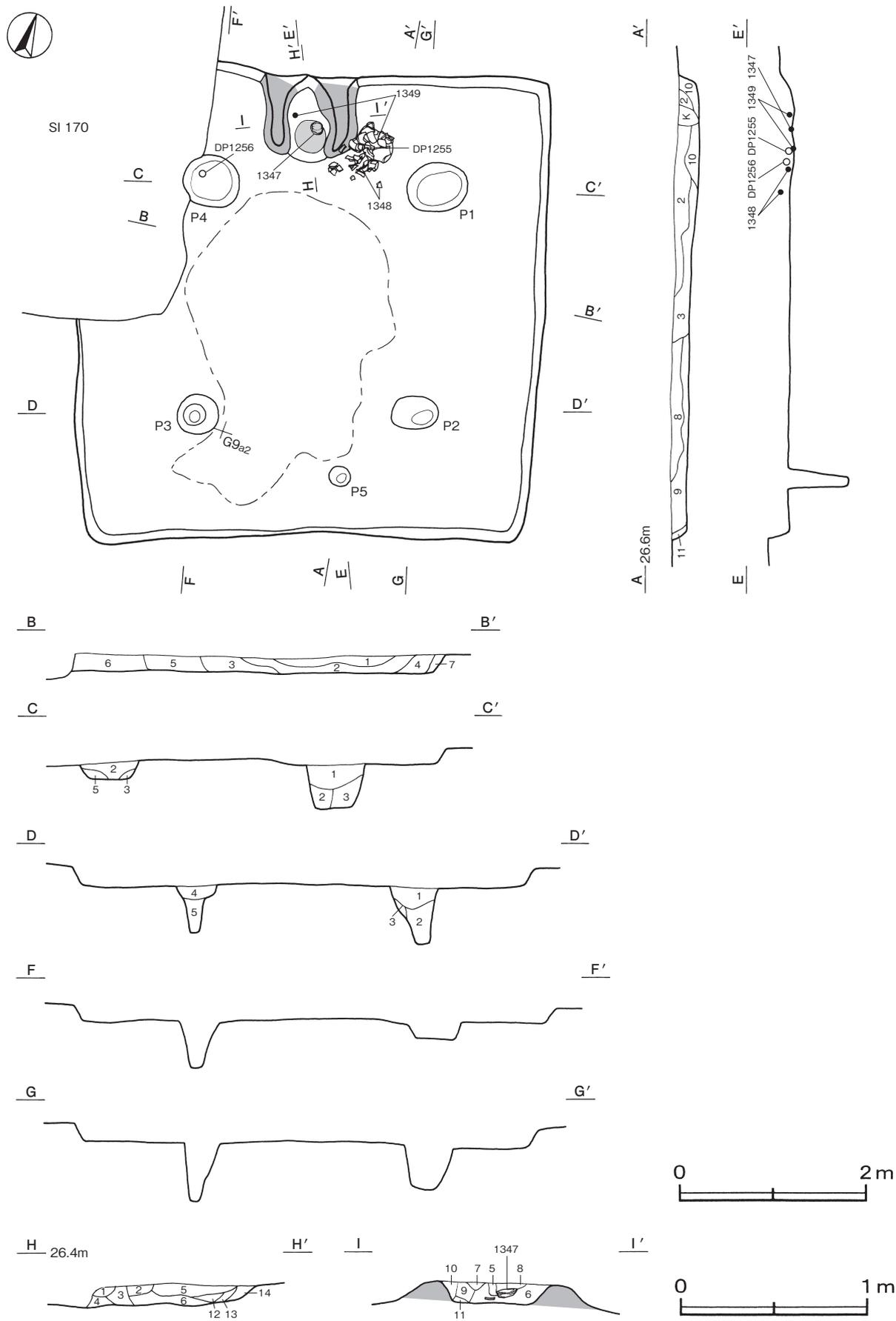
覆土 11層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

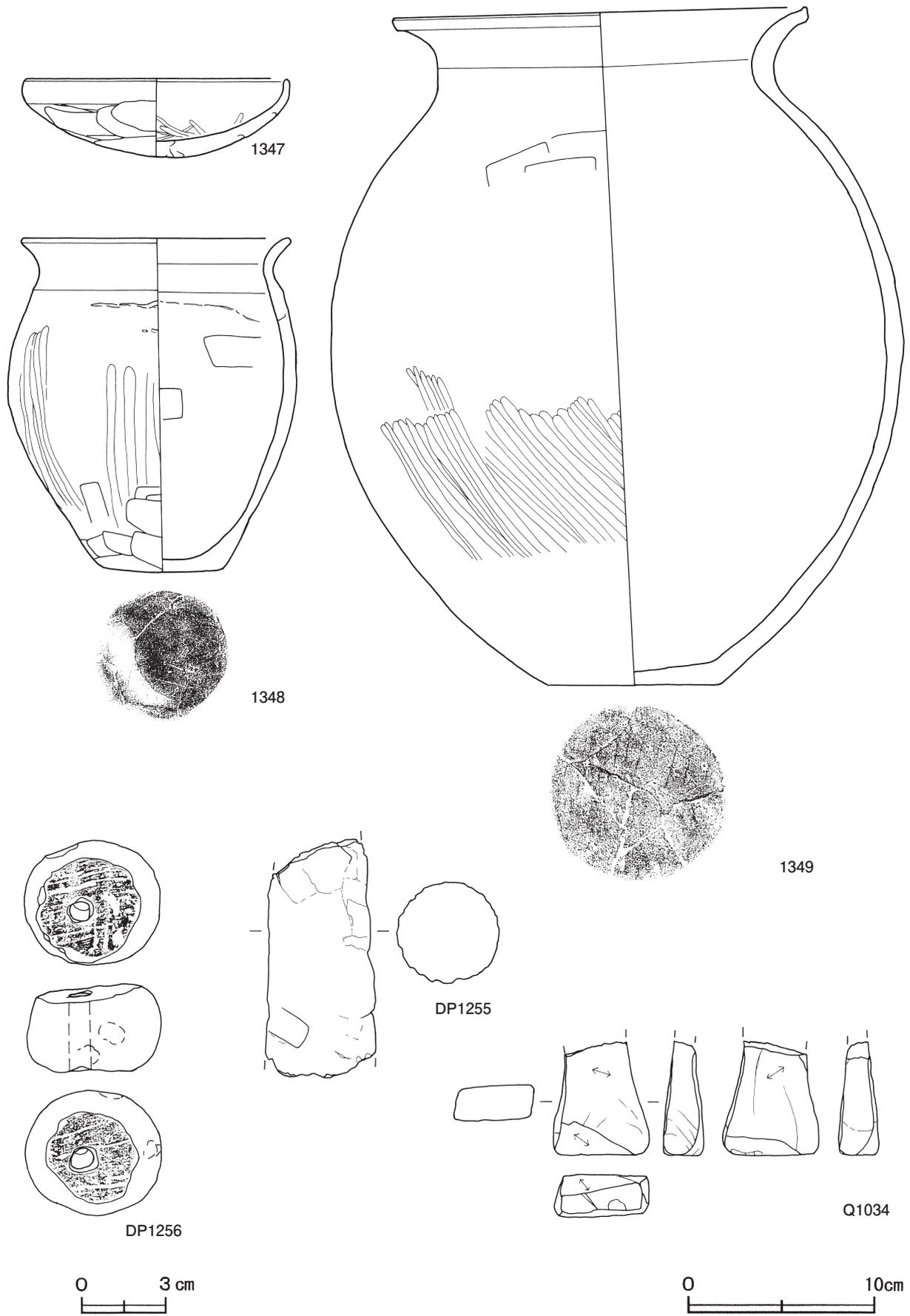
1	黒褐色	ロームブロック中量，砂粒微量	7	暗褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック少量，砂粒微量	8	暗褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量，粘土粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子少量
4	褐色	ロームブロック少量	10	灰褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量	11	暗褐色	ローム粒子中量
6	灰褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片215点（坏類50・甕類165），須恵器片1点（坏），石器1点（砥石），土製品2点（支脚片・紡錘車），磔1点が出土している。遺物の大半は竈周辺の覆土中層から下層にかけて出土している。1347は竈内，DP1255は竈右袖部の脇，DP1256はP 4直上の覆土下層からそれぞれ出土している。また，1349は竈右袖部脇の覆土下層と竈内から出土した破片が，1348は竈右袖部脇の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第459图 第171号住居跡实测图



第460図 第171号住居跡出土遺物実測図

第171号住居跡出土遺物観察表（第460図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1347	土師器	坏	13.9	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	竈内	100%
1348	土師器	小形甕	14.1	18.0	6.6	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 下位ヘラ削り 内面ヘラナデ	中層～下層	50% PL107
1349	土師器	甕	22.2	36.4	9.1	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面横位のヘラナデ 中位からヘラ磨き 内面ナデ	竈内・下層	90% PL106

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1255	支脚	(12.8)	6.0	5.3	(312.8)	粘土	ナデ 一部欠損	下層	

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1256	紡錘車	4.8	3.2	0.8	(76.8)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1034	砥石	(6.1)	5.1	2.2	(71.4)	凝灰岩	砥面3面	覆土中	

第174号住居跡（第461・462図）

位置 調査Ⅳ区東部のG 9 i2区，標高25.2mの台地斜面部に位置している。

規模と形状 斜面部のために，中央部から南部の壁と床が削平されている。東西軸は5.48mで，南北軸は4.54mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され，主軸方向はN-23°-Wである。壁高は10～12cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，北西コーナー部と北東コーナー部を除いて，踏み固められている。壁下には幅7～27cm，深さ4～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，燃焼部幅42cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から7cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量	9 灰褐色	粘土粒子・砂粒中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量	10 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・砂粒微量
3 灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量	11 褐灰色	炭化物少量，焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
4 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	12 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量	13 灰褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 灰黄褐色	ロームブロック少量，粘土ブロック・焼土粒子微量	14 極暗褐色	炭化物中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
7 にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量	15 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子少量
8 褐灰色	ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量		

ピット 深さ25cmで，南壁際の中央部に位置していると推測されることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	2 暗褐色	ロームブロック中量
		3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量

覆土 単一層である。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

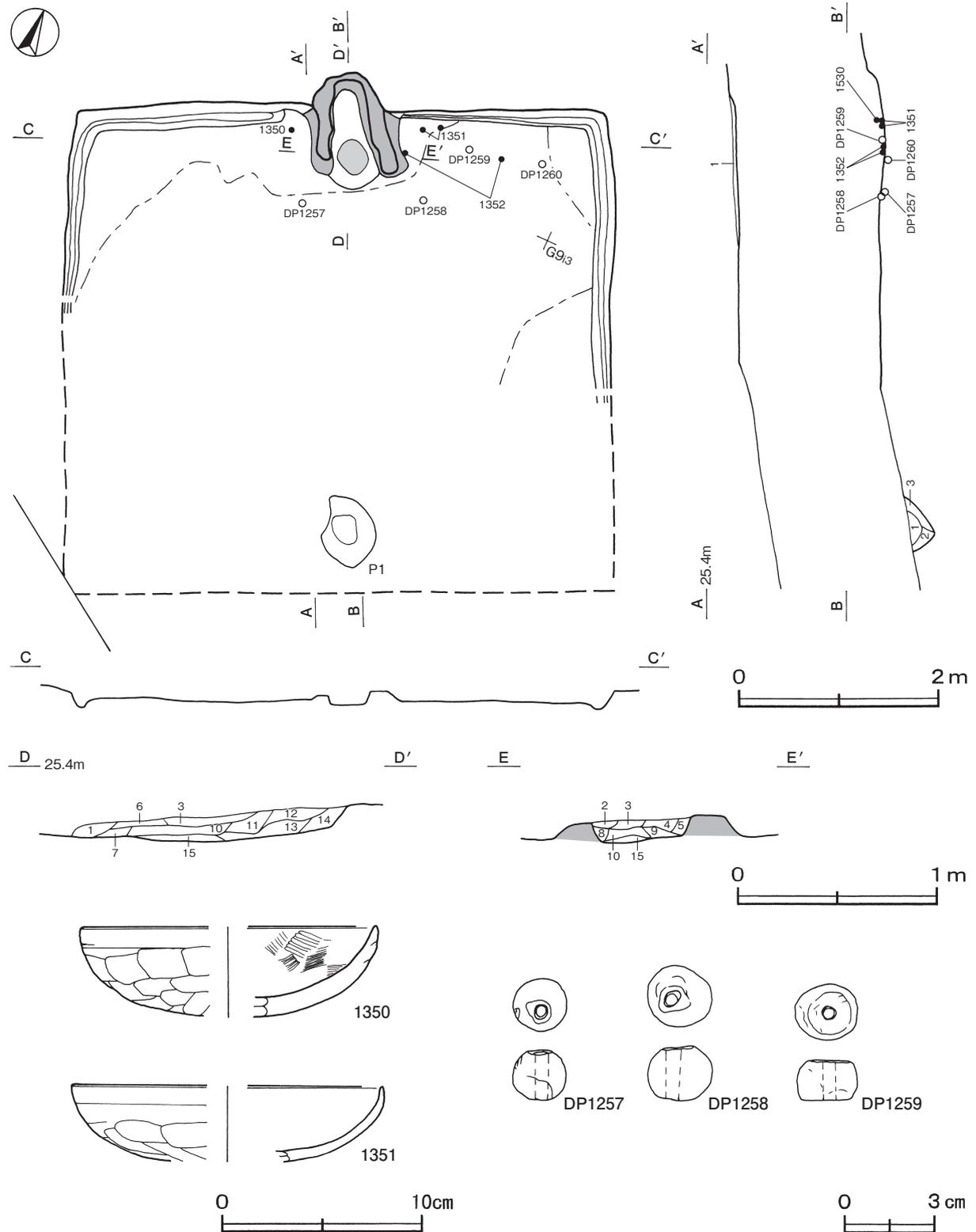
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量
-------	-----------

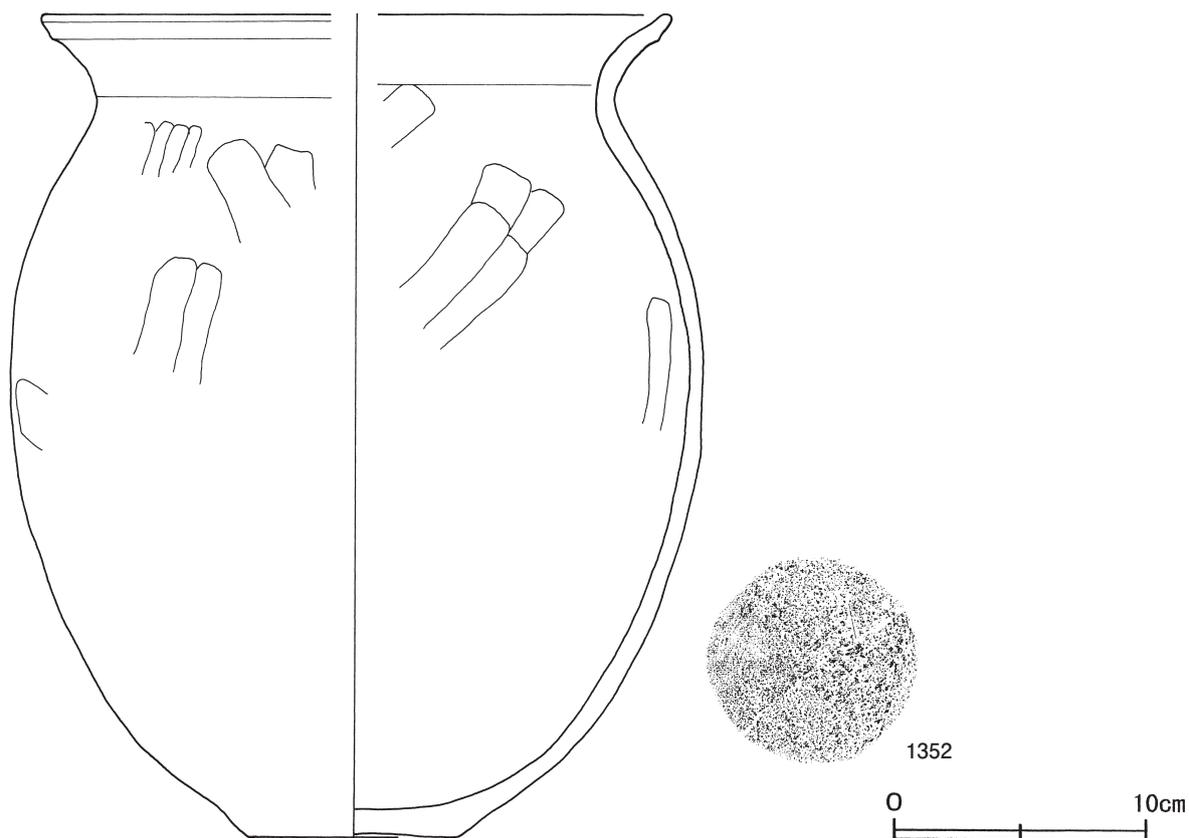
遺物出土状況 土師器片149点（坏38・甕類104・甗7），須恵器3点（甕），土製品6点（土玉1・球状土錘2・支脚片3）が出土している。遺物の大半は北東コーナー部の覆土下層から出土している。1350・DP1257は竈

の左袖部脇，1351・1352・DP1258・DP1259は竈の右袖部脇，DP1260は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀初頭と考えられる。



第461図 第174号住居跡・出土遺物実測図



第462図 第174号住居跡出土遺物実測図

第174号住居跡出土遺物観察表（第461・462図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1350	土師器	坏	[14.7]	(4.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	30%
1351	土師器	坏	[15.5]	(3.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	下層	20%
1352	土師器	甕	[24.8]	32.7	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	下層	40%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1257	土玉	1.8	1.7	0.5	(4.7)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	
DP1258	球状土錘	2.2	1.8	0.5	7.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1259	球状土錘	2.1	1.4	0.5	6.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1260	支脚	(7.2)	-	-	(41.6)	粘土	ナデ 一部欠損	下層	計測のみ

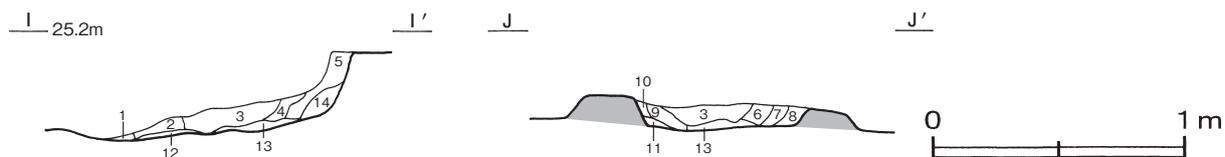
第175号住居跡（第463～467図）

位置 調査Ⅳ区東部のG 9 g5区、標高25.4mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第176号住居に掘り込まれている。

規模と形状 斜面部のために、南東部の壁と床が削平され、西コーナー部に攪乱を受けている。北東南西軸が7.05mで、北西南東軸は6.32mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され、主軸方向はN-46°-Eである。壁高は20～47cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、北コーナー部と西コーナー部を除いて、踏み固められている。



第464図 第175号住居跡実測図(2)

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cm、燃焼部幅60cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。第2～4・6～8・10・11層は天井部の崩落土である。火床部は床面から3cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に21cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐 灰 色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量	8 にぶい黄橙色	粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子微量
2 灰 褐 色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量	9 暗 赤 褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量
3 にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子微量	10 にぶい褐色	粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック微量	11 にぶい橙色	粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子微量
5 黒 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量	12 灰 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
6 灰 黄 褐色	粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック・焼土粒子微量	13 にぶい褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量
7 灰 黄 褐色	粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子微量	14 黒 褐 色	ロームブロック少量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ18～24cmで、支柱穴である。P 5は深さ16cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1 灰 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	5 にぶい褐色	ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
2 暗 褐 色	粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒 褐 色	ロームブロック微量
3 灰 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量	7 褐 灰 色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
4 褐 灰 色	ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量	8 にぶい褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量

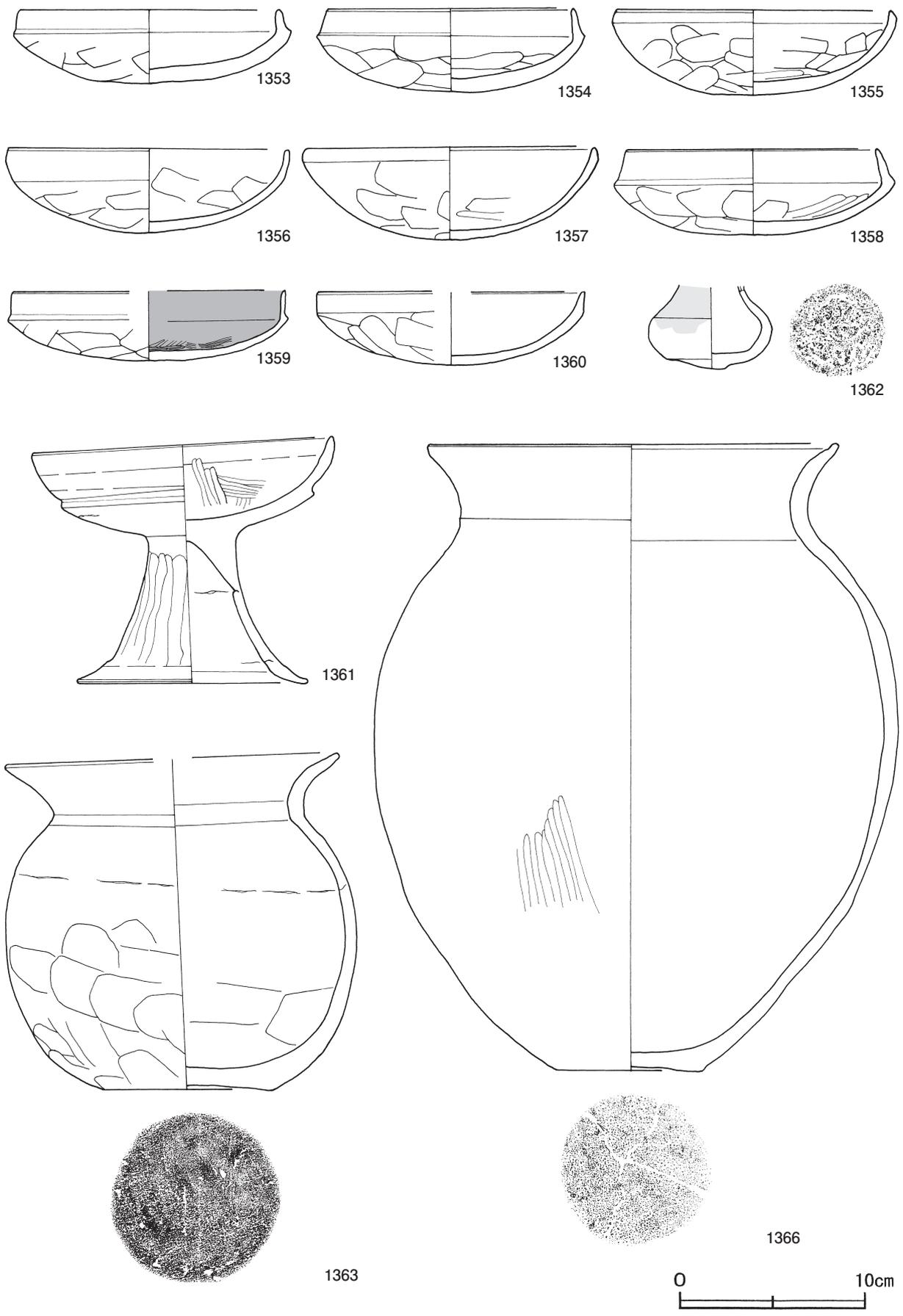
覆土 14層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

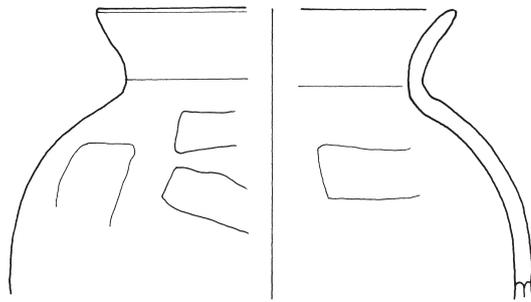
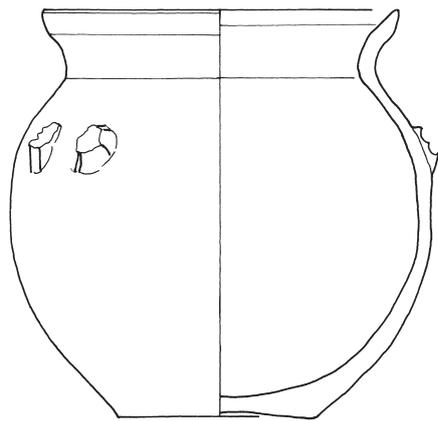
1 灰 褐 色	ロームブロック少量	9 にぶい黄褐色	粘土ブロック・炭化粒子・砂粒少量, ロームブロック・焼土粒子微量
2 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量, ロームブロック微量	10 にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子微量
3 褐 灰 色	ロームブロック・粘土ブロック少量	11 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
4 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	12 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
5 灰 黄 褐色	ロームブロック少量	13 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化材微量
6 灰 褐 色	粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量	14 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量, ロームブロック少量
7 にぶい褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		
8 にぶい褐色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片575点(坏145・甕類428・甑2), 須恵器片7点(坏3・蓋2・甕類2), 石器1点(砥石), 石製品1点(紡錘車), 土製品19点(土玉1・球状土錘5・支脚片2・不明土製品11), 礫3点が出土している。遺物の大半は中央部から竈周辺の覆土下層から出土している。1353・1355・1361・1364・DP1263は竈の左袖部脇, 1354は竈の手前, 1357・1362・1366は中央部, DP1262・DP1264・DP1265は北西壁寄り, DP1267は竈の右袖部脇の覆土下層からそれぞれ出土している。また, 1365は竈の右袖部脇と北コーナー部の覆土下層から出土した破片が, 1363は北西壁寄りと中央部の覆土上層, 覆土中から出土した破片が接合したものである。

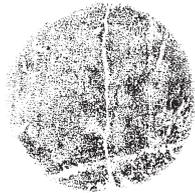
所見 時期は, 出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。



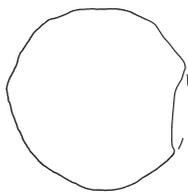
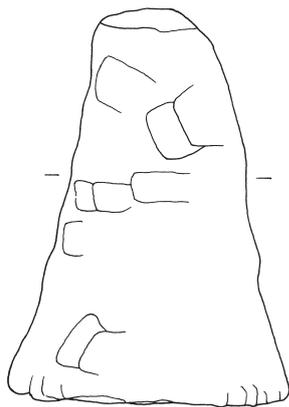
第465図 第175号住居跡出土遺物実測図(1)



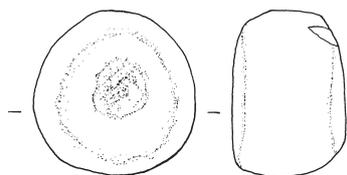
1367



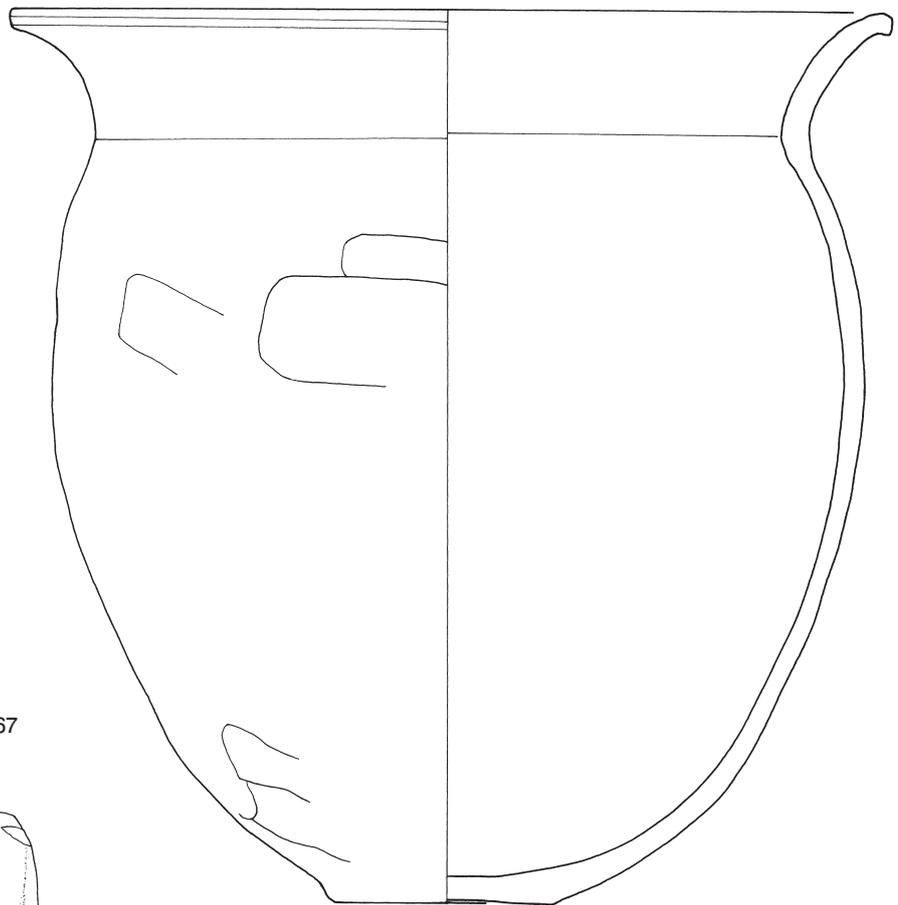
1364



DP1267



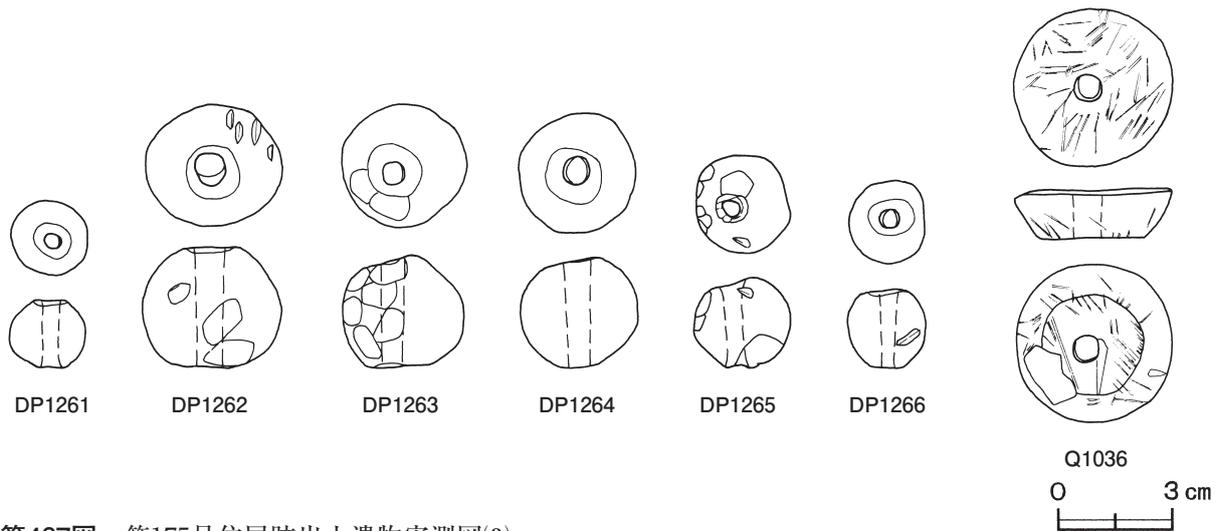
Q1035



1365



第466图 第175号住居跡出土遺物実測図(2)



第467図 第175号住居跡出土遺物実測図(3)

第175号住居跡出土遺物観察表 (第465 ~ 467図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1353	土師器	坏	13.8	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り	下層	100% PL107
1354	土師器	坏	13.1	4.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	100% PL107
1355	土師器	坏	14.8	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	70% PL107
1356	土師器	坏	14.9	4.5	-	長石・石英	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	70% PL107
1357	土師器	坏	15.4	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	60%
1358	土師器	坏	13.5	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	下層・覆土中	60%
1359	土師器	坏	[14.6]	3.9	-	長石・石英・金雲母・黒雲母	にぶい橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	60% PL107
1360	土師器	坏	[14.2]	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り	下層	40%
1361	土師器	高坏	16.0	13.2	12.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	坏部内面ヘラ磨き 脚部外面ヘラ削り 輪積痕	下層	90% PL108
1362	須恵器	小形壺	-	(4.5)	4.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り	下層	60%
1363	土師器	小形甕	[17.5]	18.3	9.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ 輪積痕	上層・覆土中	80% PL108
1367	土師器	小形甕	[13.9]	(11.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	下層	30%
1364	土師器	把手付小形甕	13.9	16.1	7.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ 耳部ヘラナデ 耳部1カ所	下層	70% PL107
1365	土師器	甕	34.1	35.4	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面上位ヘラナデ, 下位ヘラ削り	下層	90% PL107
1366	土師器	甕	21.9	34.0	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面中位ヘラ磨き	下層	80% PL106

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1261	土玉	2.0	1.8	0.5	7.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1262	球状土錘	3.6	3.2	0.8	37.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部ヘラナデ	下層	
DP1263	球状土錘	3.2	3.0	0.6	29.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部ヘラナデ	下層	
DP1264	球状土錘	3.1	2.9	0.7	25.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1265	球状土錘	2.6	2.4	0.5	15.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部ヘラナデ	下層	
DP1266	球状土錘	2.1	2.1	0.5	9.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1267	支脚	15.6	3.9	11.2	(858.2)	粘土	ナデ 一部ヘラナデ 一部欠損	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1035	磨石	6.6	6.4	4.4	320.3	安山岩	上面中央部磨痕	下層	

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1036	紡錘車	4.2	1.3	0.7	37.1	滑石	全面線刻	下層	PL120

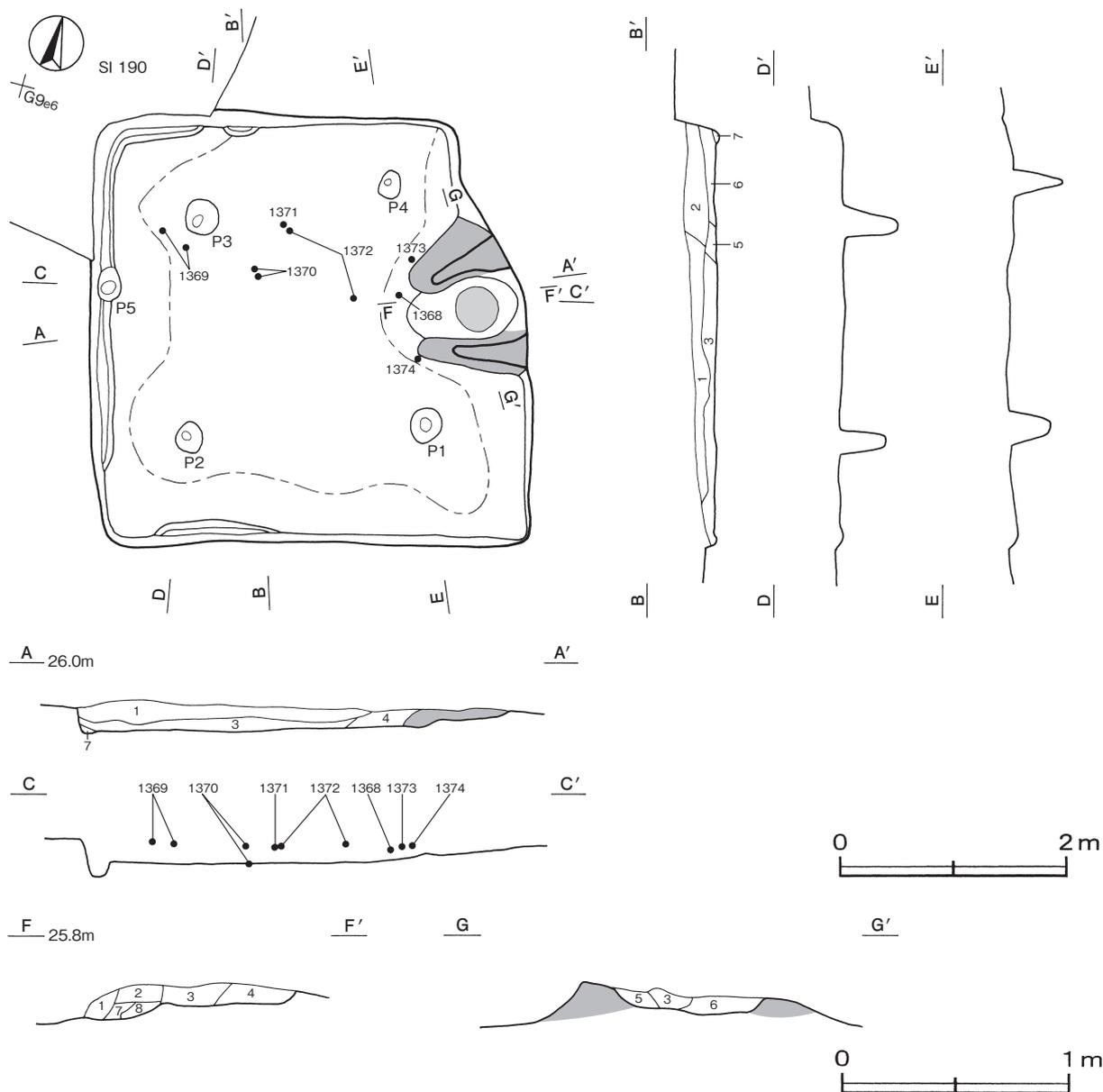
第179号住居跡 (第468・469図)

位置 調査Ⅳ区東部のG 9 e6区, 標高25.8mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第190号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.86m, 短軸3.76mの方形で, 主軸方向はN-78°-Eである。壁高は4~36cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 北西コーナー部から北東コーナー部にかけての壁際を除いて, 踏み固められている。北西コーナー部から西壁と南壁の壁下には幅2~24cm, 深さ1~36cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。



第468図 第179号住居跡実測図

竈 東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで134cm、燃焼部幅56cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から10cmほど高く、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ掘り込んでおらず、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--|------------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック微量 | 4 灰褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 6 暗褐色 焼土ブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 |
| | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| | 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ68～72cmで、主柱穴である。P5は深さ30cmで、西壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。覆土はローム粒子を含む褐色土である。

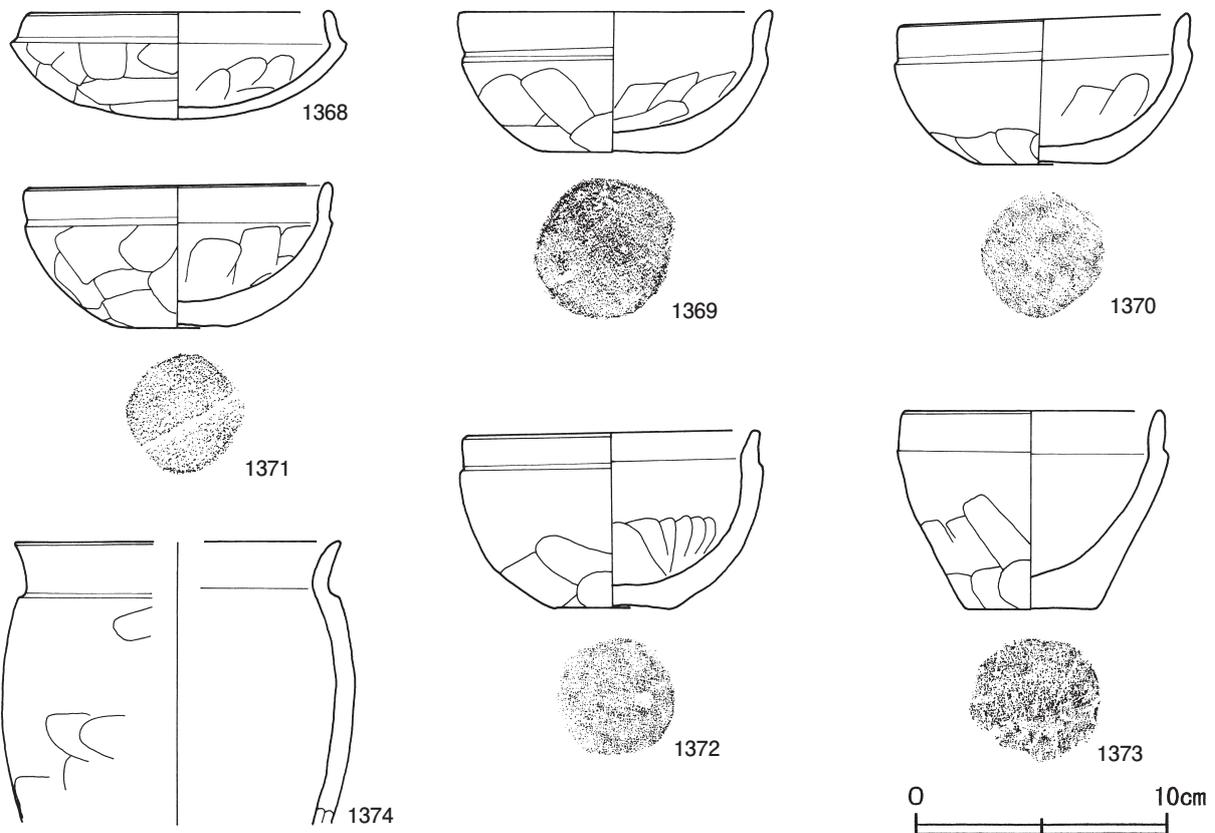
覆土 7層に分けられる。ロームブロック・焼土粒子を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 7 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック少量, 砂粒微量 | |

遺物出土状況 土師器片342点(坏32・甕類310)、須恵器片2点(坏・甕)が出土している。遺物の大半は、北部から中央部の覆土上層から下層にかけて出土している。1368は竈手前、1371・1372は中央部、1373は竈左袖部の覆土下層、1369はP3脇の覆土中層からそれぞれ出土している。また、1370は中央部の床面直上と覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第469図 第179号住居跡出土遺物実測図

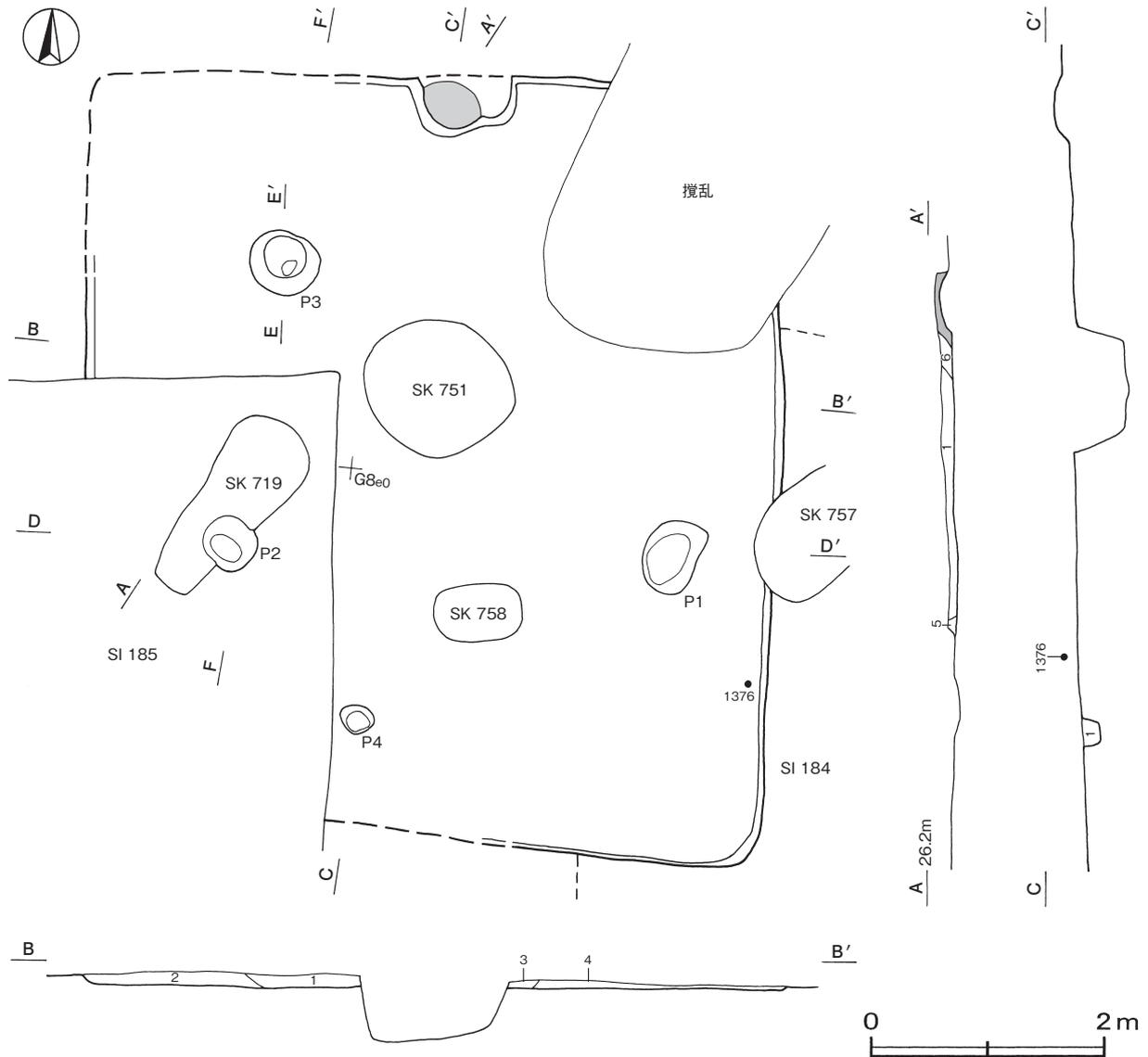
第179号住居跡出土遺物観察表（第469図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1368	土師器	坏	11.8	4.2	-	長石・石英・黒色 粒子・赤色粒子	橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り，内面ヘラナデ	下層	80% PL108
1369	土師器	坏	12.3	5.7	5.5	長石・石英・雲 母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り，内面ヘラナデ	中層	80% PL108
1370	土師器	坏	11.3	6.0	5.0	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り，内面ヘラナデ	床面直上・ 中層	80% PL108
1371	土師器	坏	11.8	5.7	4.4	長石・石英・雲 母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り，内面ヘラナデ	下層	80% PL108
1372	土師器	坏	11.5	7.1	4.7	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り，内面ヘラナデ	下層	80% PL108
1373	土師器	小形甕	10.1	7.9	5.2	長石・石英・雲 母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り	下層	80% PL108
1374	土師器	小形甕	[12.8]	(11.2)	-	長石・石英・雲 母・赤色粒子	橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り	下層	30%

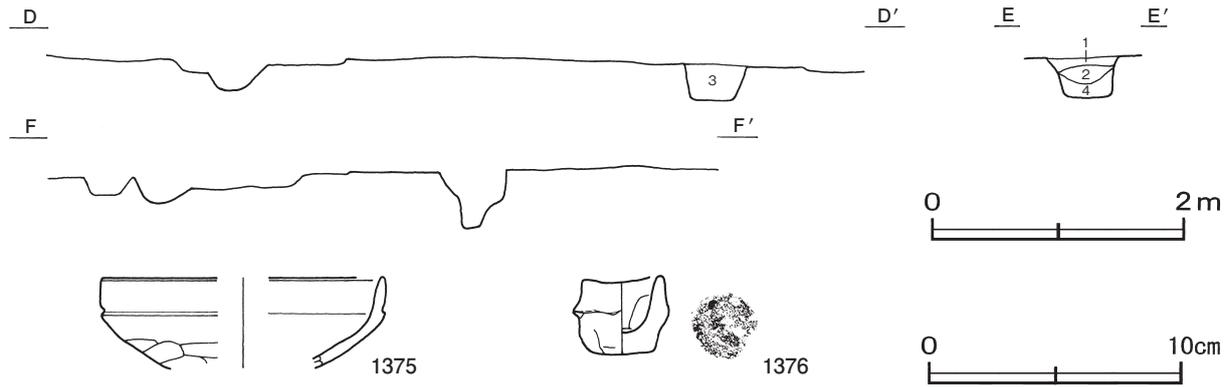
第186号住居跡（第470・471図）

位置 調査Ⅳ区中央部のG 8 e0区，標高26.1mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第185号住居，第719・751・757・758号土坑に掘り込まれている。第184号住居との新旧関係は不明である。



第470図 第186号住居跡実測図



第471図 第186号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 北西コーナー部と西壁から南壁にかけて、壁と一部の床が削平されている。また、北東コーナー部に攪乱を受けている。長軸6.68m、短軸5.94mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は12cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、踏み固められていない。

竈 北壁の中央部に付設され、火床部しか遺存していない。規模は、焚口部手前から奥まで44cm、燃烧部幅70cmである。火床部は床面から6cmほど高く、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。北壁が削平されているため、壁外への掘り込みと立ち上がりは不明である。

ピット 4か所。P1～P3は深さ24～47cmで、主柱穴である。P4は深さ22cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 灰褐色 | ローム粒子少量 |

覆土 6層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 灰褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片134点（坏15・甕類118・手捏土器1）、土製品2点（不明土製品）が出土している。遺物の大半は竈周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。1375は中央部の覆土中、1376は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。

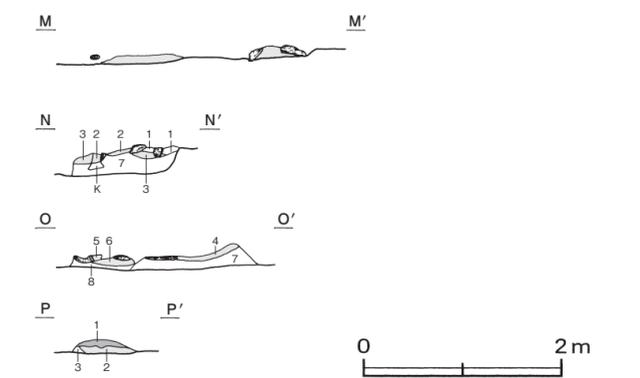
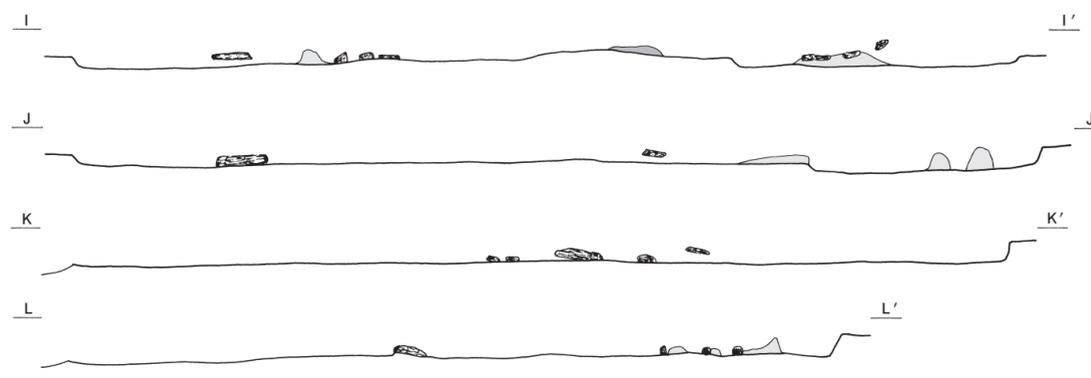
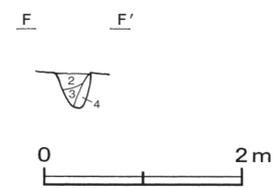
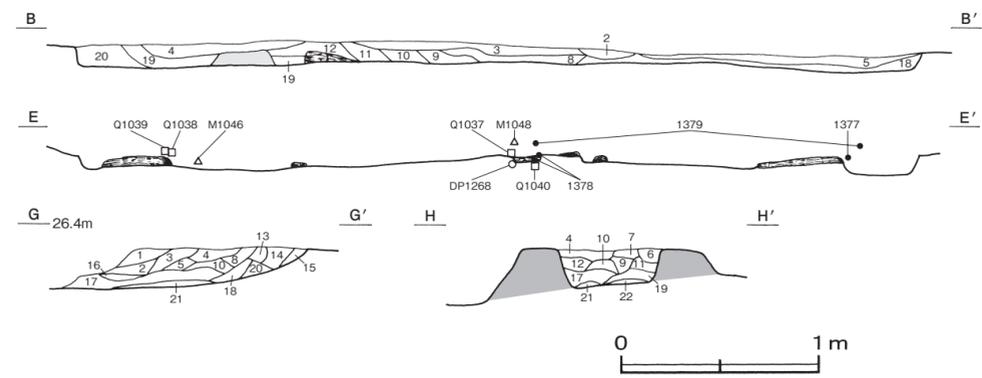
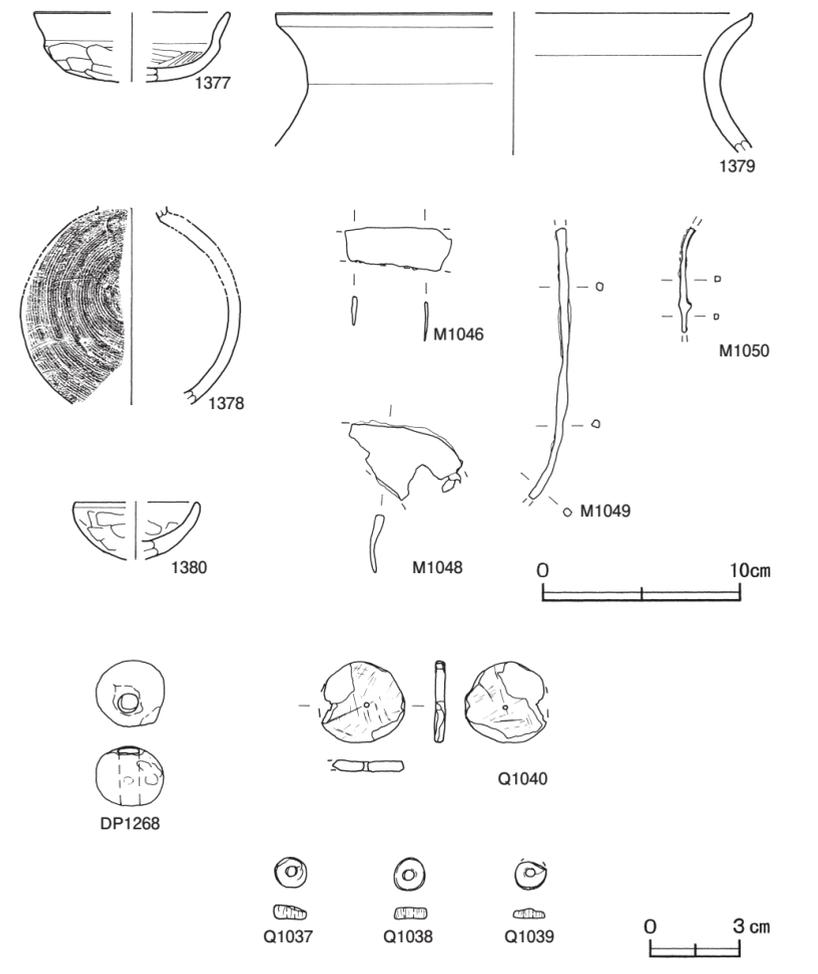
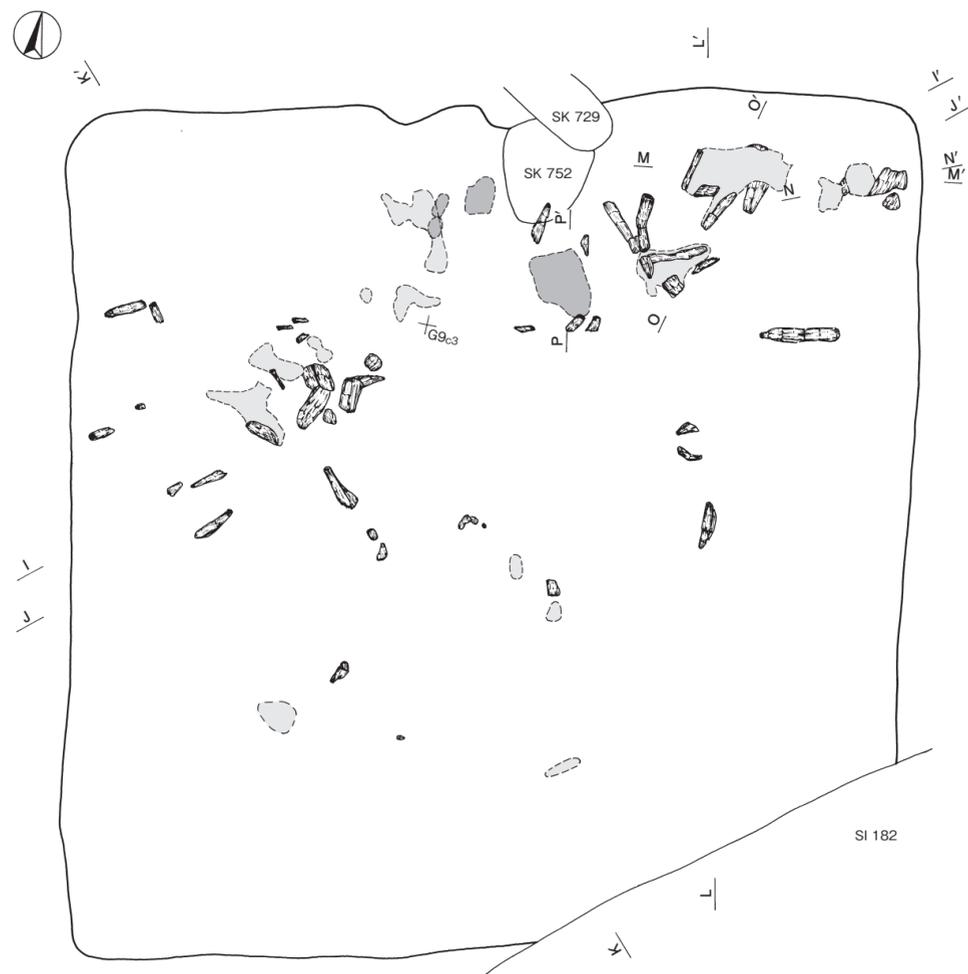
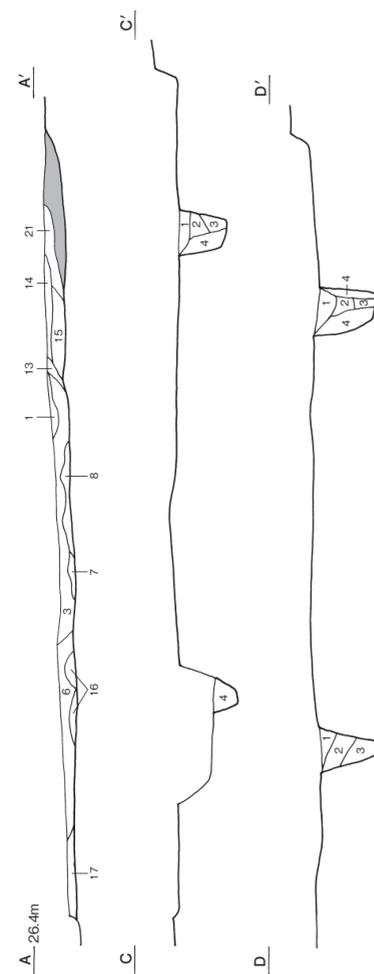
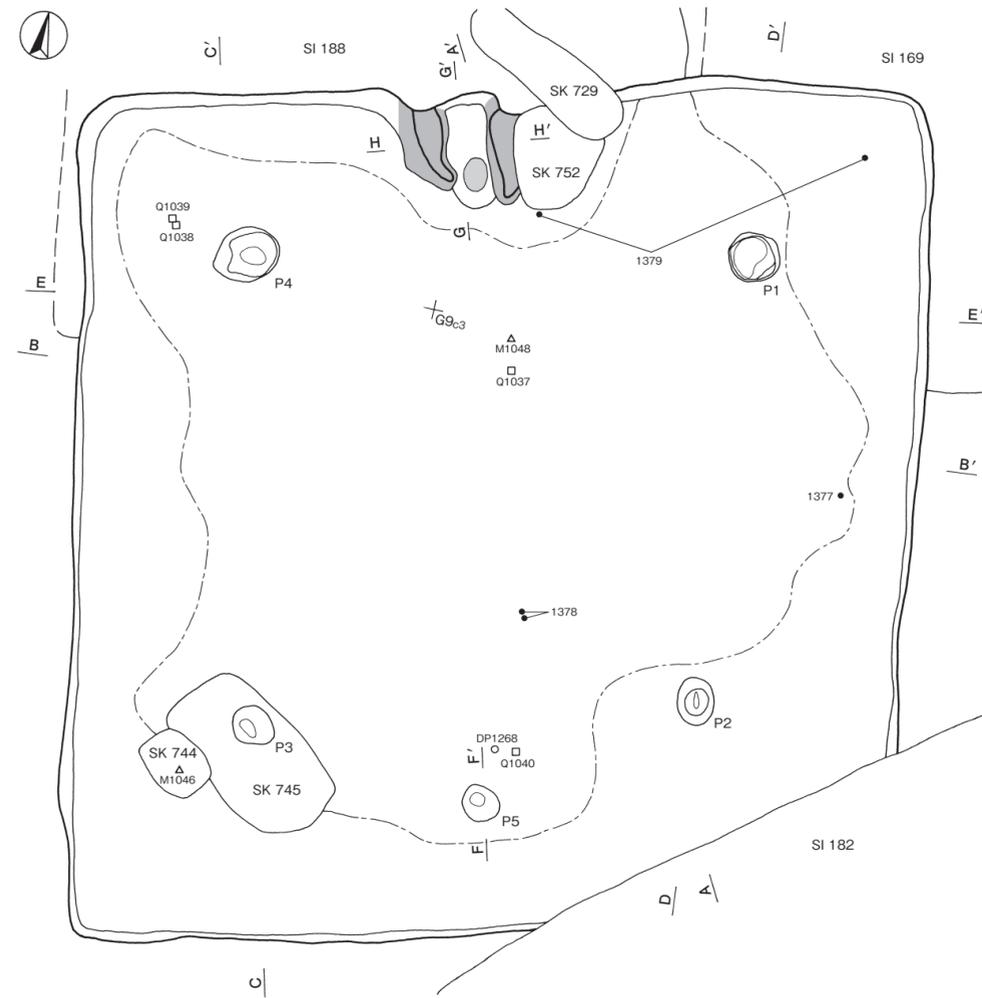
第186号住居跡出土遺物観察表（第471図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1375	土師器	坏	[11.0]	(3.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部手持ちヘラ削り	覆土中	20%
1376	土師器	手捏土器	3.1	3.1	2.6	長石	橙	普通	内・外面ナデ	下層	90% PL116

第187号住居跡（第472図）

位置 調査Ⅳ区中央部のG9c3区、標高26.3mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第169・188号住居跡を掘り込み、第182号住居、第729・744・745・752号土坑に掘り込まれている。



第472图 第187号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸8.43m, 短軸8.40mの方形で, 主軸方向はN-15°-Wである。壁高は6~23cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 竈から中央部にかけて踏み固められている。竈手前に粘土塊が, 北部に多量の焼土と炭化材が確認されている。

粘土塊土層解説

1 明褐色	粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	2 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
		3 にぶい赤褐色	炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック少量

焼土塊土層解説

1 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量	5 明赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子微量
2 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量	6 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック微量
3 赤褐色	焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量	7 褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量	8 にぶい褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

竈 北壁の中央部に付設されている。右袖部の脇が土坑によって掘り込まれている。規模は, 焚口部から煙道部まで118cm, 燃焼部幅41cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰白色土で構築されている。また, 第1・7・14・18層は天井部の崩落土である。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込んでおらず, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量	12 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	13 にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
3 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量	14 にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子・砂粒少量
4 暗褐色	粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック・焼土粒子微量	15 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
5 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	16 暗褐色	焼土ブロック多量, ローム粒子・粘土粒子微量
6 灰褐色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量	17 暗褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
7 灰褐色	粘土ブロック中量, ロームブロック・砂粒少量, 焼土ブロック微量	18 にぶい黄褐色	粘土ブロック・砂粒中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量
8 にぶい黄褐色	砂粒中量, 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量	19 灰褐色	ロームブロック・砂粒少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量
9 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量	20 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量
10 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	21 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量
11 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量, 粘土粒子微量	22 にぶい褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 砂粒微量

ピット 5か所。P1~P4は深さ48~60cmで, 主柱穴である。P5は深さ38cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

1 灰褐色	焼土ブロック・炭化材中量, ロームブロック・粘土粒子少量, 砂粒微量	3 暗褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック少量

覆土 21層に分けられる。ロームブロック・粘土ブロックを含み, 不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 灰褐色	砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック微量
2 灰褐色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量	10 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量, 炭化物・焼土粒子微量	11 暗褐色	焼土粒子多量, ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量, 粘土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	12 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
5 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量・炭化粒子微量	13 黒褐色	粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック微量
6 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	14 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
7 暗褐色	砂粒少量, ロームブロック微量	15 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量
8 褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	16 褐色	炭化物中量, ローム粒子少量

- 17 暗 褐 色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量
 18 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 19 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
 20 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
 21 灰 褐 色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片948点（坏110・甕類837・ミニチュア土器1），須恵器片30点（坏12・蓋2・提瓶1・長頸瓶1・甕14），石製模造品4点（双孔円板1・白玉3），土製品13点（球状土錘2・不明製品11），金属製品5点（鎌2・釘1・鉄鎌2），鉄滓6点が出土している。遺物の大半は中央部から北部の覆土上層から下層にかけて出土している。1377は東壁寄り，1378は中央部，DP1268・Q1040は南壁より，M1046は南西コーナ一部，Q1037は中央部の覆土下層，Q1038・Q1039は北東コーナ一部の覆土中層，M1048は竈手前の覆土上層，M1050はP4の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 覆土やピット内から多量の炭化材が出土し，床面に多量の焼土塊が堆積していることから，住居の機能停止後に取り壊し，または部分的に解体されてから焼却された焼失住居と考えられる。炭化材の樹種同定の結果，コナラ属アカガシ亜属に同定された。住居構築材として，周囲に生育していた暖温帯常緑広葉樹林を利用していると推測される。時期は，出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。

第187号住居跡出土遺物観察表（第472図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1377	土師器	坏	[9.8]	(3.5)	-	長石・石英・黒雲母・赤色粒子	明晰褐	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	30%
1378	須恵器	提瓶	-	(9.9)	-	長石・石英	オリーフ黒	良好	カキ目	下層	30%
1379	土師器	甕	[23.9]	(7.0)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ	上層・覆土中	10%
1380	土師器	ミニチュア土器	[6.2]	(2.9)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラ削り	覆土中	20%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1268	球状土錘	2.3	2.0	0.7	9.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部ヘラナデ	下層	
DP1269	球状土錘	-	(2.6)	-	(3.9)	粘土	ナデ 欠損	覆土中	計測のみ

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1037	白玉	1.1	0.5	0.3	0.6	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	下層	PL119
Q1038	白玉	1.1	0.4	0.4	0.5	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	中層	PL119
Q1039	白玉	1.1	0.4	0.3	(0.2)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔 一部欠損	中層	PL119
Q1040	双孔円板	2.8	0.4	0.15	(4.7)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	PL119

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1046	鎌	(5.4)	2.2	0.15~0.30	(9.1)	鉄	刀身部	下層	PL121
M1048	鎌	(5.8)	(3.9)	0.5	(14.2)	鉄	刀身部	上層	PL121
M1049	鉄鎌	(13.6)	0.5	0.3~0.4	(13.6)	鉄	茎部 断面四角形	覆土中	
M1050	鉄鎌	(5.3)	0.7	1.3	(2.5)	鉄	茎部 断面四角形	覆土中	

第190号住居跡（第473図）

位置 調査Ⅳ区中央部のG9d5区，標高26.0mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第179号住居跡を掘り込み，第177・182号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外であるため，東西軸が4.86mで，南北軸は5.28mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され，主軸方向は不明である。壁高は6～13cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，踏み固められていない。

ピット 2か所。P1・P2は深さ35cmで、支柱穴である。

ピット土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック少量 |

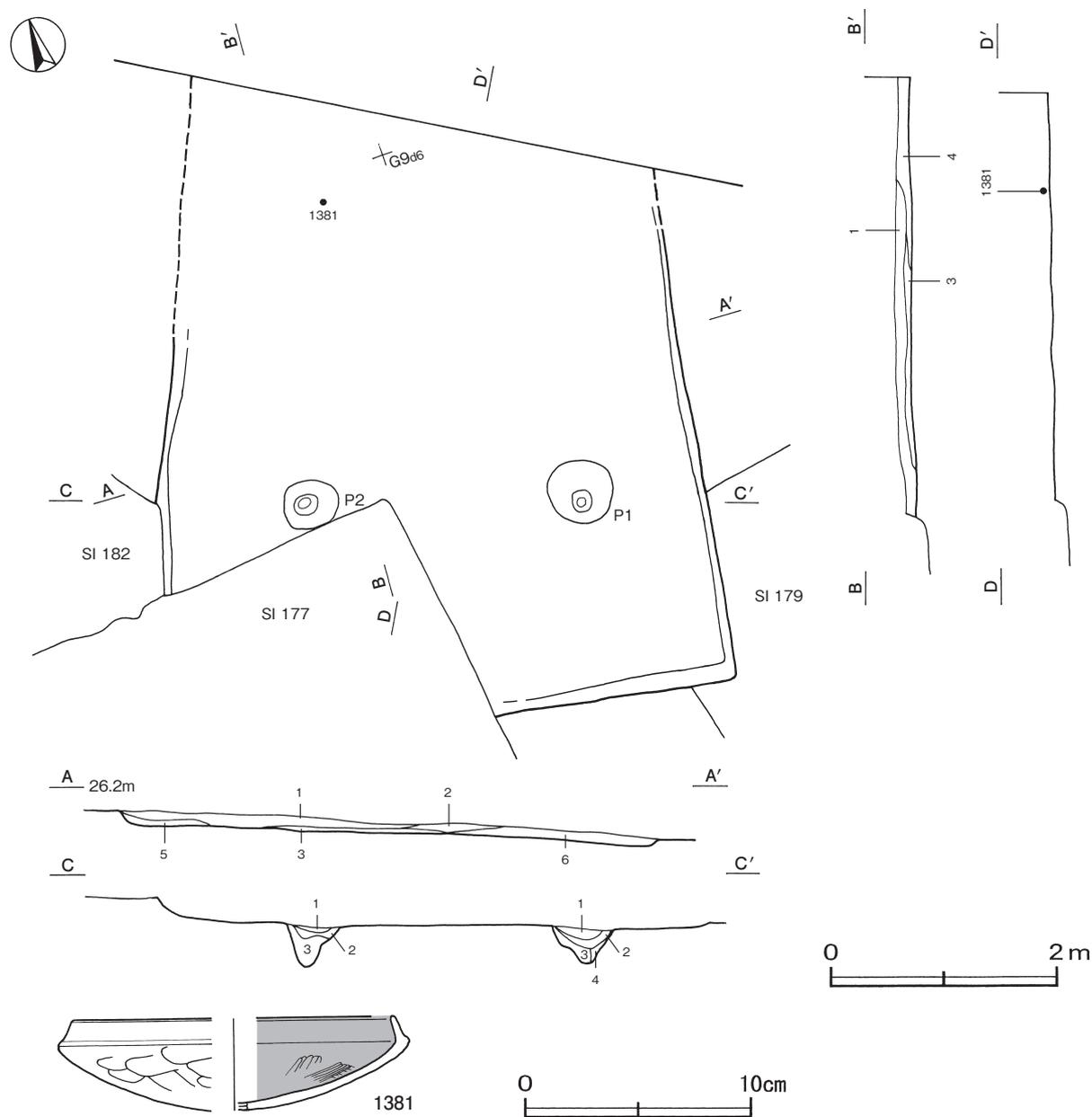
覆土 6層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 粘土ブロック・ローム粒子・砂粒少量 | 5 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 3 灰褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片59点(坏16・高台付椀1・甕類42)が出土している。1381は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第473図 第190号住居跡・出土遺物実測図

第190号住居跡出土遺物観察表（第473図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1381	土師器	坏	[14.0]	4.0	-	長石・雲母	明褐	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	50%

表29 竪穴住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)	
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)		壁溝	柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴					炉・竈
169	G 9 a3	N-16°-W	[長方形・方形]	7.54×(4.28)	17~22	平坦	-	3	-	-	-	竈1	人為	土師器, 球状土錘, 支脚	6世紀中葉	本跡→SI168・187・189, SB21, SI188との新旧不明
170	F 8 j0	不明	[長方形・方形]	(6.84)×(5.92)	12~25	平坦	-	3	2	-	-	-	人為	土師器, 土玉, 球状土錘, 鉄滓	6世紀末~7世紀初頭	SI171→本跡→SD49, SK714 焼失住居
171	F 9 j2	N-24°-W	方形	5.13×5.00	15~22	平坦	-	4	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 砥石, 支脚, 紡錘車	6世紀後葉	本跡→SI170
174	G 9 i2	N-23°-W	[長方形・方形]	5.48×(4.54)	10~12	平坦	一部	-	1	-	-	竈1	不明	土師器, 須恵器, 土玉, 球状土錘, 支脚	7世紀初頭	
175	G 9 g5	N-46°-E	[長方形・方形]	7.05×(6.32)	20~47	平坦	-	4	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 砥石, 紡錘車, 球状土錘, 支脚	7世紀前葉	本跡→SI176
179	G 9 e6	N-78°-E	方形	3.86×3.76	4~36	平坦	一部	4	1	-	-	竈1	人為	土師器・須恵器	6世紀後葉	本跡→SI190
186	G 8 e0	N-3°-E	[方形]	6.68×5.94	12	平坦	-	3	1	-	-	竈1	人為	土師器, 不明土製品	6世紀後葉	本跡→SI185, SK719・751・757・758, SI184との新旧不明
187	G 9 c3	N-15°-W	方形	8.43×8.40	6~23	平坦	-	4	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 双孔円板, 白玉, 球状土錘, 鎌, 釘, 鉄鏝	6世紀中葉	SI169・188→本跡→SI182, SK729・744・745・752 焼失住居
190	G 9 d5	不明	[長方形・方形]	(5.28)×4.86	6~13	平坦	-	2	-	-	-	-	人為	土師器	7世紀前葉	SI179→本跡→SI177・182

(2) 土坑

第756号土坑（第474図）

位置 調査IV区東部のG 9 c4区で、標高26.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第182号住居に掘り込まれている。

規模と形状 径0.39mの円形である。深さは80cmで、底面は皿状を呈し、壁は直立している。

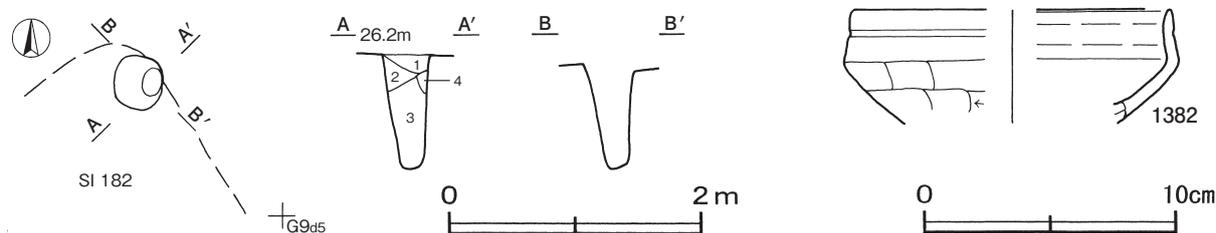
覆土 4層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片3点（坏）が出土している。1382は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀代と考えられる。



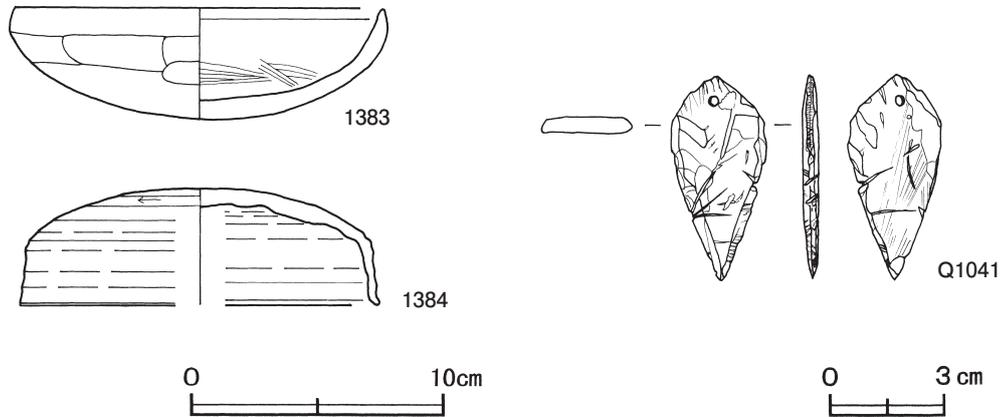
第474図 第756号土坑・出土遺物実測図

第756号土坑出土遺物観察表（第474図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1382	土師器	坏	[12.5]	(4.5)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	15%

(3) 遺構外出土遺物（第475図）

今回の調査で、表土層などから遺構に伴わない古墳時代の遺物が出土している。ここでは、特徴的な遺物について、実測図及び遺物観察表で掲載する。



第475図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第475図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1383	土師器	坏	14.6	4.64	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	SI168 覆土中	100% PL108
1384	須恵器	蓋	-	4.6	[14.1]	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	表面採集	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1041	剣形模造品	5.5	2.5	0.4	8.4	滑石	孔径0.2 全面研磨	SD46 覆土中	PL119

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡 9 軒，掘立柱建物跡 1 棟，土坑 2 基が確認されている。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第167号住居跡（第476～478図）

位置 調査Ⅳ区中央部の G 8 b5区，標高25.9mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 斜面部のために，中央部から西部の壁と床が削平されている。南北軸が6.30mで，東西軸は4.34mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され，主軸方向はN-76°-Eである。壁高は14cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部を踏み固められている。北壁寄りに粘土痕が確認されている。

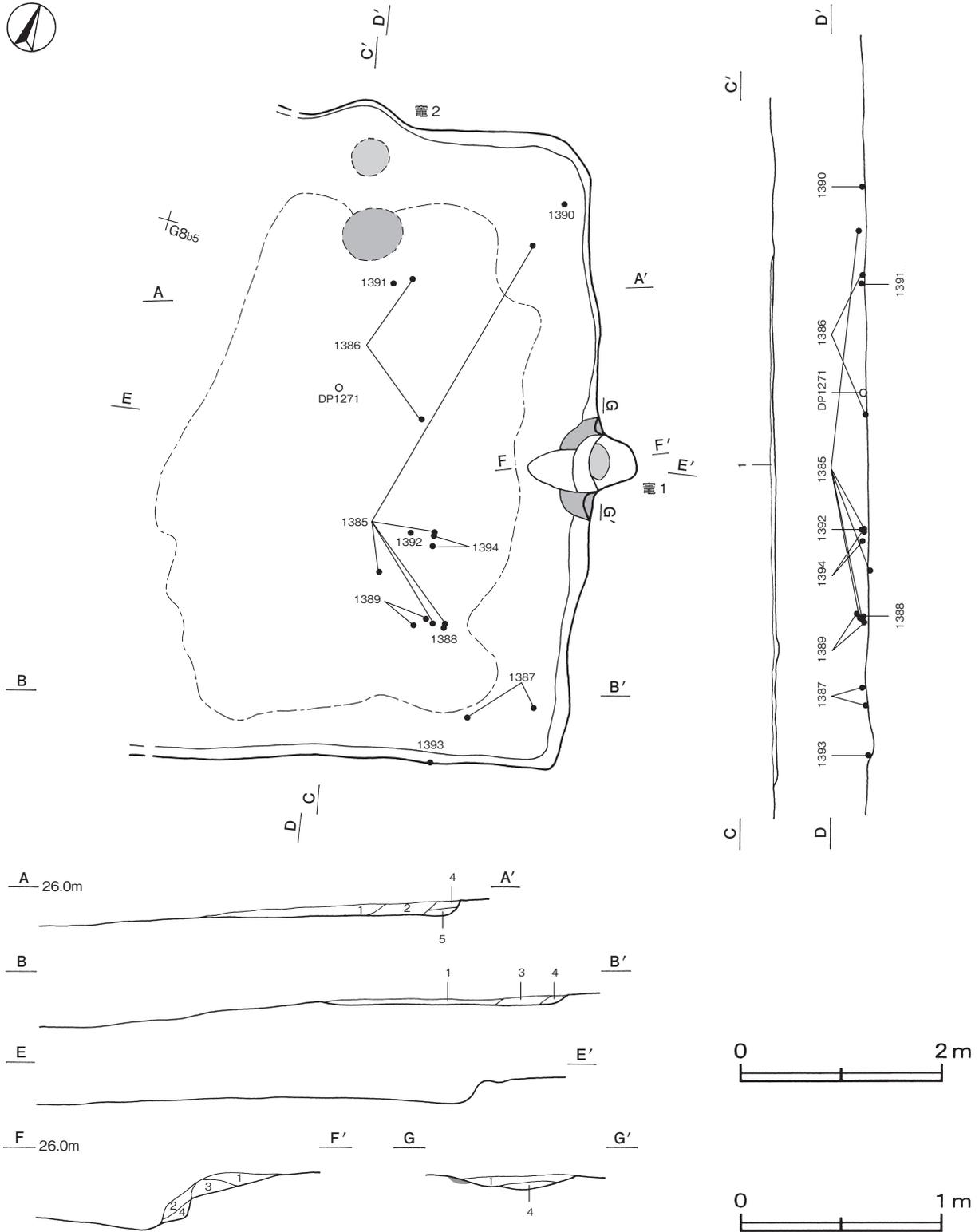
竈 2か所。竈1は東壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで108cm，燃烧部幅58cmである。袖部は，砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土を壁に薄く貼り付けて，構築されている。火床部は床面から12cmほどくぼんだのち，階段状に立ち上がった壁外に位置し，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ，火床部からわずかに立ち上がっている。

竈2は北壁の中央部に付設されていたと推測され，火床部の最下層しか遺存していない。確認できた規模は，火床部手前から奥まで34cm，火床部幅36cmである。火床部は床面と同じ高さで，火床面は火熱を受け赤変して

いるが、硬化していない。竈1は良好に遺存し、竈2は一部しか確認できないことから、竈2から竈1へ作り替えられたと考えられる。

竈1土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-------------------|---|-------|----------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒微量 | 3 | 赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・砂粒少量 |
| 2 | にぶい褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 | にぶい褐色 | ロームブロック少量 |



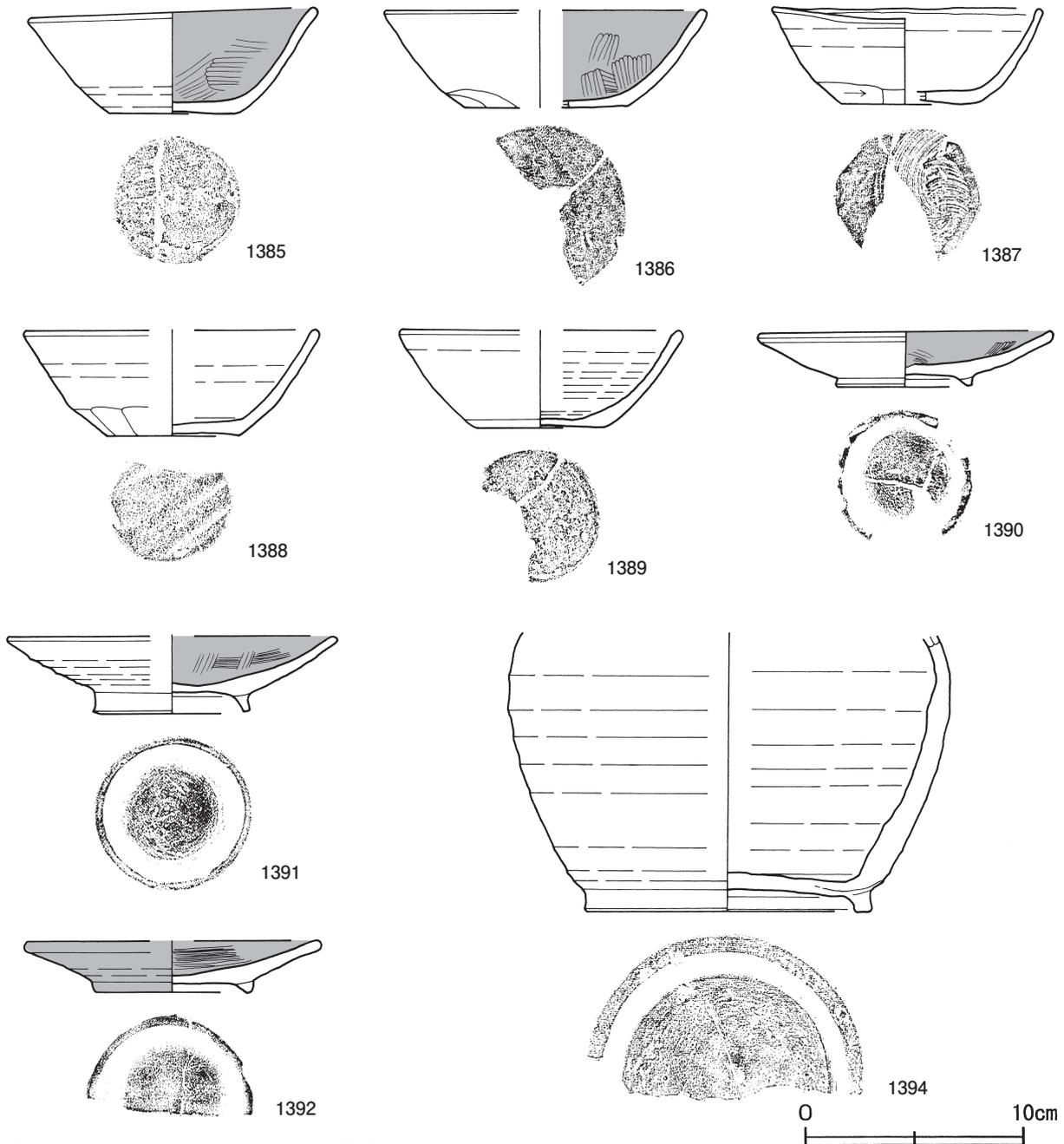
第476図 第167号住居跡実測図

覆土 5層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

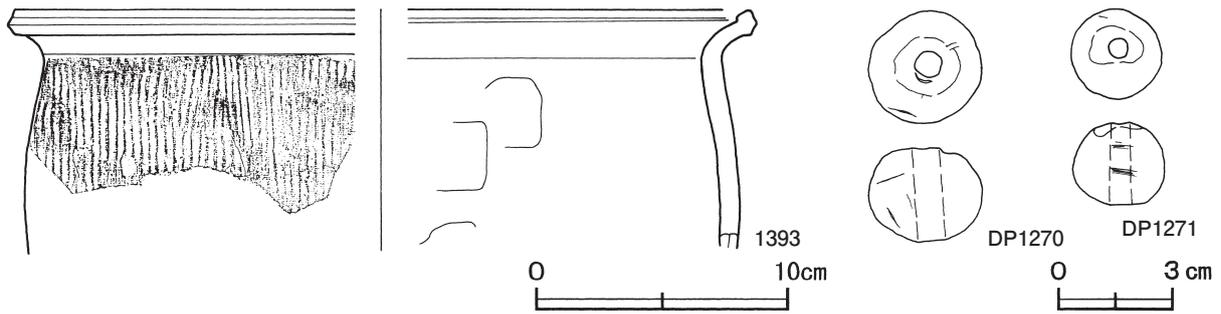
土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| | | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片913点(坏315・高台付碗22・皿類18・鉢2・甕類555・ミニチュア土器1), 須恵器271点(坏127・高台付坏3・皿1・蓋9・鉢103・長頸瓶7・甕16・甌5), 土製品20点(球状土錘2・不明品18), 鉄滓1点が出土している。遺物の大半は中央部から東部にかけて出土している。1386・1392・DP1271は中央部, 1387～1389・1393・1394は南東コーナー部寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。また, 1385は北東コーナー部の覆土中層と南東コーナー部寄りの覆土下層から出土した破片が, 1390は北東コーナー部の覆土下層と覆土中から出土した破片が, 1391は竈2手前の覆土下層と覆土中から出土した破片が接合したものである。所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第477図 第167号住居跡出土遺物実測図(1)



第478図 第167号住居跡出土遺物実測図(2)

第167号住居跡出土遺物観察表 (第477・478図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1385	土師器	坏	12.9	4.8	5.6	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	中層～下層	80% PL111
1386	土師器	坏	[14.2]	4.5	[7.0]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	下層	30%
1387	須恵器	坏	12.1	4.4	5.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り	下層	30%
1388	須恵器	坏	[13.2]	4.8	6.0	長石・石英	浅黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 表面一部剥離	下層	30%
1389	須恵器	坏	[12.6]	4.4	5.8	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロ目弱い 底部手持ちヘラ削り	下層	20%
1390	土師器	高台付皿	13.2	2.6	6.2	長石・石英・赤色粒子	淡黄	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	下層・覆土中	60%
1391	土師器	高台付皿	[14.7]	3.5	6.4	長石・石英	浅黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	下層・覆土中	50%
1392	土師器	高台付皿	[13.2]	2.4	7.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	下層	40%
1393	須恵器	鉢	[29.0]	(9.5)	-	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	体部縦位の平行叩き 内面ヘラナデ	下層	10%
1394	須恵器	長頸瓶	-	(12.7)	[12.8]	長石・石英・黒色粒子	灰オリブ	普通	体部外面自然釉 底部ヘラ書き「-」	下層	30%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1270	球状土錘	3.0	2.4	0.8	19.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1271	球状土錘	2.4	2.1	0.5	11.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	

第168号住居跡 (第479・480図)

位置 調査Ⅳ区中央部のF 9j3区、標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第169・188・189号住居跡、第21号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部に攪乱を受けているので、東西軸は5.78mで、南北軸は6.00mしか確認できなかった。長方形または方形で、主軸方向はN-5°-Wと推測される。壁高は4cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。西壁の一部の壁下には幅17～24cm、深さ3cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

ピット 5か所。P1～P4は深さ65～75cmで、主柱穴である。覆土は、ロームブロックと焼土ブロックを少量含む暗褐色土である。P5は深さ26cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

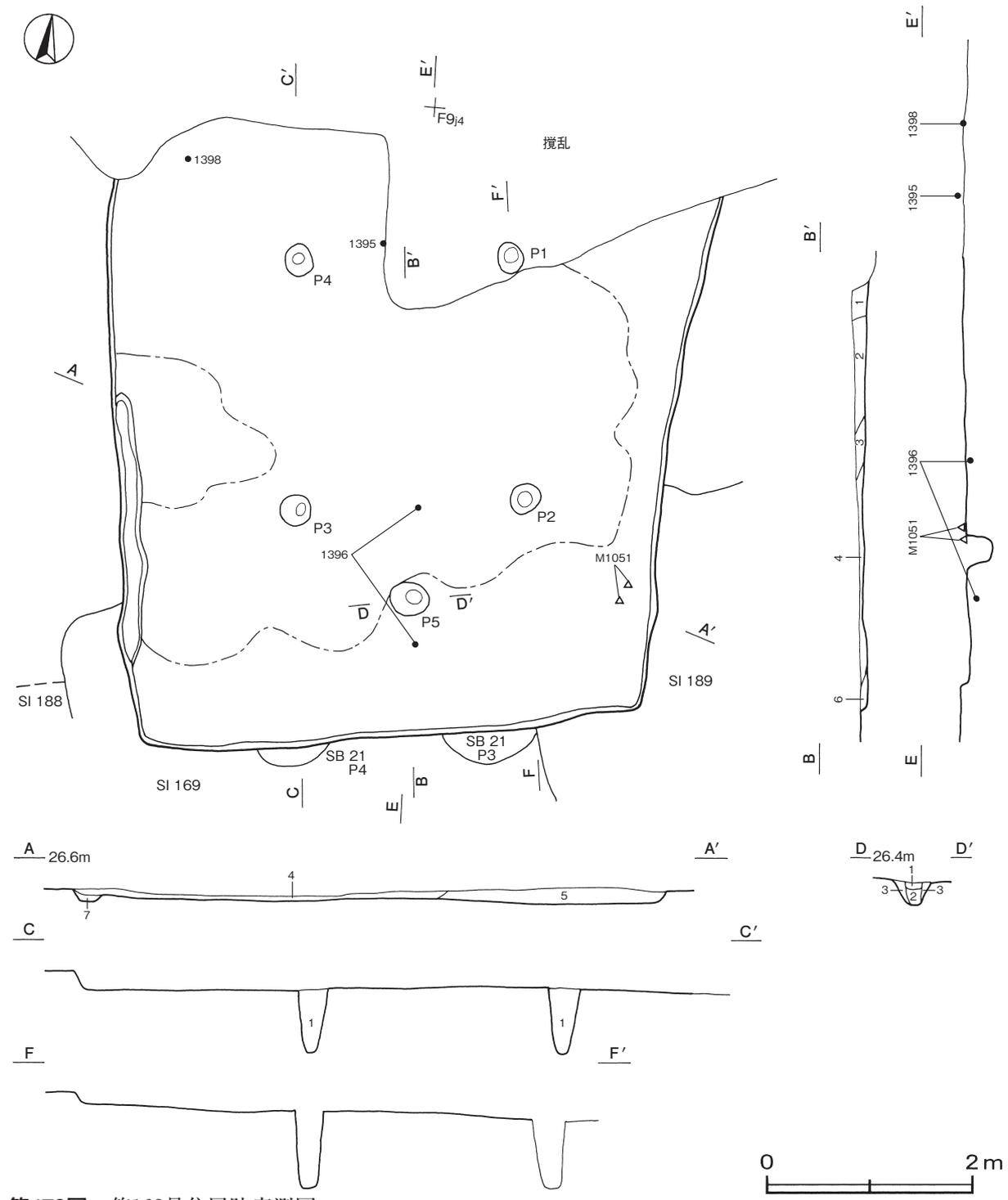
覆土 7層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

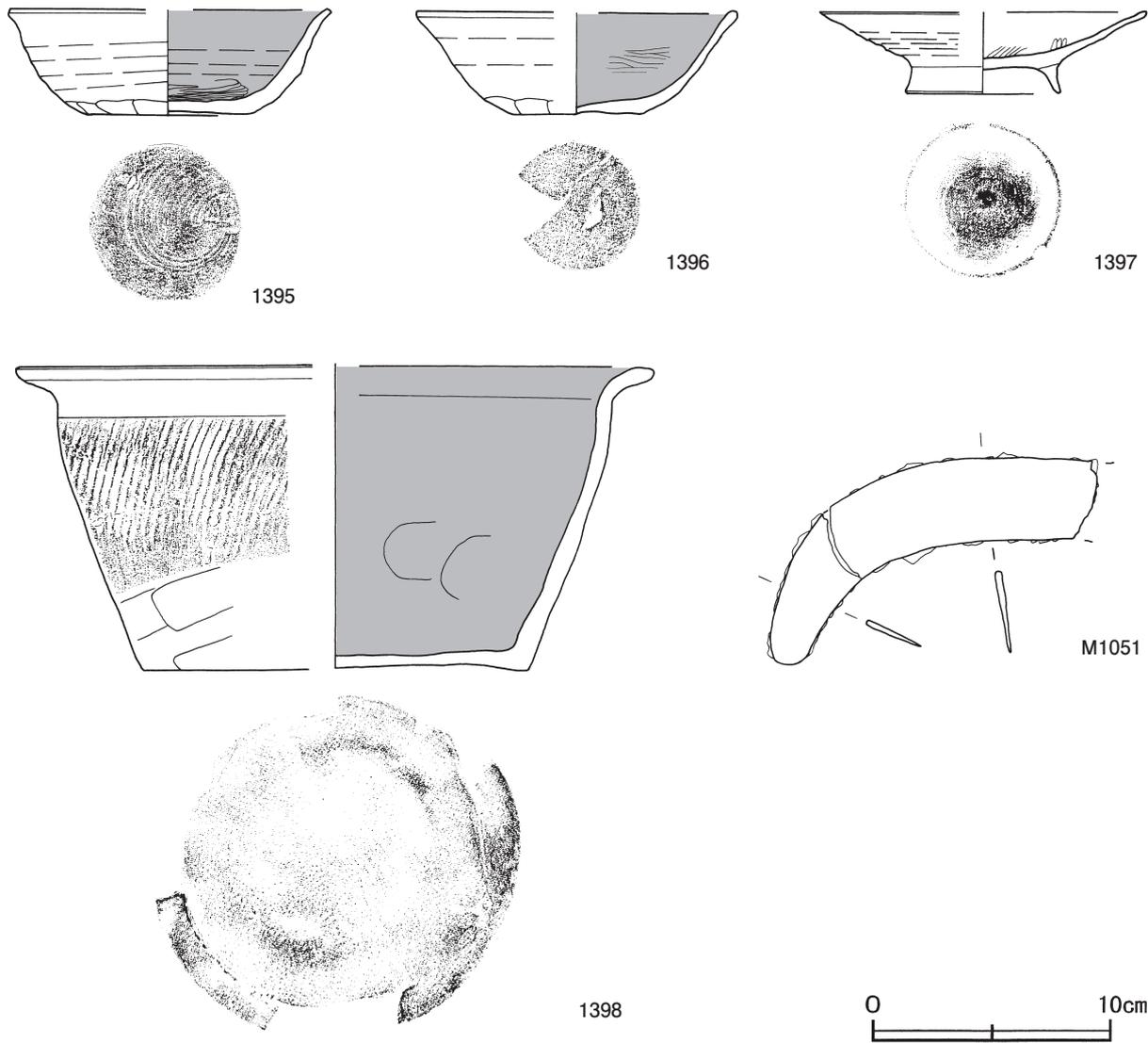
- | | | | | | |
|-------|---|------------------|-------|---|--------------|
| 1 褐色 | 色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | 色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | 色 | ロームブロック多量 | 6 暗褐色 | 色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 色 | ロームブロック中量 | 7 黒褐色 | 色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | | |

遺物出土状況 土師器片281点（坏131・高台付椀6・高台付皿1・鉢27・甕類115・甌1），須恵器片53点（坏15・高台付皿1・鉢7・瓶1・甕類29），土製品4点（支脚片1・不明土製品3），金属製品1点（鎌），鉄滓2点，礫3点が出土している。遺物の大半は中央部の覆土下層から出土している。1395は中央部の覆土下層，1396はP5周辺の床面直上，M1051は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。また，1398は北西コーナー部の覆土下層と覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器と重複関係から9世紀後葉と考えられる。



第479図 第168号住居跡実測図



第480図 第168号住居跡出土遺物実測図

第168号住居跡出土遺物観察表（第480図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1395	土師器	坏	[13.4]	4.5	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面横位のへら磨き 底部手持ちへら削り	下層	90% PL112
1396	土師器	坏	[13.4]	4.4	5.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面横位のへら磨き 底部手持ちへら削り	床面直上	30%
1397	土師器	高台付皿	[13.6]	3.4	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面横位のへら磨き 底部ナデ後、高台貼り付け	覆土中	20%
1398	土師器	鉢	[24.4]	12.8	14.2	長石・石英	橙	普通	体部縦位の平行叩き 下端へら削り 内面へらナデ	下層	40%

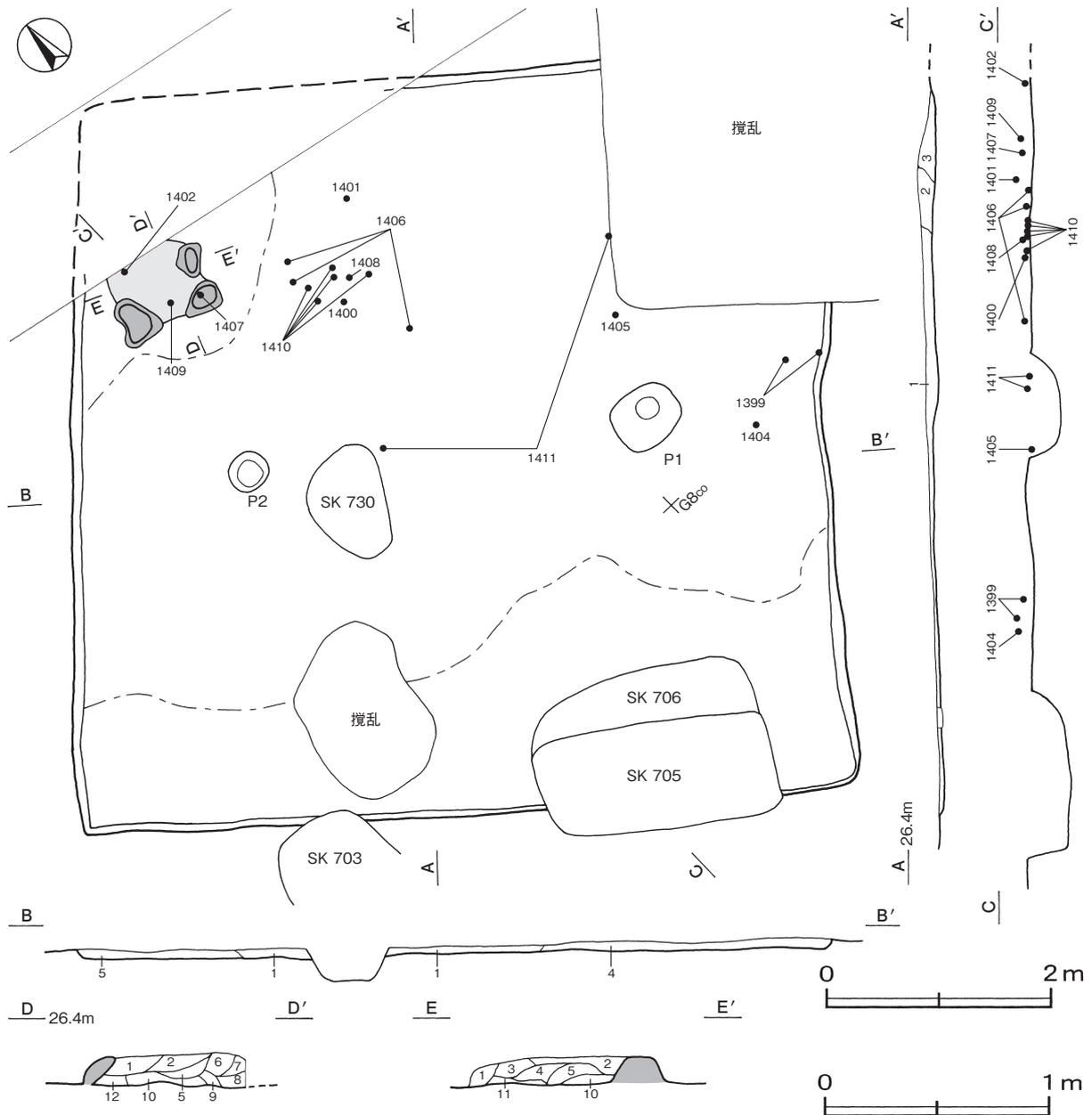
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1051	鎌	(14.8)	(3.5)	(0.4)	(69.1)	鉄	刀身部 茎部欠損	下層	PL121

第173号住居跡（第481～483図）

位置 調査Ⅳ区中央部のG 8 b9区、標高26.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第703・705・706・730号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北コーナー部、東コーナー部、南西壁際に攪乱を受けている。長軸6.94m、短軸6.64mの方形で、



第481図 第173号住居跡実測図

主軸方向はN-5°-Wである。壁高は5~10cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、西コーナー部から南コーナー部を除いて踏み固められている。

竈 北コーナー部寄りに付設されていたと推測される。火床部と袖部の一部しか遺存していない。規模は、火床部手前から奥まで66cm、燃焼部幅80cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火熱を受けて赤変しているが、硬化していない。攪乱を受けているため、壁外の掘り込みと立ち上がりは不明である。手前に確認された粘土塊は竈の袖部が壊され、投棄されたものである。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|----------------------------|----|--------|------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 6 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐灰色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 | 7 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 | 8 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 | 灰褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量 | 9 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 5 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 | 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
| | | | 11 | 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| | | | 12 | 極暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 |

ピット 2か所。P1・P2は深さ34～82cmで、支柱穴である。

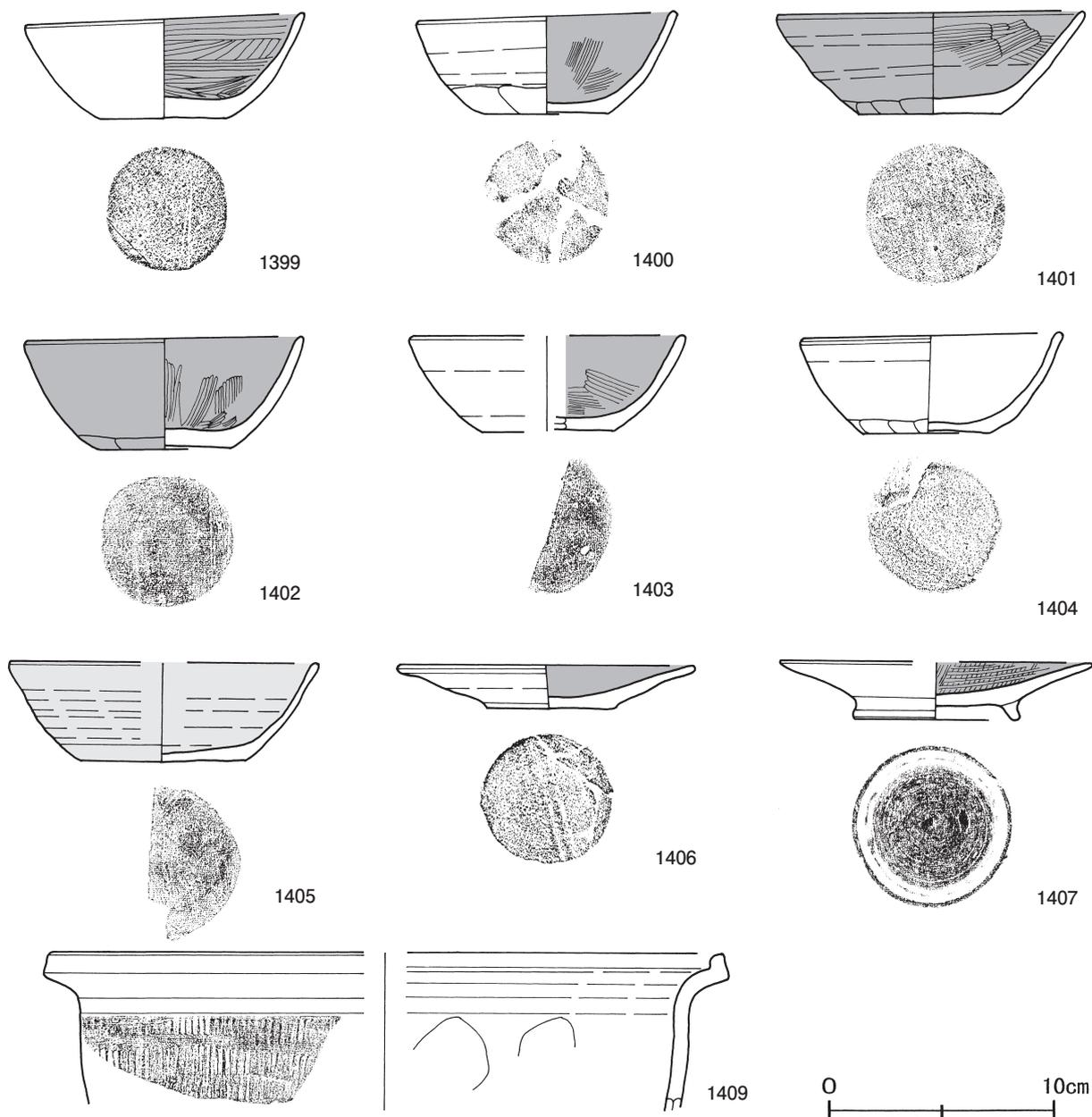
覆土 5層に分けられる。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

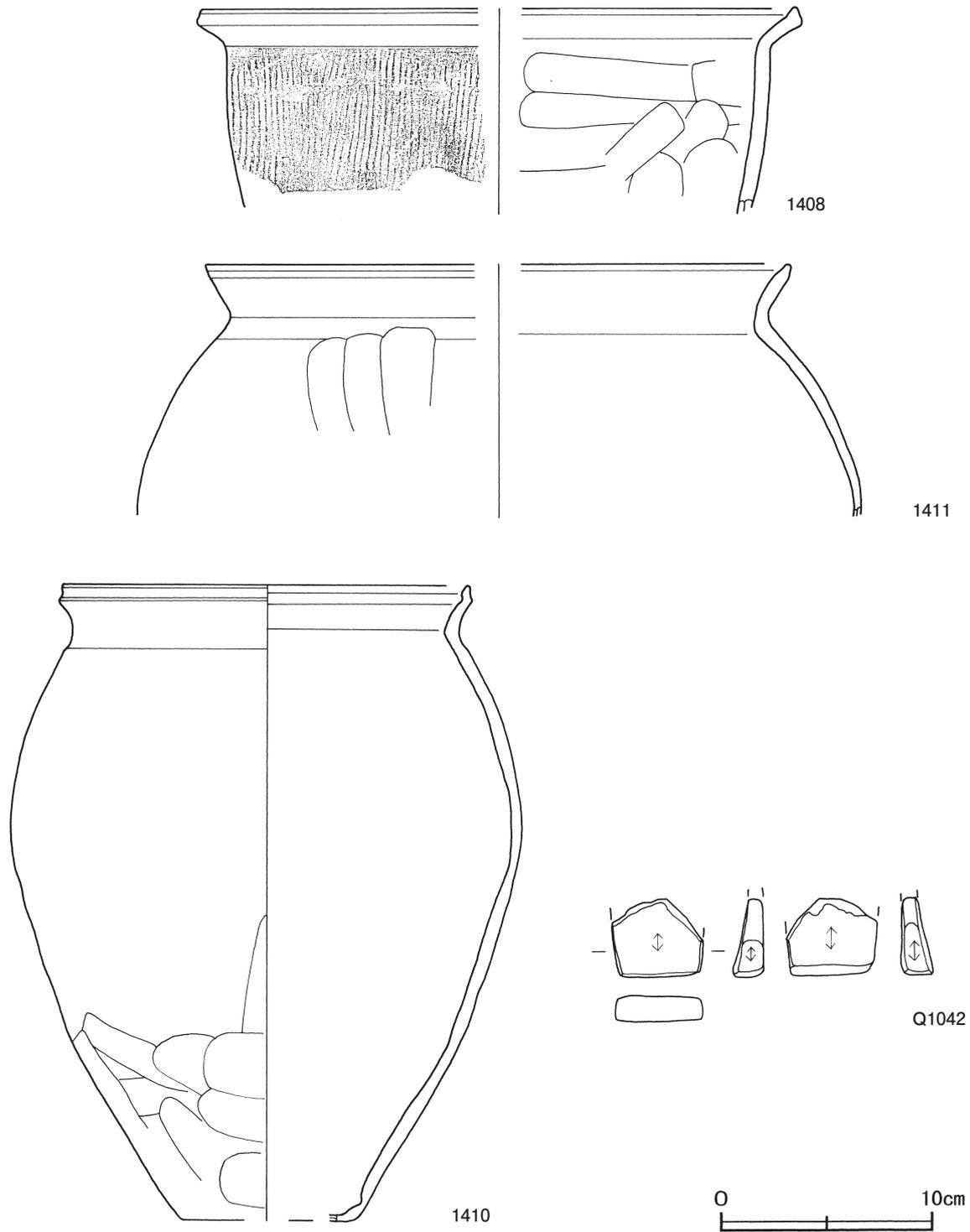
- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 5 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片888点（坏250・皿類71・甕類564・甌3），須恵器片192点（坏106・皿類11・蓋1・壺類1・甕類67・甌6），石器1点（砥石），土製品38点（支脚片），礫2点が出土している。遺物の大半は竈手前の覆土上層から下層にかけて出土している。1399は南東壁際，1401は北東壁寄り，1404は南東壁寄りの覆土上層，1400は竈手前の覆土中層，1405は中央部の覆土下層，1407は竈手前の粘土塊からそれぞれ出土している。また，1406は竈手前と中央部の覆土上層から中層にかけて出土した破片が，1410は竈手前の覆土中層と覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器と重複関係から9世紀中葉と考えられる。



第482図 第173号住居跡出土遺物実測図(1)



第483図 第173号住居跡出土遺物実測図(2)

第173号住居跡出土遺物観察表 (第482・483図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1399	土師器	坏	12.3	4.6	5.5	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	上層	90% PL112
1400	土師器	坏	11.4	4.6	5.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	中層	80% PL112
1401	土師器	坏	13.4	4.5	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	上層	80% PL113
1402	土師器	坏	[12.3]	4.8	5.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	上層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1403	土師器	坏	[12.0]	4.3	[5.8]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	覆土中	30%
1404	須恵器	坏	11.4	4.4	5.5	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	上層	80% PL112
1405	須恵器	坏	[13.5]	4.4	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部手持ちヘラ削り	下層	40%
1406	土師器	皿	13.0	2.0	5.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部手持ちヘラ削り	上層～下層	80% PL112
1407	土師器	高台付皿	[13.7]	2.6	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	上層	50%
1408	須恵器	鉢	[28.0]	(19.7)	-	長石・石英	灰白	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面ヘラナデ	上層	10%
1409	須恵器	鉢	[29.6]	(7.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面ヘラナデ	上層	10%
1410	土師器	甕	19.0	30.4	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下位ヘラ削り	中層・覆土中	80% PL113
1411	土師器	甕	[27.5]	(12.0)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面ヘラナデ 輪積痕	下層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1272	紡錘車	(3.8)	1.0	-	(9.4)	粘土	ナデ 一部欠損	覆土中	計測のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1042	砥石	(3.7)	4.4	1.3	(26.9)	凝灰岩	砥面4面	覆土中	
Q1043	砥石	(4.1)	(2.2)	(1.5)	(14.3)	凝灰岩	砥面1面	覆土中	計測のみ

第176号住居跡（第484・485図）

位置 調査Ⅳ区東部のG 9 g4区、標高25.7mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第175・177号住居跡を掘り込み、第712号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 斜面部のために、南部の壁と床が削平されている。また、中央部と南西壁際に攪乱を受けている。東南北西軸が6.74mで、南東北西軸は6.68mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は8～17cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで72cm、燃焼部幅50cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から10cmほど高く、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外を掘り込んでおらず、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 5 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 3 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 | |
| 4 灰褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 | |

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ44cm・50cmで、支柱穴である。P 3は深さ24cmで、性格不明である。

ピット土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 灰褐色 ロームブロック微量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | |

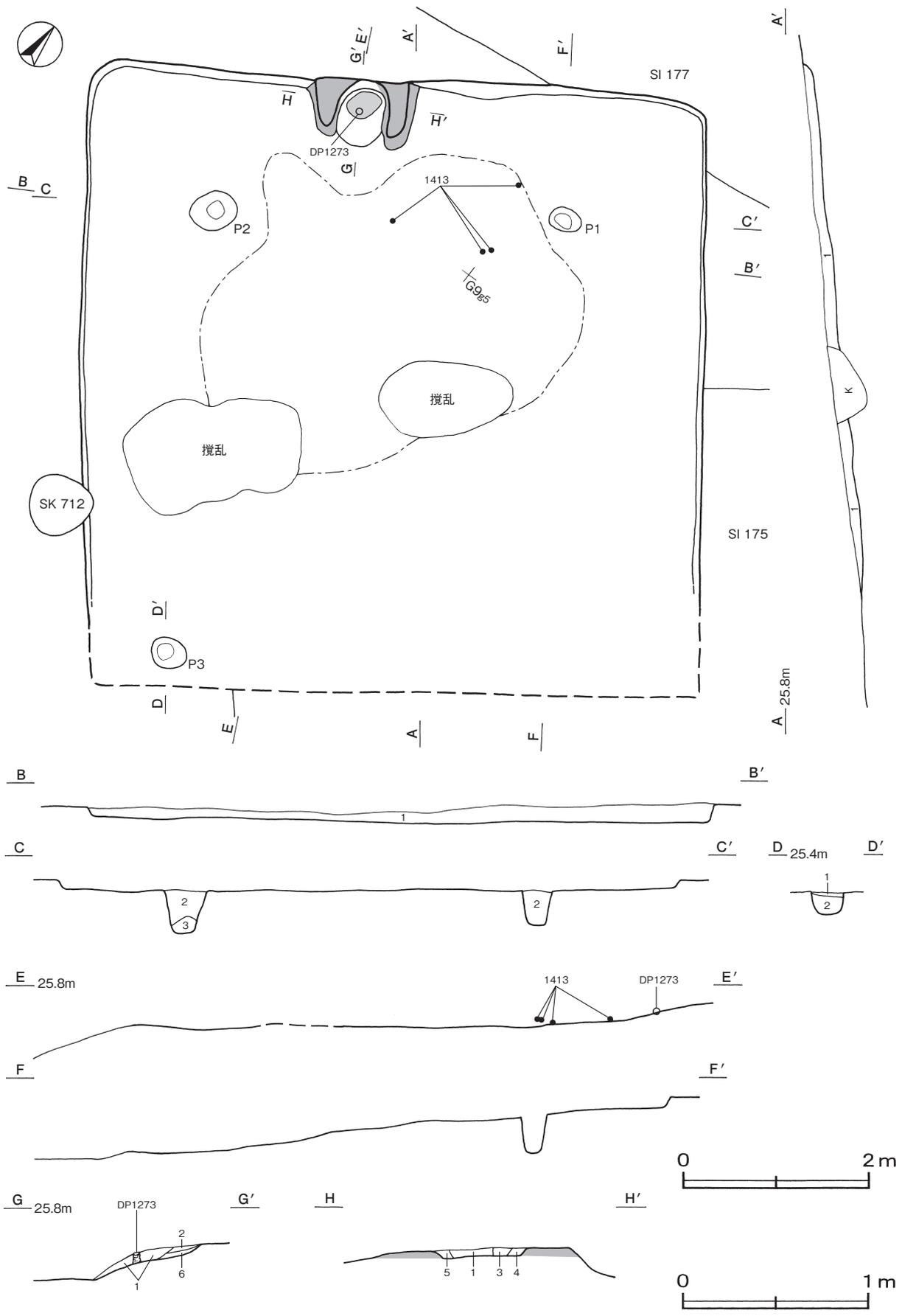
覆土 単一層である。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

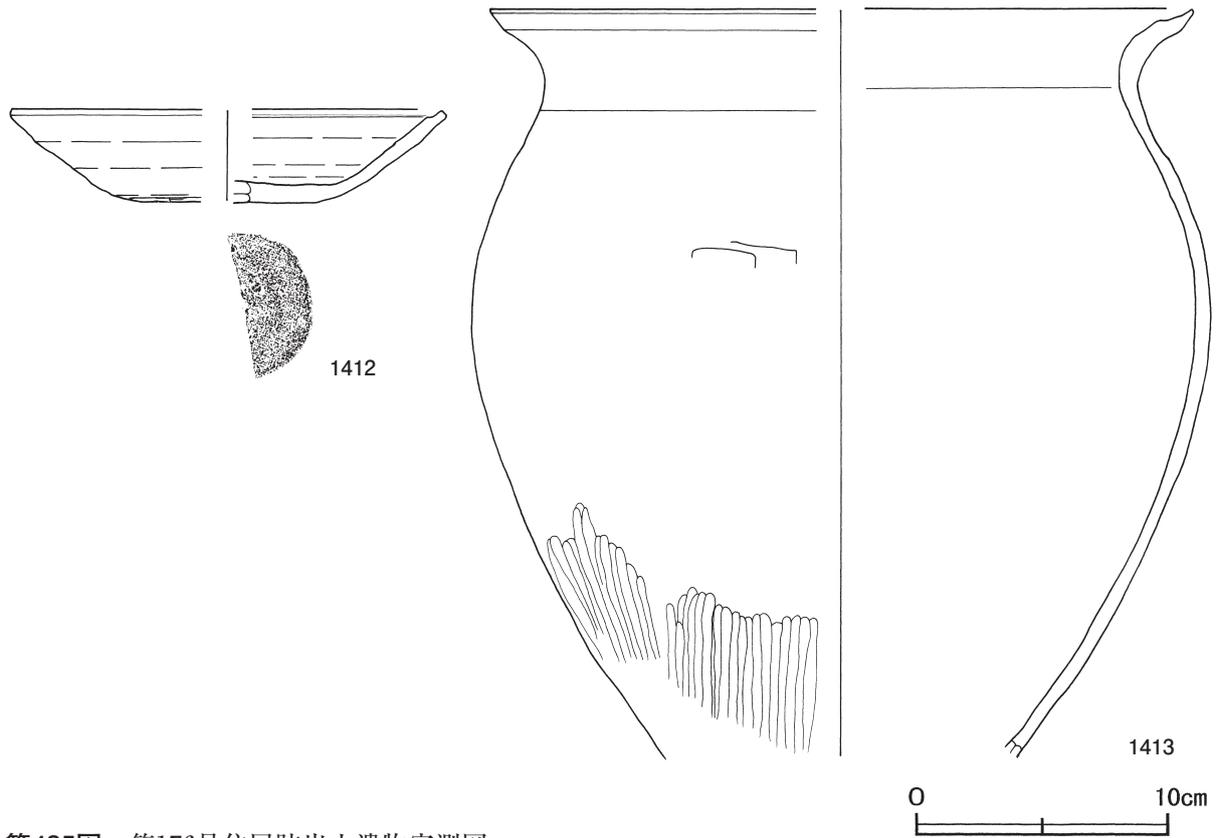
- | |
|-----------------------|
| 1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
|-----------------------|

遺物出土状況 土師器片188点（坏9・甕類179）、須恵器片2点（坏・蓋）、土製品2点（支脚片）が出土している。遺物の大半は竈周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。1412は覆土中、DP1273は竈内からそれぞれ出土している。1413は竈手前の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器と重複関係から9世紀中葉と考えられる。



第484图 第176号住居迹实测图



第485図 第176号住居跡出土遺物実測図

第176住居跡出土遺物観察表（第485図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1412	須恵器	坏	[17.0]	3.7	[5.6]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	40%
1413	土師器	甕	[27.5]	(29.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面上位ヘラナデ, 下位ヘラ磨き	中層～下層	30%

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DPI273	支脚	(8.8)	-	(8.7)	(544.4)	粘土	ナデ 一部欠損	竈内	計測のみ

第177号住居跡（第486・487図）

位置 調査Ⅳ区東部のG 9 e4区, 標高26.0mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第182・190号住居跡を掘り込み, 第176・178号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.26m, 短軸6.55mの長方形で, 主軸方向はN-0°である。壁高は7～38cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 踏み固められていない。

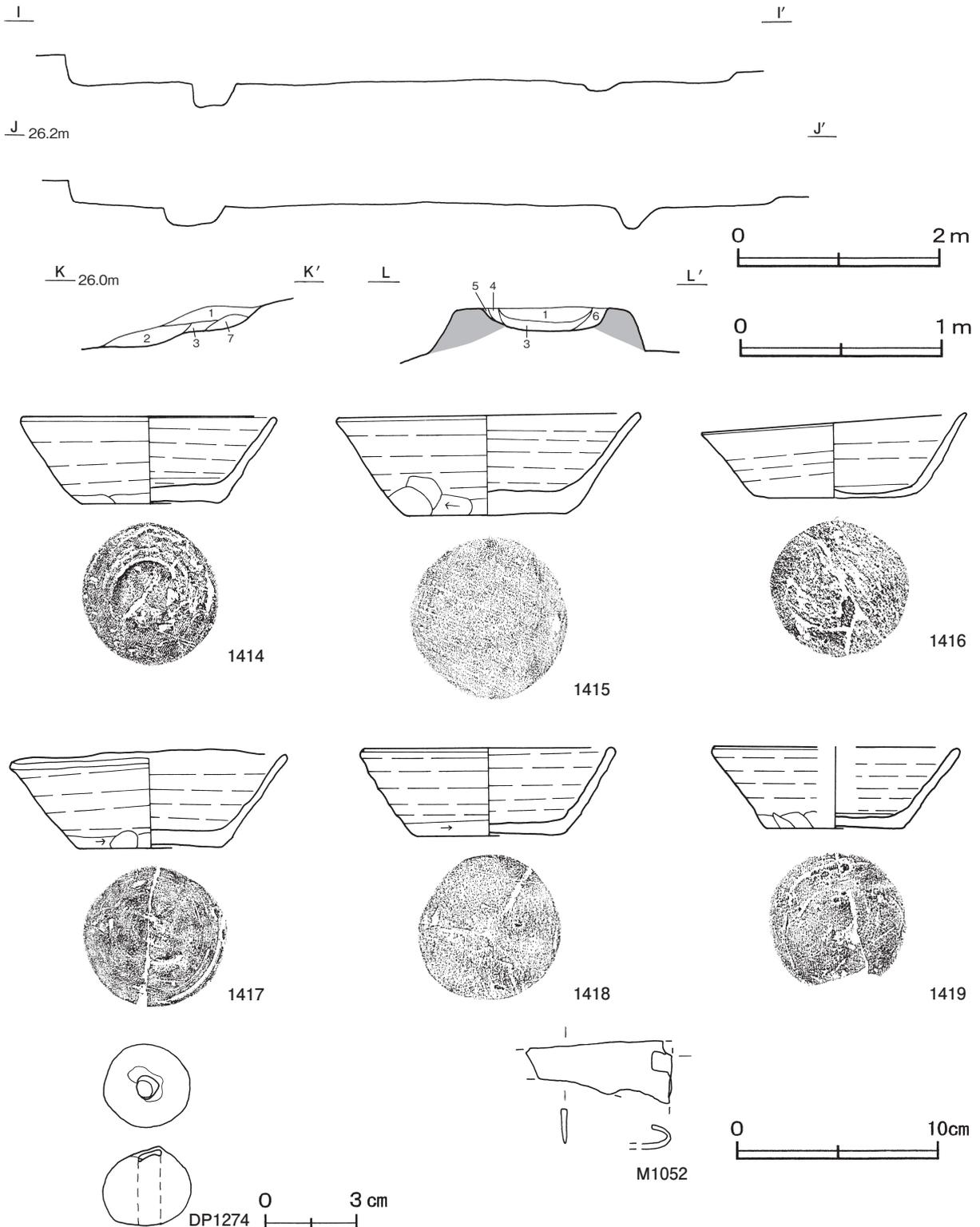
竈 北壁の中央部やや東寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで79cm, 燃烧部幅50cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。第1・7層は天井部の崩落土である。火床部は床面を2cmほどくぼんでおり, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込んでおらず, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子微量 | 3 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・砂粒少量, ロームブロック・粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量 |
| | | 5 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 |

遺物出土状況 土師器片171点（坏42・甕類129），須恵器片40点（坏32・蓋3・甕5），土製品5点（球状土錘1・不明土製品4），鉄製品1点（鎌）が出土している。遺物の大半は竈手前の覆土上層から下層にかけて出土している。1414・1415は竈手前の覆土中層と竈内から出土した破片が，1416は中央部の覆土上層と覆土中から出土した破片が，1417は竈内と覆土中層から出土した破片が，1418は竈左袖部脇の覆土下層と竈内から出土した破片が接合したものである。M1052は中央部の覆土上層から出土している

所見 時期は，出土土器と重複関係から9世紀前葉と考えられる。



第487図 第177号住居跡・出土遺物実測図

第177号住居跡出土遺物観察表（第487図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1414	須恵器	坏	12.5	4.3	6.8	長石・石英	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	中層	90% PL113
1415	須恵器	坏	14.7	5.0	7.8	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	中層	80% PL113
1416	須恵器	坏	13.0	4.1	6.3	長石・石英・雲母・細礫	灰オリーブ	普通	底部手持ちヘラ削り	中層	80% PL113
1417	須恵器	坏	13.6	4.9	7.0	長石・石英	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	竈内・中層	70% PL113
1418	須恵器	坏	12.2	4.4	7.1	長石・石英・細礫	灰オリーブ	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転糸切り後、手持ちヘラ削り	竈内・下層	60%
1419	須恵器	坏	[12.0]	4.1	6.7	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	40%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1274	球状土錘	2.8	2.6	0.8	18.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1052	鎌	(7.2)	(3.15)	0.3	(21.2)	鉄	刀身先端折り返し部欠損	上層	PL121

第178号住居跡（第488図）

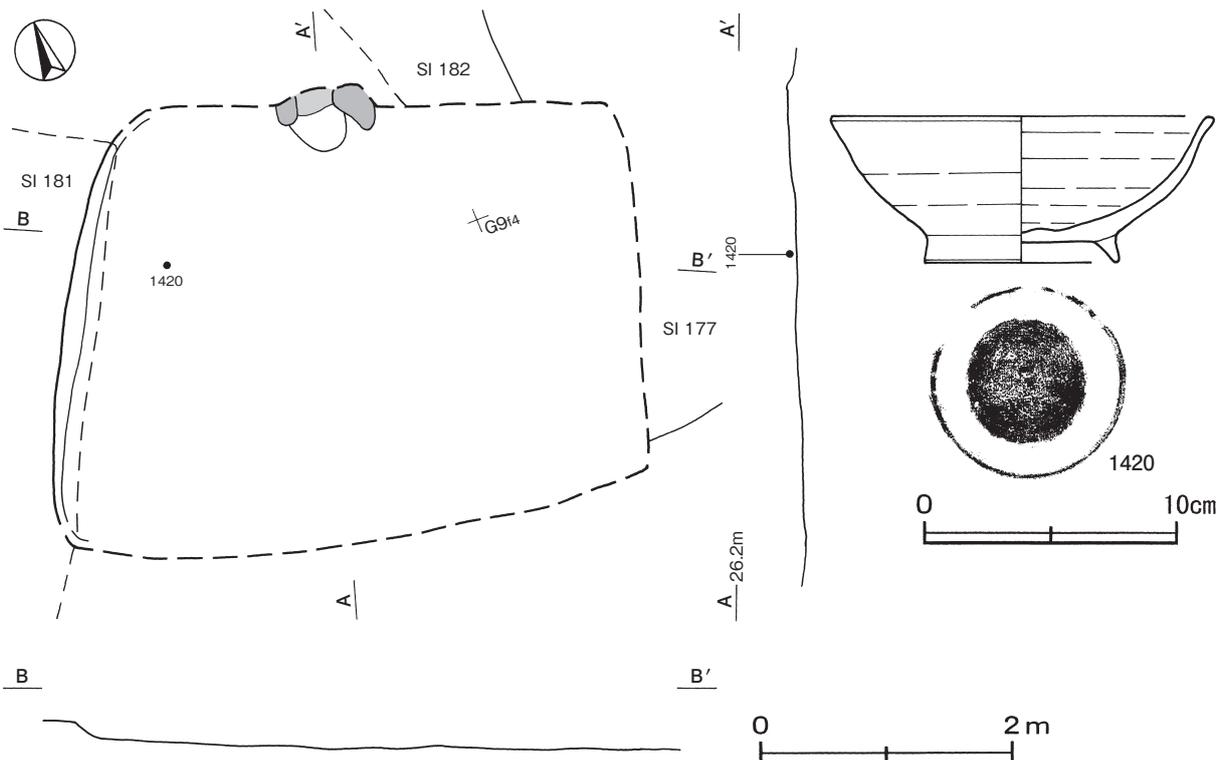
位置 調査Ⅳ区東部のG 9 f3区、標高25.8mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第177・182号住居跡を掘り込んでいる。第181号住居跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 西壁を除き、壁と一部の床が削平されている。竈の位置と床面の広がりから、東西軸が4.60m、南北軸が3.60mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は14cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、踏み固められていない。

竈 北壁の中央部に付設されており、焚き口部・火床部・両袖の一部しか遺存していない。確認できた規模は、焚き口部から火床部奥まで34cm、燃焼部幅42cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築



第488図 第178号住居跡・出土遺物実測図

されている。火床部は床面から6cmほど高く、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。北壁が削平されているため、壁外への掘り込みと立ち上がりは不明である。

遺物出土状況 土師器片1点（高台付椀）が出土している。1420は西壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から9世紀後葉と考えられる。

第178号住居跡出土遺物観察表（第488図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1420	須恵器	高台付杯	14.9	5.7	7.6	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	下層	80% PL113

第180号住居跡（第489図）

位置 調査IV区東部のG 9 e7区、標高25.6mの台地斜面部に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外である。東西軸が5.08mで、南北軸は1.90mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され、主軸方向は不明である。壁高は12～25cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、踏み固められていない。

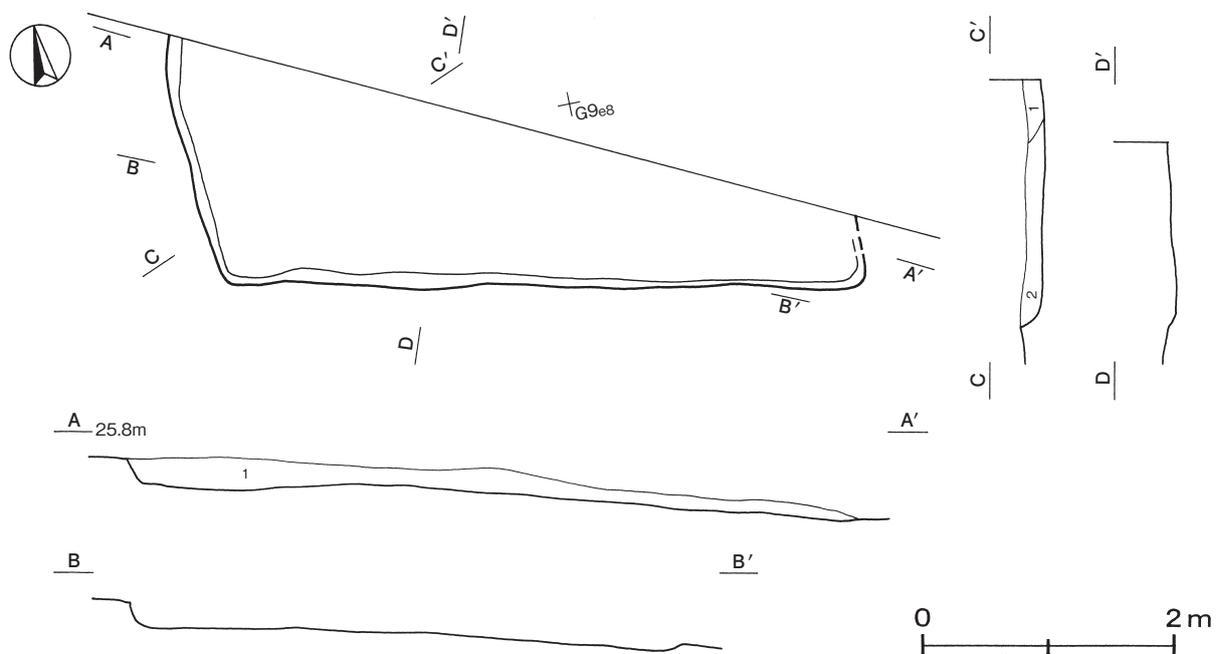
覆土 2層に分けられる。ロームブロック・焼土ブロック・焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
 2 黒色 焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片25点（甕類）、須恵器片6点（坏2・甕4）、土製品3点（支脚片）が出土している。細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から8～9世紀代と考えられる。



第489図 第180号住居跡実測図

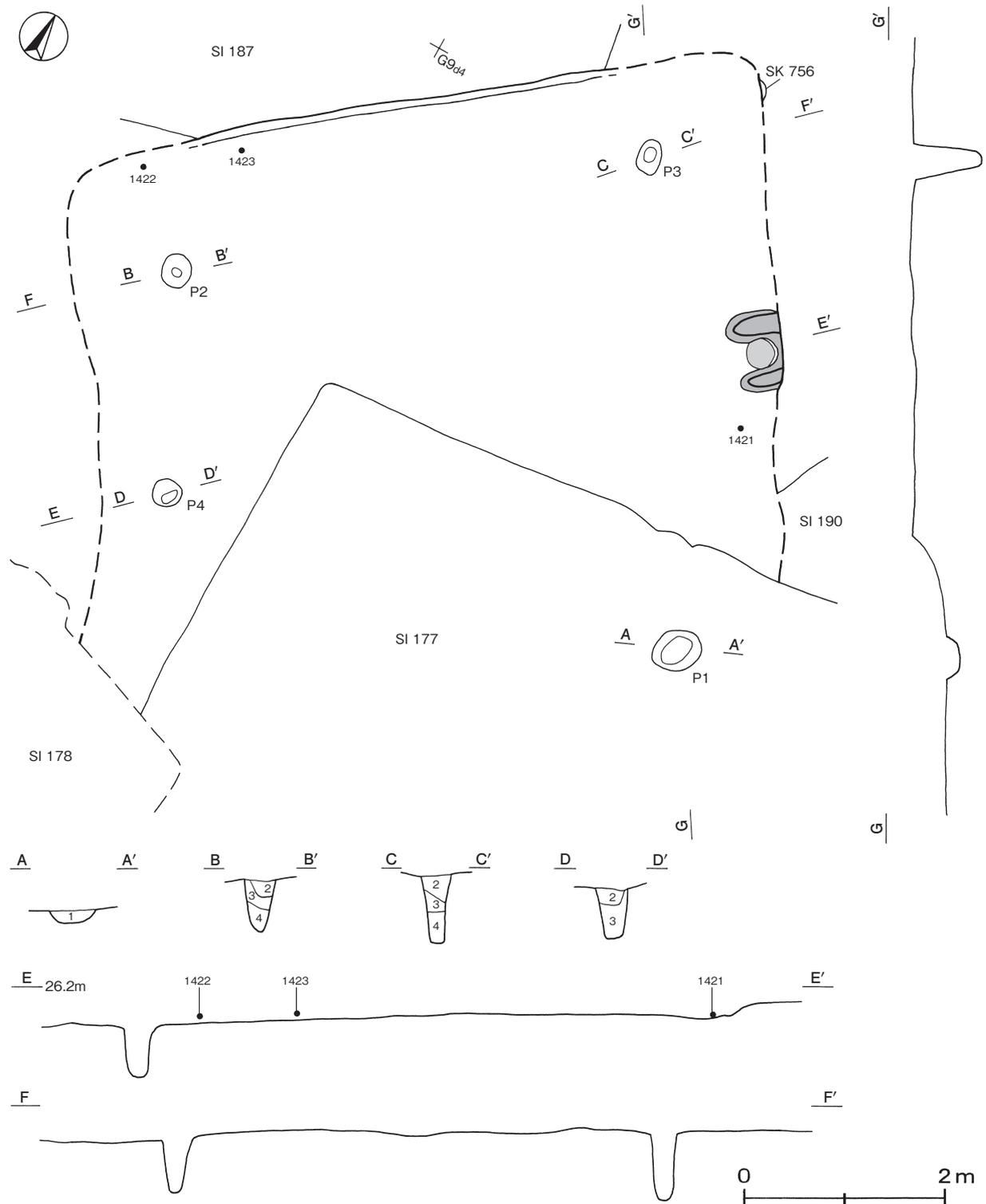
第182号住居跡（第490・491図）

位置 調査Ⅳ区中央部のG 9 d4区，標高26.0mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第187・190号住居跡，第756号土坑を掘り込み，第177・178号住居に掘り込まれている。

規模と形状 壁が削平されており，竈・柱穴の位置と床面の広がりから，北西南東軸が7.26m，北東南西軸が6.92mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され，主軸方向はN-47°-Eである。

床 平坦で，踏み固められていない。



第490図 第182号住居跡実測図

竈 北東壁の中央部やや北寄りに付設されており、袖部と火床部の一部しか遺存していない。規模は、火床部手前から奥まで48cm、燃焼部幅30cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から12cmほど高く、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。北東壁が削平されているため、壁外への掘り込みと立ち上がりは不明である。

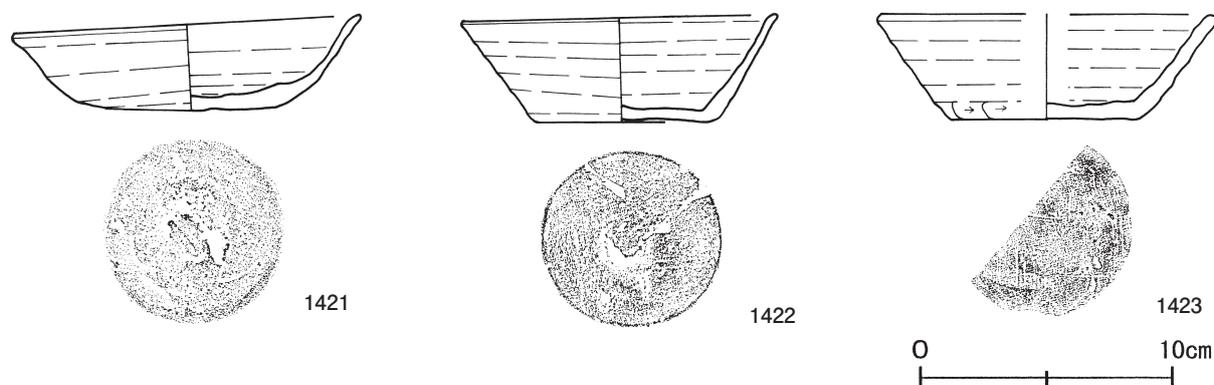
ピット 4か所。P1～P3は深さ46～67cmで、主柱穴である。P4は深さ52cmで、西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック少量 | 4 灰褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片116点（坏20・甕類96）、須恵器片10点（坏5・甕類5）が出土している。遺物の大半は北西部から竈にかけての覆土下層から出土している。1421は竈左部脇、1422・1423は西コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から8世紀後葉と考えられる。



第491図 第182号住居跡出土遺物実測図

第182号住居跡出土遺物観察表（第491図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1421	須恵器	坏	13.7	3.8	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り	下層	90% PL114
1422	須恵器	坏	12.5	4.3	7.1	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り	下層	80% PL114
1423	須恵器	坏	[13.2]	4.2	7.5	長石・雲母	オリーブ黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	30%

第189号住居跡（第492～495図）

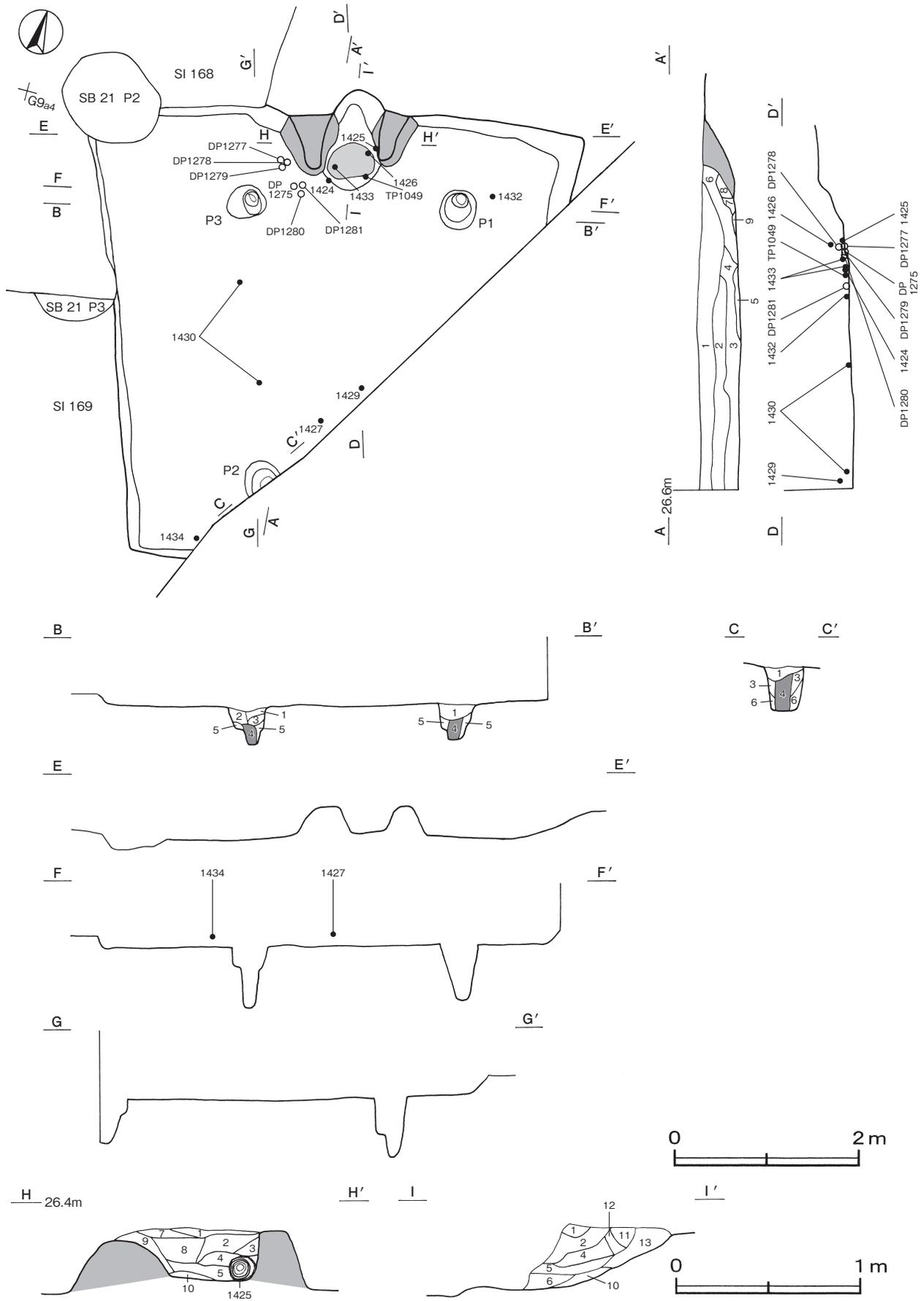
位置 調査Ⅳ区中央部のG9a4区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第169号住居跡を掘り込み、第168号住居、第21号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が調査区域外であるが、長軸5.05m、短軸4.96mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は16～18cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、全面が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで109cm、燃焼部幅50cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から3cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に29cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。



第492图 第189号住居跡実測図

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 粘土粒子ブロック・焼土粒子・砂粒微量	8 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, 炭化物微量
2 褐色	ロームブロック微量	9 灰褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量, ローム粒子・砂粒微量
3 暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量	10 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
4 灰褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量	11 灰褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量	12 灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 粘土粒子・砂粒微量
6 灰褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒微量	13 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量
7 にぶい褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・粘土粒子微量		

ピット 3か所。P1～P3は深さ48～65cmで、支柱穴である。第4層は柱痕である。

ピット土層解説

1 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	4 灰褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ロームブロック少量	5 褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック微量	6 暗褐色	ロームブロック少量

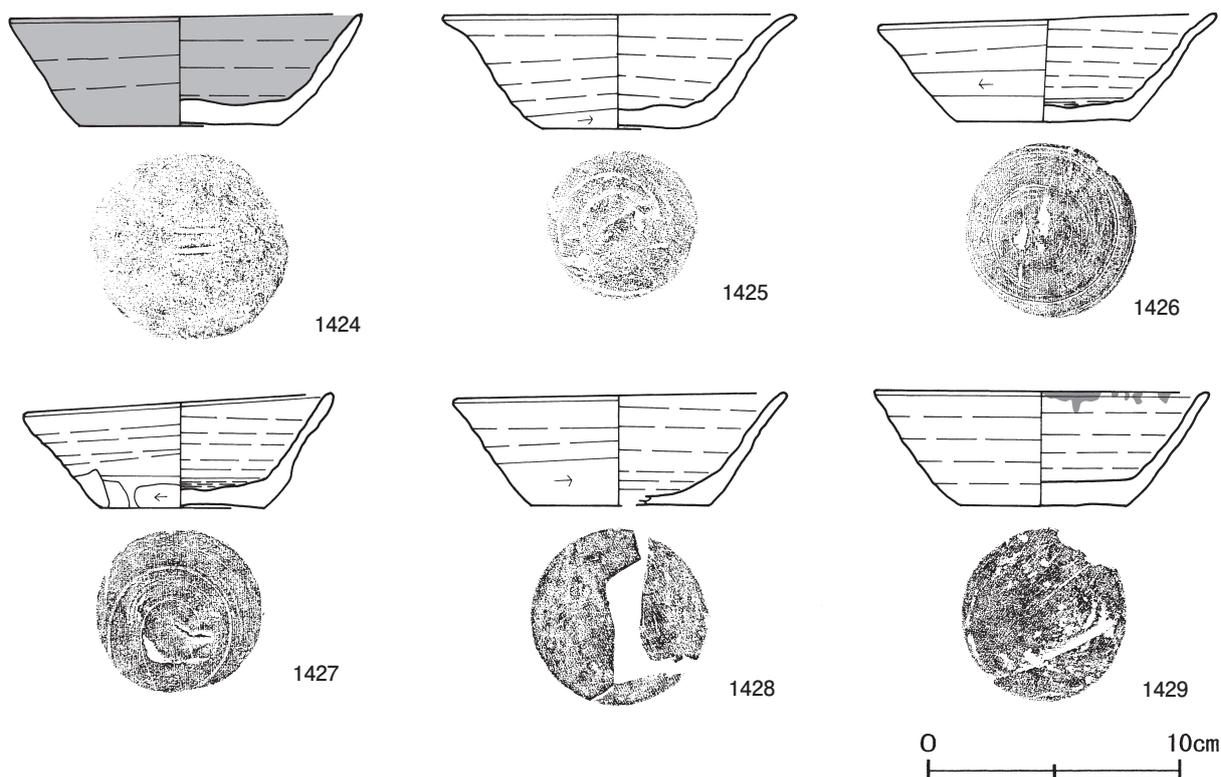
覆土 9層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

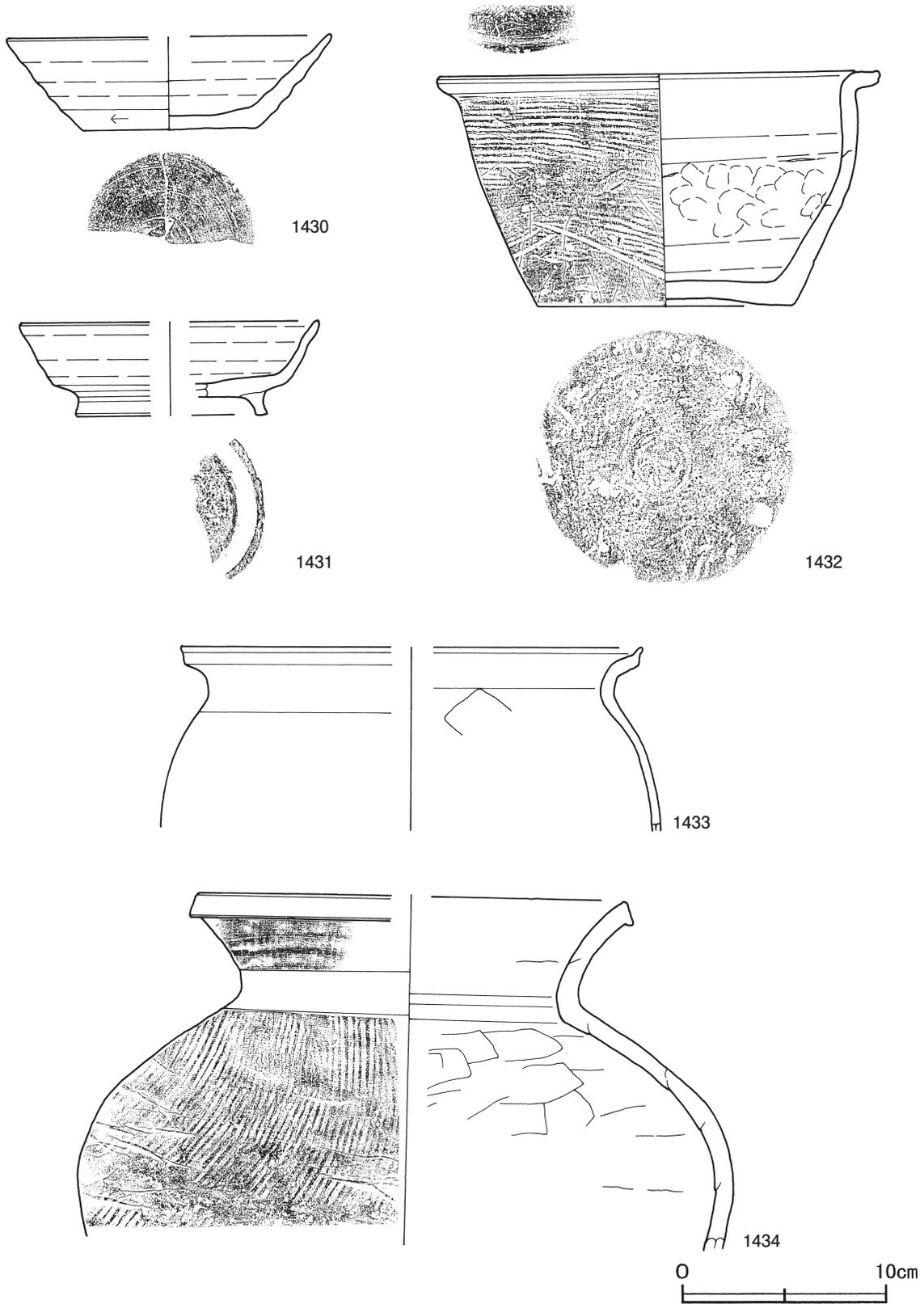
1 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	6 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量	7 灰褐色	粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	8 にぶい褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	9 にぶい褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量
5 灰褐色	ロームブロック・砂粒少量, 焼土粒子・粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片305点（坏16・高台付椀1・甕類288），須恵器片74点（坏36・高台付坏5・蓋8・鉢1・甕23・甌1），土製品17点（球状土錘2・管状土錘4・支脚片1・不明土製品10）が出土している。遺物の大半は竈内と竈手前から中央部にかけての覆土下層から出土している。1424は竈手前，1427・1429・1430は中央部，1432は北東コーナー部，1434は南西コーナー部の覆土下層，1425・1426・1428は竈内，DP1275・DP1277～DP1281は竈左袖部の脇からそれぞれ出土している。

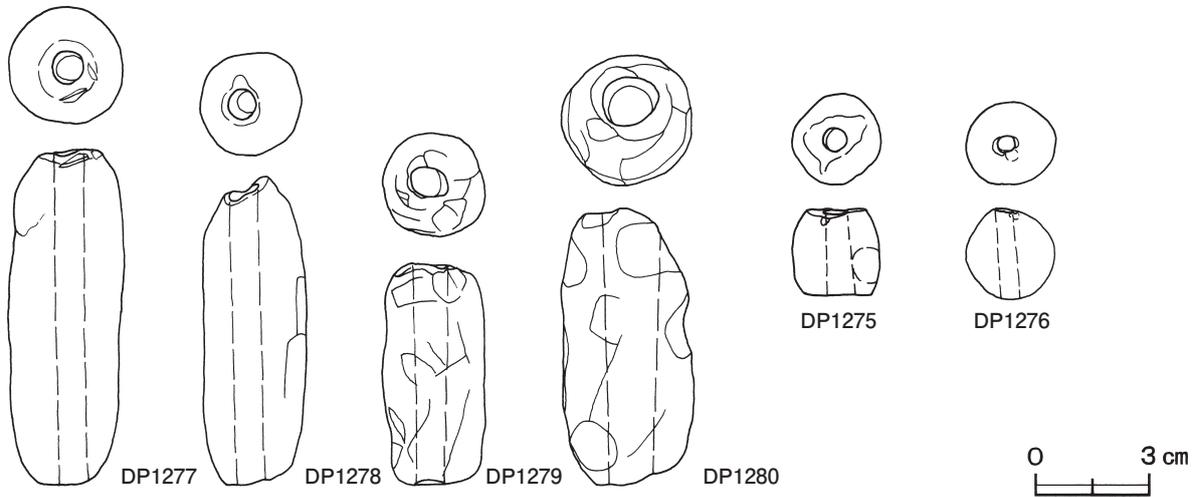
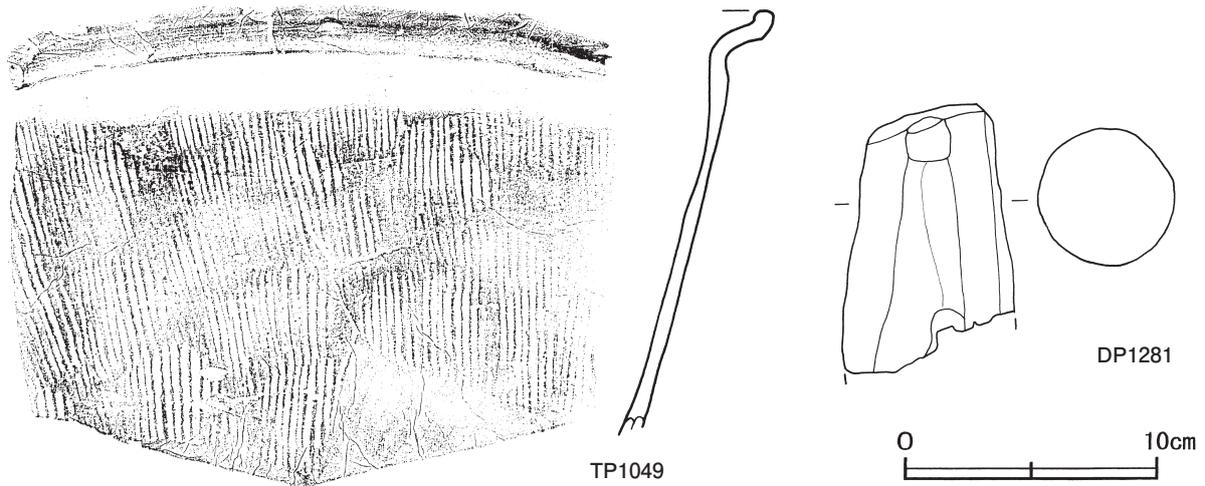
所見 時期は，出土土器と重複関係から9世紀前葉と考えられる。



第493図 第189号住居跡出土遺物実測図(1)



第494図 第189号住居跡出土遺物実測図(2)



第495図 第189号住居跡出土遺物実測図(3)

第189号住居跡出土遺物観察表 (第493 ~ 495図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1424	土師器	坏	13.8	4.4	7.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙黒	普通	底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り「二」	下層	90% PL114
1425	須恵器	坏	13.8	4.5	6.0	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	竈内	100% PL114
1426	須恵器	坏	13.2	4.2	6.9	長石・石英	黄灰	普通	体部回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	竈内	90% PL114
1427	須恵器	坏	12.0	4.5	6.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	80% PL114
1428	須恵器	坏	12.8	4.5	7.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部回転ヘラ削り	竈内	80% PL114
1429	須恵器	坏	13.1	4.5	6.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部手持ちヘラ削り 口縁部油煙付着	下層	60% PL114
1430	須恵器	坏	[15.7]	4.6	8.2	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り	下層	40%
1431	須恵器	高台付坏	[14.5]	4.6	[9.2]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中	30%
1432	須恵器	鉢	21.1	11.6	12.4	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部横位の平行叩き下位ヘラ削り 内面当具痕	下層	90% PL114
1433	土師器	甕	[22.4]	(9.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ	竈内	10%
1434	須恵器	甕	[20.7]	(17.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部横位の平行叩き 内面ヘラナデ 輪積痕	下層	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1049	須恵器	甕	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	縦位の平行叩き 内面円形の当て具痕	竈内下層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1275	球状土錘	2.3	2.3	0.7~0.8	11.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部ヘラナデ	下層	
DP1276	球状土錘	2.6	2.4	0.5~0.6	11.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1277	管状土錘	3.0	8.9	0.8	67.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL117
DP1278	管状土錘	2.7	8.2	0.7	67.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	PL117
DP1279	管状土錘	2.8	5.8	0.9	50.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部ヘラナデ	下層	PL117
DP1280	管状土錘	3.5	7.3	1.4	69.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部ヘラナデ	下層	PL117

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1281	支脚	(10.4)	5.0	-	(257.5)	粘土	ナデ 一部ヘラナデ 一部欠損	下層	

表30 竪穴住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)		壁溝	柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	炉・竈				
167	G 8 b5	N-76°-E	[長方形・方形]	6.32×(4.34)	14	平坦	-	-	-	-	-	竈2	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 鉄滓	9世紀後葉	
168	F 9 i3	N-5°-W	[方形]	(6.00)×5.78	4	平坦	一部	4	1	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 支脚, 鎌	9世紀後葉	SI169・188・189, SB21 → 本跡
173	G 8 b9	N-5°-W	方形	6.94×6.64	5~10	平坦	-	2	-	-	-	-	不明	土師器, 須恵器, 砥石, 支脚	9世紀中葉	本跡 → SK703・705・706・730
176	G 9 g4	N-33°-W	[長方形・方形]	6.74×(6.68)	8~17	平坦	-	2	-	1	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 支脚	9世紀中葉	SI175・177 → 本跡 → SK712
177	G 9 e4	-	長方形	7.26×6.55	7~38	平坦	-	4	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 鎌	9世紀前葉	SI182・190 → 本跡 → SI176・178
178	G 9 f3	N-12°-E	[長方形・方形]	(4.60)×(3.60)	14	平坦	-	-	-	-	-	竈1	不明	土師器	9世紀後葉	SI177・182 → 本跡, SI181 との新田不明
180	G 9 e7	不明	[長方形・方形]	5.08×(1.90)	12~25	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 支脚	8~9世紀代	
182	G 9 d4	N-47°-E	[長方形・方形]	(7.26)×(6.92)	-	平坦	-	3	1	-	-	竈1	不明	土師器, 須恵器	8世紀後葉	SI187・190, SK756 → 本跡 → SI177・178
189	G 9 a4	N-15°-W	方形	5.05×4.96	16~18	平坦	-	3	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 管状土錘, 支脚	9世紀前葉	SI169 → 本跡 → SI168, SB21

(2) 掘立柱建物跡

第21号掘立柱建物跡 (第496図)

位置 調査Ⅳ区北部のF 9 j3区で、標高26.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第169・188・189号住居跡を掘り込み、第168号住居に掘り込まれている。

規模と構造 北部が調査区域外で、また攪乱を受けているため、北梁行は確認できなかった。桁行は3間以上、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-5°-Wの南北棟である。規模は、桁行が6.80m以上、梁行4.80mである。柱間寸法は、桁行が2.25m(7尺5寸)、梁行は東から1.8m(6尺)、2.7m(9尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形で、深さは30~50cmである。土層は、P5~P8の第1層が柱痕跡で、柱の形状が残っている。P1~P4の第3層は柱抜き取り痕である。第3~5層は埋土で、強く突き固められている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	4 褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック中量	5 褐色	ロームブロック中量
3 灰褐色	ロームブロック多量		

遺物出土状況 土師器片143点(坏70・高台付坏2・甕類71)、須恵器片19点(坏5・甕類13・甌1)が出土している。1435・1436・TP1050は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、梁行が均等ではないが、柱穴の掘方が中世の建物跡と比べ大きいことや出土土器の様相、重複関係から9世紀代と考えられる。当遺跡で確認されている遺構の類例から納屋あるいは倉と推測される。

第21号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第496図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1435	土師器	坏	[18.0]	(3.6)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内面へら磨き	覆土中	5%
1436	土師器	坏	-	(1.7)	7.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面へら磨き	P 7内	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1050	須恵器	鉢	長石・石英・雲母	灰	普通	横位の平行叩き	覆土中	

(3) 土坑

第715号土坑（第497図）

位置 調査Ⅳ区中央部のG 9 g3区で、標高25.7mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.20m、短径0.92mの不整楕円形で、長径方向はN-4°-Wである。深さは57cmで、底面は皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

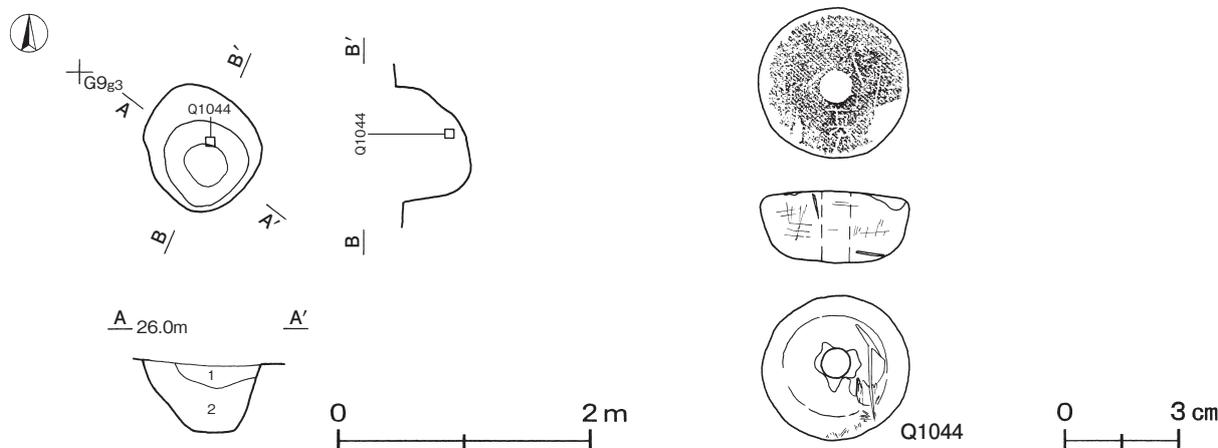
覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含み、不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 2 極暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片28点（坏10・甕類18）、須恵器片3点（甕類）、石製品1点（紡錘車）が出土している。Q1044は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられるが、性格は不明である。



第497図 第715号土坑・出土遺物実測図

第715号土坑出土遺物観察表（第497図）

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1044	紡錘車	3.9	1.85	0.8	45.2	滑石	上面底面に擦痕 一方向からの穿孔	下層	上面刻書「真」カ PL120

第759号土坑（第498図）

位置 調査Ⅳ区西部のG 8 c8区で、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.09m、短径1.23mの長楕円形で、長径方向はN-68°-Eである。深さは47cm、底面は凹凸で、壁は外傾して立ち上がっている。

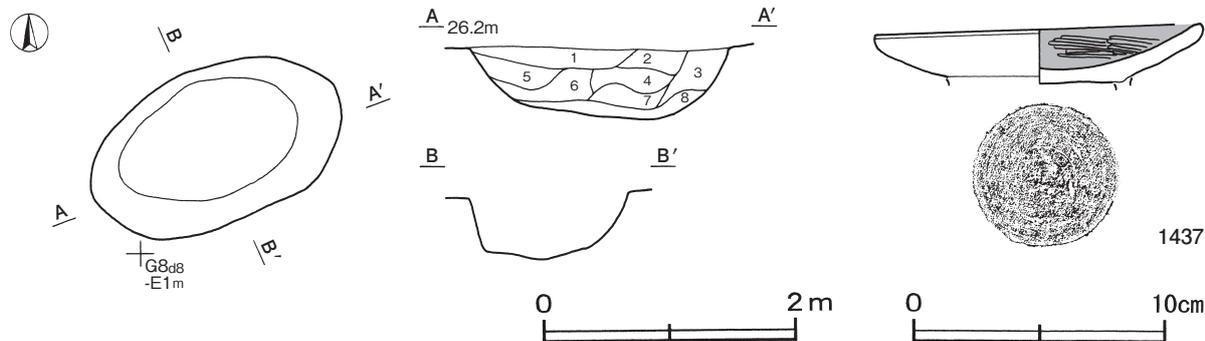
覆土 8層に分けられる。ロームブロックや焼土を含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片18点(坏3・高台付皿1・甕類14), 礫4点が出土している。1437は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられるが, 性格は不明である。



第498図 第759号土坑・出土遺物実測図

第759号土坑出土遺物観察表 (第498図)

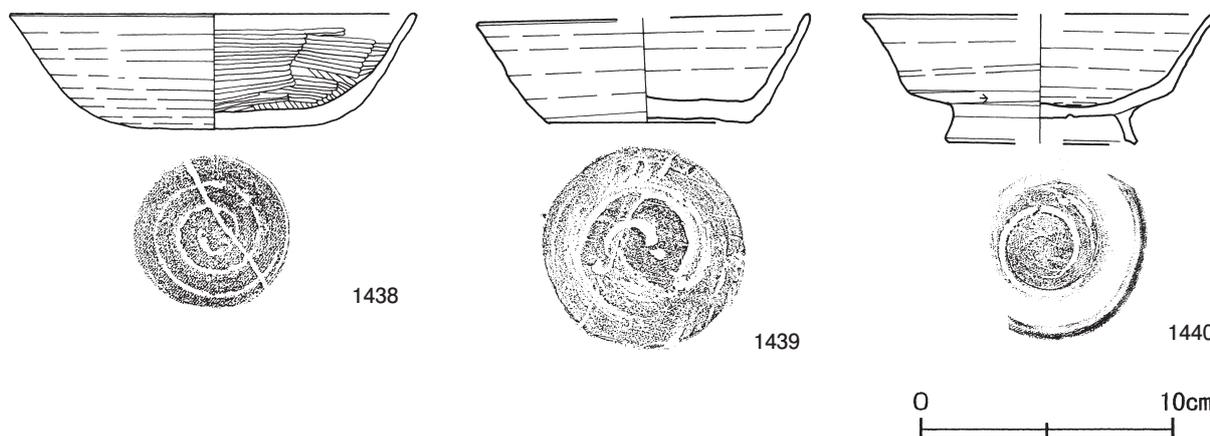
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1437	土師器	高台付皿	12.8	(2.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け 内面ヘラ磨き	覆土中	90%

表31 土坑一覧表

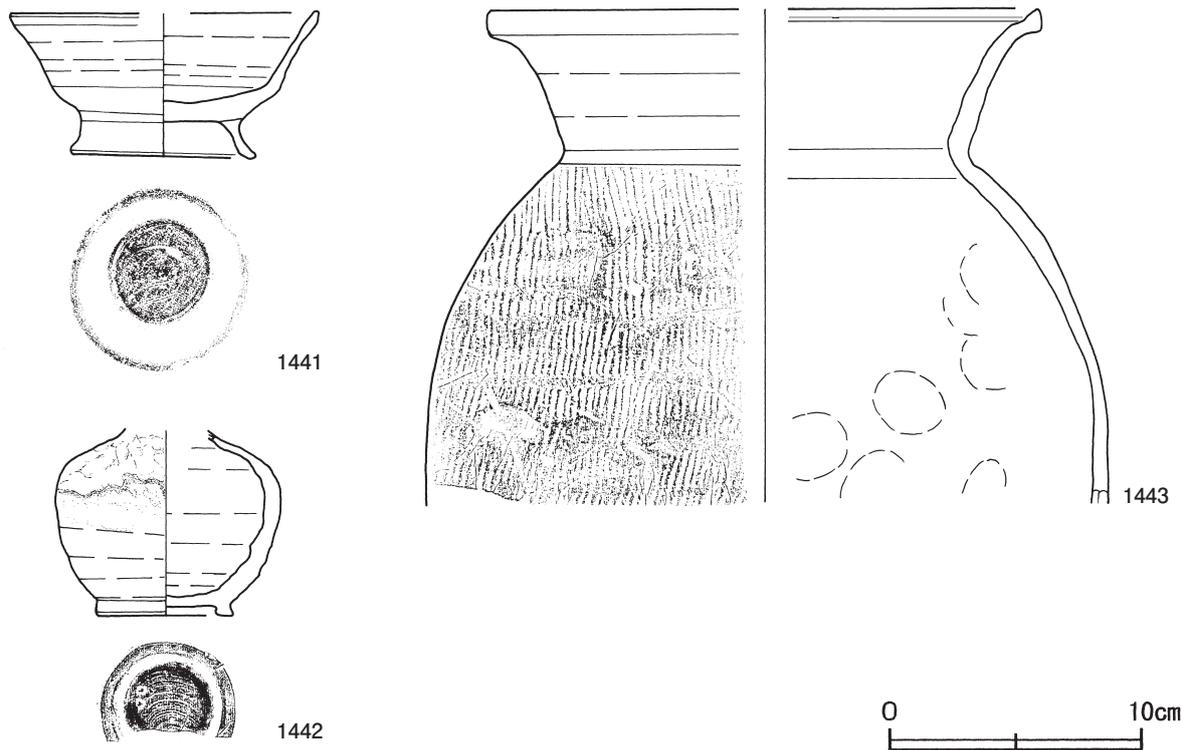
遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸 (m)	深さ (cm)						
715	G 9 g3	N-4°-W	不整長方形	1.20 × 0.92	57	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器, 石製紡錘車	9世紀代	
759	G 8 c8	N-68°-E	長楕円形	2.09 × 1.23	47	凹凸	外傾	人為	土師器, 磁器	9世紀後葉	

(4) 遺構外出土遺物 (第499・500図)

今回の調査で, 表土層などから遺構に伴わない奈良・平安時代の遺物が出土している。ここでは, 特徴的な遺物について, 実測図及び遺物観察表で掲載する。



第499図 遺構外出土遺物実測図(1)



第500図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第499・500図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1438	土師器	坏	16.0	4.6	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	内面横位のへら磨き	SI170 覆土中	80% PL115
1439	須恵器	坏	[13.0]	4.3	8.0	長石・石英・雲母	オリーブ灰	普通	体部下端回転へら削り。底部回転へら切り後、手持ちへら削り	SI170 覆土中	70% PL115
1440	須恵器	高台付坏	[13.8]	5.2	[7.5]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端回転へら削り	SI170 覆土中	70% PL115
1441	須恵器	高台付坏	[12.1]	5.8	7.1	長石・石英	灰	良好	底部回転へら切り後、ナデへら書き「二」	SI170 覆土中	70% PL115
1442	須恵器	壺	-	(7.4)	5.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面自然釉 粘土塊貼り付け 底部回転糸切り	表面採集	40% PL115
1443	須恵器	甕	[21.8]	(19.7)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部平行叩き 内面円形の当て具痕	表面採集	20%

4 中世・近世の遺構と遺物 (第501図)

重複関係から古墳、奈良・平安時代の遺構より新しく、陶磁器類が出土している覆土の様相が同じ14基の土坑の時期について中世・近世と判断した。性格は不明で、遺物も細片のため図示できないことから規模・形状等について実測図及び一覧表で掲載する。

土坑

第702号土坑土層解説

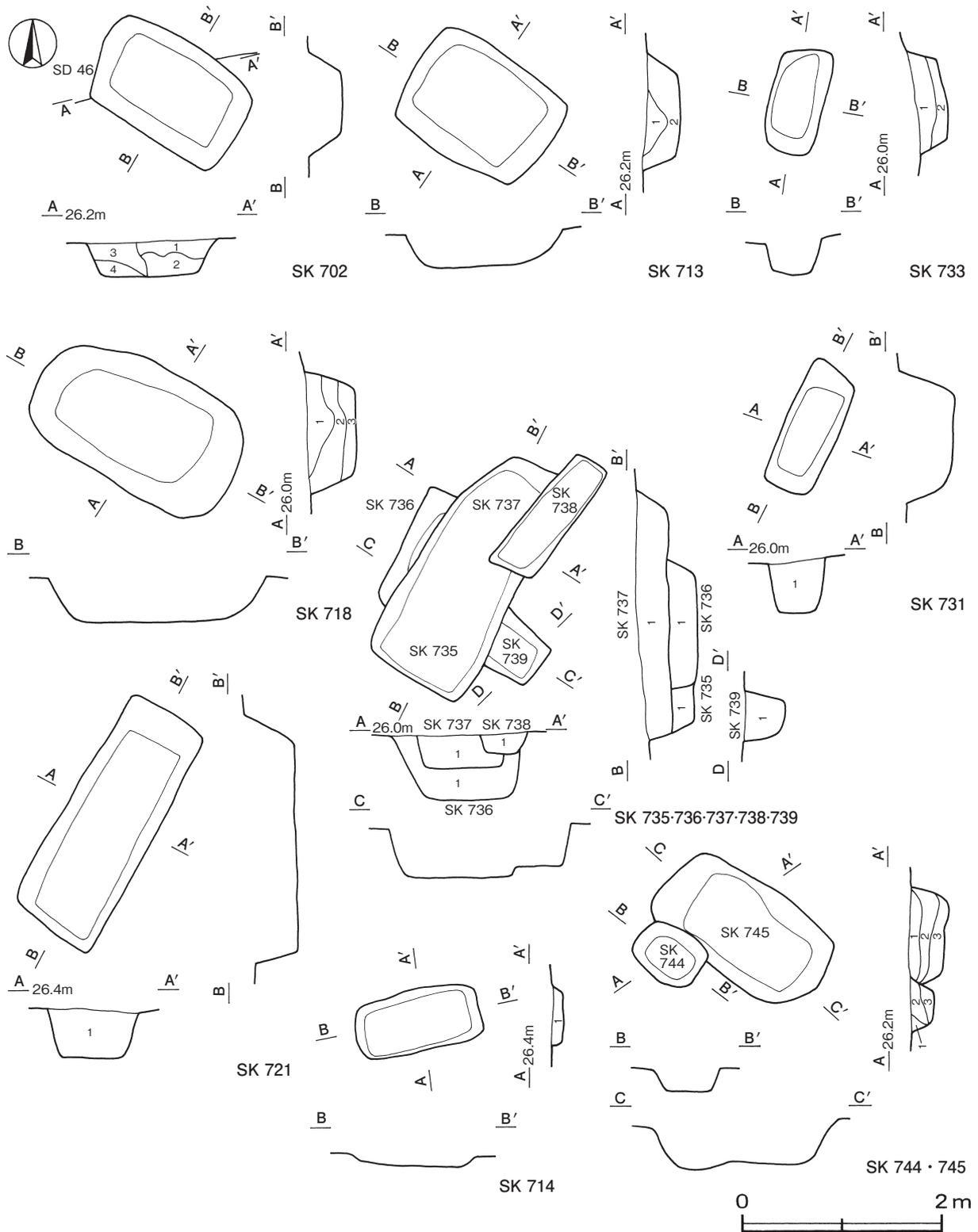
- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック中量

第713号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第714号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量



第501図 土坑実測図

第718号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第721号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第731号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第733号土坑土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック少量

第735号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

第736号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

第737号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第738号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第739号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

第744号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

3 褐色 ロームブロック中量

第745号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

表32 土坑一覧表

遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
702	F 8 j6	N - 56° - W	長方形	1.51×1.02	37	平坦	緩傾	人為	土師器・陶器	中世・近世	SD46→本跡
713	G 8 a7	N - 57° - W	長方形	1.57×1.19	30	平坦	外傾	自然	土師器・須恵器	中世・近世	
714	F 9 j0	N - 76° - E	長方形	1.25×0.61	10	平坦	緩傾	自然	土師器	中世・近世	SI170→本跡
718	G 8 d7	N - 59° - W	楕円形	2.18×1.25	47	平坦	外傾 緩斜	自然	-	中世・近世	
721	G 9 c1	N - 28° - E	長方形	2.50×0.92	46	平坦	外傾 緩斜	自然	-	中世・近世	
731	G 8 d8	N - 24° - E	長方形	1.35×0.55	55	平坦	外傾	自然	-	中世・近世	
733	G 8 e8	N - 15° - E	楕円形	1.07×0.55	32	平坦	外傾	自然	-	中世・近世	
735	F 8 e9	N - 34° - E	不明	0.88×(0.42)	(50)	平坦カ	緩傾	自然	-	中世・近世	SI185→本跡→SK736・737 新旧不明 SK739
736	G 8 e9	N - 25° - E	[方形]	1.30×(1.29)	66	平坦	外傾	人為	-	中世・近世	SI185, SK735・739 →本跡→SK737・738
737	G 8 e9	N - 33° - E	不整長方形	2.52×1.13	32	平坦	外傾	自然	-	中世・近世	SI185, SK735・739SK446 →本跡→SK738
738	G 8 e9	N - 42° - E	長方形	1.36×0.48	18	平坦	外傾	自然	-	中世・近世	SI185, SK736・737→本跡
739	G 8 f9	N - 51° - W	不明	0.58×(0.58)	40	平坦	外傾	自然	-	中世・近世	SI185→本跡→SK736・737 新旧不明 SK735
744	G 9 d2	N - 52° - W	楕円形	0.69×0.56	23	平坦	緩斜	人為	-	中世・近世	SI187, SK745→本跡
745	G 9 d2	N - 45° - W	長方形	1.77×0.99	43	凹凸	緩斜	自然	縄文土器・土師器・須恵器	中世・近世	SI187→本跡→SK744

5 その他の遺構と遺物

攪乱や削平により遺存率が悪い遺構や時期を特定する出土遺物がない遺構は、竪穴住居跡6軒、溝跡9条、土坑40基が確認されている。以下、住居跡と溝跡については遺構及び遺物について記述する。また、土坑については、性格・時期も不明であるため、実測図及び一覧表で掲載する。

(1) 竪穴住居跡

第172号住居跡 (第502図)

位置 調査Ⅳ区中央部のG 8 b7区, 標高26.1mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 壁が削平されており, 硬化面の広がりや竈の位置から確認できた規模は, 南北軸4.00m, 東西軸4.00mで, 主軸方向がN - 81° - Eの長方形または方形と推測される。

床 平坦で、竈手前が踏み固められている。

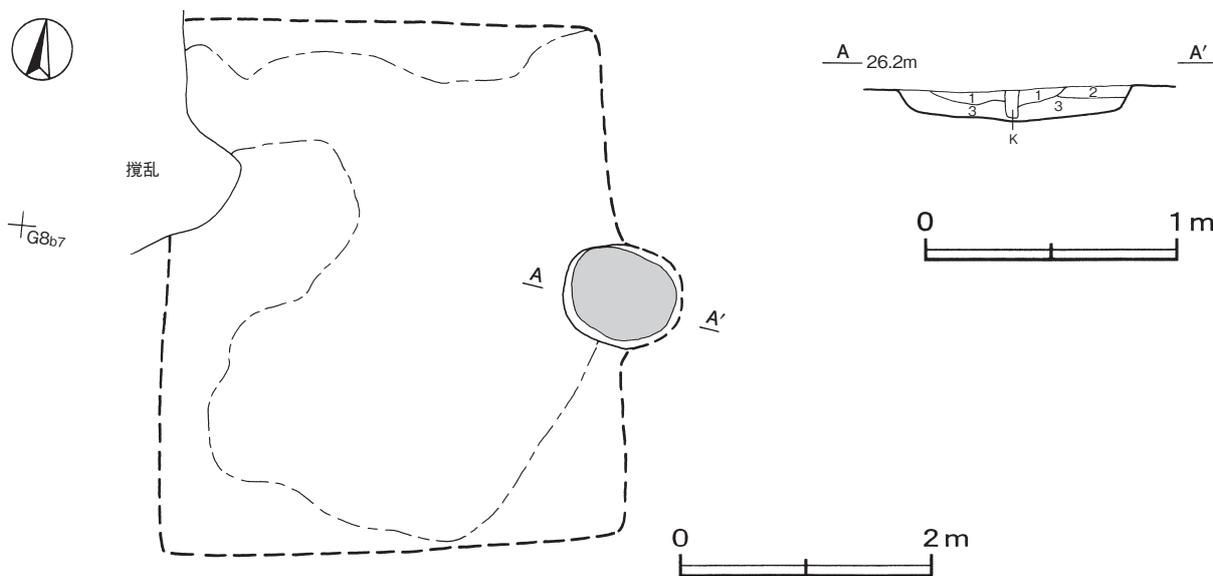
竈 東壁の中央部に付設されていたと推測され、火床部しか遺存していない。確認できた規模は、火床部手前から奥まで94cm、燃焼部幅70cmである。火床部は床面から12cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。東壁が削平されているため、壁外への掘り込みは不明である。

竈土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック少量
- 2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片7点（坏2・甕類5）、土製品1点（球状土錘）、金属製品1点（釘）が出土している。DP1282は覆土中から出土している。

所見 出土土器は細片で、時期の特定が難しいため、時期は不明である。



第502図 第172号住居跡実測図

第172号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1282	球状土錘	(2.7)	2.4	(0.3)	(9.3)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 欠損	覆土中	計測のみ

第181号住居跡（第503図）

位置 調査Ⅳ区中央部のG 9e2区、標高25.9mの台地緩斜面部に位置している。

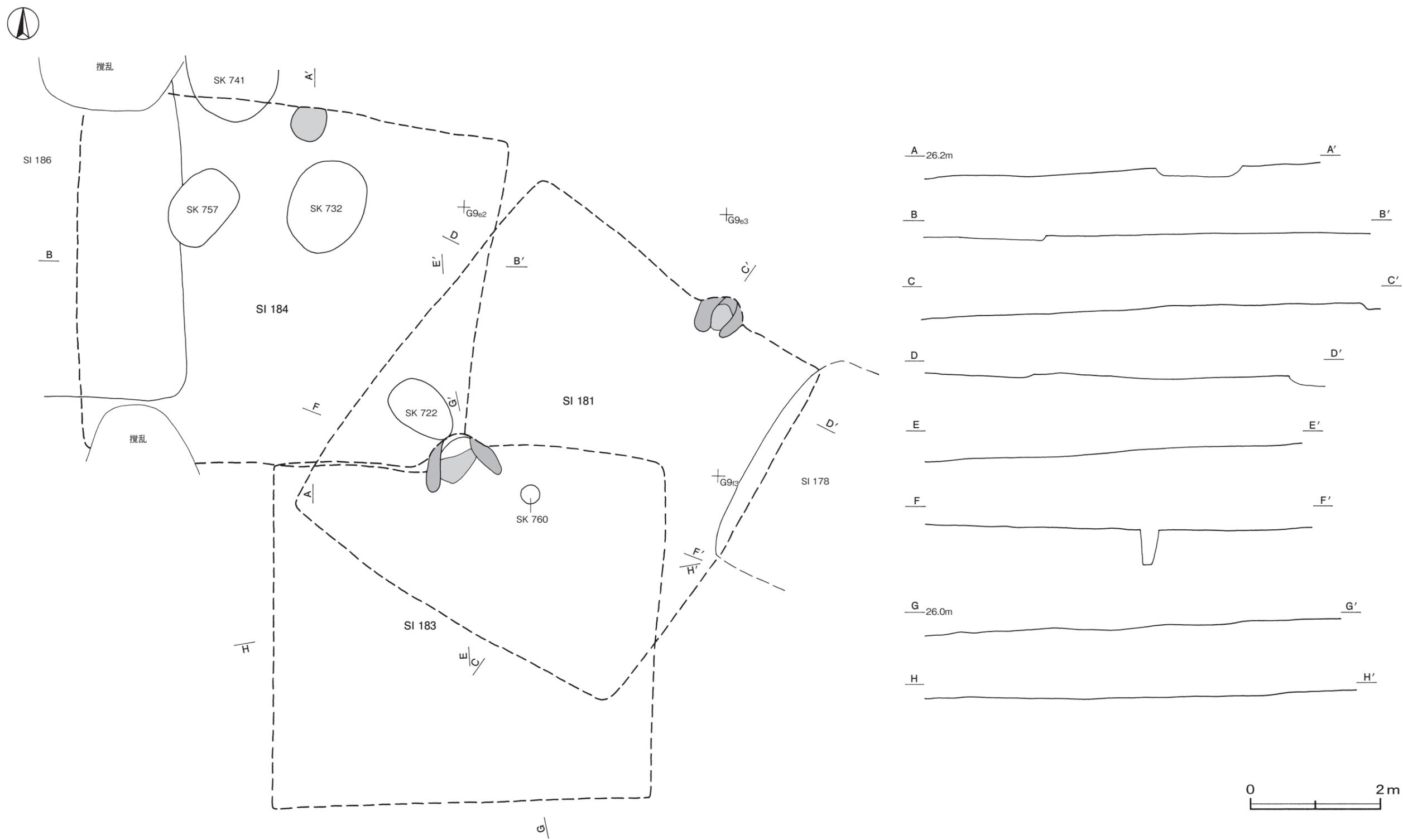
重複関係 第178・183・184号住居、第722・760号土坑と重複していると推測されるが、新旧関係は不明である。

規模と形状 壁と床が削平されている。竈の位置と遺物の広がりから推測した規模は、北東南西軸が6.36m、北西南東軸が5.82mである。主軸方向がN-32°-Eの長方形または方形と推測される。

竈 北東壁の中央部に付設されていたと推測される。火床部と袖部の粘土痕しか遺存していない。確認できた規模は、火床部手前から奥まで54cm、燃焼部幅30cmである。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。北東壁が削平されているため、壁外への掘り込みと立ち上がりは不明である。

遺物出土状況 土師器片20点（坏5・甕類15）、須恵器片2点（坏・甕類）、土製品5点（不明土製品）が出土している。細片のため、図示できなかった。

所見 出土土器は流れ込みや混入の可能性が高く、時期は不明である。



第503图 第181·183·184号住居跡实测图

第183号住居跡（第503図）

位置 調査Ⅳ区中央部のG 9 f2区，標高25.9mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第181・184号住居，第722・760号土坑と重複していると推測されるが，新旧関係は不明である。

規模と形状 壁と床が削平されている。竈の位置と遺物の広がりから推測した規模は，東西軸が5.95m，南北軸が5.46mである。主軸方向がN-16°-Wのの長方形または方形と推測される。

竈 北壁の中央部に付設されていたと推測される。火床部と袖部の粘土痕しか遺存していない。確認できた規模は，火床部手前から奥まで40cm，燃烧部幅64cmである。火床部は床面と同じ高さで，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。北壁が削平されているため，壁外への掘り込みと立ち上がりは不明である。

遺物出土状況 土師器片8点（坏2・甕類6）が出土している。細片のため，図示できなかった。

所見 出土土器は流れ込みや混入の可能性が高く，時期は不明である。

第184号住居跡（第503図）

位置 調査Ⅳ区中央部のG 9 e1区，標高26.1mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第181・183・186号住居，第722・732・741・757号土坑と重複していると推測されるが，新旧関係は不明である。

規模と形状 壁と床が削平されている。竈の位置と遺物の広がりから推測した規模は，東西軸が6.46m，南北軸が5.52mである。主軸方向がN-4°-Eの長方形または方形と推測される。

竈 北壁の中央部に付設されていたと推測される。火床部しか遺存していない。確認できた規模は，火床部手前から奥まで52cm，燃烧部幅52cmである。火床部は床面から3cmほど高く，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。北壁が削平されているため，壁外への掘り込みと立ち上がりは不明である。

遺物出土状況 土師器片31点（坏6・甕類25）が出土している。細片のため，図示できなかった。

所見 出土土器は流れ込みや混入の可能性が高く，時期は不明である。

第185号住居跡（第504・505図）

位置 調査Ⅳ区中央部のG 8 e9区，標高26.0mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第186号住居跡を掘り込み，第719・735～739号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西壁から南壁にかけて，壁と床が削平されている。規模は東西軸が5.54mで，南北軸は5.48mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され，主軸方向はN-2°-Wである。壁高は4cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部を踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで140cm，燃烧部幅60cmである。袖部は第13～16層の砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土や黄褐色土で構築されている。火床部は床面から10cmほど高く，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。第8～12層は，火床部への埋土である。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	5 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量
2 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量	6 暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
3 灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量	7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量	8 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量

9 暗 褐 色	ロームブロック・砂粒少量, 焼土粒子微量	13 にぶい黄橙色	粘土ブロック・砂粒多量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
10 灰 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量	14 にぶい黄褐色	粘土ブロック・砂粒中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
11 灰 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 粘土粒子・砂粒微量	15 灰 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
12 暗 褐 色	ローム粒子・砂粒微量	16 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ18～42cmで、主柱穴である。P5は深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していると考えられることから、出入り口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

1 灰 褐 色	ローム粒子微量	3 褐 色	ローム粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック少量		

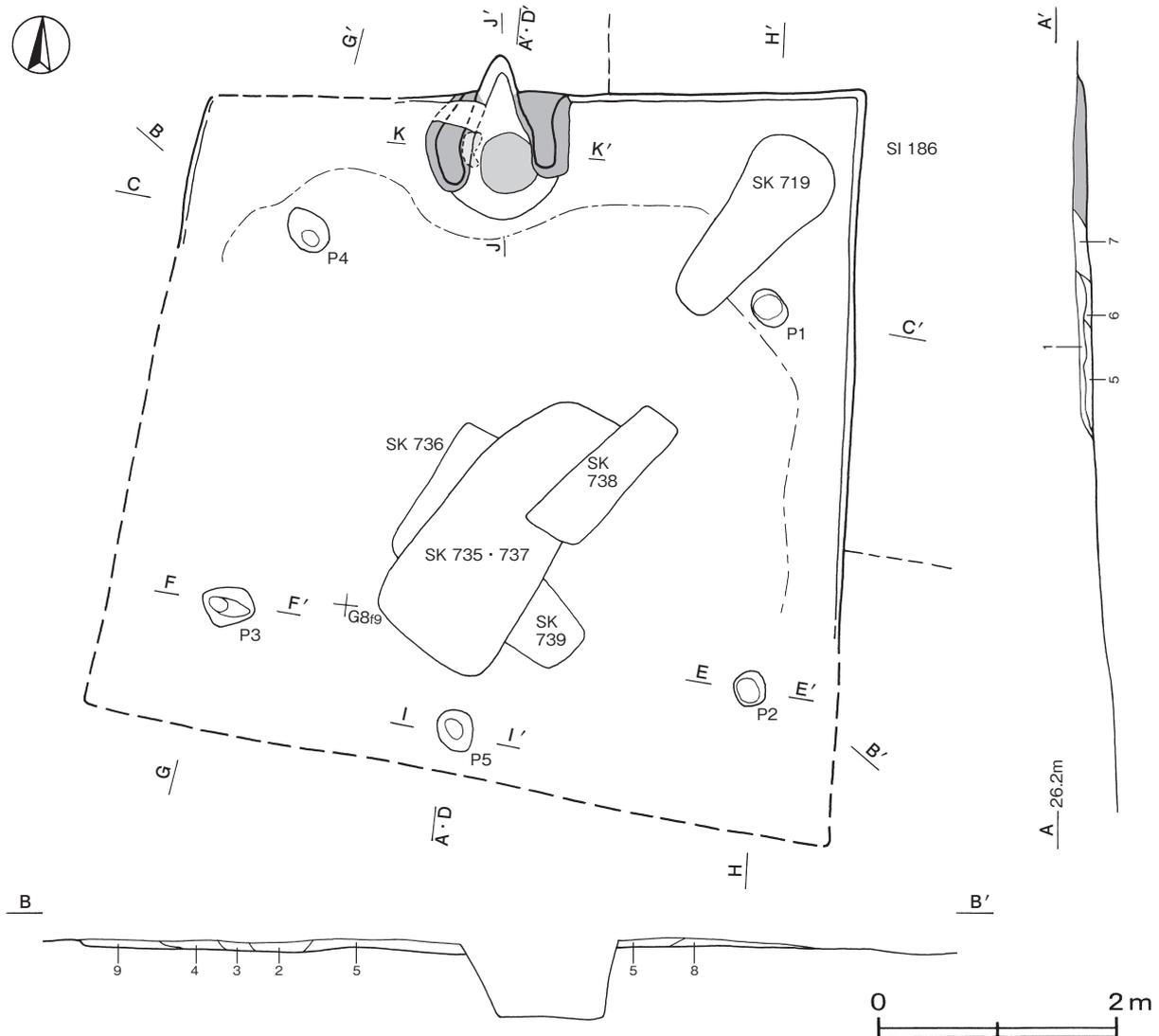
覆土 9層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

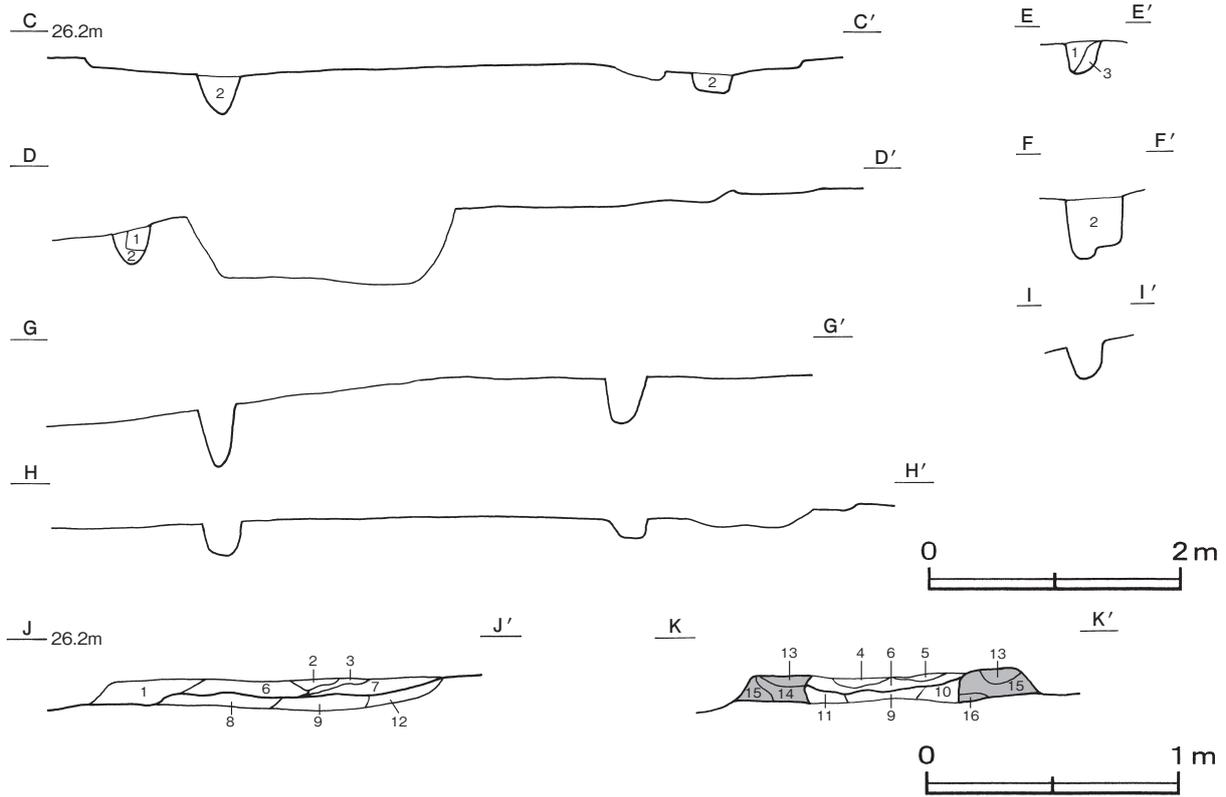
1 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	5 灰 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
2 黒 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 明 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	7 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4 暗 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	8 暗 褐 色	ロームブロック微量
		9 褐 色	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片1点(甕)が出土している。細片のため、図示できなかった。

所見 出土土器は流れ込みの可能性があり、時期は特定できないので、詳細は不明である。



第504図 第185号住居跡実測図(1)



第505図 第185号住居跡実測図(2)

第188号住居跡 (第506図)

位置 調査Ⅳ区中央部のG 9 b2区, 標高26.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第168・187号住居跡, 第21号掘立柱建物跡に掘り込まれている。第169号住居跡, 第728・729・749・752～755号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 壁が削平されている。竈・柱穴の位置と床面の広がりから, 南北軸が6.32mで, 東西軸は6.20mしか確認できなかった。主軸方向がN-8°-Wで, 長方形または方形と推測される。

床 平坦で, 踏み固められていない。

竈 北壁の中央部に付設され, 焚き口部・火床部・袖部の粘土痕しか遺存していない。規模は, 焚き口部から煙道部まで70cm, 燃焼部幅47cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

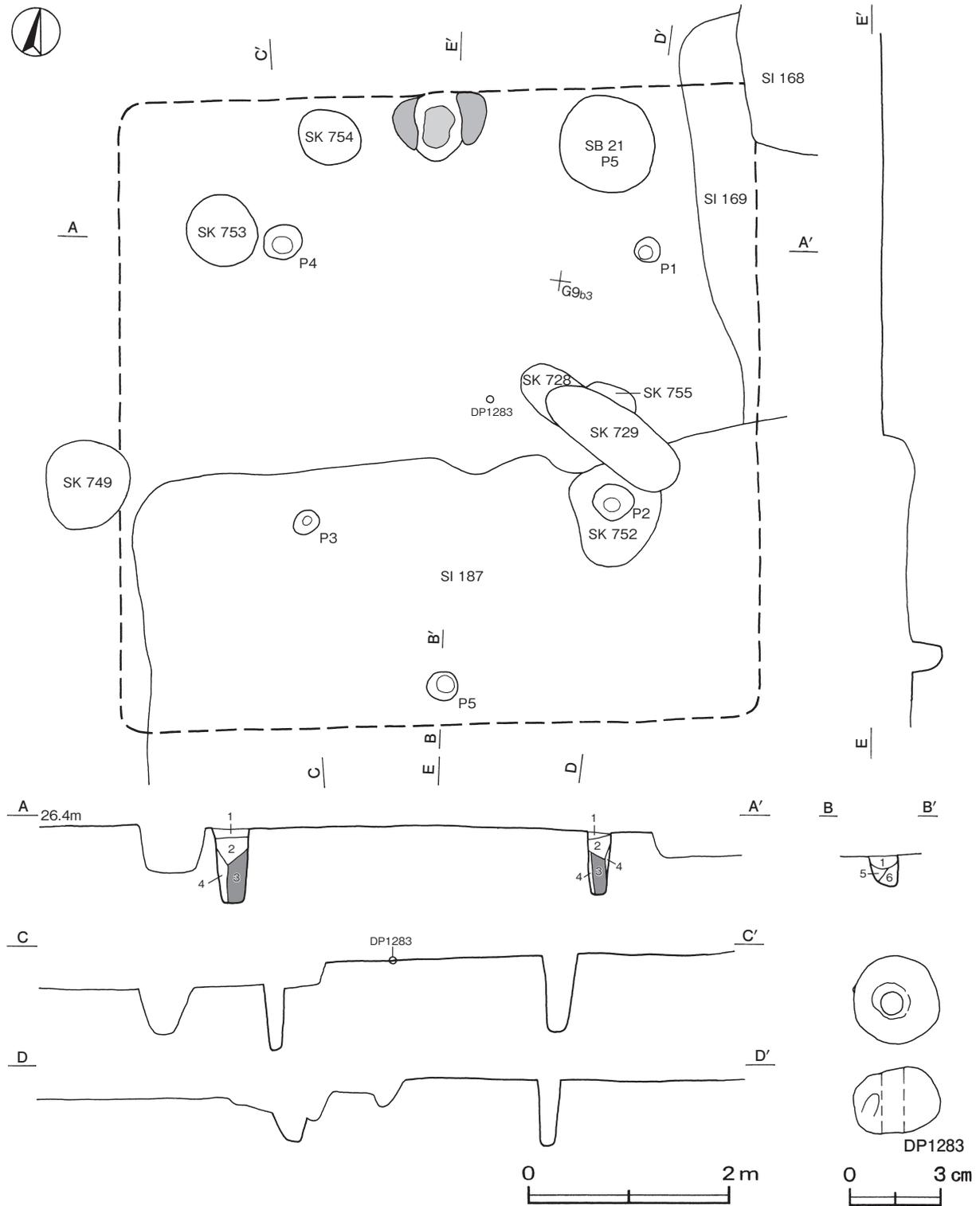
ピット 5か所。P 1～P 4は深さ63～86cmで, 主柱穴である。P 5は深さ59cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットである。第3層は柱の抜き取り痕である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック少量 | 5 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片18点(坏3・甕類15), 土製品1点(球状土錘)が出土している。DP1283は中央部の床面直上から出土している。

所見 出土土器は流れ込みの可能性がある, 時期は不明である。



第506図 第188号住居跡・出土遺物実測図

第188号住居跡出土遺物観察表 (第506図)

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1283	球状土錘	2.9	2.2	0.8	19.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部ヘラナデ	床面直上	

表33 竪穴住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)		壁溝	支柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	炉・竈				
172	G 8 b7	N-81°-E	[長方形・方形]	(4.00)×(4.00)	-	平坦	-	-	-	-	-	竈1	不明	土師器, 球状土錘, 釘	不明	
181	G 9 e2	N-32°-E	[長方形・方形]	[6.36]×[5.82]	-	-	-	-	-	-	-	竈1	不明	土師器, 須恵器	不明	SI178・183・184, SK722・760との新旧不明
183	G 9 f2	N-16°-W	[長方形・方形]	[5.96]×[5.46]	-	-	-	-	-	-	-	竈1	不明	土師器	不明	SI181・184, SK722・760との新旧不明
184	G 9 e1	N-4°-E	[長方形・方形]	[6.46]×[5.52]	-	-	-	-	-	-	-	竈1	不明	土師器	不明	SI181・183・186, SK722・732・741・757との新旧不明
185	G 8 e9	N-2°-W	[長方形・方形]	5.54×(5.48)	4	平坦	-	4	1	-	-	竈1	人為	土師器	不明	SI186 → 本跡 → SK719・735 ~ 739
188	G 9 b2	N-8°-W	[長方形・方形]	6.32×(6.20)	-	-	-	4	1	-	-	竈1	人為	土師器, 球状土錘	不明	本跡 → SI168・187, SB21, SI169, SK728・729・749・752 ~ 755との新旧不明

(2) 溝跡

第40号溝跡 (第508図)

位置 調査Ⅳ区北西部のF 7 f6 ~ F 7 h8区, 標高24.9mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北西端が不明瞭なため確認された長さは8.46mで, 北西方向 (N-58°-W) へ直線状に延びている。上幅0.46 ~ 0.90m, 下幅0.25 ~ 0.41m, 深さ14 ~ 22cmである。断面形はU字状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックや粘土ブロックを多く含んでいることから人為堆積である。

土層解説

1 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師器片6点 (甕), 須恵器片1点 (壺) が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示することができない。

所見 時期は, 伴う遺物が出土していないため不明である。また, 性格も不明である。

第41号溝跡 (第508図)

位置 調査Ⅳ区北西部のF 7 i8 ~ F 7 i0区, 標高24.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第42・43号溝跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 第42・43号溝跡と重複していることや北西側が調査区域のため, 確認された長さは5.80mで, 北西方向 (N-70°-E) へ直線的に延びているが, 全体の形状及び走行方向は不明である。上幅0.82 ~ 1.24m, 下幅0.39 ~ 0.73m, 深さ4 ~ 8cmである。遺存している掘り込みが浅いため, 断面形及び壁の立ち上がりは不明瞭である。

覆土 単一層である。粘土ブロックを多く含んでいることから人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片13点 (坏1, 甕12), 須恵器片8点 (坏4, 鉢1, 甕3), 灰釉陶器片1点 (碗カ) が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示することができない。

所見 時期は, 伴う遺物が出土していないことや, 重複している第42・43号溝跡の時期が明確でないため不明である。また, 性格も不明である。

第42号溝跡（第508図）

位置 調査Ⅳ区北西部のF 7 h8～G 8 b2区，標高24.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46号溝跡を掘り込み，第45号溝に掘り込まれている。第41・43号溝跡とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 南側が調査区域外のため確認された長さは30mほどで，北東方向（N-40°-E）へ6mほど直線状に延び，G 8 a4区で北西方向（（N-44°-W）に屈曲し，24mほど直線状に延びている。上幅0.89～1.96m，下幅0.18～1.21m，深さ23～32cmである。断面形は逆台形状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。粘土ブロックを多く含んでいることから人為堆積である。

土層解説

1 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 2 灰褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片75点（坏10，高台付椀1，甕64），須恵器片38点（坏4，高台付坏2，甕32），土師質土器片1点（鍋），陶器片4点（皿1，碗3），石器1点（砥石）が覆土中から出土している。いずれも小片のため図示することができない。

所見 時期は，伴う遺物が出土していないことや，重複している第41・43・45・46号溝跡の時期が明確でないため不明である。また，性格も不明である。

第43号溝跡

位置 調査Ⅳ区北西部のF 7 i0～F 7 j0区，標高24.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第41・42号溝跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 第41・42号溝跡と重複していることや南側が調査区域のため確認された長さは2.20mで，北東方向（N-41°-E）へ直線的に延びているが，全体の形状及び走行方向は不明である。上幅0.95～1.35m，下幅0.56～0.80mで，深さ及び断面形は不明である。

所見 時期は，伴う遺物が出土していないことや，重複している第41・42号溝跡の時期が明確でないため不明である。また，性格も不明である。

第44号溝跡（第508図）

位置 調査Ⅳ区北西部のF 7 h0～F 8 j3区，標高24.9mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長さは12.84mで，北西方向（N-66°-W）へ直線状に延びている。上幅0.48～1.32m，下幅0.28～0.80m，深さ27cmである。断面形はU字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含んでいることから人為堆積である。

土層解説

1 灰褐色 ロームブロック中量，粘土ブロック少量 2 暗褐色 ロームブロック中量，粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片112点（坏29，高台付椀1，甕82），須恵器片17点（坏2，長頸壺カ1，甕14），陶器片4点（碗），鉄製品1点（刀子）が覆土中から出土している。いずれも小片のため図示することができない。

所見 時期は，伴う遺物が出土していないため不明である。また，性格も不明である。

第45号溝跡（第508図）

位置 調査Ⅳ区北西部のF 8 j3～G 8 a3区，標高24.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第42号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長さは2.88mで、北東方向(N-40°-W)へ直線状に延びている。上幅0.33～0.53m, 下幅0.13～0.26m, 深さ8～18cmである。断面形はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量

所見 時期は、重複している第42号溝跡より新しいが、遺物が出土していないため不明である。また、性格も不明である。

第46号溝跡 (第507図)

位置 調査Ⅳ区北西部のG 8 b2～F 8 i9区、標高25.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第170号住居跡、第47号溝跡を掘り込み、第42・45・49号溝、第702号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第49号溝跡と重複していることや南西側が調査区域のため確認された長さは28.40mで、北東方向(N-76°-E)へ弧状に延びている。上幅1.59～3.88m, 下幅1.40～1.68m, 深さ24～70cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

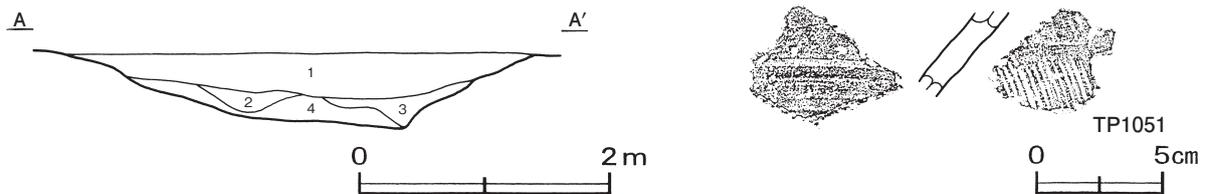
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック微量
3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
4 灰褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック少量

遺物出土状況 陶器片1点(播鉢), 土製品1点(球状土錘), 石器1点(打製石斧), 石製品1点(剣形模造品)が出土している。TP1051は覆土中から出土しており、出土状況から他の遺物と同じく流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、重複している近世の第702号土坑よりも古いが、伴う遺物が出土していないため不明である。また、性格も不明である。



第507図 第46号溝跡・出土遺物実測図

第46号溝 出土遺物観察表 (第507図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1051	陶器	播鉢	長石・石英	暗赤褐	良好	内面播目	覆土中	

第47号溝跡 (第508図)

位置 調査Ⅳ区北西部のG 8 b3～G 8 a4区、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第46号溝跡と重複していることや南西側が調査区域のため確認された長さは8.60mで、北東方向(N-37°-E)へ弧状に延びている。上幅0.68～0.94m, 下幅0.22～0.50m, 深さ19～28cmである。断面形

はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックや粘土ブロックを多く含んでいることから人為堆積である。

土層解説

1 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

所見 遺物が出土していないことや、重複している第46号溝跡の時期が明確でないため不明である。また、性格も不明である。

第49号溝跡 (第508図)

位置 調査Ⅳ区北西部のF 8 i9 ~ G 8 a9区、標高26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第170号住居跡、第46溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北側が調査区域外のため確認された長さは6.92mで、北方向(N-23°-W)へ直線状に延びている。上幅0.90~2.24m、下幅0.73~1.98m、深さ21cmである。断面形はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

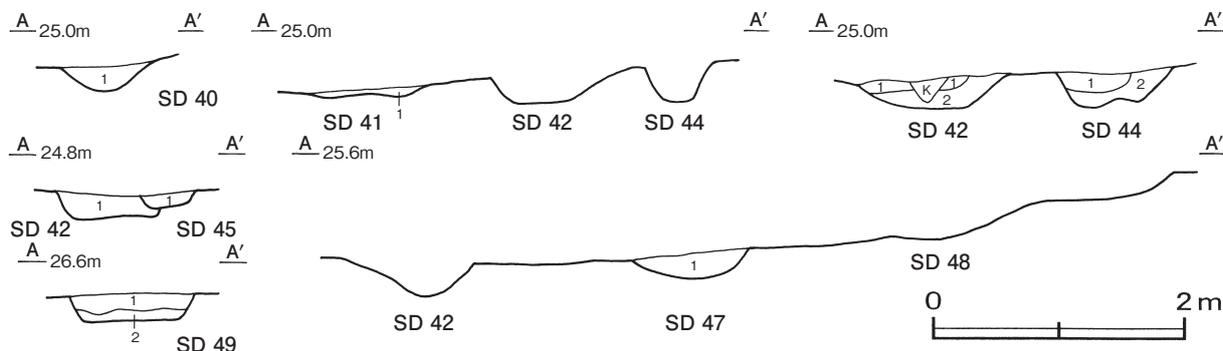
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子少量

所見 時期は、重複している近世以前の第46号溝跡よりも新しいが、遺物が出土していないため不明である。また、性格も不明である。



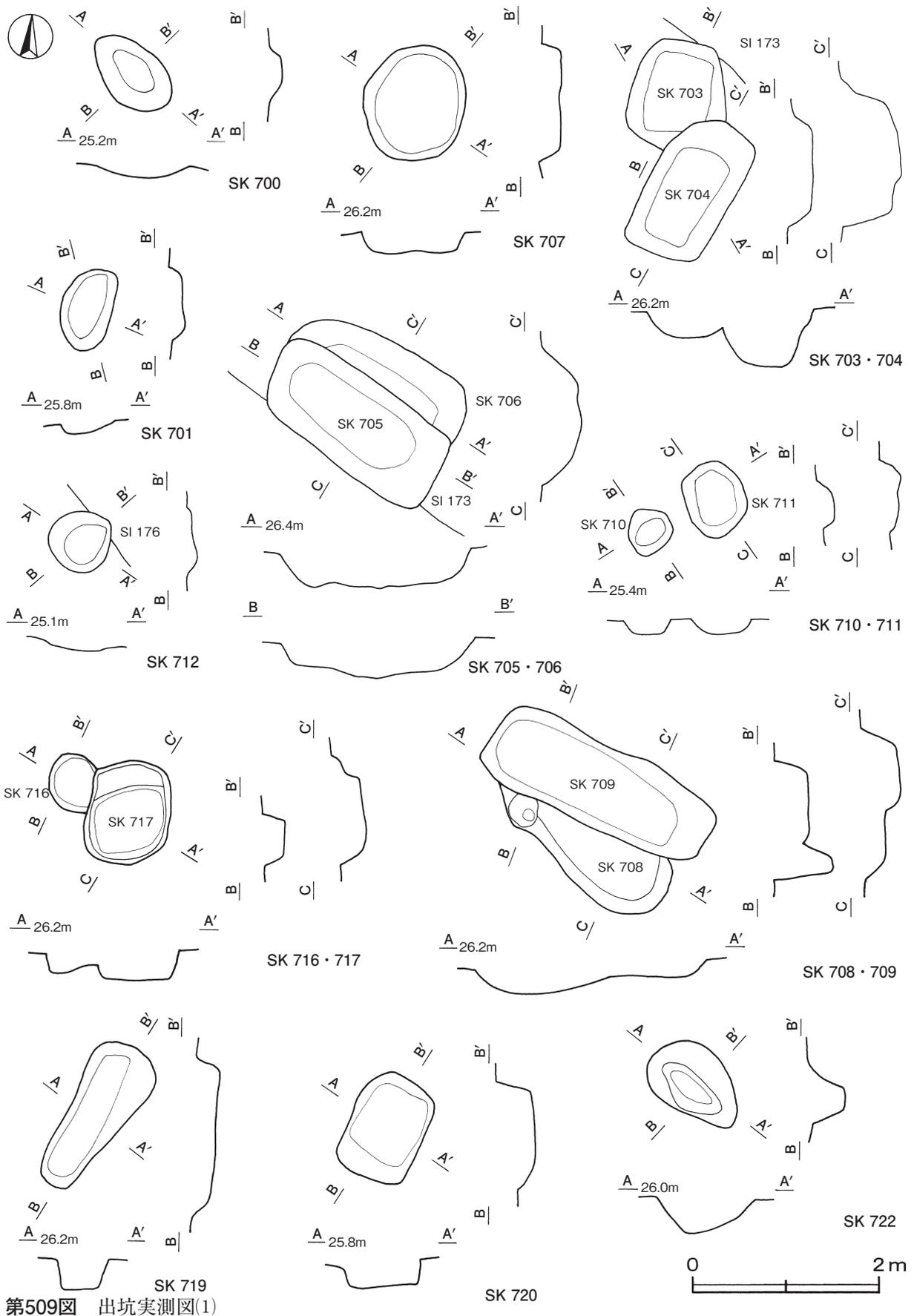
第508図 第40・41・42・44・45・47・49号溝跡実測図

表34 溝跡一覧表

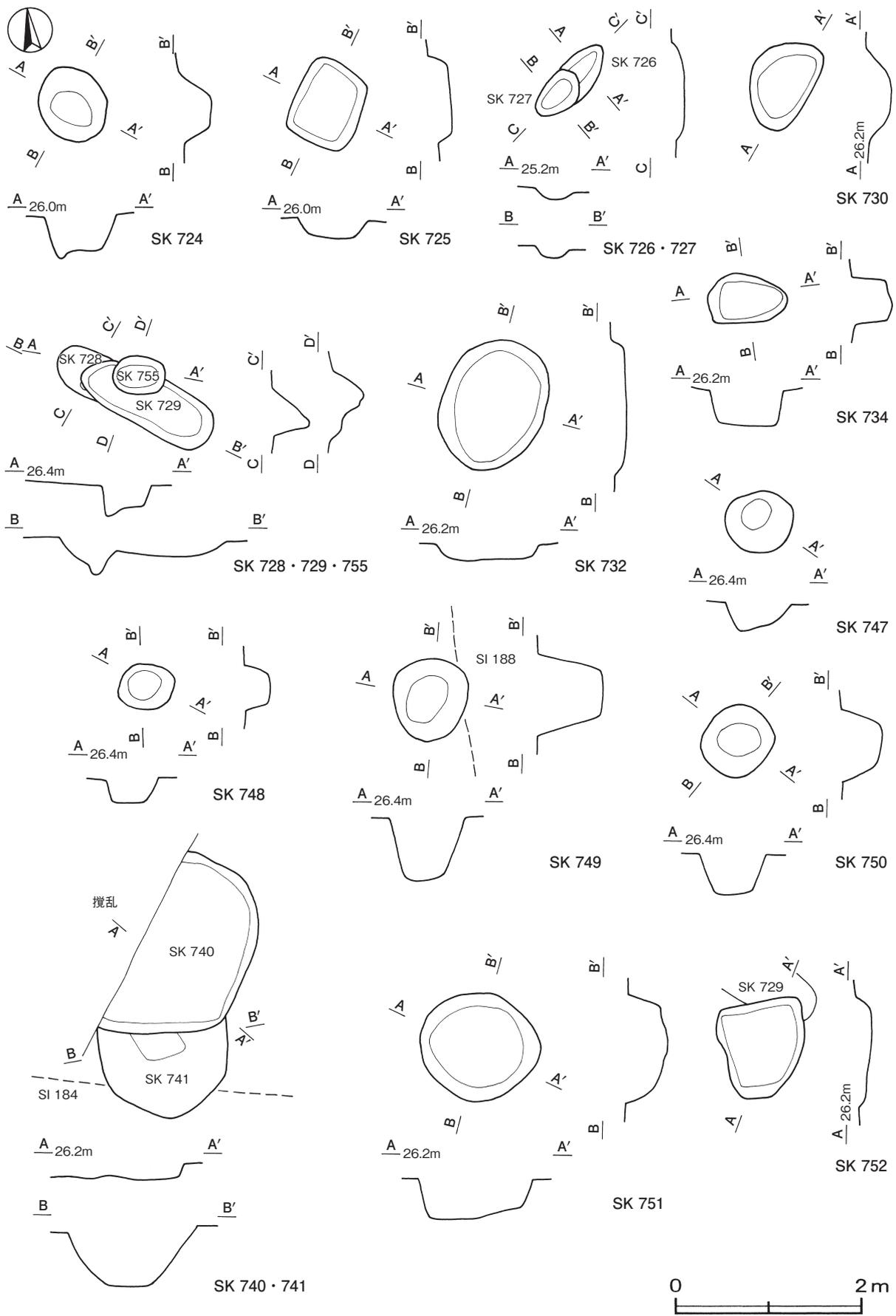
遺構番号	位置	主軸方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)						
40	F 7 f6 ~ F 7 h8	N - 58° - W	(直線)	(8.46)	0.46 ~ 0.90	0.25 ~ 0.41	14 ~ 22	U字	緩斜	人為	土師器, 須恵器	不明	-
41	F 7 i8 ~ F 7 i0	N - 70° - E	(直線)	(5.80)	0.82 ~ 1.24	0.39 ~ 0.73	4 ~ 8	-	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器	不明	SD42・43と 新旧不明
42	F 7 h8 ~ G 8 b2	N - 44° - W	(屈曲)	(30.00)	0.89 ~ 1.96	0.18 ~ 1.21	23 ~ 32	逆台形	緩斜	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器, 砥石	不明	SD46→本跡→SD45 SD41・43と新旧不明
43	F 7 i0 ~ G 7 j0	N - 41° - E	(直線)	(2.20)	0.95 ~ 1.35	0.56 ~ 0.80	-	-	-	-	-	不明	SD41・42と 新旧不明
44	F 7 h0 ~ F 8 j3	N - 66° - W	直線	12.84	0.48 ~ 1.32	0.28 ~ 0.80	27	U字	外傾	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 刀子	不明	-
45	F 8 j3 ~ G 8 a3	N - 40° - W	直線	2.88	0.33 ~ 0.53	0.13 ~ 0.26	8 ~ 18	U字	緩斜	自然	-	不明	SD42→本跡
46	G 8 b2 ~ F 8 i9	N - 76° - E	(弧状)	(28.40)	1.59 ~ 3.88	1.40 ~ 1.68	24 ~ 70	逆台形	緩斜	自然	陶器, 球状土錘, 打製石斧, 剣形模造品	不明	SI170, SD47→本跡→ SD42・45・49, SK702
47	G 8 b3 ~ F 8 a4	N - 37° - E	(弧状)	(8.60)	0.68 ~ 0.94	0.22 ~ 0.50	19 ~ 28	U字	緩斜	人為	-	不明	本跡→SD46
49	F 8 i9 ~ G 8 a9	N - 23° - W	(直線)	(6.92)	0.90 ~ 2.24	0.73 ~ 1.98	21	U字	緩斜	自然	-	不明	SI170, SD46→本跡

(3) 土坑 (第509 ~ 511図)

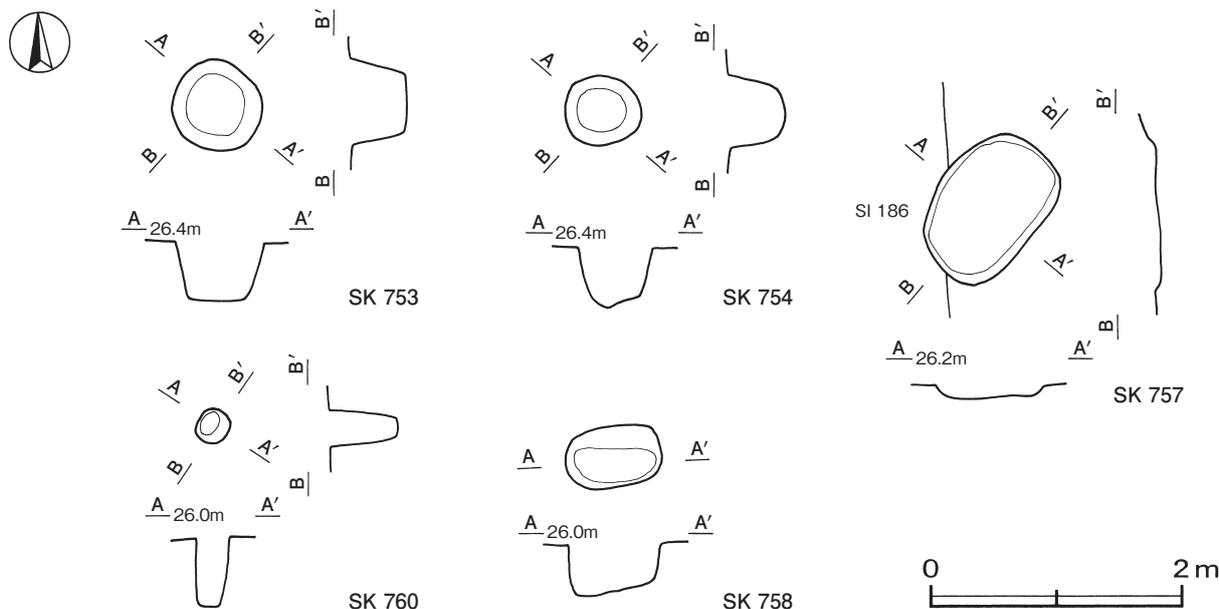
時期・性格ともに不明な土坑40基については、規模・形状等については実測図と一覧表を掲載する。



第509図 出坑実測図(1)



第510图 土坑实测图(2)



第511図 土坑実測図(3)

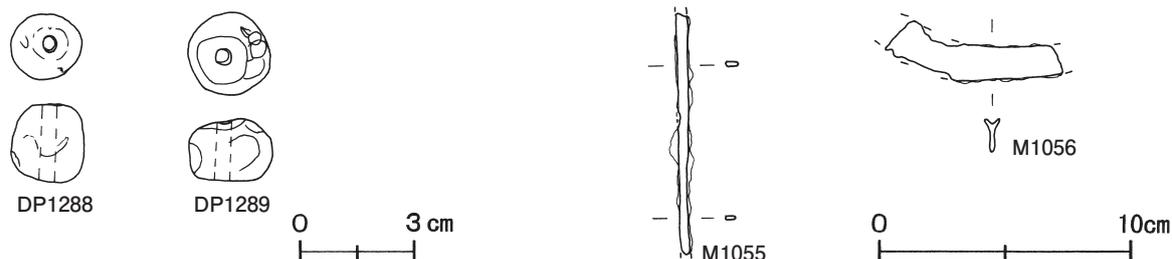
表35 土坑一覽表

遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸 (m)	深さ (cm)						
700	G 8 a2	N - 47° - W	長楕円形	1.02×0.62	12	皿状	緩斜	自然	-	不明	
701	G 8 c6	N - 15° - E	長楕円形	0.88×0.55	18	皿状	緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	
703	G 8 c8	N - 10° - E	[楕円形]	(1.20)×1.06	25	平坦	緩斜	自然	縄文土器, 土師器	不明	SI173→本跡→SK704
704	G 8 c8	N - 31° - E	長方形	1.61×0.92	65	皿状	外傾	人為	土師器, 磁器	不明	SK703→本跡
705	G 8 c9	N - 53° - W	長方形	2.12×0.97	41	皿状	緩斜	自然	縄文土器, 土師器, 須恵器, 陶器	不明	SI173, SK706→本跡
706	G 8 c9	N - 59° - W	[隅丸長方形]	2.06×(0.51)	39	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	SI173→本跡→SK705
707	G 8 c7	N - 22° - E	楕円形	1.26×1.10	23	平坦	外傾	自然	-	不明	
708	G 8 c8	N - 47° - W	[長楕円形]	(2.15)×(0.72)	23	平坦	緩斜	自然	土師器	不明	本跡→SK709
709	G 8 c8	N - 61° - W	隅丸長方形	2.55×0.88	41	平坦	外傾 傾斜	人為	土師器, 須恵器	不明	SK708→本跡
710	G 9 h4	N - 64° - W	不整円形	0.50×0.48	15	平坦	緩斜	自然	-	不明	
711	G 9 h4	N - 38° - W	長方形	0.76×0.66	19	凹凸	緩斜	自然	-	不明	
712	G 9 h4	-	円形	0.69×0.65	10	凹凸	緩斜	自然	-	不明	SI176→本跡
716	G 8 c7	N - 16° - W	[楕円形]	0.65×0.52	19	平坦	外傾	自然	縄文土器, 土師器	不明	本跡→SK717
717	G 8 c7	N - 9° - E	不整隅丸長方形	1.11×0.87	32	平坦	外傾	人為	縄文土器, 土師器	不明	SK716→本跡
719	G 8 e9	N - 27° - E	不定形	1.71×0.76	25	凹凸	外傾	自然	-	不明	SI185・186→本跡
720	G 8 e7	N - 30° - E	隅丸長方形	1.15×0.83	28	平坦	外傾 緩斜	人為	土師器, 磁器	不明	
722	G 9 e1	N - 45° - W	不整楕円形	1.12×0.74	53	皿状	緩斜	自然	-	不明	SI181・184→本跡
724	G 8 d8	N - 25° - W	楕円形	0.83×0.72	43	凹凸	外傾	自然	土師器	不明	
725	G 8 d8	N - 25° - E	隅丸長方形	0.92×0.75	22	皿状	緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	
726	G 9 i3	N - 42° - E	[長楕円形]	(0.59)×0.41	12	皿状	緩斜	自然	-	不明	本跡→SK727
727	G 9 i3	N - 42° - E	楕円形	0.59×0.34	12	皿状	緩斜	自然	-	不明	SK726→本跡
728	G 9 b2	N - 61° - W	楕円形	[0.70]×0.49	44	二段	緩斜	人為	-	不明	本跡→SK729, SI188との新旧不明
729	G 9 b3	N - 61° - W	長楕円形	1.51×0.58	17	皿状	緩斜	自然	-	不明	SI187, SK728→本跡→SI188, SK755との新旧不明
730	G 8 b9	N - 35° - E	不整楕円形	1.02×0.71	12	皿状	緩斜	自然	土師器, 須恵器	不明	SI173→本跡
732	G 9 e1	N - 16° - E	楕円形	1.46×1.12	16	平坦	緩斜	自然	-	不明	SI184→本跡
734	G 8 c9	N - 87° - E	長楕円形	0.86×0.54	44	皿状	垂直	自然	土師器	不明	

遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
740	G 9 d1	N-51°-E	不整楕円形	2.35×1.97	17	凹凸	外傾 緩斜	自然	縄文土器, 土師器	不明	SI186, SK741→本跡
741	G 8 d0	N-4°-W	[楕円形]	(0.94)×0.89	60	皿状	緩斜	人為	縄文土器, 土師器	不明	SI184→本跡→SK740
747	G 9 c1	N-77°-E	不整楕円形	0.76×0.67	30	平坦	外傾 緩斜	自然	-	不明	
748	G 9 c1	N-76°-E	楕円形	0.64×0.51	27	平坦	外傾	自然	土師器	不明	
749	G 9 b1	N-1°-W	楕円形	0.89×0.63	68	平坦	外傾	自然	-	不明	SI188との新旧不明
750	G 9 b1	-	隅丸方形	0.78×0.72	42	平坦	外傾 緩斜	自然	-	不明	
751	G 8 d0	N-80°-W	楕円形	1.31×1.17	45	皿状	外傾	人為	縄文土器, 土師器	不明	SI186→本跡
752	G 9 b3	N-4°-W	隅丸台形	1.05×0.94	20(40)	皿状	外傾	自然	土師器	不明	SI187→本跡→SI188, SK729との新旧不明
753	G 9 a2	-	円形	0.73×0.68	47	平坦	外傾	自然	-	不明	SI188との新旧不明
754	G 9 a2	-	円形	0.62×0.58	49	皿状	外傾	自然	-	不明	SI188との新旧不明
755	G 9 b3	N-82°-W	楕円形	0.57×0.42	35	凹凸	外傾	自然	-	不明	SK729→本跡, SI188との新旧不明
757	G 8 e0	N-36°-E	隅丸長方形	1.22×0.85	8	平坦	緩斜	不明	土師器	不明	SI184・186→本跡
758	G 8 e0	N-81°-E	隅丸長方形	0.76×0.49	42	皿状	外傾	自然	土師器	不明	SI186→本跡
760	G 9 f2	-	円形	0.28×0.26	55	平坦	外傾	自然	-	不明	SI181・183→本跡

(4) 遺構外出土遺物(第512図)

調査Ⅳ区の遺構外で出土した遺物のうち、時期が特定できないものを、実測図及び一覧表で掲載する。



第512図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表(第512図)

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1288	土玉	1.9	2.1	0.4	7.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部ヘラナデ	覆土	
DP1289	球状土錘	2.2	1.7	0.4	8.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部ヘラナデ	覆土	
DP1290	球状土錘	3.4	-	0.7	(21.9)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	SD46 覆土中	計測のみ
DP1291	球状土錘	2.7	2.5	0.6	(10.2)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土	計測のみ
DP1292	球状土錘	(1.5)	2.0	(0.3)	(7.8)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土	計測のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1045	砥石	(4.2)	(2.8)	2.4	(33.8)	凝灰岩	砥面4面	表土	計測のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1058	刀子	(2.4)	0.7	0.3	(11.7)	鉄	刀身部 先端欠損	SD44 覆土中	計測のみ
M1055	鎌	(9.5)	0.6	0.4	(6.4)	鉄	茎部	表土	PL120
M1054	鎌	(4.2)	1.9	0.2	(6.4)	鉄	刀身部	表土	計測のみ
M1056	鋒先	(7.1)	(1.6)	0.7	(13.1)	鉄	刃部 左右一部欠損	表土	PL121
M1057	釘	(1.7)	0.4	0.3	(0.5)	鉄	断面四角形	表土	計測のみ

茨城県教育財団文化財調査報告第308集

薬 師 後 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

中 巻

平成21（2009）年3月18日 印刷

平成21（2009）年3月23日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 あけぼの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

TEL 029-227-5505

